JobCenter

R12.10

<基本操作ガイド>

■Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Server 2008 および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

■Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

■SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。

■HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。

■AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。

■NQSは、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。

■その他、本書に記載されているソフトウエア製品およびハードウエア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウエア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

はじめに

本書は、JobCenterの基本的な機能および操作方法について説明しています。JobCenterが提供している利用者向け GUI による手順をおもに紹介しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承下さい。

1. 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ インストールガイドを参照してください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 本書を目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

2. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

	気をつけて読んでいただきたい内容です。
	本文中の補足説明
注	本文中につけた注の説明
__	UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

3. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenterを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めてJobCenterをお使いになる方を対象に、JobCenterの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenterの基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenterを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS機能利用の手引き	JobCenterの基盤であるNQSの機能をJobCenterから利用する方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダ定義のインポート・エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenterに標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenterで用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJobCenterを操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter Helper機能利用の手引き	ExcelをJobCenterの効率的な運用をサポートするJobCenter Definition Helper (定義情報のメンテナンス)、JobCenter Report Helper (帳票作成)、JobCenter Analysis Helper (性能分析)の3つの機能についてについて説明しています。
JobCenter SAP機能利用の手引き	JobCenterをSAPと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter UCXSingleジョブ利用ガイド	JobCenterをUCXSingleと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter WebOTX Batch Server連携機能利用の手引き	JobCenterをWebOTX Batch Serverと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter R12.10 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

4. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2011/08/05	新規作成	−	第1版
2	2011/09/09	追記・修正	−	「6.14.4　ジョブネットワークの環境変数を参照する」に、ジョブネットワークの環境変数の注意事項を追記 内容の誤記を修正
3	2011/10/5	修正	−	「4.2.4　単位ジョブ実行でユーザプロファイルをロードする」を実際の仕様に合った記述に修正

目次

はじめに iii
1. 読み方 iv
2. 凡例 v
3. 関連マニュアル vi
4. 改版履歴 vii
1. JobCenter概要 1
1.1. JobCenterの主な特長 2
1.2. JobCenterの製品構成 3
1.3. JobCenterの各製品とOSとの対応 4
2. JobCenter CL/Win（GUI画面）の操作方法 5
2.1. GUI画面の基本的な操作方法 6
2.2. GUI画面を起動する 7
2.3. サーバへ接続する 8
2.3.1. 管理者アカウントで接続する 8
2.3.2. 一般アカウントで接続する 9
2.3.3. ログインユーザ別のGUI画面モード、サーバ接続時の登録モード 10
2.3.4. サーバへ接続する際のタイムアウト時間を設定する 11
2.3.5. サーバ接続後のCL/Win操作のタイムアウト時間を設定する 12
2.4. サーバ接続を切断する 14
2.5. 用途によってフレーム（画面）を切り替える 16
2.5.1. ユーザフレームを表示する 16
2.5.2. マネージャフレームを表示する 18
2.5.3. NQS（Network Queuing System）フレームを表示する 19
2.5.4. ERPフレームを表示する 20
2.5.5. 他のユーザのユーザフレームを表示する 20
2.5.6. ツールバーのドロップダウンメニューからフレームを選択する 22
3. ジョブネットワークの操作方法 24
3.1. ジョブネットワークを作成する 25
3.1.1. グループを新規作成、削除する 25
3.1.2. ジョブネットワークを新規作成、削除する 26
3.1.3. ジョブネットワークを表示する 28
3.1.4. 単位ジョブアイコンを追加する 28
3.1.5. 単位ジョブアイコンのスクリプトを編集する 30
3.1.6. 作成したジョブネットワークのフローを保存する 32
3.1.7. ジョブネットワークのフロー作成を終了する 33
3.1.8. ジョブネットワークをチェックする 34
3.2. ジョブネットワークの実行 36
3.2.1. 即時投入する 36
3.2.2. 即時投入の実行結果を確認する 39
3.2.3. スケジュール実行する 39
3.3. ジョブネットワークを操作する 41
3.3.1. ジョブネットワークおよびグループをコピーする 42
3.3.2. ジョブネットワークおよびグループを移動する 46
3.3.3. ジョブネットワークのショートカットを作成、削除する 47
3.3.4. ジョブネットワークのパラメータを設定する 48
3.3.5. ジョブネットワークをグルーピングする 57
3.3.6. ジョブネットワークの設定一覧を表示する 58
3.4. ジョブネットワーク実行用メニューボタンを作成する 59
3.4.1. ユーザメニューボタンを新規作成する 59
3.4.2. ユーザメニューボタンを操作する（即時投入） 61
4. 部品オブジェクトの使用方法 62
4.1. 部品オブジェクトを配置する 65
4.2. 実行部品 67
4.2.1. 単位ジョブの実行スクリプトを設定する 67
4.2.2. 単位ジョブの実行条件（パラメータ）を設定する 68

4.2.3. 単位ジョブ間で情報を引き継ぐ 80
4.2.4. 単位ジョブ実行でユーザプロファイルをロードする 83
4.2.5. ERPジョブの実行スクリプトを設定する 84
4.2.6. ERPジョブの実行条件（パラメータ）を設定する 84
4.2.7. BIジョブの実行条件（パラメータ）を設定する 85
4.2.8. PCジョブの実行条件（パラメータ）を設定する 86
4.2.9. サブジョブネットワークを配置する 87
4.2.10. サブジョブネットワークを参照する 90
4.3. 分岐部品 91
4.3.1. 並列分岐のフローを追加、削除する 91
4.3.2. 条件分岐のフローを追加、削除する 92
4.3.3. 条件分岐の分岐条件を設定する 94
4.3.4. カレンダ分岐のスケジュールを設定する 95
4.3.5. コンティニューの条件を設定する 96
4.3.6. OR分岐を設定する 97
4.4. 待ち合わせ部品 103
4.4.1. ダイアログの設定をする 103
4.4.2. ジョブ待ち合わせの設定をする 104
4.4.3. サブジョブネットワーク待ち合わせの設定をする 105
4.4.4. ファイル待ち合わせの設定をする 106
4.4.5. 時間待ち合わせの設定をする 111
4.5. イベント送信とイベント受信 113
4.5.1. イベント送信の設定をする 113
4.5.2. イベント受信の設定をする 116
5. スケジュールの操作方法 125
5.1. スケジュールを作成する 126
5.1.1. スケジュールグループを新規作成、削除する 127
5.1.2. スケジュールを新規作成、削除する 128
5.1.3. スケジュールルールを作成する 130
5.1.4. スケジュールされたジョブネットワークを確認する 138
5.2. スケジュールを操作する 142
5.2.1. スケジュールおよびスケジュールグループを移動する 142
5.2.2. スケジュールにコメントを設定する 143
5.2.3. スケジュール名を変更する 144
5.2.4. スケジュールの有効/無効を設定する 144
6. ジョブの監視と管理（トラッカの使用方法） 146
6.1. ジョブの状態とトラッカの色の関係 147
6.1.1. ジョブネットワークの状態とトラッカの色との関係一覧 147
6.1.2. 親子関係を持つジョブネットワークトラッカの表示 149
6.1.3. グループアイコンの表示色とジョブネットワークトラッカの関係 150
6.2. トラッカ一覧をテキスト／グラフィックモードで表示する 152
6.2.1. ジョブネットワークのトラッカ一覧 152
6.2.2. ユーザフレームのトラッカ一覧 154
6.2.3. マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン 155
6.2.4. 簡易統計情報表示 156
6.3. 最新のトラッカだけを表示する 158
6.3.1. 最新トラッカ表示モード機能を利用する 158
6.3.2. 最新トラッカ表示モードを設定する 160
6.4. トラッカ一覧をツリー表示する 162
6.4.1. ユーザフレームのトラッカ一覧 162
6.4.2. マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン 163
6.5. トラッカ一覧を予定開始時間の昇順で表示する 165
6.5.1. ジョブネットワークのトラッカ一覧 165
6.5.2. ユーザフレームのトラッカ一覧 166
6.5.3. マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン 167
6.6. トラッカ一覧をマシンごとにソートして表示する 169
6.6.1. マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン 169
6.7. トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する 170

6.8. トラッカ一覧の表示開始時間を指定して表示する 172
6.9. トラッカ一覧をフィルタリングして表示する 174
6.10. トラッカ一覧を出力する 178
6.11. トラッカ一覧を最新表示する 180
6.12. トラッカ一覧を差分更新する 181
6.13. トラッカ制御後のトラッカ一覧画面を更新しない 182
6.13.1. 動作説明 182
6.13.2. 注意事項 183
6.14. ジョブネットワークトラッカを操作する 184
6.14.1. ジョブネットワークトラッカを開く 184
6.14.2. ジョブの実行の監視や制御を行う 186
6.14.3. ジョブの実行の詳細情報を参照する 188
6.14.4. ジョブネットワークの環境変数を参照する 189
6.14.5. ジョブの実行や実行操作の履歴を参照する 190
6.14.6. 複数のトラッカを選択して各種操作を同時に実行する 191
6.14.7. トラッカの情報をアーカイブして保存する 193
6.14.8. スケジュールされた投入時刻を変更する 194
6.14.9. ジョブネットワークにオブジェクト部品を追加または削除する 194
6.14.10. トラッカからジョブネットワークの定義フローを表示する 196
6.14.11. トラッカフローを印刷する 197
6.14.12. トラッカを手動でアーカイブする 198
6.14.13. コマンドメニューからトラッカの制御を行う 200
6.15. 単位ジョブトラッカアイコンを操作する 201
6.15.1. 単位ジョブトラッカアイコンの操作 201
6.15.2. 単位ジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する 204
6.16. サブジョブネットワークトラッカを操作する 206
6.17. ダイアログのユーザからの応答を行う（終了ステータスを決定する） 208
6.18. 待ち合わせ部品とイベントの送受信のジョブをスキップする 209
6.19. 部品検索を行う 210
6.19.1. 部品検索の項目を設定する 210
6.19.2. 部品検索結果を参照する 213
6.19.3. 部品検索フレームを更新する 214
6.19.4. 部品検索結果をソートする 214
6.19.5. 部品検索フレームからトラッカを参照する 214
6.19.6. 部品検索結果を出力する 215
6.20. トラッカの前後関係を表示する 217
6.20.1. トラッカの前後関係を表示する 217
6.20.2. トラッカの前関係を定義する 221
6.20.3. トラッカの後関係を定義する 221
6.20.4. トラッカの前後関係の例 222
6.21. トラッカのスケジュール、トラッカ実績を表示する 225
6.21.1. 月間スケジュール表示 226
6.21.2. 月間トラッカ実績表示 229
6.21.3. 日別スケジュール表示 229
6.21.4. 日別トラッカ実績表示 230
6.21.5. 予定実績比較表示 231
6.21.6. スケジュール／実績表示を出力する 232
7. ネットワークキューイングシステム（NQS）の利用方法 238
7.1. マシン一覧へマシンを追加する 239
7.1.1. マシン一覧へマシンを追加する 239
7.1.2. マシン一覧からマシンの削除をする 242
7.1.3. マシン一覧画面の表示形式の切替 242
7.2. デフォルトで作成されるキュー 244
7.3. バッチキューを作成する 246
7.4. バッチキューのパラメータを設定する 247
7.5. パイプキューを作成する 248
7.6. パイプキューのパラメータを設定する 249
7.7. パイプキューの転送先を設定する 250

7.8. リモートマシンのキューを作成する 251
8. JobCenterの利用状況の監視と管理 252
8.1. キュー一覧から監視と管理を行う 253
8.1.1. マネージャフレームでキュー一覧を表示する 253
8.1.2. NQSフレームでキュー一覧を表示する 254
8.2. リクエスト一覧から監視と管理を行う 256
8.2.1. マネージャフレームでリクエスト一覧を表示する 256
8.2.2. NQSフレームでリクエスト一覧を表示する 257
8.3. イベント一覧からイベントの監視と管理を行う 260
8.3.1. イベント一覧を表示する 260
8.3.2. イベントを送信する 260
8.3.3. イベントを削除する 263
9. エクスポートとインポートの操作方法 265
9.1. JNW（ジョブネットワーク）をエクスポートする 266
9.2. カレンダをエクスポートする 268
9.3. スケジュールをエクスポートする 270
9.4. JNWをインポートする 272
9.5. カレンダをインポートする 275
9.6. Japanカレンダをインポートする 277
9.7. スケジュールをインポートする 279
10. 一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定） 281
10.1. 権限グループを設定する 282
10.1.1. 権限グループに所属させる 282
10.1.2. ユーザを他の権限グループに移動する 284
10.2. 権限グループを作成する 287
10.2.1. 権限グループ名を新規追加する 287
10.2.2. 追加した権限グループの権限を設定する 288
10.3. 他ユーザへのジョブネットワーク、トラッカのアクセス許可を制限する 289
10.4. 変更した権限設定を反映する 291
11. エラー発生時のメール送信機能の設定方法 292
11.1. 使用するSMTPサーバの設定 293
11.2. 指定されたあて先にメールでエラーを通知させる 295
11.3. メール送信機能に関する注意事項 298
11.3.1. サブジョブネットワーク内でエラーが発生したときの動作 298
11.4. メール送信機能に関する制限事項 299
11.5. 件名、本文に使用可能なマクロ一覧 300
11.6. エラー発生時の動作一覧 302
11.7. トラッカの操作とメール送信動作の対応一覧 304
12. ダイアログ一覧 308
13. トラッカ操作時に設定可能なパラメーター覧 317
14. 定義編集時の排他機能 320
14.1. 排他機能が適用される定義情報 321
14.2. すでに定義情報が使用されている場合の動作 322
14.2.1. 他の端末が使用中で「強制ロック」または「読み取り専用」が選択可能な場合 322
14.2.2. 他の端末が使用中で「強制ロック」または「読み取り専用」が選択できない場合 322
15. エラーメッセージ一覧 324

図目次

1.1. JobCenter GUI画面イメージ 1
1.2. JobCenterの製品構成イメージ 3
2.1. GUI画面の起動方法 7
2.2. ［サーバへの接続］ダイアログ画面例 7
2.3. ［サーバへの接続］ダイアログ画面（管理者アカウント）例 8
2.4. 接続後の画面（ユーザフレーム）例 9
2.5. ［サーバへの接続］ダイアログ画面（一般アカウント）例 9
2.6. 接続後の画面（ユーザフレーム）例 10
2.7. ［通信タイムアウト時間］選択画面例 11
2.8. 通信タイムアウト時間の設定例 12
2.9. ［通信タイムアウト時間］選択画面例 13
2.10. 通信タイムアウト時間の設定例 13
2.11. ［接続切断］メニュー選択画面例 14
2.12. 接続切断終了後の画面 15
2.13. フレーム切り替えアイコン 16
2.14. ユーザフレーム画面例 17
2.15. マネージャフレーム画面例 18
2.16. NQSフレーム画面例 19
2.17. ERPフレーム画面例 20
2.18. ［他のユーザのフレーム］メニュー選択画面例 21
2.19. ［ユーザの選択］ダイアログ画面例 21
2.20. 他のユーザのフレーム表示例 22
2.21. 他のユーザのユーザフレームを開いていない場合のドロップダウンメニュー例 23
2.22. 他のユーザ（user）のユーザフレームを開いている場合のドロップダウンメニュー例 23
3.1. グループの新規作成 25
3.2. グループ内への移動 27
3.3. ジョブネットワークの新規作成 27
3.4. ジョブネットワークの表示 28
3.5. 単位ジョブアイコンの追加 29
3.6. 新規単位ジョブ名の設定例 29
3.7. 新規単位ジョブ追加画面例 30
3.8. ［スクリプト］の選択画面例 30
3.9. スクリプトの編集例 30
3.10. スクリプト内容の保存画面例 31
3.11. スクリプトの編集終了画面例 32
3.12. 保存をせずにスクリプト記述用のウィンドウを閉じようとしたときの画面例 32
3.13. ジョブネットワークのフローの保存画面例 33
3.14. ジョブネットワークのフロー作成終了画面例 34
3.15. 保存をせずにジョブネットワークのウィンドウを閉じようとしたときの画面例 34
3.16. ［チェック］選択画面例 35
3.17. チェック結果画面 35
3.18. ［即時投入］の選択画面例 36
3.19. 即時投入の実行例 36
3.20. 即時投入実行後のジョブネットワークトラッカウィンドウの例 37
3.21. ［詳細情報］選択画面例 39
3.22. 詳細情報表示例 39
3.23. 出力結果表示例 39
3.24. ジョブネットワークの操作メニュー 41
3.25. 同一グループ内でコピーする場合の［グループの検索ダイアログ］表示画面例 42
3.26. 右ボタンでのドラッグアンドドロップ操作時の表示画面例 43
3.27. ジョブネットワークおよびグループのコピー先指定例 44
3.28. ジョブネットワークおよびグループの移動先指定例 46
3.29. ジョブネットワークのドラッグアンドドロップ操作例 46
3.30. ショートカット作成先指定例 47

3.31. ショートカットの作成結果例 48
3.32. パラメータダイアログ画面例 49
3.33. ［投入キューの設定］ダイアログ画面例 50
3.34. 環境変数の設定ダイアログ 56
3.35. グループ階層化の例 58
3.36. 設定一覧画面例 58
3.37. 新規ボタン作成開始画面例 59
3.38. メニューボタンの［プロパティ設定］ダイアログ画面例 59
3.39. 新規作成のユーザメニューボタン表示例 60
3.40. メニューボタンの［カスタムヘルプ］ダイアログ画面例 61
3.41. ［カスタムヘルプ］ダイアログ画面例 61
4.1. ［オブジェクト］ツールバー 65
4.2. 単位ジョブアイコンの追加 65
4.3. 新規単位ジョブ名の設定例 65
4.4. 新規単位ジョブ追加画面例 66
4.5. 単位ジョブのバッチファイル（Windows）の例 67
4.6. 単位ジョブパラメータの設定画面 68
4.7. ［単位ジョブパラメータの設定］－［実行設定］画面例 69
4.8. ジョブ実行ユーザ設定時の動作（MG-SV構成）の例 70
4.9. ［単位ジョブパラメータの設定］－［UNIXパラメータ］画面例 71
4.10. ［単位ジョブパラメータの設定］－［結果］画面例 72
4.11. ［単位ジョブパラメータの設定］－［クリティカルポイント警告］画面例 74
4.12. ［単位ジョブパラメータの設定］－［その他］画面例 77
4.13. ERPジョブのバッチファイル（Windows）の例 84
4.14. 保存をせずにスクリプト記述用のウィンドウを閉じようとしたときの画面例 84
4.15. ERPジョブパラメータの画面例 85
4.16. BIジョブパラメータの画面例 86
4.17. PCジョブパラメータの画面例 86
4.18. サブジョブネットワーク部品の配置例 87
4.19. ジョブネットワークの選択画面例 87
4.20. ジョブネットワークの選択画面例 88
4.21. ［グループの検索ダイアログ］画面例 88
4.22. サブジョブネットワークのドラッグアンドドロップ操作例 88
4.23. サブジョブネットワークの参照例 90
4.24. 並列分岐オブジェクト配置例 91
4.25. 並列分岐フローの追加 91
4.26. 並列分岐フローの削除 92
4.27. 並列分岐部品の削除 92
4.28. 条件分岐の配置画面例 93
4.29. 条件分岐フローの追加 93
4.30. 条件分岐フローの削除 94
4.31. 条件分岐部品の削除 94
4.32. 分岐条件の設定画面例 95
4.33. スケジュール設定画面例 96
4.34. コンティニューオブジェクト設定画面例 97
4.35. OR分岐オブジェクト配置例 98
4.36. OR分岐の動作例 98
4.37. OR分岐での1つのフローが終了したときの動作例 99
4.38. OR分岐が１つも終了していない場合のトラッカ状態例 100
4.39. OR分岐が１つ終了した場合のトラッカ状態例 100
4.40. OR分岐が複数終了した場合のトラッカ状態例 101
4.41. ジョブネットワーク終了時に実行中の単位ジョブがある場合のトラッカ状態例 101
4.42. すべての単位ジョブが終了した場合のトラッカ状態例 102
4.43. ダイアログオブジェクトの設定画面例 103
4.44. ジョブ待ち合わせの設定例 104
4.45. ジョブ待ち合わせ部品の所属するジョブネットワーク以外のジョブ待ち合わせの設定例 105
4.46. サブジョブネットワーク待ち合わせの設定例 106

4.47. ファイル待ち合わせ設定画面例 107
4.48. 環境変数の設定画面例 109
4.49. 予想実行時間の設定画面例 110
4.50. 時刻待ち合わせの設定画面例 111
4.51. チェイン（連鎖）型連携モデル例 113
4.52. スター型連携モデル例 113
4.53. ［イベント送信名の設定］ダイアログ画面例 114
4.54. イベント送信の設定画面例 114
4.55. イベント受信名の設定画面例 116
4.56. イベント受信の設定画面例 117
4.57. 終了コードの入力画面例 117
4.58. 条件の追加画面例 118
4.59. 条件名の変更画面例 118
4.60. 条件名の削除画面例 118
4.61. 条件詳細の設定画面例 119
4.62. タイムアウトの設定画面例 119
4.63. 環境変数の設定画面例 120
4.64. イベント受信の動作例 122
4.65. 条件成立時の動作例 122
4.66. トラッカ上のイベント受信部品をダブルクリックした時の表示例 123
4.67. ジョブネットワークログの表示例 123
5.1. ［スケジュール一覧］画面例 126
5.2. 関連オブジェクト数を表示 127
5.3. スケジュールグループの新規作成 127
5.4. スケジュールグループ内への移動 129
5.5. スケジュールの新規作成 129
5.6. ［スケジュール設定］画面例 130
5.7. スケジュール設定画面の表示 131
5.8. ルール設定画面の表示 131
5.9. 「毎週」選択画面例 132
5.10. 「毎週」設定用の曜日選択画面例 132
5.11. 開始時刻および適用期間選択画面例 132
5.12. スケジュール設定適用前の画面例 133
5.13. スケジュール設定適用後の画面例 134
5.14. ジョブネットワークとの関連付け画面例 136
5.15. スケジュール設定終了画面例 137
5.16. スケジュール設定ダイアログの表示 137
5.17. 稼働日カレンダ選択画面例 138
5.18. ［トラッカ一覧］での確認画面例 139
5.19. ［スケジュール一覧］での確認画面例 140
5.20. 関連オブジェクト数一覧を表示 140
5.21. ［関連オブジェクト］画面例 141
5.22. スケジュールの操作メニュー 142
5.23. スケジュールの移動 143
5.24. スケジュールのコメント設定 143
5.25. スケジュール名の変更 144
5.26. スケジュールの有効/無効の状態 145
6.1. 親子関係が並列の場合のトラッカ一覧の表示例 150
6.2. 親子関係が多段の場合のトラッカ一覧の表示例 150
6.3. グループアイコンの表示色の例 151
6.4. ジョブネットワークのトラッカ一覧（グラフィックモード）画面例 152
6.5. ジョブネットワークのトラッカ一覧（テキストモード）画面例 153
6.6. ユーザフレームのトラッカ一覧（グラフィックモード）画面例 154
6.7. ユーザフレームのトラッカ一覧（テキストモード）画面例 155
6.8. マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン（グラフィックモード）画面例 156
6.9. マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン（テキストモード）画面例 156
6.10. 簡易統計情報の画面例 157
6.11. 最新トラッカ表示モード実行開始画面例 159

6.12. 最新トラッカ表示モード実行結果画面例 159
6.13. トラッカ一覧の現在の表示内容を表すステータス表示例 160
6.14. ［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの画面例 160
6.15. ツリー表示の階層イメージ 162
6.16. ユーザフレームのトラッカ一覧のツリー表示画面例 163
6.17. マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシンのツリー表示画面例 164
6.18. ［表示開始時間順］メニュー選択画面例 165
6.19. 時間表示（ジョブネットワークのトラッカ一覧）画面例 166
6.20. 時間表示（ユーザフレームのトラッカ一覧）画面例 167
6.21. 時間表示（マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン）画面例 168
6.22. ソート表示（マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン）画面例 169
6.23. ［期間設定］ボタン選択画面例 170
6.24. 表示期間設定画面例 170
6.25. 期間設定画面 171
6.26. ［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの画面例 172
6.27. 表示開始時刻を05:00に変更した［期間設定］ボタン表示 173
6.28. ［コントロールダイアログ］画面例 174
6.29. マシン名の［選択］ダイアログ画面例 174
6.30. ユーザ名の［選択］ダイアログ画面例 175
6.31. ［グループの検索ダイアログ］画面例 175
6.32. ジョブネットワーク名の［選択］ダイアログ画面例 176
6.33. トラッカ一覧の出力選択方法画面例 178
6.34. トラッカ一覧の最新状態表示方法例 180
6.35. [制御後のトラッカ一覧画面の更新]設定画面 182
6.36. ジョブネットワークトラッカの参照方法画面例 184
6.37. ジョブネットワークトラッカの表示画面例 185
6.38. ジョブ一覧画面の表示例 185
6.39. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［フロー］画面例 186
6.40. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウのフロー上で部品を選択していない場合のメニュー［コマンド］－［JNWトラッカ］の画面例 187
6.41. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウのフロー上で部品を選択している場合のメニュー［コマンド］－［部品］の画面例 187
6.42. 表示しているトラッカがサブジョブネットワークである場合の画面例 188
6.43. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［詳細情報］画面例 188
6.44. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［環境変数］画面例 190
6.45. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［ログ］画面例 190
6.46. トラッカの複数選択画面例 191
6.47. ［Tracker操作の確認］ダイアログ画面例 191
6.48. ［Tracker操作の結果］ダイアログ画面例 192
6.49. ［ユーザ環境設定］ダイアログの［アーカイブ］タブの画面例 193
6.50. ［投入の時間を変更］の選択画面例 194
6.51. 部品追加を行うトラッカのフロー画面例 195
6.52. メニューバーの［ファイル］－［変更］の選択画面例 195
6.53. 部品オブジェクト追加画面例 196
6.54. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウからの[JNW定義]アイコン選択画面例 ... 197
6.55. ［ジョブネットワーク］ウィンドウの［フロー］画面例 197
6.56. トラッカフロー印刷のプレビュー画面 198
6.57. 手動によるアーカイブ操作の画面例 199
6.58. アーカイブ操作時の［Tracker操作の確認]ダイアログ画面例 199
6.59. アーカイブ操作時の［Tracker操作の結果]ダイアログ画面例 200
6.60. 単位ジョブトラッカアイコン操作画面例 201
6.61. ［単位ジョブトラッカ］ウィンドウ画面例 204
6.62. サブジョブネットワークトラッカの操作画面例 206
6.63. ダイアログトラッカの操作画面例 208
6.64. 待ち合わせ部品とイベント送受信トラッカの操作画面例 209
6.65. ［部品検索画面］ウィンドウ画面例 210
6.66. ［検索期間設定］ダイアログ画面例 212
6.67. 部品検索フレーム画面例 213

6.68. 検索結果のソート画面例 214
6.69. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウ画面例 215
6.70. ［検索結果の印刷］ダイアログ画面例 215
6.71. 検索結果の印刷プレビュー画面例 216
6.72. 単位ジョブトラッカアイコン操作画面例（前後関係表示） 217
6.73. ［前後関係表示］ダイアログ画面例 217
6.74. 前関係の「集信」をダブルクリックしたときの結果表示例 219
6.75. 後関係の「確認」をダブルクリックしたときの表示例 220
6.76. ［フローを表示］ボタンをクリックしたときのフォーカスの移動結果例 221
6.77. サブジョブネットワークを含むジョブネットワークの前後関係のフロー例 222
6.78. subJNW内部品の「前関係」と「後関係」の表示例 223
6.79. 親JNWをダブルクリックしたときの［前後関係表示］ダイアログの表示例 224
6.80. ［スケジュール表示@ユーザ名］選択画面例 225
6.81. スケジュール表示を切り替える－［画面の切替］画面例 225
6.82. 月間スケジュール表示画面例 226
6.83. ［スケジュール表示フィルタ設定］ダイアログ画面例 227
6.84. 月間スケジュール表示のフィルタリング結果画面例 227
6.85. ［トラッカ選択ダイアログ］画面例 228
6.86. 月間トラッカ実績表示画面例 229
6.87. 日別スケジュール表示画面例 230
6.88. 日別トラッカ実績表示画面例 231
6.89. 予定実績比較表示画面例 232
6.90. ［スケジュール印刷設定］ダイアログ画面例 232
6.91. スケジュール／実績の印刷画面をプレビュー画面例 233
7.1. バッチ処理のイメージ 238
7.2. マシン一覧へのマシン追加画面例（標準リモートマシン構成） 240
7.3. ［マシンの追加］ダイアログ画面例 240
7.4. ユーザIDのマッピングの設定画面例（標準リモートマシン構成） 241
7.5. ［ユーザマッピング］ダイアログ画面例 241
7.6. マシンの削除画面例（標準リモートマシン構成） 242
7.7. ツールバーのアイコン及びメニューバーの[表示]のメニュー 242
7.8. マシン一覧のアイコン形式の画面例 243
7.9. マシン一覧の詳細形式の画面例 243
7.10. デフォルトで作成されるキュー 244
7.11. バッチキューの新規作成画面例 246
7.12. バッチキュー名設定画面例 246
7.13. バッチキューの［キューパラメータ］選択画面例 247
7.14. バッチキューパラメータの設定画面例 247
7.15. パイプキュー新規作成画面例 248
7.16. パイプキュー名設定画面例 248
7.17. パイプキューの［キューパラメータ］選択画面例 249
7.18. パイプキューパラメータの設定画面例 249
7.19. 転送先キューの指定画面例 250
7.20. 転送先キューの指定画面例 250
7.21. マシン一覧のマシンアイコン選択画面例 251
7.22. ［machine］ウィンドウの［キュー一覧］画面例 251
8.1. ［キュー一覧］を開く操作画面例 253
8.2. ［キュー一覧］画面例 253
8.3. ［NQSフレーム］－［キュー一覧］画面例 254
8.4. ［machine］ウィンドウを開く操作画面例 256
8.5. ［マネージャフレーム］－［リクエスト一覧］画面例 256
8.6. 参照したいキューの選択（マネージャフレーム）画面例 257
8.7. キューに設定されているリクエストの表示例（マネージャフレーム） 257
8.8. ［NQSフレーム］－［リクエスト一覧］画面例 258
8.9. キューに設定されているリクエストの表示例（NQSフレーム） 258
8.10. イベント一覧タブの画面例 260
8.11. イベント送信の設定画面例 261
8.12. イベント送信時の確認画面 262

8.13. イベント操作の確認画面例 263
9.1. JNWのエクスポート開始画面例 266
9.2. ［JNWのエクスポート］ダイアログ画面例 266
9.3. ［JNWのエクスポート実行中］の画面 267
9.4. ［エクスポート先の指定］ダイアログ画面例 267
9.5. ［JNWのエクスポートファイル転送中］の画面 267
9.6. カレンダのエクスポート開始画面例 268
9.7. ［カレンダのエクスポート］ダイアログ画面例 268
9.8. ［カレンダのエクスポート実行中］の画面 268
9.9. ［エクスポート先の指定］ダイアログ画面例 269
9.10. ［カレンダのエクスポートファイル転送中］の画面 269
9.11. スケジュールのエクスポート開始画面例 270
9.12. ［スケジュールのエクスポート］ダイアログ画面例 270
9.13. ［スケジュールのエクスポート実行中］の画面 271
9.14. ［エクスポート先の指定］ダイアログ画面例 271
9.15. ［スケジュールのエクスポートファイル転送中］の画面 271
9.16. JNWのインポート開始画面例 272
9.17. ［JNWのインポート］画面例 272
9.18. ［フォルダの参照］ダイアログ画面例 273
9.19. ［マシン名変更］ダイアログ画面例 273
9.20. ［JNWのインポート実行中］画面 273
9.21. インポートしたジョブネットワークの追加確認画面例 274
9.22. カレンダのインポート開始画面例 275
9.23. ［フォルダの参照］ダイアログ画面例 275
9.24. ［カレンダのインポート実行中］画面 275
9.25. JapanカレンダEXEファイルの自己解凍 277
9.26. Windows版でのコピー例 277
9.27. インポートしたJapanカレンダの確認画面例 278
9.28. スケジュールのインポート開始画面例 279
9.29. ［スケジュールのインポート］ダイアログ画面例 279
9.30. ［フォルダの参照］ダイアログ画面例 279
9.31. ［スケジュールのインポート実行中］画面 280
10.1. ［パーミッション］ダイアログ画面例 282
10.2. 「権限グループに所属させる」を利用したユーザのグループ移動画面例 283
10.3. userAのグループ移動後の画面例 284
10.4. 「ユーザを他の権限グループに移動」を利用したユーザのグループ移動画面例 285
10.5. userのグループ移動後の画面例 285
10.6. 権限グループ新規作成画面例 287
10.7. ［権限グループ名］新規追加後の画面例 288
10.8. 選択した権限グループに許可する権限を選択画面例 289
10.9. ［アクセス許可］ダイアログ初期画面例 289
10.10. ［アクセス許可］設定画面例 290
11.1. 「システム環境設定」ダイアログ－「SMTPサーバ」タブ画面例 293
11.2. 「パラメータ」ダイアログ－「メール設定」タブ画面例 295
11.3. トラッカを直接操作した画面例 304
14.1. 「強制ロック」または「読み取り専用」が選択可能な場合のダイアログ表示例 322
14.2. 「強制ロック」または「読み取り専用」が選択できない場合のダイアログ表示例 323

表目次

1.1. JobCenterの製品構成 3
2.1. GUI画面の基本的な操作方法 6
2.2. UMS ModeとEUI Modeの違い 10
2.3. 登録モードと操作可能範囲 10
2.4. ユーザフレームのタブ一覧 17
2.5. マネージャフレームのタブ一覧 18
2.6. NQSフレームのタブ一覧 19
2.7. ERPフレームのタブ一覧 20
2.8. 他のユーザのユーザフレームのタブ一覧 22
3.1. スケジュールを設定してジョブネットワークを自動実行するときの注意点 40
3.2. ジョブネットワークの操作一覧 41
3.3. 環境変数設定の入力パラメータの制限事項 56
4.1. 部品オブジェクト一覧 62
4.2. 送信先イベント保持状態一覧 123
5.1. スケジュールの操作一覧 142
6.1. ジョブの状態とトラッカの色の関係 147
6.2. 単位ジョブトラッカアイコン一覧 148
6.3. サブジョブネットワークアイコン一覧 148
6.4. ジョブネットワークの状況と優先度 149
6.5. グループアイコンの表示色におけるジョブネットワークの状態と優先度 150
6.6. ［単位ジョブトラッカ］ウィンドウのタブ一覧 204
6.7. 待ち合わせ部品とイベント送受信トラッカ一覧 209
6.8. RootJNW（親ジョブネットワーク）の各部品の前後関係 222
6.9. subJNWの各部品の前後関係 223
7.1. デフォルトで作成されるキューの初期設定一覧 244
8.1. リクエストの状態一覧 255
8.2. リクエストの状態一覧 259
8.3. イベント送信時のメッセージダイアログ一覧 262
11.1. 件名、本文に使用可能なマクロ 300
11.2. メール送信を行うトラッカ状態 302
11.3. エラー状態になるジョブ部品とマクロの置き換え結果 302
11.4. トラッカ操作メニューとメール送信動作 304
11.5. トラッカフロー画面の操作とメール送信動作 305
12.1. JobCenter CL/Win接続のダイアログ 308
12.2. メニューバー（共通）のダイアログ 308
12.3. ユーザフレームのダイアログ 310
12.4. マネージャフレームのダイアログ 314
12.5. NQSフレームのダイアログ 315
12.6. ERPフレームのダイアログ 315
12.7. 他のユーザのフレームのダイアログ 316
12.8. ユーザ環境設定のダイアログ 316
12.9. システム環境設定のダイアログ 316
12.10. サーバの環境設定のダイアログ 316
12.11. 定義編集時のダイアログ 316
13.1. トラッカ操作時に設定可能なパラメータ一覧 317
14.1. 排他機能が適用される操作一覧 321
14.2. 「強制ロック」または「読み取り専用」が選択可能な場合のダイアログのボタン一覧 322
15.1. エラーメッセージ一覧 324

第1章 JobCenter概要

JobCenterは、定型業務やバッチ処理の自動運用とスケジュール管理を行うためのジョブ管理製品です。

JobCenterはGUI画面でドラッグ&ドロップによって容易に操作でき、業務の実行を一元的に監視できます。また、稼働日カレンダとスケジュールの設定で、業務の確実な自動実行がきめ細かく実現できます。さらにクラスタ環境の運用およびSAP ERP, SAP BIや他製品との連携もできます。

JobCenterはGUI画面を用いた、判りやすいジョブの実行監視、操作、定義ができます。

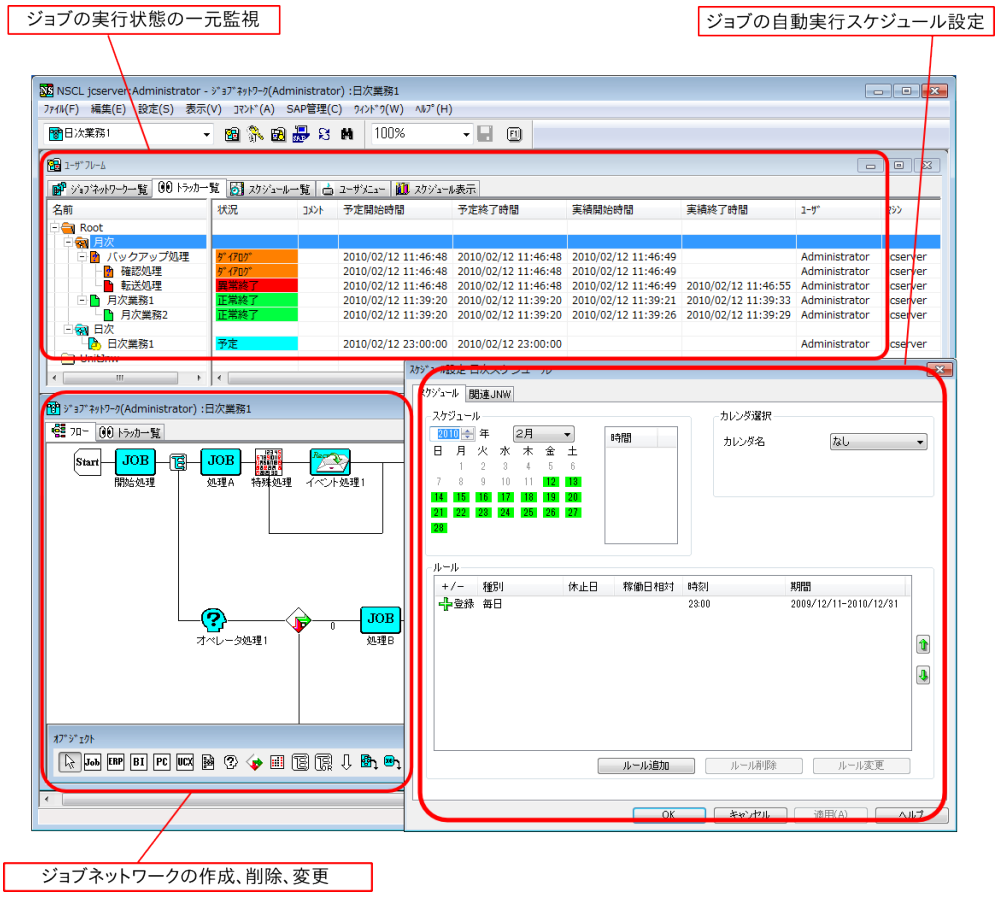


図1.1 JobCenter GUI画面イメージ

1.1. JobCenterの主な特長

JobCenterの主な特長は次のとおりです。

■GUI画面とスケジュール機能による強力なジョブ自動実行機能のサポート

ジョブネットワークは、GUI画面からドラッグ&ドロップの簡単な操作で定義できます。条件分岐、待ち合わせなど、さまざまなジョブの実行条件もGUI画面から設定できます。ジョブの実行順序は、ジョブネットワークにより自動的に制御されます。ジョブネットワーク間の連携定義によって、大規模なジョブネットワークが効率的に構築できます。

稼働日カレンダを使ってスケジュールの設定を組み込むことにより、ジョブの確実な自動実行をきめ細かく設定できます。稼働日カレンダでは、休日を避けたジョブの実行を定義するなど、業務に合ったスケジュールを作成できます。

■GUI画面によるジョブの実行状況の一元管理

ネットワーク分散環境でのジョブの実行状況を、GUI画面で一元的に監視できます。ジョブの状態は色で区別されるため、障害発生も即座に認識することができます。監視画面と同一のGUI画面からジョブの再実行などが行えるため、障害時の迅速なリカバリが可能です。

■クラスタ機能によるハイアベイラビリティ

メインフレームのミッションクリティカル業務を、クラスタ環境のジョブ運用で実現できます。監視マネージャを二重化することで、ノードダウンによるジョブ実行状況監視の中断を防止します。また、ジョブ実行サーバを二重化することでジョブマイグレーションによるジョブ実行の継続を保証します。

■SAP ERP, BI連携機能

ジョブネットワーク中にERPジョブやBIジョブを定義することができます。通常のジョブと同様に、ERPジョブやBIジョブの投入、結果の参照や制御が行えます。

■他製品とのジョブ連携機能

NQS（Network Queuing System）をベースとしていますので、NQSプロトコルをサポートする他製品とのジョブ連携ができます。

■マルチプラットフォーム／マルチベンダ対応

ジョブの実行は、Windows, RedHat Linux, Miracle Linux, HP-UX, Solaris, AIXの主要なプラットフォーム上で動作可能です。また、IPF(Itanium Processor Family）サーバにも対応しています。

1.2. JobCenterの製品構成

JobCenterの標準的な製品構成は、マネージャ機能（JobCenter　MG）、サーバ機能（JobCenter SV）およびビューワ機能（JobCenter CL/Win）です。クラスタ機能およびSAP ERP連携、SAP BI連携はオプションになります。

表1.1 JobCenterの製品構成

機　能	名　称	説　明
マネージャ機能	JobCenter MG	ジョブ実行環境構築、状態監視を行います。監視GUIはJobCenter CL/Winを使用します。
サーバ機能	JobCenter SV	NQSをベースにしたジョブ実行機能を提供します。
ビューワ機能	JobCenter CL/Win	JobCenter　MG,　JobCenter　SVに接続するWindows上のビューワです。
クラスタ機能	JobCenter CJC Option	マネージャ機能とサーバ機能の二重化を行います。
SAP ERP連携機能	JobCenter for ERP Option	SAP ERPシステムへのジョブ投入を行います。
SAP BI連携機能	JobCenter for BI Option	SAP BIシステムへのジョブ投入を行います。

JobCenterの製品構成イメージは、図1.2「JobCenterの製品構成イメージ」のとおりです。

Windows環境では、JobCenter MG, JobCenter SVおよびJobCenter CL/Winを同一のマシンにインストールして、小規模なシステムも構成できます。

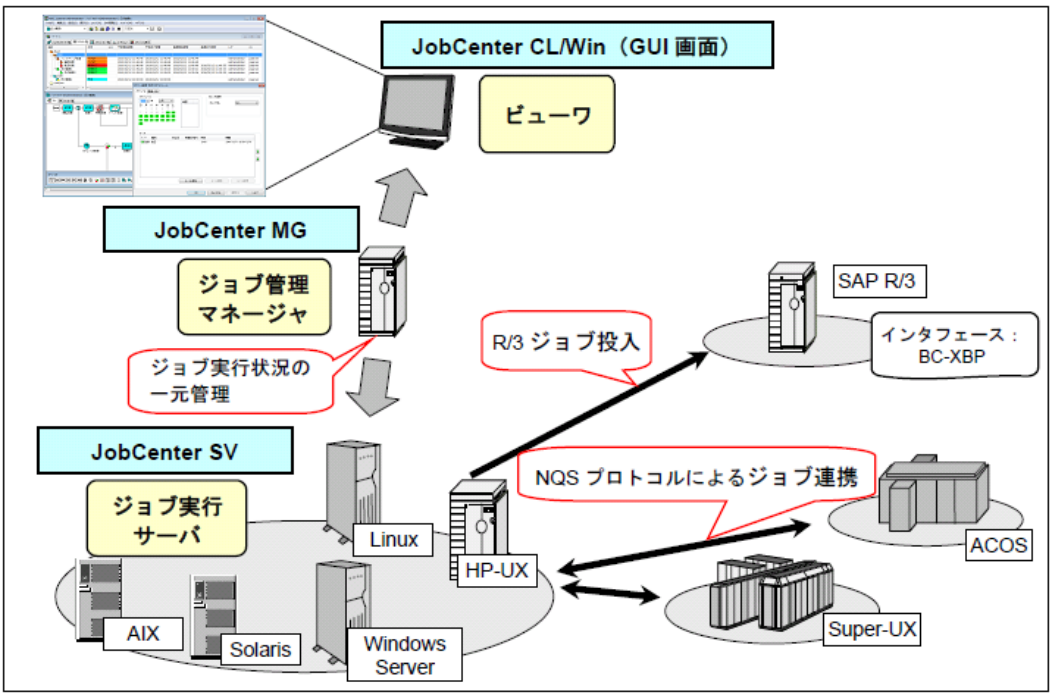


図1.2 JobCenterの製品構成イメージ

1.3. JobCenterの各製品とOSとの対応

JobCenterの各製品と対応OSにつきましては、<リリースメモ>の3章 「動作環境」 を参照してください。

第2章 JobCenter CL/Win（GUI画面）の操作方法

JobCenter　CL/Win（GUI画面）は、JobCenter　MG（マネージャ）およびJobCenter　SV（サーバ）に接続するビューワです。

このGUI画面を用いて、ジョブの実行環境の構築やジョブの状態の監視を行います。

2.1. GUI画面の基本的な操作方法

Jobcenterの基本的な画面操作は、Windowsの操作と同様です。

次に本書で用いている基本的な操作方法を例示します。

表2.1 GUI画面の基本的な操作方法

操　作	操作方法
メニューを表示する	メニューバーの項目にマウスカーソルをあわせてボタンをクリックします。 ドロップダウンメニューが表示されますので、操作するコマンドを選択します。
アイコンを選択する	操作の対象となるアイコンをシングルクリックします。
ファイル（ジョブネットワーク、トラッカなど）を開く	操作の対象となるアイコンをダブルクリックします。
ポップアップメニューの表示	操作の対象となるアイコンを選択し、右クリックします。本書では、主に右クリックで表示されるメニューからの操作方法を中心に説明しています。 メニューバーから選択したコマンドでも同様に操作できます。
設定の完了、適用	［OK］ボタン、［適用］ボタンをクリックします。
設定の取り消し	［キャンセル］ボタンをクリックします。
画面の終了	ウィンドウおよびダイアログの右上の ボタンをクリックします。 メニューの［ファイル］－［閉じる］および［終了］でも画面を終了できます。

2.2. GUI画面を起動する

サーバへ接続しJobCenterを操作するために、GUI画面を起動します。

1. Windowsの［スタート］から、［すべてのプログラム］－［JobCenter］－［Client］－［JobCenterクライアント］を選択します。

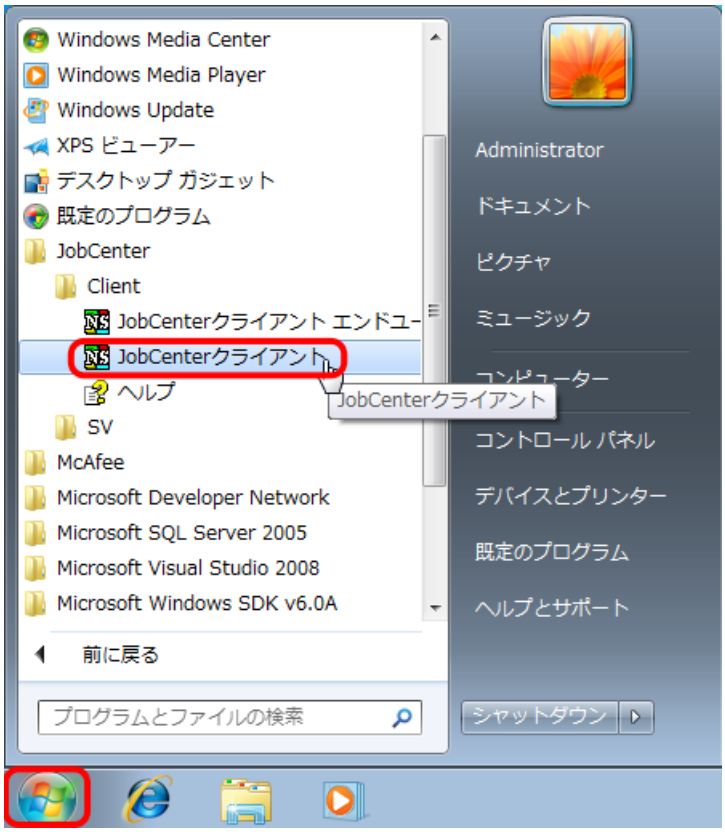


図2.1 GUI画面の起動方法

2. GUI画面の起動に成功すると、［サーバへの接続］ダイアログが表示されます。

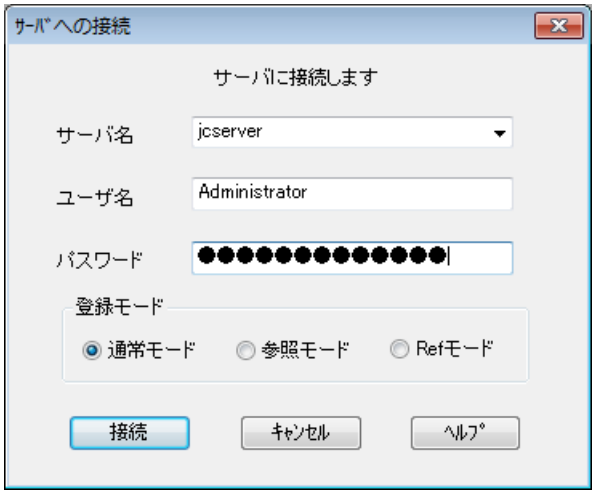


図2.2 ［サーバへの接続］ダイアログ画面例

2.3. サーバへ接続する

管理者アカウントまたは一般アカウントを使用して、サーバへ接続を行います。JobCenter管理者ユーザ以外の利用ユーザを一般アカウントと呼びます。

■サーバ接続の前に、JobCenter MG, JobCenter SVの起動が必要です。

■一般アカウントにJobCenter側で割り当てた権限によっては、本書内で説明する各操作やメニュー、ボタンなどについて選択できない場合があります。詳しくは10章「一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定）」を参照してください。

2.3.1. 管理者アカウントで接続する

管理者アカウントを使用して、ジョブネットワークの作成、削除、変更が可能な通常モードで接続を行います。UNIX版ではnsumsmgr固定、Windows版ではセットアップの際に指定したアカウントを使用します。

UNIX版の場合、root(OSのスーパーユーザ)ではなく、必ずnsumsmgrを使用してください。

1. GUI画面を起動すると、［サーバへの接続］ダイアログが表示されます。

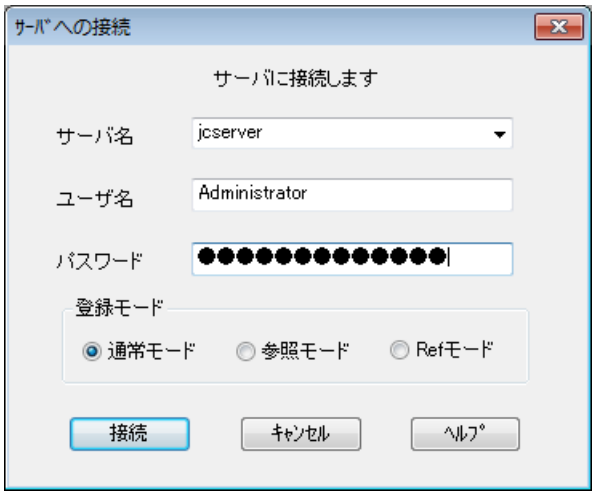


図2.3 ［サーバへの接続］ダイアログ画面（管理者アカウント）例

2. ［サーバ名］、［ユーザ名］、［パスワード］、［登録モード］を入力します。
   - ［サーバ名］はマシン名を入力します。ドメインを利用している環境では、マシン名.ドメインの形式で入力します。
   - ［ユーザ名］は管理者用アカウントを入力します。
   - ［パスワード］は上記管理者用アカウントのパスワードを入力します。
   - ［登録モード］は通常モードを選択します。
3. すべての入力と選択が終わりましたら、［接続］ボタンをクリックします。
4. 接続に成功すると、ユーザフレームが表示されます。画面右下に「UMS　Mode」と表示されます。

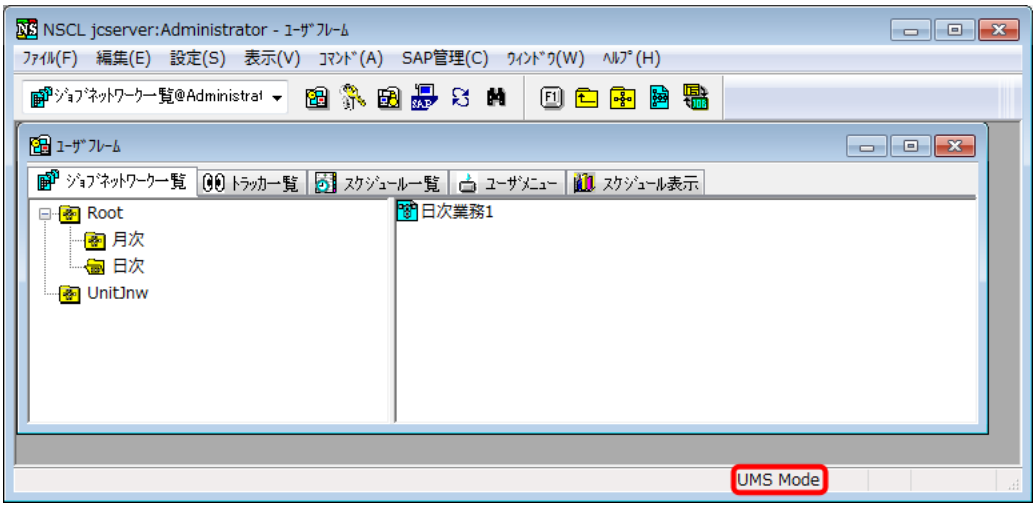


図2.4 接続後の画面（ユーザフレーム）例

2.3.2. 一般アカウントで接続する

一般アカウントを使用して、ジョブネットワークの作成、削除、変更が可能な通常モードで接続を行います。ただし、一般アカウントは、管理者アカウントに比べて利用できる機能が一部制限されますのでご注意ください。

1. GUI画面を起動すると、［サーバへの接続］ダイアログが表示されます。

図2.5 ［サーバへの接続］ダイアログ画面（一般アカウント）例

2. ［サーバ名］、［ユーザ名］、［パスワード］、［登録モード］を入力します。

■［サーバ名］はマシン名を入力します。ドメインを利用している環境では、「マシン名.ドメイン」の形式で入力します。ネットワーク上の正式なホスト名を入力してください。

コンボボックスでは、以前接続に成功したマシン名を選択できます。

■［ユーザ名］は一般アカウントを入力します。

■［パスワード］は上記一般アカウントのパスワードを入力します。

■［登録モード］は通常モードを選択します。

3. すべての入力と選択が終わりましたら、［接続］ボタンをクリックします。

4. 接続に成功すると、ユーザフレームが表示されます。画面右下に「EUI　Mode」と表示されます。

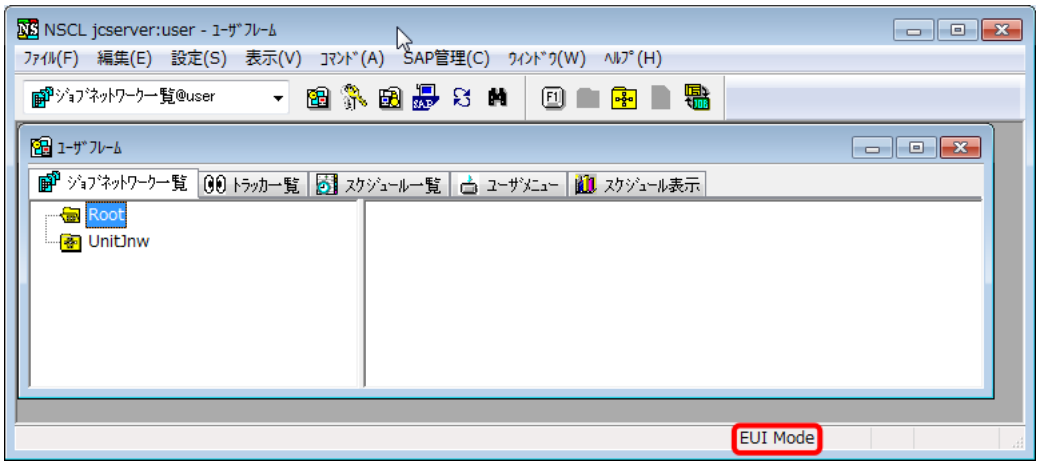


図2.6 接続後の画面（ユーザフレーム）例

2.3.3. ログインユーザ別のGUI画面モード、サーバ接続時の登録モード

ログインしたユーザによって、CL/Win画面右下の表示が「UMS Mode」と「EUI Mode」に分かれます。

UMS　ModeはJobCenter管理者で接続したときのGUI画面です。UMS　Modeではサイト全体の環境設定（稼働日カレンダ作成、他マシンのアイコン追加・削除、マシングループ設定、キュー作成・削除、その他全ての操作）が可能です。

EUI　Modeは一般アカウント向けのGUI画面です。ジョブネットワークやスケジュールの作成・設定やトラッカ操作が可能ですが、サイト全体の環境設定などシステム構成に関しては参照のみ可能です。

マシングループに含まれるマシンのうち、スケジューラマシン(親)ではないメンバマシン(子)については、例えJobCenter管理者で接続してもEUI　Modeでの接続になります。もしどうしてもメンバマシンにUMS　Modeで接続したい場合は、そのマシンは一旦マシングループからはずす必要があります。

本マニュアルでは主にUMS Modeでの操作方法を中心に説明しています。

表2.2 UMS ModeとEUI Modeの違い

ログインモード	説　明
UMS Mode	管理者向けのGUI画面です。システム環境設定、キューの操作や削除など全ての運用操作が可能です。
EUI Mode	一般アカウント向けのGUI画面です。システム環境やキューに関しては参照のみ可能です。

その他CL/Winでサーバに接続する時に選択する［登録モード］の違いにより、次のようにジョブネットワークやトラッカに対する操作可能範囲が異なります。

表2.3 登録モードと操作可能範囲

登録モード	ジョブネットワークの作成、削除、変更	ジョブネットワークやジョブの制御

通常モード	○	○
参照モード	×	○
Refモード	×	×

○：操作可能、×：操作不可（参照のみ）

なお、一般アカウントユーザが自分または他ユーザのジョブネットワークの参照・作成・実行、トラッカの参照・操作をする権限は、パーミッション設定機能を用いて権限グループごとに設定できます。詳細については10章 「一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定）」 を参照してください。

2.3.4. サーバへ接続する際のタイムアウト時間を設定する

GUI画面からサーバへ接続する際のタイムアウト時間を設定することができます。

大量のジョブを実行中である、またはネットワークに負荷がかかっているなどで接続処理に時間がかかり、接続エラーが発生することがあります。このエラーの発生を防ぐために、通信タイムアウト時間を変更します。なお、デフォルトは30秒に設定されています。

1. ［サーバへの接続］ダイアログで［キャンセル］ボタンをクリックして、何も表示されていない状態にします。

2. タイトルバーに［NSCL］とだけ表示されたウィンドウのメニューバーから、［設定］－［通信タイムアウト時間］を選択します。

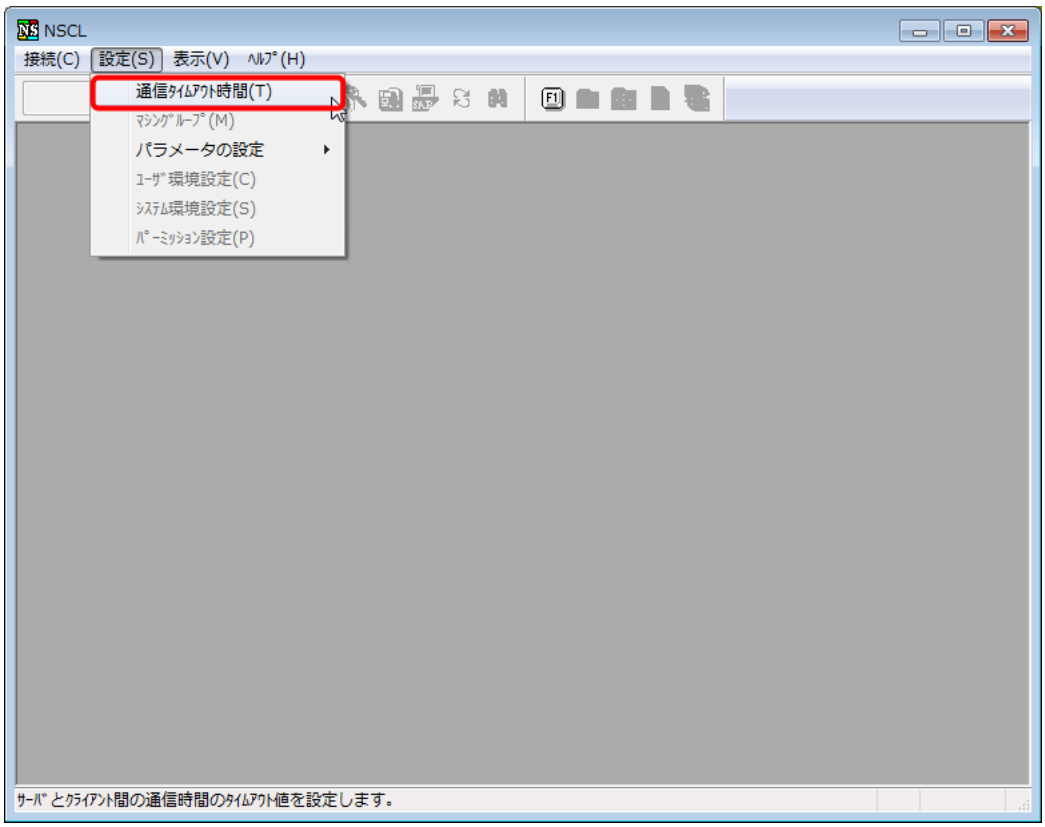


図2.7 ［通信タイムアウト時間］選択画面例

3. ［通信タイムアウト時間設定］ダイアログが表示されますので、タイムアウト時間を指定します（入力欄のデフォルト値は30秒です）。

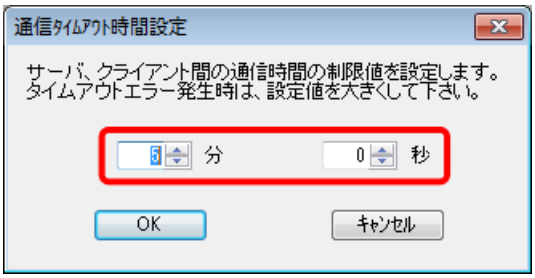


図2.8 通信タイムアウト時間の設定例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

サーバ接続のタイムアウト時間を設定する際の注意事項

ここで設定した通信タイムアウト時間は、サーバに接続する際のタイムアウト時間を指定するものです。サーバ接続後に何らかの処理を行った際のタイムアウト時間とは異なります。なお、ログイン後にCL/Winから通信が発生しない状態が1週間続くと、接続先マシン側で自動的にログアウト処理が行われます。この場合は再度接続しなおしてください。

2.3.5. サーバ接続後のCL/Win操作のタイムアウト時間を設定する

CL/Winでサーバ接続した後、各種の操作をサーバに対して行う際のタイムアウト時間を設定することができます。

トラッカが大量にある場合や、ジョブネットワーク定義やスケジュール定義の数が多くて表示までの時間がかかり、CL/Win側でタイムアウトによるエラーが発生しタイムアウトしたことを示すダイアログが表示されることがあります。このエラーの発生を防ぐために、通信タイムアウト時間を変更します。なお、デフォルトは5分に設定されています。

1. 「2.3.1　管理者アカウントで接続する」または「2.3.2　一般アカウントで接続する」により、サーバに接続します。

2. タイトルバーに［NSCL　　ホスト名:ユーザ名］と表示されたウィンドウのメニューバーから、［設定］－［通信タイムアウト時間］を選択します。

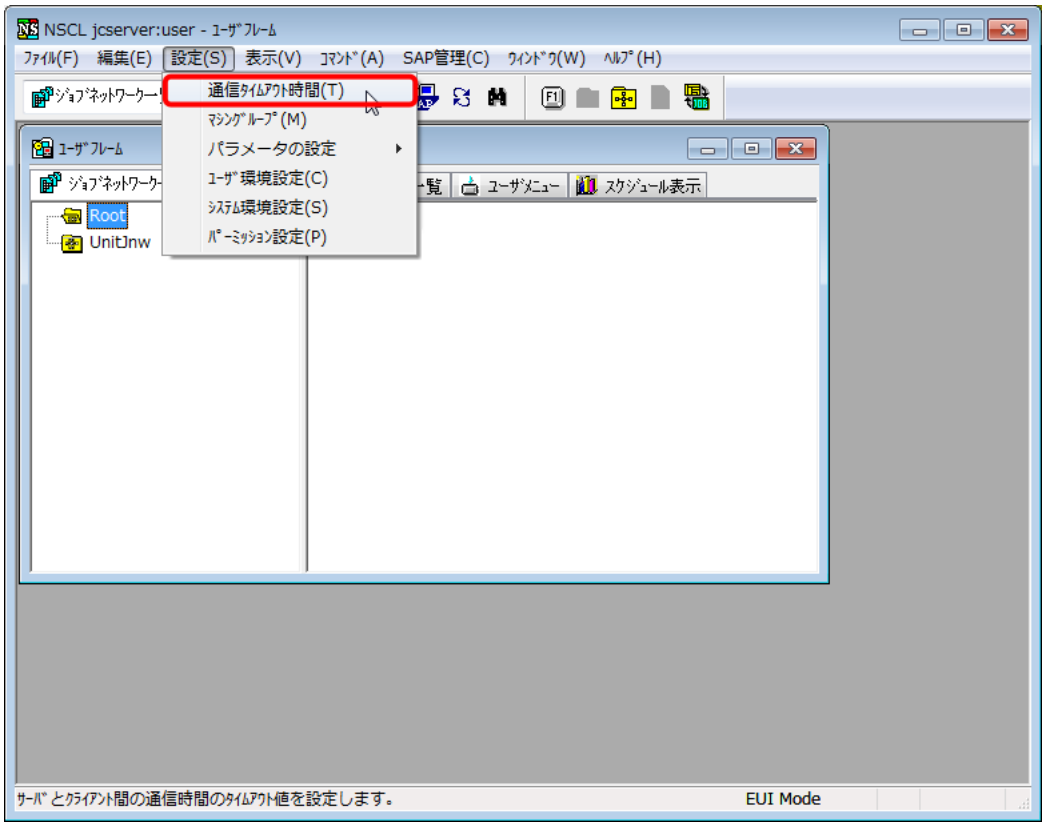


図2.9 ［通信タイムアウト時間］選択画面例

3. ［通信タイムアウト時間設定］ダイアログが表示されますので、タイムアウト時間を指定します（入力欄のデフォルト値は5分です）。

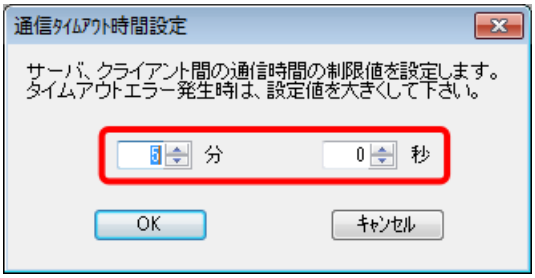


図2.10 通信タイムアウト時間の設定例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

サーバ接続後のCL/Win操作のタイムアウト時間を設定する際の注意事項

ここで設定した通信タイムアウト時間は、サーバに接続した後でサーバに対してジョブネットワーク定義の保存やトラッカ参照などの各種の操作を行う際の、タイムアウト時間を指定するものです。サーバに接続する際のタイムアウト時間とは異なります。ログイン後にCL/Winから通信が発生しない状態が1週間続くと、接続先マシン側で自動的にログアウト処理が行われます。この場合は再度接続しなおしてください。

2.4. サーバ接続を切断する

JobCenterを終了する際に、サーバ接続を切断します。

1. メニューバーから［ファイル］－［接続切断］を選択します。

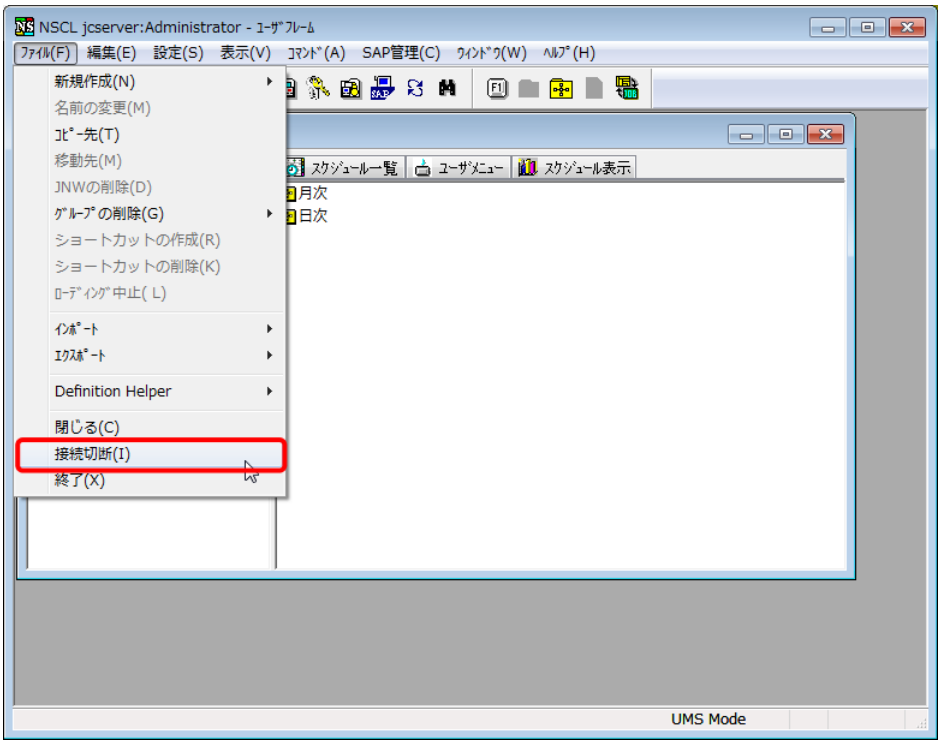


図2.11 ［接続切断］メニュー選択画面例

2. 接続の切断が完了すると、図 2-12のような画面になります。必要に応じて、サーバへの再接続またはGUI画面の終了（ウィンドウを閉じる）を行います。

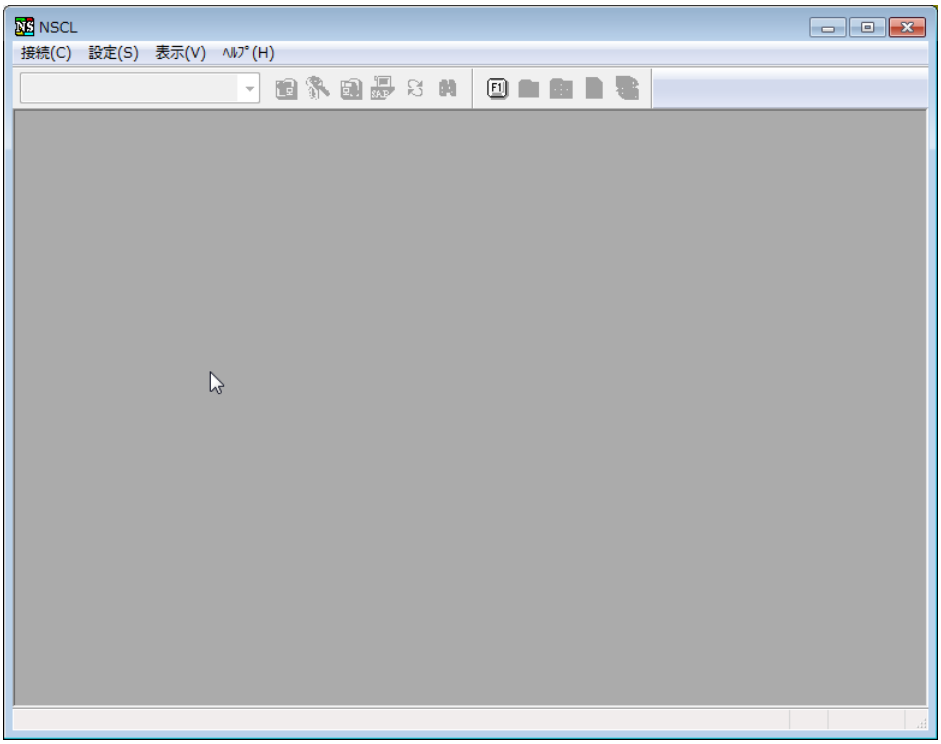


図2.12 接続切断終了後の画面

「NSCL」ウィンドウを閉じた場合は自動的に切断されます。

2.5. 用途によってフレーム（画面）を切り替える

GUI画面は、大きく分けて4種類のフレーム（画面）で構成されています。

ツールバーのアイコンまたはメニューバーの［ウィンドウ］のメニューから選択して、フレームを切り替えます。

図2.13 フレーム切り替えアイコン

また、ユーザ権限によって許可されている他のユーザのユーザフレームも表示できます。

各フレームで表示されるタブは、ログインユーザの持つ権限によって表示されないものがあります。詳しくは10章「一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定）」を参照してください。

なお、同列の アイコンは、最新表示に用います。トラッカー覧の表示などの更新に利用します。

2.5.1. ユーザフレームを表示する

ログインしたマシン内のジョブネットワークやスケジュールの作成、ジョブの実行状態の監視を行う画面です。

主に開発設計者、運用管理者が使用します。

1. ツールバーの アイコンをクリックします。または、メニューバーから［ウィンドウ］－［ユーザフレーム］を選択します。

2. NSCLウィンドウ内に［ユーザフレーム］が表示されます。

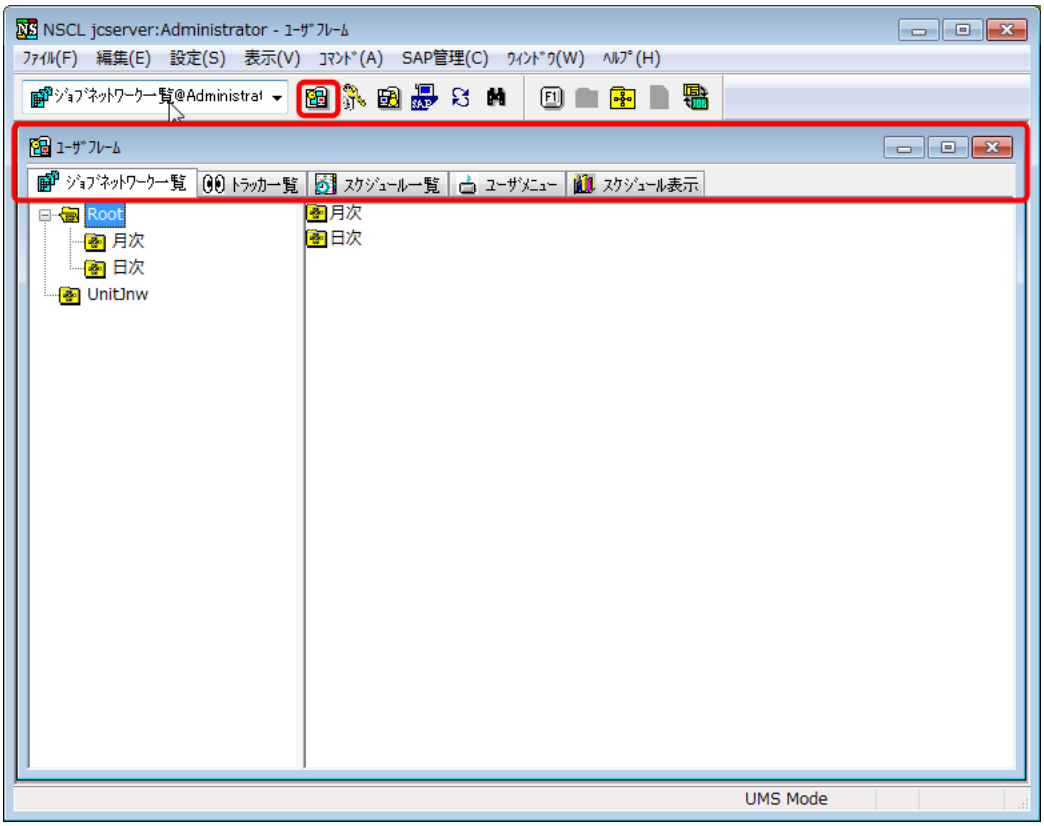


図2.14 ユーザフレーム画面例

一度閉じたユーザフレームを再度開きたいときは、ユーザフレームの アイコンをクリックするかメニューバーの［ウィンドウ］－［ユーザフレーム］を選択します。

ユーザフレームの各タブの内容は次のとおりです。

表2.4 ユーザフレームのタブ一覧

タ　ブ	内　容	章番号
ジョブネットワーク一覧	ユーザの持つジョブネットワークの参照、作成、削除、実行といった操作が行えます。	3
トラッカー覧	ユーザの持つトラッカの参照や削除、またトラッカに対する各種操作が行えます。	6.2.2
スケジュール一覧	ユーザの持つスケジュールの参照、作成、削除、設定の変更が行えます。	5.1
ユーザメニュー	ユーザ作成のメニューボタンの参照や実行、また、作成や削除が行えます。	「3.4 ジョブネットワーク実行用メニューボタンを作成する」
スケジュール表示	ユーザの持つスケジュール登録されたトラッカや終了済みのトラッカを日単位、時間単位で参照することができます。	6.21

2.5.2. マネージャフレームを表示する

マシンの構成管理や稼働日カレンダの設定などを行う画面です。

主に運用管理者、システム管理者が使用します。

1. ツールバーの アイコンをクリックします。または、メニューバーの［ウィンドウ］－［マネージャフレーム］を選択します。

2. NSCLウィンドウ内に［マネージャフレーム］が表示されます。

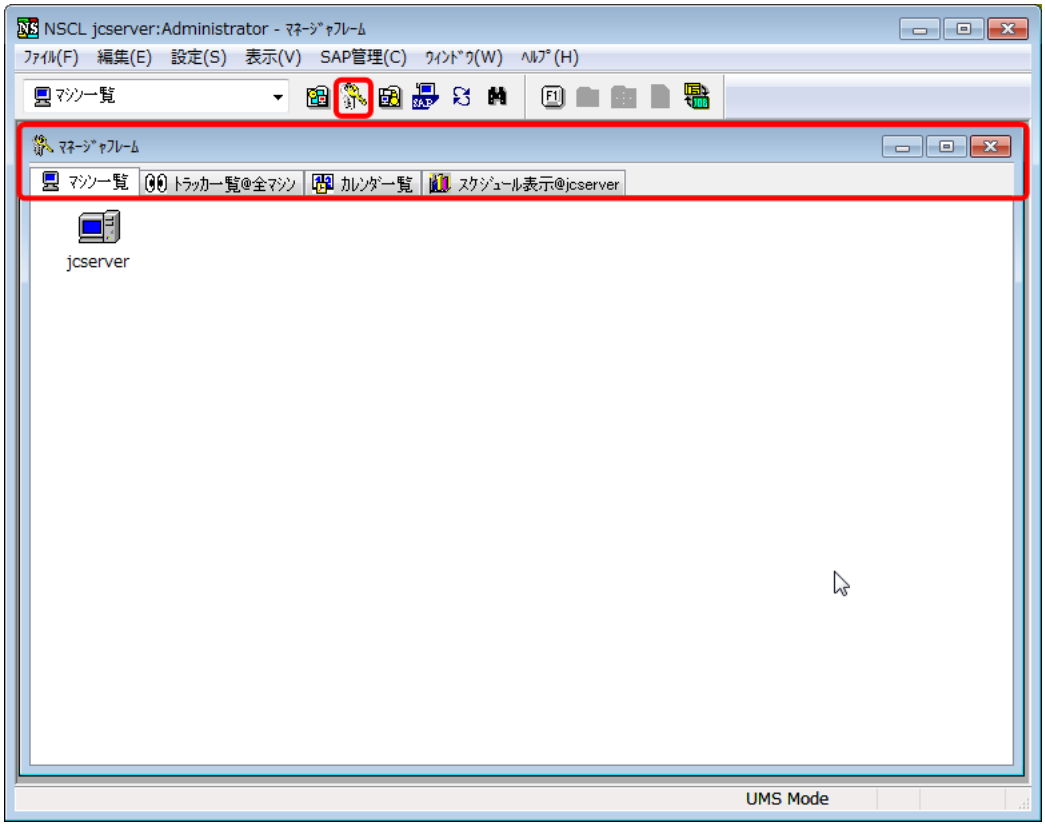


図2.15 マネージャフレーム画面例

一度閉じたマネージャフレームを再度開きたいときは、マネージャフレームの アイコンをクリックするか、［ウィンドウ］－［マネージャフレーム］を選択します。

マネージャフレームの各タブの内容は次のとおりです。

表2.5 マネージャフレームのタブ一覧

タ　ブ	内　容	章番号
マシン一覧	マシングループに属するすべてのマシンのアイコンが表示されます。	7.1
トラッカー覧@全マシン	マシングループに属するすべてのマシンのトラッカが表示されます。	6.2.3
カレンダー覧	マシングループに属するすべてのマシンのカレンダが表示されます。	－
スケジュール表示@サーバ名	マシングループに属するすべてのマシンのスケジュールが表示されます。	6.21

なお、マシングループの詳細については<環境構築ガイド>の「3.1.2　マシングループに他マシンを追加、削除する」を参照して下さい。

2.5.3. NQS（Network Queuing System）フレームを表示する

マシンのキューおよびリクエストを監視、制御する画面です。キューの構成管理も行えます。

主に運用管理者、システム管理者が使用します。

また、マシングループを設定している場合は、スケジューラマシンのNQSフレームで全メンバマシンのキューを参照することができます。

1. ツールバーの　アイコンをクリックします。または、メニューバーの［ウィンドウ］－［NQSフレーム］を選択します。

2. NSCLウィンドウ内に［NQSフレーム］が表示されます。

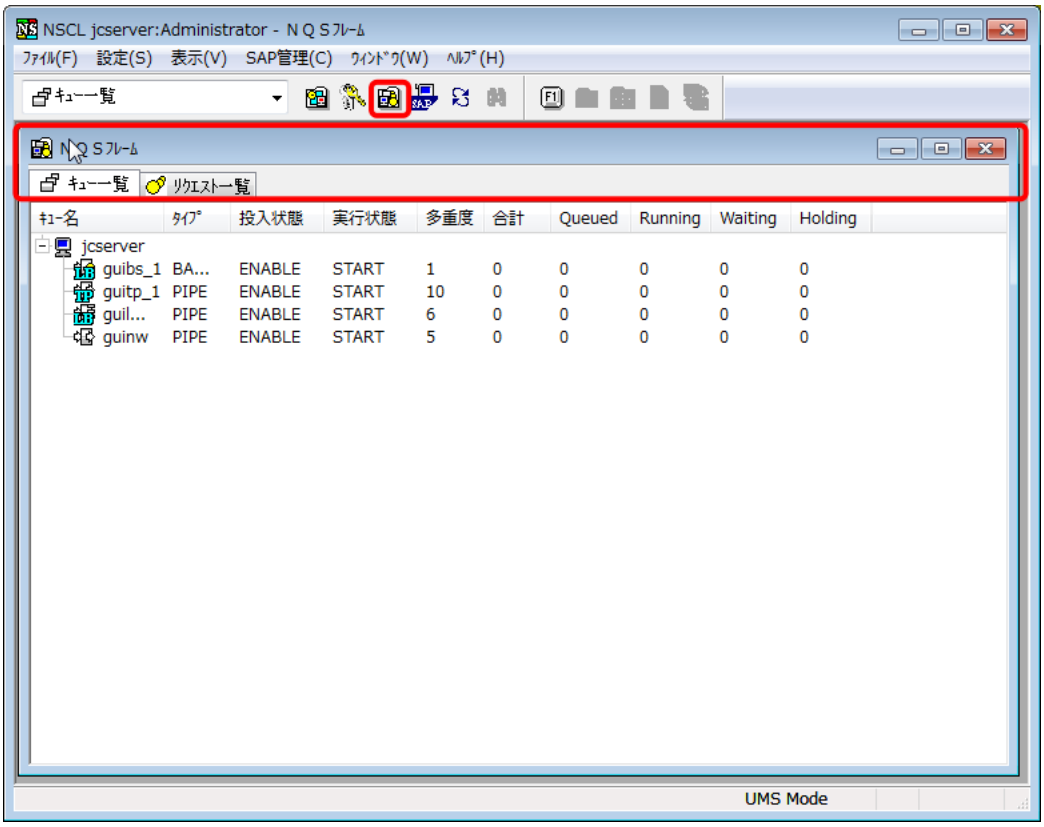


図2.16 NQSフレーム画面例

一度閉じたNQSフレームを再度開きたいときは、NQSフレームの アイコンをクリックするか、［ウィンドウ］－［NQSフレーム］を選択します。

NQSフレームの各タブの内容は次のとおりです。

表2.6 NQSフレームのタブ一覧

タ　ブ	内　容	章番号
キュー一覧	マシンの持つキューが表示されます。	8.1
リクエスト一覧	マシンの持つジョブリクエストが表示されます。	8.2

2.5.4. ERPフレームを表示する

待機中のERPジョブの表示を行います。

接続先名の部分をクリックするとその配下のERPジョブを表示します。

詳細については、「JobCenter　SAP機能利用の手引き　1.8　　ERPフレーム」を参照してください。

1. ツールバーの　　アイコンをクリックします。または、メニューバーの［ウィンドウ］－［ERPフレーム］を選択します。

2. NSCLウィンドウ内に［ERPフレーム］が表示されます。

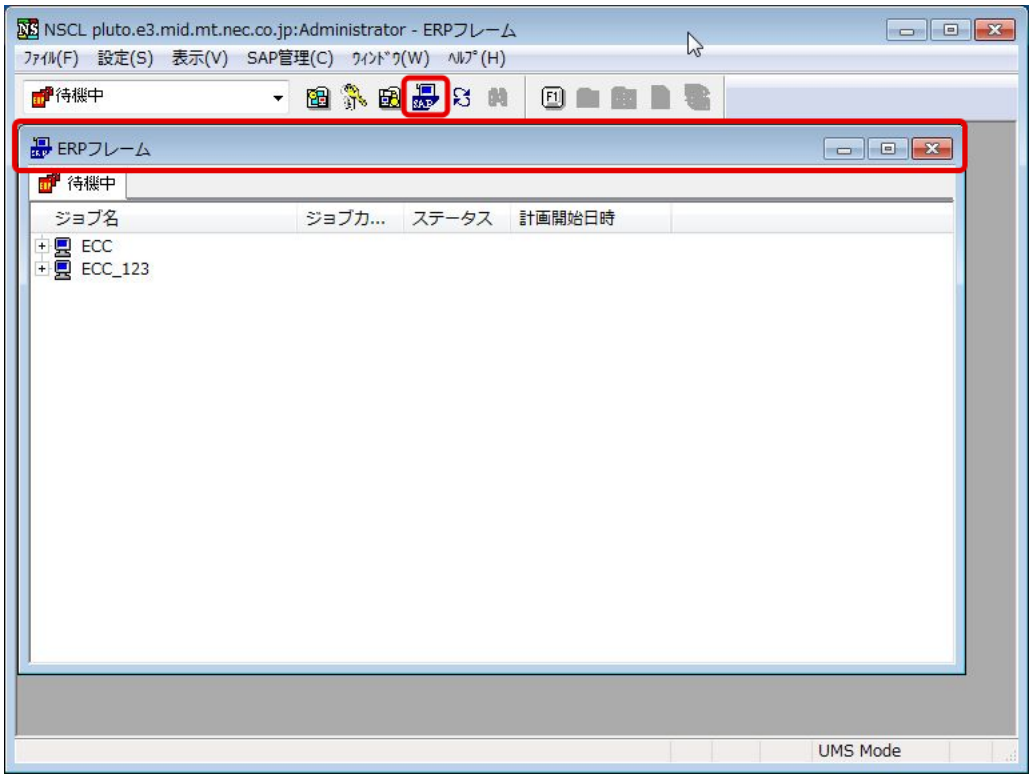


図2.17 ERPフレーム画面例

一度閉じたERPフレームを再度開きたいときは、ERPフレームの　アイコンをクリックするか、［ウィンドウ］－［ERPフレーム］を選択します。

表2.7 ERPフレームのタブ一覧

タ　ブ	内　容	参照マニュアル
待機中	待機中のERPジョブが表示されます。接続先名の部分をクリックするとその配下のERPジョブを表示します。	SAP機能利用の手引き

2.5.5. 他のユーザのユーザフレームを表示する

ログインユーザ以外が所有するジョブネットワークやスケジュールの作成、ジョブの実行状態の監視を行う画面です。主に開発設計者、運用管理者が使用します。

他のユーザのユーザフレームを開くには、ログインユーザに適切なユーザ権限を設定する必要があります。ユーザ権限により許可されている他のユーザにのみアクセスできます。

ユーザ権限やアクセス許可に関しての詳細については、10章 「一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定）」 を参照してください。

1. メニューバーの［ウィンドウ］－［他のユーザのフレーム］を選択します。

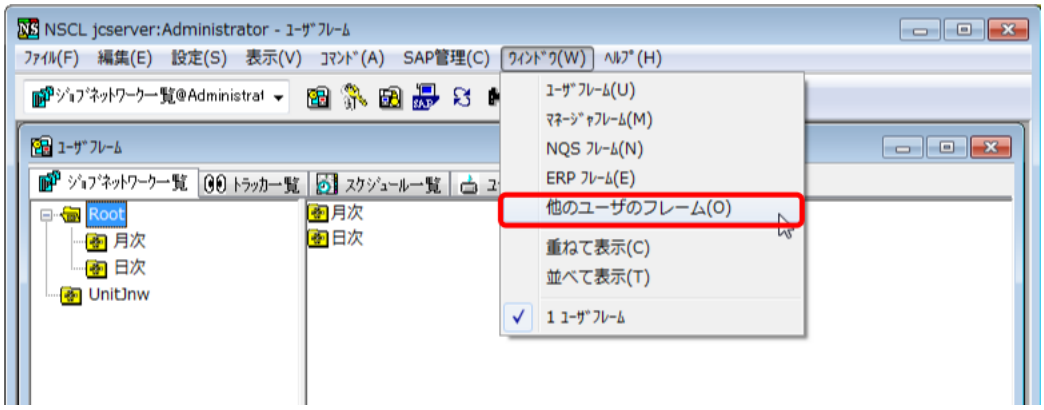


図2.18 ［他のユーザのフレーム］メニュー選択画面例

2. ［ユーザの選択］ダイアログが開きますので、リストから操作したいユーザ名を選択します。なお、［NSCL］ウィンドウ内に1つもダイアログが開かれていない場合には、［表示］－［他のユーザのフレーム］を選択すると［ユーザの選択］ダイアログが表示されます。

図2.19 ［ユーザの選択］ダイアログ画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4. 選択した他のユーザのユーザフレームが表示されます。

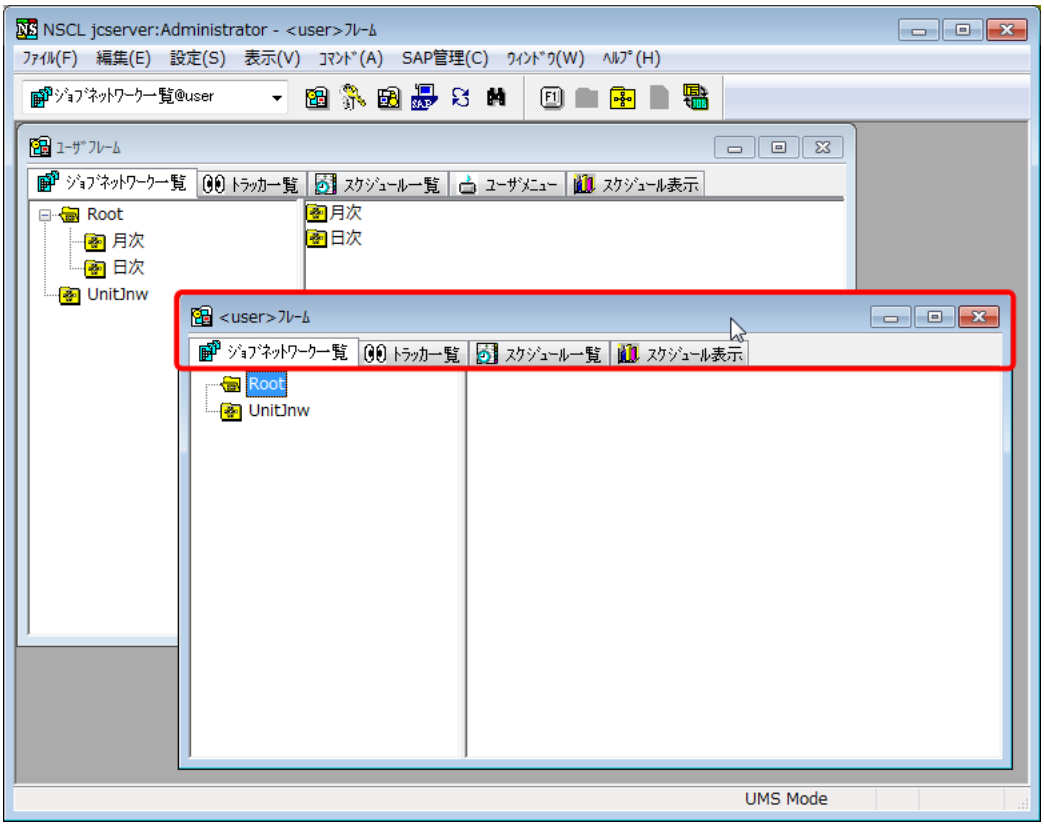


図2.20 他のユーザのフレーム表示例

他のユーザのユーザフレームは、フレームのタイトルが「<ユーザ名>フレーム」として表示されます（画面例では、「<user01>フレーム」）。

また、他のユーザのユーザフレームは、ログインユーザ自身のユーザフレームと異なり、［ユーザメニュー］タブが存在しません。それ以外のタブについてはユーザフレームと同じ操作が行えます。

他のユーザのユーザフレームの各タブの内容は次のとおりです。

表2.8 他のユーザのユーザフレームのタブ一覧

タ　ブ	内　容	章番号
ジョブネットワーク一覧	ユーザの持つジョブネットワークの参照、作成、削除、実行といった操作が行えます。	3
トラッカー覧	ユーザの持つトラッカの参照や削除、またトラッカに対する各種操作が行えます。	6.2.2
スケジュール一覧	ユーザの持つスケジュールの参照、作成、削除、設定の変更が行えます。	3.3
スケジュール表示	ユーザの持つスケジュール登録されたトラッカや終了済みのトラッカを日単位、時間単位で参照することができます。	6.21

2.5.6. ツールバーのドロップダウンメニューからフレームを選択する

各フレームの参照方法には、メニューバーの［ウィンドウ］より各フレーム名を選択する、またはツールバーの各フレームアイコンをクリックする以外に、ツールバーのドロップダウンメニューから表示したいフレームを選択することでも表示できます。各フレームのタブ名で表示されますので、直接目的のタブを開くことができます。

次に画面例を示します。他のユーザのユーザフレームを開いている場合は、他のユーザのユーザフレームのタブ名も追加されます。

1. 他のユーザのユーザフレームを開いていない場合のドロップダウンメニュー

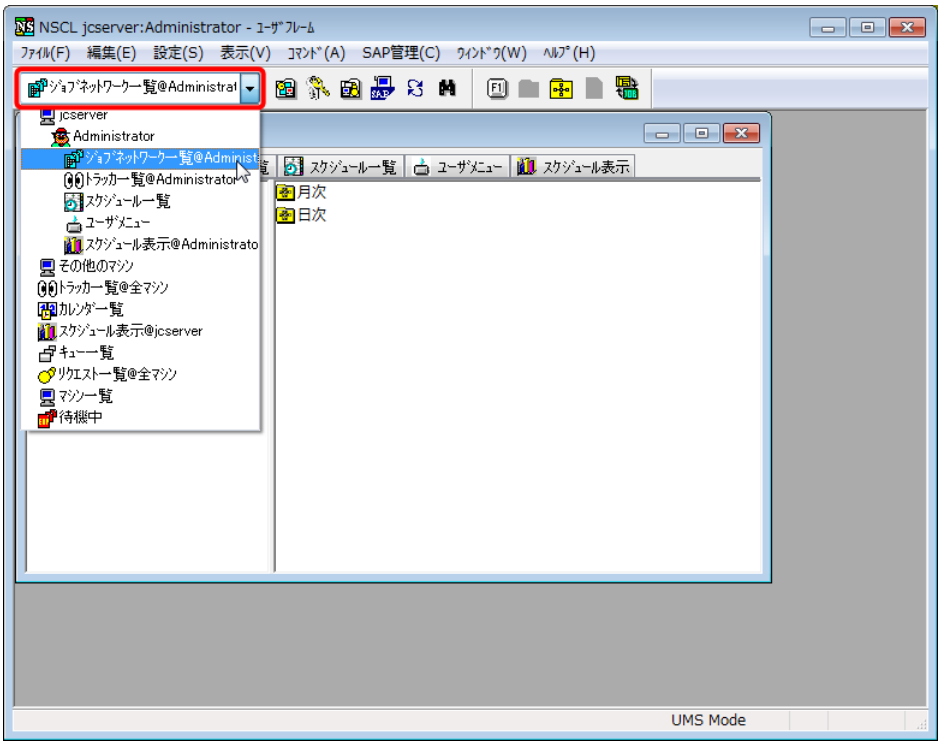


図2.21 他のユーザのユーザフレームを開いていない場合のドロップダウンメニュー例

2. 他のユーザ（user）のユーザフレームを開いている場合のドロップダウンメニュー

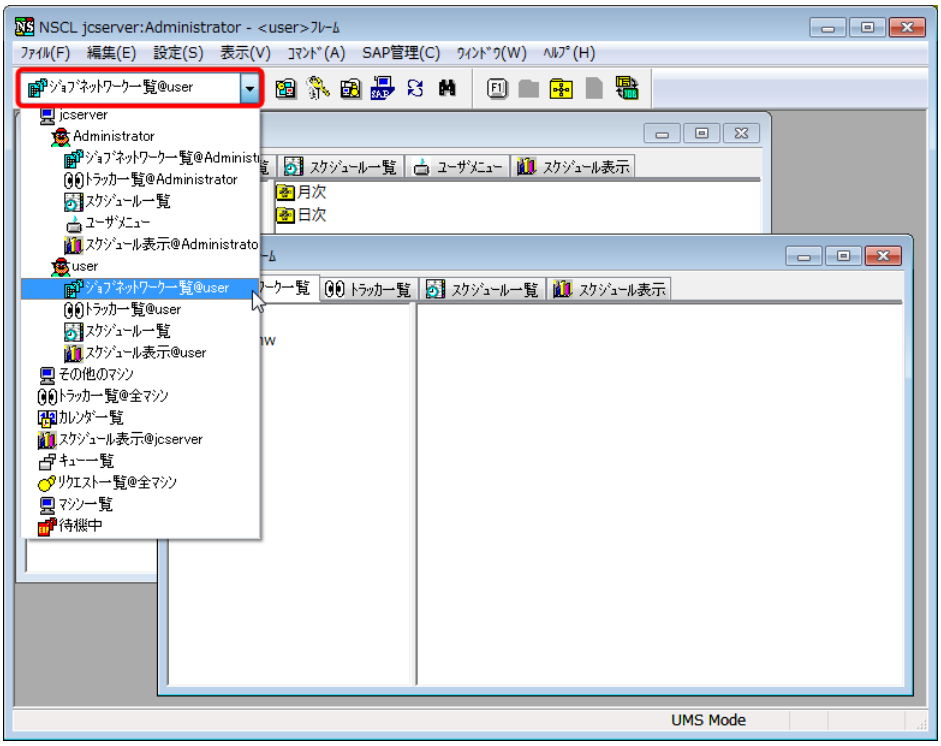


図2.22 他のユーザ（user）のユーザフレームを開いている場合のドロップダウンメニュー例

第3章 ジョブネットワークの操作方法

ジョブネットワークは、ジョブをグループ化したものでJobCenter制御のもっとも基本的な単位です。JobCenterにおけるジョブの実行順序、即時投入やスケジュール実行などのジョブ運用は、すべてジョブネットワークを基本単位として行われます。

3.1. ジョブネットワークを作成する

ジョブネットワークを作成し、保存します。保存後、ジョブネットワークのネストなどのチェックと情報更新を必ず行います。

ここでは、単位ジョブアイコンの例で説明します。

3.1.1. グループを新規作成、削除する

ジョブネットワークを作成するには、まず新規にグループを作成すると管理しやすくなり、便利です。

ユーザフレームのジョブネットワーク一覧を開き、Rootグループ直下に新規にグループを作成します。

■ジョブネットワークは、Rootグループの直下には作成できません。また、新規グループは、UnitJnwグループ内には作成できません。

■ジョブネットワークやグループ名はOSの仕様に沿って扱われます。UNIX版では大文字小文字が異なる場合は違うものとして扱われます。Windows版では大文字小文字が異なってもOS上では同一のものとして扱われて、JobCenter上でも区別されませんので注意してください。

3.1.1.1. グループを新規作成する

1. メニューバーの［ファイル］－［新規作成］－［グループ］を選択するか、ユーザフレームの右ビュー上で、他のグループを選択せずに右クリックしたときのポップアップメニューから［新規グループ］を選択して、グループを新規作成します。

2. 新規作成したグループの名前を設定します。

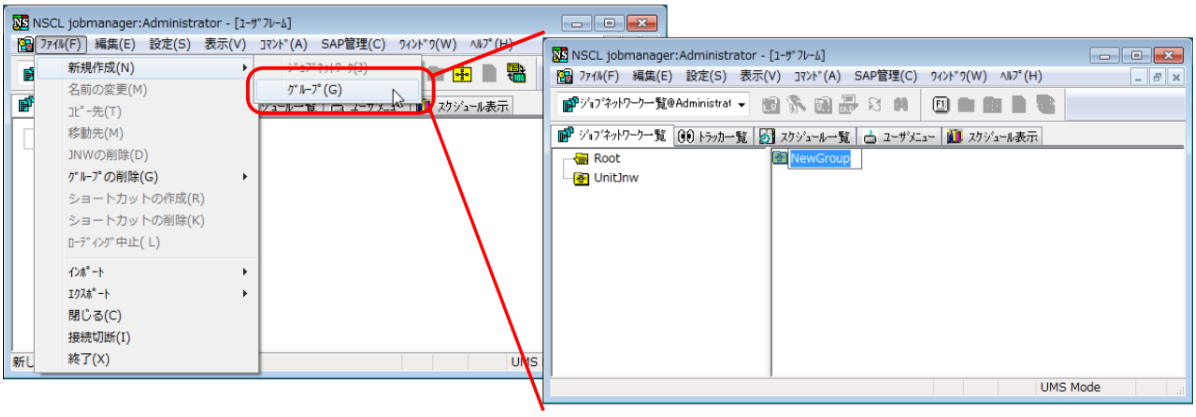


図3.1 グループの新規作成

グループの名前を設定する際の注意事項

■半角40文字、全角20文字以内。

■名前の最初の文字はアルファベット、アンダースコア、2バイト文字しか使用できません。また、空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

■同一グループ内にすでに存在しているグループ名は指定できません。

3.1.1.2. グループを削除する

グループを削除する場合は次の操作を行います。この処理はグループに対してのみ有効です。

1. 削除したいグループを選択します。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューから［グループの削除］－［強制削除］または［通常削除］を選択します。

強制削除	グループと共にグループ内のジョブネットワークも一緒に削除します。
通常削除	グループのみ削除します。グループ内のジョブネットワークは削除されず、UnitJnw配下に移動されます。

対象を複数選択してグループを削除する際の注意事項

■［強制削除］を行った場合当該グループ配下のすべてのサブグループ、ジョブネットワークおよびジョブネットワークショートカットが削除されます。

■［通常削除］を行った場合当該グループ配下のジョブネットワークは削除されずに、UnitJnwに移動します。なおグループ、サブグループおよびすべてのジョブネットワークショートカットは削除されます。

■複数のジョブネットワーク、ジョブネットワークショートカットおよびグループを同時に選択した場合グループのみが削除されます。ジョブネットワーク、ジョブネットワークショートカットは削除されません。

3.1.2. ジョブネットワークを新規作成、削除する

作成したグループ内にジョブネットワークを作成します。

ジョブネットワークやグループ名はOSの仕様に沿って扱われます。UNIX版では大文字小文字が異なる場合は違うものとして扱われます。Windows版では大文字小文字が異なってもOS上では同一のものとして扱われて、JobCenter上でも区別されませんので注意してください。

3.1.2.1. ジョブネットワークを新規作成する

1. 「3.1.1　グループを新規作成、削除する」で作成したグループを選択し、ダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［開く］を選択してグループ内に移動します。

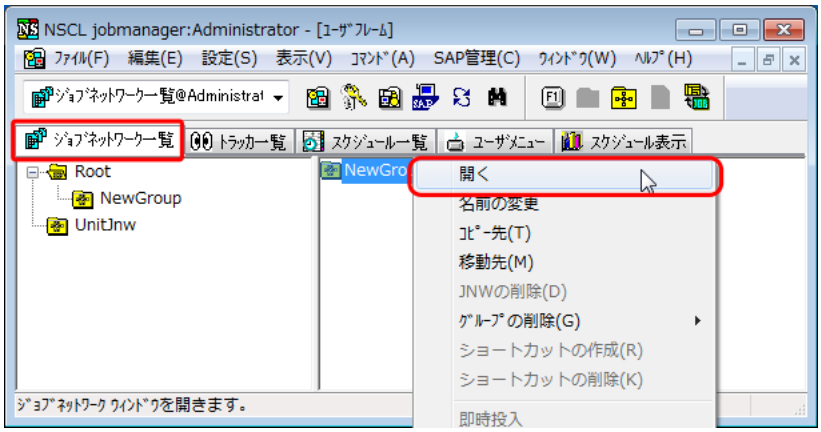


図3.2 グループ内への移動

2. メニューバーの［ファイル］－［新規作成］－［ジョブネットワーク］を選択するか、ユーザフレームの右ビュー上で、他のジョブネットワークを選択せずに右クリックしたときのポップアップメニューから［新規ジョブネットワーク］を選択して、新規ジョブネットワークを作成します。

3. 新規ジョブネットワークの名前を設定します。

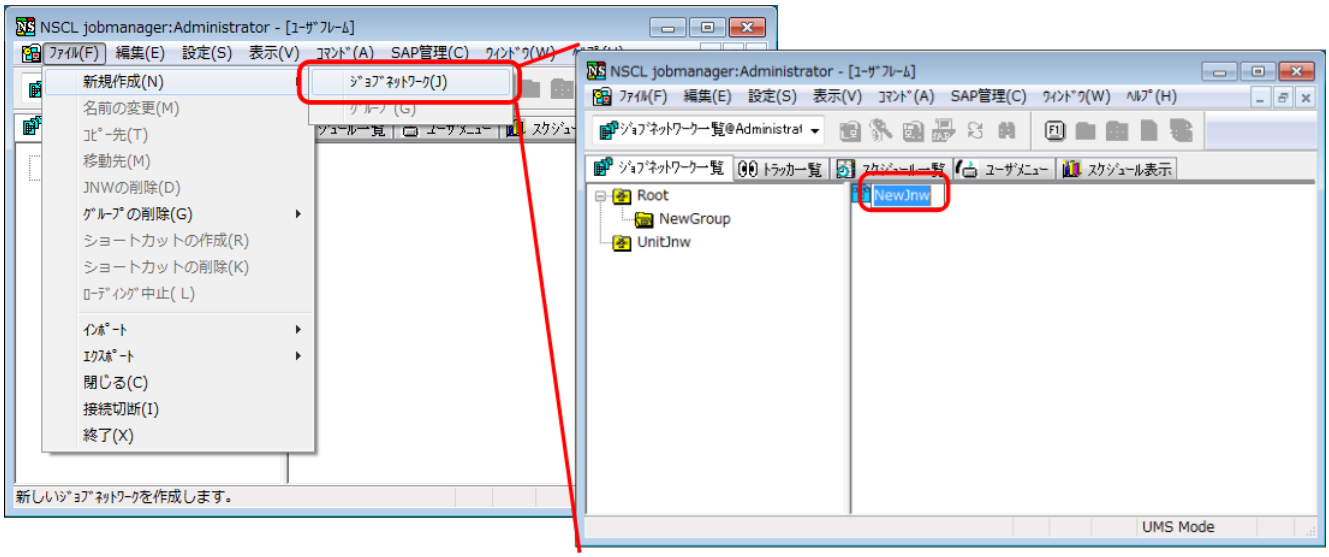


図3.3 ジョブネットワークの新規作成

ジョブネットワークの名前を設定する際の注意事項

■半角40文字、全角20文字以内。サブジョブネットワーク名などとの文字数の組み合わせの制限については「4.2.9　サブジョブネットワークを配置する」のサブジョブネットワークオブジェクトに関する注意事項を参照してください。

■ジョブ名、ジョブネットワーク名に半角カタカナは使用できません。半角カタカナは、送信するメールの件名、および本文には使用できません。

■名前の最初の文字はアルファベット、アンダースコア、2バイト文字しか使用できません。また、空白、タブ、特殊文字および「+」「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

■同一ユーザ内にすでに存在しているジョブネットワーク名は指定できません。

3.1.2.2. ジョブネットワークを削除する

ジョブネットワークを削除する場合は次の操作を行います。

1. 削除したいジョブネットワークを選択します。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューから［JNWの削除］を選択します。

ジョブネットワークを削除する際の注意事項

■削除されるジョブネットワークが、他のジョブネットワークにリンクされている場合、リンク元のジョブネットワークのフローからも削除されます。

3.1.3. ジョブネットワークを表示する

作成したジョブネットワークを表示します。

1. 参照するジョブネットワークを選択します。

2. 選択したジョブネットワークをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューの［開く］を選択します。

3. 選択したジョブネットワークのウィンドウが表示されます。

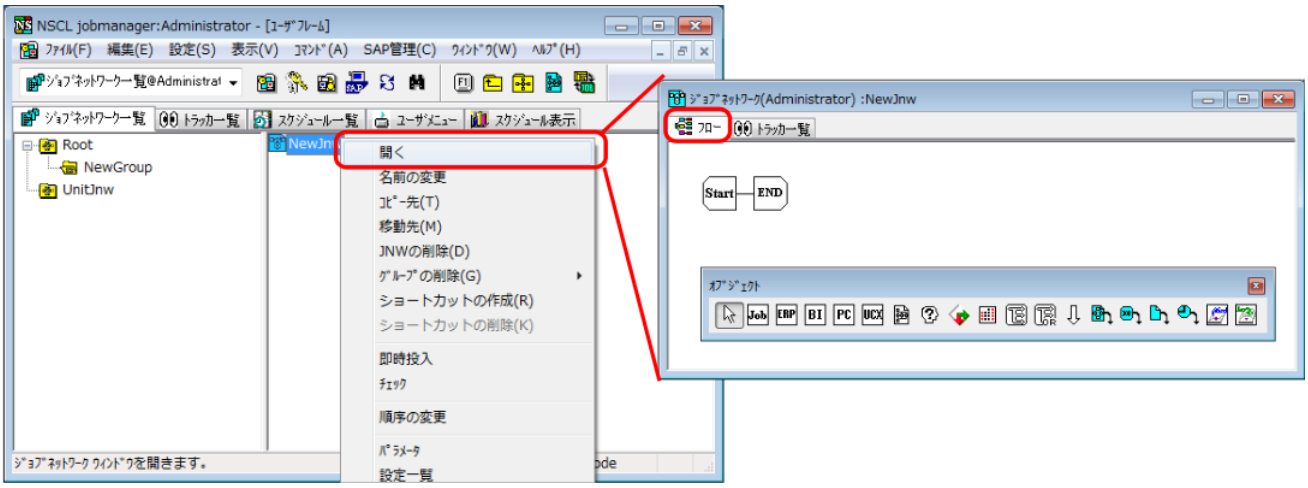


図3.4 ジョブネットワークの表示

3.1.4. 単位ジョブアイコンを追加する

開いたジョブネットワークに単位ジョブアイコンを追加します。フローの「Start」と「END」はあらかじめ準備されています。

1. ［オブジェクト］ツールバーの［単位ジョブ］オブジェクトのアイコンをクリックし、十字のカーソルを配置したい場所に移動させ、クリックします。

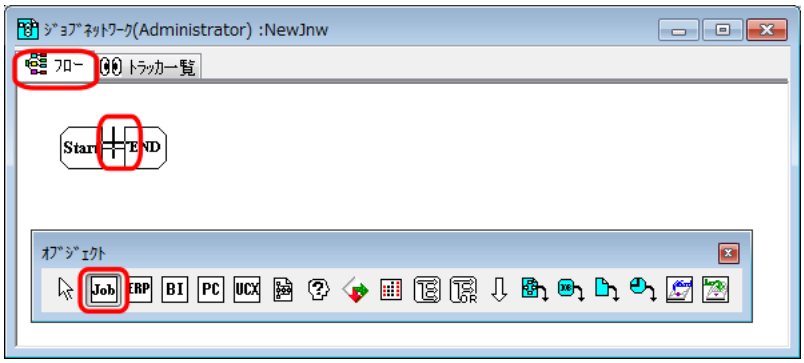


図3.5 単位ジョブアイコンの追加

［オブジェクト］ツールバーが表示されていない場合は、メニューバーの［表示］－［オブジェクトボックス］を選択してください。

2. ［ジョブ名の設定］ダイアログが表示されますので、ジョブ名を設定します。

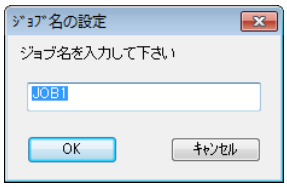


図3.6 新規単位ジョブ名の設定例

ジョブ名を設定する際の注意事項

■半角40文字、全角20文字以内。

■ジョブ名、ジョブネットワーク名に半角カタカナは使用できません。半角カタカナは、送信するメールの件名、および本文には使用できません。

■名前の最初の文字はアルファベット、アンダースコア、2バイト文字しか使用できません。また、空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

■同一ジョブネットワーク内にすでに存在しているジョブ名は指定できません。

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4. 新規単位ジョブが追加されたジョブネットワークが表示されます。

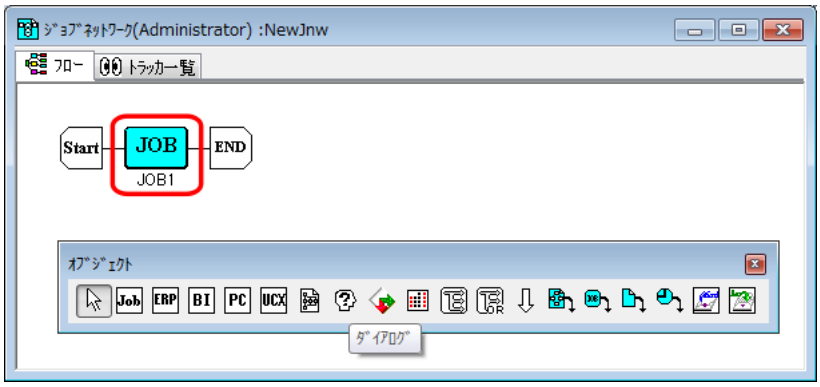


図3.7 新規単位ジョブ追加画面例

3.1.5. 単位ジョブアイコンのスクリプトを編集する

「3.1.4 単位ジョブアイコンを追加する」で作成した単位ジョブアイコンのスクリプトを編集します。

1. 選択した単位ジョブアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューの［スクリプト］を選択します。

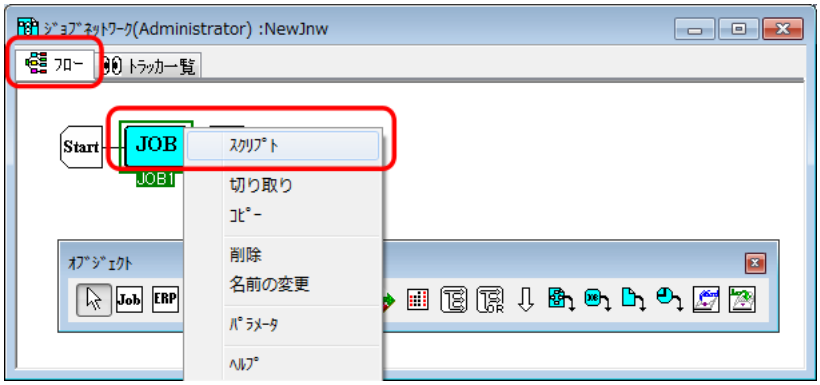


図3.8 ［スクリプト］の選択画面例

2. スクリプト記述用のウィンドウが表示されます。

3. 表示されたスクリプト記述用のウィンドウ内にスクリプト（ここでは「hostname」）を記述します。

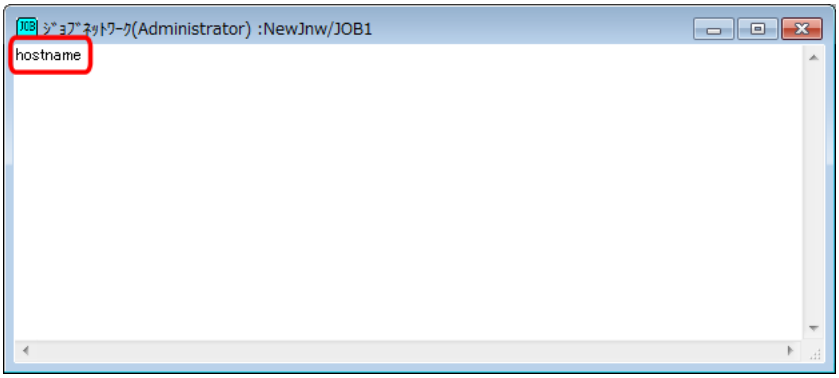


図3.9 スクリプトの編集例

運用時には、ユーザの業務プログラムを入力してください。

4. スクリプトの編集が終了したら、メニューバーの［保存］を選択して、スクリプトの内容を保存します。

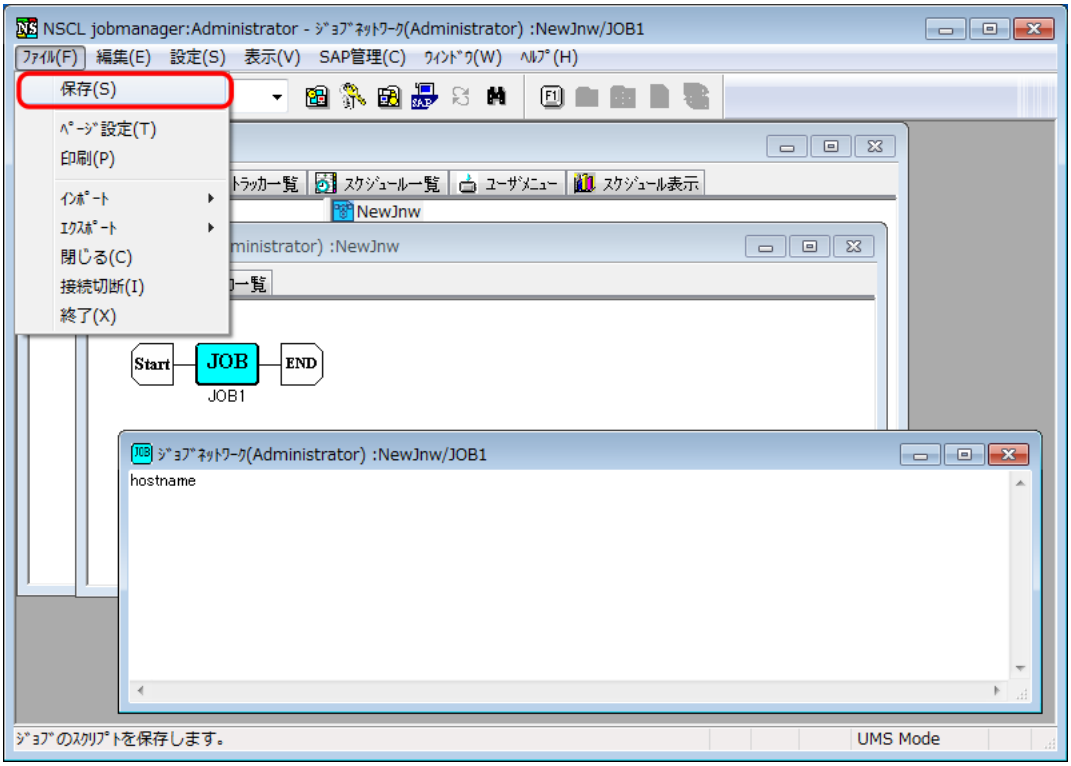


図3.10 スクリプト内容の保存画面例

5. メニューバーの［ファイル］－［閉じる］を選択して、スクリプト記述用のウィンドウを閉じ、スクリプトの編集を終了します。

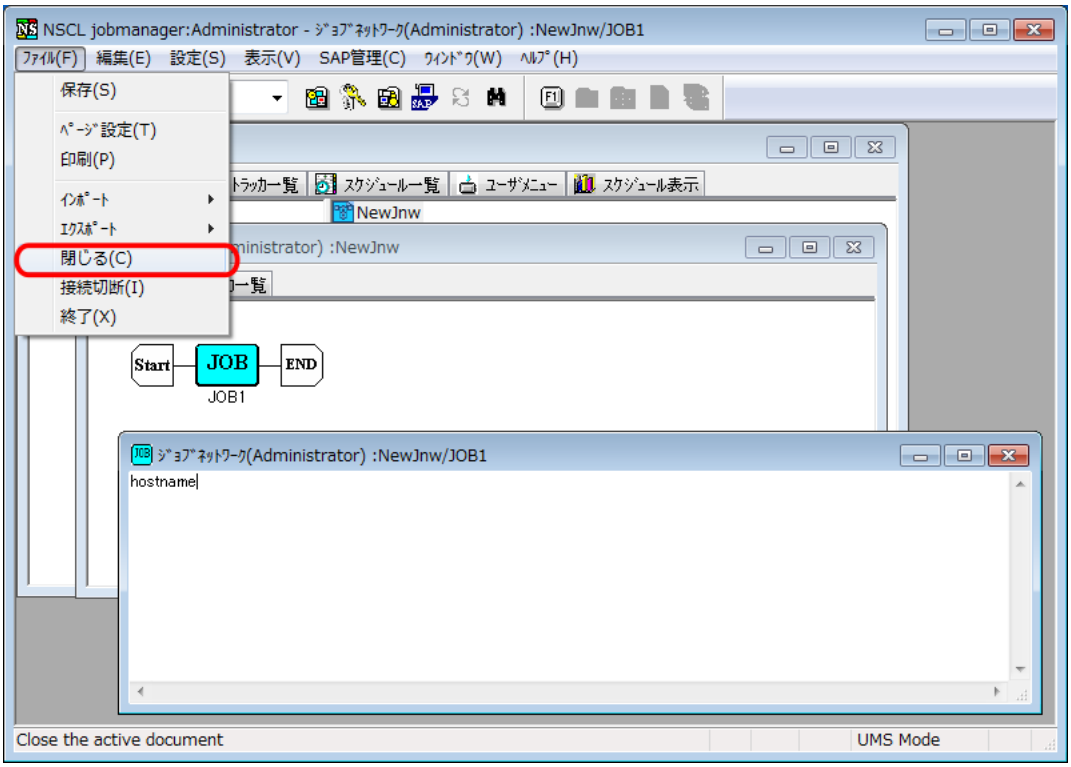


図3.11 スクリプトの編集終了画面例

保存をせずにスクリプト記述用のウィンドウを閉じようとすると、次のダイアログが表示されます。スクリプト記述用のウィンドウを閉じる前に、必ず保存してください。

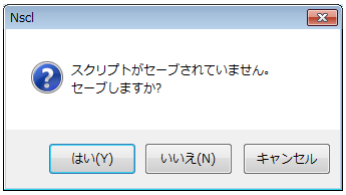


図3.12 保存をせずにスクリプト記述用のウィンドウを閉じようとしたときの画面例

単位ジョブのスクリプトの設定に関する注意事項については、「4.2.1 単位ジョブの実行スクリプトを設定する」を参照してください。

3.1.6. 作成したジョブネットワークのフローを保存する

作成したジョブネットワークのフローを保存します。

1. メニューバーの［ファイル］－［保存］を選択するか、ツールバーの アイコンをクリックします。作成したジョブネットワークのフローが保存されます。

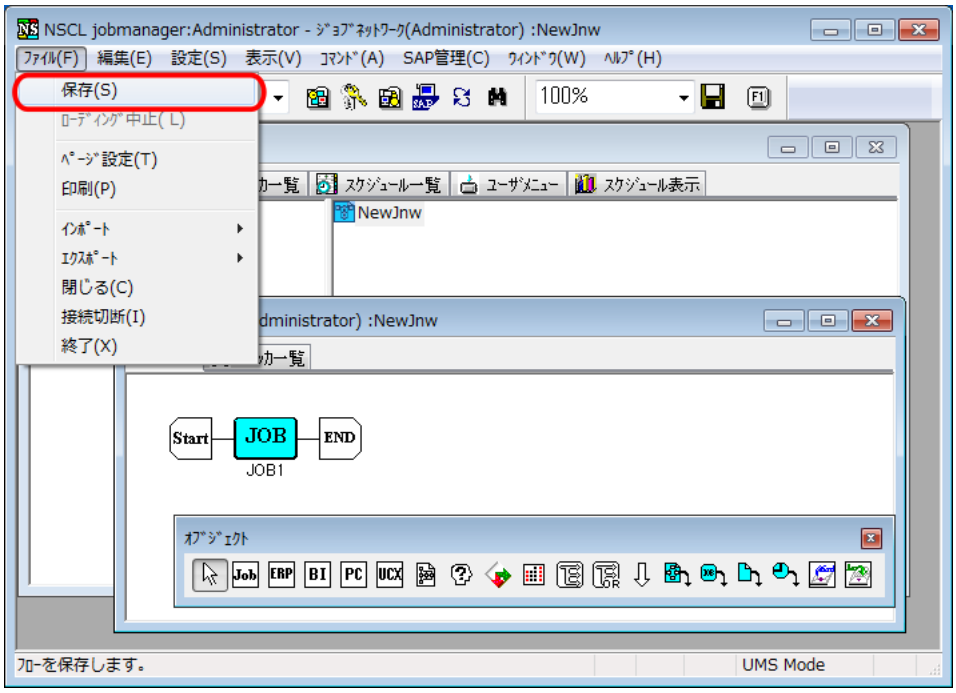


図3.13 ジョブネットワークのフローの保存画面例

3.1.7. ジョブネットワークのフロー作成を終了する

保存が終了したジョブネットワークのウィンドウを閉じて、ジョブネットワークのフロー作成を終了します。

1. メニューバーの［ファイル］－［閉じる］を選択します。ジョブネットワークのウィンドウが閉じます。

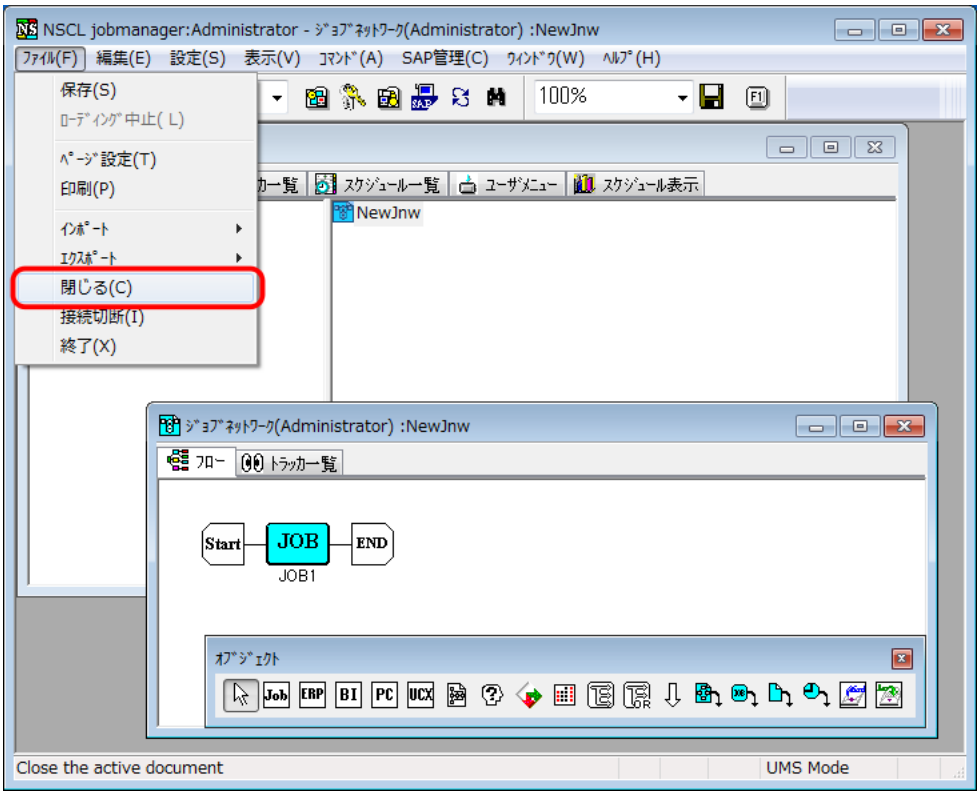


図3.14 ジョブネットワークのフロー作成終了画面例

保存をせずにジョブネットワークのウィンドウを閉じようとすると、次のダイアログが表示されます。「はい」を選択すると変更内容が保存されます。「いいえ」を選択すると変更内容を破棄してジョブネットワークのウィンドウを閉じます。

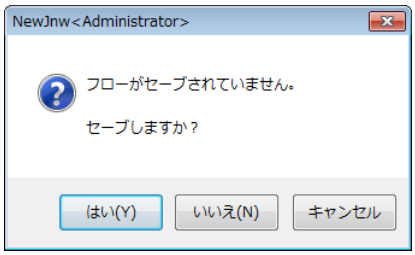


図3.15 保存をせずにジョブネットワーク
のウィンドウを閉じようとしたときの画面例

3.1.8. ジョブネットワークをチェックする

ジョブネットワークとサブジョブネットワークの包含関係が複数の階層をまたいで再帰的にネストしていないかどうか、などのチェックを行います。

サブジョブネットワークを使っている場合、サブジョブネットワークが組み込まれた親の位置に相当するジョブネットワークを指定してチェックしてください。

サブジョブネットワークの包含関係に問題があるジョブネットワークは正常に実行できなくなりますので、ジョブネットワークのフローを編集した場合には必ず最上位の親ジョブネットワークを指定したチェックを実行してください。

1. ［ユーザフレーム］－［ジョブネットワーク一覧］タブを開いてください。

2. ［ジョブネットワーク］アイコンから右クリックをして［チェック］を選択します。または［ジョブネットワーク］アイコンをクリックし、選択された状態でメニューバーの［コマンド］－［チェック］を選択します。

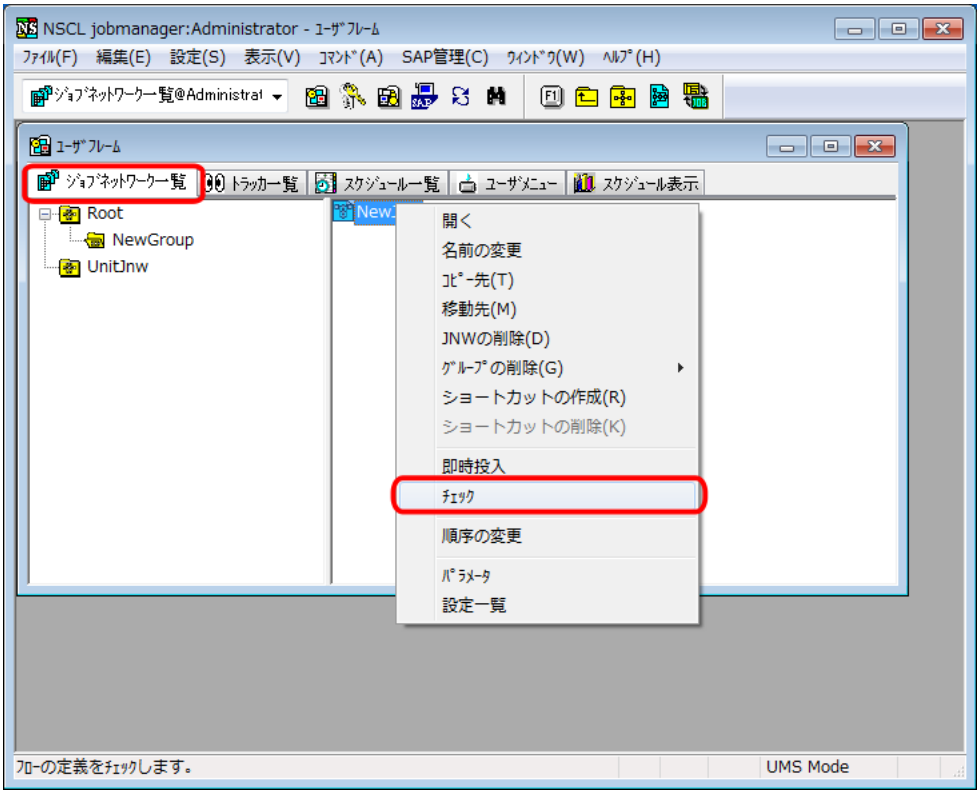


図3.16 ［チェック］選択画面例

3. サブジョブネットワークの存在について問題がなかった場合は、次のダイアログが表示されます。

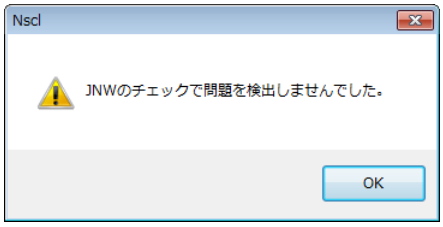


図3.17 チェック結果画面

3.2. ジョブネットワークの実行

ジョブネットワークの実行方法には、「即時投入」と「スケジュール実行」の2種類があります。

3.2.1. 即時投入する

スケジュールとは無関係にジョブネットワークを投入、実行します。

ここでは、「3.1 ジョブネットワークを作成する」で作成したジョブネットワークを実際に即時投入します。

1. 実行するジョブネットワークを選択します。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューの［即時投入］、またはツールバーの［コマンド］－［即時投入］を選択します。

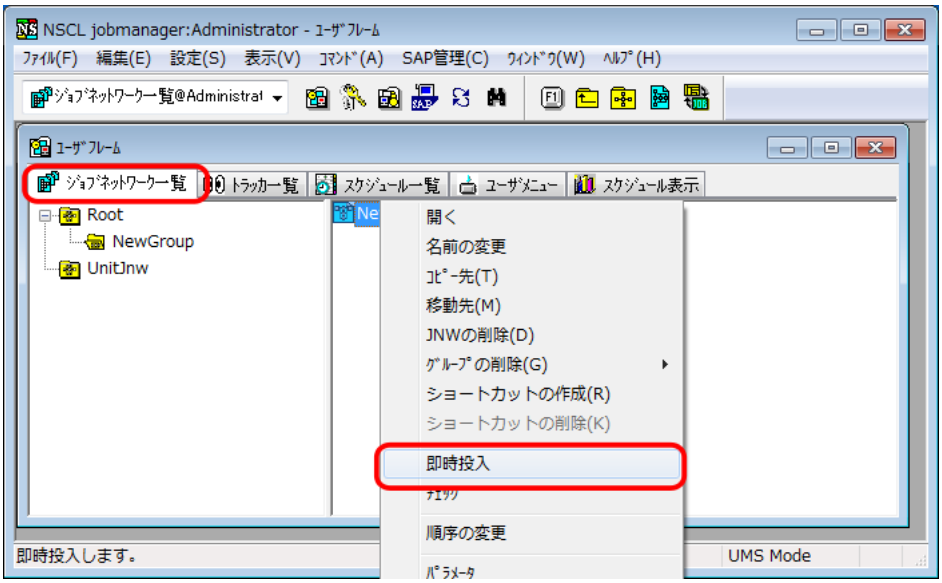


図3.18 ［即時投入］の選択画面例

3. ［JNWの投入］ダイアログが表示されます。

4. ［トラッカウィンドウを開く］にチェックし、［OK］ボタンをクリックします。

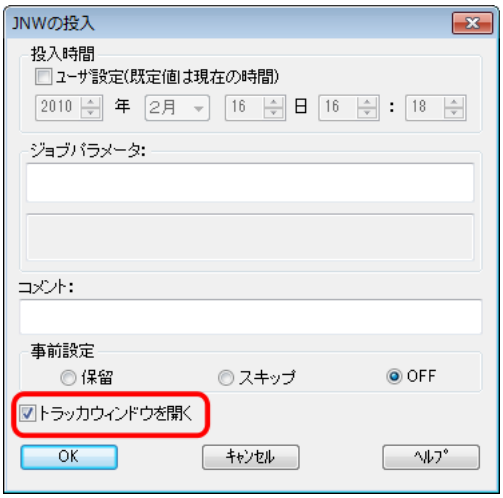


図3.19 即時投入の実行例

5. トラッカウィンドウが表示されます。単位ジョブアイコンの表示が、 JOB WAIT から JOB DONE に変われば実行は終了です。

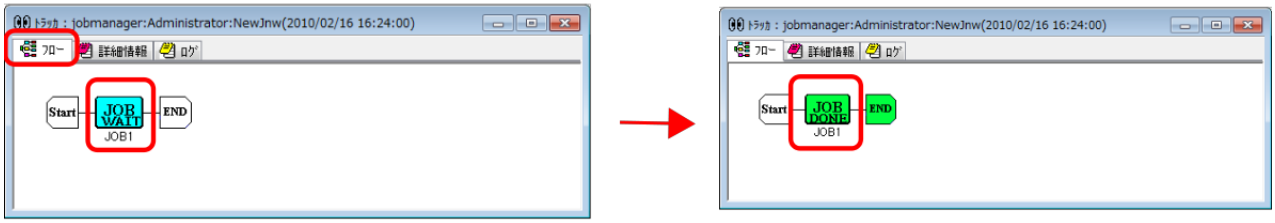


図3.20 即時投入実行後のジョブネットワークトラッカウィンドウの例

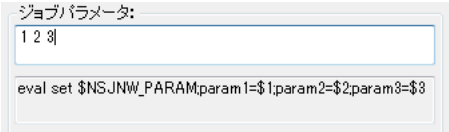
［JNWの投入］ダイアログの即時投入に関する設定は次のとおりです。

■投入時間

ジョブネットワークの投入時間を設定します。「ユーザ設定（既定値は現在の時間）」をチェックしない場合は、即時に投入して実行します。

「ユーザ設定（既定値は現在の時間）」をチェックすると、投入時間を指定して実行できます。

■ジョブパラメータ



ジョブネットワークの各単位ジョブのスクリプトに引き渡すパラメータを設定します。ここで指定した文字列が各単位ジョブの環境変数「NSJNW_PARAM」に設定され、各単位ジョブのスクリプトに引き渡されます。

ジョブネットワークのパラメータで［ジョブパラメータ］の既定値と説明が設定されていた場合は、その内容を初期値として表示します。なお初期値として表示された値をクリア後、空白のまま投入した場合でも［ジョブパラメータ］の既定値が有効となります。

たとえば投入先がJobCenter　SVで複数の文字列を渡したい場合のジョブパラメータと各単位ジョブのスクリプトの記述は次のようになります。スペース区切りで設定します。

- 投入先の各単位ジョブのシェルスクリプト

  シェルスクリプトの先頭で次のように記述します

  - Bシェルの場合

```
eval set $NSJNW_PARAM;param1=$1;param2=$2;param3=$3
```

  - Cシェルの場合

```
foreach param ($NSJNW_PARAM)
    echo $param
end
```

  - Windowsの場合

```
FOR /F "tokens=1,2,3* delims= " %%A IN ( "%NSJNW_PARAM%" ) DO (
    set AA=%%A
    set BB=%%B
    set CC=%%C
```

```
)
echo %AA%
echo %BB%
echo %CC%
```

FOR文の中のNSJNW_PARAM参照部分のダブルコーテーション（""）は、必ずつけてください。

■コメント

即時投入時にコメントを指定できます。すでにコメントが設定してある場合は、即時投入したトラッカのみコメントが変更されます。

テキスト入力域に日本語、英数字、カナ文字（全角・半角）（混在可能）、半角256文字、全角128文字以内で入力できます。

■事前設定

ジョブネットワークをあらかじめ保留またはスキップ状態にすることができます。

保留	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態にします。
スキップ	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークをスキップ状態にします。
OFF	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態およびスキップ状態にしません。

事前設定の注意事項

- JobCenter R12.5.x以前のJobCenter CL/WinからJobCenter R12.6のJobCenter MGに接続した場合、事前設定の項目は表示されません。
- JobCenter R12.6のJobCenter CL/WinからJobCenter R12.5.xのJobCenter MGに接続し、事前設定を「保留」や「スキップ」に設定して即時投入した場合、事前設定「OFF」として動作します。

■トラッカダイアログを開く

このボックスをチェックすると、即時投入と同時にジョブネットワークトラッカのダイアログが開くように設定されます。

即時投入の実行時の注意事項

- 他のユーザのジョブネットワークを即時投入した場合は、そのジョブネットワークの所有者の権限で実行されトラッカが作成されます。
- 他のユーザのジョブネットワークを実行するとき、そのジョブネットワーク内で起動されるジョブの環境変数は、ジョブネットワーク所有者のものが適用されます。詳細については<環境構築ガイド>の「14.1.3　環境変数の設定方法」を参照してください。
- 投入先のキューは、ジョブネットワークパラメータや単位ジョブパラメータに投入先キューが指定されていない場合、[ユーザ環境設定]の[基本]タブの「ジョブネットワーク既定値」の「投入キュー」の設定が自動的に使用されます。デフォ

> ルトキューが設定されている場合、実際にジョブリクエストが実行されるguibs_1バッチキューの同時実行数の既定値は1なので注意して下さい。

3.2.2. 即時投入の実行結果を確認する

「3.2.1 即時投入する」で設定した単位ジョブの即時実行結果を確認します。

1. 単位ジョブアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューの［詳細情報］を選択します。

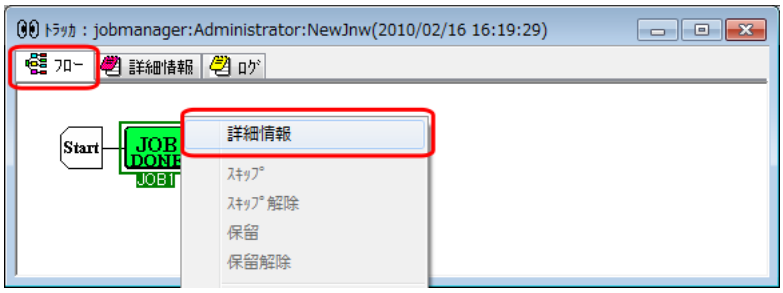


図3.21 ［詳細情報］選択画面例

2. 詳細情報のウィンドウが表示されます。デフォルトで［詳細情報］タブが選択されていますので、内容を確認します。

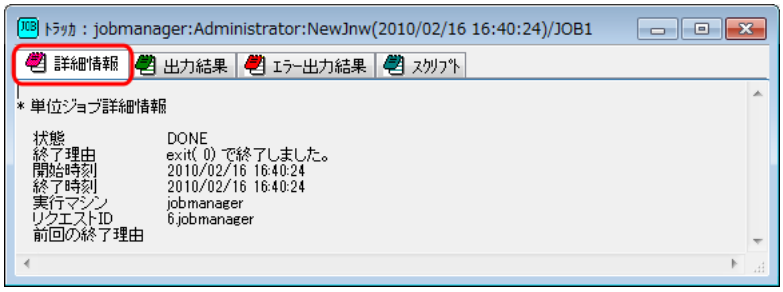


図3.22 詳細情報表示例

3. さらに、ウィンドウの［出力結果］タブを選択します。スクリプト「hostname」コマンドの出力結果が表示されます。

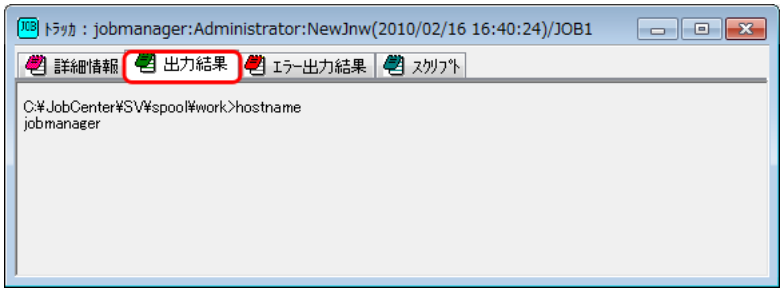


図3.23 出力結果表示例

3.2.3. スケジュール実行する

スケジュールを設定することで、指定日の指定時刻にジョブネットワークを自動的に実行することができます。

スケジュールの作成方法は「直接スケジュールを作成する」「独立した稼動日カレンダを元にスケジュールを作成する」の2種類あります。スケジュールの作成方法と設定は、5章 「スケジュールの操作方法」 を参照してください。

スケジュールを設定してジョブネットワークを自動実行するときは、次の点に注意してください。

表3.1 スケジュールを設定してジョブネットワークを自動実行するときの注意点

条　件	結　果
実行時刻にシステムがダウンしていた場合	スケジュールに登録されていたジョブネットワークは、そのシステムが起動した時点で遡って実行されます。ただしdaemon.confにSCLAUNCHD_FORGETを設定した時は動作が異なります。 詳細については<環境構築ガイド>の「5.2　デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください。
スケジュール設定後にジョブフローやパラメータを変更した場合	変更後の設定に従って実行されます。
システムの日付より前の日付を指定した場合	「ルールの作成に失敗しました」とメッセージが出力されます。
システムと同じ日付で過去の時間を指定した場合	ルールの作成は成功しますがスケジュールは有効となりません。
スケジュールからジョブネットワークを投入した場合	環境変数JNW_SUBMITTIMEが必ず設定されます。
他のユーザのジョブネットワークをスケジュール実行する場合	そのジョブネットワーク内で起動されるジョブの環境変数は、ジョブネットワークの所有者のものが適用されます。 詳細については<環境構築ガイド>の14章 「ジョブ実行時の環境変数の取り扱い」 を参照してください。

3.3. ジョブネットワークを操作する

ジョブネットワークは、対象のジョブネットワークを選択して右クリックしたときのポップアップメニューから操作できます。

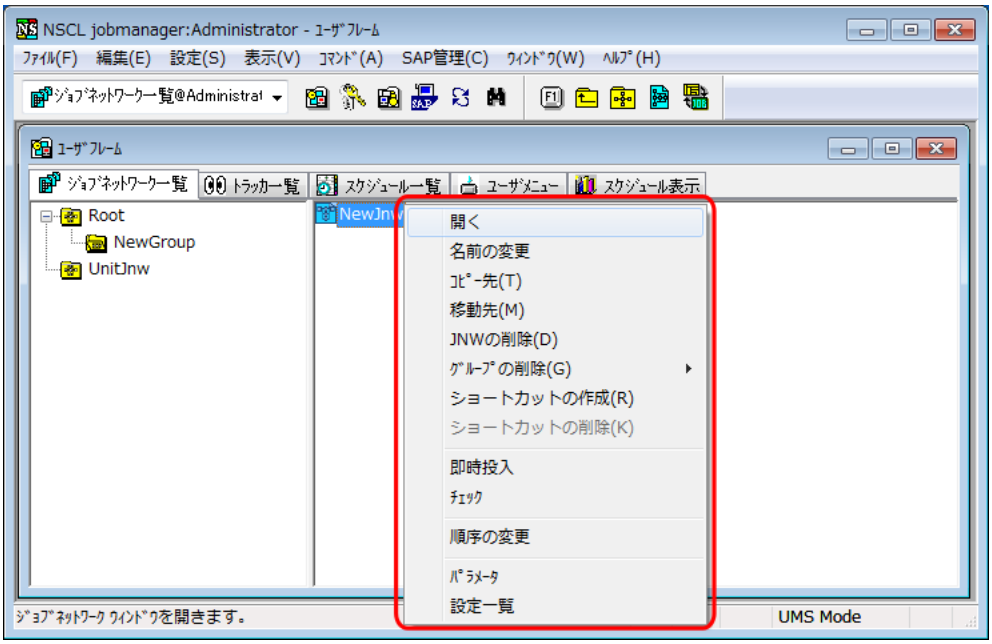


図3.24 ジョブネットワークの操作メニュー

表3.2 ジョブネットワークの操作一覧

メニュー名	説　明	参照先
開く	［ジョブネットワーク］ウィンドウを開きます。	「3.1.3 ジョブネットワークを表示する」
名前の変更	ジョブネットワークの名前を変更します。	「3.1.2 ジョブネットワークを新規作成、削除する」
コピー先	ジョブネットワークを自分のジョブネットワークリストにコピーします。	「3.3.1 ジョブネットワークおよびグループをコピーする」
移動先	ジョブネットワークを自分のジョブネットワークリスト内に移動します。	「3.3.2 ジョブネットワークおよびグループを移動する」
JNWの削除	ジョブネットワークを削除します。	「3.1.2 ジョブネットワークを新規作成、削除する」
グループの削除	グループを削除します。	「3.1.1 グループを新規作成、削除する」
ショートカットの作成	ショートカットを作成します。	「3.3.3 ジョブネットワークのショートカットを作成、削除する」
ショートカットの削除	ショートカットを削除します。	「3.3.3 ジョブネットワークのショートカットを作成、削除する」
即時投入	ジョブネットワークを即時投入します。	「3.2.1 即時投入する」
チェック	ジョブネットワークのネストなどのチェックと情報更新を行います。	「3.1.8 ジョブネットワークをチェックする」
順序の変更	グループ内でジョブネットワークを表示する順番を変更します。	–

パラメータ	ジョブネットワークに関する設定を行います。	「3.3.4　ジョブネットワークのパラメータを設定する」
設定一覧	ジョブネットワークに関する設定の一覧を表示します。	「3.3.6 ジョブネットワークの設定一覧を表示する」

3.3.1. ジョブネットワークおよびグループをコピーする

ジョブネットワークおよびグループをコピーします。

他のユーザのジョブネットワークを作成する権限がある場合には異なるユーザ間でのコピーが可能となります。

3.3.1.1. 同一ログインユーザ内でコピーする

ジョブネットワークを右クリックしたときのポップアップメニューから「コピー先」を選択する方法と、指定したグループにドラッグアンドドロップする方法があります。

■ポップアップメニューからコピーする場合

1. 右クリックしたときのポップアップメニューから［コピー先］を選択します。

2. ［グループの検索ダイアログ］が表示されます。

3. コピー先のグループを指定します。

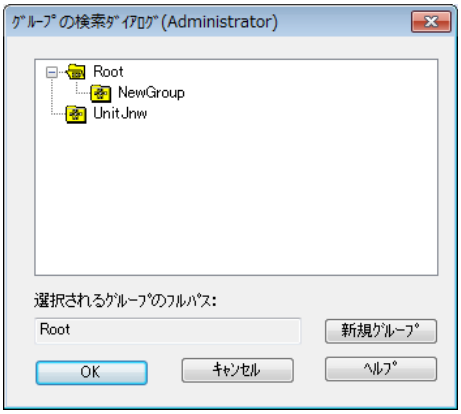


図3.25 同一グループ内でコピーする場合の［グループの検索ダイアログ］表示画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

■ドラッグアンドドロップしてコピーする場合

1. コピーしたいジョブネットワークを左ボタンでドラッグし、コピー先のグループで「Ctrl」ボタンを押しながらドロップします。

2. または、コピーしたいジョブネットワークを右ボタンでドラッグし、コピー先のグループでドロップし、「ここにコピー」を選択します。

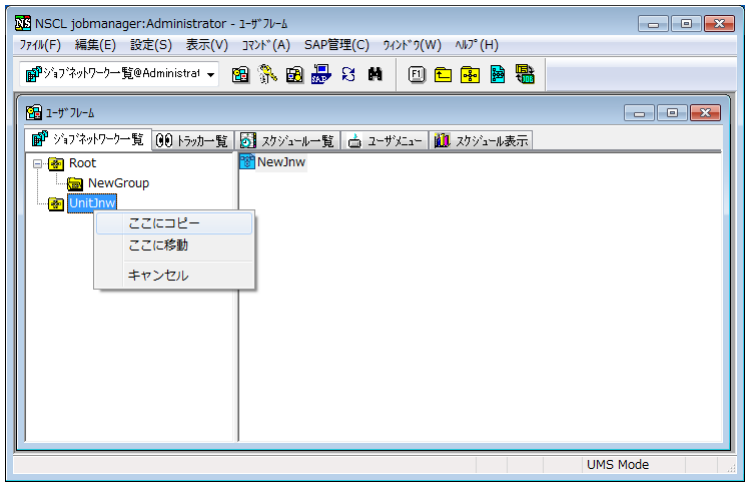


図3.26 右ボタンでのドラッグアンドドロップ操作時の表示画面例

ジョブネットワークを複数選択しているときは操作できません。

3.3.1.2. 異なるユーザ間でコピーする

ログインしたユーザに他のユーザのジョブネットワークを作成する権限がある場合のコピー方法です。コピーする方法は、ジョブネットワークを右クリックしたときのポップアップメニューから「コピー先」を選択する方法と、指定したグループにドラッグアンドドロップする方法があります。

■ポップアップメニューからコピーする場合

1. 右クリックしたときのポップアップメニューから［コピー先］を選択します。
2. 最初に［ユーザの選択］ダイアログが開きます。
3. 他のユーザ名を選択すると、そのユーザの［グループの検索ダイアログ］が表示されます。
4. コピー先の他のユーザのグループを指定します。

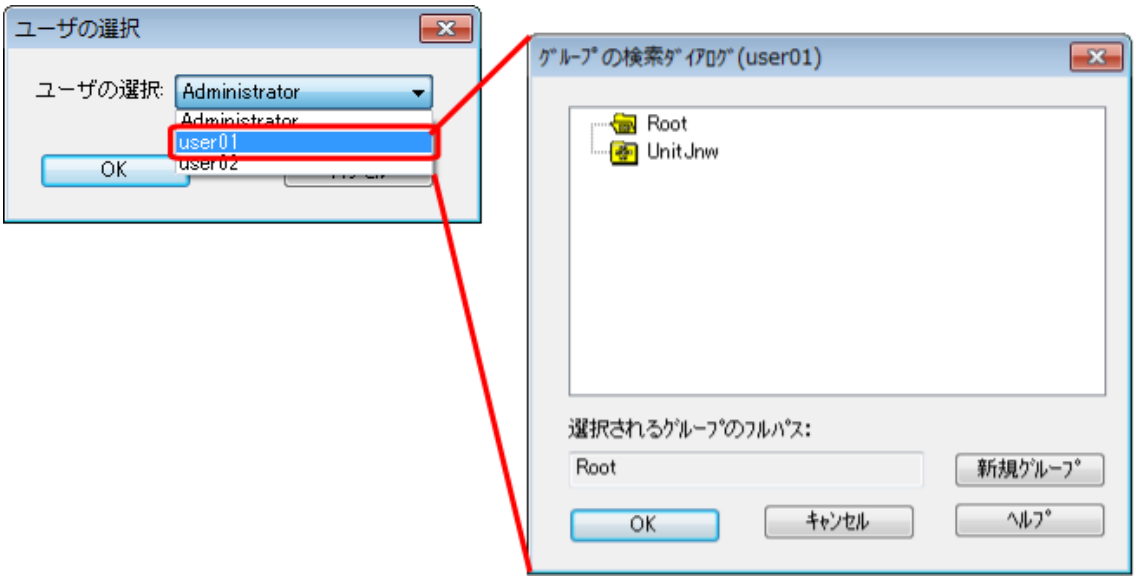


図3.27 ジョブネットワークおよびグループのコピー先指定例

5. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

■ドラッグアンドドロップしてコピーする場合

1. あらかじめコピー先となるユーザのユーザフレームを表示しておきます。(「2.5.5　他のユーザのユーザフレームを表示する」を参照)

2. コピーしたいジョブネットワークを左ボタンでドラッグし、コピー先のグループで「Ctrl」ボタンを押しながらドロップします。

3.3.1.3. ジョブネットワークコピー時の注意事項

1. 同一ログインユーザ内でのコピーの場合

■コピー元の名称に_copy1，_copy2などをつけたものがコピー先のジョブネットワーク名として表示されます。

2. 異なるユーザ間でのコピーの場合

■コピー先ユーザに同名ジョブネットワークが存在する場合

コピーはできません。通常、ジョブネットワークは同名でコピーされます。

■サブジョブネットワークを持つジョブネットワークをコピーする場合

一緒にサブジョブネットワークもコピーされますので、親ジョブネットワークを指定してコピーするようにしてください。

■コピー先ユーザにコピー元のサブジョブネットワークと同名のジョブネットワークが存在する場合

コピーはできません。この場合には、コピー先のジョブネットワークを削除せず、次の方法で回避するようにしてください。

- 親子関係を構築しているジョブネットワークをそのままの関係でコピーしたい場合

  コピー先と重複しているジョブネットワーク名を変更してからコピーしてください。

- コピー先にすでに存在しているサブジョブネットワークを使用したい場合

コピーしたいジョブネットワークだけを別のグループに移動してから、そのグループのコピーを行ってください。この場合、サブジョブネットワークは別グループにあるため本来ならエラーとなります。しかし、コピー先ユーザにジョブネットワークが必要とするサブジョブネットワークが存在しているため、エラーとならず、正しく親子関係を構築することができます。

■他のユーザのジョブネットワークをコピーする場合

コピー先として選択可能なユーザはログインしたユーザ、または、そのジョブネットワークの所有者だけです。直接、第三者へコピーすることはできません。

■コピーするジョブネットワークにカレンダ分岐が含まれる場合

コピー先に、そのカレンダ分岐で使用しているスケジュールが存在している必要があります。使用されているスケジュールが存在しない場合は、コピーがエラーとなります。

■ジョブネットワークとスケジュールを同時にコピーする場合

インポート・エクスポート機能を利用してください。インポート・エクスポート機能については、9章 「エクスポートとインポートの操作方法」 を参照してください。

3.3.1.4. グループコピー時の注意事項

1. 同じユーザ内にコピーする場合

■コピー先の同じ階層内に同名のグループがある場合

コピー先を指定したあとグループ名を変更する必要があります。通常、グループは同名でコピーされます。

■グループ内部にジョブネットワークおよびショートカットを持つ場合

グループ内部のジョブネットワークおよびショートカットもコピーされます。このときジョブネットワークは_copy1, _copy2などをつけた名称でコピーされます。

2. 異なるユーザにコピーする場合

■コピー先の同じ階層内に同名のグループがある場合

コピーはできません。通常、グループは同名でコピーされます。

■ショートカットをコピーする場合

ショートカットはコピーされません。ただし、グループ内部のジョブネットワークはコピーされます。

■サブジョブネットワークを持つジョブネットワークをコピーする場合

サブジョブネットワークを持つジョブネットワークは、そのサブジョブネットワークもコピー対象のグループ配下に存在する必要があります。

■コピー先ユーザに同名のジョブネットワークがある場合

ジョブネットワークは_copy1, _copy2などをつけた名称でコピーされます。

■コピー元ユーザのサブジョブネットワークと同名のジョブネットワークがコピー先ユーザにある場合

コピー元で構築していた親子関係をそのままコピー先でも維持したい場合には、コピー後の親ジョブネットワークのフローを書き換える必要があります。

3.3.2. ジョブネットワークおよびグループを移動する

ジョブネットワークおよびグループを自分のジョブネットワークリスト内に移動します。移動する方法は、ジョブネットワークを右クリックしたときのポップアップメニューから「移動先」を選択する方法と、指定したグループにドラッグアンドドロップする方法があります。

■ポップアップメニューから移動する場合

1. 右クリックしたときのポップアップメニューから［移動先］を選択します。

2. ［グループの検索ダイアログ］が表示されます。

3. 移動先を指定します。

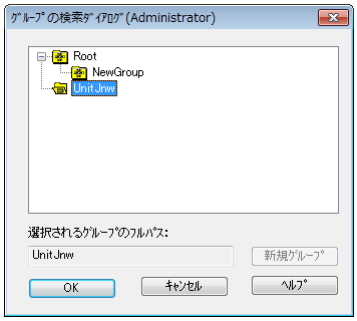


図3.28 ジョブネットワークおよびグループの移動先指定例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

■ドラッグアンドドロップして移動する場合

1. 移動したいジョブネットワークを左ボタンでドラッグし、移動先のグループでドロップします。

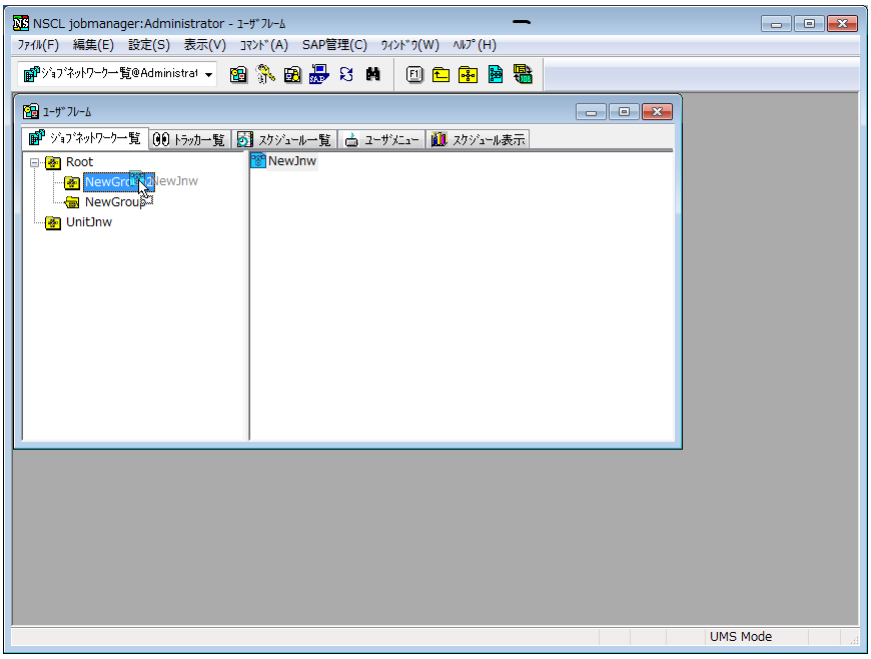


図3.29 ジョブネットワークのドラッグアンドドロップ操作例

2. または、移動したいジョブネットワークを右ボタンでドラッグし、移動先のグループでドロップし、「ここに移動」を選択します。

ジョブネットワークおよびグループ移動時の注意事項

■同じユーザ間での移動のみ可能です。

■Rootグループ配下へジョブネットワークおよびジョブネットワークショートカットを移動することはできません。ただし、グループを移動することはできます。

■ジョブネットワークショートカットとグループをUnitJnwグループ配下に移動することはできません。ただし、ジョブネットワークを移動することはできます。

■移動先グループのサブグループは移動するグループと同名にはできません。

■移動するグループ自身を移動先グループに選択できません。

3.3.3. ジョブネットワークのショートカットを作成、削除する

ジョブネットワークのショートカットを作成します。特定のジョブネットワークを複数のグループに所属させることができます。

3.3.3.1. ジョブネットワークのショートカットを作成する

1. 右クリックしたときのポップアップメニューから［ショートカットの作成］を選択します。

2. ［グループの検索ダイアログ］が表示されます。

3. ショートカットの作成先を指定します。

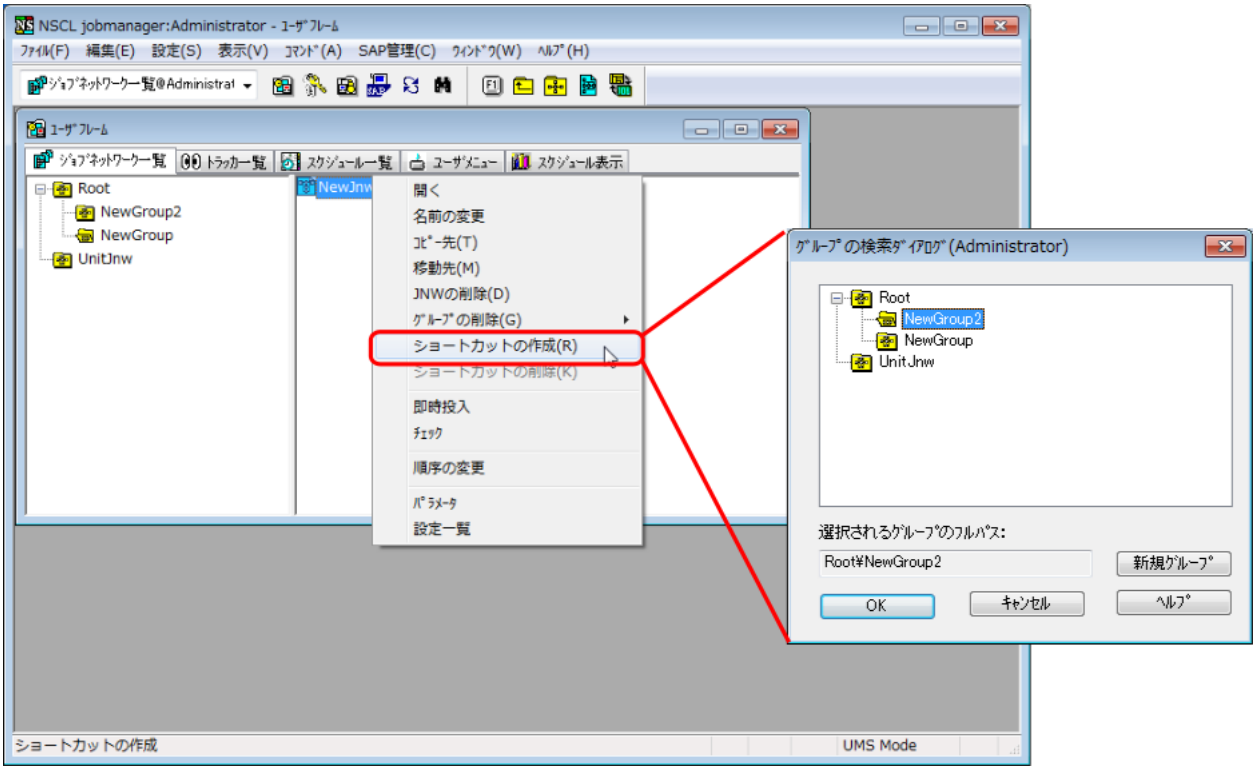


図3.30 ショートカット作成先指定例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

5. ショートカットの作成先のグループを開き、ショートカットが作成されているか確認します。

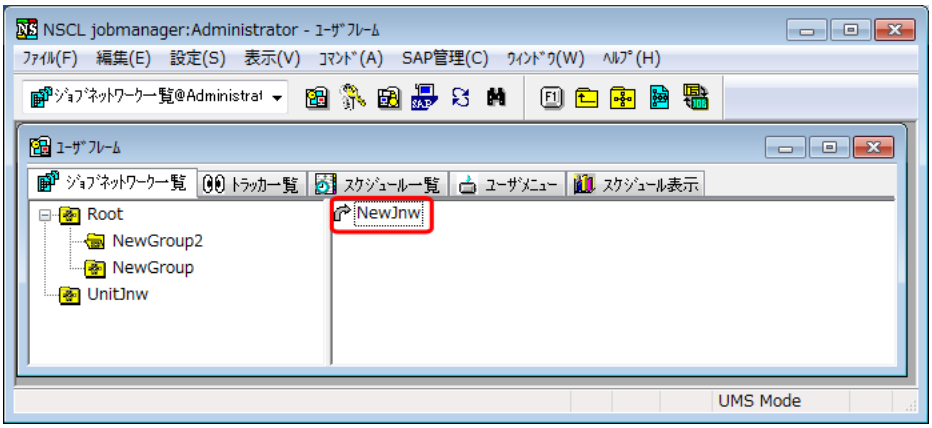


図3.31 ショートカットの作成結果例

■作成したショートカットは、通常のジョブネットワークと同様に編集が可能です。ただし、編集した場合は、元のジョブネットワークに変更が反映されますので注意してください。

■ジョブネットワークのショートカットの作成時の注意事項

- UnitJnwグループにはショートカットを作成できません。
- ショートカットの作成対象のジョブネットワークと同じグループ内にはショートカットを作成できません。
- 対象を複数選択した場合は次のことに注意してください。
  - ジョブネットワークのショートカットしか作成できません。
  - 同名のショートカットを同じグループに複数作成できません。
  - Root直下とUnitJnwグループにはショートカットは作成できません。

3.3.3.2. ジョブネットワークのショートカットを削除する

1. 削除したいジョブネットワークのショートカットを選択します。
2. 右クリックしたときのポップアップメニューから［ショートカットの削除］を選択します。

3.3.4. ジョブネットワークのパラメータを設定する

ジョブネットワークに関する設定を行います。

1. 右クリックしたときのポップアップメニューから［パラメータ］を選択します。
2. ［パラメータ］ダイアログが表示されます。

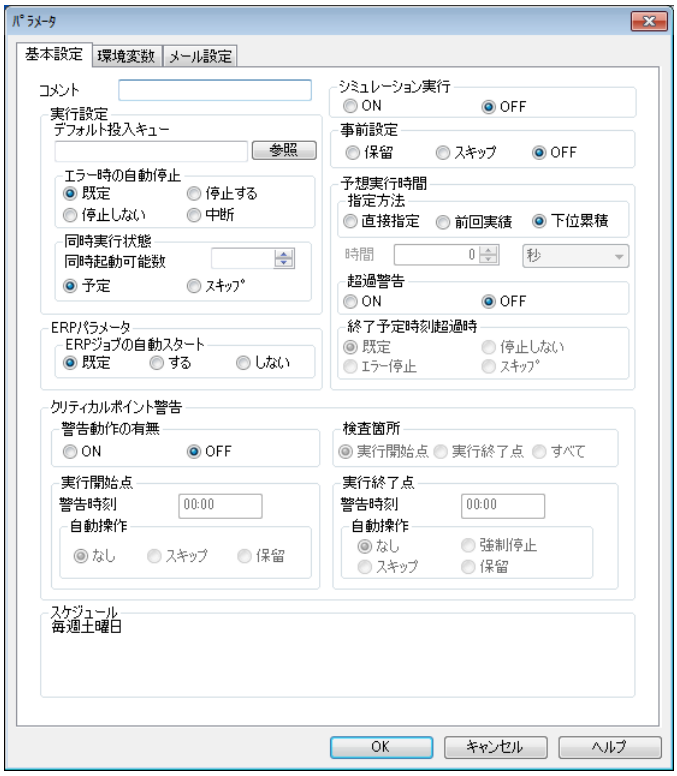


図3.32 パラメータダイアログ画面例

3. ［基本設定］と［メール設定］の各タブにおいて、ジョブネットワークに関する設定を行います。

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

［基本設定］と［メール設定］の設定項目は次のとおりです。

3.3.4.1. 基本設定

［基本設定］タブでは、現在ジョブネットワークに設定されているパラメータの参照および変更ができます。

■コメント

このジョブネットワークにつけるコメントを指定します。即時投入の際に［JNWの投入］ダイアログの［コメント］部に表示されます。

テキスト入力域に日本語、英数字、カナ文字（全角・半角）（混在可能）、半角256文字、全角128文字以内で入力します。

■デフォルト投入キュー

このジョブネットワークに属するキューを指定します。

［参照］ボタンをクリックして、ポップアップされる［投入先キューの設定］ダイアログからキューを選択して［OK］ボタンをクリックすることで設定できます。

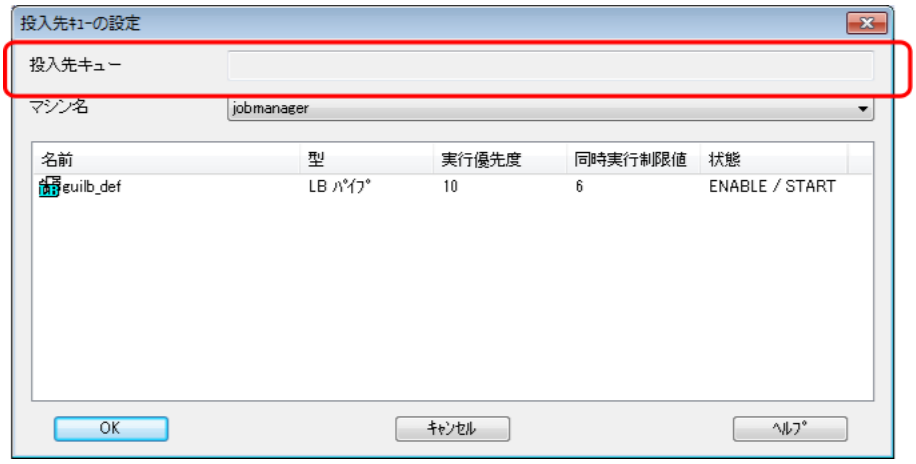


図3.33 ［投入キューの設定］ダイアログ画面例

ここを空欄にした場合、このジョブネットワークがサブジョブネットワークなら親ジョブネットワークで指定したキューが、サブジョブネットワークでないときにはユーザ環境設定で指定したキューが既定値となります。

■エラー時の自動停止

ジョブネットワーク実行中にエラーが発生したときのジョブネットワークの動作を指定します。ジョブネットワークの利用形態に従って次から選択します。

既定	ユーザ環境設定での設定に従います。 ただしサブジョブネットワークとして実行されている場合は、その親ジョブネットワークのパラメータに従います。
停止する	エラー発生時にジョブネットワークを停止します
停止しない	エラー発生時にジョブネットワークを停止しません
中断	エラー発生時にジョブネットワークの実行を中断します。 （後続のジョブをSkip状態にします。）

■同時実行状態

トラッカとして同時に起動可能なジョブネットワーク数と、その同時起動可能数を超えた場合の処理を指定します。起動可能数が空欄の場合には制限はありません。なお、この設定は最上位の親のジョブネットワークにのみ適用になります。サブジョブネットワークには適用されません。ジョブネットワークの起動が制限数を超えた場合、次から選択します。

予定	実行中のジョブネットワークが終了するのを待って実行します。 複数のジョブネットワークが待ち合わせる場合は、予定開始時刻の早いジョブネットワークが優先されます。この場合、トラッカの状態は「予定」になります。
スキップ	制限数を超えた場合にはそのあとに投入されるジョブネットワークの実行はすべてスキップされます。この場合、トラッカの状態は「スキップ」になります。

同時起動可能数は、「エラー停止」状態のトラッカも実行途中の状態としてカウントの対象になります。不要なトラッカは「スキップ」「削除」しておいてください。

■シミュレーション実行

ジョブネットワークは、すべてのジョブの実行時に、既定のジョブスクリプトの代わりに空のジョブ（スクリプト）を実行します。

「ON」を選択した場合に実行されます。

ERPジョブ、BIジョブについては、SAPシステムに空のジョブを投入することができないため、シミュレーション実行時に空のスクリプトではなく定義された内容で実行されますので注意してください。

■事前設定

ジョブネットワークをあらかじめ保留またはスキップ状態にすることができます。

保留	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態にします。
スキップ	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークをスキップ状態にします。
OFF	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態およびスキップ状態にしません。

事前設定の注意事項

- JobCenter R12.5.x以前のJobCenter CL/WinからJobCenter R12.6のJobCenter MGに接続した場合、事前設定の項目は表示されません。
- JobCenter R12.6のJobCenter CL/WinからJobCenter R12.5.xのJobCenter MGに接続すると事前設定の項目は無効化（グレーアウト）されます。

■予想実行時間

ジョブネットワークの予想実行時間と予想時間の超過時の動作に関する設定を行います。

［指定方法］

ジョブネットワークの実行にかかる時間の予測値算出方法を次から選択します。この予測時間はトラッカー覧のグラフィックモード（ガントチャート）超過警告などに反映されます。

直接指定	ジョブネットワークのパラメータの値（以下の"時間"パラメータ）をジョブネットワークの予想実行時間とします。
前回実績	正常終了した最近のジョブネットワークの実行実績から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算出します。
下位累積	正常終了した最近のジョブネットワーク内部のジョブまたはサブジョブネットワーク単位の予想実行時間から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算出します。 予想実行時間は、単位ジョブまたはサブジョブネットワークのそれぞれの設定に依存します。

［時間］

前記「指定方法」において「直接指定」を選択した場合、時間の数値と単位を入力します。単位は次のいずれかを選択することができます。（　）内は設定可能範囲です。

秒	(0～31536000)
分	(0～525600)
時間	(0～8760)
日	(0～365)

［超過警告］

予想実行時間を過ぎてもジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindowsイベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

「ON」の場合には警告メッセージを出力します。「OFF」の場合は警告メッセージを出力せず、次の終了予定時刻超過時の動作も行われません。

［終了予定時刻超過時］

超過警告「ON」の場合、終了予定時刻を過ぎてもジョブネットワークが終了しないときの動作を次から選択します。

既定	ユーザ環境設定に従います。
停止しない	ジョブネットワークの実行を継続します。
エラー停止	ジョブネットワークの実行を停止します。
スキップ	ジョブネットワークの実行をスキップします。

■ERPパラメータ

ERPジョブを投入から自動的にrun状態にするかどうかについて設定します。次から選択します。

既定	ユーザ環境設定での設定に従います。ただしサブジョブネットワークとして実行されている場合は、その親ジョブネットワークのパラメータに従います。
する	投入から自動的にrun状態になります。
しない	自動的にスタートしません。

■クリティカルポイント警告

指定した時刻になってもジョブの実行が開始されないとき、および、終了しないときに、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。

クリティカルポイント警告設定の注意事項

- 単位ジョブが保留されている場合でも、クリティカルポイント警告は行われます。
- 実行終了点の設定をジョブネットワークに設定して、当該ジョブネットワークが事前保留などにより「予定(確定)[保留]」の状態にある場合には警告が発生します。その後保留解除を行うと、既に警告メッセージが発行されているので、その後の処理は通常通り実行されます。また当該ジョブネットワークでその警告が発生したために「予定(確定)[保留]」に移行した後に保留解除を行う場合も、既に警告メッセージが発行されているので、処理は通常通り実行されます。
- 実行終了点の設定を単位ジョブに設定して、当該ジョブネットワークが事前保留などにより「予定(確定)[保留]」の状態にある場合には警告が発生します。その

後ジョブネットワークの保留解除を行うと、既に警告メッセージが発行されているので、再度警告が発生することなくその後の処理は通常通り実行されます。

- 実行終了点の設定を単位ジョブに設定して、当該ジョブネットワークが「予定(確定)」の状態にある場合には警告は発生しません。
- ジョブ再実行の場合はクリティカルポイント警告を行います。
- 基準時刻を「使用しない」設定の場合、翌日の同時刻が警告の対象となります。「使用する」設定の場合は当日の時刻が対象となります。

詳細については<環境構築ガイド>の「6.5 システム環境の設定を変更する」を参照してください。

［警告動作の有無］

「ON」の場合、クリティカルポイント警告機能が動作します。「OFF」の場合は動作しません。

［検査箇所］

検査の実行箇所を次から選択します。（クリティカルポイント警告機能動作中）

実行開始点	指定した時刻になってもジョブの実行が開始されないとき、警告メッセージを出力して指定した動作を行います。
実行終了点	指定した時刻になってもジョブの実行が終了しないとき、警告メッセージを出力して指定した動作を行います。
すべて	実行開始点と実行終了点の両方で検査を行います。

■実行開始点

ジョブの予想開始時刻と、その時刻に開始されないときの操作を指定します。

［警告時刻］

予想開始時刻を24時間制の時刻(HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HH:MM））で指定します。

サブジョブネットワークのクリティカルポイント警告を相対時間で設定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

［自動操作］

警告発生時に、そのジョブに対して行う操作を次から選択します。

なし	警告が発生しても自動操作は行いません。
スキップ	警告が発生すると、その部品をスキップします。
保留	警告が発生すると、その部品を保留にします。

■実行終了点

ジョブの予想終了時刻と、その時刻に終了されないときの操作を指定します。

［警告時刻］

予想終了時刻を24時間制の時刻（HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HH:MM））を指定します。

サブジョブネットワークのクリティカルポイント警告を相対時間で指定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

［自動操作］

警告発生時に、そのジョブに対して行う操作を次から指定します。

なし	警告が発生しても自動操作は行いません。
強制停止	警告が発生すると、その部品を強制停止します。
スキップ	警告が発生すると、その部品をスキップします。
保留	警告が発生すると、その部品を保留にします。

■ 強制停止設定時の注意事項

- 警告時にトラッカが「予定(確定)」で予定開始時間前の場合は、サブジョブネットワークにのみ発生します。
- 予定開始時間を過ぎていた場合は、同時実行数制御や負荷による未実行等の要因で発生する場合があります。

  警告を設定したジョブネットワークについてトラッカフローで「保留」マークが付き、「予定(確定)[保留]」になります。

  警告発生対象がサブジョブネットワークですと親ジョブネットワークが「応答待ち」になります。
- 警告時にトラッカが「予定(確定)[保留]」であった場合は、設定したジョブネットワークについてトラッカフローで「保留」マークが付き、「予定(確定)[保留]」のまま変わりません。

  警告発生対象がサブジョブネットワークであった場合は親ジョブネットワークが「応答待ち」になります。

■ スキップ設定時の注意事項

- 警告時にトラッカが「予定(確定)」で予定開始時間前の場合は、サブジョブネットワークにのみ発生します。
- 予定開始時間を過ぎていた場合は、同時実行数制御や負荷による未実行等の要因で発生する場合があります。

  対象が親ジョブネットワークの場合、警告が発生するとトラッカフローでは「スキップ」マークが付き、トラッカ一覧上では所属するサブジョブネットワークは「中断済[スキップ]」となります。

  対象がサブジョブネットワークの場合、警告が発生するとトラッカフロー上「スキップ」マークが付き、トラッカ一覧上では「正常終了[スキップ]」となります。親ジョブネットワークは「実行中」のまま処理を継続して「正常終了」となります。
- 警告時にトラッカが「予定(確定)[保留]」であった場合は、トラッカ一覧上で「予定(確定)[スキップ]」→「正常終了[スキップ]」となります。

  対象がサブジョブネットワークの場合、親ジョブネットワークは「実行中」のまま処理を継続して「正常終了」となります。

■ 保留設定時の注意事項

- 警告時にトラッカが「予定(確定)」で予定開始時間前の場合は、サブジョブネットワークにのみ発生します。
- 予定開始時間を過ぎていた場合は、同時実行数制御や負荷による未実行等の要因で発生する場合があります。

  対象が親ジョブネットワークの場合、警告が発生するとトラッカフロー上「保留」マークがつき、トラッカ一覧上では、ジョブネットワークは「予定(確定)[保留]」となります。

  対象がサブジョブネットワークの場合の親ジョブネットワークは「実行中」のまま処理を継続して「応答待ち」となります。
- 警告時にトラッカが「予定(確定)[保留]」であった場合は、トラッカ一覧上でジョブネットワークは「予定(確定)[保留]」のままになります。

  対象がサブジョブネットワークの場合の親ジョブネットワークは「実行中」のまま処理を継続して「応答待ち」となります。

■スケジュール

ジョブネットワークがスケジュールに関連付けられている場合、そのスケジュール名が表示されます。

スケジュールに関連付けされていない場合は、「スケジュール未設定」と表示されます。

3.3.4.2. 環境変数

単位ジョブ実行時に付与される環境変数を設定することができます。

R12.7までジョブネットワークのパラメータ設定で設定できたジョブパラメータ(NSJNW_PARAM環境変数)につきましては、基本設定項目から環境変数設定に統合されました。R12.7までジョブパラメータとして設定した内容は環境変数設定画面に変数名NSJNW_PARAMとして表示されます。

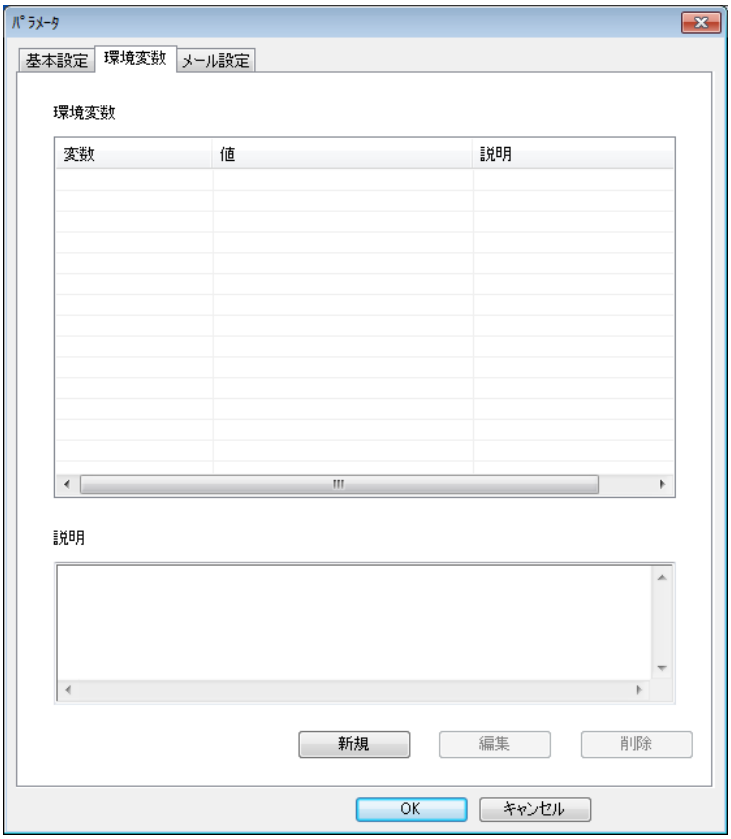


図3.34 環境変数の設定ダイアログ

■新規

[新しい環境変数]ダイアログが開きます。変数名、変数値、説明で入力できる文字には表3.3「環境変数設定の入力パラメータの制限事項」の制限事項があります。

説明テキストボックスで説明内容が現在の表示範囲を超える場合は、水平と垂直のスクロールバーが出てきます。

■編集

[環境変数の編集]ダイアログが開きます。変数名を新しい名前に変更した場合、[OK]ボタンクリック時に環境変数の上書きの警告ダイアログが出ます。上書きする場合は、[OK]ボタンをクリックしてください。

また、環境変数の重複させることはできません。

環境変数リストに表示されている環境変数をダブルクリックしても[環境変数の編集]ダイアログが開きます。

■削除

[環境変数の削除の確認]ダイアログが開きます。環境変数の削除を行う場合は、[OK]をクリックしてください。

表3.3 環境変数設定の入力パラメータの制限事項

環境変数名	51バイト	1、変数名を空欄にすることはできません。 2、空白、特殊文字および以下の文字は使用できません。 ,=#'"

環境変数値	256バイト	1、変数値は空欄にすることはできません。 2、空白、特殊文字および以下の文字は使用できません。 ,=#'"
説明	256バイト	以下の文字は使用できません。 ,#'"

注意事項

この設定ダイアログで環境変数の設定を行っても、特定の環境変数に関してはジョブ実行時に特定の値に上書きされて再設定されます。

ジョブ実行時に再設定される環境変数や、任意の環境変数を設定する方法と環境変数設定ダイアログとの優先順位については <環境構築ガイド>の14章 「ジョブ実行時の環境変数の取り扱い」 を参照してください。

3.3.4.3. メール設定

［メール設定］タブでは、ジョブネットワーク中でエラーが発生した場合に、メール送信を行うための設定の参照および、変更ができます。

詳細については11章 「エラー発生時のメール送信機能の設定方法」 を参照してください。

3.3.4.4. 補正時刻

このタブは補正時刻のジョブネットワーク個別設定機能を有効にしている場合のみ表示されます。

ジョブネットワークに対して、補正時刻の設定、参照、変更を行うことができます。

詳細については<環境構築ガイド>の「6.5　　システム環境の設定を変更する」を参照してください。

3.3.5. ジョブネットワークをグルーピングする

新規グループを作成してジョブネットワークやジョブネットワークのショートカットをグルーピングしたり、グループを階層化したりすることによって、ジョブネットワークをわかりやすく分類することができます。

ジョブネットワークやジョブネットワークのショートカットのグルーピングおよびグループの階層化は、ユーザフレームのジョブネットワーク一覧で定義します。

1. グループを作成する

   グループの作成方法は、「3.1.1 グループを新規作成、削除する」を参照してください。

2. ジョブネットワークのショートカットを作成する

   ジョブネットワークのショートカットの作成方法は、「3.3.3　ジョブネットワークのショートカットを作成、削除する」を参照してください。

3. グループを階層化する

   グループの中にグループを作成することで、グループを階層化できます。

   グループの作成方法は、「3.1.1 グループを新規作成、削除する」を参照してください。

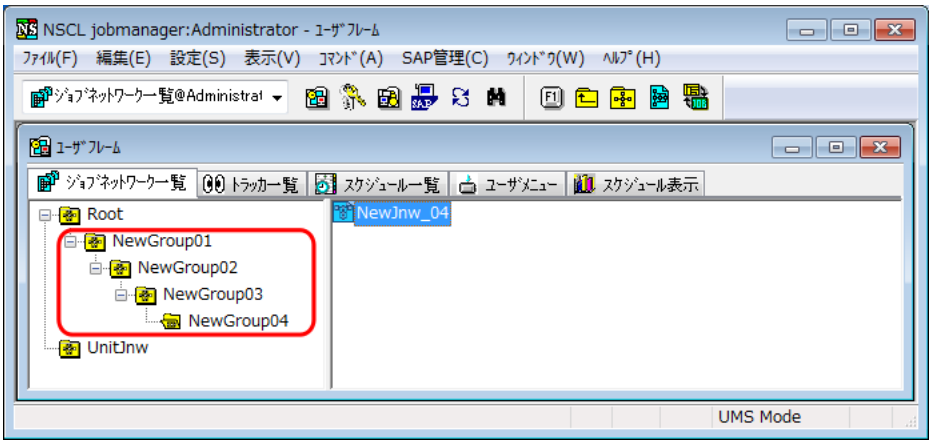


図3.35 グループ階層化の例

3.3.6. ジョブネットワークの設定一覧を表示する

ジョブネットワークパラメータや、フローに定義した単位ジョブのパラメータとスクリプトの内容を一覧で確認することができます。(ただし表示内容をテキストファイル等に出力することはできません)

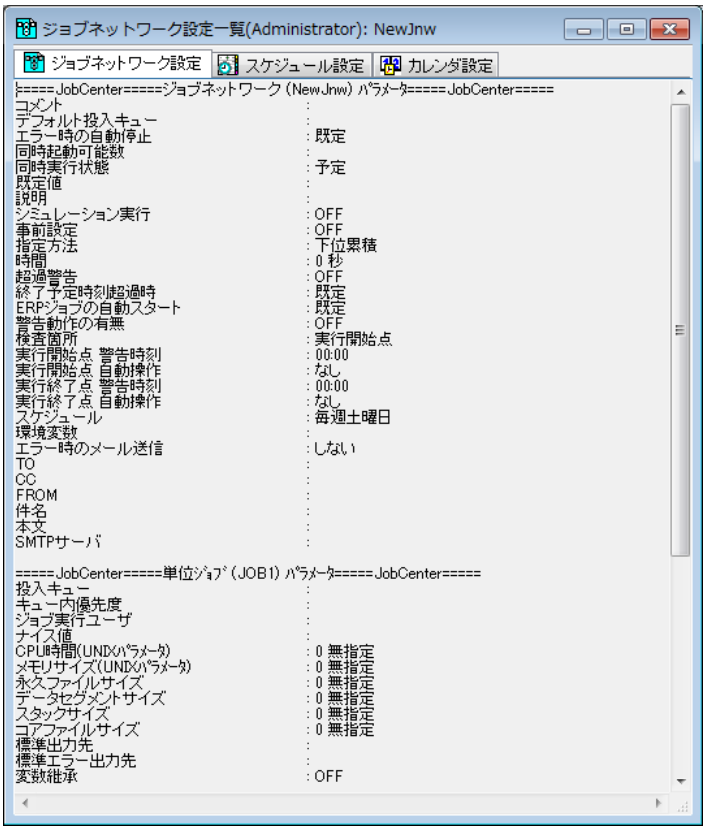


図3.36 設定一覧画面例

3.4. ジョブネットワーク実行用メニューボタンを作成する

GUI画面には、個別にユーザがメニューボタンを作成し、ジョブネットワークを即時投入する機能があります。

ユーザフレームの［ユーザメニュー］タブにおいて、ユーザメニューボタンの定義、削除などができます。

3.4.1. ユーザメニューボタンを新規作成する

1. ユーザフレームの［ユーザメニュー］タブを開いて、メニューバーの［ファイル］－［新規ボタン］を選択します。

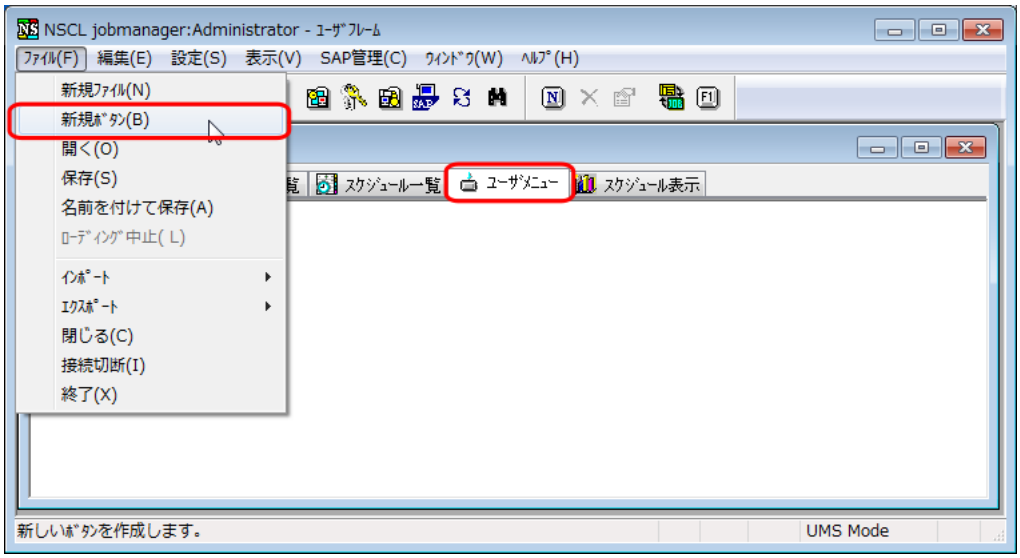


図3.37 新規ボタン作成開始画面例

2. ［プロパティ設定］ダイアログが表示されます。

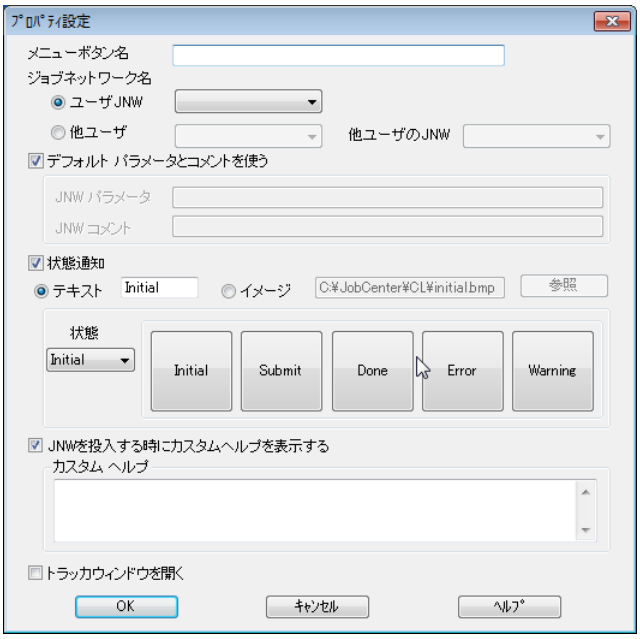


図3.38 メニューボタンの［プロパティ設定］ダイアログ画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4. ユーザフレームの［ユーザメニュー］タブに新規に作成したユーザメニューボタンが表示されます。

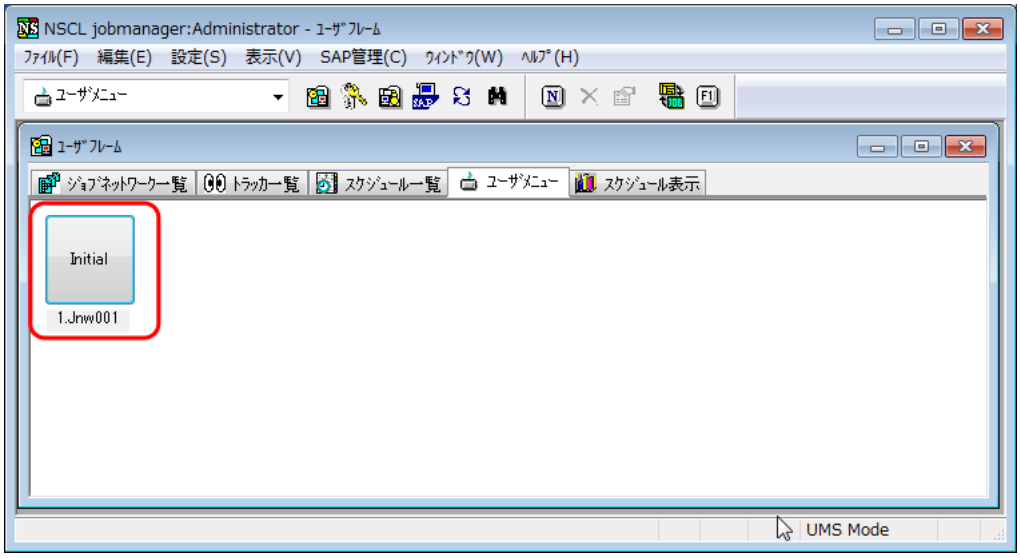


図3.39 新規作成のユーザメニューボタン表示例

［プロパティ設定］ダイアログの設定項目は次のとおりです。

■メニューボタン名

画面上に表示されているボタンの名前です。

■ジョブネットワーク名

メニューボタンと関連するジョブネットワーク名です。

［ユーザJNW］リストからログインユーザ自身のジョブネットワークを選択できます。また、他のユーザのジョブネットワークも選択可能です。この場合には、先に［他ユーザ］のユーザリストからユーザを選択し、［他ユーザのJNW］からジョブネットワークを選択します。

■デフォルトパラメータとコメントを使う

ジョブネットワークを投入するときのパラメータとコメントを指定できます。

「デフォルトパラメータとコメントを使う」を選択すれば、ジョブネットワークのパラメータに設定した値を使います。

■状態通知

この項目を選択すると、ジョブネットワーク実行状態をユーザに通知します。

メニューボタンの状態が「Initial」から「Submit」「Done」「Error」「Warning」などに推移し、ジョブネットワークの状態を通知します。それぞれの状態に応じて任意の表示文字列やBMP形式の画像を割り当てて表示させることも可能です。

■JNWを投入する時にカスタムヘルプを表示する

この項目を選択すると、メニューボタンをクリックするとダイアログがポップアップして、入力されたカスタムヘルプを表示します。

■トラッカウィンドウを開く

この項目を選択すると、メニューボタンをクリックしてジョブネットワークを投入するときに、トラッカウィンドウを表示するかどうか選択できます。

3.4.2. ユーザメニューボタンを操作する（即時投入）

1. 「3.4.1 ユーザメニューボタンを新規作成する」で作成したユーザメニューボタン「1.Jnw001」を選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから［投入］を選択、または作成したメニューボタンをクリックします。

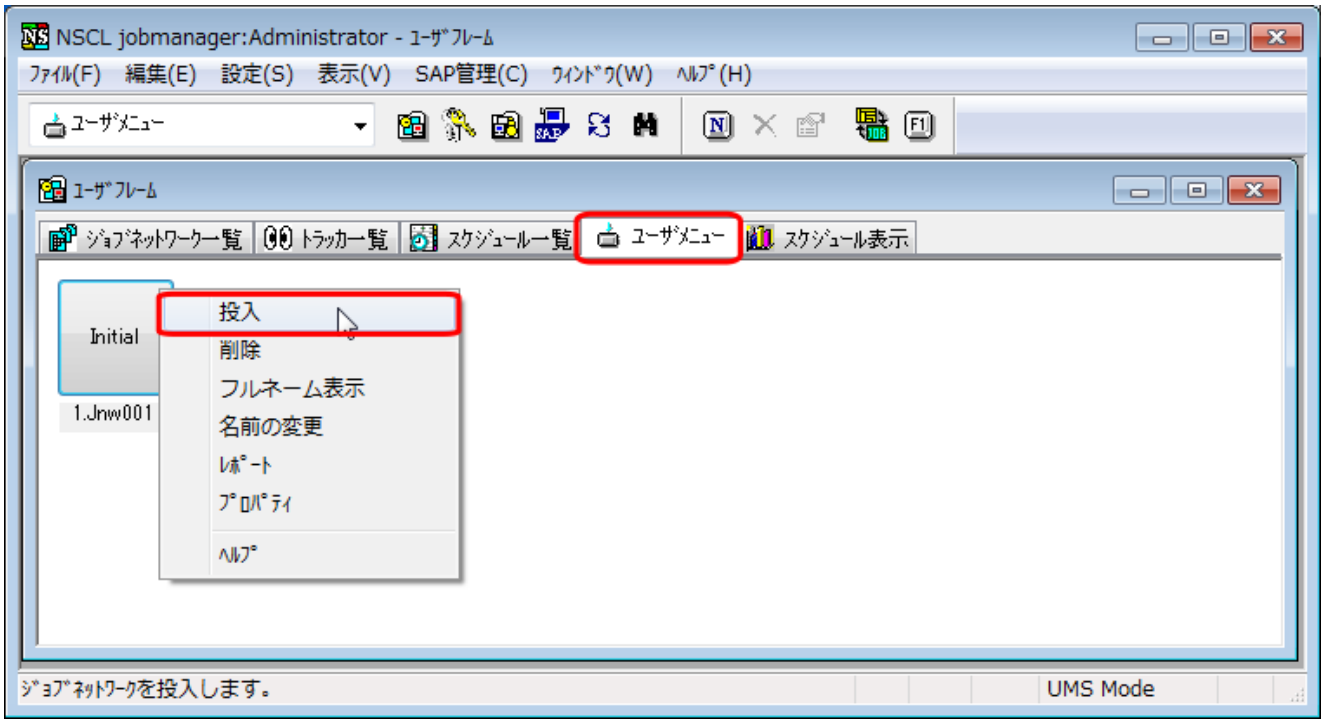


図3.40 メニューボタンの［カスタムヘルプ］ダイアログ画面例

2. ［カスタムヘルプ］ダイアログが表示されます。

3. ［投入］ボタンをクリックして、ジョブネットワークを投入することができます。

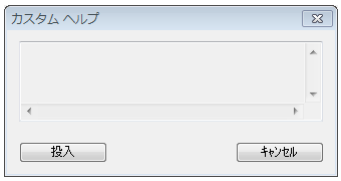


図3.41 ［カスタムヘルプ］ダイアログ画面例

■ユーザメニューボタン定義は100個まで可能です。

■参照モードでインストールしたCL/Winでユーザメニューを使用する際の注意事項

- ユーザメニューはCL/Winを「通常モード」を選択してインストールした場合のみ、作成や編集が可能です。「参照モード」でインストールしたCL/Winでは作成できません。
- 「通常モード」でCL/Winをインストールし、ユーザメニューを作成した上で一旦CL/Winをアンインストールして同じフォルダに「参照モード」でインストールし直すと、ユーザメニューの定義が引き継がれます。ユーザにJNW定義やユーザメニュー定義を変更させたくない場合はそのようにして対処してください。

第4章 部品オブジェクトの使用方法

部品オブジェクトは、ジョブネットワークのフローを作成するために、機能に合わせて複数準備されています。

部品オブジェクトの配置はドラッグアンドドロップによって行いますので、ジョブネットワークを容易に作成できます。

表4.1 部品オブジェクト一覧

アイコン	名　称	機　能	章番号
■実行部品			「4.2 実行部品」
Job	単位ジョブ	1つのジョブとして実行される単位です。 単位ジョブはUNIXのシェルスクリプトもしくはWindowsバッチファイルの形式で記述します。	「4.2.1 単位ジョブの実行スクリプトを設定する」～「4.2.4 単位ジョブ実行でユーザプロファイルをロードする」
ERP	ERPジョブ	SAP ERPとして実行される単位です。 ERPジョブはジョブステップをスクリプトで記述します。	「4.2.5 ERPジョブの実行スクリプトを設定する」,「4.2.6 ERPジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」
BI	BIジョブ	SAP BIジョブとして実行される単位です。	「4.2.7 BIジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」
PC	PCジョブ	SAP PCジョブとして実行される単位です。	「4.2.8 PCジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」
	サブジョブネットワーク	1つのジョブネットワークとして実行される部品です。ジョブネットワークフローの中に置くことによりジョブネットワークを階層的に定義することができます。 事前に作成したジョブネットワークを指定、または新規にジョブネットワークを作成し指定します。	「4.2.9 サブジョブネットワークを配置する」,「4.2.10 サブジョブネットワー

			クを参照する」
	UCXSingleジョブ	UCXSingleコマンドを利用してJobCenterから任意のタイミングで帳票出力を実行できます。	—
	WOBSジョブ	WebOTX Batch Server制御コマンドを利用してJobCenterから任意のタイミングでWebOTX Batch Serverジョブを実行できます。	—
■分岐部品			「4.3 分岐部品」
	並列分岐	複数の単位ジョブ、またはサブジョブネットワークを並列に実行します。	「4.3.1 並列分岐のフローを追加、削除する」
	条件分岐	単位ジョブ、またはサブジョブネットワークの終了コードによってそのあとのジョブネットワークの流れを変えるための部品です。 複数のフローに分岐して、それぞれに終了コードの範囲を設定することができます。	「4.3.2 条件分岐のフローを追加、削除する」
	カレンダ分岐	日付によって実行するフローを選択する部品です。指定されたスケジュールの条件を満たす場合は右側に進み、満たさなければ下側に進みます。 条件判断は、ジョブネットワーク開始予定の日付がスケジュールの実行日(稼動日)となっているかどうかで判定します。(時刻は問いません)	「4.3.4 カレンダ分岐のスケジュールを設定する」
	コンティニュー	あらかじめ指定された単位ジョブ、ダイアログまたはERPジョブ、PCジョブ、UCXSingleジョブにジャンプし、そのジョブ以降の処理を再度実行します。 通常は、条件分岐の異常終了の経路に設定し、単位ジョブの終了状態が異常終了したときに再度処理を実行する場合に使用します。	「4.3.5 コンティニューの条件を設定する」
	OR分岐	OR分岐は複数の分岐フローのうち1つが終了すると後続の部品を実行します。	「4.3.6 OR分岐を設定する」
■待ち合わせ部品			「4.4 待ち合わせ部品」
	ダイアログ	ユーザからの応答を待ち合わせるための部品です。 ユーザからの応答が行われるまで、それ以降の処理は待ち状態となります。	「4.4.1 ダイアログの設定をする」
	ジョブ待ち合わせ	指定したジョブの終了を待ち合わせます。 複雑な順序関係を設定するために使用します。また、ジョブと条件分岐の間に別のジョブを入れる場合にも使用します。	「4.4.2 ジョブ待ち合わせの設定をする」
	サブジョブネットワーク待ち合わせ	指定したサブジョブネットワークの終了を待ち合わせます。	「4.4.3 サブジョブ

		複雑な順序関係を設定するために使用します。	ネットワーク待ち合わせの設定をする」
	ファイル待ち合わせ	指定したファイルの存在と存在しない状態、および更新を待ち合わせます。 指定したファイルが条件を満たさない場合は、一定時間ごとにファイルの状態をチェックします。	「4.4.4 ファイル待ち合わせの設定をする」
	時間待ち合わせ	指定した時刻まで待ち合わせます。	「4.4.5 時間待ち合わせの設定をする」
■イベント送受信			「4.5 イベント送信とイベント受信」
	イベント送信	ジョブネットワークの中から別のジョブネットワークへイベントを送信する単位です。 ジョブネットワークの中から別のジョブネットワークへイベントを送信するための情報を記述します。	「4.5.1 イベント送信の設定をする」
	イベント受信	ジョブネットワークの中で別のジョブネットワークからのイベントを受信する単位です。 ジョブネットワークの中で別のジョブネットワークからのイベントを受信するための情報を記述します。	「4.5.2 イベント受信の設定をする」

UCXSingleジョブについては、「JobCenter　UCXSingleジョブ利用ガイド」を参照してください。

4.1. 部品オブジェクトを配置する

部品オブジェクトは、［オブジェクト］ツールバーにすべて表示されます。［オブジェクト］ツールバーが表示されていない場合は、メニューバーの［表示］－［オブジェクトボックス］を選択してください。

図4.1 ［オブジェクト］ツールバー

オブジェクトの配置例を単位ジョブアイコンで説明します。

1. ［オブジェクト］ツールバーの［単位ジョブ］オブジェクトのアイコンをクリックし、十字のカーソルを配置したい場所に移動させ、クリックします。

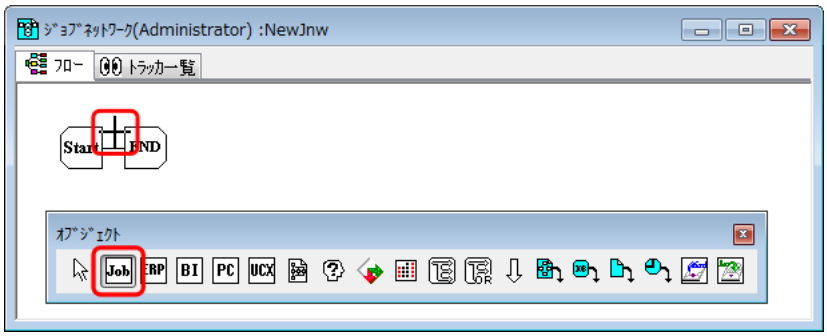


図4.2 単位ジョブアイコンの追加

2. ［ジョブ名の設定］ダイアログが表示されますので、ジョブ名を設定します。

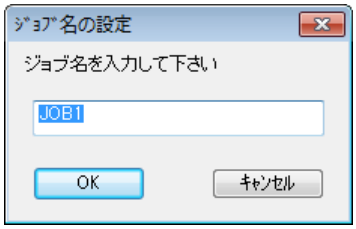


図4.3 新規単位ジョブ名の設定例

ジョブ名を設定する際の注意事項

■半角40文字、全角20文字以内。

■ジョブ名、ジョブネットワーク名に半角カタカナは使用できません。半角カタカナは、送信するメールの件名、および本文には使用できません。

■名前の最初の文字はアルファベット、アンダースコア、2バイト文字しか使用できません。また、空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

■同一ジョブネットワーク内にすでに存在しているジョブ名は指定できません。

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4. 新規単位ジョブが追加されたジョブネットワークが表示されます。

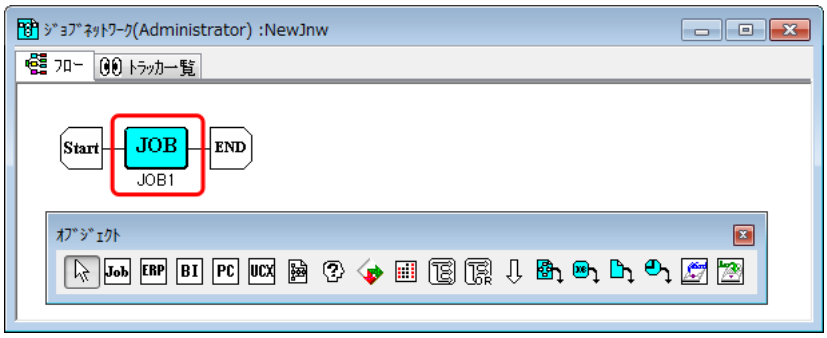


図4.4 新規単位ジョブ追加画面例

なお、部品オブジェクトによって配置後に表示される各設定ダイアログが異なりますので、それぞれの説明を参照してください。

4.2. 実行部品

ジョブネットワークは、1ないし複数の実行部品で構成されます。

4.2.1. 単位ジョブの実行スクリプトを設定する

単位ジョブは、1つのジョブとして実行される単位です。実行するシェルスクリプト（UNIX）またはバッチファイル（Windows）や投入先のキュー、資源制限などの実行条件を設定します。

単位ジョブの実行スクリプトは、当該ジョブの投入先のプラットフォーム（UNIXまたはWindows）に合わせて、シェルスクリプトまたはバッチファイルの形式で記述します。また、ファイルのフルパスを記述することによって、任意の場所に作成されているシェルスクリプトまたはバッチファイルを呼び出します。

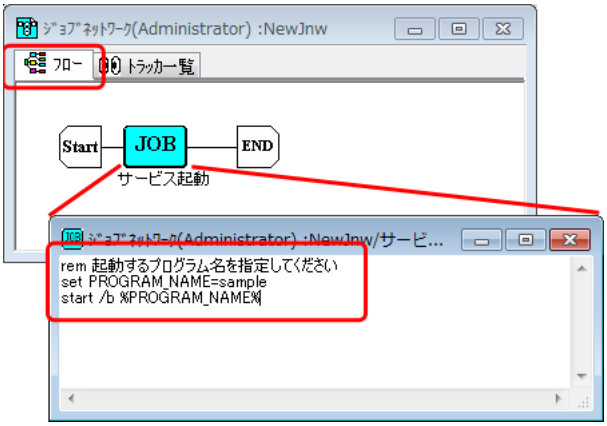


図4.5 単位ジョブのバッチファイル（Windows）の例

実際の単位ジョブの実行スクリプトの編集方法については、「3.1.5 単位ジョブアイコンのスクリプトを編集する」を参照してください。

単位ジョブのスクリプトの設定に関する注意事項を次に記載します。

単位ジョブのスクリプトの設定に関する注意事項

■スクリプト編集のためのテキストエディタでは、シェルスクリプトでも、バッチファイルでも、1行あたり最大1023バイトです。

■テキストエディタによるスクリプトファイルの総サイズは、改行コードのバイト数も含め、最大1Mバイトです。

■単位ジョブからNotePadなどのGUIを起動した場合、当該GUIが閉じられるまでジョブは実行中となります。

■ジョブリクエスト実行マシンがWindowsの場合、単位ジョブ実行プロセスのセッションID＝0で作成されます。そのため、OSからコンソールログオフするとCTRL_LOGOFF_EVENTシグナルが単位ジョブから実行されているスクリプト(コマンド)にも送信されます。(ただしWindows Server 2008を除く)

ジョブリクエスト実行マシンでOSからコンソールログオフすると、シグナルを受け取った際の特別な挙動(ハンドラ)を定義しているコマンドをジョブスクリプトに記述して実行している場合、単位ジョブが異常終了する可能性がありますので注意してください。

■JobCenterは当該単位ジョブから起動されたすべてのプロセスを同一のプロセスグループに設定します。また、当該ジョブの終了時に当該プロセスグループのすべて

のプロセスを強制的に停止させます。そのため、JobCenterの単位ジョブから常駐系のプロセスを起動するためには、nqsbgコマンド（「JobCenter　コマンドリファレンス　3.5　nqsbg」を参照）やWindowsのstartコマンド（Windowsのヘルプを参照）を使用して、常駐系のプロセスを別のプロセスグループとして起動する必要があります。

■JobCenterは単位ジョブを実行するプロセスについて、標準入力を閉じた状態で起動します。従って標準入力を利用するコマンドを記述した場合の正常動作は保証しておりません。

4.2.2. 単位ジョブの実行条件（パラメータ）を設定する

1. 選択した単位ジョブアイコンを右クリックしたときのポップアップメニューから［パラメータ］を選択します。

2. ［単位ジョブパラメータの設定］ダイアログが表示されます。

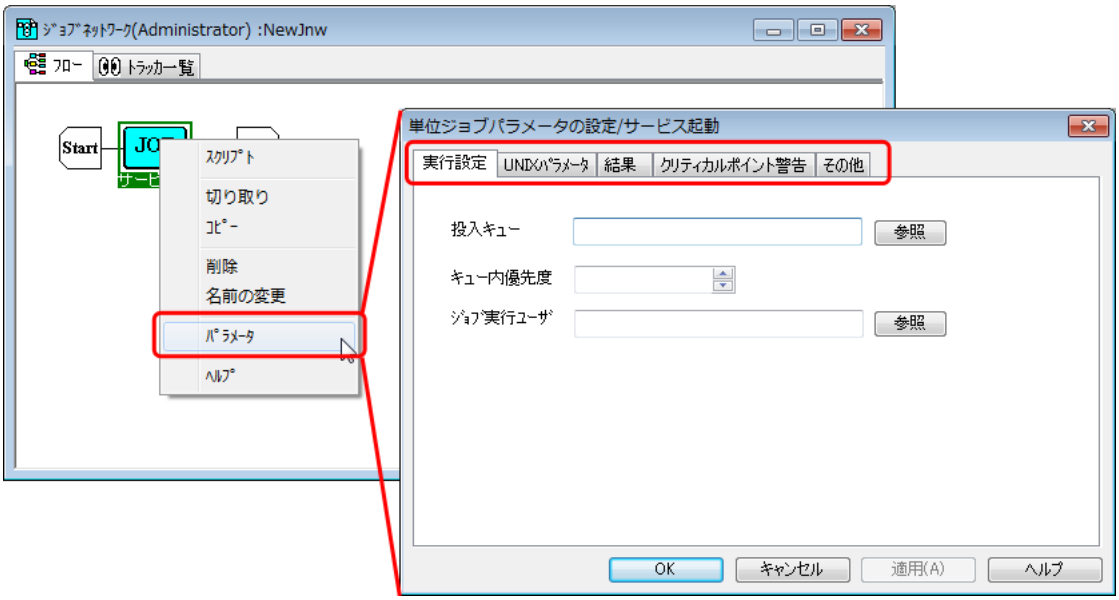


図4.6 単位ジョブパラメータの設定画面

3. ［実行設定］、［UNIXパラメータ］、［結果］、［クリティカルポイント警告］および［その他］の各タブにおいて設定を行います。

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

［単位ジョブパラメータの設定］ダイアログでは、［実行設定］、［UNIXパラメータ］、［結果］、［クリティカルポイント警告］および［その他］の各タブで次の設定ができます。

4.2.2.1. ［実行設定］タブ

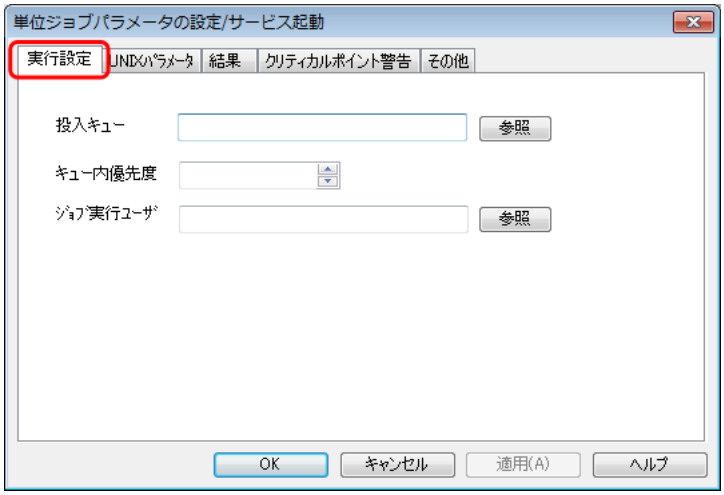


図4.7 ［単位ジョブパラメータの設定］－［実行設定］画面例

■投入キュー

ジョブを投入するキュー名を指定します。

［参照］ボタンをクリックして、ポップアップされる［投入先キューの設定］ダイアログからキューを選択することができます。空欄の場合はジョブネットワークパラメータで設定したキューに投入されます。

■キュー内優先度

キュー内での優先度です。

0から63までの数値で指定し、値が大きいほど優先度が高くなります。

■ジョブ実行ユーザ

ジョブを実行するユーザを指定します。

［参照］ボタンをクリックして、ポップアップされる［ジョブ実行ユーザ］ダイアログからジョブを実行するユーザを選択することができます。

空欄にした場合は、ジョブネットワークの所有者になります。

ジョブ実行ユーザ設定時の動作例については、次の図4.8「ジョブ実行ユーザ設定時の動作（MG-SV構成）の例」を参照してください。

ジョブ実行ユーザ設定時の動作（MG-SV構成）の例を示します。

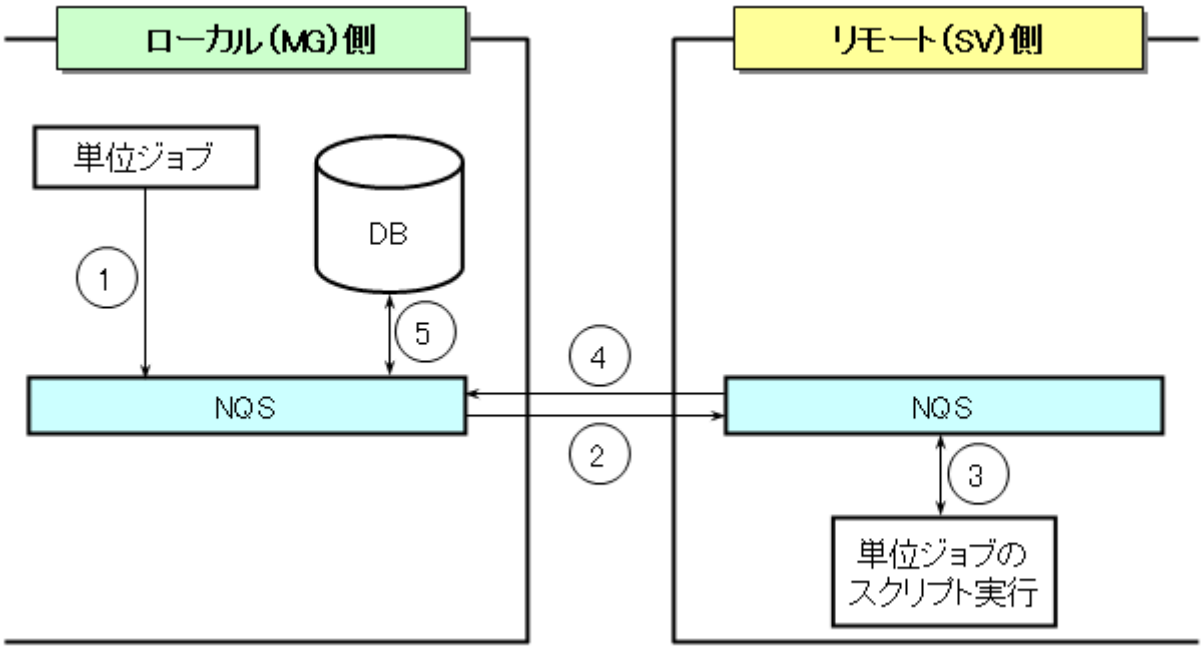


図4.8 ジョブ実行ユーザ設定時の動作（MG-SV構成）の例

[動作説明]

1. ジョブ実行ユーザに指定されたユーザに単位ジョブの実行権限を切り替えてローカル（MG）側のNQSに投入。

2. リモート（SV）側のNQSにジョブを転送。

3. ジョブ実行ユーザとマッピングされているリモート（SV）側のユーザで単位ジョブのスクリプトを実行（環境変数はローカル（MG）側のジョブネットワーク所有者のものが使用されます）。

4. 単位ジョブの実行結果をローカル（MG）側に送信。

5. 単位ジョブの実行結果をジョブネットワークの所有者のトラッカディレクトリに保存。

ジョブ実行ユーザの指定に関する注意事項

■JobCenter　CL/Winで接続しているサーバがWindows版のJobCenter　MGおよびJobCenter SVの場合、ジョブ実行ユーザに指定されるユーザは、必ず［JobCenterサーバの環境設定］でパスワードを設定してください。または、必ず一度、JobCenter CL/Winからそのユーザでサーバに接続してください。

ユーザの追加およびパスワードの設定方法の詳細については、別冊の<環境構築ガイド>の「12.4 ユーザの設定」 を参照してください。

■ジョブ実行ユーザを設定する場合には、アクセス権限の中の「他ユーザのジョブネットワークの作成／変更／削除」の権限が必要となります。また、トラッカの一時変更で単位ジョブのパラメータのジョブ実行ユーザの設定を変更する場合も同様に、「ジョブネットワークの作成／変更／削除の権限」が必要です。

アクセス権限の詳細については10章 「一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定）」 を参照してください。

■ジョブ実行ユーザを切り替えて実行される単位ジョブの環境変数は、ジョブネットワークの所有者のものが使用されます。ただし、環境変数HOME, LOGNAME, USER, MAILについては、切り替え先のユーザのものが使用されます。切り替え先のユーザで上記4つ以外の環境変数が必要な場合は、単位ジョブのスクリプトに環境変数を定義してください。JobCenterでの環境変数の扱いについては、<環境構築ガイド>の14章 「ジョブ実行時の環境変数の取り扱い」 を参照してください。

■単位ジョブ部品のパラメータの標準出力、標準エラー出力のファイルを設定する場合には、ファイル名の2階層前のディレクトリ名にnstrkは指定しないでください。

（例）<任意のパス>/nstrk/<ディレクトリ名>/<ファイル名>このようなファイルが指定された場合には、指定されたファイルのオーナーとグループが、単位ジョブ部品を実行したユーザのものにはならず、<任意のパス>/nstrk/<ディレクトリ名>のオーナーとグループになります。

■ジョブ実行ユーザを設定した単位ジョブをリモート（SV）側に転送する場合には、ジョブ実行ユーザに設定したローカル（MG）側のユーザと、リモート（SV）側のユーザとの間のユーザIDマッピングの設定をリモート（SV）側のマシンで行う必要があります。

詳細については<環境構築ガイド>の「3.2 ユーザの関連付けを行う（ユーザマッピング）」を参照してください。

■例えばリモート（SV）側に転送したジョブをrootユーザの権限で実行したい場合には、ローカル（MG）側の一般ユーザとリモート（SV）側のrootユーザ間で、ユーザIDマッピングの設定を行い、ジョブ実行ユーザにはローカル（MG）側の一般ユーザを指定する方法を推奨します。この推奨方法が取れず、ローカル（MG）側のジョブ実行ユーザをrootとして、リモート（SV）側にジョブを転送する場合には、デーモン設定ファイル「daemon.conf」内に「NQSDAEMON_OPT=-x ofauth=COMPAT」を記述してください。デーモン設定ファイルの詳細は、<環境構築ガイド>の5章 「JobCenter起動時の設定を変更する」 を参照してください。

4.2.2.2. ［UNIXパラメータ］タブ

UNIXパラメータ［プロセス単位］が指定できます。UNIX上でのみ有効です。UNIXパラメータの各制限値に関してはご利用OSのマニュアルを参照してください。

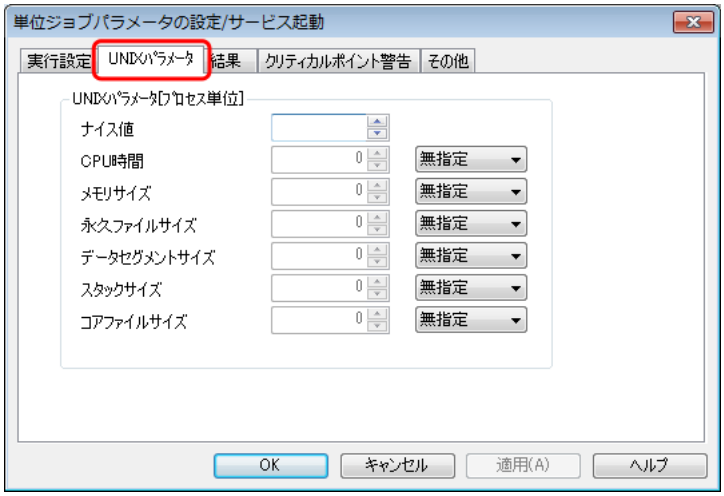


図4.9 ［単位ジョブパラメータの設定］－［UNIXパラメータ］画面例

■ナイス値

キューに設定されたナイス実行制限値です。

指定可能な範囲は、［-127～127］です。デフォルトは、0です。

単位ジョブ実行時は、そのOSにおいて設定可能な上限値(下限値)に丸められます。

■CPU時間

プロセスごとのCPU時間制限値です。

■メモリサイズ

プロセスごとのメモリサイズ制限値です。

■永久ファイルサイズ

プロセスごとの永久ファイルサイズ制限値です。

■データセグメントサイズ

プロセスごとのデータセグメントサイズ制限値です。

■スタックサイズ

プロセスごとのスタックサイズ制限値です。

■コアファイルサイズ

プロセスごとのコアファイルサイズ制限値です。

4.2.2.3. ［結果］タブ

出力結果先、変数を引き継ぐ場合の設定を指定できます。

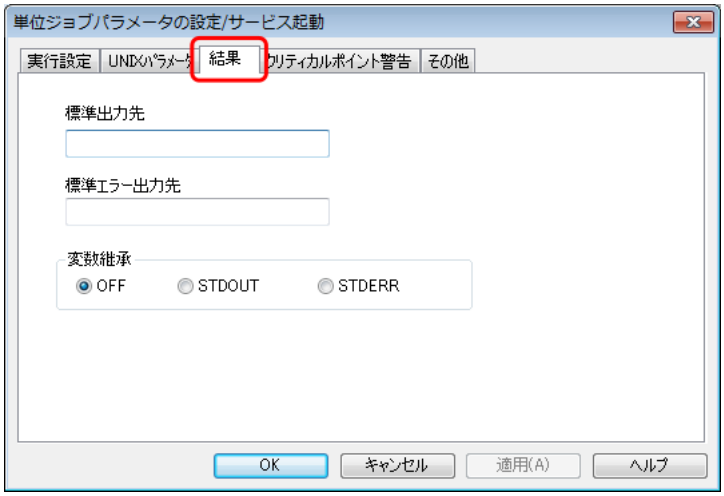


図4.10 ［単位ジョブパラメータの設定］－［結果］画面例

単位ジョブスクリプト内で巨大な標準出力・標準エラー出力データを掃き出してしまうと、CL/Winでのトラッカ表示時に時間がかかるだけでなく、サーバ側の検索処理でもメモリを消費して処理が遅くなる原因になります。

また、仮に単位ジョブパラメータの[結果]タブで[標準出力先]と[標準エラー出力先]を他の任意のファイルに設定したとしても、それらのファイルに書き出す前に

JobCenterのNQSで大量の出力データを扱うことになり、やはりオーバヘッド悪化の原因になります。

そのような出力ファイルは、単位ジョブスクリプト内で他のファイルに(アプリケーションやコマンドのログとして)直接リダイレクトして保存して、JobCenterには取り込まないようにする等の工夫をお願いします。

■標準出力先

標準出力の出力先ファイル名です。

JobCenter CL/Winで接続しているホスト（ジョブネットワークを定義しているホスト）上の、任意のファイルをフルパスで指定してください。

出力先を変更した場合、JobCenter CL/Win（GUI画面）およびjnwsummaryから結果を参照することができなくなり、トラッカの単位ジョブ出力結果タブには「Output file is lost or redirected to somewhere」と表示されます。

■標準エラー出力先

標準エラー出力の出力先ファイル名です。

JobCenter CL/Winで接続しているホスト（ジョブネットワークを定義しているホスト）上の、任意のファイルをフルパスで指定してください。

出力先を変更した場合、JobCenter CL/Win（GUI画面）およびjnwsummaryから結果を参照することができなくなり、トラッカの単位ジョブ出力結果タブには「Output file is lost or redirected to somewhere」と表示されます。

標準出力先、標準エラー出力先ともに相対パスで指定することはできません。パスなしのファイル名のみで指定するとトラッカ格納ディレクトリ内に出力ファイルが生成されて、アーカイブ時に消去されます。

また、UNIX版の場合は（JobCenter起動時のマスク値が000であれば）生成した出力ファイルにread権限が付きますが、Windows版の場合はジョブ実行ユーザに対してのみアクセス権が付き、他のユーザアカウントからは参照できません。他のユーザで出力ファイルを参照したい場合は、本パラメータ設定ではなく単位ジョブスクリプトの中で直接ファイルにリダイレクトするよう記述してください。

■変数継承

このジョブで指定した変数情報を次のジョブにどのように引き継ぐかを設定します。

次から選択します。

OFF	変数継承を行いません。
STDOUT	標準出力を介して変数継承を行います。
STDERR	標準エラー出力を介して変数継承を行います。

コンティニュー部品などによりすでに実行された単位ジョブが再実行された場合、標準出力先および標準エラー出力先のファイルは最後に実行された当該単位ジョブの結果で上書きされます。

単位ジョブが再実行されるときに、標準出力および標準エラー出力の内容を当該単位ジョブの前回の実行結果に追記させるためには、デーモン設定ファイルに、次のJobCenter起動オプションを指定してJobCenterを再起動する必要があります。

```
NQSDAEMON_OPT=-x trkappend=ON
```

オプションに関する詳細については「JobCenter　環境構築ガイド」を参照してください。

上記オプションが指定された状態でJobCenterが起動している場合は、すでに実行された単位ジョブが再実行されるときに、まず標準出力および標準エラー出力に次のようなデリミタ文字列が出力され、引き続いて当該単位ジョブの再実行結果が出力されます。

```
======<ジョブネットワークRERUN YYYY/MM/DD hh:mm:ss======
```

「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」には、当該単位ジョブが再実行された時刻が代入されます。

4.2.2.4. ［クリティカルポイント警告］タブ

指定した時刻になってもその部品の実行が開始されないときおよび終了しないときに、警告メッセージを出力します。またそのときの操作を指定します。

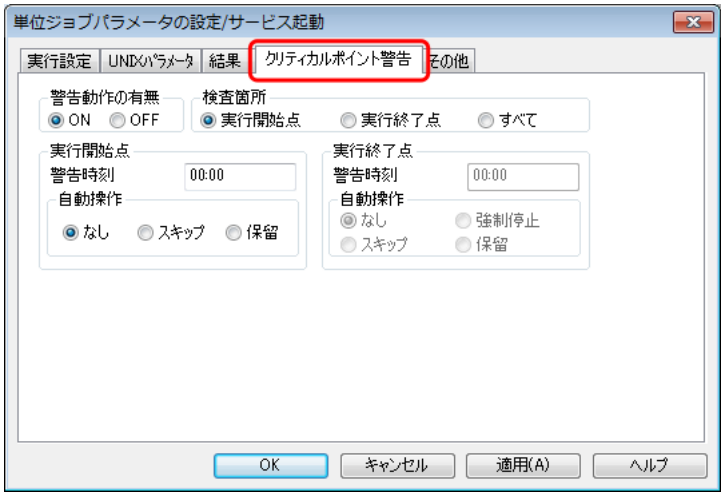


図4.11 ［単位ジョブパラメータの設定］－［クリティカルポイント警告］画面例

クリティカルポイント警告設定の注意事項

■単位ジョブが保留されている場合でも、クリティカルポイント警告は行われます。

■実行終了点の設定をジョブネットワークに設定して、当該ジョブネットワークが事前保留などにより「予定(確定)[保留]」の状態にある場合には警告が発生します。その後保留解除を行うと、既に警告メッセージが発行されているので、その後の処理は通常通り実行されます。また当該ジョブネットワークでその警告が発生したために「予定(確定)[保留]」に移行した後に保留解除を行う場合も、既に警告メッセージが発行されているので、処理は通常通り実行されます。

■実行終了点の設定を単位ジョブに設定して、当該ジョブネットワークが事前保留などにより「予定(確定)[保留]」の状態にある場合には警告が発生します。その後ジョブネットワークの保留解除を行うと、既に警告メッセージが発行されているので、再度警告が発生することなくその後の処理は通常通り実行されます。

■実行終了点の設定を単位ジョブに設定して、当該ジョブネットワークが「予定(確定)」の状態にある場合には警告は発生しません。

■ジョブ再実行の場合はクリティカルポイント警告を行います。

■基準時刻を「使用しない」設定の場合、翌日の同時刻が警告の対象となります。
「使用する」設定の場合は当日の時刻が対象となります。

詳細については<環境構築ガイド>の「6.5 システム環境の設定を変更する」を参照してください。

■警告動作の有無

「ON」の場合クリティカルポイント警告機能が動作します。

「OFF」の場合は動作しません。

■検査箇所

検査の実行箇所を次から選択します。（クリティカルポイント警告機能動作中）

実行開始点	指定した時刻になってもその部品の実行が開始しないとき、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。
実行終了点	指定した時刻になってもその部品の実行が終了しないとき、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。
すべて	実行開始点と実行終了点の両方で検査を行います。

■実行開始点

部品の予想開始時刻と、その時刻に開始されないときの操作を指定します。

［警告時刻］

検査実行の時刻を24時間制の時刻（HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HH:MM））を指定します。単位ジョブのクリティカルポイント警告を相対時間で設定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

［自動操作］

警告発生時に、その部品に対して行う操作を次から選択します。

なし	警告が発生しても自動操作は行いません。
スキップ	警告が発生すると、その部品をスキップします。
保留	警警告が発生すると、その部品を保留にします。

■実行終了点

部品の予想終了時刻と、その時刻に終了されないときの操作を指定します。

［警告時刻］

検査実行の時刻を24時間制の時刻（HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HH:MM））を指定します。

単位ジョブのクリティカルポイント警告を相対時間で設定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

［自動操作］

警告発生時に、その部品に対して行う操作を次から選択します。

なし	警告が発生しても自動操作は行いません。

強制停止	警告が発生すると、その部品を強制停止します。
スキップ	警告が発生すると、その部品をスキップします。
保留	警告が発生すると、その部品を保留にします。

■強制停止設定時の注意事項

- 警告時にトラッカが「予定(確定)」で予定開始時間前の場合は、サブジョブネットワークにのみ発生します。

- 予定開始時間を過ぎていた場合は、同時実行数制御や負荷による未実行等の要因で発生する場合があります。

  警告が発生した単位ジョブはトラッカフローで「エラー停止」となり、トラッカ一覧上では所属するジョブネットワークは「予定(確定)」のままとなります。

  警告発生対象がサブジョブネットワークの単位ジョブですと、親ジョブネットワークが「実行中異常」→「エラー停止」になります。

- 警告時にトラッカが「予定(確定)[保留]」であった場合は、警告が発生した単位ジョブはトラッカフローで「エラー停止」となり、トラッカ一覧上では所属するジョブネットワークは「予定(確定)[保留]」のままとなります。

  警告発生対象がサブジョブネットワークの単位ジョブですと、親ジョブネットワークは「実行中異常」→「応答待ち」になります。

■スキップ設定時の注意事項

- 警告時にトラッカが「予定(確定)」で予定開始時間前の場合は、サブジョブネットワークにのみ発生します。警告が発生した単位ジョブおよび親ジョブネットワークは「正常終了」となります。

- 予定開始時間を過ぎていた場合は、同時実行数制御や負荷による未実行等の要因で発生する場合があります。

  警告が発生した単位ジョブは「スキップ」となりますが、トラッカ一覧上で所属するジョブネットワークは「正常終了」となります。

  警告発生対象がサブジョブネットワークの単位ジョブですと、親ジョブネットワークも「正常終了」となります。

- 警告時にトラッカが「予定(確定)[保留]」であった場合は、警告が発生した単位ジョブはトラッカフローで「スキップ」マークが付き、トラッカ一覧上では所属するジョブネットワークは「予定(確定)[保留]」のままとなります。

  警告発生対象がサブジョブネットワークの単位ジョブですと、親ジョブネットワークは「応答待ち」となります。

■保留設定時の注意事項

- 警告時にトラッカが「予定(確定)」で予定開始時間前の場合は、サブジョブネットワークにおいてのみ発生します。

  単位ジョブが実行前の場合は警告が発生してトラッカフローで「保留」となりますが、トラッカ一覧上では所属するジョブネットワークは「応答待ち」となり、親ジョブネットワークも「応答待ち」となります。

- 予定開始時間を過ぎていた場合は、同時実行数制御や負荷による未実行等の要因で発生する場合があります。

警告が発生した単位ジョブはトラッカフローで「保留」となり、トラッカ一覧上では所属するジョブネットワークは「応答待ち」となります。

対象がサブジョブネットワークの単位ジョブであった場合の親ジョブネットワークも「応答待ち」となります。

- 警告時にトラッカが「予定(確定)[保留]」で、単位ジョブが含まれるジョブネットワークが「保留」ですと単位ジョブも「保留」となります。(二重保留)

  警告が発生した単位ジョブはトラッカフロー上「保留」となりますが、トラッカ一覧上では所属するジョブネットワークは「予定(確定)[保留]」のままとなります。

  警告発生対象がサブジョブネットワークの単位ジョブであった場合の親ジョブネットワークは「応答待ち」となります。

- 警告時にトラッカが「予定(確定)[保留]」で、単位ジョブが「保留」ですと、警告が発生した単位ジョブはトラッカフロー上「保留」となりますが、トラッカ一覧上では、所属するジョブネットワークは「予定(確定)[保留]」のままとなります。

  警告発生対象がサブジョブネットワークの単位ジョブであった場合の親ジョブネットワークは「応答待ち」となります。

4.2.2.5. ［その他］タブ

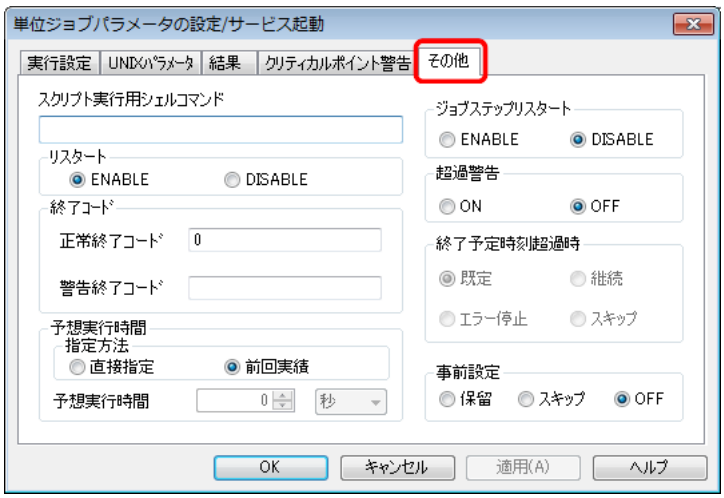


図4.12 ［単位ジョブパラメータの設定］－［その他］画面例

■スクリプト実行用シェルコマンド

単位ジョブスクリプトをシェルスクリプトとして実行するシェルの絶対パス名を指定します。

(UNIX版の場合のみ。Windows版はcmd.exeを起動することを前提に実装しておりますので、この欄に任意の値を設定しても正常動作しません)

例えば /bin/sh、/bin/csh、/bin/bash、/bin/tcsh などの、OSに搭載されているシェルの絶対パスを指定して下さい。

空欄のままの場合は、NQSのシェルストラテジー()の設定値に従って、自動的に実行シェルが選択されます。

ユーザが自身で作成した任意のシェルスクリプトや、その他のコマンド類のパスを記述しないで下さい。JobCenterはそれがOS搭載シェルであるかどうかを区別せず実行しようとしますが、実装上そのような使い方はサポートしておりませんのでご注意下さい。

■リスタート

システム再起動時にジョブが自動的に再実行されるかどうかを指定します。

再起動で正常に実行されるかどうかは、適切なプログラミング技術により実行者が保証しなければなりません。

設定が「ENABLE」の場合に再実行し、「DISABLE」の場合は再実行しません。

■終了コード

正常終了，警告終了とみなす終了コードの範囲を指定します。この指定に従い、ジョブの実行結果の判定をします。正常終了コードにも警告終了コードにもマッチしない終了コードは異常終了となります。正常終了コードの範囲にも警告終了コードの範囲にもマッチする場合は、警告終了となります。指定できる終了コードの範囲は0から255までとなります。

終了コードの指定には複数値(,区切り)や範囲値(-つなぎ)を記述できます。以下の例では、1または3または5から10の終了コードがマッチします(5と10もマッチする値に含まれます)。

```
例）1, 3, 5-10
```

正常終了コード	正常終了コードの範囲を指定します。
警告終了コード	警告終了コードの範囲を指定します。

正常終了コード、警告終了コードがともに空の場合は常に異常終了となります。

■予想実行時間

ジョブの実行にかかる時間の予測値を設定します。この予測時間はトラッカー覧のグラフィックモード（ガントチャート）などに反映され、ジョブネットワークの実行時間計算に使用されます。

［指定方法］

次から選択します。

直接指定	ユーザがジョブの予想実行時間を直接指定します。
前回実績	その単位ジョブが正常終了した最近の実行実績を、ジョブの予想実行時間とします。

［予想実行時間］

「指定方法」において「直接指定」を選択した場合、ユーザ側で時間を入力します。時間の数値と単位は次のいずれかを選択することができます。（　）内は設定範囲です。

秒	(0～31536000)
分	(0～525600)
時間	(0～8760)

日	(0～365)

■ジョブステップリスタート（UNIX版のみ）

マシンダウン時などにスクリプト内のチェックポイントで最後に通過した箇所からジョブを再実行します。UNIX版のみのサポートとなります。

異常終了コードに指定した終了コードの範囲内でジョブが終了した場合のみ、ジョブステップリスタート機能が使用可能になります。

「ENABLE」の場合、ジョブステップリスタートは有効に、「DISABLE」の場合は無効となります。

ジョブステップリスタート機能を使用するには、あらかじめジョブネットワークの［パラメータ］の［基本設定］タブを選択し、「エラー時の自動停止」を「停止する」に設定します。

チェックポイントの記述方法については、「JobCenter NQS機能利用の手引き」の「3.3 ジョブステップリスタート機能」、「4. JobCenterユーザコマンド一覧　#NScheck、およびnscpp」を参照してください。

■超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindowsイベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

「ON」の場合に警告メッセージを出力します。

「OFF」の場合は警告メッセージを出力せず、次に説明する終了予定時刻超過時の動作も行われません。

■終了予定時刻超過時

超過警告「ON」の場合に、予想実行時間を過ぎても単位ジョブが終了しない場合の動作を次から選択します。

既定	ユーザ環境設定に従います。
継続	単位ジョブの実行を継続します。
エラー停止	単位ジョブの実行を停止します。
スキップ	単位ジョブの実行をスキップします。

■事前設定

ジョブをあらかじめ保留またはスキップ状態にしておきます。

保留	ジョブネットワーク投入時に当該単位ジョブを保留状態にします。
スキップ	ジョブネットワーク投入時に当該単位ジョブをスキップ状態にします。
OFF	ジョブネットワーク投入時に当該単位ジョブを保留状態およびスキップ状態にしません。

事前設定のバージョン間の差異による注意事項

- JobCenter R12.5以前の事前保留の「ON」は事前設定の「保留」に対応します。

- JobCenter　　R12.5以前の事前保留の「OFF」は事前設定の「OFF」に対応します。
- JobCenter R12.5以前のJobCenter CL/Winからは利用できません。
  - 事前設定がスキップに設定されている単位ジョブの［単位ジョブパラメータの設定］－［その他］を、JobCenter R12.5以前のJobCenter CL/Winで開いた場合には、エラーメッセージが表示されます。そのあと画面では事前保留に「OFF」が設定された状態になります。
  - 単位ジョブのパラメータの事前設定がスキップに設定されている単位ジョブのジョブネットワークをJobCenter　R12.5以前のJobCenterのサーバで投入した場合には、事前スキップ状態にはなりません。事前保留が「OFF」の状態として投入されます。

4.2.3. 単位ジョブ間で情報を引き継ぐ

4.2.3.1. 後続ジョブへのパラメータ引き継ぎ(変数継承)

同一ルートジョブネットワーク内であれば、フロー上の任意の単位ジョブ、任意のサブジョブネットワーク内の単位ジョブの間で、変数継承機能により環境変数の値を引き継ぐことができます。

引き継ぐ値は単位ジョブの「出力結果」または「エラー出力結果」に特定のフォーマットで出力し、JobCenterに引き継ぐ値であることを認識させる必要があります。この値は後続のすべての単位ジョブの環境変数に設定されます。

1. ［単位ジョブパラメータの設定］ダイアログの［結果］タブで、変数継承を「STDOUT」または「STDERR」に設定します。「STDOUT」を選択すると単位ジョブの「出力結果」タブの情報を参照し、「STDERR」を選択すると単位ジョブの「エラー出力結果」タブの情報を参照します。
2. 単位ジョブの「出力結果」(または「エラー出力結果」)から、次の形式で出力されている部分を選択して読み取ります。

```
EXPORTVAR
VAR1=VAL1
VAR2=VAL2
VAR3=
VAR4
VAR5:VAL5
EXPORTVAR
```

3. 上記の最初のEXPORTVAR行の次の行から再度EXPORTVARが現れるまでの間の行について、「VAR=value」の形式の行を「環境変数VARにvalueを設定する」と解釈して後続の単位ジョブに引き継ぎます。

   上記の例ですと、後続の単位ジョブでは環境変数VAR1には「VAL1」という値が、VAR2には「VAL2」という値が設定され、VAR3にはNULL値が設定されて引き継がれます。環境変数VAR4は後続の単位ジョブでは削除されます。また、VAR5:VAL5の行は形式が異なるため解釈されません。

4. 次のようにEXPORTVARが複数回出力されている場合、奇数個目のEXPORTVAR～偶数個目のEXPORTVARではさまれた行が解釈の対象になります。

```
EXPORTVAR
VAR1=VAL1
EXPORTVAR
VAR2=VAL2
```

```
EXPORTVAR
VAR3=VAL3
EXPORTVAR
```

上記の場合、VAR1とVAR3について値が引き継がれ、VAR2については無視されます。

なお最後の偶数個目のEXPORTVARが無い場合は、最後の奇数個目のEXPORTVAR以下の行が全て解釈の対象となります。

■使用例（UNIX）

JOB1のパラメータで［結果］タブの変数継承を「STDOUT」に設定し、後続のJOB2で参照する。

- JOB1のスクリプト

```
.....
echo EXPORTVAR
echo VAR1=12345
echo VAR2=321
echo EXPORTVAR
```

- JOB1の「出力結果」タブ

```
.....
EXPORTVAR
VAR1=12345
VAR2=321
EXPORTVAR
```

- JOB2のスクリプト

```
env | grep VAR
```

- JOB2の「出力結果」タブ

```
...
VAR1=12345
VAR2=321
...
```

■使用例（Windows）

JOB1のパラメータで［結果］タブの変数継承を「STDOUT」に設定し、後続のJOB2で参照する。

- JOB1のスクリプト

```
.....
echo off
@echo EXPORTVAR
@echo VAR1=12345
@echo VAR2=321
@echo EXPORTVAR
```

- JOB1の「出力結果」タブ

```
.....
EXPORTVAR
VAR1=12345
```

```
VAR2=321
EXPORTVAR
```

- JOB2のスクリプト

```
echo %VAR1%
echo %VAR2%
```

- JOB2の「出力結果」タブ

```
12345
321
```

4.2.3.2. ジョブ別パラメータ

変数継承機能により先行単位ジョブから環境変数の値を設定できますが、さらに環境変数NSJNW_PARAMに関しては単位ジョブごとに異なる値を設定できます。この場合は引き継ぐ値を「NSJNW_PARAM(ジョブ識別子)=値」の形式で指定します。

異なる複数の単位ジョブに異なる値を引き継ぐ指定は、複数行を使って指定します。ジョブ識別子には単位ジョブ名、サブジョブネットワーク名、またはそれらを「: (コロン)」で連結したものを指定します。これらの識別子に単位ジョブの階層パスの一部が一致した場合に、その単位ジョブのパラメータと認識されます。

複数の識別子が一致した場合にはEXPORTVAR出力中で最後に一致した値を使用します。

■使用例（UNIX）

- JOB1の「出力結果」タブ

```
EXPORTVAR
NSJNW_PARAM(JOB2)=123
NSJNW_PARAM(SUBJNW1)=67 89
NSJNW_PARAM(SUBJNW1:JOB2)="aa bb"
EXPORTVAR
```

- 後続のJOB2に引き継がれた値

```
NSJNW_PARAM=123
```

- 後続のSUBJNW1のJOB1,JOB3,JOB4…に引き継がれた値

```
NSJNW_PARAM=67 89
```

- 後続のSUBJNW1のJOB2のみに引き継がれた値

```
NSJNW_PARAM="aa bb"
```

単位ジョブ間の変数継承の注意事項

■EXPORTVARを記述する先行単位ジョブは正常終了している必要があります。異常終了した場合、変数継承は行なわれませんので注意してください。

■EXPORTVAR～EXPORTVARの間で処理が止まったりしないように単位ジョブスクリプトの処理を記述してください。もし不完全な形式で「出力結果」(または「エラー出力結果」)に出力されると正しく解釈できず、思わぬ値が引き継がれたり、引き継がれなかったりする可能性があります。

特にdaemon.confでNQSDAEMON_OPTにtrkappend=ONが設定されている場合は注意してください。(<環境構築ガイド>の「5.2.1 Windows/UNIX共通」(2) NQSDAEMON_OPT」を参照)

■EXPORTVAR～EXPORTVARの出力行は単位ジョブの「出力結果」(または「エラー出力結果」)に最終的に記録されたものが解釈されるため、単位ジョブスクリプトに直接echo文で記述するほか、ユーザコマンドやシェル/バッチスクリプトの出力でも解釈可能です。

■LANG, HOME, LOGNAME, USER, TZ, ENVIRONMENTQSUB, NSJNWで始まる変数名は使用できません。ただし、NSJNW_PARAMは設定できます。

■「標準出力先」や「標準エラー出力先」を任意のファイルに変更した場合は値を引き継げません。単位ジョブパラメータの「変数継承」を適切に設定し、出力先ファイルを設定していない方の出力先に対して値を出力するようにしてください。
(「4.2.2.3 ［結果］タブ」を参照)

■ジョブネットワークに親子関係がある場合、同一ルートジョブネットワークの範囲内では、同じ変数名を使用できません。もし同一変数名を使用した場合は、後から変数継承を設定した値で上書きされます。

■「出力先」「エラー出力先」に改行以外のコントロールコード、またはユーザ設定と異なる漢字コードが含まれた場合には正常に動作しません。

■先行単位ジョブ内で設定した変数を後続単位ジョブ内で変更している場合、その中間からトラッカを再実行しても変数は元に戻らず、後続単位ジョブが変更した値のままとなります。

■Windows版で変数継承を行う場合は、不要なコマンド行が出力結果(またはエラー出力結果)に出力されないよう、最初のecho EXPORTVAR行の前に必ずecho offを設定してください。

■EXPORTVARで引き継ぐ環境変数名の長さは最大51バイトまでです。

■「変数名=値」の出力結果として許容される1行のサイズは最大1023バイトまでです。

■環境変数の個数・合計サイズはOS環境によって制限があります。詳細は<環境構築ガイド>の14章 「ジョブ実行時の環境変数の取り扱い」 を参照ください。

4.2.4. 単位ジョブ実行でユーザプロファイルをロードする

Windows版(～R12.7およびR12.10～)では単位ジョブの実行時にユーザプロファイルのロードをデフォルトで行いますが、ユーザプロファイルのロードが失敗する場合、例えばウィルススキャンソフトなどの他プロセスとのファイル競合によりプロファイルの読み込みができなかった場合、単位ジョブの実行開始を中断してバッチキューを停止します。

そのため、ユーザプロファイルをロードしないように設定することができます。設定の詳細については<環境構築ガイド>の「12.3.3 ジョブの実行設定」を参照してください。

単位ジョブから実行するユーザコマンドがユーザプロファイル読み込みを必要とする場合、本設定変更によりその動作に影響する可能性があります。

その場合は、本設定変更の代わりにウィルススキャンソフト側でプロファイルデータをスキャン対象外にする等の設定を、システム側で行う必要がありますのでご注意ください。

4.2.5. ERPジョブの実行スクリプトを設定する

SAP ERPとして実行される単位です。ERPジョブには、実行するジョブステップや実行ホスト、またERPジョブを実行するユーザ名などの実行条件を設定します。

ERPジョブの詳細については「JobCenter SAP機能利用の手引き」を参照してください。

1. 選択したERPジョブアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［スクリプト］を選択します。

2. スクリプト記述用のウィンドウが表示されます。

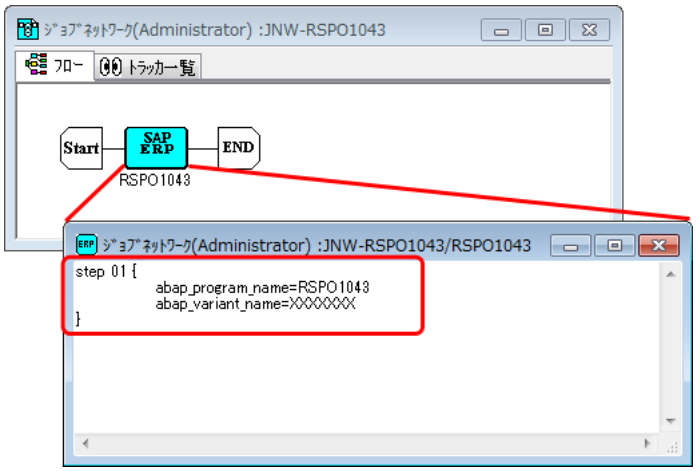


図4.13 ERPジョブのバッチファイル（Windows）の例

3. スクリプトを記述します。

4. 設定後、スクリプト記述用のウィンドウを閉じ、メニューバーの［ファイル］－［閉じる］を選択して、スクリプトの編集を終了します。

保存をせずにスクリプト記述用のウィンドウを閉じようとすると、次のダイアログが表示されます。スクリプト記述用のウィンドウを閉じる前に、必ず保存してください。

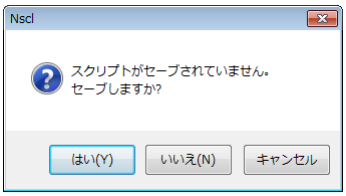


図4.14 保存をせずにスクリプト記述用のウィンドウを閉じようとしたときの画面例

4.2.6. ERPジョブの実行条件（パラメータ）を設定する

1. 選択したERPジョブアイコンを右クリックしたときのポップアップメニューから［ERPジョブパラメータ］を選択します。

2. ［ERPジョブパラメータ］ダイアログが表示されます。

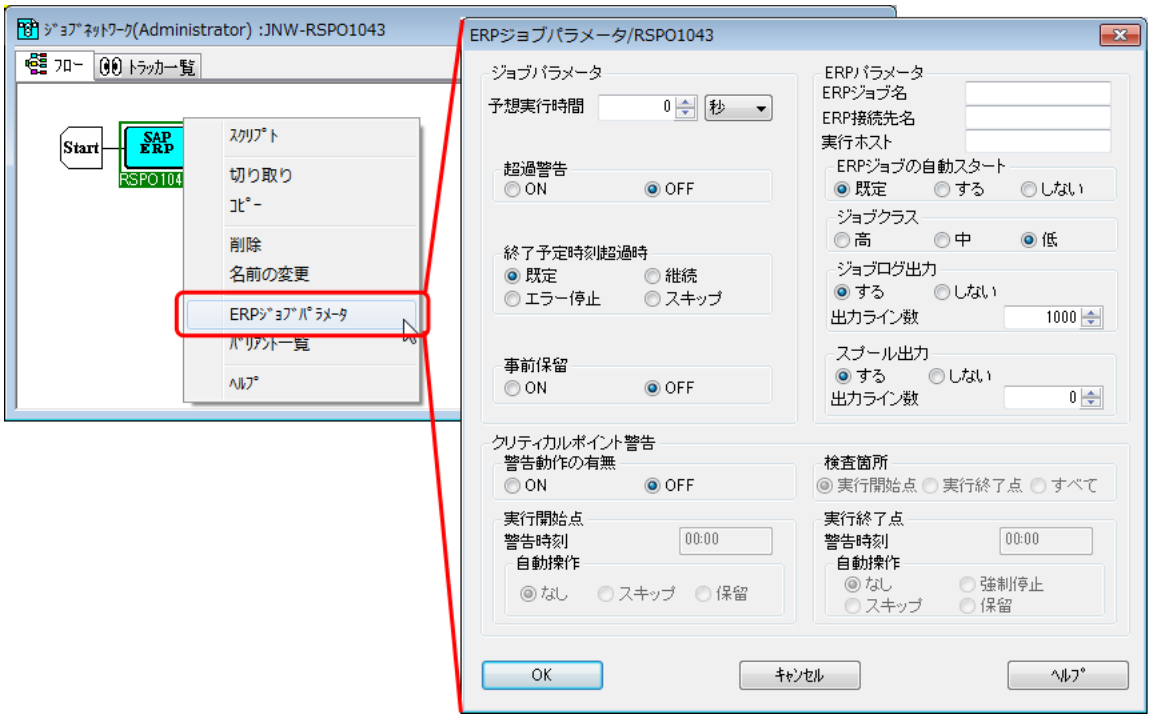


図4.15 ERPジョブパラメータの画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

［ERPジョブパラメータ］設定項目の詳細については「JobCenter SAP機能利用の手引き 1.5.1.4. SAP ERPジョブのパラメータ設定」を参照してください。

4.2.7. BIジョブの実行条件（パラメータ）を設定する

SAP BIとして実行される単位です。BIジョブには、BI接続先名、論理インフォパッケージバリアントIDを設定します。

BIジョブおよび［BIジョブパラメータ］設定項目の詳細については「JobCenter SAP機能利用の手引き 2.2.1.2. SAP BIジョブのパラメータ設定」を参照してください。

1. 実行条件のパラメータの設定は、選択したBIジョブアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［パラメータ］を選択します。

2. [BIジョブパラメータ] ダイアログが表示されます。

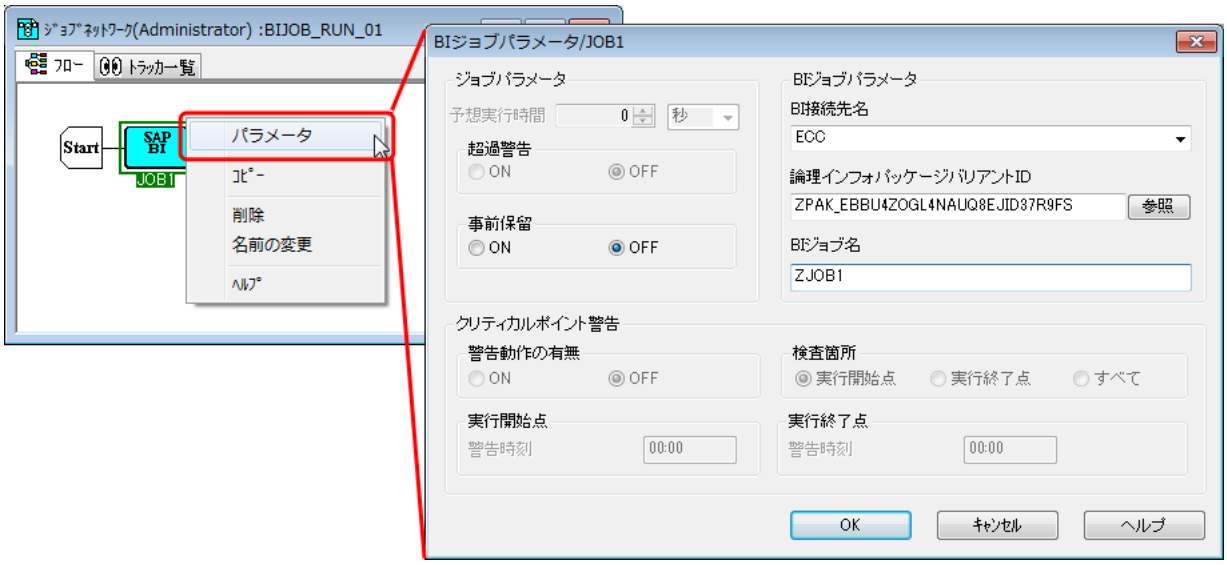


図4.16 BIジョブパラメータの画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4.2.8. PCジョブの実行条件（パラメータ）を設定する

SAP PCとして実行される単位です。PCジョブには、接続先名、プロセス・チェーン名を設定します。

PCジョブおよび［PCジョブパラメータ］設定項目の詳細については「JobCenter SAP機能利用の手引き 2.3.1.(2). SAP PCジョブのパラメータ設定」を参照してください。

1. 実行条件のパラメータの設定は、選択したPCジョブアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［パラメータ］を選択します。

2. ［PCジョブパラメータ］ダイアログが表示されます。

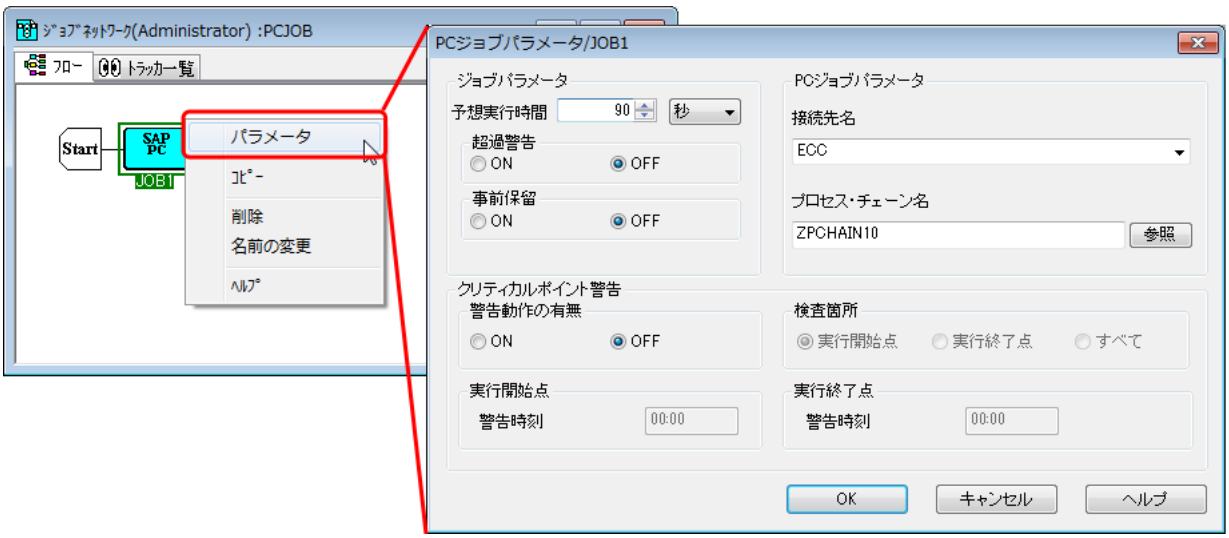


図4.17 PCジョブパラメータの画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4.2.9. サブジョブネットワークを配置する

1つのジョブネットワークとして実行される部品を異なるジョブネットワークフローの中に置くことによって、ジョブネットワークを階層的に定義することができます。配置する方法は、サブジョブネットワークオブジェクトを配置する方法と、ジョブネットワーク一覧で表示されるジョブネットワークをドラッグアンドドロップする方法があります。

■サブジョブネットワークオブジェクトを配置する

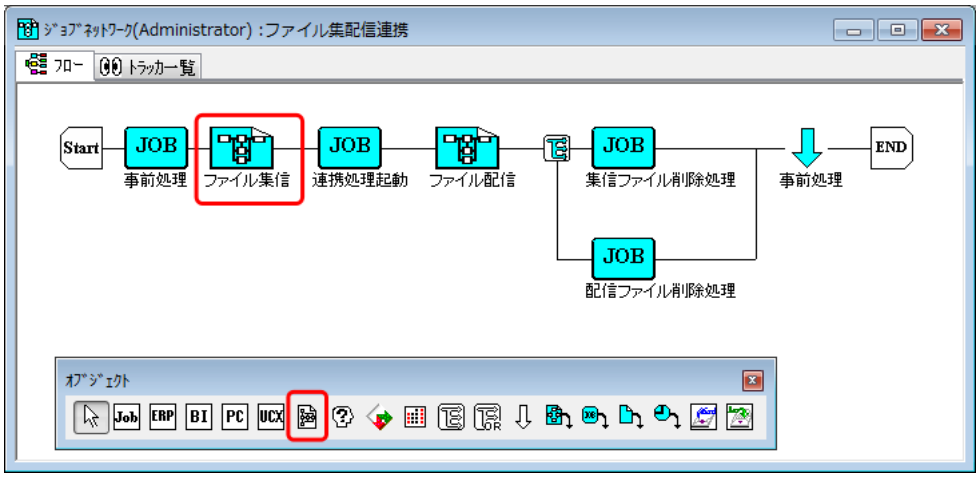


図4.18 サブジョブネットワーク部品の配置例

1. サブジョブネットワークオブジェクトを配置します。

2. ［サブジョブネットワークの追加］ダイアログが表示されます。

3. 実行するジョブネットワークの名前を選択します。既存のジョブネットワークから選択する方法とジョブネットワークを新規作成する方法があります。

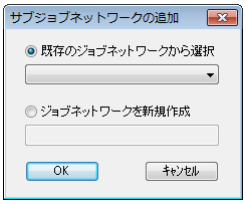


図4.19 ジョブネットワークの選択画面例

■既存のジョブネットワークから選択する

「既存のジョブネットワークから選択」を選択し、リストから実行するジョブネットワークの名前を指定します。選択可能なジョブネットワークは同一マシンおよび同一ユーザのものだけです。同一ジョブネットワーク中に同じ名前のサブジョブネットワークを置くことはできません。

■ジョブネットワークを新規作成する

「ジョブネットワークを新規作成」を選択し、テキストボックス内に新規に作成するジョブネットワーク名を入力します。ジョブネットワークは同一マシンおよび同一ユーザ内に作成されます。同一ジョブネットワーク中に同じ名前のサブジョブネットワークを作成することはできません。

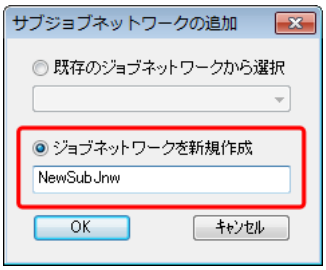


図4.20 ジョブネットワークの選択画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

5. ［グループの検索］ダイアログが表示されます

6. 作成したジョブネットワークを所属させるグループを選択します。また、グループを新しく作成することもできます。［新規グループ］ボタンをクリックし、グループを作成します。

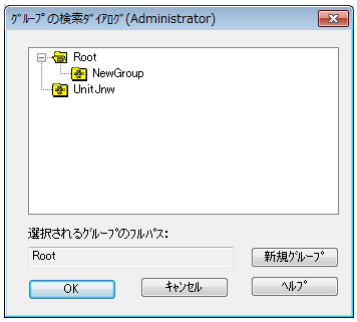


図4.21 ［グループの検索ダイアログ］画面例

7. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

■ジョブネットワーク一覧で表示されるジョブネットワークをドラッグアンドドロップする

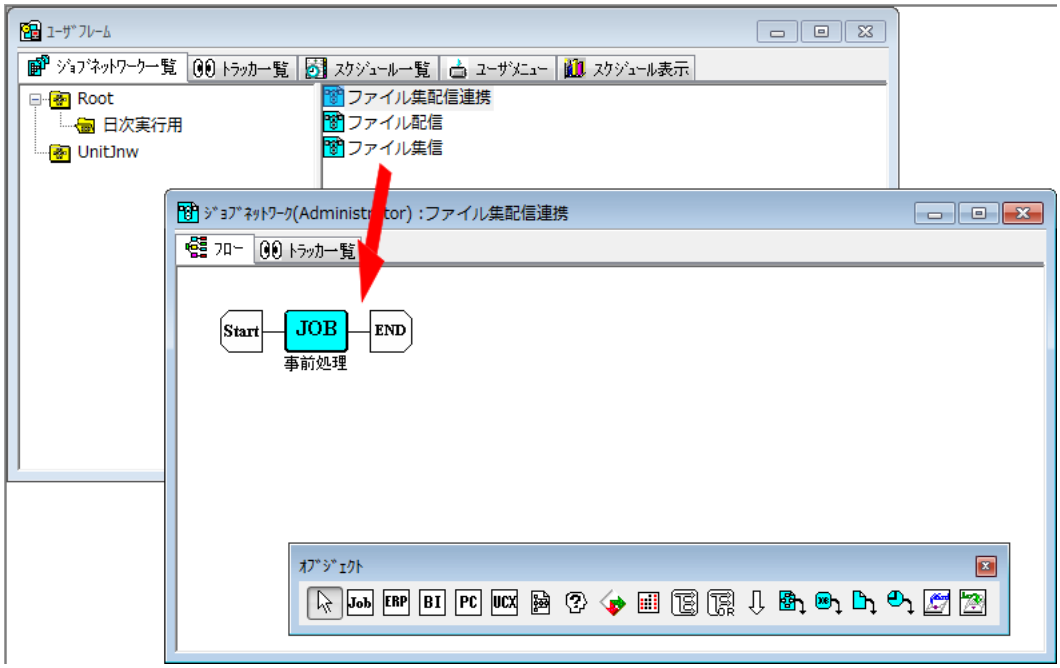


図4.22 サブジョブネットワークのドラッグアンドドロップ操作例

1. ジョブネットワーク一覧で表示されているジョブネットワークをドラッグします。

2. ジョブネットワークフロー中の配置したい場所にドロップします。

サブジョブネットワークオブジェクトに関する注意事項

サブジョブネットワークを作成して、ジョブネットワークを多階層化する場合、各ジョブネッワーク名およびサブジョブネットワーク名は、次の条件をすべて満たす必要があります。

ただし、ジョブネットワーク名を変更するなどで結果的に次の条件(区切り文字80byte以内の制限等)を満たさなくなっても、その操作の際にはエラー検出しない場合があります。その場合でもジョブネットワークの実行時にはエラーになりますので注意してください。

■各サブジョブネットワークについて、次の文字列が階層の区切り文字「:」（半角1字）を含め80[Byte]（全角40字、半角80字）以内に収まる必要があります。

最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:・・・:サブジョブネットワーク名

■最大階層が10階層以内である。

■当該ジョブネットワーク名、各サブジョブネットワーク名、各部品名が40[Byte]以内である。

■当該ジョブネットワークの実行ユーザ名が15[Byte]以内である。

■当該ジョブネットワークの実行ホスト名が60[Byte]以内である。

■当該ジョブネットワークおよび各サブジョブネットワークのコメントが40[Byte]以内である。

■当該ジョブネットワークおよび各サブジョブネットワークが次の条件を満たす。

190[Byte]＞（ホスト名[Byte]＋ユーザ名[Byte]×2＋ジョブネットワーク階層名[Byte]）

■当該ジョブネットワークおよび各サブジョブネットワークが次の条件を満たす。

260[Byte]＞（ホスト名[Byte]＋ユーザ名[Byte]＋ジョブネットワーク階層名[Byte]＋コメント[Byte]）

■当該ジョブネットワーク配下のすべてのジョブについて、次の条件を満たす。

180[Byte]＞（ホスト名[Byte]×2＋ユーザ名[Byte]＋ジョブネットワーク階層名[Byte]＋ジョブ名[Byte]＋投入先ホスト名[Byte]）

■当該ジョブネットワーク配下のすべてのダイアログ部品について、次の条件を満たす。

200[Byte]＞（ホスト名[Byte]＋ユーザ名[Byte]＋ジョブネットワーク階層名[Byte]＋部品名[Byte]＋ダイアログメッセージ[Byte]）

■当該ジョブネットワーク配下のすべてのコンティニュー部品について、次の条件を満たす。

200[Byte]＞（ホスト名[Byte]＋ユーザ名[Byte]＋ジョブネットワーク階層名[Byte]＋部品名[Byte]＋ジャンプ先部品名[Byte]）

■当該ジョブネットワーク配下のすべてのイベント送受信部品について、次の条件を満たす。

210[Byte]＞（ホスト名[Byte]＋ユーザ名[Byte]＋ジョブネットワーク階層名[Byte]＋部品名[Byte]＋送受信先ホスト名[Byte]＋イベントID[Byte]＋イベントメッセージ[Byte]）

■当該ジョブネットワーク配下のすべてのイベント送信部品について、次の条件を満たす。

84[Byte]＞（ジョブネットワーク階層名[Byte]＋部品名[Byte]）

4.2.10. サブジョブネットワークを参照する

1. 選択したサブジョブネットワークアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［開く］を選択します。

2. サブジョブネットワークのフローが表示されます。

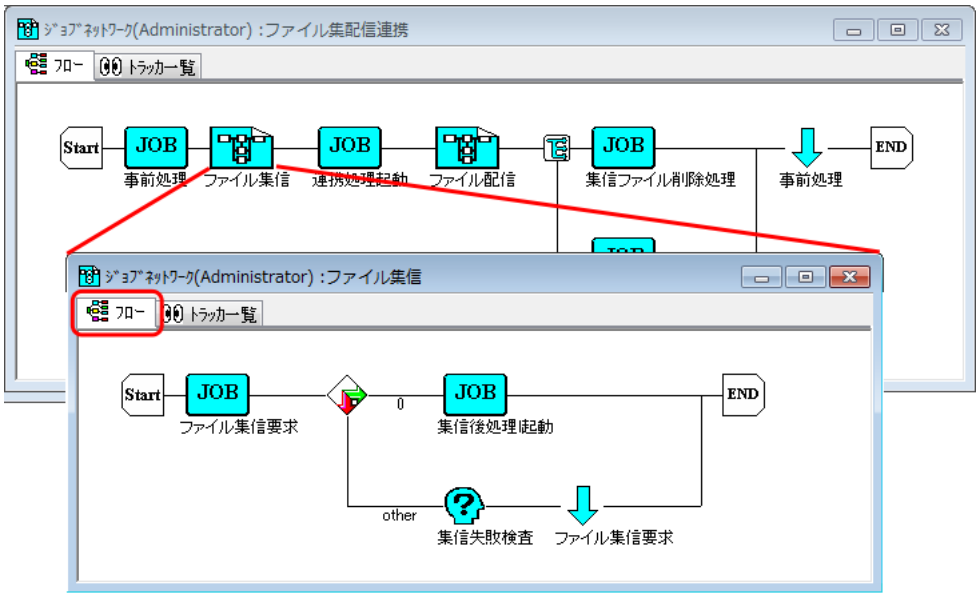


図4.23 サブジョブネットワークの参照例

4.3. 分岐部品

並列分岐、条件分岐、カレンダ分岐およびコンティニューによって、ジョブネットワークのフローを分岐できます。

4.3.1. 並列分岐のフローを追加、削除する

並列分岐部品は複数のジョブ、またはサブジョブネットワークを並列に実行するオブジェクトです。

デフォルトでは、2本のフローがあらかじめ準備されています。

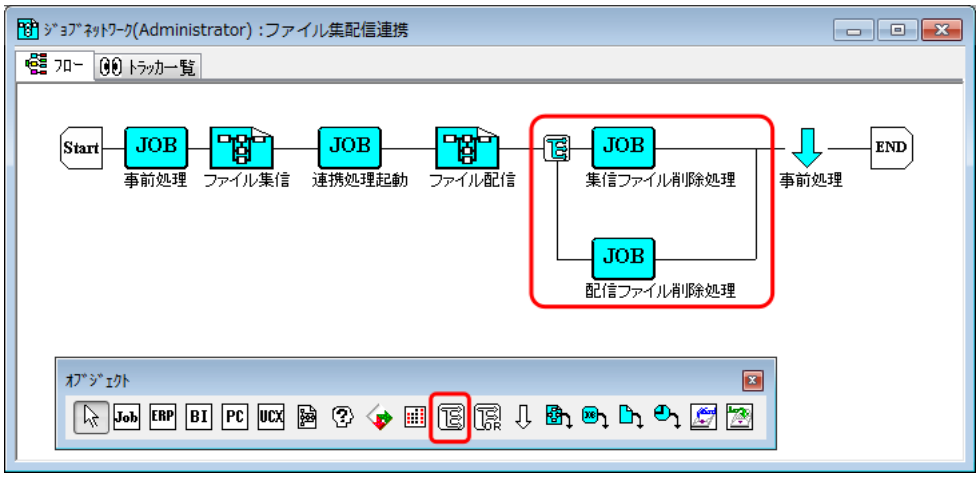


図4.24 並列分岐オブジェクト配置例

並列分岐のフローは、追加および削除できます。また、並列分岐のすべてのフローを並列分岐部品ごと削除することもできます。

4.3.1.1. 並列分岐のフローを追加する

1. 並列分岐アイコンを選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［フロー追加］を選択します。

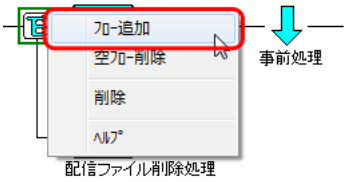


図4.25 並列分岐フローの追加

2. 並列分岐のフローが追加されます。

4.3.1.2. 並列分岐のフローを削除する

1. 削除するフロー上のオブジェクトをすべて削除します。

2. 並列分岐アイコンを選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［空フロー削除］を選択します。

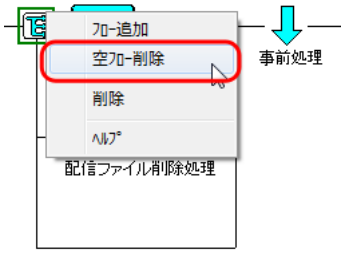


図4.26 並列分岐フローの削除

3. 並列分岐のフローが削除されます。

4.3.1.3. 並列分岐部品を削除する

1. 並列分岐アイコンを選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［削除］を選択します。

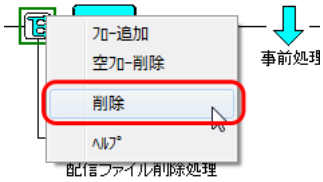


図4.27 並列分岐部品の削除

2. 並列分岐部品が削除されます。

■並列分岐のフロー上のオブジェクトはすべて削除されます。

■並列に並べられた単位ジョブの実行順序は不定です。分岐フローは上から下に順に解析されますが、単位ジョブが実際にキューに投入される際は内部で別の処理プロセスに受け渡されるため、タイミングにより実行順序が入れ替わることがあります。

実行順序を確定したい場合は待ち合わせ部品を併用してください。

■並列に単位ジョブやサブジョブネットワークを並べた場合、並列フロー内の単位ジョブやサブジョブネットワークはひとつのグループとして扱われます。

任意の並列分岐フロー上の部品が1つでもエラーになった場合は、実行順序に関係なく並列処理全体の結果としてエラーとして扱われます。

4.3.2. 条件分岐のフローを追加、削除する

条件分岐部品は単位ジョブ、またはサブジョブネットワークの終了コードによってその後のジョブネットワークの流れを変えるためのオブジェクトです。

条件分岐のフローは、追加および削除ができます。また、条件分岐のすべてのフローを条件分岐部品ごと削除することもできます。

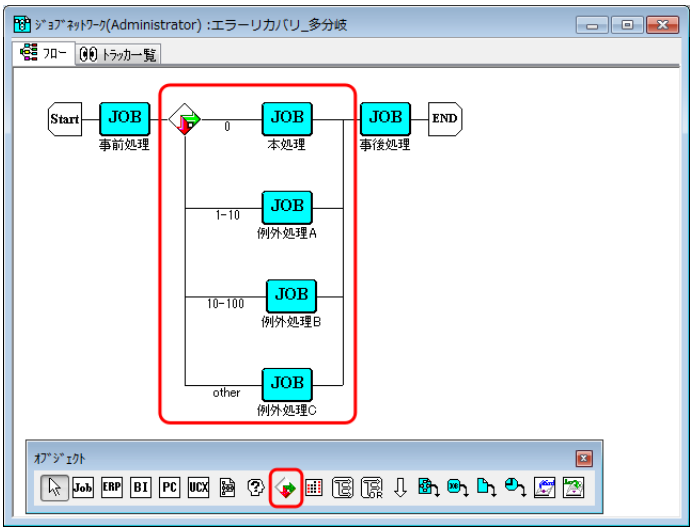


図4.28 条件分岐の配置画面例

4.3.2.1. 条件分岐のフローを追加する

1. 条件分岐アイコンを選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［フロー追加］を選択します。

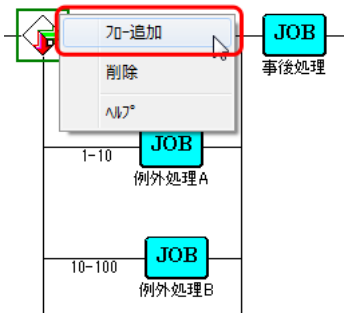


図4.29 条件分岐フローの追加

2. フローが追加されます。

4.3.2.2. 条件分岐のフローを削除する

1. フロー下の数字を選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［削除］を選択します。フロー下の数字は、終了コードの範囲を表しています。「4.3.3 条件分岐の分岐条件を設定する」を参照してください。

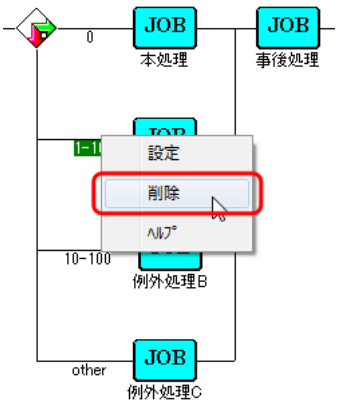


図4.30 条件分岐フローの削除

2. 選択したフローが削除されます。

選択したフロー上のオブジェクトも削除されますので注意してください。

4.3.2.3. 条件分岐部品を削除する

1. 条件分岐アイコンを選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［削除］を選択します。

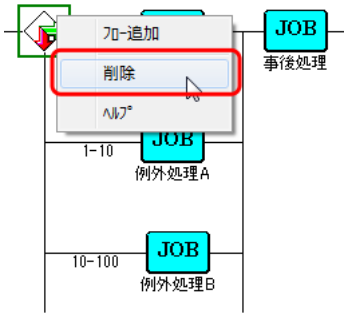


図4.31 条件分岐部品の削除

2. 条件分岐部品が削除されます。

条件分岐のフロー上のオブジェクトはすべて削除されます。

4.3.3. 条件分岐の分岐条件を設定する

条件分岐部品は、複数のフローに分岐して、それぞれに終了コードの範囲を設定することができます。デフォルトでは、終了コード0とそれ以外（other）があらかじめ準備されています。

1. 選択したフロー下の数字をダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択します。

2. ［分岐条件設定］ダイアログが表示されます。

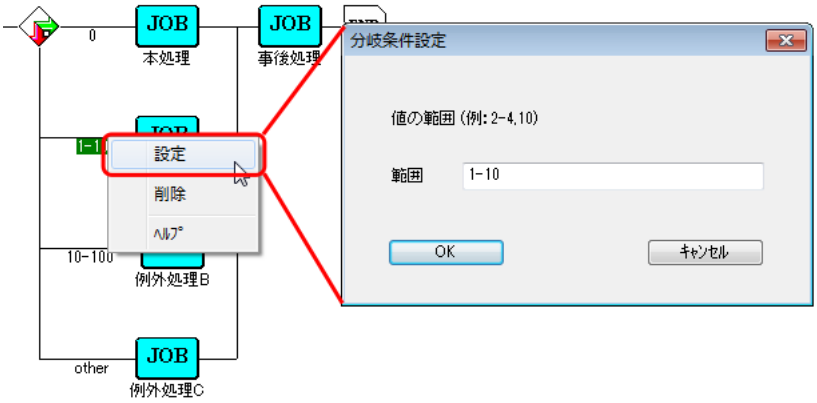


図4.32 分岐条件の設定画面例

3. 条件分岐の範囲を記入します。範囲は数値1つか、または2つの数字をハイフンでつないで指定します。コンマで区切って複数の範囲を書くこともできます。

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

分岐条件の設定上の注意事項

■条件分岐のフローの条件は、各フローで重複可能です。
（例）フローAの範囲：1-20、フローBの範囲：10-25ただしその場合、条件に合致した一番上のフローを通過します。

■サブジョブネットワークの終了コードはサブジョブネットワーク内の最後の単位ジョブの終了コードが適用されます。並列部品の終了コードは、すべてのパスの最後の部品の終了コードの最大値になります。

■条件分岐の直前の単位ジョブもしくはサブジョブネットワークが事前もしくは実行中にスキップされた場合、いずれもotherとして判定されます。

4.3.4. カレンダ分岐のスケジュールを設定する

日付によって実行するフローを選択する部品です。カレンダの条件を満たす場合は右側に進み、満たさなければ下側に進みます。カレンダの条件は、ジョブネットワーク開始予定の日付がカレンダにおいて実行日となっているかどうかで判定します。

この部品は補正時刻により動作基準時刻が変わります。詳細は<環境構築ガイド>の「6.5　システム環境の設定を変更する」を参照してください。

カレンダ分岐用のスケジュールはあらかじめ作成しておく必要があります。スケジュールの作成方法は、5章「スケジュールの操作方法」を参照してください。

1. カレンダ分岐オブジェクトを配置します。

2. ［スケジュール設定］ダイアログが表示されます。（オブジェクト配置後は［カレンダ分岐］アイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［開く］を選択すると［スケジュール設定］ダイアログが表示されます。）

3. あらかじめ作成しておいたカレンダ分岐用のスケジュールを選択します。

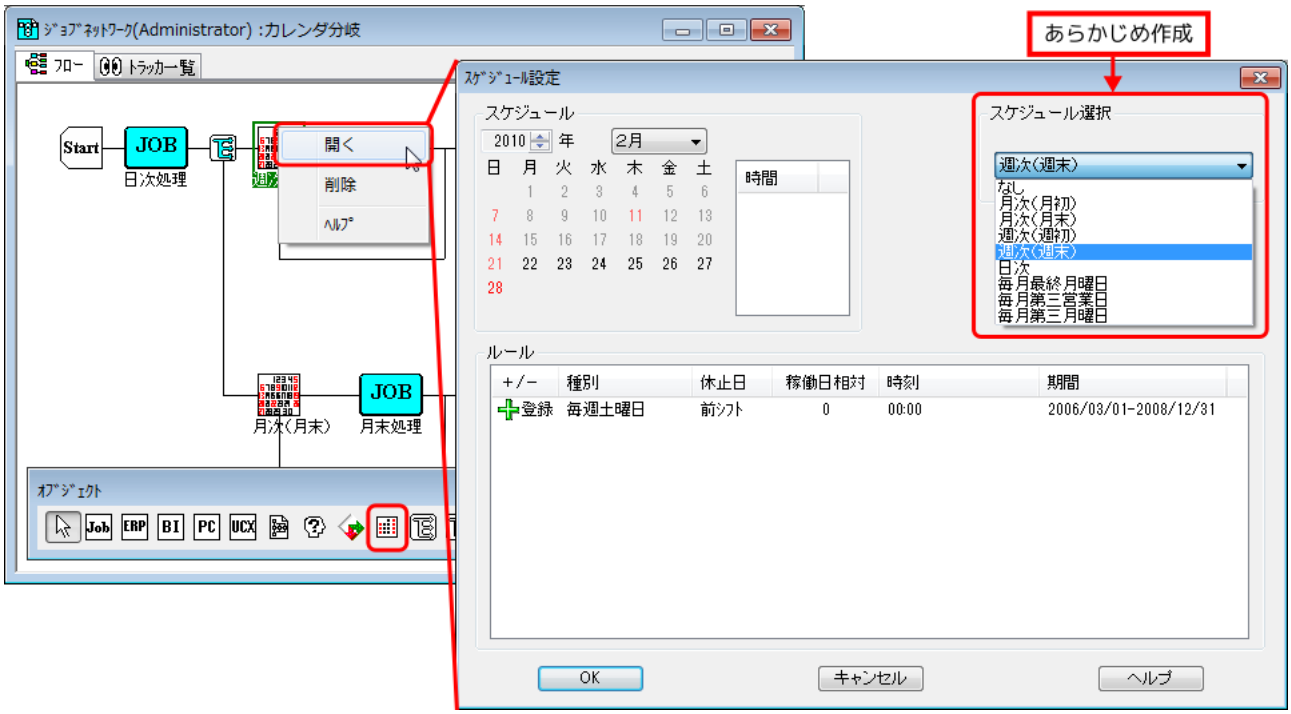


図4.33 スケジュール設定画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

■「スケジュール選択」でスケジュールを設定してジョブネットワークを保存した後、指定したスケジュールが削除された場合、ジョブネットワークを実行しても投入失敗にはならず「予定[確定]」状態となります。このとき、トラッカのログにはエラーが記述されます。

■カレンダ分岐そのものには偶数月/奇数月で分岐する機能は無いため、「種別：毎日、適用期間：1月1日～同年の1月31日、3月1日～同年の3月31日、...11月1日～同年の11月30日」のようにルールを設定したスケジュールをあらかじめ作成して、それを選択する必要があります。

4.3.5. コンティニューの条件を設定する

あらかじめ指定された単位ジョブ、ダイアログまたはERPジョブ、PCジョブ、UCXSingleジョブにジャンプしそのジョブ以降の処理を再度実行します。通常は、条件分岐の異常終了の経路に設定し、単位ジョブの終了状態が異常終了したときに再度処理を実行する場合に使用します。

1. コンティニューオブジェクトを配置します。

2. ［コンティニューの設定］ダイアログが表示されます。（オブジェクト配置後は、コンティニューアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択すると、［コンティニューの設定］ダイアログが表示されます。）

3. コンティニューの設定を行います。

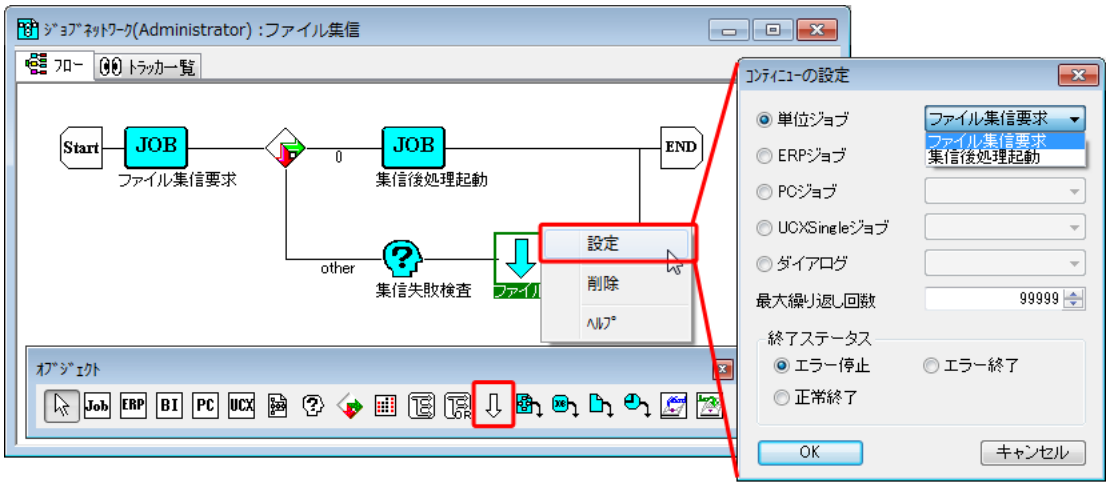


図4.34 コンティニューオブジェクト設定画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

図4.34「コンティニューオブジェクト設定画面例」では、コンティニューオブジェクトと条件分岐オブジェクトの組み合わせによって、リトライ処理を行っています。

［コンティニューの設定］ダイアログの設定項目は次のとおりです。

■ジョブ／ダイアログ／ERPジョブ／PCジョブ／UCXSingleジョブ

ジョブネットワークのフロー上の行き先を指定します。

行き先ジョブには単位ジョブ、ダイアログまたはERPジョブ、PCジョブ、UCXSingleジョブを選択します。

到達不能な行き先を指定すると、ジョブネットワークが予期しない終了の仕方をします。並列部品のフローからフローをまたいだり、フローの先に設定されている部品へは到達できません。

なお並列部品の外に行き先を指定すると、ジャンプしたタイミングで他のフロー上の実行中の部品がスキップされますので注意して下さい。

■最大繰り返し回数

［最大繰り返し回数］を入力します。上限は99999回です。

■終了ステータス

［エラー停止］、［エラー終了］、［正常終了］から選択します。

繰り返し処理回数が［最大繰り返し回数］を超えるとコンティニュージョブは［終了ステータス］に設定した状態になります。

4.3.6. OR分岐を設定する

4.3.6.1. OR分岐の設定

OR分岐部品は複数の分岐フローのうち1つが終了すると、後続の部品を実行するオブジェクトです。

デフォルトでは、2本のフローがあらかじめ準備されています。

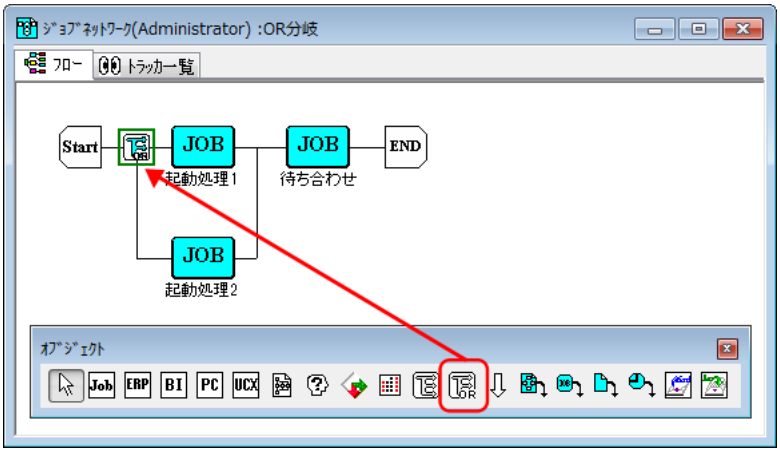


図4.35 OR分岐オブジェクト配置例

OR分岐のフローは、追加および削除できます。また、OR分岐のすべてのフローをOR分岐部品ごと削除することもできます。

OR分岐部品の設定手順については並列分岐に準じます。

「4.3.1 並列分岐のフローを追加、削除する」を参照してください。

4.3.6.2. OR分岐の動作

OR分岐は複数の分岐フローのうち1つが終了すると後続の部品を実行します。

分岐フローの終了判断は分岐フロー中の最後の部品が終了しているかどうかで判断します。

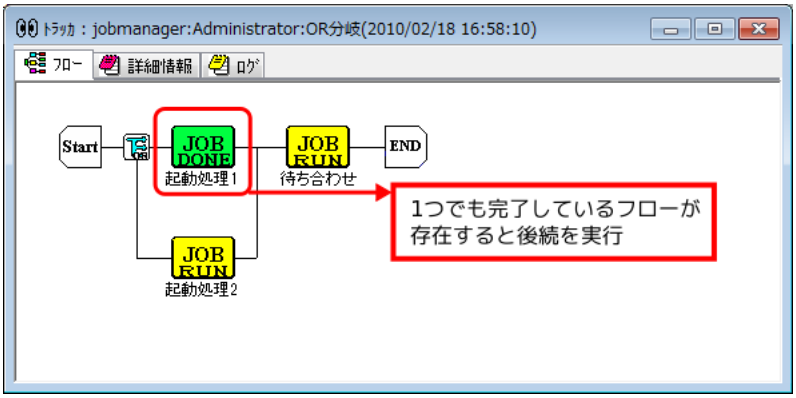


図4.36 OR分岐の動作例

最後の部品が親子関係をもつような部品の場合は以下のような動作となります。

最後の部品種別	判断対象
サブジョブネットワーク	サブジョブネットワーク自身の状態（サブジョブネットワークが「終了待ち」の場合は終了扱いとします）
条件分岐	選択された分岐フローの最後の部品の状態
カレンダ分岐	選択された分岐フローの最後の部品の状態
並列分岐	すべての分岐フローの最後の部品の状態
OR分岐	終了した分岐フローの最後の部品の状態

OR部品の後続に条件分岐部品がある場合は、最初に終了した分岐の最後の部品が判断対象となります。

注意事項

■OR分岐では、ジョブネットワークパラメータで「エラー時に自動停止」するよう設定していても、フローのどれかの単位ジョブで異常となりエラー停止となった後で別の分岐フローの部品が正常終了すると、OR分岐の後続の部品を実行します。これは、OR分岐がフロー上の部品が終了しているかどうかは判断しますが、終了状態は判断しないためです。 従って、分岐フロー中の部品が全て正常終了したときのみ後続を実行したい場合は、OR分岐ではなく並列分岐を使用した上で、ジョブネットワークパラメータの「エラー時の自動停止」を「停止する」に設定してください。

■1つも部品が無い分岐フローは分岐フロー自体が存在しないものとして扱われます。よって1つも部品が無い分岐フローが存在するOR分岐を実行してもすぐ後続が実行されるような動作にはなりません。ただし、すべての分岐フローに部品が存在しない場合はOR分岐は終了し後続が実行されます。

4.3.6.3. 各分岐フローの終了待ち合わせ

OR分岐フローの1つが終了した場合でも他の分岐フローの部品はそのまま継続して実行されます。OR分岐部品の後続の処理がすべて終了した時点で、OR分岐部品内に終了していない分岐フローが存在する場合は、全ての分岐フローの処理が終了するまでジョブネットワーク全体の終了を待ち合わせます。

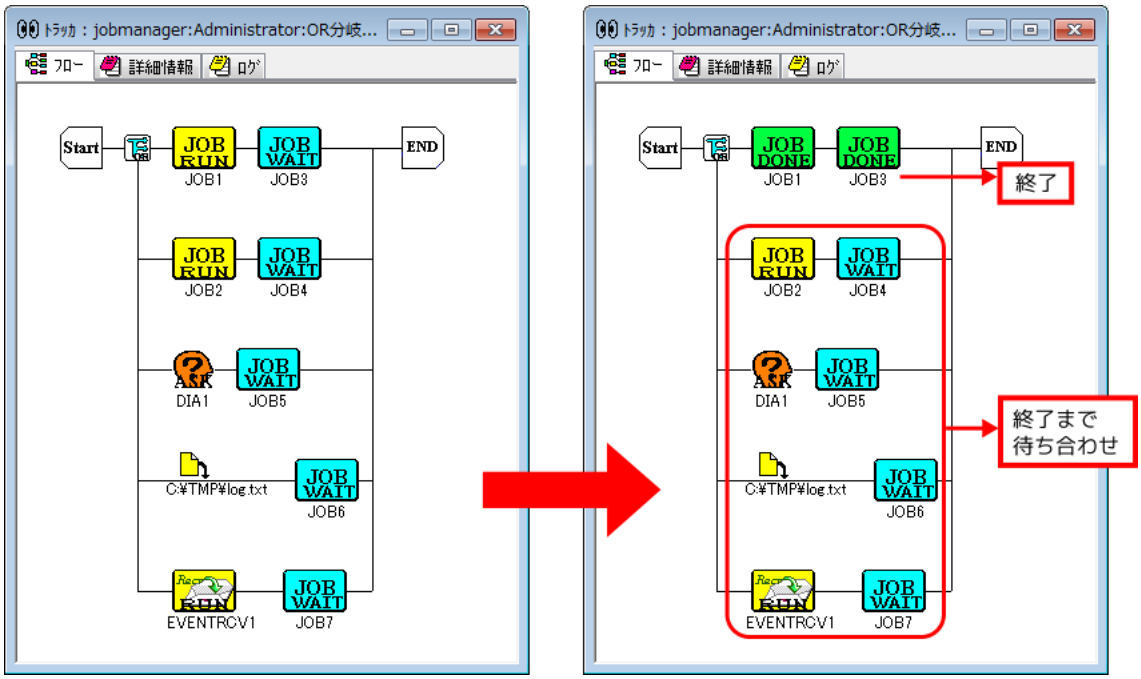


図4.37 OR分岐での1つのフローが終了したときの動作例

4.3.6.4. OR分岐を含むトラッカの状態

OR分岐を含むトラッカの状態表示は、分岐フローの状態により次のように変化します。

■OR分岐フローが１つも終了していない場合

既存の状態の優先順位が適用されます。

優先順位の詳細は、基本操作ガイドの「6.1.2 親子関係を持つジョブネットワークトラッカの表示」の優先順位を参照してください。

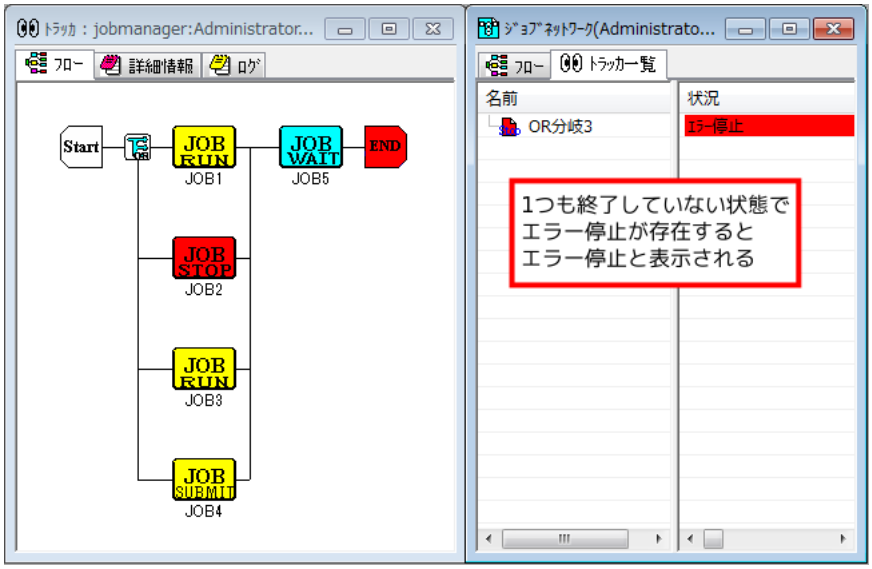


図4.38 OR分岐が１つも終了していない場合のトラッカ状態例

■ １つのOR分岐フローが終了した場合

終了したOR分岐フローの部品だけを用いてジョブネットワークトラッカの状態を決定します。

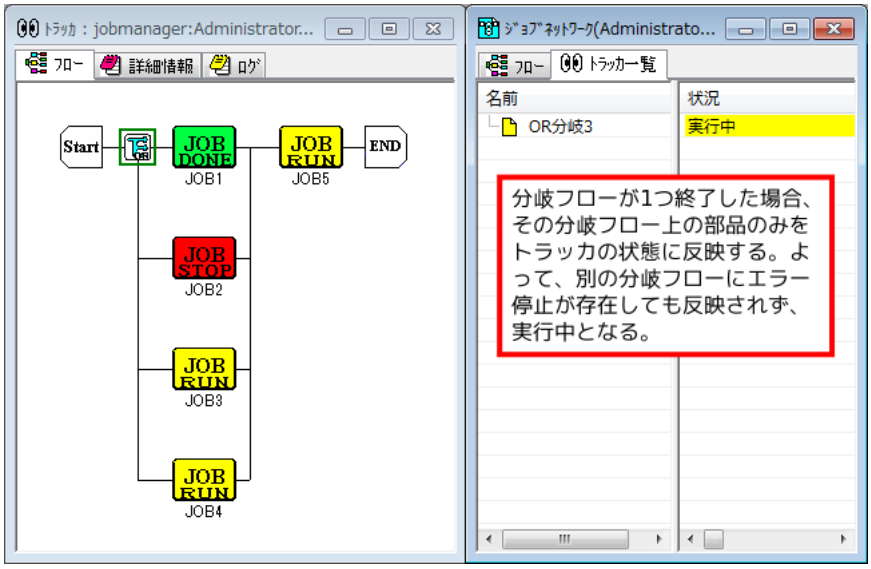


図4.39 OR分岐が１つ終了した場合のトラッカ状態例

■OR分岐フローが複数終了した場合

複数終了した分岐フローがある場合は、終了した分岐フロー間の状態優先順位によりトラッカ一覧の状態表示に反映されます。

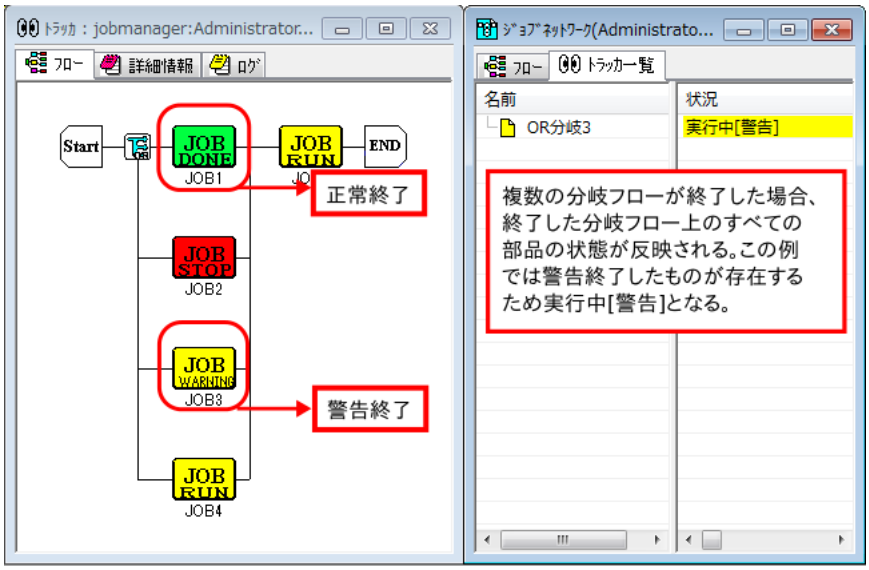


図4.40 OR分岐が複数終了した場合のトラッカ状態例

■OR分岐を含むジョブネットワークが終了した場合

OR分岐の中で終了していない分岐フローに実行中の単位ジョブが存在する場合は、トラッカー覧上の表示は「終了待ち」状態になります。　サブジョブネットワークの場合でも同様に「終了待ち」状態になります。サブジョブネットワークの「終了待ち」状態は親のジョブネットワークの表示状態に反映されます。

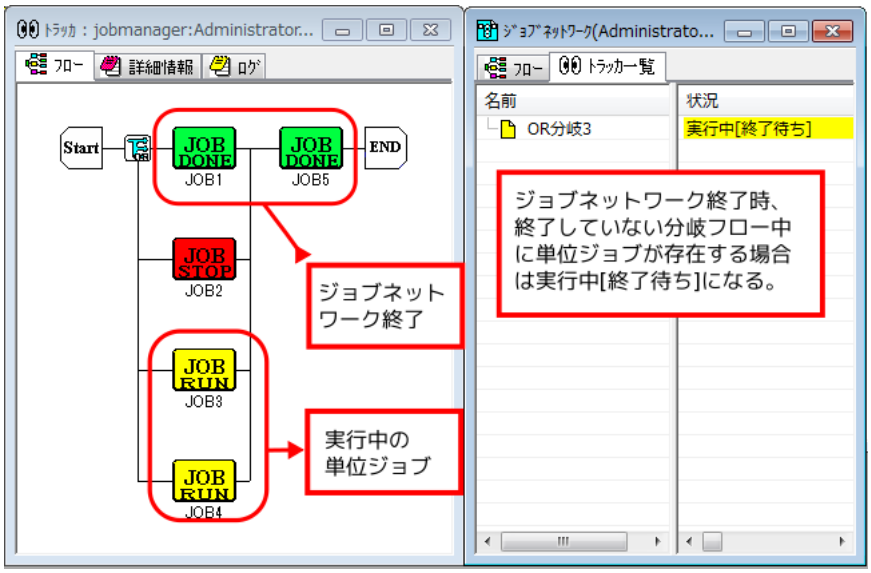


図4.41 ジョブネットワーク終了時に実行中の単位ジョブがある場合のトラッカ状態例

図4.41「ジョブネットワーク終了時に実行中の単位ジョブがある場合のトラッカ状態例」の例では、OR分岐の中で実行中の単位ジョブが終了した時には、トラッカ一覧の表示が［終了状態］に変化します。

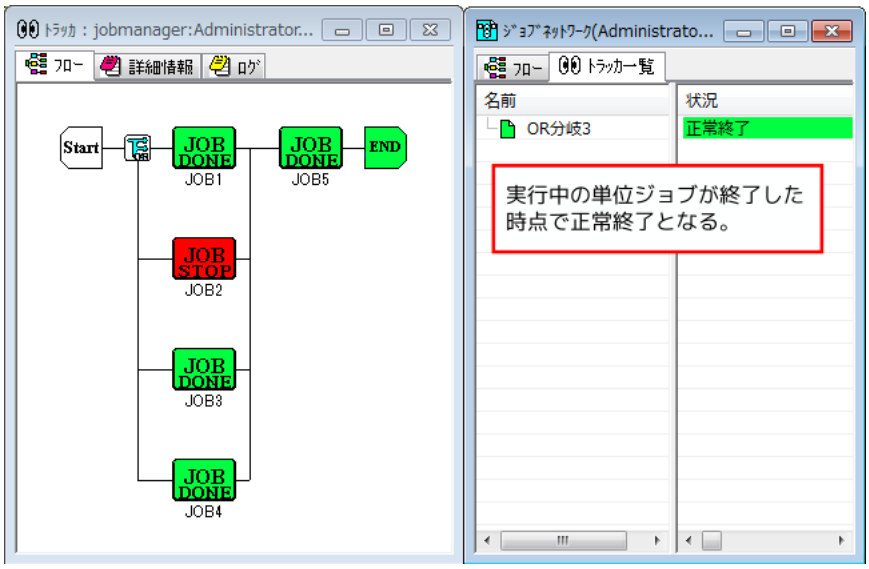


図4.42 すべての単位ジョブが終了した場合のトラッカ状態例

トラッカ一覧の表示上で［正常終了］で表示されるトラッカについては、アーカイブ待ち時間が経過するとアーカイブ処理が行われます。　また、上記は単位ジョブがエラー停止になっている例ですが、他の部品でも同様の動作となります。

■トラッカがアーカイブされると、OR分岐に含まれるエラー停止状態の単位ジョブについては、スキップや再実行などの操作を行うことはできなくなります。

■OR分岐を含むジョブネットワークが終了した場合は、OR分岐の中の単位ジョブがエラー停止の状態であってもジョブネットワーク自体が終了した扱いになるため、［同時実行数］のカウント対象になりませんので注意してください。

4.4. 待ち合わせ部品

ダイアログ、ジョブ待ち合わせ、サブジョブネットワーク待ち合わせ、ファイル待ち合わせおよび時間待ち合わせによって、ジョブネットワークの実行の待ち合わせができます。

4.4.1. ダイアログの設定をする

ユーザからの応答を待ち合わせるための部品です。ユーザからの応答が行われるまで、それ以降の処理は待ち合わせ状態となります。

1. ダイアログアイコンを配置します。

2. 配置したダイアログアイコンを選択し、ダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択します。

3. ［ダイアログのメッセージ設定］ダイアログが表示されます。

4. ダイアログメッセージの設定を行います。

図4.43 ダイアログオブジェクトの設定画面例

5. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

ユーザからの応答の方法は、「6.17　ダイアログのユーザからの応答を行う（終了ステータスを決定する）」を参照してください。

［ダイアログのメッセージ設定］ダイアログの設定項目は次のとおりです。

■メッセージ

ユーザに問い合わせるメッセージを設定します。

英数字、日本語、全角カナ文字（混在可能）、半角256文字、全角128文字以内で指定してください。

■予想実行時間

ジョブの実行にかかる時間の予測値を設定します。予測値はトラッカー一覧のグラフィックモード（ガントチャート）などに反映されます。ジョブネットワークの実行時間算出に使用されます。

予想実行時間を算出する方法は次から選択します。

直接指定	ユーザがジョブの予想実行時間を直接指定します。

前回実績	正常終了した最近のジョブの実行実績を、ジョブの予想実行時間とします。

［直接指定］を選択した場合、ユーザ側で予想実行時間を指定します。

数値と単位は次のいずれかを選択することができます。（　）内は指定可能範囲です。

秒	(0～31536000)
分	(0～525600)
時間	(0～8760)
日	(0～365)

4.4.2. ジョブ待ち合わせの設定をする

指定した単位ジョブの終了を待ち合わせます。複雑な順序関係を設定するために使用します。また、単位ジョブと条件分岐の間に別の単位ジョブを入れる場合にも使用します。

同じジョブネットワークに所属する単位ジョブの待ち合わせ、ジョブ待ち合わせ部品が所属するジョブネットワークまたはサブジョブネットワーク以外のジョブネットワーク中の単位ジョブの待ち合わせ、および他ユーザのジョブネットワーク中の単位ジョブの待ち合わせが可能です。同様にSAP ERPジョブやSAP PCジョブも指定可能です。（SAP BIジョブは指定できません）

不正な指定を行った場合でも、設定を保存する際には特に警告しません。その場合、待ち合わせをしないで次の処理に進みます。

4.4.2.1. 同じジョブネットワークに所属する単位ジョブの待ち合わせ

1. ジョブ待ち合わせオブジェクトを配置します。
2. ［ジョブ待ち合わせの設定］ダイアログが表示されます。（オブジェクト配置後は、ジョブ待ち合わせアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択すると、［ジョブ待ち合わせの設定］ダイアログが表示されます。）
3. ジョブネットワーク待ち合わせの設定を行います。

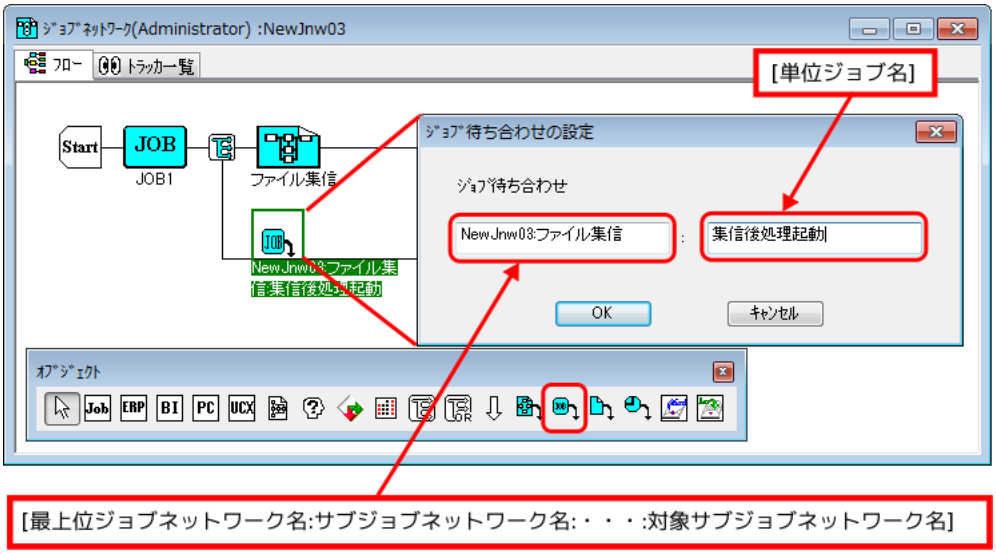


図4.44 ジョブ待ち合わせの設定例

4. 右側のボックスには待ち合わせの対象とする単位ジョブ名を指定します。

5. 左側のボックスにはその単位ジョブが所属するジョブネットワーク名を指定します。［（対象ジョブネットワークが属する）最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:・・・:対象サブジョブネットワーク名］の形式で記述します。ジョブネットワーク名の指定を省略した場合は、ジョブ待ち合わせ部品を設定したジョブネットワーク自身が対象となります。

6. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4.4.2.2. ジョブ待ち合わせ部品が所属するジョブネットワークまたはサブジョブネットワーク以外のジョブネットワーク、および他ユーザのジョブネットワーク中の単位ジョブの待ち合わせ

1の④において、［ジョブ待ち合わせの設定］ダイアログの左側のボックスに、［:ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:・・・:最下位サブジョブネットワーク名］の形式で記述します。

図4.45 ジョブ待ち合わせ部品の所属するジョブネットワーク以外のジョブ待ち合わせの設定例

他のジョブネットワークに所属する単位ジョブを待ち合わせる際の注意事項

■別トラッカについては、予定(確定)状態、実行中、正常終了、異常終了で、かつアーカイブ前のトラッカが待ち合わせ対象になります。

■別トラッカ中の単位ジョブ待ち合わせで、待ち合わせる同名のトラッカが複数見つかった場合、待ち合わせ部品が所属する自身のトラッカよりも投入時刻が古く、かつその中で最新の時刻のトラッカが待ち合せ相手となります。

■別トラッカ中の単位ジョブ待ち合わせで、待ち合せ相手が他のトラッカ上に見つからなかった場合、待ち合わせを行わずに正常終了してフロー上の次の部品の実行を行います。ただし終了コード自体は1を返すため、条件分岐で結果を検出することが可能です。

4.4.3. サブジョブネットワーク待ち合わせの設定をする

指定したサブジョブネットワークの終了を待ち合わせます。複雑な順序関係を設定するために使用します。

同じジョブネットワークに所属するサブジョブネットワーク、またはサブジョブネットワーク内のサブジョブネットワークの待ち合わせと、サブジョブネットワーク待ち合わせ部品が所属するジョブネットワーク中にないジョブネットワーク、および他ユーザのジョブネットワークの待ち合わせが可能です。

不正な指定を行った場合は、待ち合わせをしないで次の処理に進みます。

4.4.3.1. 同じジョブネットワークに所属するサブジョブネットワーク、またはサブジョブネットワーク内のサブジョブネットワークの待ち合わせ

1. サブジョブネットワーク待ち合わせオブジェクトを配置します。

2. ［サブジョブネットワーク待ち合わせの設定］ダイアログが表示されます。（オブジェクト配置後は、サブジョブネットワーク待ち合わせアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択すると、［サブジョブネットワーク待ち合わせの設定］ダイアログが表示されます。）

3. サブジョブネットワーク待ち合わせの設定を行います。

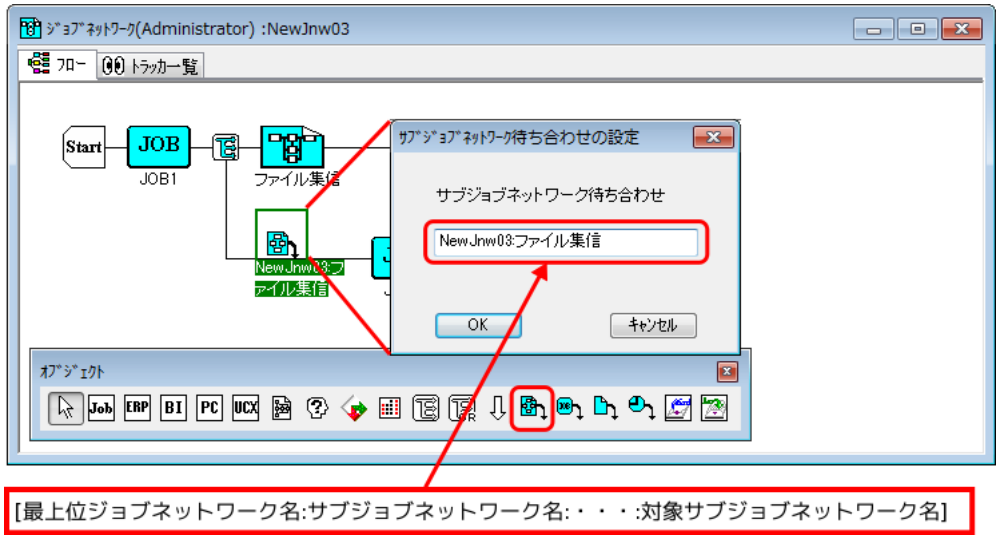


図4.46 サブジョブネットワーク待ち合わせの設定例

4. ボックスには、待ち合わせるサブジョブネットワーク名を指定します。［（対象ジョブネットワークが所属する）最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:・・・:対象サブジョブネットワーク名］の形式で記述します。

5. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4.4.3.2. サブジョブネットワーク待ち合わせ部品が所属するジョブネットワーク中にないジョブネットワーク、および他ユーザのジョブネットワークの待ち合わせ

1の④で、［サブジョブネットワーク待ち合わせの設定］ダイアログのボックスに、［サブジョブネットワーク待ち合わせの設定］ダイアログに［:ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:・・・:対象サブジョブネットワーク名］の形式で記述します。

他のジョブネットワークを待ち合わせる際の注意事項

■別トラッカについては、予定(確定)状態、実行中、正常終了、異常終了で、かつアーカイブ前のトラッカが待ち合わせ対象になります。

■待ち合わせる同名のトラッカが複数見つかった場合、待ち合わせ部品が所属する自身のトラッカよりも投入時刻が古く、かつその中で最新の時刻のトラッカが待ち合わせ相手となります。

■待ち合わせ相手が見つからなかった場合、待ち合わせを行わずに正常終了してフロー上の次の部品の実行を行います。ただし終了コード自体は1を返すため、条件分岐で結果を検出することが可能です。

4.4.4. ファイル待ち合わせの設定をする

指定したファイルに対して存在する状態と存在しない状態、および更新状態を待ち合わせます。指定したファイルが条件を満たさない場合は、一定時間ごとにファイルの状態をチェックします。

この部品は補正時刻により動作基準時刻が変わります。詳細は<環境構築ガイド>の「6.5　システム環境の設定を変更する」を参照してください。

ジョブネットワーク定義を設定するMG/SVが稼動するマシン上の、ローカルファイルのチェック間隔は5秒であり、変更できません。

他のJobCenterサーバ上のファイルのチェック間隔はdaemon.conf設定で変更できます(後述)。

1. ファイル待ち合わせオブジェクトを配置します。

2. ［ファイル待ち合わせの設定］ダイアログが表示されます。（オブジェクト配置後は、ファイル待ち合わせアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択すると、［ファイル待ち合わせの設定］ダイアログが表示されます。）

3. ファイル待ち合わせの設定を行います。

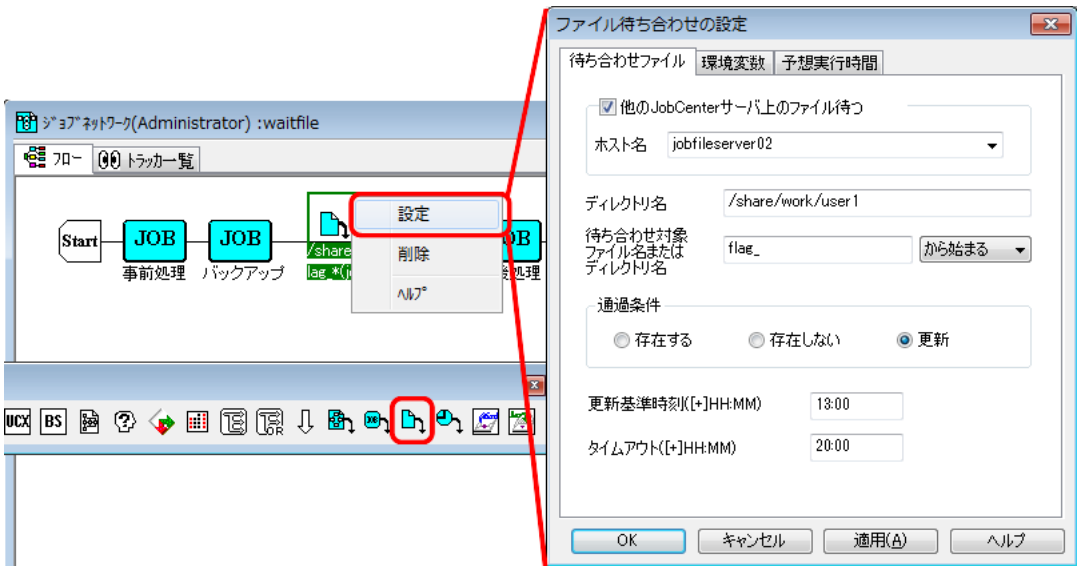


図4.47 ファイル待ち合わせ設定画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

待ち合わせファイルタブの設定項目は次のとおりです。

■他のJobCenterサーバ上のファイルを待つ

リモートマシン上のファイルに対して待ち合わせ処理を行う場合、チェックボックスにチェックを入れてください。本パラメータにチェックを入れると、ホスト名の入力欄が有効になりますので、マネージャフレームのマシンアイコンで認識されているリモートマシンのホスト名を入力してください。

本パラメータにチェックを入れない場合、ジョブネットワークを実行したマシン上のファイルを待ち合わせます。

- 他のJobCenterサーバ上のファイルを待ち合わせる場合、下記の条件を満たしてください。
  - リモートマシンとローカルマシンが共にR12.8以降のバージョンのJobCenter MG/SVがインストールされている。

- ホスト名には名前解決が正常に行われるリモートマシン名が設定されている。
- リモートマシンとローカルマシンのOS上の時刻を合わせてある。リモートマシン上のファイル更新を待ち合わせる場合、通過条件はリモートマシンの時刻に依存します。
- ファイル名にマルチバイト文字を使用する場合には、リモートマシンとローカルマシンのJobCenter利用言語設定(インストール時の言語設定)が一致している。

■ 他のJobCenterサーバ上のファイルを待ち合わせる場合、デフォルトでは以下のように設定されています。設定を変更する場合は、<環境構築ガイド>の「5.2 デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください。

- リモートマシン上のファイルを20秒間隔で確認します。
- リモートマシン上のファイル待ち合わせを行うファイル待ち合わせ部品の同時実行上限数は30となります。ファイル待ち合わせ部品のリモートファイル待ち合わせ処理が実行上限数を超えて行われた場合、リモートファイル待ち合わせ処理は実行待ち状態となります。同時実行数に空きができるまで待ち合わせてからリモートファイル待ち合わせ処理が実行されます。
- リモートマシンにファイルチェック問い合わせパケットを送信してから処理結果パケットが返って来るまでのタイムアウト時間を変更できます。
- 通信障害が900秒(15分)以上連続した場合には、コマンドをエラー終了させます。

■ディレクトリ名

待ち合わせ対象が存在するディレクトリの絶対パス名を入力します。

■ Windows版JobCenterの場合、ドライブ名からのパスを入力します。（例：C:\tmp）

■ UNIX版JobCenterの場合、ルートディレクトリからのパスを入力します。（例：/tmp）

■待ち合わせ対象ファイル名またはディレクトリ名

待ち合わせ処理を行うファイル名またはディレクトリ名を入力します。

待ち合わせ条件を次から指定します。

一致する	待ち合わせ対象ファイル名と完全に一致するファイル名に対して待ち合わせ処理を行います。
を含む	待ち合わせ対象ファイル名と部分一致するファイル名に対して待ち合わせ処理を行います。
から始まる	待ち合わせ対象ファイル名と先頭文字列が一致するファイル名に対して待ち合わせ処理を行います。

待ち合わせ条件を満たすファイルが複数存在する場合、待ち合わせ処理は更新時刻が最も新しいファイルに対して行います。

■通過条件

ファイル待ち合わせオブジェクトの通過条件を次から指定します。

存在する	指定ファイルが存在した場合に、オブジェクトを通過します。

存在しない	指定ファイルが存在しない場合に、オブジェクトを通過します。
更新	更新基準時刻以降に指定ファイルが更新された場合に、オブジェクトを通過します。

■更新基準時刻

通過条件で更新を指定した場合に有効となります。

当日の指定された時間（更新基準時刻）以前のファイルは更新されていないとみなします。

■タイムアウト

ファイル待ち合わせタイムアウト時間を設定します。

次の範囲から指定します。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+00:00～+99:59

環境変数タブの設定項目は次のとおりです。

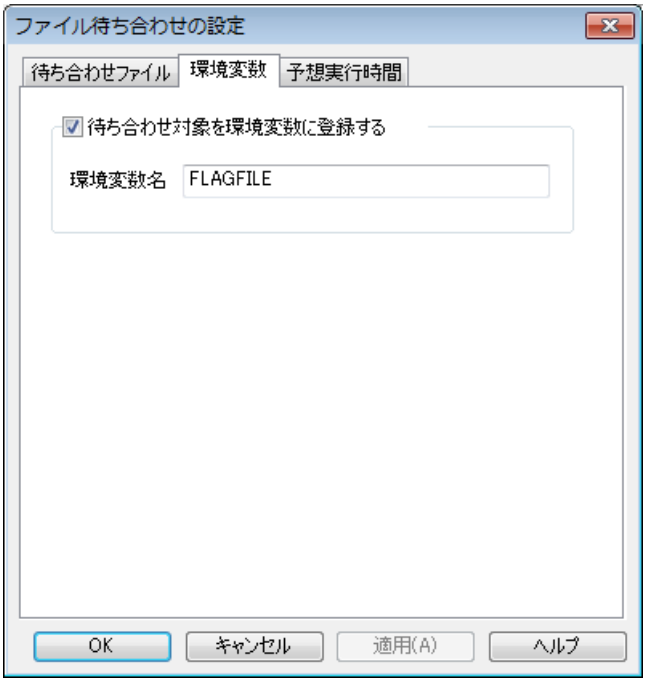


図4.48 環境変数の設定画面例

■待ち合わせ対象を環境変数に登録する

待ち合わせ通過対象のファイル名を環境変数に登録して後続のフローで参照することができます。本パラメータにチェックを入れると、環境変数名の入力欄が有効になりますので、環境変数名を入力して下さい。

入力できる環境変数名には次の制限事項があります。

1. 変数名の長さは最大51バイトまでです。

2. 空白、特殊文字および以下の文字は使用できません。

=#'"

3. 先頭が「NSJNW_」「QSUB_」で始まる変数名は使用できません。（ただし「NSJNW_」「QSUB_」という変数名は使用可能です。）

予想実行時間タブの設定項目は次のとおりです。

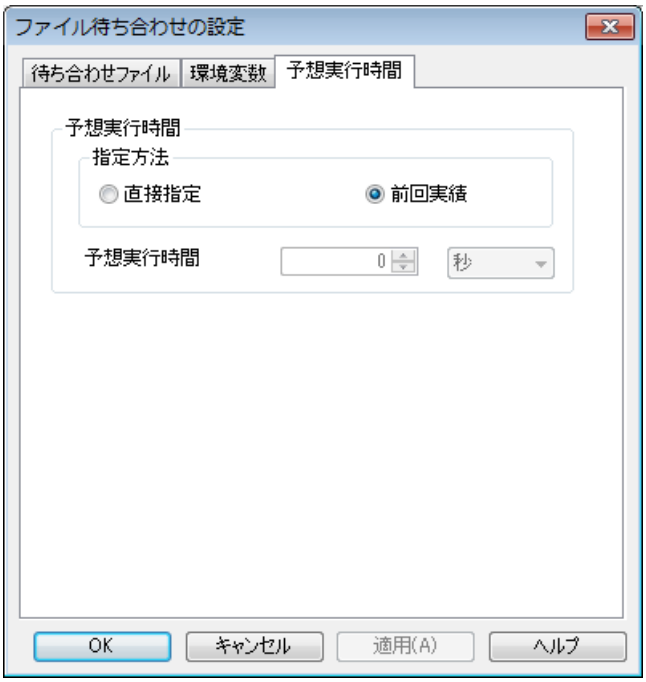


図4.49 予想実行時間の設定画面例

■予想実行時間

ジョブの実行にかかる時間の予測値を設定します。この予想実行時間はトラッカー覧のグラフィックモード（ガントチャート）などに反映され、ジョブネットワークの実行時間算出に使用されます。

ジョブネットワークの予想実行時間を算出する方法は次から選定します。

直接指定	ユーザがジョブの予想実行時間を設定します。
前回実績	正常終了した最近のジョブの実行実績を、ジョブの予想実行時間とします。

［予想実行時間］

［指定方法］において［直接指定］を選択した場合、ユーザ側で時間を入力します。

数値と単位は次のいずれかを選択することができます。（　）内は指定可能範囲です。

秒	(0～31536000)
分	(0～525600)
時間	(0～8760)
日	(0～365)

- 待ち合わせるファイルについては、次のような条件があります。

- ローカルディスク上のファイルの待ち合わせ指定するファイルが所属するフォルダの「フォルダの内容の一覧表示」の読み取り権限がJobCenter管理者に必要となります。
- ネットワークパス上のファイルの待ち合わせローカルマシンのJobCenter管理者名と同じユーザ名とパスワードで、待ち合わせるファイルが存在するリモートマシン上にユーザを作成する必要があります。

  また、ファイル名指定ではドライブレターは使用できません。「\\サーバ名\共有フォルダ名\ファイル名」のように指定し、共有フォルダについてこのユーザについての読み取り権限が必要です。

■ 更新基準時刻とタイムアウト時間で指定する相対時間は、通常最上位のジョブネットワークの開始時刻を基準とします。オプションを指定することにより、当該部品の開始時刻を基準とすることや、タイムアウトした場合にフローを停止させるかどうか、トラッカアイコン状態をどのようにするかを設定することもできます。

  詳細については<環境構築ガイド>の「5.2　デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください。

4.4.5. 時間待ち合わせの設定をする

指定した時刻まで待ち合わせます。時刻は、絶対時間（HH:MM）か相対時間（+HH:MM）で設定します。

この部品は補正時刻により動作基準時刻が変わります。詳細は<環境構築ガイド>の「6.5　システム環境の設定を変更する」システム環境の設定を変更する」を参照してください。

1. 時刻待ち合わせオブジェクトを配置します。
2. ［時刻待合の設定］ダイアログが表示されます。（オブジェクト配置後は、時刻待ち合わせアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択すると、［時刻待合の設定］ダイアログが表示されます。）
3. 時刻待ち合わせの設定を行います。

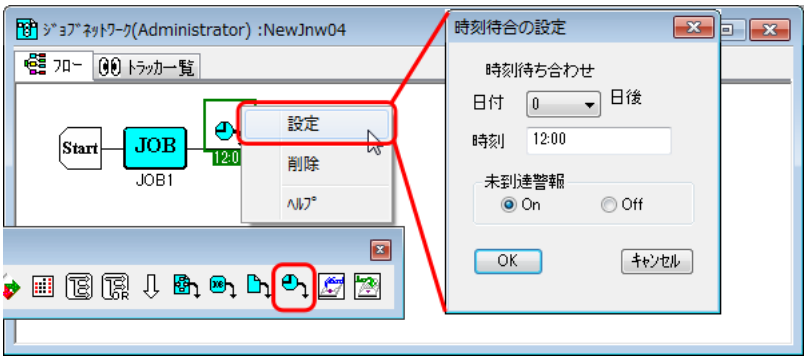


図4.50 時刻待ち合わせの設定画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

［時刻待合の設定］ダイアログの設定項目は次のとおりです。

■日付

待ち合わせる時刻の日付を設定します。

0日後から9日後まで選択することができます。

■時刻

待ち合わせる時刻を設定します。

次の範囲から指定します。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+00:00～+23:59

- 絶対時間の場合

  HH:MMの形式で入力します。実行を開始する時刻は、ジョブネットワークの開始予定時刻から設定された日付（～日後）の該当する時刻となります。

  絶対時間での挙動

  （例）日付が0日後、午前8時開始予定のジョブの場合、「15:00」はその日の午後3時、「03:00」は翌日の午前3時となります（日付が0日後で過去の時間を指定した場合、日付を1日後にした場合と同様の動作となります）。

- 相対時間の場合

  +HH:MMの形式で入力します。相対時間で設定できるのは+00:00～+23:59です。実行を開始する時刻はジョブネットワークの開始予定時刻から設定した時間が経過した時点となります。サブジョブネットワークの場合は親ジョブネットワークの開始予定時刻が基準となります。ただし、オプションを指定することにより、当該部品の開始時刻を基準にすることもできます。

  詳細については<環境構築ガイド>の「5.2　デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください。

■未到達警報

待ち合わせ時刻を過ぎても時刻待ち部品が実行されなかった場合に、警報メッセージをイベントログに出力します。警報の有無を次から選定します。デフォルト値はOnです。

On	警報機能が有効になります。
Off	警報は発生しません。

デーモン再起動時の挙動

JobCenterのデーモンは、再起動時に待ち合わせ部品の検査を行います。そのとき、警報属性の設定された待ち合わせ部品があり、かつ未実行である場合には、警報を発生します。このため、警報発生後にシステムの再起動を行った場合には、複数回警告を発生することがあります。

4.5. イベント送信とイベント受信

イベント送信部品オブジェクトとイベント受信オブジェクトを使用することによって、異なるジョブネットワーク間で待ち合わせが行えます。イベントの連携は、異なるユーザおよびマシン間で行えます。イベント送受信のモデルには、チェイン（連鎖）型連携モデルとスター型連携モデルの2種類があります。

■チェイン（連鎖）型連携モデル

異なるユーザ、異なるマシン間でイベントを送受信します。

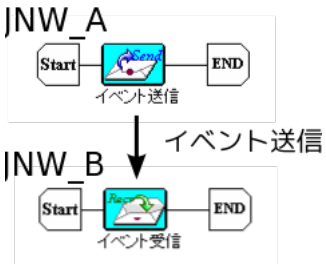


図4.51 チェイン（連鎖）型連携モデル例

■スター型連携モデル

同一マシン上の複数のイベント受信部品に送信します。

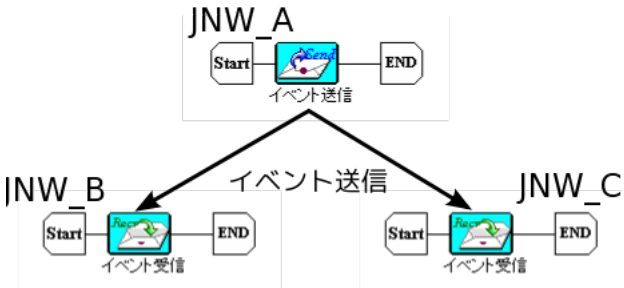


図4.52 スター型連携モデル例

受信側が起動していない場合、設定によってはイベントを送信しても待ち合わせが実行されないことがあります。

4.5.1. イベント送信の設定をする

ジョブネットワークの中から別のジョブネットワークへイベントを送信する単位です。イベント送信部品を使用することにより異なるジョブネットワーク間で待ち合わせを行えるようになります。

まず、イベント送信を配置します。

1. イベント送信部品オブジェクトを配置します。

2. ［イベント送信名の設定］ダイアログが表示されますので、イベント送信名を設定します。

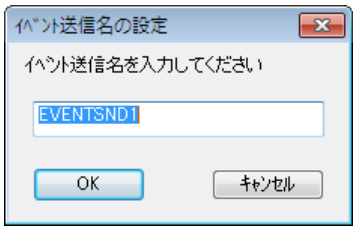


図4.53 ［イベント送信名の設定］ダイアログ画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックすると、イベント送信部品オブジェクトが追加されたジョブネットワークが表示されます。

イベント送信部品名は次の文字数を満たす必要があります。

84[Byte]>（ジョブネットワーク階層名[Byte]＋部品名[Byte]）

次にイベント送信の設定を行います。

4. イベント送信アイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択します。

5. ［イベント送信の設定］ダイアログが表示されます。

6. イベント送信の設定を行います。

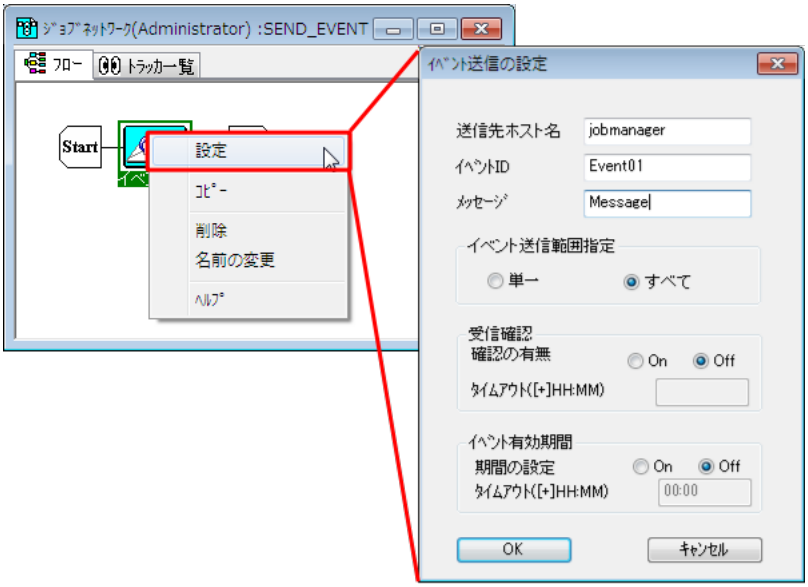


図4.54 イベント送信の設定画面例

7. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

［イベント送信の設定］ダイアログの設定項目は次のとおりです。

■送信先ホスト名（必須項目）

イベント送信先のホスト名を入力します。ホスト名はネットワーク上で認識されている正式ホスト名を使用するようにしてください。

エイリアス名では正しく動作しません。

■イベントID（必須項目）

任意の送信するイベントの識別子（ID）を入力します。英数字、日本語、全角カナ文字（混在可能）、100バイト以内で指定してください。

イベント送信先のイベント受信オブジェクトの設定においては、送信元ホスト名とここで指定したイベントIDを入力します。

受信側のイベントID、送信元ホスト名が、送信されてきたイベントID、ホスト名と一致した場合、イベントが受信されます。

■メッセージ

送信先に送るメッセージを入力します。英数字、日本語、全角カナ文字（混在可能）、40バイト以内で指定してください。

■イベント送信範囲指定

イベント送信を行う範囲を指定します。

［単一］

同じイベントIDのイベントを待っている受信部品が複数ある場合に、最初に待ち状態となった部品だけにイベントを通知します。

［すべて］

同じイベントIDで、イベント待ち状態となっている部品すべてにイベントを通知します。

■受信確認

送信先が受信するまでの待ち合わせ確認を設定します。

［確認の有無］

「On」の場合、送信先でイベント受信が行われるまで待ち合わせを行います。指定した期間中に受信されない場合、タイムアウトしエラー終了状態になります。

「Off」の場合、送信先でのイベント受信の有無にかかわらず、待ち合わせを行いません。

［タイムアウト（[+]HH:MM）］

上記の受信の待ち合わせタイムアウト時間を次から指定します。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+00:00～+99:59

設定なし（空白）の場合、無限に待ち合わせます。

■イベントの有効期間

送信元では待ち合わせはしないが、送信先が起動するまで待ち合わせをする場合に設定します。送信先で該当のイベント受信部品が起動していない場合、指定時間までイベントの保持を

行います。指定時間内に該当イベント受信部品が起動された場合、その時点でイベントの保持を終了します。

［期間の設定］

「On」の場合、イベントは送信先が起動するまで待ち合わせをします。

「Off」の場合送信先が起動するまで待ち合わせをせず、送信先でイベントの保持を行いません。

［タイムアウト（[+]HH:MM）］

受信の待ち合わせタイムアウト時間を次から指定します。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+00:00～+99:59

受信確認とイベント有効期間のタイムアウトで指定する相対時間は、通常最上位のジョブネットワークの開始時刻を基準とします。ただしオプションを指定することにより、当該部品の開始時刻を基準にすることや、タイムアウトした場合のトラッカアイコンの状態の表示や終了コードを設定することもできます。

詳細については<環境構築ガイド>の「5.2　デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください.

■実行終了時の条件分岐

イベント送信部品の後続で、条件分岐により処理を変えることが可能です。

- 送信先ホストがネットワーク上に見つからない
- タイムアウト時間を経過したが受信されなかった

などのエラーで終了した場合、条件分岐のotherに分岐します。

4.5.2. イベント受信の設定をする

4.5.2.1. イベント受信の設定

ジョブネットワークの中で別のジョブネットワークからのイベントを受信する単位です。イベント受信部品を使用することで、異なるジョブネットワーク間で待ち合わせを行えるようになります。

1. イベント受信部品オブジェクトを配置します。
2. ［イベント受信名の設定］ダイアログが表示されます。イベント受信名を設定します。

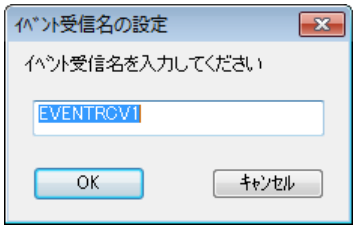


図4.55 イベント受信名の設定画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックすると、イベント受信部品オブジェクトが追加されたジョブネットワークが表示されます。

4. イベント受信アイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［設定］を選択します。

5. ［イベント受信の設定］ダイアログが表示されます。

条件設定タブの設定項目は次のとおりです。

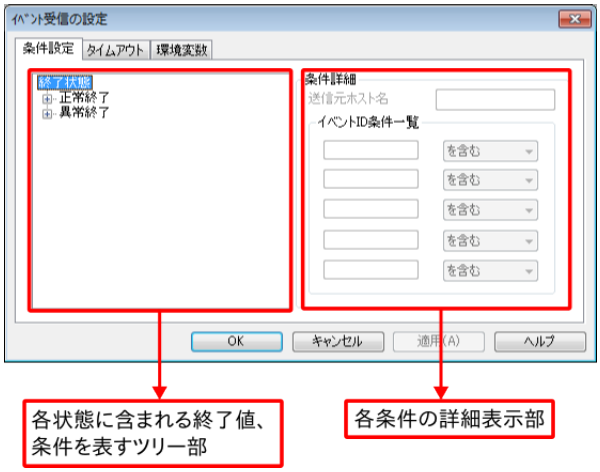


図4.56 イベント受信の設定画面例

■終了状態

正常終了または異常終了の終了条件、終了コードを設定します。

- 終了コードを設定する

  数字をクリックするか、数字を右クリックしたときのポップアップメニューから「終了コードの変更」を選択します。

  正常終了のデフォルト値は0、異常終了のデフォルト値は1となります。0～255の範囲で指定可能です。

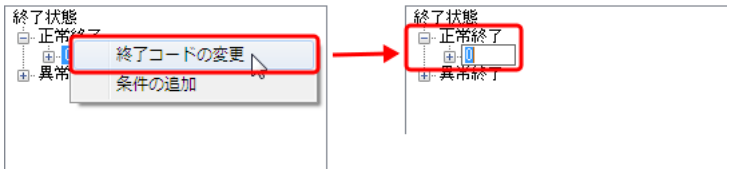


図4.57 終了コードの入力画面例

- 条件を追加する

  数字を右クリックしたときのポップアップメニューから「条件の追加」を選択します。条件名が入力できますので入力します。条件名は40バイト以内で設定してください。正常・異常の条件数はそれぞれ最大10個です。追加した条件の詳細は次ページの「条件詳細」また条件名には空白、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

  !\"#$%&'()*,./:;<=>?@[\]^`{|}~

  条件名のデフォルト値はCondition1~10です。

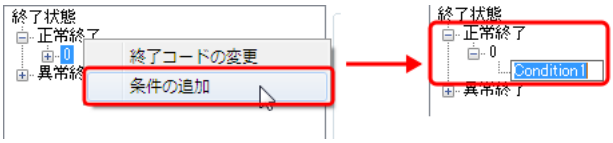


図4.58 条件の追加画面例

- 条件名を変更する

  条件名をクリックするか、条件名を右クリックしたときのポップアップメニューから「条件名の変更」を選択します。

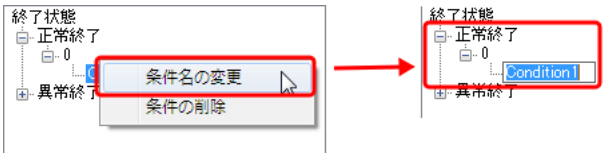


図4.59 条件名の変更画面例

- 条件を削除する

  条件名を右クリックしたときのポップアップメニューから「条件の削除」を選択します。

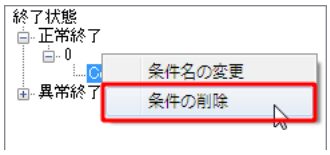


図4.60 条件名の削除画面例

■条件詳細

追加した条件について、以下の項目を設定します。

- 送信元ホスト名（必須項目）

  イベント送信元のホスト名を入力します。ホスト名はマネージャフレームのマシンアイコンで認識されている名称を使用するようにしてください。

エイリアス名では正しく動作しません。

- イベントID（必須項目）

  受信するイベントの識別子（ID）を入力します。最大5つのIDを登録できます。IDの合致条件としては「から始まる」「を含む」「一致する」の3つを選択することができます。デフォルト値は「を含む」が選択されています。イベントIDはそれぞれ100バイト以内で設定してください。イベントIDには空白、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

  !\"#$%&'()*,./:;<=>?@[\]^`{|}~

  またイベントIDが入力されていない場合は条件として使用されません。

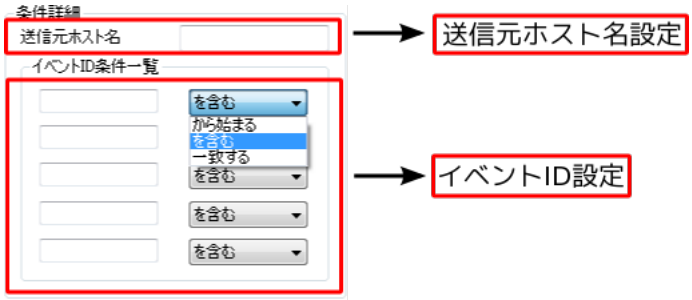


図4.61 条件詳細の設定画面例

タイムアウトタブの設定項目は次のとおりです。

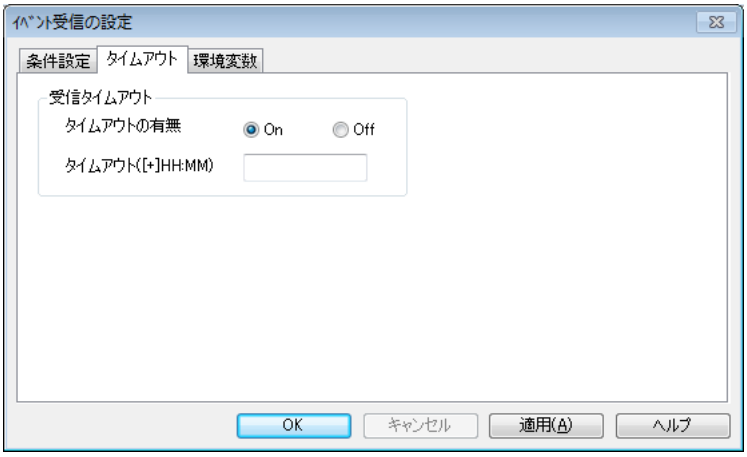


図4.62 タイムアウトの設定画面例

■受信タイムアウト

イベント受信部品がイベントを即時受信できなかった場合に、イベントを受け付けるまでの待ち合わせの設定をします。ただし、イベントが送信済みかつ有効である場合には、受信タイムアウトとなる条件下でもタイムアウトはしないで、イベントが即時受信されます。

［タイムアウトの有無］．　「On」の場合、イベントを受け付けるまでの待ち合わせをします。設定した期間受信待ち合わせを行い受信できた場合には、正常終了状態になります。指定した期間中にイベントが受信できなかった場合、タイムアウトしエラー終了状態になります。

「Off」の場合、イベントの即時受信を行います。受信できた場合も受信できなかった場合も正常終了状態になります。

［タイムアウト（[+]HH:MM）］．　待ち合わせするときのタイムアウト時間を次から設定します。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+00:00～+99:59

設定なし（空白）の場合、無限に待ち合わせます。

受信確認とイベント有効期間のタイムアウトで指定する相対時間は、通常最上位のジョブネットワークの開始時刻を基準とします。しかし、オプションを指定することにより、当該部品の開始時刻を基準にすることや、タイムアウトした場合のトラッカアイコンの状態の表示や終了コードを設定することもできます。

詳細については<環境構築ガイド>の「5.2　デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください。

環境変数タブの設定項目は次のとおりです。

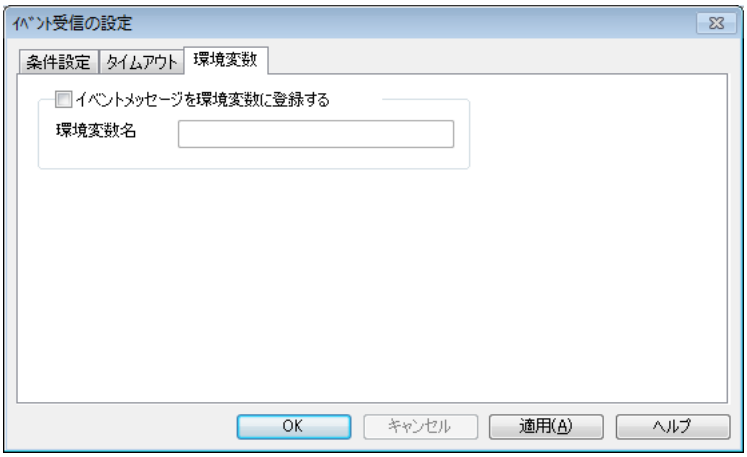


図4.63 環境変数の設定画面例

■イベントメッセージを環境変数に登録する

受信したイベントのイベントメッセージを環境変数に登録して後続のフローで参照することができます。本パラメータにチェックを入れると、環境変数名の入力欄が有効になりますので、環境変数名を入力して下さい。

入力できる環境変数名には次の制限事項があります。

1. 変数名の長さは最大51バイトまでです。

2. 空白、特殊文字および以下の文字は使用できません。

   =#'"

3. 先頭が「NSJNW_」「QSUB_」で始まる変数名は使用できません。（ただし「NSJNW_」「QSUB_」という変数名は使用可能です。）

イベント送信、イベント受信部品の利用上の注意事項

■受信確認、イベント有効期間の両者が「On」になっている場合

それぞれ設定されている時間によって次のような動作になります。

- 受信確認に設定されている時間がイベント有効期間より長い場合

  受信確認に設定されている間待ち合わせを行いますので、受信確認に設定されている期間イベントの保持が行われます。

- イベント有効期間に設定されている時間が受信確認に設定されている時間より長い場合

  イベント有効期間に設定されている期間イベントの保持が行われますが、送信側では、受信確認に設定されている期間に受信動作がない場合、タイムアウトが発生します。

■同一のホストから同一のイベントIDで同じ送信先へイベント送信された場合

イベント保持されているイベントは新しいもので上書きされます。上書きされた部品が待ち合わせを行っている場合は上書きされたことが通知され、待ち合わせが解除されます。

■イベント送信時にエラーが発生した場合

エラー内容はジョブネットワークのログに記録されます。

■イベント送信部品を実行中にスキップした場合

イベントがすでに送信されていた場合には、イベントは取り消されずに送信された状態となります。なお、送信したイベントの受信確認を待ち合わせている状態もイベント送信部品実行中に含みます。

■イベント送信、受信部品を使用した場合

論理的な矛盾（デッドロック）を検出できません。なお、同一ジョブネットワーク中で待ち合わせを行う場合は、単位ジョブ待ち合わせ、サブジョブネットワーク待ち合わせ部品を使用してください。

■5000件を超えた場合

古いものから上書きされます。イベント保持ができる上限は5000件です。ただし、オプションを指定することにより上書きを禁止し、イベント送信を異常終了させることもできます。

詳細については<環境構築ガイド>の「5.2　デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください。

■イベントIDおよびメッセージに2バイト文字を使用する場合

送信先、送信元の設定でLANGの設定を同じにしてください（Windows版ではシフトJIS固定です）。

■送信先ホストのJobCenterが起動していない場合

イベント送信部品は、受信確認の「On」・「Off」の設定にかかわらず、エラー終了状態になります。

■イベントの有効期間が「On」の場合

イベントは送信先ホスト側で保持されます。イベント送信後に送信元ホストがダウンした場合でも、イベントは送信先ホスト側でタイムアウトするまで保持されます。送信先ホストが再起動した場合でも、イベントの有効期間内であればイベントは保持されます。

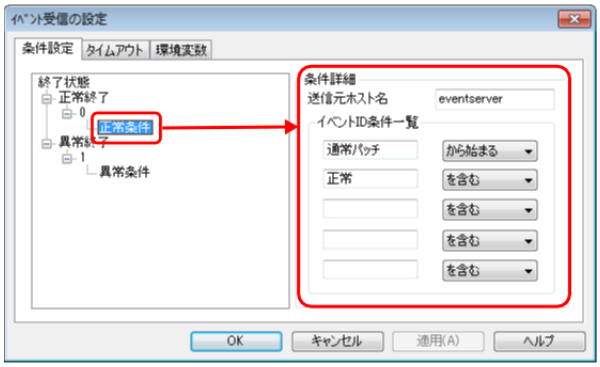
■送信元と送信先とでLANGの設定(文字コード)が異なる場合

送信元と送信先とでLANGの設定(文字コード)が異なる場合は、イベント送信部品名およびその部品が含まれるジョブネットワークまでの各階層のジョブネットワーク名には、2バイト文字は使用しないでください。

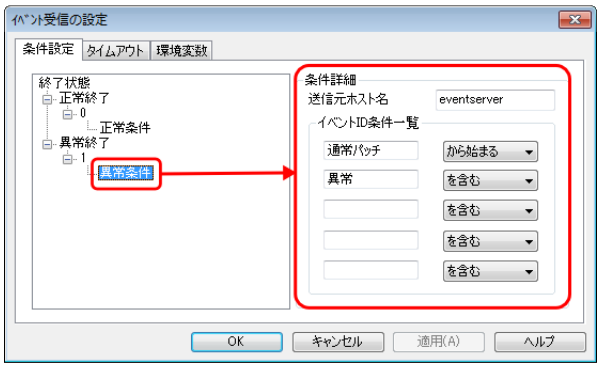
4.5.2.2. イベント受信動作

条件に登録されているイベントIDの合致条件がすべて成立した場合にイベント受信部品が終了します。終了状態は各条件が属している終了状態となります。また終了コードも設定されますので後続で条件分岐することも可能です。

以下のような設定のイベント受信部品を含むジョブネットワーク投入を例にして動作を説明します。



正常終了条件の設定



異常終了条件の設定

図4.64 イベント受信の動作例

受信したイベントの内容によってイベント受信の状態を決定することができます。

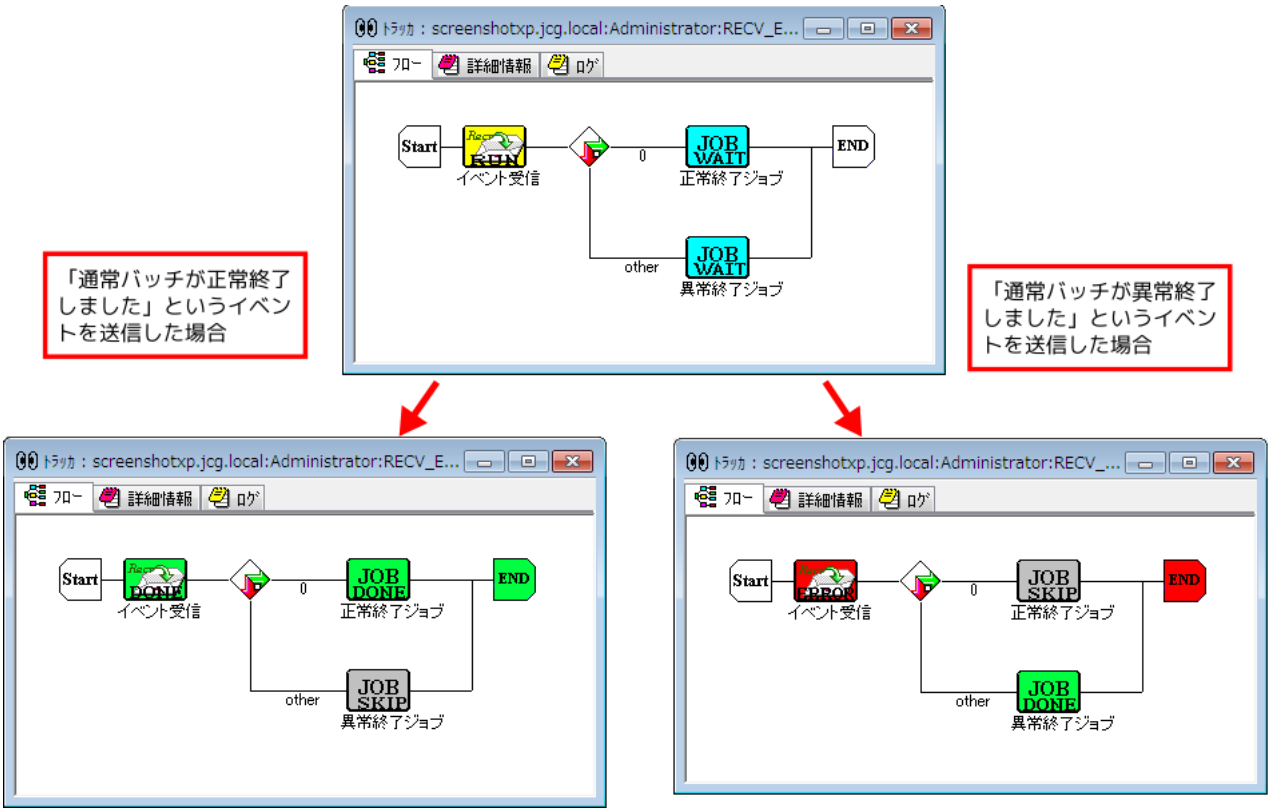


図4.65 条件成立時の動作例

下記のようにトラッカ上では設定されている条件を参照することが可能です。

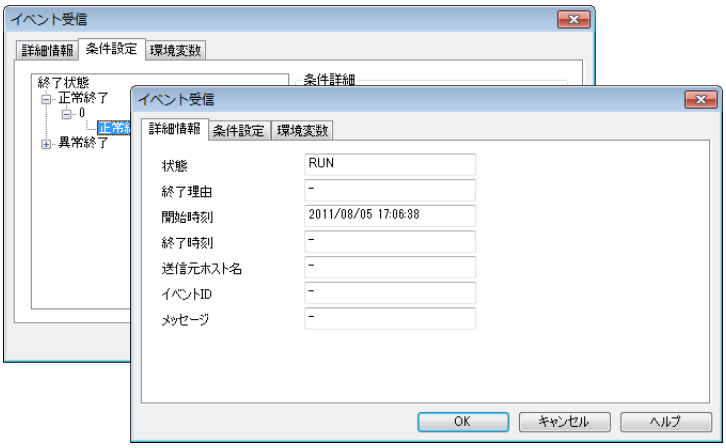


図4.66 トラッカ上のイベント受信部品をダブルクリックした時の表示例

またジョブネットワークログには成立した条件名が記録されます。

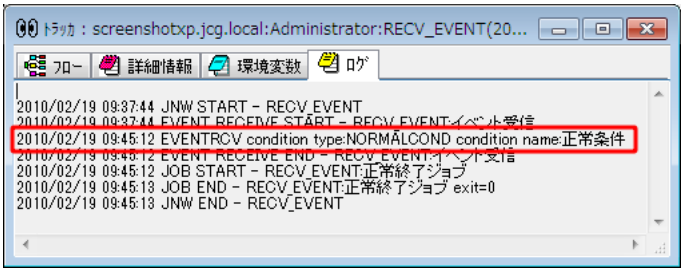


図4.67 ジョブネットワークログの表示例

正常条件・異常条件どちらにも合致する場合は正常条件として判断します。

4.5.2.3. イベント保持状態について

イベント送信部品の受信確認と有効期限の設定の組み合わせによる、送信先のイベント保持状態の関係は以下の通りです。これを参考にして、送信部品のタイムアウトや受信のタイミングについてシステムを適切に設計してください。

表4.2 送信先イベント保持状態一覧

受信確認の有無	受信確認タイムアウト	有効期限の設定	有効期限タイムアウト	送信先のイベント保持状態
OFF	未指定	OFF	未指定	保持しない
OFF	未指定	ON	時刻指定	有効期限のタイムアウト時間まで保持
ON	未指定(＝無制限)	OFF	未指定	無制限で保持
ON	時刻指定	OFF	未指定	受信確認のタイムアウト時間まで保持
ON	未指定(＝無制限)	ON	時刻指定	無制限で保持
ON	時刻指定	ON	時刻指定	受信確認タイムアウトまたは有効期限タイムアウトのうち、期間の長い方で保持 受信確認時刻　＜　有効期限時刻の場合、イベント送信元では受信確認タイムアウトによりイベント部品は終了するが、送

				信先では有効期限までイベントを保持 注1

注1　受信確認時刻 ＜ 有効期限時刻の場合、期間の短い方の確認時刻を過ぎてから送信部品が実行されると、期間の短い方の確認時刻が翌日の時刻として解釈され、イベントが翌日まで保持されるので注意してください。

第5章 スケジュールの操作方法

スケジュールは、ジョブネットワークを自動実行するための定義です。スケジュール定義とジョブネットワーク定義を関連付ける事で、ジョブを自動実行させる事ができます。

5.1. スケジュールを作成する

スケジュールの管理は、ユーザフレームの［スケジュール一覧］から行います。

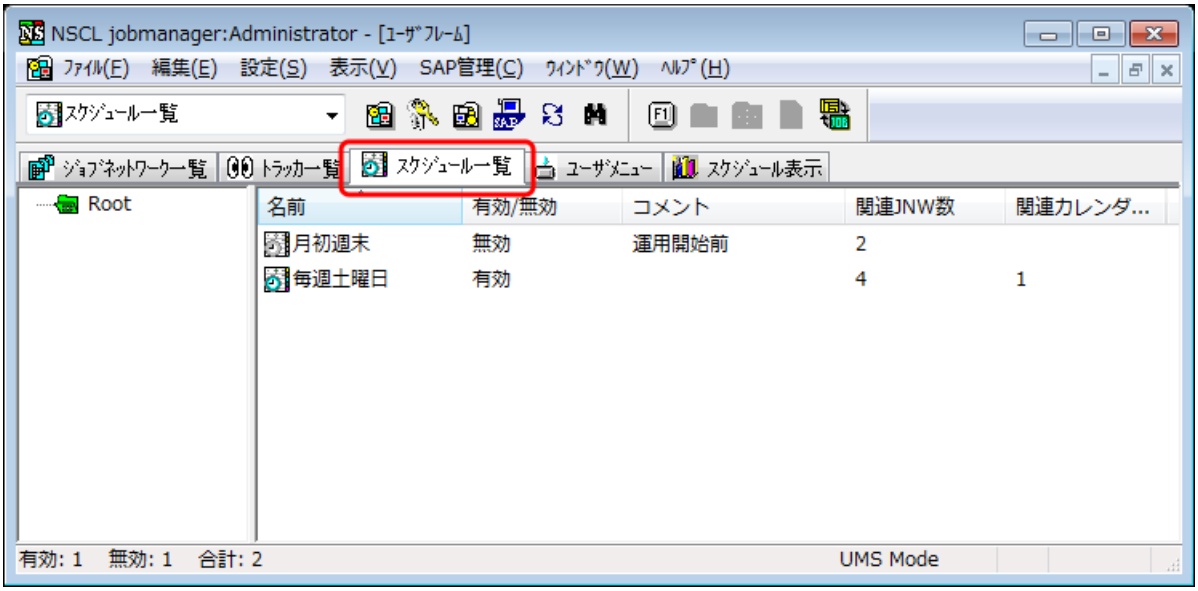


図5.1 ［スケジュール一覧］画面例

［スケジュール一覧］の各列の説明は次のとおりです。

■名前

スケジュール名を表示する列です。

■有効/無効

スケジュールが有効状態か、または無効状態であるかを表示する列です。

■コメント

スケジュールに設定されているコメントを表示する列です。

■関連JNW数

当該スケジュールの［スケジュール設定］ダイアログ-［関連ジョブネットワーク］タブに関連ジョブネットワークとして設定されているジョブネットワークの数を表示する列です。

■関連カレンダ分岐数

当該スケジュールをカレンダ分岐部品として指定しているジョブネットワークの数を表示します。

■関連JNW数、関連カレンダ分岐数は、［関連オブジェクト数を表示］がチェックされていない場合は表示されません。また［関連オブジェクト数を表示］は、デフォルトではチェックされていません。

■［関連オブジェクト数を表示］をチェックした場合、全JNWデータを確認する処理が行われるため、スケジュール一覧画面の表示に時間がかかることがあります。

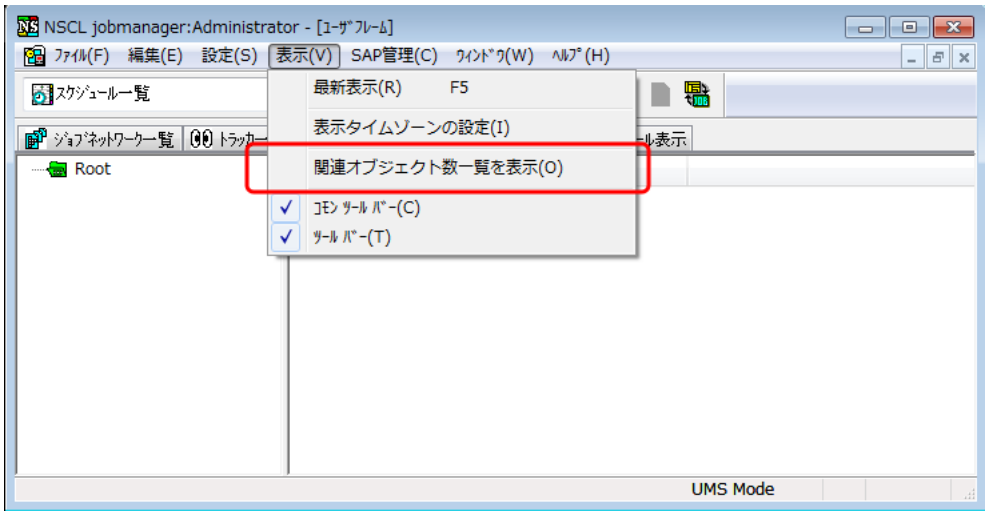


図5.2 関連オブジェクト数を表示

［スケジュール一覧］の各列でソートすることができます。ソートしたい列名をクリックします。

5.1.1. スケジュールグループを新規作成、削除する

スケジュールはジョブネットワーク同様、グループを作成すると管理しやすくなります。

ユーザフレームのスケジュール一覧を開き、Rootグループ直下に新規にスケジュールグループを作成します。

5.1.1.1. スケジュールグループを新規作成する

1. メニューバーの［ファイル］－［新規作成］－［スケジュールグループ］を選択するか、ユーザフレームの右ビュー上で、他のグループを選択せずに右クリックしたときのポップアップメニューから［新規スケジュールグループ］を選択して、スケジュールグループを新規作成します。

2. 新規作成したグループの名前を設定します。

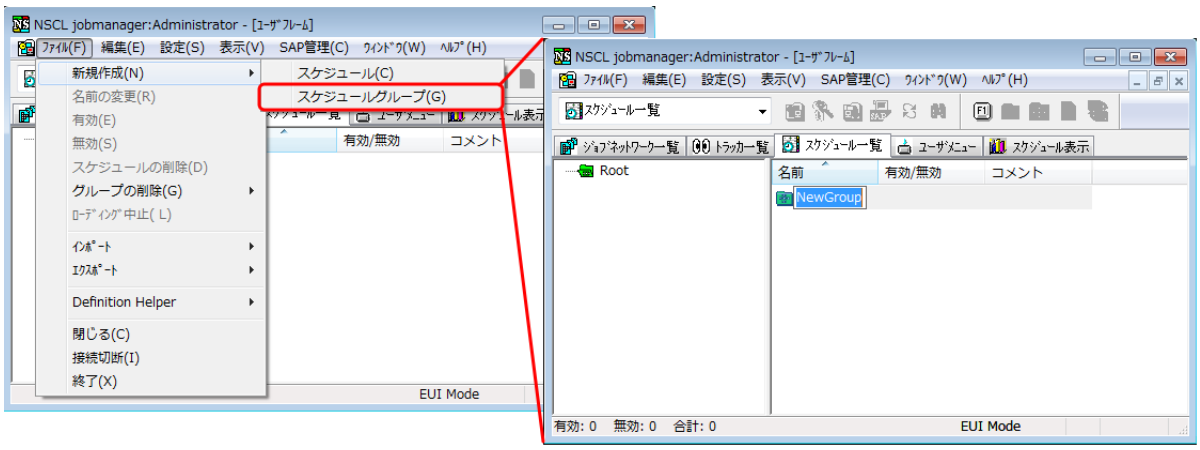


図5.3 スケジュールグループの新規作成

スケジュールグループの名前を設定する際の注意事項

■半角40文字、全角20文字以内。

■グルーピング階層は最大5階層です。

■空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

■同一スケジュールグループ内にすでに存在しているスケジュールグループ名は指定できません。

5.1.1.2. スケジュールグループを削除する

スケジュールグループを削除する場合は次の操作を行います。この処理はスケジュールグループに対してのみ有効です。

1. 削除したいスケジュールグループを選択します。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューから［グループの削除］－［強制削除］または［通常削除］を選択します。

強制削除	スケジュールグループと共に、スケジュールグループ内のスケジュールも一緒に削除します。
通常削除	スケジュールグループのみ削除します。スケジュールグループ内のスケジュールは削除されず、Root配下に移動されます。

対象を複数選択してグループを削除する際の注意事項

■［強制削除］を行った場合、当該スケジュールグループ配下のすべてのサブグループおよびスケジュールが削除されます。

■［通常削除］を行った場合、当該グループ配下のスケジュールは削除されずにRootに移動します。なおスケジュールグループおよびサブグループは削除されます。

■複数のスケジュールおよびスケジュールグループを同時に選択した場合スケジュールグループのみが削除されます。スケジュールは削除されません。

5.1.2. スケジュールを新規作成、削除する

作成したスケジュールグループ内にスケジュールを作成します。

スケジュールやスケジュールグループ名はOSの仕様に沿って扱われます。UNIX版では大文字小文字が異なる場合は違うものとして扱われます。Windows版では大文字小文字が異なってもOS上では同一のものとして扱われて、JobCenter上でも区別されませんので注意してください。

5.1.2.1. ジョブネットワークを新規作成する

1. 「5.1.1 スケジュールグループを新規作成、削除する」で作成したグループを選択し、ダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［開く］を選択してグループ内に移動します。

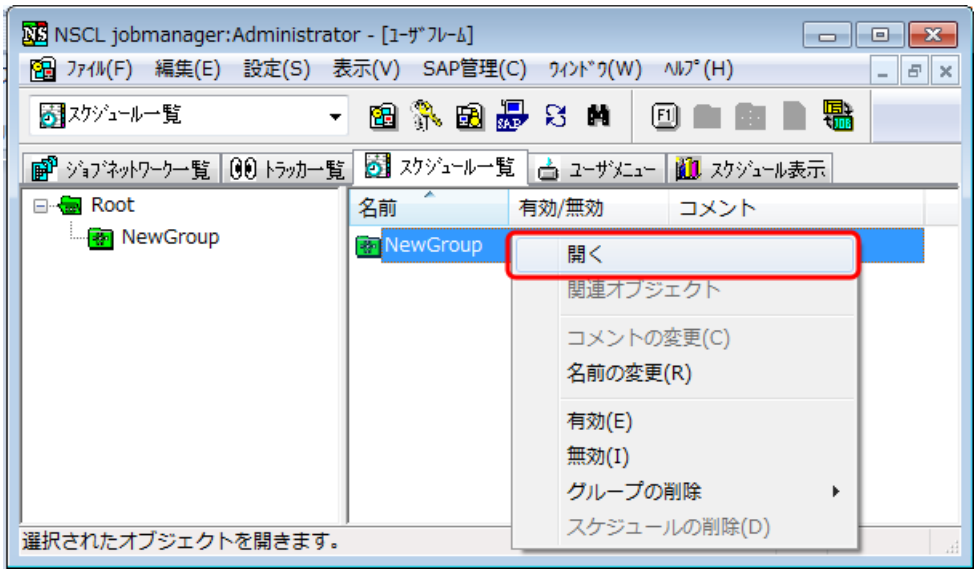


図5.4 スケジュールグループ内への移動

2. メニューバーの［ファイル］－［新規作成］－［スケジュール］を選択するか、ユーザフレームの右ビュー上で、他のスケジュールを選択せずに右クリックしたときのポップアップメニューから［新規スケジュール］を選択して、新規スケジュールを作成します。

3. 新規スケジュールの名前を設定します。

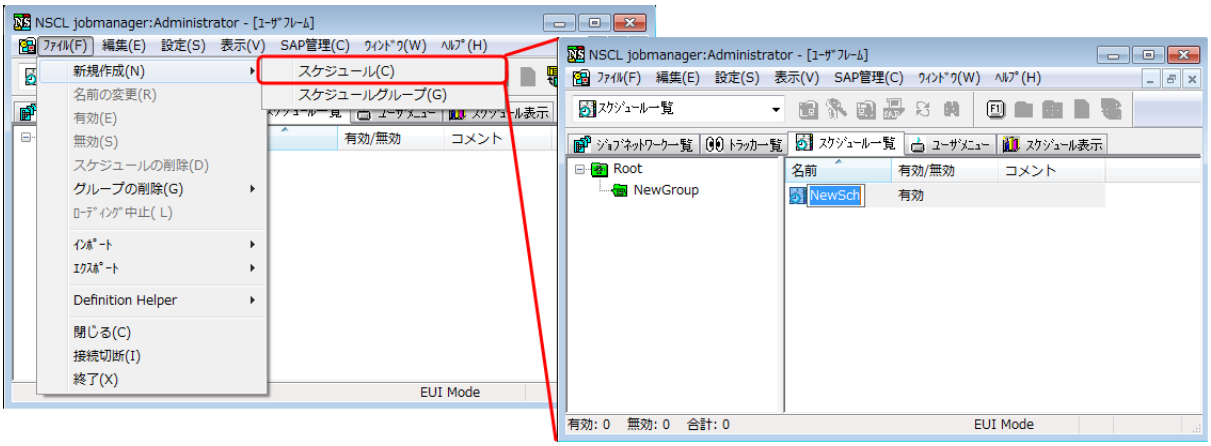


図5.5 スケジュールの新規作成

スケジュールの名前を設定する際の注意事項

■半角128文字、全角64文字以内。

■名前の最初の文字はアルファベット、アンダースコア、2バイト文字しか使用できません。また、空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

■同一ユーザ内にすでに存在しているスケジュール名は指定できません。

■スケジュールは200個まで作成可能です。

5.1.2.2. スケジュールを削除する

スケジュールを削除する場合は次の操作を行います。

1. 削除したいスケジュールを選択します。
2. 右クリックしたときのポップアップメニューから［スケジュールの削除］を選択します。

5.1.3. スケジュールルールを作成する

スケジュールは、「毎週××曜日」のようなルールを組み合わせることによって作成します。

スケジュールには、個別に設定したスケジュールと独立した稼働日カレンダがあります。

また、設定したスケジュールとジョブネットワークの関連付けを一覧で確認できます。

(稼働日カレンダの詳細については<環境構築ガイド>の7章 「稼働日カレンダの設定」 を参照してください)

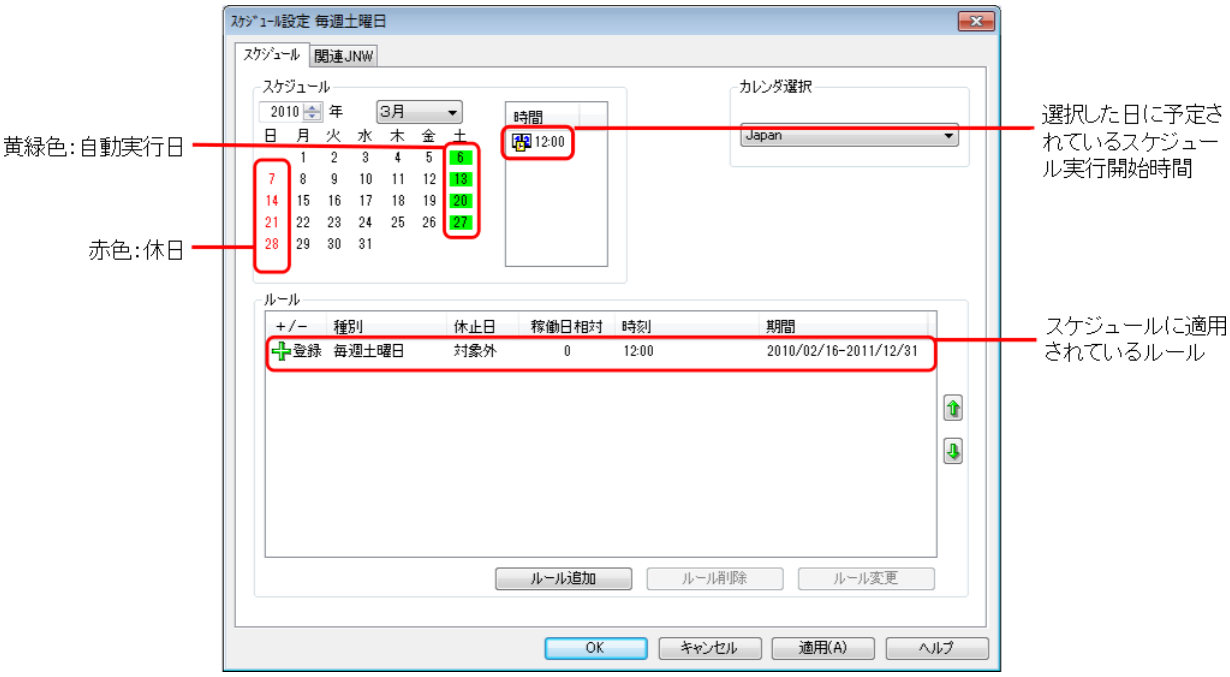


図5.6［スケジュール設定］画面例

5.1.3.1. 直接スケジュールを作成する

例として、「毎週土曜日の12:00にジョブネットワークを実行する」というスケジュールルールを作成します。

＜設定する項目＞

■スケジュール名：「毎週土曜日」

■スケジュールを実行するルール：「毎週」、「土曜日」、「12:00」

■関連付けるジョブネットワーク：「NewJnw」

1. 「5.1.2 スケジュールを新規作成、削除する」の手順でスケジュール「毎週土曜日」を作成します。
2. 次に作成した「毎週土曜日」のスケジュールを設定します。

   作成した「毎週土曜日」スケジュールアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューの［開く］を選択します。

3. ［スケジュール設定］ダイアログが表示されます。

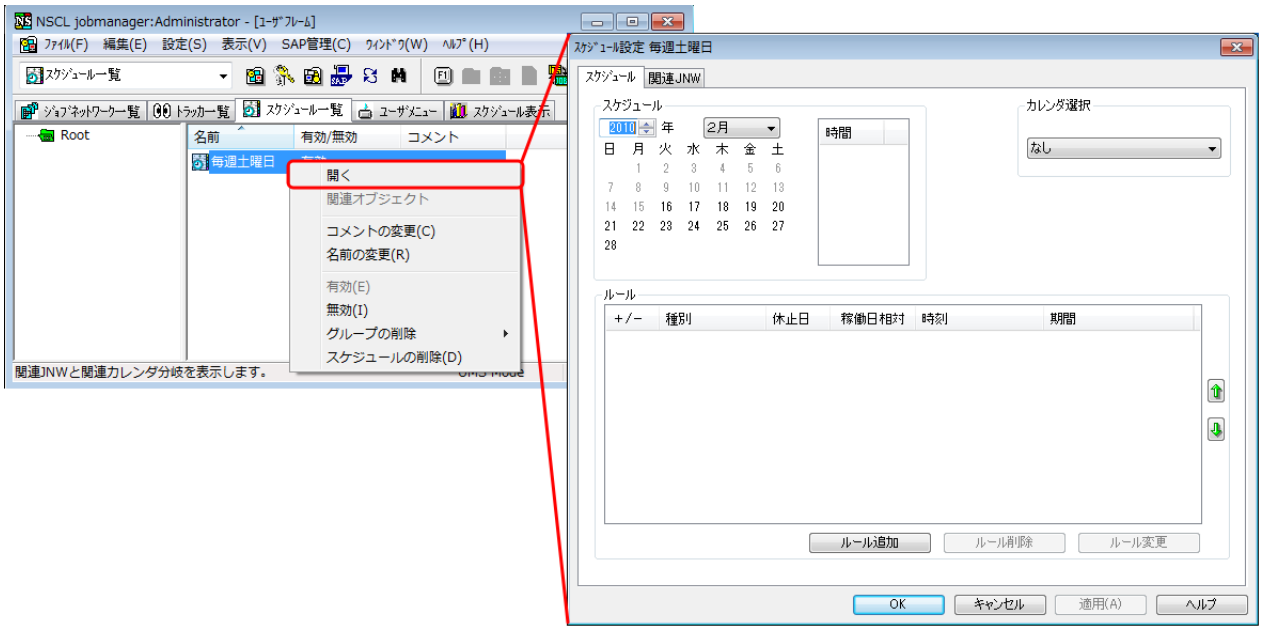


図5.7 スケジュール設定画面の表示

4. 次にスケジュールのルール設定を行います。

［スケジュール設定］ダイアログの［追加］または［変更］ボタンをクリックします。

5. ［ルール設定］ダイアログが開きますのでルールを入力します。

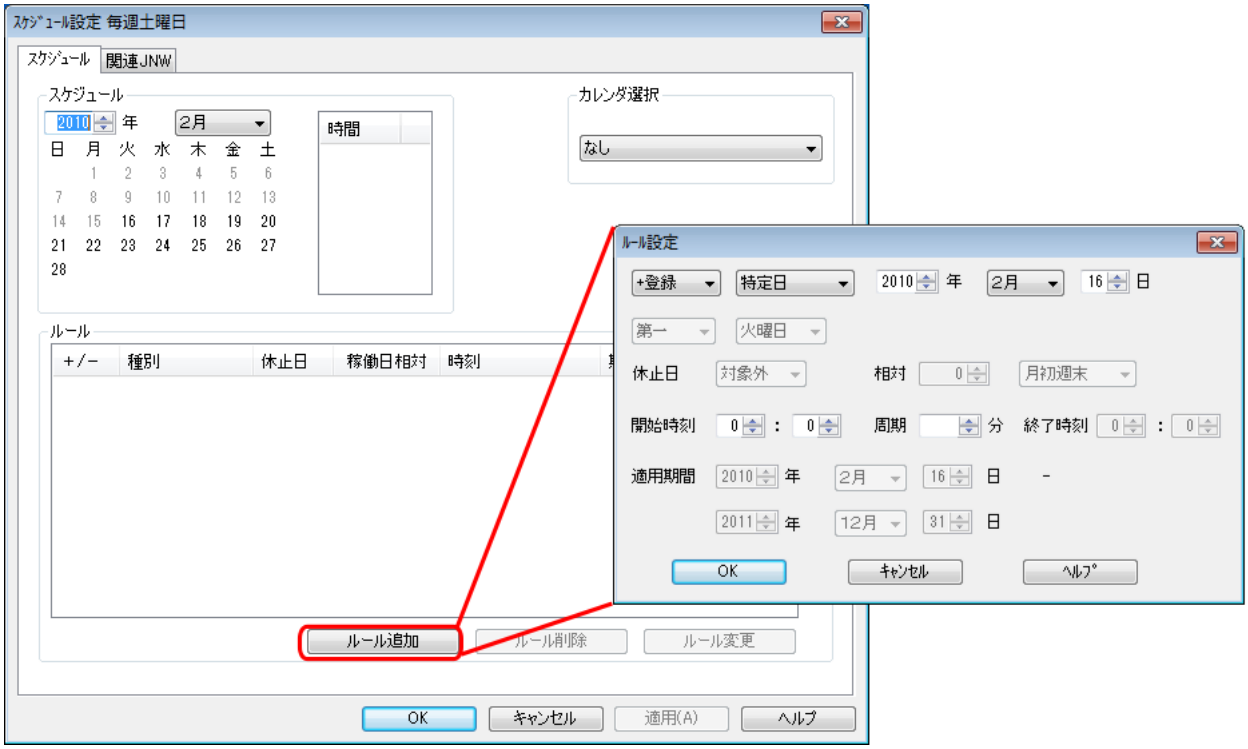


図5.8 ルール設定画面の表示

6. 設定後、［ルールの設定］ダイアログの［OK］ボタンをクリックします。

7. 次に、毎週土曜日の午前12時00分に自動実行するように設定します。

［ルール］部の［追加］ボタンをクリックして、［ルール設定］ダイアログを表示します。

8. ［+登録/-除外］は、スケジュールにジョブ実行予定を追加するので、［+登録］のままとします。

9. 種別は、「毎週土曜日」なので［毎週］を選択します。

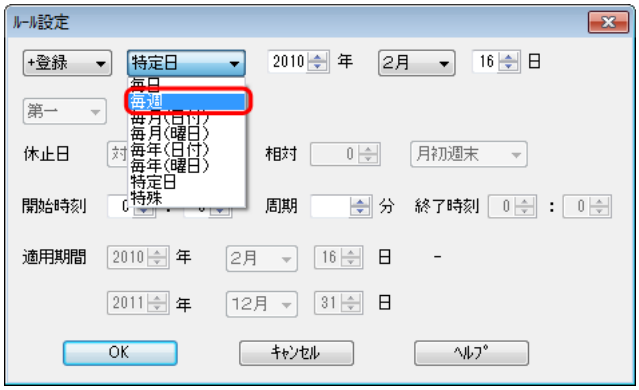


図5.9 「毎週」選択画面例

10設定ダイアログの一部が「毎週」設定用の表示に切り替わります。「毎週土曜日」なので［土曜日］を選択します。

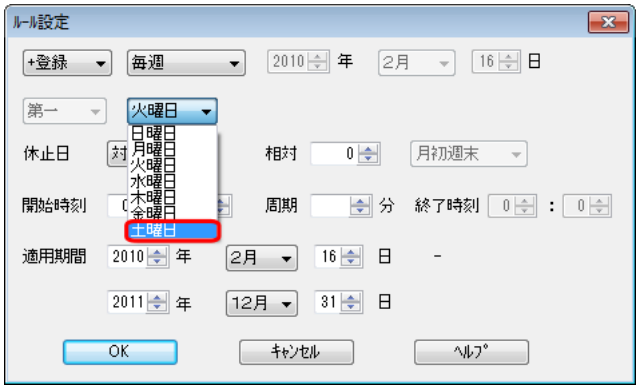


図5.10 「毎週」設定用の曜日選択画面例

11.「午前12時00分に自動実行する」なので、開始時刻を［12:0］と設定します。適用期間を併せて設定します。

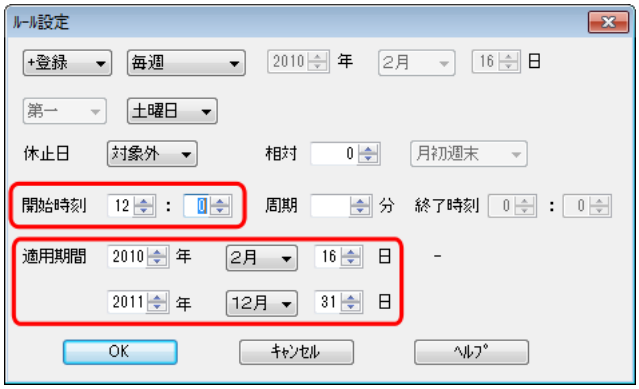


図5.11 開始時刻および適用期間選択画面例

12設定内容を確認したあとに、［ルール設定］ダイアログの［OK］ボタンをクリックします。

13.［ルール設定］ダイアログは閉じられ、［スケジュール設定］ダイアログの［ルール］部に設定したルールが追加されます。

この時点では、まだ［スケジュール設定］は適用されていません。

14最後に、設定したスケジュールを適用させます。

［スケジュール設定］ダイアログの［適用］ボタンまたは［OK］ボタンをクリックします。

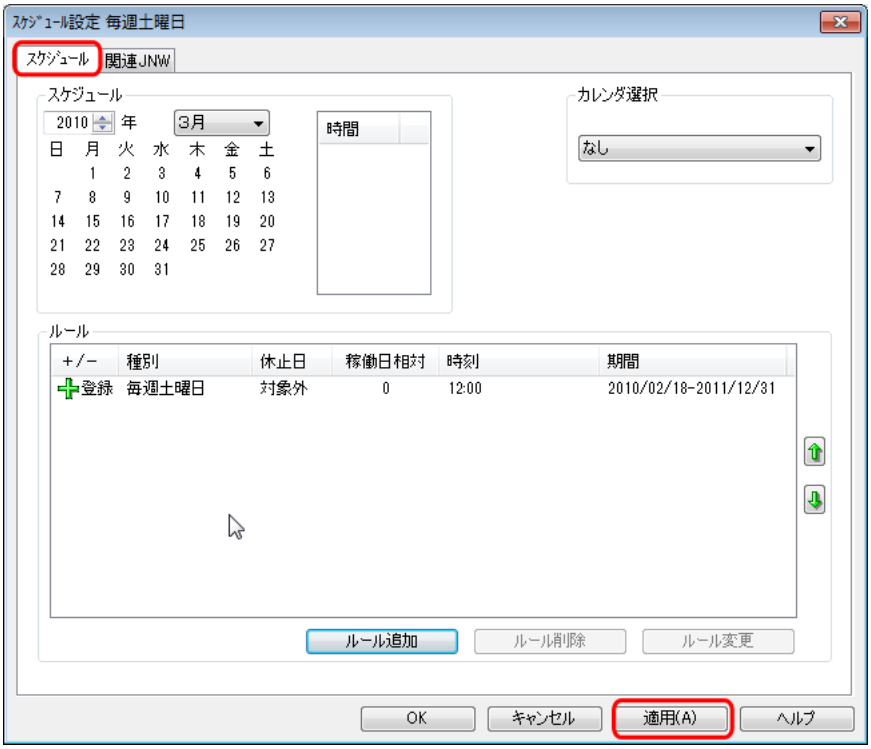


図5.12 スケジュール設定適用前の画面例

15設定したルールが適用された［スケジュール］部の日付の背景が黄緑色になります。背景が黄緑色になった日付をクリックすると、その日のスケジュールのリストが［時間］のボックスに表示されます。

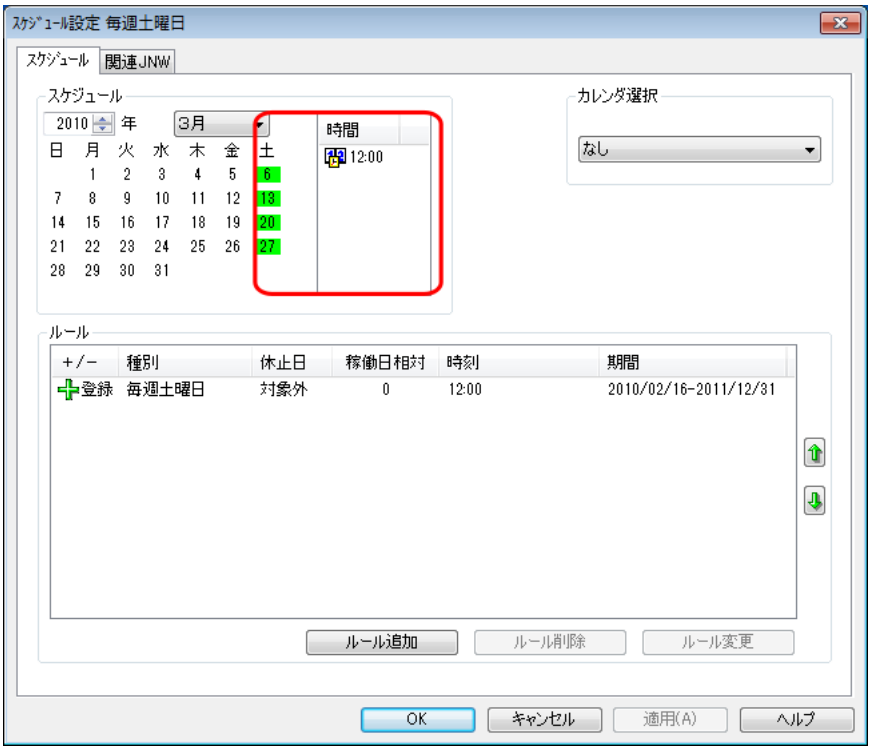


図5.13 スケジュール設定適用後の画面例

なお、複数のルールを適用した場合、カレンダはルールを上から順に計算します。ルールの順序を入れ替えたい場合には、［ルール］部リスト内の該当するルールを選択し、 または で順序を入れ替えてください。

［スケジュール部］は、［ルール部］で定義されたスケジュールを表示する領域です。すでに自動実行が予定されている日付は、その日付の背景色が黄緑色で表示されます。また、稼働日カレンダによって休止日になっている日付は、赤字で表示されます。［スケジュール部］の日付をクリックすると、その日のスケジュールリストが［スケジュール部］の右側にあるリスト領域に表示されます。

たとえば、［ルール設定］ダイアログを利用して、次のようなルール設定ができます。

■月初週末ルール

カレンダ設定ルールの1つとして「月初週末」が使用できます。

これは、毎月の最初の週末にジョブを実行させるルールです。ほぼ「毎月第1土曜日＋前シフト」というルールと同じですが、前シフトで前月になる場合には翌週末に延期されます。

設定には、カレンダルールとして「特殊」を選択し、さらに「月初週末」を選択します。

■毎年(曜日)ルール

カレンダ設定ルールの1つとして「毎年(曜日)」が使用できます。

これは、「MM月」「第n（一、二、三、四、五、最後）週」の「何曜日」にジョブを実行させるルールです。

［ルール設定］の設定項目は次のとおりです。

■登録/除外

スケジュールを追加または削除します。

+登録	指定したルールの日時をジョブ実行予定日としてスケジュールに追加することを意味します。
-除外	指定したルールの日時をジョブ実行しない日としてスケジュールから削除することを意味します。

■種別

選択した種別ごとにルールを設定します。

毎日	なし。
毎週	指定後に何曜日の選択をします。
毎月（日付）	指定後に日付を選択するか、テキスト入力域に日付を設定します。 毎月の末日を指定する場合には、日付のテキスト入力域に大文字で"L"を入力します。
毎月（曜日）	指定後に第n（1,2,3,4,5,最後）週の何曜日という設定を行います。
毎年（日付）	指定後にMM月DD日という設定を行います。 月末を指定する場合には、日付のテキスト入力域に大文字で"L"を入力します。
毎年（曜日）	指定後にMM月第n（1,2,3,4,5,最後）週の何曜日という設定を行います。
特定日	指定後にYYYY年MM月DD日という設定を行います。 特定日を指定した場合、稼働日カレンダの影響は受けません。
特殊	指定後に、月初週末の選択と稼働日相対の設定を行います。 ほぼ［毎月第1土曜日＋前シフト］というルールと同じ意味ですが、前シフトで前月になる場合には翌週末に延期されます。
指定日間隔	指定後に、何日毎にジョブ実行するかという設定を行います。 指定日間隔を指定した場合、稼働日カレンダの影響は受けません。 また、稼働日カレンダのルール種別に指定日間隔を選択することはできません。

■休止日シフト

指定された実行日が稼働日カレンダで定義されている休止日にあたる場合に、実行予定日を自動的にシフトするかどうかを指定します。

前シフト	前日以前の稼働日で指定された実行日にもっとも近い稼働日にスケジュールをシフトします。
後シフト	翌日以降の稼働日で指定された実行日にもっとも近い稼働日にスケジュールをシフトします。
対象外	ジョブは実行しません。

■稼働日相対

当初指定された日から、稼働日を対象にして前後にずらす日数を指定します。元の日から過去方向にずらすには－（マイナス）、未来方向にずらすには＋（プラス）の日数を指定します。

■開始時刻

ジョブの実行開始時刻を指定します。テキスト入力域に直接入力もできます。時の範囲は[0～35]、分の範囲は[0～59]です。

■周期

ジョブを実行する周期を指定します。単位は分で、範囲は［1～1440］です。ただし、ルール種別に指定日間隔を指定した場合には、単位は日で、範囲は［1～365］となります。周期を未入力にするには値を削除します。

■終了時刻

ジョブの終了時刻を指定します。周期を設定した場合に指定が必要です。

■適用期間

指定したルールの適用期間（開始日～終了日）を指定します。適用期間の日付は2037年12月31日までです。

スケジュールされる個数を非常に多く設定(数分間隔で数十年の適用期間など)した場合、次に[スケジュール設定]ダイアログボックスを開く際、タイムアウトでエラーになることがあります。

5.1.3.2. スケジュールとジョブネットワークを関連付ける

例として、「5.1.3.1 直接スケジュールを作成する」で作成したスケジュールを「3.1 ジョブネットワークを作成する」で作成した「NewJnw」に関連付けます。

1. ［スケジュール設定］ダイアログの［関連JNW］タブを選択します。スケジュールとジョブネットワークを関連付けるダイアログが表示されます。

2. ［その他のJNW］部のリストから「NewJnw」を選択して、［追加］ボタンをクリックします。「NewJnw」が［関連JNW］部のリストに追加されます。

［その他のJNW］部のリストには、スケジュール所有者のジョブネットワークの一覧が表示されます。［関連JNW］部のリストからスケジュールから関連を解除したいジョブネットワークを選択して［削除＞＞］ボタンで［関連JNW］部のリストから削除することができます。

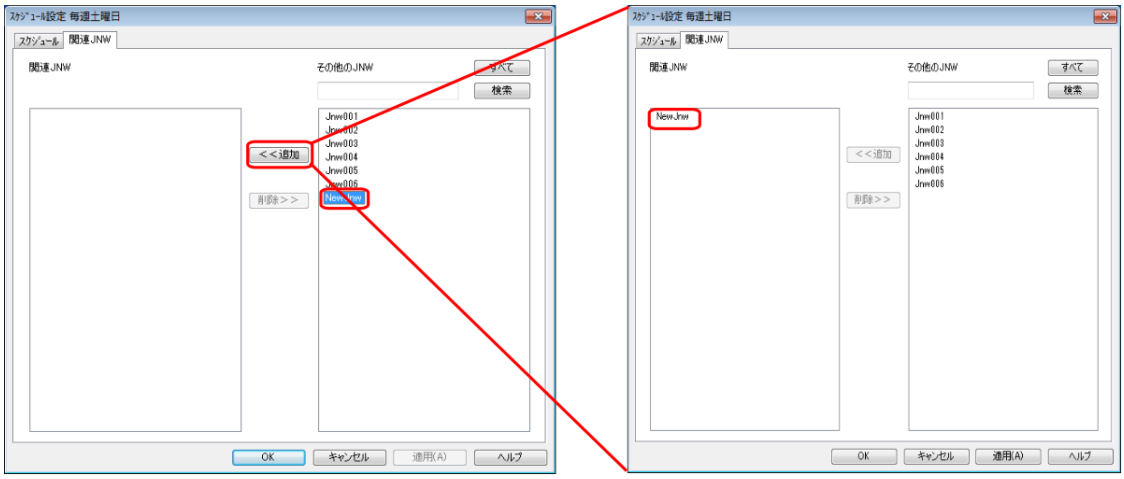


図5.14 ジョブネットワークとの関連付け画面例

3. 設定後、［適用］ボタンをクリックします。

4. ［OK］ボタンをクリックします。スケジュールとジョブネットワークの関連付けの設定が終了します。

5. ユーザフレームの［スケジュール一覧］に表示されている「毎週土曜日」スケジュールアイコンの行の［関連JNW数］欄に「1」が表示されているのを確認します。

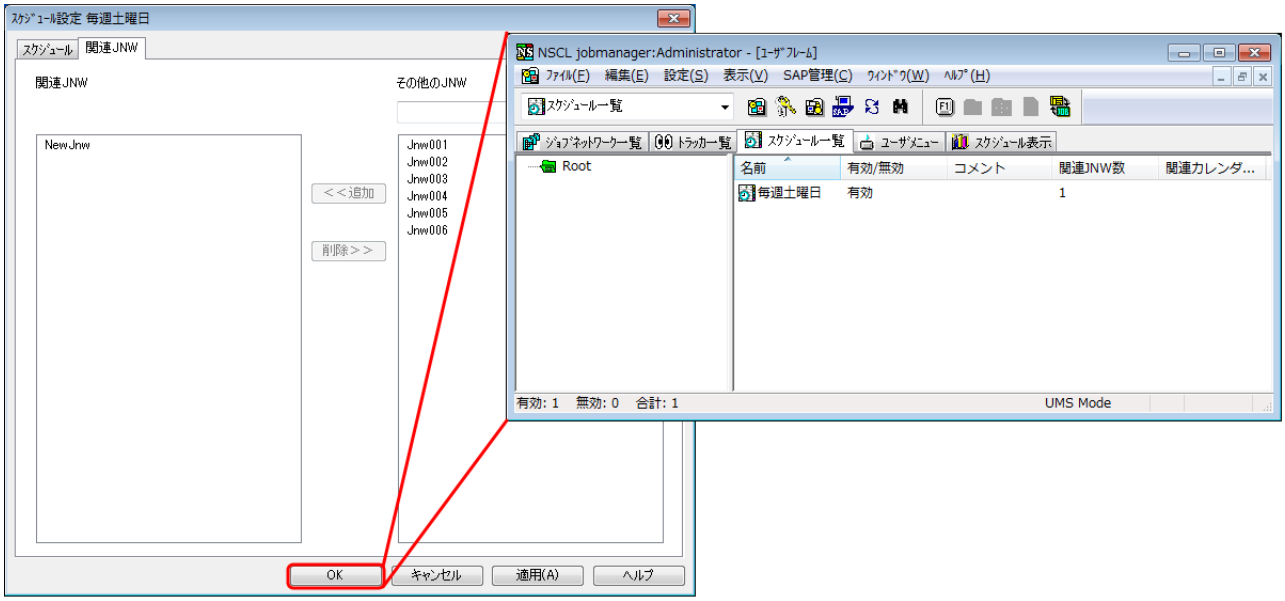


図5.15 スケジュール設定終了画面例

5.1.3.3. 独立した稼働日カレンダを元にスケジュールを作成する

稼働日カレンダは、ジョブの運用を行う日（稼働日）またはジョブの運用を行わない日（休止日）を定義したカレンダです。

稼働日カレンダをスケジュールに適用することによって、作成しているジョブの自動実行スケジュールに、休止日を考慮したスケジュールを設定できます。

1. スケジュールアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューの［開く］を選択します。

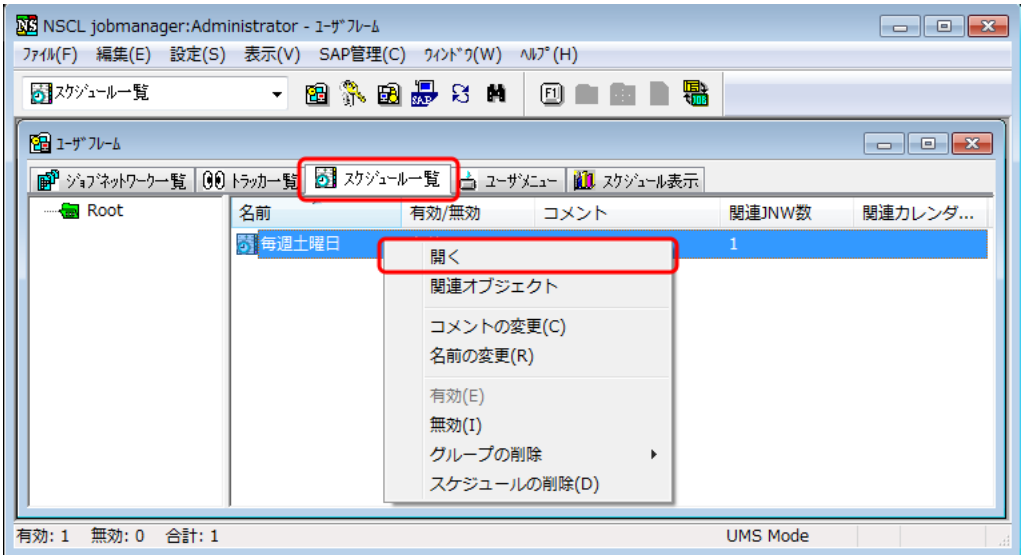


図5.16 スケジュール設定ダイアログの表示

2. ［スケジュール設定］ダイアログが表示されます。

3. ［カレンダ選択］部から稼働日カレンダ、ここでは［Japan］を選択します。

Japanカレンダは、「9.6 Japanカレンダをインポートする」を参照してください。

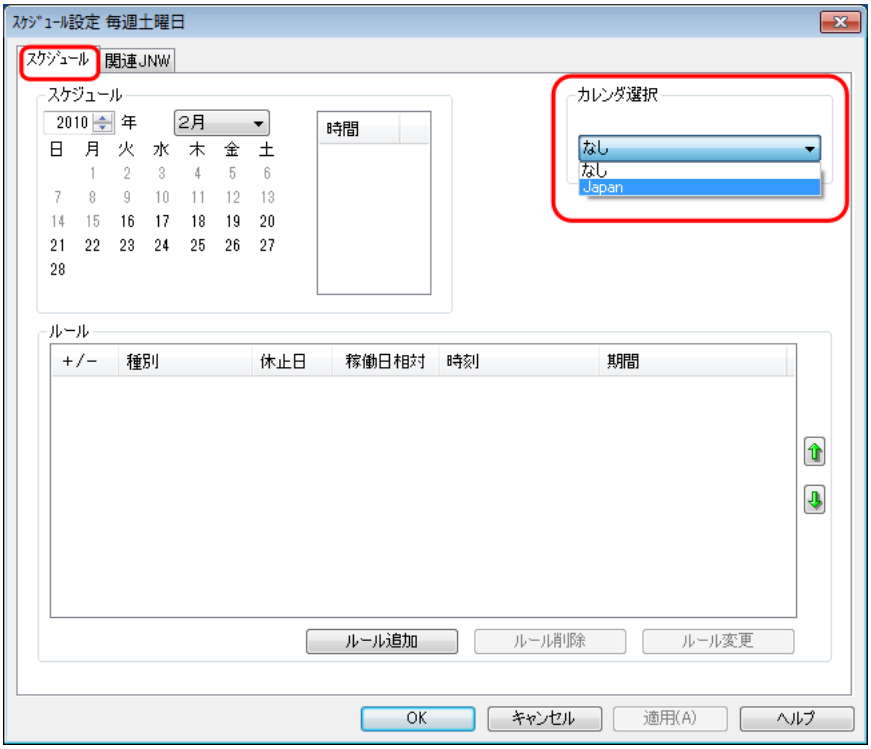


図5.17 稼働日カレンダ選択画面例

4. 選択後、［OK］または［適用］ボタンをクリックします。

稼働日カレンダを解除する場合は、コンボボックスから「なし」を選択します。

稼働日カレンダの適用または解除が行われると、スケジュールが再計算され稼働日カレンダを考慮したスケジュールがスケジュール部に表示されます。

■カレンダへのタイムゾーン設定機能を「使用する」に設定している場合は、カレンダ選択フィールドにタイムゾーン設定項目が追加されます。詳細については「JobCenter 環境構築ガイド　15.2.4.スケジュールにタイムゾーンの設定を行ったカレンダを指定する」を参照してください

■稼働日カレンダの新規作成または更新は管理者アカウントで行います。詳細については<環境構築ガイド>の7章 「稼働日カレンダの設定」 を参照してください。

5.1.4. スケジュールされたジョブネットワークを確認する

ジョブネットワーク「NewJnw」がスケジュールに関連付けられていることを確認します。

ユーザフレームの［トラッカー一覧］、［スケジュール表示］、［スケジュール一覧］でそれぞれ用途に応じて確認できます。

5.1.4.1. ［トラッカー一覧］で確認する

「NewJnw」の［状況］、［予定開始時間］、［予定終了時間］などのスケジュールの詳細が確認できます。

1. ユーザフレームの［トラッカー一覧］タブを選択します。

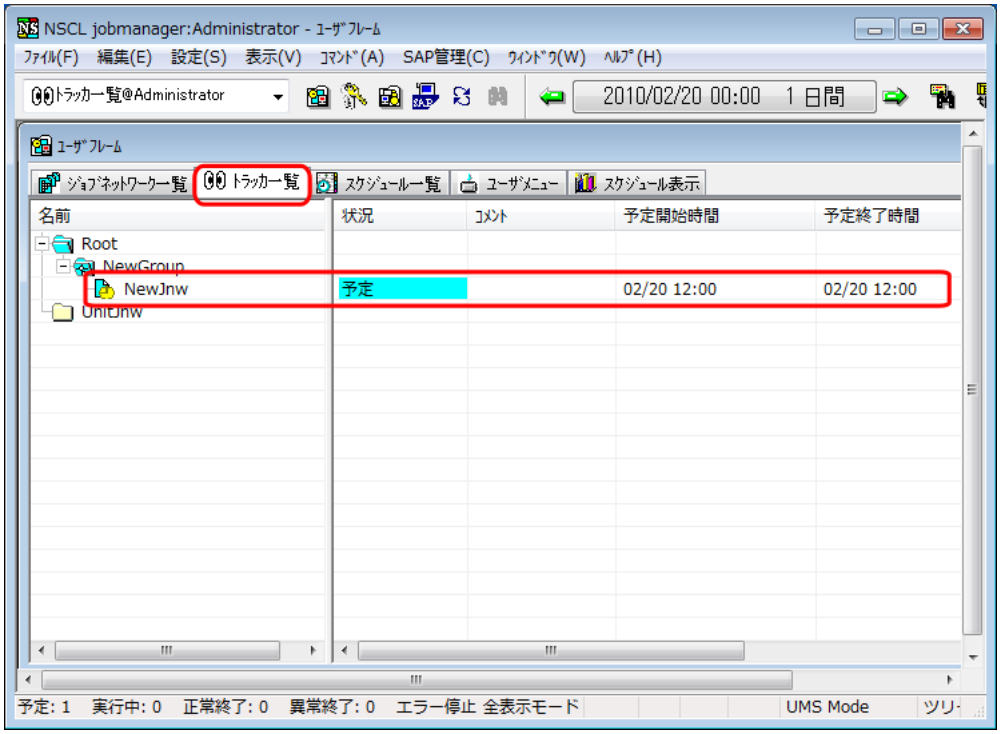


図5.18 ［トラッカー一覧］での確認画面例

なお、表示期間の初期設定が1日間になっているため、図5.18「［トラッカー一覧］での確認画面例」のように設定したスケジュールが表示されないことがあります。スケジュールを設定した日付または曜日を含んだ表示期間に変更します。

表示期間の変更の方法は、「6.7 トラッカー一覧の表示期間を指定して表示する」を参照してください。

5.1.4.2. ［スケジュール表示］で確認する

「NewJnw」に関連付けられた［スケジュール名］および実行日が確認できます。

1. ユーザフレームの［スケジュール表示］タブを選択します。

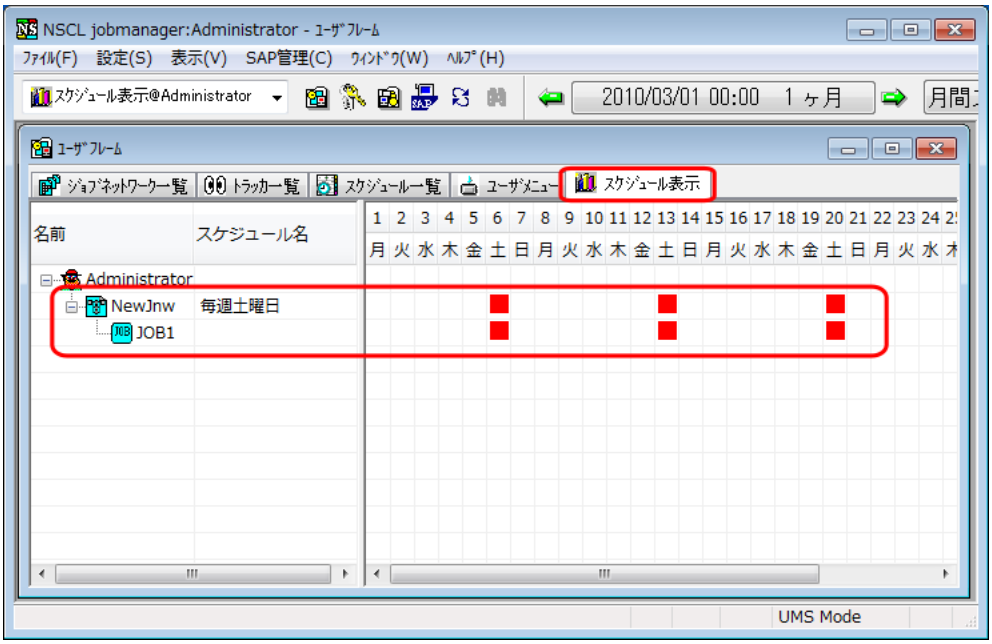


図5.19 ［スケジュール一覧］での確認画面例

5.1.4.3. ［関連オブジェクト］で確認する

各スケジュールに関連付けられているジョブネットワークを、一覧形式で表示することができます。

1. ユーザフレームの［スケジュール一覧］タブを選択します。

2. メニューバーの［表示］－［関連オブジェクト数一覧を表示］にチェックを入れます。

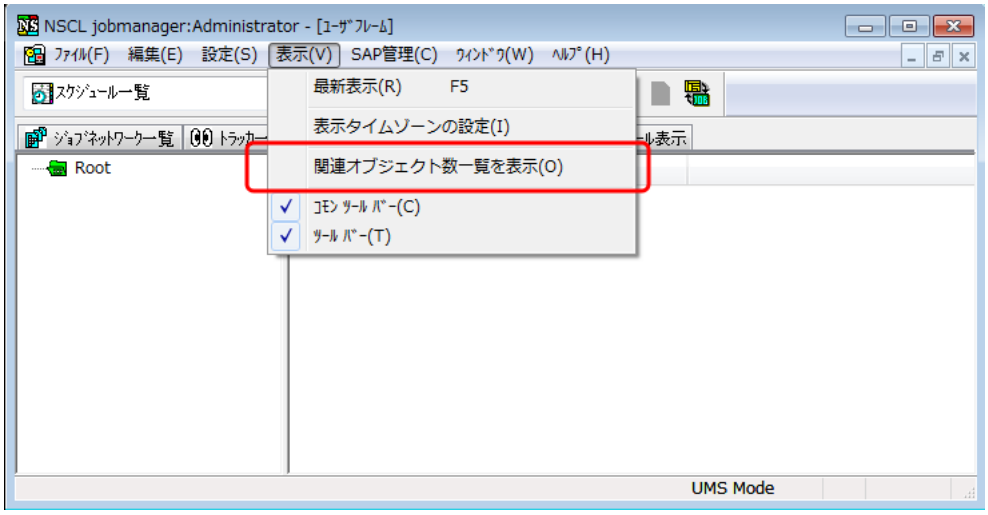


図5.20 関連オブジェクト数一覧を表示

3. スケジュールの右クリックメニュー［関連オブジェクト］を選択します。

4. 選択したスケジュールの関連オブジェクト画面が表示されます。

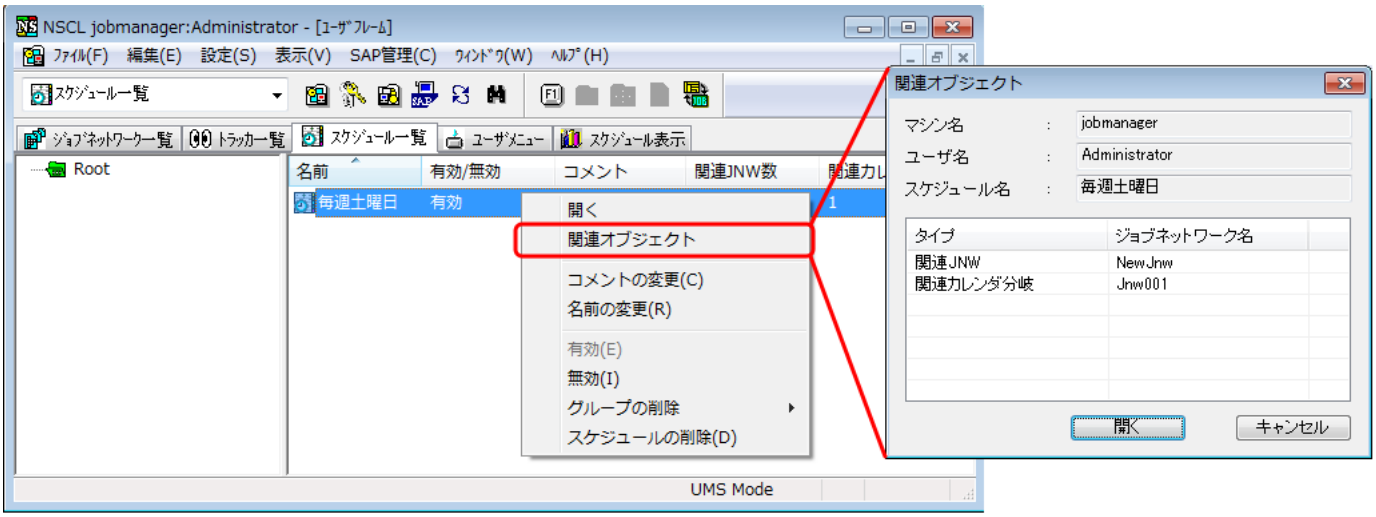


図5.21 ［関連オブジェクト］画面例

■タイプ［関連JNW］

当該スケジュールの関連ジョブネットワークとして設定されているジョブネットワークを表示します。

■タイプ［関連カレンダ分岐］

当該スケジュールをカレンダ分岐部品に指定しているジョブネットワークを表示します。

■［関連オブジェクト数一覧を表示］がチェックされていない場合、スケジュールの右クリックメニュー［関連オブジェクト］は選択できません。

■［関連JNW］,［関連カレンダ分岐］のいずれも存在しないスケジュールは、スケジュールの右クリックメニュー［関連オブジェクト］は選択できません。

5.2. スケジュールを操作する

スケジュールは、対象のスケジュールを選択して右クリックしたときのポップアップメニューから操作できます。

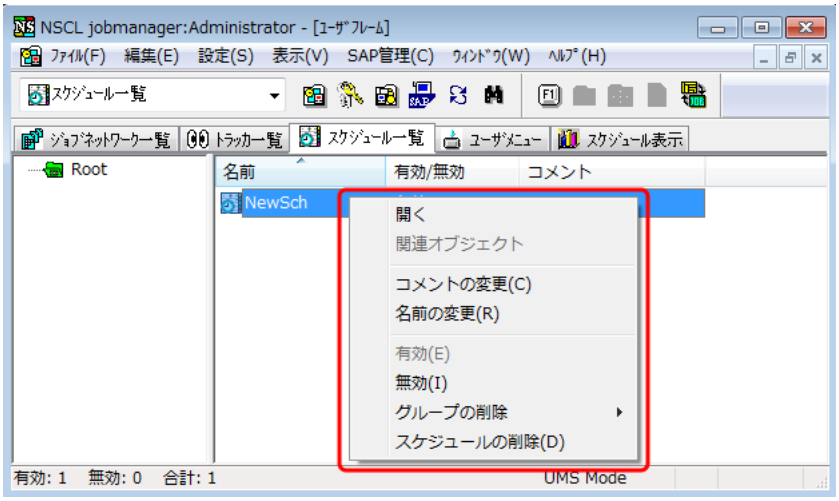


図5.22 スケジュールの操作メニュー

表5.1 スケジュールの操作一覧

メニュー名	説　明	参照先
開く	［スケジュール］ウィンドウを開きます。	「5.1.3 スケジュールルールを作成する」
関連オブジェクト	スケジュールに関連するジョブネットワークオブジェクトを表示します。	「5.1.4.3 ［関連オブジェクト］で確認する」
コメントの変更	スケジュールのコメントを変更します。	「5.2.2 スケジュールにコメントを設定する」
名前の変更	スケジュールの名前を変更します。	「5.2.3 スケジュール名を変更する」
有効	スケジュールを有効化します。	「5.2.4 スケジュールの有効/無効を設定する」
無効	スケジュールを無効化します。	「5.2.4 スケジュールの有効/無効を設定する」
スケジュールの削除	スケジュールを削除します。	「5.1.2.2 スケジュールを削除する」

5.2.1. スケジュールおよびスケジュールグループを移動する

スケジュールおよびスケジュールグループの移動は、指定したグループにドラッグアンドドロップして移動します。

■ドラッグアンドドロップによる移動

1. 移動したいスケジュール、またはスケジュールグループを左ボタンでドラッグし、移動先のスケジュールグループでドロップします。

2. または、移動したいスケジュールを右ボタンでドラッグし、移動先のスケジュールグループでドロップして「ここに移動」を選択します。

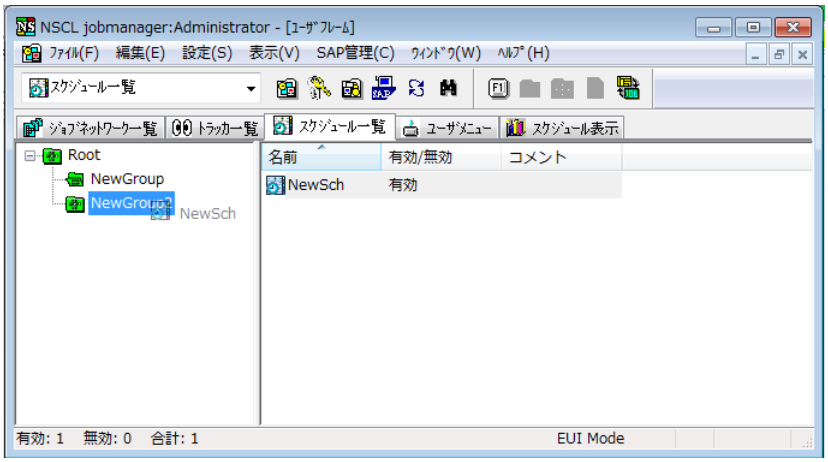


図5.23 スケジュールの移動

スケジュールおよびスケジュールグループ移動時の注意事項

■同じユーザ間での移動のみ可能です。

■スケジュールグループ移動後の階層数が5階層を超える場合、移動することはできません。

■移動先スケジュールグループのサブグループに、移動するスケジュールグループと同名のスケジュールグループが存在する場合は移動できません。

■移動するスケジュールグループ自身を移動先スケジュールグループに選択できません。

5.2.2. スケジュールにコメントを設定する

指定のスケジュールのコメントを指定します。

1. 単一のスケジュールを選択して右クリックしたときのポップアップメニューから［コメントの変更］を選択します。

2. スケジュールのコメントを設定します。

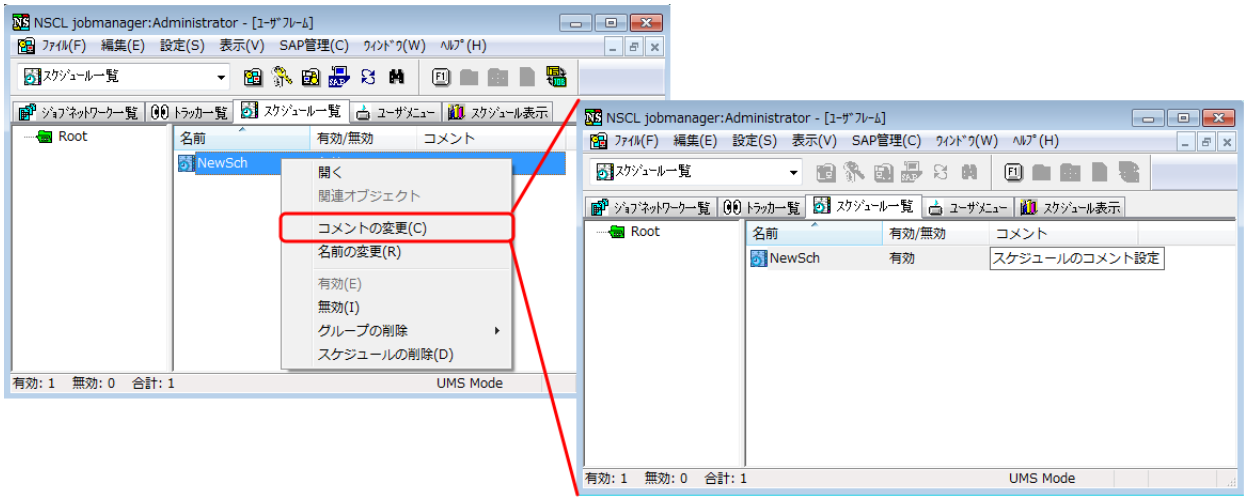


図5.24 スケジュールのコメント設定

スケジュールにコメントを設定する際の注意事項

■コメントは、日本語、英数字（混在可能）256バイト 以内で設定できます。

■タブ、特殊文字および「^」「#」「$」「;」「(」「)」「[」「]」「{」「}」「\」「|」「<」「>」「"」「&」「'」の文字は使用できません。

5.2.3. スケジュール名を変更する

指定のスケジュール名を変更します。

1. 単一のスケジュールを選択して右クリックしたときのポップアップメニューから［名前の変更］を選択します。

2. 変更するスケジュールの名前を設定します。

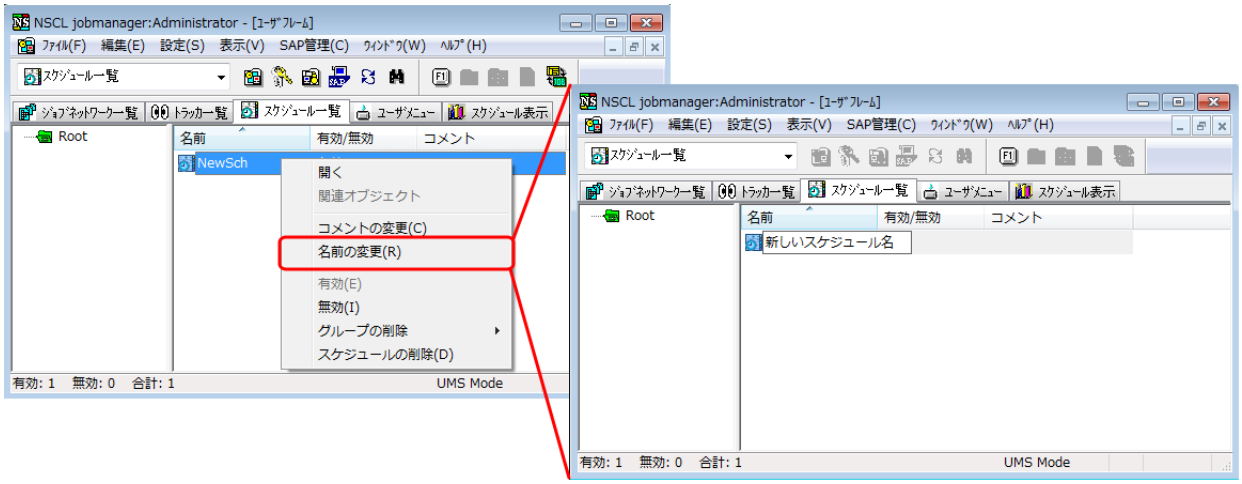


図5.25 スケジュール名の変更

スケジュールの名前を変更する際の注意事項

■半角128文字、全角64文字以内。

■名前の最初の文字はアルファベット、アンダースコア、2バイト文字しか使用できません。また、空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

■同一ユーザ内にすでに存在しているスケジュール名は指定できません。

5.2.4. スケジュールの有効/無効を設定する

指定のスケジュールを有効化、または無効化します。登録済みスケジュールの運用を開始させることや、稼働中のスケジュールを停止させることができます。また、スケジュールグループに対して操作することでスケジュールの有効化/無効化を一元的に管理する事が可能です。

スケジュールの有効/無効の状態は、スケジュール一覧画面 ［有効/無効］に表示されます。

■スケジュールの有効化/無効化は、当該のスケジュールに関連付けられたジョブネットワークのスケジュール投入を管理する機能です。カレンダ分岐部品の分岐動作には影響しません。

■無効状態のスケジュールに関連付けれらているジョブネットワークは、［トラッカ一覧］、［スケジュール表示］には表示されません。

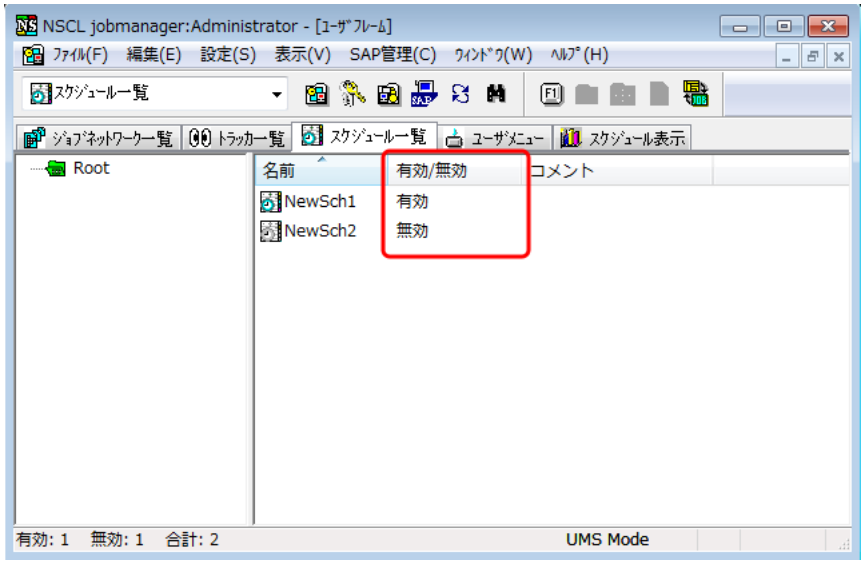


図5.26 スケジュールの有効/無効の状態

■［有効化］

スケジュール、スケジュールグループを選択して（混在の複数選択可）メニューバーの［ファイル］－［有効］を選択するか、右クリックしたときのポップアップメニューから、［有効］を選択します。

■［無効化］

スケジュール、スケジュールグループを選択して（混在の複数選択可）メニューバーの［ファイル］－［無効］を選択するか、右クリックしたときのポップアップメニューから、［無効］を選択します。

スケジュールの有効/無効化操作の注意事項

■スケジュールを無効化しても、すでにスケジュール投入されたトラッカは強制終了されず、処理を継続します。

■保留操作等によって、予定状態から予定確定状態になったトラッカに関連するスケジュールの無効化操作を行っても、予定確定状態のトラッカは削除されません。

第6章 ジョブの監視と管理（トラッカの使用方法）

ジョブネットワークの即時投入や自動実行の登録が行われると、そのジョブネットワークの実行状態がトラッカと呼ばれる一覧、およびウィンドウから変更、監視や結果参照をすることができます。

トラッカは、その回に実行されたジョブネットワークのプロセスや結果を表示します。

ジョブの状態は色やラベルで区別されるため、障害発生も即座に認識することができます。また、ジョブの状態を表す色はジョブネットワークトラッカのアイコン、トラッカ一覧のテキストモードおよびグラフィックモードにおいて共通になっていますので、ジョブの状態を判別しやすくなっています。

トラッカ一覧を表示するフレームおよびダイアログは次の3種類です。

■ジョブネットワークのトラッカ一覧

ジョブネットワーク単位でトラッカを表示します。

単位ジョブアイコンやサブジョブアイコンからジョブの実行状態を判別できます。また、これらのアイコンからスキップや保留などの操作ができます。

■ユーザフレームのトラッカ一覧

ログインしているユーザに関するトラッカを一覧表示します。

■マネージャフレームのトラッカ一覧@全マシン

マシングループ内のすべてのトラッカを一覧表示します。

アクセスを許可されている他のユーザのトラッカも参照できます。

6.1. ジョブの状態とトラッカの色の関係

ジョブネットワークトラッカのアイコン、トラッカ一覧のテキストモードおよびグラフィックモードは色によってジョブの状態を判別できます。

また、［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［フロー］タブの中には、各単位ジョブの実行トラッカを表すアイコンがあります。各単位ジョブの実行状態も、このアイコンのラベルまたは色によって判別することができます。

なお、ジョブネットワークが親子関係を持っている場合、トラッカ一覧の表示において親ジョブネットワークのトラッカは、子ジョブネットワークトラッカの状態を反映して表示します。

6.1.1. ジョブネットワークの状態とトラッカの色との関係一覧

ジョブネットワークの状態とトラッカの色との関係は次の表のとおりです。

色の設定は変更することができます。詳細については、<環境構築ガイド>の「6.6　色の設定を変更する」を参照してください。

表6.1 ジョブの状態とトラッカの色の関係

状　態	色	説　明
予定	水色	実行が予定されています。(トラッカはまだ作成されていません)
予定（確定）	水色	実行が予定されていて、トラッカが作成されています。 「（確定）」がつくのは次のような場合です。 ■親ジョブネットワークの実行が開始されたが、該当ジョブネットワークの実行が開始されていない状態 ■カレンダによる条件分岐を判断し、実行が確定している予定状態で、保留などの操作を行った場合 ■即時投入で未来時間を指定した場合 ■予定トラッカからジョブネットワークのスクリプトやパラメータを更新した場合 ■予定トラッカに対して保留／保留解除の操作を行った場合
実行中	黄	現在実行中です。
実行中［待合］	黄	実行中ですが、待ち合わせ部品で待ち合わせを行っています。
実行中［警告］	黄	警告が発生していますが、実行は継続しています。
実行中［警告］［待合］	黄	警告状態で実行中ですが、待ち合わせ部品で待ち合わせを行っています。
警告終了	黄	警告が発生しました。
正常終了	緑	正常に終了しました。
スキップ済	緑	実行はスキップされました。
中断済	緑	スキップ処理により、実行は中断されました。
エラー停止	赤	エラー発生のため実行を停止しています。
実行中異常	赤	エラーが生じていますが、実行は継続しています。
実行中異常［待合］	赤	エラー状態で実行中ですが、待ち合わせ部品で待ち合わせを行っています。

異常終了	赤	エラーが発生して終了しました。
中断	赤	異常が発生し、実行は中断されました。
分岐スキップ済	薄灰	カレンダ分岐の設定によって実行はスキップされました。
ダイアログ	橙	ダイアログ部品が、ユーザからの応答（「Ok」、「Error」の選択）待ちのため実行を停止しています。
応答待ち	橙	フローの処理が保留状態のジョブに到達しています。

スキップ予定のものにはこれらの「状態」の右側に［スキップ］が表示され、保留されているものには［保留］が、アーカイブされているものには［アーカイブ済］がそれぞれ表示されます。

事前スキップや事前保留されている「予定」トラッカの場合、トラッカ一覧画面からでは[スキップ]や[保留]が表示されないので、トラッカフローを開いて状態を確認する必要があります。

次に、［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［フロー］タブの中で表示される、単位ジョブトラッカアイコンおよびサブジョブネットワークトラッカアイコンの一覧は以下のとおりです。

表6.2 単位ジョブトラッカアイコン一覧

アイコン	ラベル	説　明
JOB WAIT	WAIT	待ち合わせ中です。
JOB SUBMIT	SUBMIT	ジョブが投入されて、キューの中で待っている状態です。
JOB RUN	RUN	ジョブが実行中です。
JOB SUSPEND	SUSPEND	ジョブの実行が一時停止しています。
JOB WARNING	WARNING	警告が発生しました。
JOB DONE	DONE	ジョブが正常終了しました。
JOB SKIP	SKIP	実行はスキップされました。
JOB KILLED	KILLED	スキップ処理により、実行は中断されました。
JOB STOP	STOP	ジョブが異常終了し、フローがそこで止まっています。
JOB ERROR	ERROR	ジョブが異常終了しました。フローは続行されています。
JOB ABORT	ABORT	異常が発生し、実行は中断されました。
JOB SKIP	SKIPPED	ジョブは1度も実行されず、スキップされました。

表6.3 サブジョブネットワークアイコン一覧

アイコン	ラベル	説　明
WAIT	WAIT	待ち合わせ中です。

	PREPARE	未実行状態ですが、実行用エントリが作成されている状態で待ち合わせ中です。
	RUN	サブジョブネットワークが実行中です。通常は黄色で表示されますが、保留ジョブやダイアログジョブがユーザの操作を待っている状態ではオレンジ色になります。
	WARNING	警告が発生しました。
	DONE	サブジョブネットワークが正常終了しました。
	SKIP	実行はスキップされました。
	KILLED	スキップ処理により、実行は中断されました。
	STOP	エラーで停止しているジョブがあります。
	RUN（赤）	サブジョブネットワーク実行中に異常が発生すると、赤色になります。サブジョブネットワークは実行を継続しています。
	ERROR	サブジョブネットワークが異常終了しました。
	SKIPPED	サブジョブネットワークはスキップされました。
	DIALOG	ユーザからの応答（「Ok」、「Error」の選択）待ちのため実行を停止しています。
	HOLD	サブジョブネットワークネットワーク内に保留ジョブが存在します。

6.1.2. 親子関係を持つジョブネットワークトラッカの表示

ジョブネットワークが親子関係を持っている場合の表示の優先順位は次の 表6.4「ジョブネットワークの状況と優先度」 のとおりです。

表6.4 ジョブネットワークの状況と優先度

ジョブネットワークの状態	優先度
エラー停止	高
ダイアログ	↑
応答待ち	|
実行中異常［待合］	|
実行中異常	|
実行中［警告］［待合］	|
実行中［警告］	|
実行中［待合］	|
実行中	|
正常終了	↓
予定（確定）	低

ジョブネットワークの親子関係には、並列と多段の2種類があります。それぞれ 図6.1「親子関係が並列の場合のトラッカ一覧の表示例」， 図6.2「親子関係が多段の場合のトラッカ一覧の表示例」 で示される優先順位に従って、親ジョブネットワークに子ジョブネットワークの状況が反映されます。

6.1.2.1. 並列

並列に動作する子ジョブネットワークを持つ場合は、子ジョブネットワークの状況のうち一番優先度の高い状況が親ジョブに反映されます。

例えば、図6.1「親子関係が並列の場合のトラッカ一覧の表示例」ではSUB11～SUB14の状況で一番優先度の高いSUB13の状況「実行中」がTEST01の状況として表示されます。

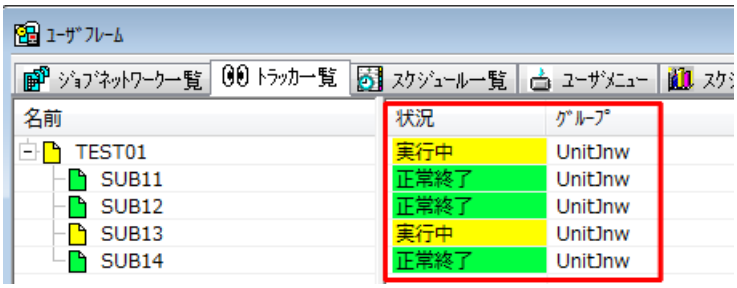


図6.1 親子関係が並列の場合のトラッカ一覧の表示例

6.1.2.2. 多段

多段に子ジョブネットワークを持つ場合は、上段の状況は下段に影響しませんが、下段の状況は上段に反映されます。

例えば、図6.2「親子関係が多段の場合のトラッカ一覧の表示例」ではSUB22の状況の「実行中[待合]」は、TEST02、SUB21の状況に反映されますがSUB23、SUB24の状況には反映されません。

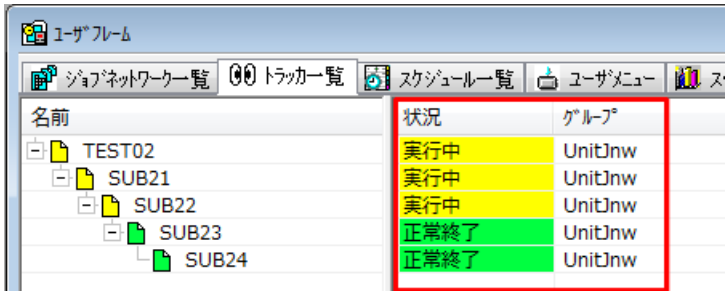


図6.2 親子関係が多段の場合のトラッカ一覧の表示例

6.1.3. グループアイコンの表示色とジョブネットワークトラッカの関係

グループ内にジョブネットワークトラッカが存在するとき、グループアイコンはジョブネットワークトラッカの状態に対応する色で表示されます。グループ内に複数のジョブネットワークトラッカが存在する場合、グループアイコンの表示色は次のように再帰的に決まります。

1. グループが子グループを持たないとき、自グループ内のジョブネットワークトラッカの状態の中で、最も優先度の高い状態に対応する色になります。

2. グループが子グループを持つとき、子グループの状態とそのグループ内のジョブネットワークトラッカの状態の中で、最も優先度の高い状態に対応する色になります。

グループアイコンの表示色におけるジョブネットワークトラッカの状態の優先度を、以下の表6.5「グループアイコンの表示色におけるジョブネットワークの状態と優先度」に示します。

表6.5 グループアイコンの表示色におけるジョブネットワークの状態と優先度

ジョブネットワークの状態	優先度

中断	高
異常終了/エラー停止/実行中異常/実行中異常［待合］(グループアイコンの表示色は異常終了のものと等しい色になります)	↑
警告終了	|
実行中［警告］/実行中［警告］［待合］	|
ダイアログ	|
応答待ち	|
正常終了	|
実行中/実行中［待合］	|
予定/予定（確定）	↓
スキップ済み［同時実行］	低

例えば、図6.3「グループアイコンの表示色の例」の赤枠を見るとSubGroup1にはジョブネットワークトラッカjnw2(実行中［待合］)、jnw3(ダイアログ)がありますが、実行中［待合］よりもダイアログの方が優先度が高いため、SubGroup1のグループアイコンの表示色はjnw3(ダイアログ)と等しくなります。 また、青枠を見るとGroup2には子グループSubGroup2(実行中)とjnw4(正常終了)がありますが、実行中よりも正常終了の方が優先度が高いため、Group2のグループアイコンの表示色はjnw4(正常終了)と等しくなります。

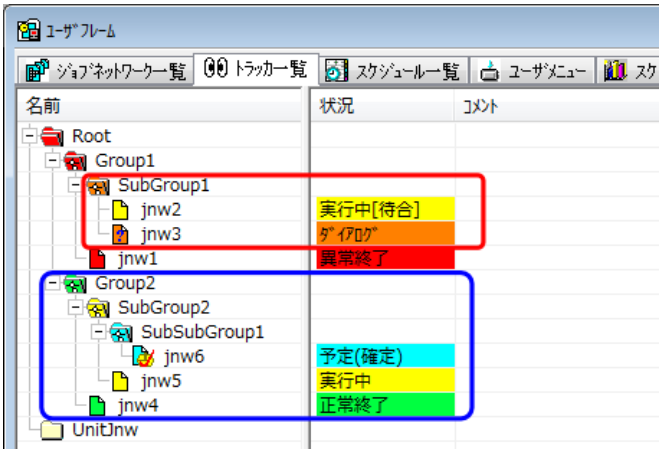


図6.3 グループアイコンの表示色の例

6.2. トラッカ一覧をテキスト／グラフィックモードで表示する

テキストモードでは、ジョブの状態を一覧形式で参照することができます。

グラフィックモードでは、実行登録されたトラッカや実行中のトラッカ、実行が終了したトラッカが、バーグラフで表示されます。

テキストモードとグラフィックモードの切り替えは、ツールバーの ボタン、またはメニューバーの［表示］－［グラフィックモード／テキストモード］で行います。

6.2.1. ジョブネットワークのトラッカ一覧

1. ユーザフレームのジョブネットワーク一覧からジョブネットワークを選択してジョブネットワークウィンドウを開き、［トラッカ一覧］タブを選択します。
2. そのジョブネットワークが関係するトラッカ一覧が表示されます。ジョブネットワーク単位で実行状況を表示します。
3. ツールバーの ボタン、またはメニューバーの［表示］－［グラフィックモード／テキストモード］で表示を切り替えます。

6.2.1.1. グラフィックモード表示

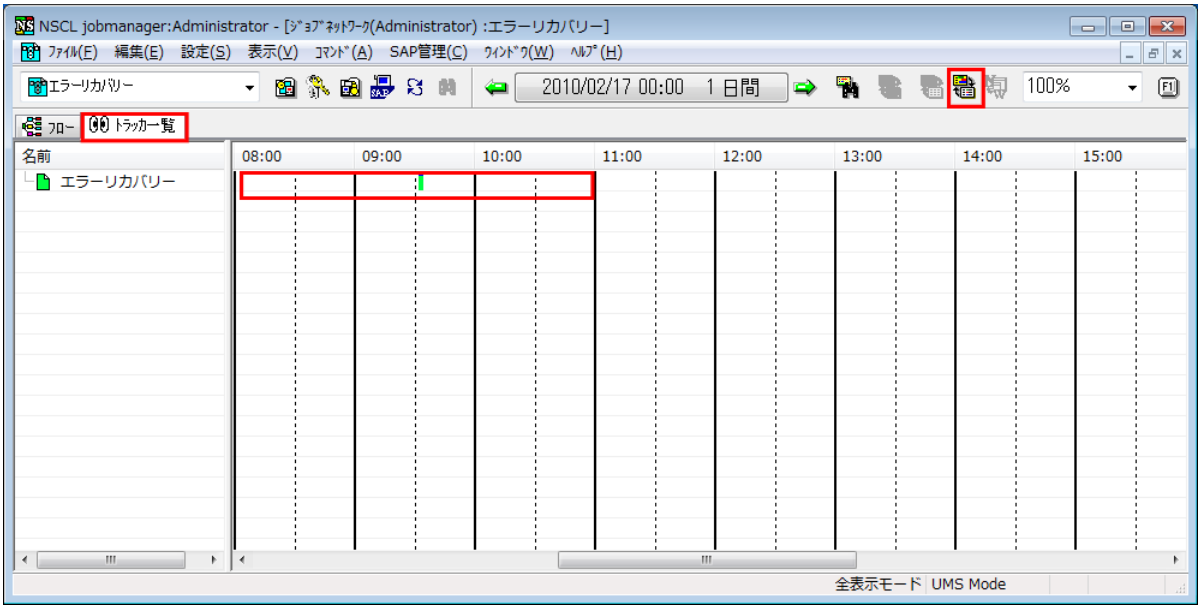


図6.4 ジョブネットワークのトラッカ一覧（グラフィックモード）画面例

グラフィックモード表示の各項目の内容は次のとおりです。

■名前

実行されたジョブネットワークの名前がアイコンとともに表示されます。

ジョブネットワークの名前の先頭に表示されているアイコンに「+（-）」がついている場合にそのアイコンをクリックすると、下位の階層のサブジョブネットワークトラッカが表示（非表示）されます。

■バーグラフ

- バーグラフは各トラッカに通常2段表示されます。上段：ジョブネットワークの実行予定が青色で表示されます。下段：ジョブネットワークの実行状況が表示されます。
- バーグラフの色は、テキストモードの「状況」で示されている色と共通です。なお、ジョブネットワークが起動されていないものについて実行状況は表示されません。
- グラフの表示は、表示倍率を選択できます。ツールバーにある倍率コンボボックスあるいはメニューバーの[表示]－[ズーム]にリストされた倍率をクリックすることによって、表示倍率を選択することができます。また、ツールバーの倍率コンボボックスには、倍率を入力することもできます。倍率の範囲は25%～200%です。

6.2.1.2. テキストモード表示

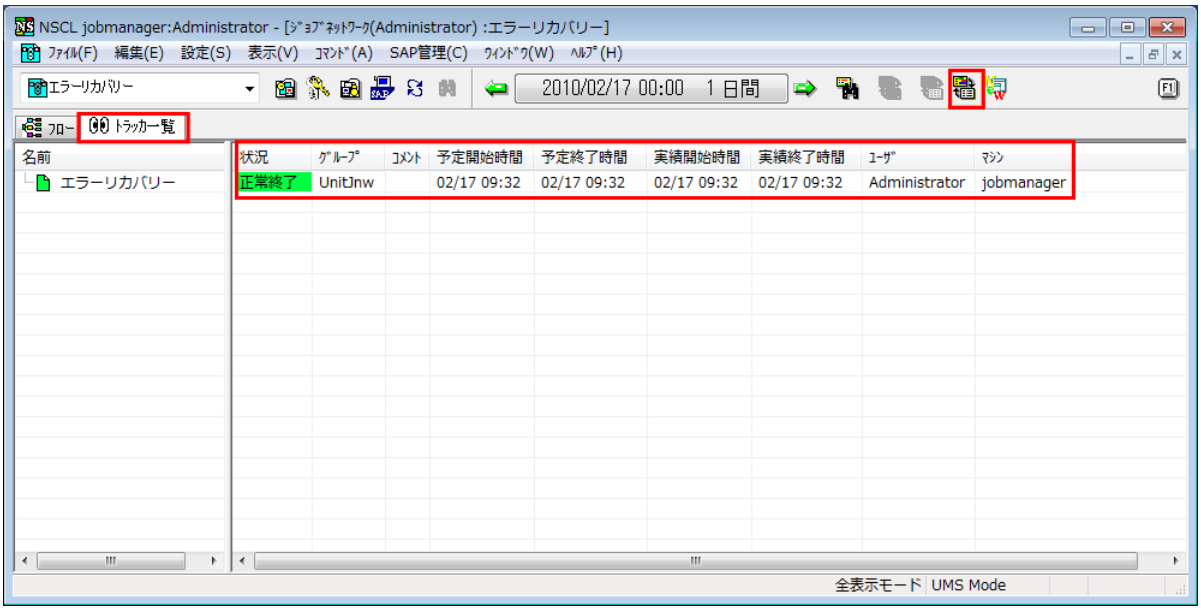


図6.5 ジョブネットワークのトラッカ一覧（テキストモード）画面例

テキストモード表示の各項目の内容は次のとおりです。

■名前

実行されたジョブネットワークの名前がアイコンとともに表示されます。

名前の先頭に表示されているアイコンに「+（-）」がついている場合にそのアイコンをクリックすると、下位の階層のサブジョブネットワークトラッカが表示（非表示）されます。

■状況

ジョブネットワークトラッカの状態です。「6.1　ジョブの状態とトラッカの色の関係」の表6.1「ジョブの状態とトラッカの色の関係」の内容が表示されます。

■グループ

グループ名を表示します。時間表示モードのときのみ表示します。

■コメント

ジョブネットワークに設定されているコメントです。

■予定開始時間

カレンダでスケジュールされた時間です。即時実行の場合には、即時実行した時間が表示されます。

■予定終了時間

ジョブネットワークや単位ジョブのパラメータウィンドウで設定された情報を元に計算した終了予定時間です。

■実績開始時間

ジョブネットワークを実際に開始した時間です。再実行された場合には、再実行した時間を表示します。

■実績終了時間

ジョブネットワークが実際に終了した時間です。グループの場合は、「－」が表示されます。

■ユーザ

ジョブネットワークを実行したユーザ名です。グループの場合は、そのグループが所属するユーザ名が表示されます。

■マシン

ジョブネットワークを実行したマシン名です。

6.2.2. ユーザフレームのトラッカー覧

1. ユーザフレームの［トラッカー覧］タブを選択します。
2. ユーザフレームのトラッカー覧が表示されます。ログインしているユーザに関するトラッカを表示します。
3. ツールバーの ボタン、またはメニューバーの［表示］－［グラフィックモード／テキストモード］で表示を切り替えます。

6.2.2.1. グラフィックモード表示

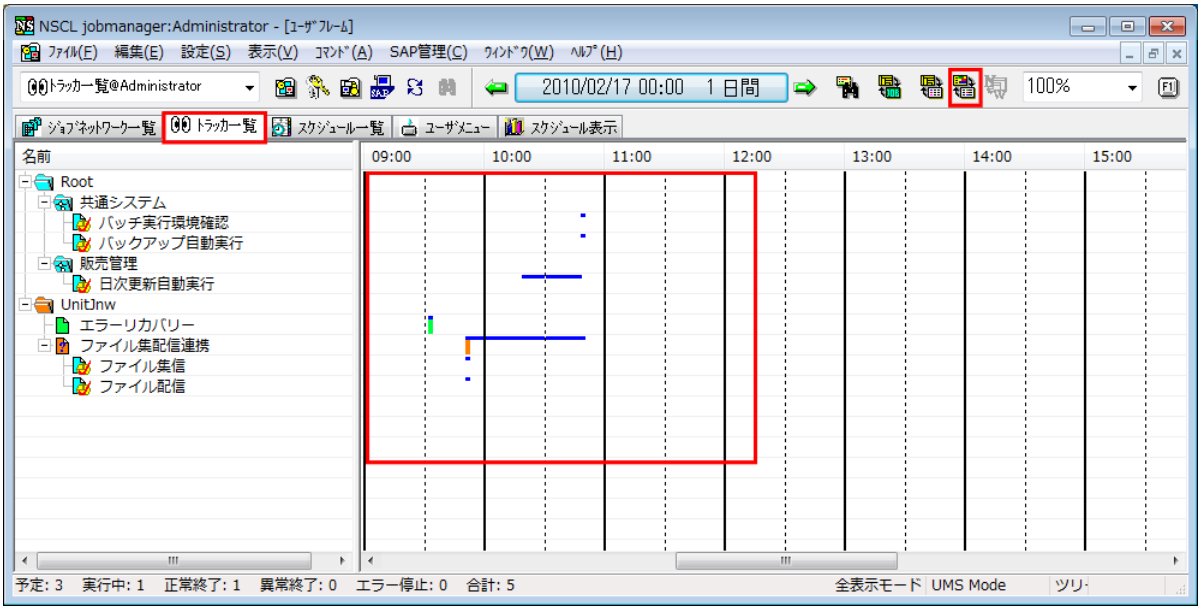


図6.6 ユーザフレームのトラッカー覧（グラフィックモード）画面例

グラフィックモード表示の各項目の内容は、「6.2.1.1 グラフィックモード表示」参照してください。

6.2.2.2. テキストモード表示

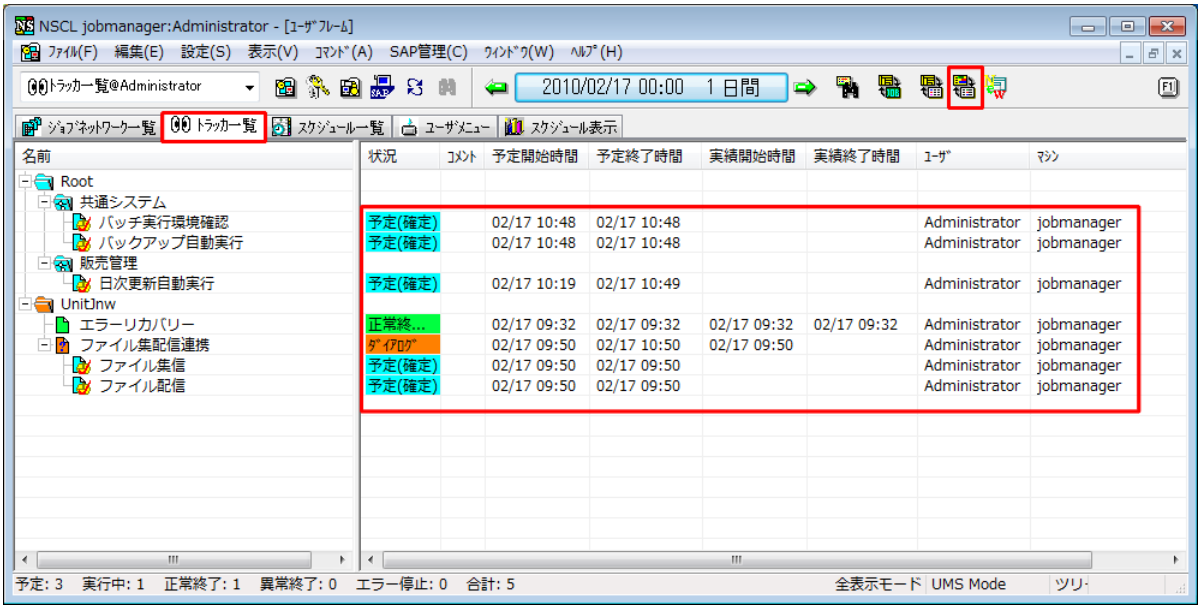


図6.7 ユーザフレームのトラッカー一覧（テキストモード）画面例

テキストモード表示の各項目の内容は、「6.2.1.2 テキストモード表示」を参照してください。

6.2.3. マネージャフレームのトラッカー一覧@全マシン

1. マネージャフレームの［トラッカー一覧@全マシン］タブを選択します。

2. マネージャフレームのトラッカー一覧が表示されます。ログインしているユーザに関するトラッカを表示します。

3. ツールバーの ボタン、またはメニューバーの［表示］－［グラフィックモード／テキストモード］で表示を切り替えます。

6.2.3.1. グラフィックモード表示

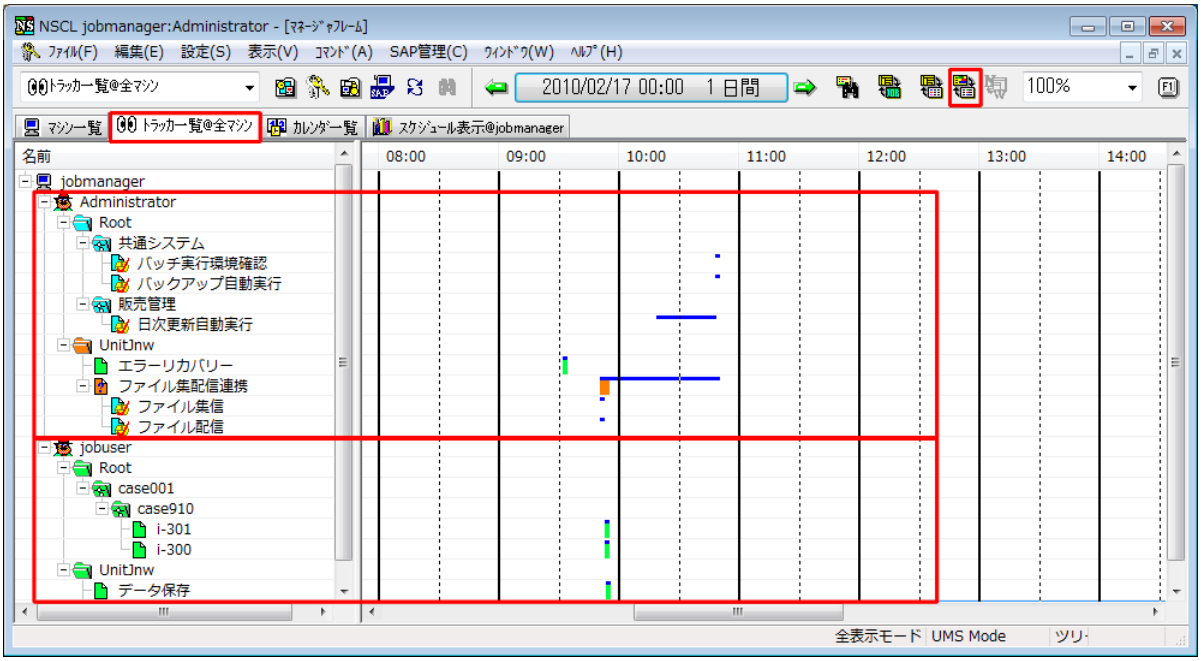


図6.8 マネージャフレームのトラッカー覧@全マシン（グラフィックモード）画面例

グラフィックモード表示の各項目の内容は、「6.2.1.1 グラフィックモード表示」参照してください。

6.2.3.2. テキストモード表示

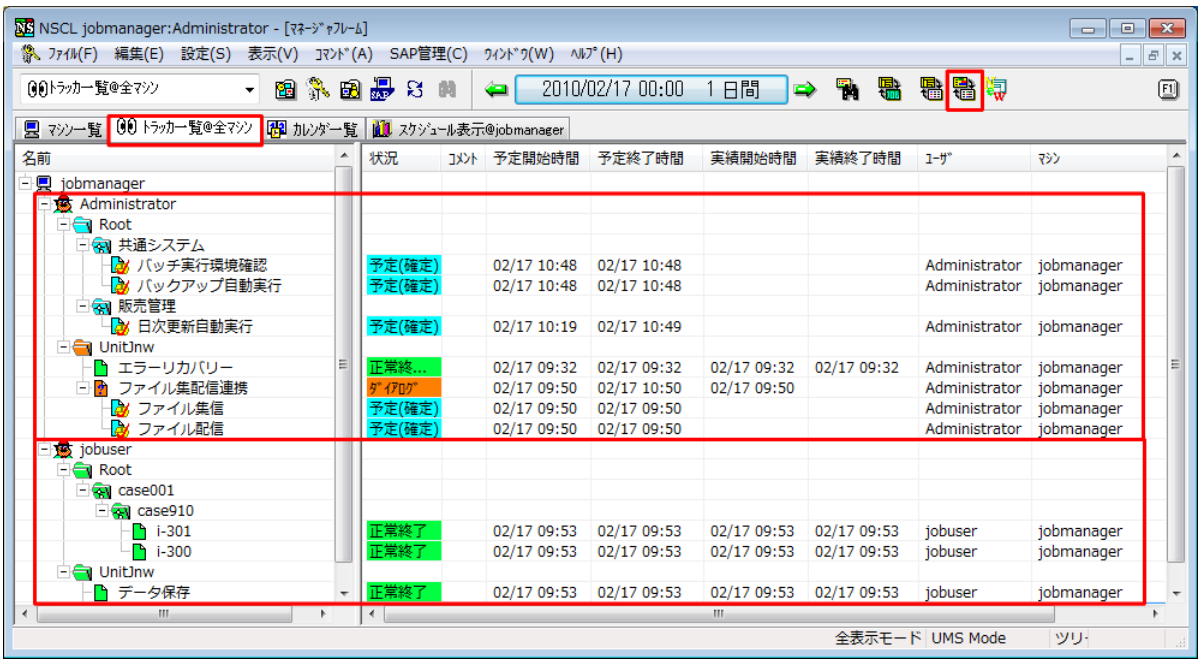


図6.9 マネージャフレームのトラッカー覧@全マシン（テキストモード）画面例

テキストモード表示の各項目の内容は、「6.2.1.2 テキストモード表示」を参照してください。

6.2.4. 簡易統計情報表示

トラッカー覧に表示されているトラッカの状態数を表示します。

状態のカウント対象になるのは親ジョブネットワークのみです。

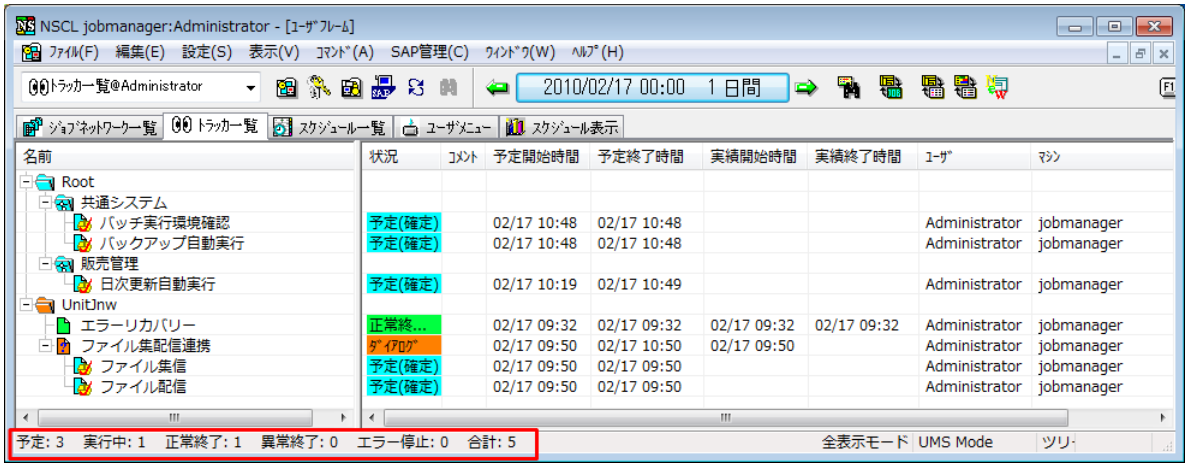


図6.10 簡易統計情報の画面例

次の状態のトラッカをカウント対象として個数を表示します。

状態	含まれる状態
予定	予定、予定(確定)
実行中	実行中、実行中異常、実行中[警告]、ダイアログ、応答待ち、 実行中異常[待合]、実行中[警告][待合]、実行中[待合]、 実行中異常[終了待ち]、実行中[警告][終了待ち]、実行中[終了待ち]、 実行中<再実行>、実行中異常<再実行>
正常終了	正常終了、スキップ済、中断済、スキップ済[同時実行]、正常終了<再実行>
異常終了	異常終了、警告終了、中断、異常終了<再実行>
エラー停止	エラー停止
合計	親ジョブネットワーク数の合計値

6.3. 最新のトラッカだけを表示する

トラッカ一覧画面で同一のジョブネットワーク定義のトラッカのうち、最新のものだけを表示します（最新トラッカ表示モード）。最新トラッカ表示モードは次の4つの画面で利用できます。

■［ユーザフレーム］の［トラッカ一覧］タブ

■［マネージャフレーム］の［トラッカ一覧@全マシン］タブ

■［ジョブネットワークフレーム］の［トラッカ一覧］タブ

■［マシンフレーム］の［トラッカ一覧］タブ

最新トラッカ表示モードで表示されるトラッカは次のとおりです。

■実行中および実行済みのトラッカの中で最新のトラッカのみを表示します。予定/予定(確定)のトラッカは表示しません。

■サブジョブネットワークを持つトラッカの場合は、最上位のジョブネットワークが同一のトラッカの中で最新のもののみを表示します。この場合、最上位ジョブネットワークの元々の投入予定時刻によってそのトラッカが最新かどうかを判断します。

例えば、予定状態のトラッカAを強制起動したあとで、再度同じジョブネットワークを即時投入した場合、最新として表示されるトラッカは、トラッカAの元々の投入予定時刻と、即時投入した時刻を比較して決定されます。

最新トラッカモードの注意事項

■最新トラッカ表示モードでは、表示期間の移動、［期間設定］ボタン、およびグラフィックモード／テキストモードの切り替えは行えません。

■［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブと［コントロールダイアログ］の「表示条件」にある「予定」と「予定JNW分岐スキップ確認」の項目は選択できません。

6.3.1. 最新トラッカ表示モード機能を利用する

1. トラッカ一覧画面のツールバー右端にある「最新トラッカ表示」ボタンをクリックするか、あるいはメニューバーの［表示］－［最新トラッカ表示］を選択します。

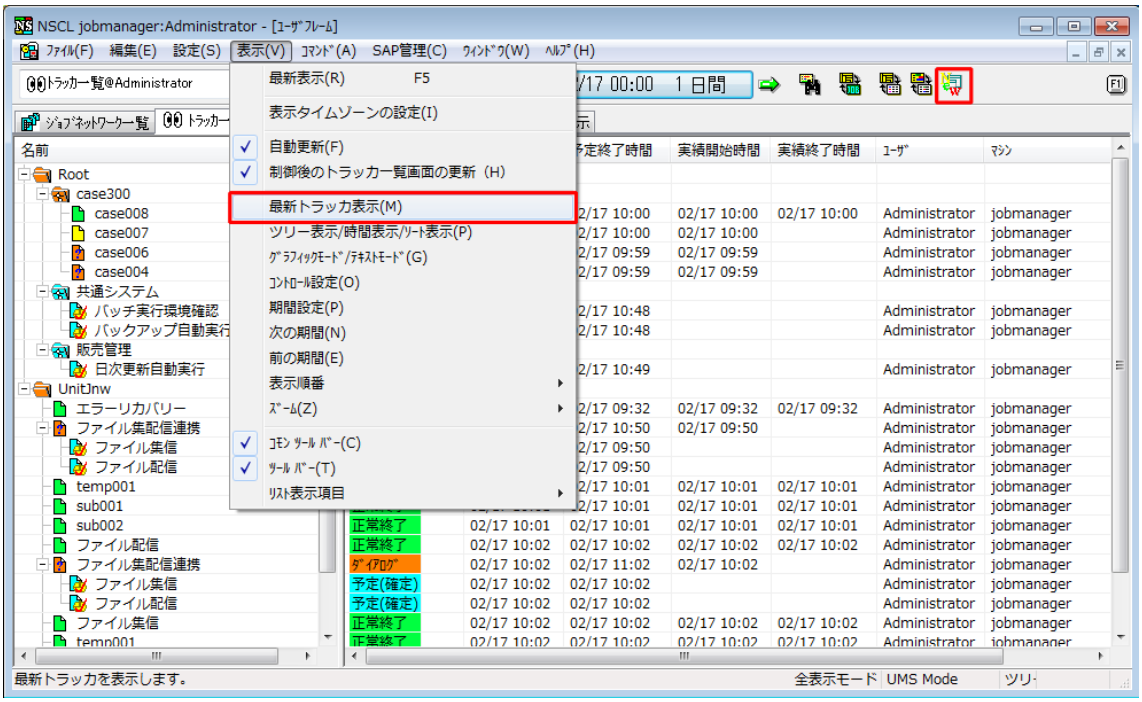


図6.11 最新トラッカ表示モード実行開始画面例

2. 最新トラッカ表示モードとなります。最新トラッカ表示モードでは、最上位ジョブネットワーク名が同じ名前のトラッカについて、最新トラッカのみが表示されます。

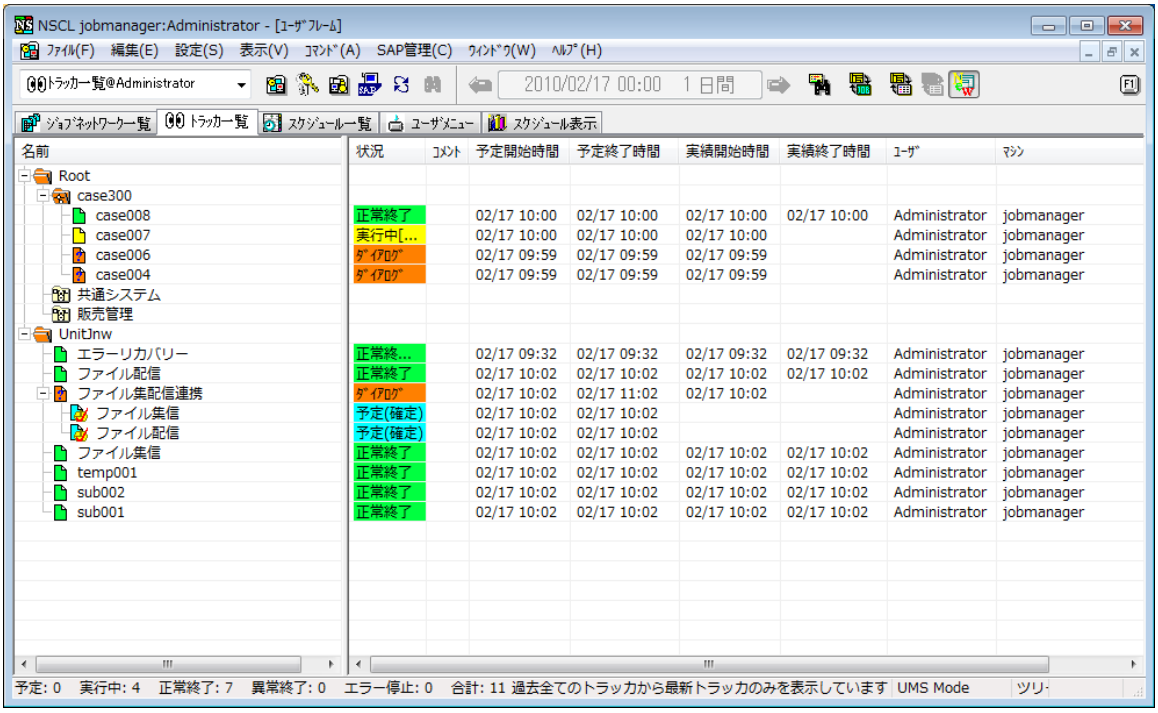


図6.12 最新トラッカ表示モード実行結果画面例

画面右下に、現在の表示内容を表すステータスが表示されます。次の3種類があります。

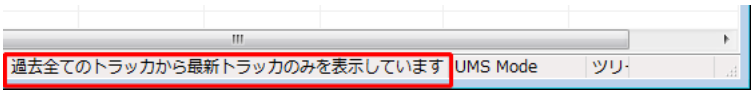


図6.13 トラッカ一覧の現在の表示内容を表すステータス表示例

■全表示モード

すべてのトラッカを表示しています（従来のトラッカ一覧の表示形式です）。

■過去全てのトラッカから最新トラッカのみを表示しています

期間に関係なく過去全てのトラッカを検索し、最新トラッカのみを表示しています。

■xxxx年xx月xx日以降の最新トラッカのみを表示しています

設定された期間内（表示されている日付以降）のトラッカを検索し、最新トラッカのみを表示しています。

6.3.2. 最新トラッカ表示モードを設定する

最新トラッカ表示モードは、ユーザ環境設定のトラッカ表示タブの「トラッカ一覧におけるトラッカ表示モード」で設定します。

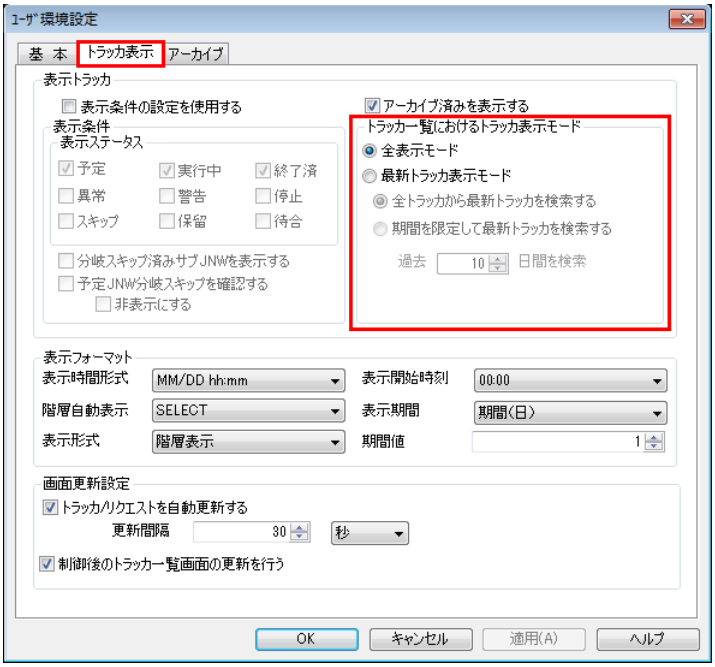


図6.14 ［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの画面例

■全表示モード

すべてのトラッカを表示します。

■最新トラッカ表示モード

最新のトラッカのみを表示します。このモードが指定されたときに、次表に示される設定が有効になります。最新トラッカ表示モードが選択されている場合、「表示条件」欄の「予定」と「予定JNW分岐スキップ確認」の項目が選択できなくなります。

全トラッカから最新トラッカを検索する	過去全てのトラッカを検索して、最新のトラッカのみを表示します。

期間を限定して最新トラッカを検索する	指定した期間内のトラッカを検索して、最新のトラッカのみを表示します。
過去[x]日間を検索	「期間を限定して最新トラッカを検索する」が選択された場合に指定可能です。1～9999までの範囲で設定します。 （例）　2が設定された場合、前日0時0分以降のトラッカが検索対象となり、前々日の23時59分以前のトラッカは対象としません。

ここで指定された設定に従って、トラッカ一覧画面が表示されます。

「トラッカ一覧におけるトラッカ表示モード」の注意事項

■［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの「トラッカ一覧におけるトラッカ表示モード」で変更した内容は、次に［ユーザフレーム］ウィンドウまたは［マネージャフレーム］ウィンドウを開いた際に有効になります。

したがって、［ユーザフレーム］ウィンドウまたは［マネージャフレーム］ウィンドウを開いた状態で設定変更を行った場合、変更を反映するには一旦ウィンドウを閉じ、再度開きなおす必要があります。

■［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの「トラッカ一覧におけるトラッカ表示モード」の設定が「全トラッカから最新トラッカを検索する」となっている場合、期間に関係なくすべてのトラッカの中から最新トラッカを検索して表示します。そのため、トラッカのデータ量によっては、表示にかなりの時間を要する場合があります。

その場合は、ユーザ環境設定のトラッカ表示タブで期間を限定して最新トラッカを検索するように設定してください。

6.4. トラッカ一覧をツリー表示する

トラッカ一覧のトラッカを、マシングループ内のマシン、ユーザ、グループRootとグループUnitJnwの順に階層化してツリー表示します。ツリー表示の階層イメージは、図6.15「ツリー表示の階層イメージ」のようになります。

ツリー表示への切り替えは、 ボタンで行います。ウィンドウの右下に「ツリー」と表示されます。

なお、マシングループの詳細については<環境構築ガイド>の「3.1.2　マシングループに他マシンを追加、削除する」を参照してください。

「ジョブネットワークのトラッカ一覧」ではツリー表示はできません。

```
─マシングループ内のマシン
  ├ユーザ1
  │ ├グループRoot
  │ │ ├子グループ11
  │ │ │ ├孫グループ111
  │ │ │ │ └ジョブネットワーク11101
  │ │ │ ├ジョブネットワーク1101
  │ │ │ │ └ジョブネットワーク110101
  │ │ │ └ジョブネットワーク1102
  │ │ └子グループ12
  │ │   ├ジョブネットワーク1201
  │ │   └ジョブネットワーク1202
  │ │     └ジョブネットワーク120101
  │ └グループUnitJnw
  │     ├ジョブネットワーク001
  │     ・       ・
  │     ・       ・
  │     └ジョブネットワーク00n
  ├ユーザ2
    ・   ・
```

図6.15 ツリー表示の階層イメージ

6.4.1. ユーザフレームのトラッカ一覧

1. ユーザフレームの［トラッカ一覧］タブを選択します。

2. ユーザフレームのトラッカ一覧が表示されます。ボタンをクリックしてツリー表示に切り替えてください。ウィンドウの右下に「ツリー」と表示されます。

3. ログインしているユーザに関して、グループRootで子グループとトラッカが表示されます。

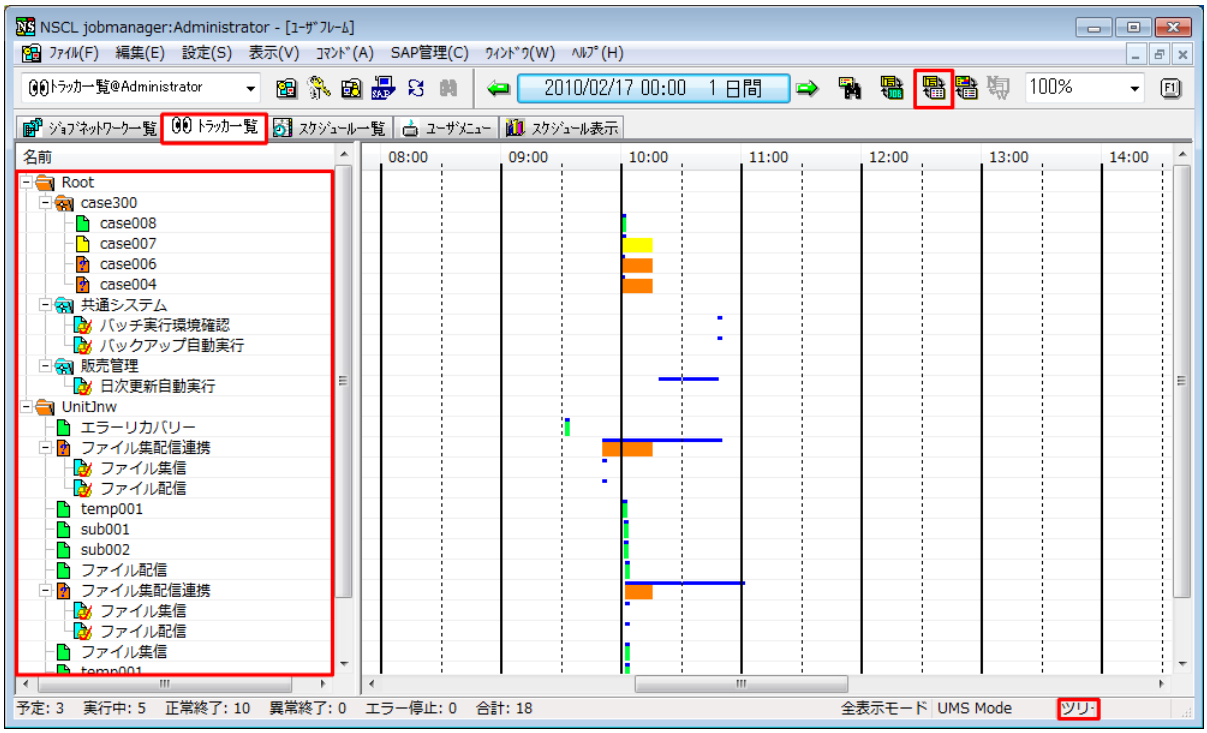


図6.16 ユーザフレームのトラッカー覧のツリー表示画面例

6.4.2. マネージャフレームのトラッカー覧@全マシン

1. マネージャフレームの［トラッカー覧@全マシン］タブを選択します。

2. マネージャフレームのトラッカー覧が表示されます。ボタンをクリックしてツリー表示に切り替えてください。ウィンドウの右下に「ツリー」と表示されます。

3. マシングループ内のマシンごとの各ユーザのグループRootで子グループとすべてのトラッカが表示されます。また、グループUnitJnwに所属しているジョブネットワークのトラッカも表示されます。

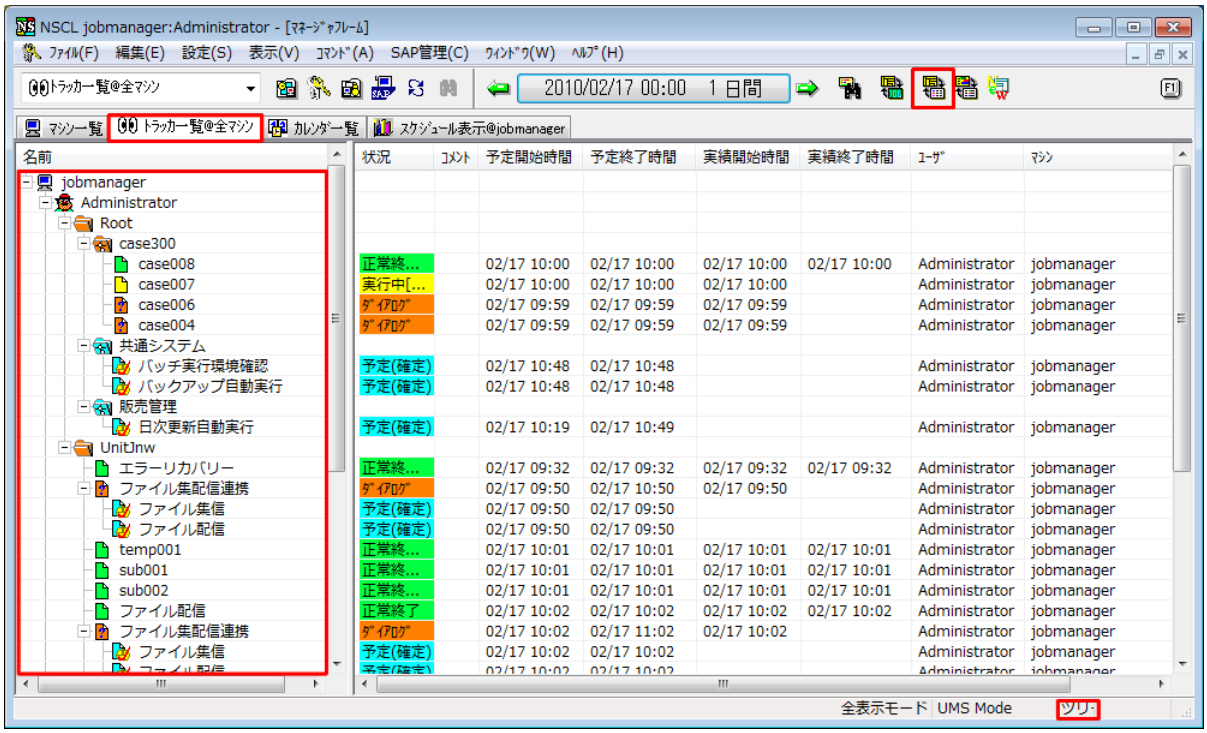


図6.17 マネージャフレームのトラッカー覧@全マシンのツリー表示画面例

6.5. トラッカ一覧を予定開始時間の昇順で表示する

マシンごとの各ユーザのジョブネットワークのトラッカが、予定開始時間の昇順に並べ替えて表示されます。

6.5.1. ジョブネットワークのトラッカ一覧

ジョブネットワークのトラッカ一覧で、予定開始時間順にトラッカを並べ替えるには、メニューの［予定開始時間順］を利用します。表示切り替えボタンによる時間表示への切り替えはできません。また、ウィンドウの右下に「時間」も表示されません。

1. ジョブネットワークの［トラッカ一覧］タブを選択します。

2. ジョブネットワークのトラッカ一覧が表示されます。

3. メニューバーの［表示］－［表示順番］－［予定開始時間順］を選択します。

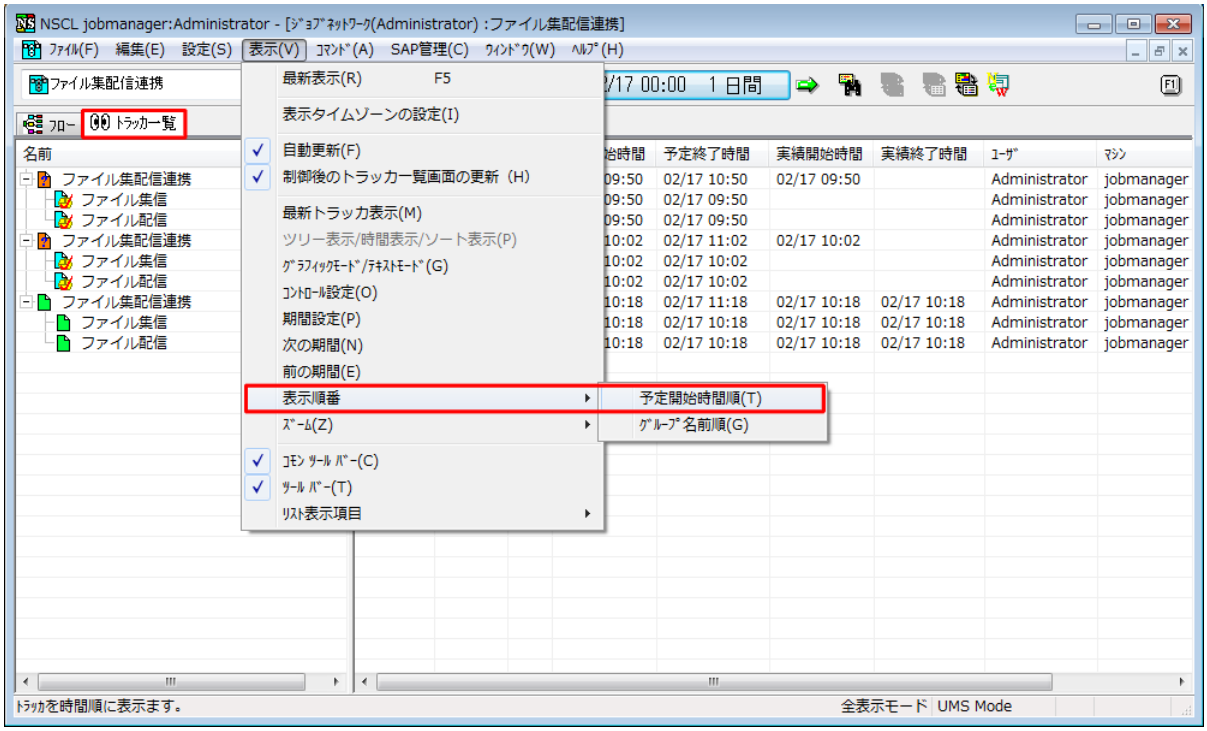


図6.18 ［表示開始時間順］メニュー選択画面例

4. ジョブネットワークのトラッカが予定開始時間の昇順で表示されます。

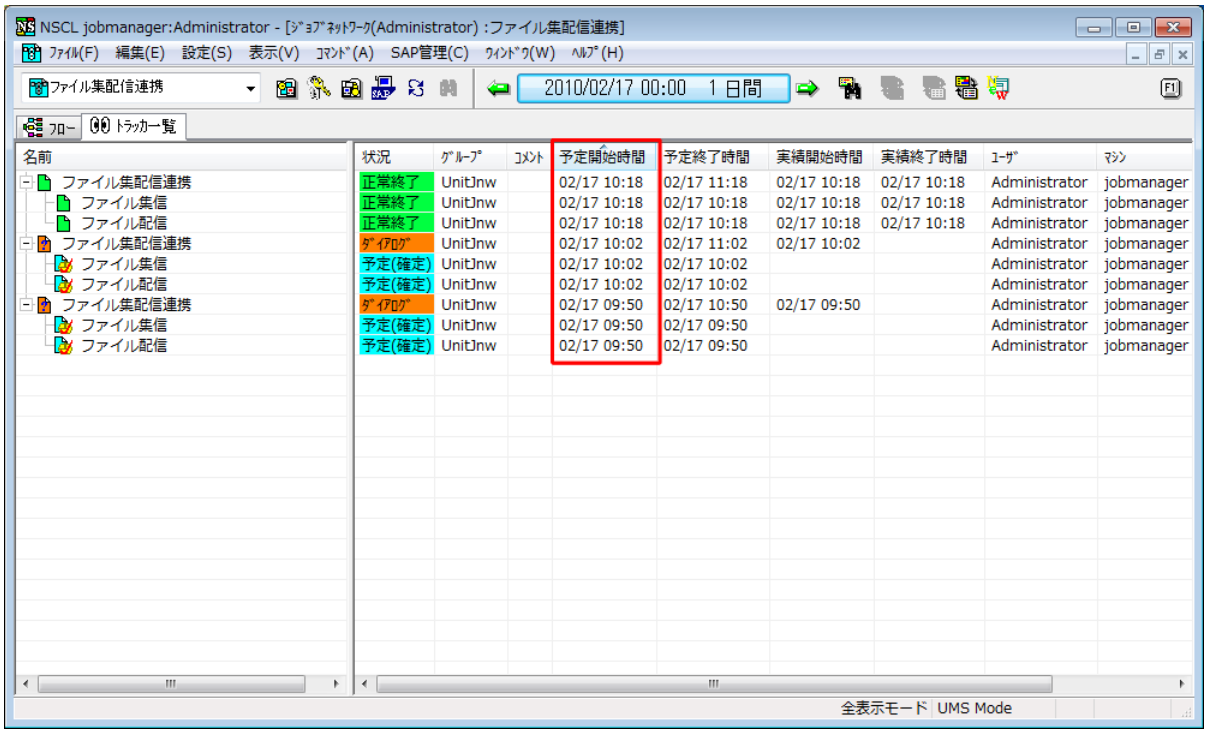


図6.19 時間表示（ジョブネットワークのトラッカ一覧）画面例

6.5.2. ユーザフレームのトラッカ一覧

1. ユーザフレームの［トラッカ一覧］タブを選択します。

2. ユーザフレームのトラッカ一覧が表示されます。ボタンをクリックして時間表示に切り替えてください。ウィンドウの右下に「時間」と表示されます。

3. ユーザごとにトラッカが予定開始時間の昇順で表示されます。

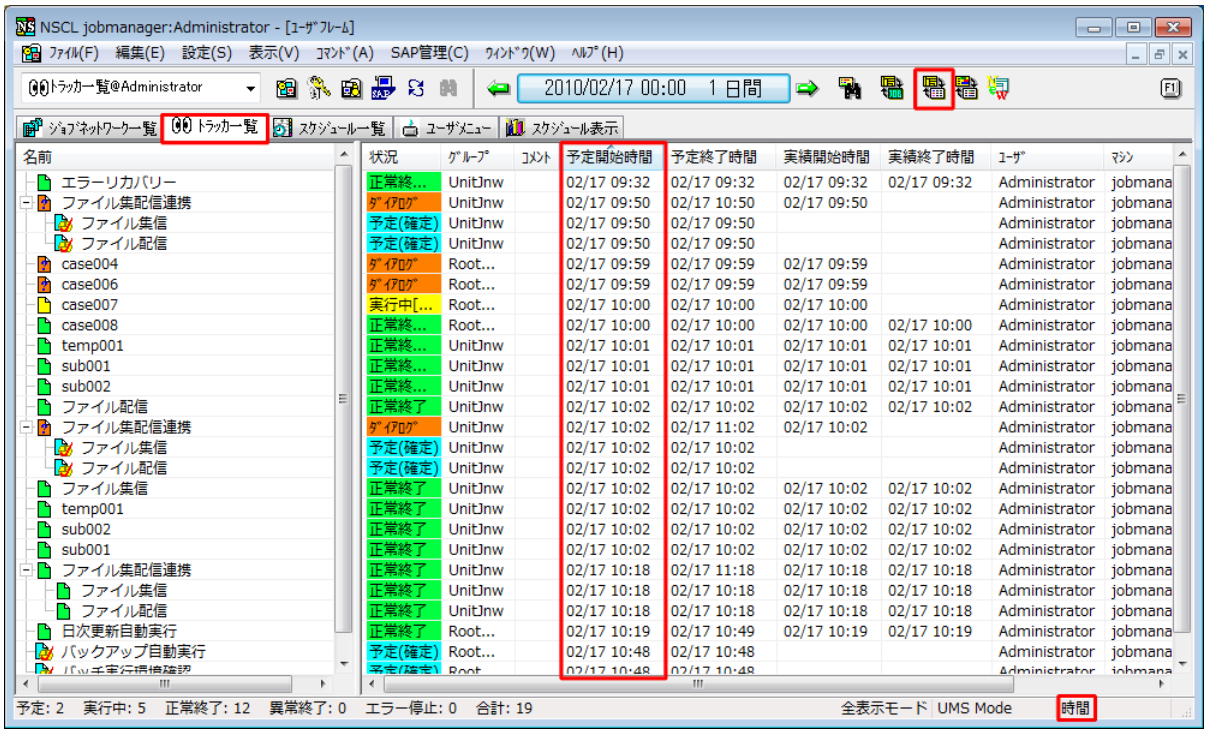


図6.20 時間表示（ユーザフレームのトラッカー一覧）画面例

6.5.3. マネージャフレームのトラッカー一覧@全マシン

1. マネージャフレームの［トラッカー一覧@全マシン］タブを選択します。

2. マネージャフレームのトラッカー一覧が表示されます。ボタンをクリックして時間表示に切り替えてください。ウィンドウの右下に「時間」と表示されます。

3. マシングループ内のマシンごとの各ユーザのグループRootで子グループとすべてのトラッカが表示されます。また、グループUnitJnwとどのグループにも属さないジョブネットワークも表示されます。

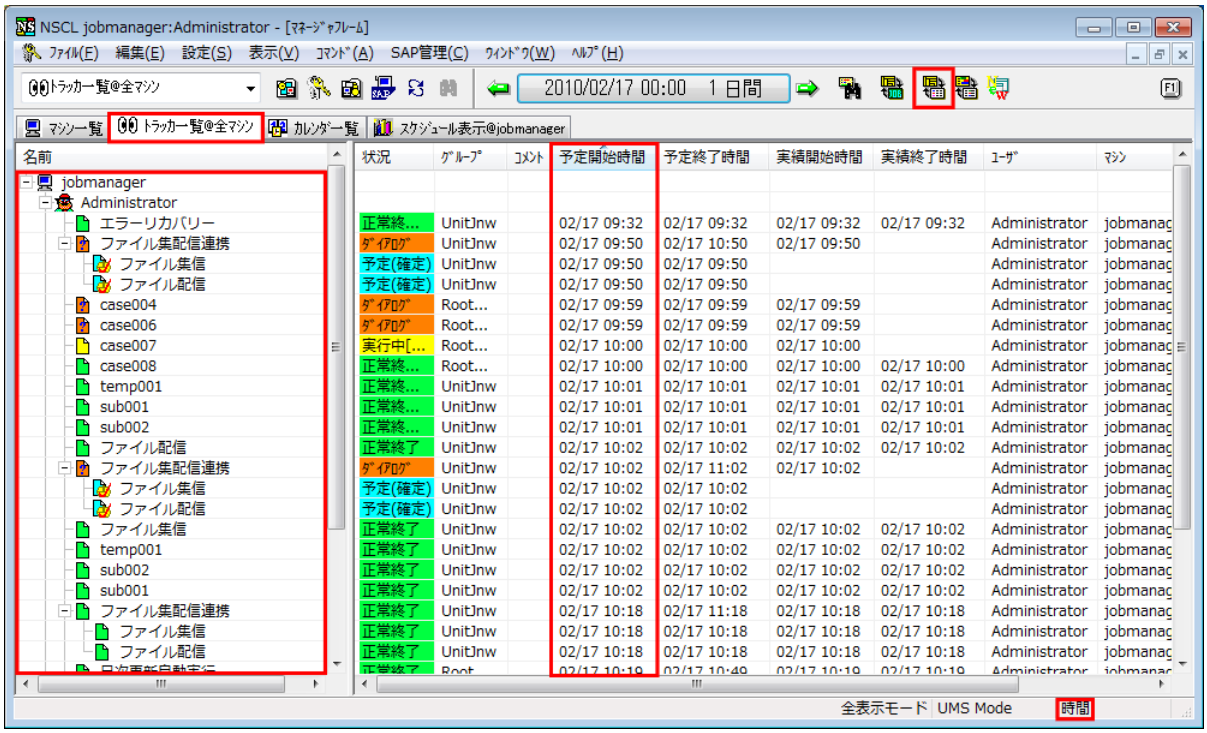


図6.21 時間表示（マネージャフレームのトラッカー覧@全マシン）画面例

6.6. トラッカー覧をマシンごとにソートして表示する

マシングループに属するすべてのマシンまたは該当マシンごとに、予定開始時間の昇順で並べ替えて表示します。

ソート表示への切り替えは、ボタンで行います。ウィンドウの右下に「ソート」と表示されます。

「ジョブネットワークのトラッカー覧」、「ユーザフレームのトラッカー覧」ではソート表示はできません。

6.6.1. マネージャフレームのトラッカー覧@全マシン

1. マネージャフレームの［トラッカー覧@全マシン］タブを選択します。
2. マネージャフレームのトラッカー覧が表示されます。ボタンをクリックしてソート表示に切り替えてください。ウィンドウの右下に「ソート」と表示されます。
3. マシングループに属するすべてのマシンまたは該当マシンごとに、予定開始時間の昇順に並べ替えられて表示されます。

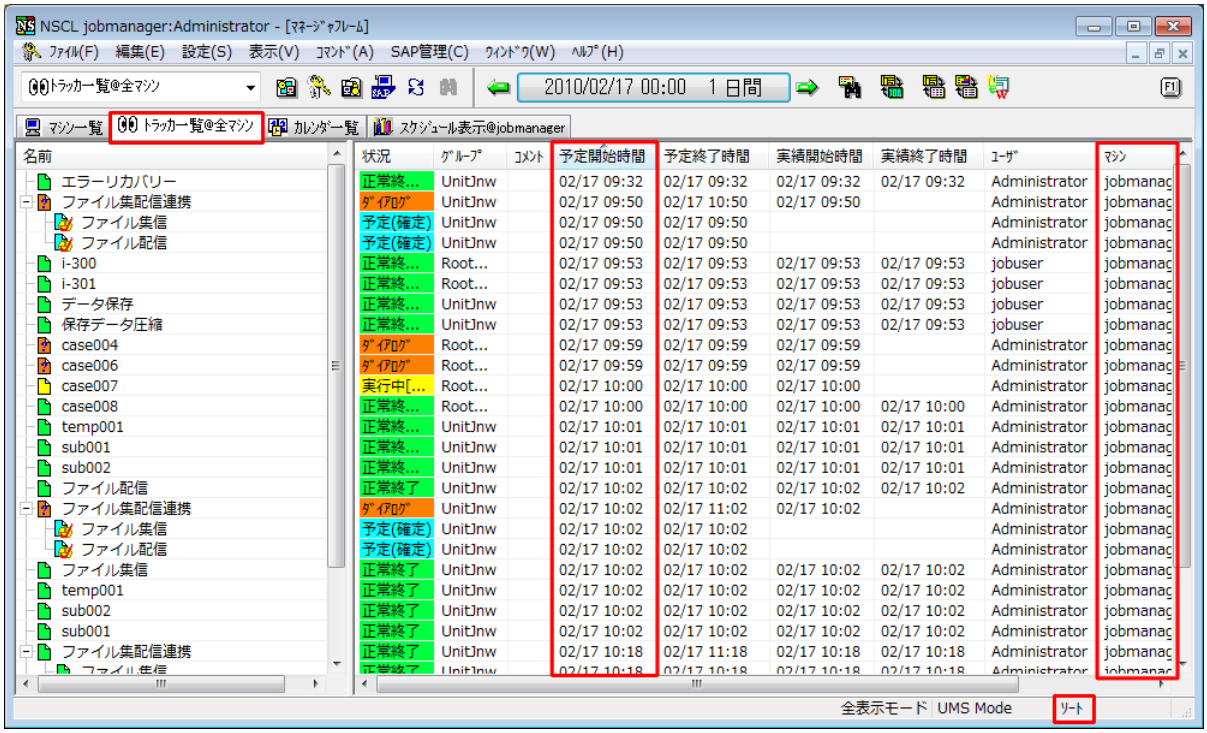


図6.22 ソート表示（マネージャフレームのトラッカー覧@全マシン）画面例

6.7. トラッカー覧の表示期間を指定して表示する

トラッカー覧では、表示する期間の開始日時や期間を指定することによって対象を絞り込んで参照できます。

1. トラッカー覧を表示した状態で、ツールバーの 2006/04/01 00:00　1 日間 ボタン（［期間設定］ボタン）をクリックします。

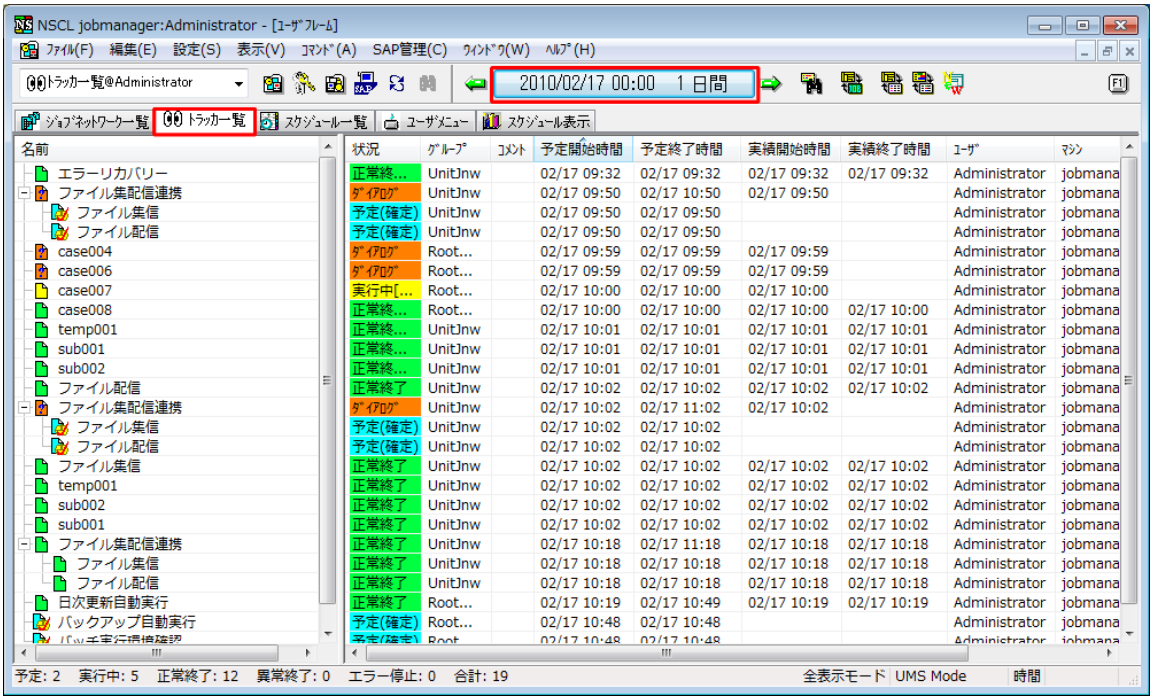


図6.23 ［期間設定］ボタン選択画面例

2. ［表示期間設定］のダイアログが表示されます。

3. 表示期間の設定を行います。

図6.24 表示期間設定画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

5. ツールバーにある［期間設定］ボタンに指定の開始日時が表示され、表示期間内の予定開始時間を有する［トラッカー覧］が表示されます。

［表示期間設定］の設定項目は次のとおりです。

■表示開始日

トラッカー覧を表示する期間の開始の日時［年月日時分］を指定します。

■表示期間

トラッカ一覧を表示する期間を指定します。

図6.25 期間設定画面

期間の数値と単位を設定します。1～59分、1～23時間、1～7日間、1～5週間、1～3ヶ月を設定できます。

［期間設定］ボタン横の、ボタン、またはメニューバーの［表示］－［前の期間］または［次の期間］によって、表示開始日を表示期間の単位で前後できます。

6.8. トラッカ一覧の表示開始時間を指定して表示する

1. メニューバーの［設定］から［ユーザ環境設定］をクリックします。

2. ［ユーザ環境設定］ダイアログが表示されたら［トラッカ表示］タブを選択します。

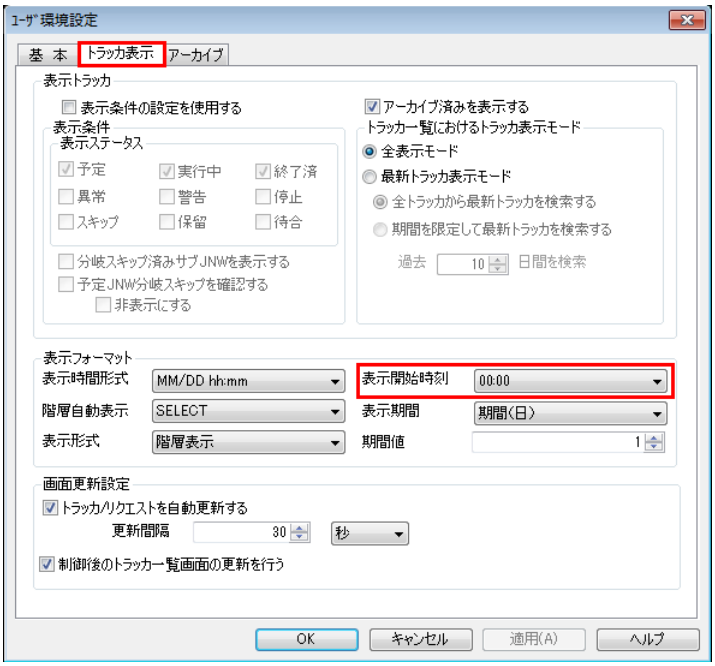


図6.26 ［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの画面例

3. ［表示開始時刻］を設定します。コンボボックスから、開始する時刻を00:00から1時間単位に23:00まで選択することができます。

   例えば、「05:00」に設定すると、ウィンドウのツールバーにある［期間設定］ボタンの表示が「YYYY/MM/DD 05:00［期間］」になり、［トラッカ一覧］は予定開始時間「05:00」から表示されます。

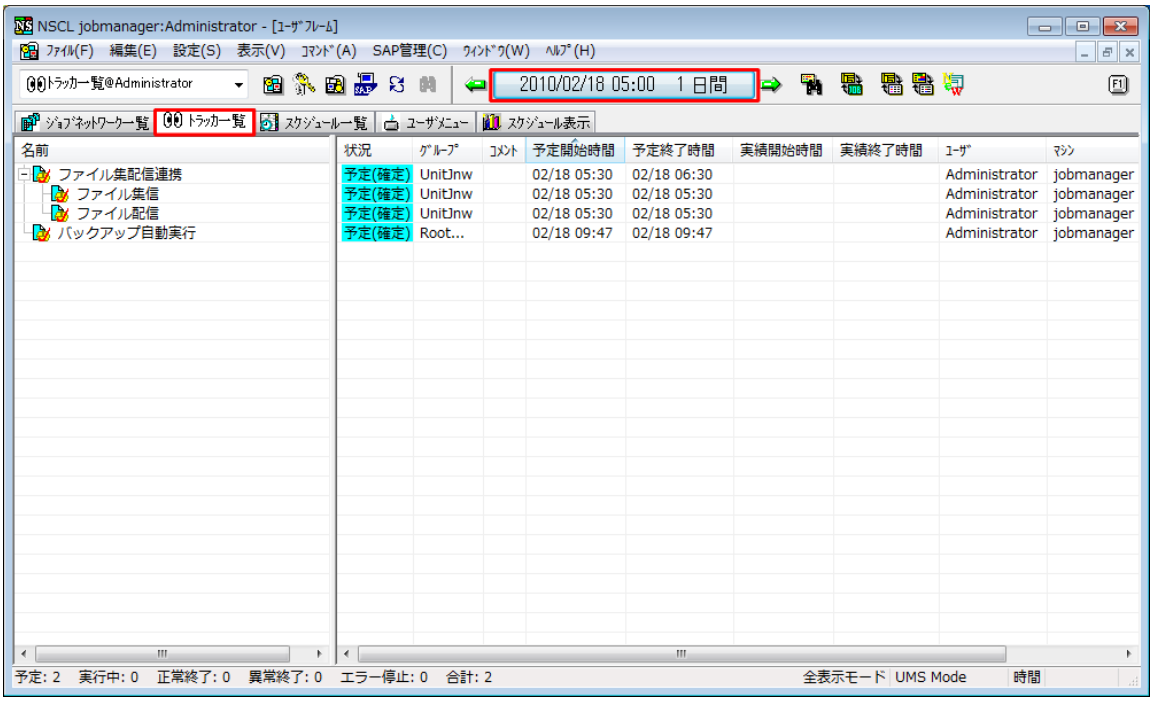


図6.27 表示開始時刻を05:00に変更した［期間設定］ボタン表示

［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの［トラッカ一覧におけるトラッカ表示モード］で変更した内容は、次に［ユーザフレーム］ウィンドウまたは［マネージャフレーム］ウィンドウを開いた際に有効になります。

したがって、［ユーザフレーム］ウィンドウまたは［マネージャフレーム］ウィンドウを開いた状態で設定変更を行った場合、変更を反映するには一旦ウィンドウを閉じ、再度開きなおす必要があります。

6.9. トラッカ一覧をフィルタリングして表示する

トラッカ一覧では、ジョブネットワークトラッカの実行状況やジョブネットワーク名を条件にして、表示内容をフィルタリングできます。

フィルタリングの設定は、［コントロールダイアログ］で行います。マシン名、ユーザ名、グループ名、ジョブネットワーク名でのフィルタリングや表示形式などが指定できます。

1. メニューバーの［表示］－［コントロール設定］を選択します。

2. ［コントロールダイアログ］が表示されます。

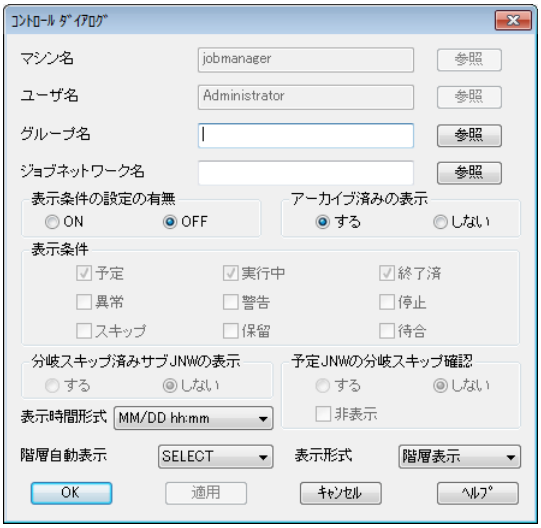


図6.28 ［コントロールダイアログ］画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックするとフィルタリングが実行されます。

［コントロールダイアログ］の設定項目は次のとおりです。

■マシン名

表示するトラッカのマシンを選択します。

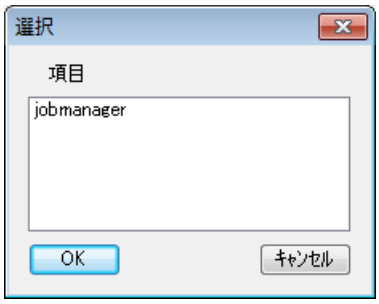


図6.29 マシン名の［選択］ダイアログ画面例

マシン名を直接入力するか、［参照］ボタンをクリックして表示されるマシンの［選択］ダイアログから選択します。

［トラッカ一覧@全マシン］タブが選択された状態で［コントロールダイアログ］を表示した場合に指定可能です。

■ユーザ名

表示するトラッカのユーザを指定します。

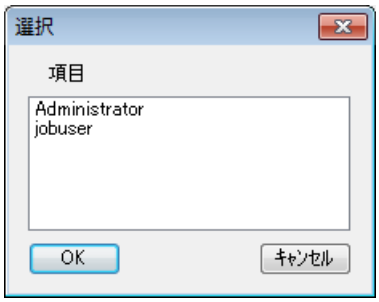


図6.30 ユーザ名の［選択］ダイアログ画面例

ユーザ名を直接入力するか、［参照］ボタンをクリックして表示されるユーザの［選択］ダイアログから選択します。

［トラッカ一覧@全マシン］タブが選択された状態で［コントロールダイアログ］を表示した場合に指定可能です。

マシン名が空白になっている場合にはユーザ名を指定できません。ユーザ名を指定したい場合には、そのユーザが所属するマシン名を先に指定する必要があります。

■グループ名

表示するトラッカのグループを指定します。

［グループ名］の［参照］ボタンをクリックすると［グループの検索ダイアログ］が表示されますので、グループを選択できます。

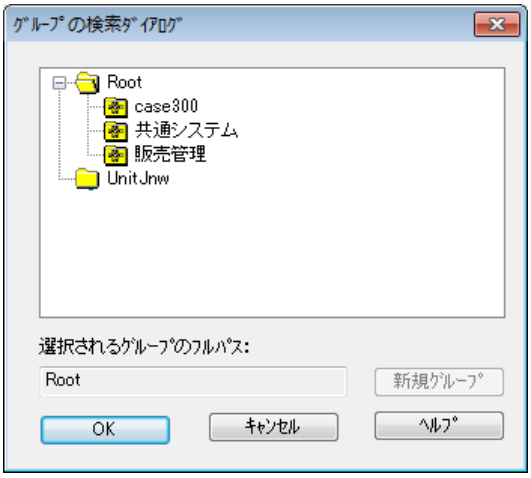


図6.31 ［グループの検索ダイアログ］画面例

例えば［Root\group\group1］の形式を指定すると、［Root\group\group1］の配下の子グループまたはトラッカが表示できます。

［group］の形式を指定すると、すべて［group］の配下の子グループまたはトラッカが表示できます。

［group*］の形式を指定すると、名前が［group］で始まるグループ配下の子グループまたはトラッカが表示できます。

■ジョブネットワーク名

表示するトラッカのジョブネットワーク名を選択します。

［ジョブネットワーク名］の［参照］ボタンをクリックすると［選択］ダイアログが表示されますので、ジョブネットワークを選択できます。

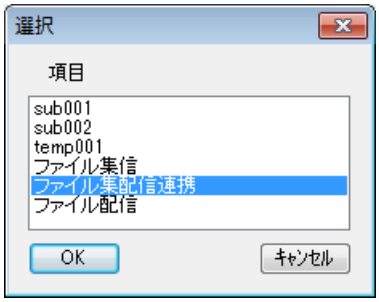


図6.32 ジョブネットワーク名の［選択］ダイアログ画面例

末尾に「*（アスタリスク）」を指定すると、指定した文字列で始まる名前のジョブネットワークを表示します。この条件は、［トラッカ一覧@全ユーザ］およびジョブネットワークのトラッカ一覧でのみ指定可能です。

■表示条件の設定の有無

「表示条件」の設定の有無を選択することができます。

ON	「表示条件」が選択できるようになり、選択した条件に合うトラッカのみが表示されます。
OFF	「表示条件」はグレー表示（選択不可）となり、すべての状況のトラッカを表示します。

■アーカイブ済みの表示

アーカイブ済みのトラッカを表示「する」、「しない」を選択することができます。

「する」を選択した場合アーカイブ済みのトラッカを表示し、「しない」の場合アーカイブ済みトラッカを表示しません。

■表示条件

トラッカ一覧で表示されるトラッカの条件です。

表示条件を複数選択することができます。

トラッカの状態は、「6.1 ジョブの状態とトラッカの色の関係」を参照してください。

■分岐スキップ済みサブJNWの表示

トラッカ一覧において、予定状態以外のトラッカについて実際の処理分岐（カレンダ分岐）を判定の上、実行されないサブジョブネットワークについては分岐スキップ済として表示するか、もしくは非表示とするかを選択できます。

する	実行されないサブジョブネットワークを分岐スキップ済として表示します。
しない	実行されないサブジョブネットワークを表示しません。

■予定JNWの分岐スキップ確認

トラッカ一覧において、予定状態のトラッカについて実際の処理分岐（カレンダ分岐）を判定「する」か「しない」かを選択できます。

判定「する」とした場合には、実行されないサブジョブネットワークについて分岐スキップ済として表示するか、もしくは非表示とするかを選択できます。

する	カレンダ分岐により実行されないサブジョブネットワークを判定し、分岐スキップ済として表示します。 ただし表示条件でスキップを選択していなければ、表示されません。
しない	カレンダ分岐により実行されないサブジョブネットワークを判定しません。
非表示	「する」を選択した場合に、分岐スキップ済みのサブジョブネットワークを非表示とします。

■表示時間形式

トラッカ一覧表示（テキストモード）の場合の予定および実績の開始時間、終了時間の表示形式です。

hh:mm	時分を表示します。
MM/DD hh:mm	月日時分を表示します。
YYYY/MM/DD hh:mm:ss	年月日時分秒を表示します。

■階層自動表示

サブジョブネットワークのトラッカを自動的に表示するかどうかを指定します。

AUTO	自動的に表示します。
NON-AUTO	自動的に表示しません。
SELECT	ツリー表示と時間表示

■表示形式

トラッカの表示形式を選択することができます。

階層表示	常にルートジョブネットワークから階層表示します。
絞り込み表示	指定した条件に合うトラッカのみを表示します。

［ユーザ環境設定］ダイアログの［トラッカ表示］タブの［表示トラッカ］および［表示フォーマット］が、ユーザ毎にトラッカ一覧のデフォルトの表示設定を行うのに対して、［コントロールダイアログ］では現在開いているトラッカ一覧のウィンドウに対する表示やフィルタリングの一時的な設定を行います。

6.10. トラッカ一覧を出力する

トラッカ一覧に表示されている情報を印刷またはCSVファイルへの出力ができます。

1. トラッカ一覧を表示している状態で、メニューバーの［ファイル］－［印刷］を選択します。
2. ［トラッカ印刷設定］ダイアログが表示されます。
3. トラッカ印刷の設定を行います。

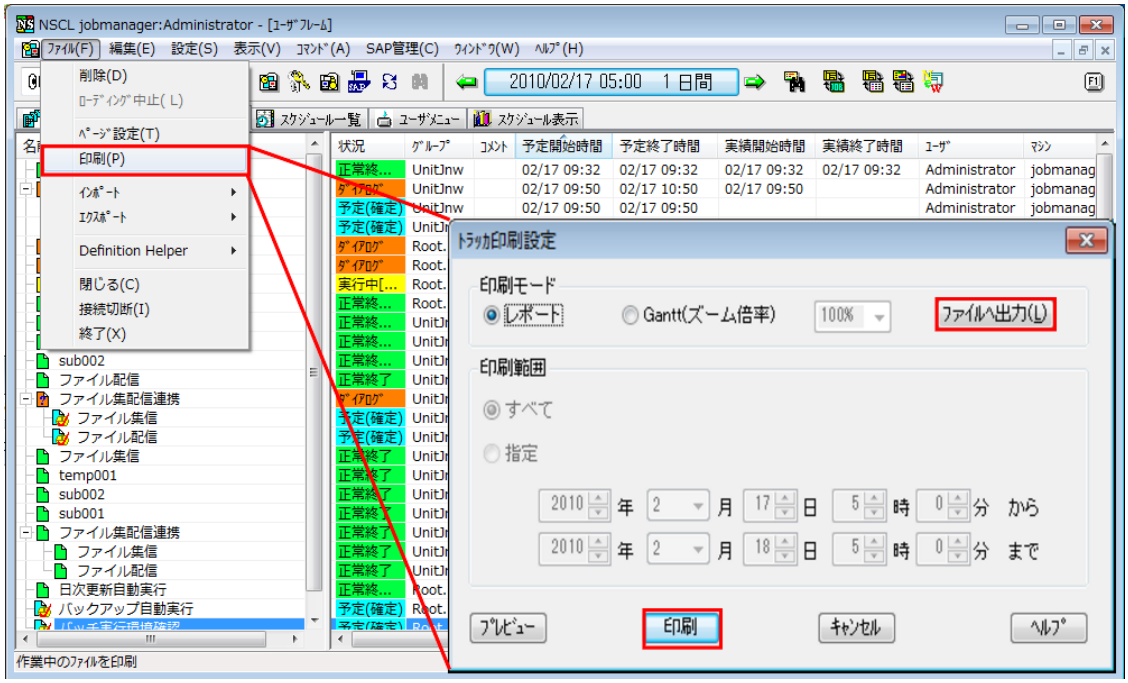


図6.33 トラッカ一覧の出力選択方法画面例

4. 設定後、［印刷］ボタンまたは［ファイルへ出力］ボタンをクリックします。

［トラッカ印刷設定］ダイアログの設定は次のとおりです。

■印刷モード

印刷モードを選択できます。

レポート	トラッカ一覧の詳細情報をレポート形式で印刷します。
Gantt（ズーム倍率）	トラッカ一覧の情報をGantt図の形式で印刷します。 ズーム倍率を選択することができます。範囲は25～200%です。デフォルト値は100%です。
［ファイルへ出力］ボタン	トラッカ一覧の情報を、CSV形式でファイルに出力します。 ［ファイルへ出力］ボタンをクリックした場合、［名前を付けて保存］ダイアログが表示されます。保存したい場所とファイル名を指定して保存します。 トラッカ一覧画面に表示されている次の情報をCSV形式で出力します。 “名前”、“状況”、“グループ”、“コメント”、“予定開始時間”、“予定終了時間”、“実績開始時間”、“実績終了時間”、“ユーザ”、“マシン”

	トラッカが階層化されている場合は、名前は頂上のトラッカから当該トラッカまでのすべてのトラッカ名をコロン「:」でつないだ形で出力されます。

■印刷範囲

印刷範囲を選択することができます。

すべて	トラッカ一覧にある全トラッカの最小日付から最大日付までの期間をすべて印刷します
指定	指定する期間のトラッカを印刷します

■［プレビュー］ボタン

現在表示されているトラッカの印刷画面をプレビューします。

■［印刷］ボタン

クリックすると、現在表示されているトラッカを印刷します。

■キャンセル

［トラッカ印刷設定］ダイアログを閉じます。

■ヘルプ

トラッカの印刷に関するヘルプを表示します。

6.11. トラッカ一覧を最新表示する

トラッカ一覧の最新の状態を表示するには、次の3種類の方法があります。［トラッカ一覧］を表示している状態で操作してください。

■ファンクションキーの［F5］を押す。

■メニューバーの［表示］－［最新表示］を選択する。

■ツールバーの ボタンをクリックする。

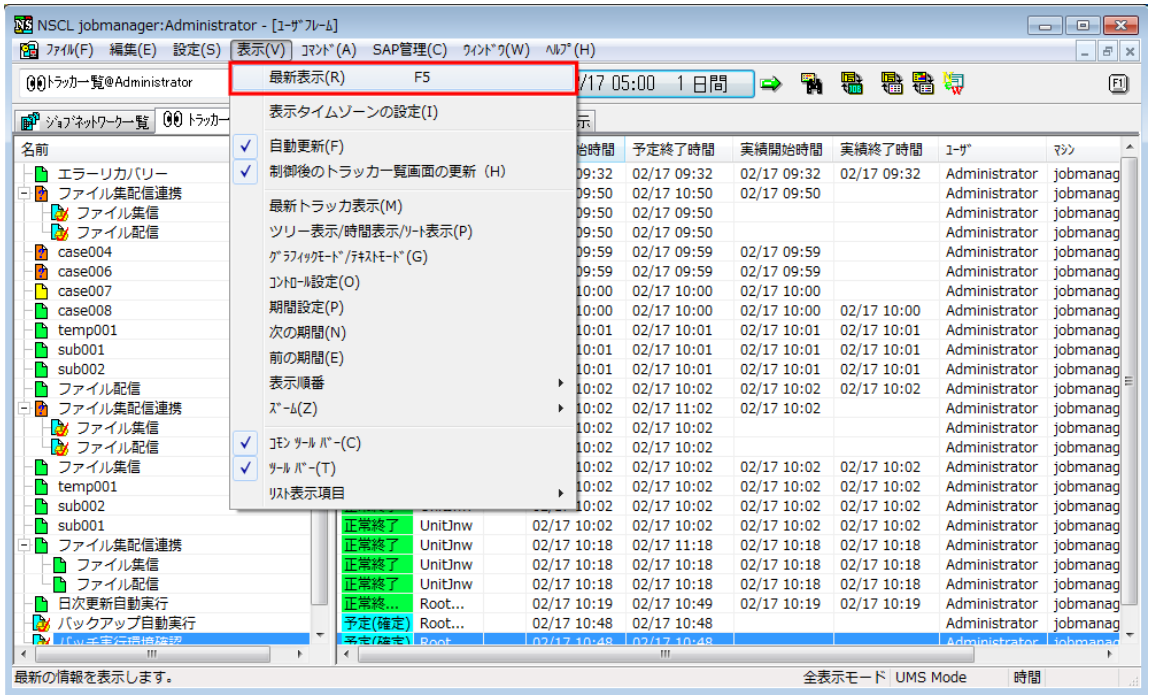


図6.34 トラッカ一覧の最新状態表示方法例

最新表示の方法は、ジョブネットワークやカレンダのインポート後やジョブネットワークトラッカのログの更新にも利用します。

6.12. トラッカ一覧を差分更新する

トラッカ一覧を表示した状態で、ファンクションキーの［F6］を押すことで、明示的にトラッカの差分更新が行えます。なお、この機能は、自動更新がONになっている場合にのみ有効です。

［F6］キーによる差分更新では、自動更新と同様に次の情報はトラッカ一覧画面に反映されません。

■トラッカ一覧画面を一度表示したあとに、新しくスケジュールに関連付けられて予定状態となったトラッカ

■グループの変更情報（グループやジョブネットワークの移動、コピー、新規作成などを行った際の変更情報）

このような操作を行った場合には、トラッカ一覧画面で［F5］キーを押し、最新表示を行ってください。

6.13. トラッカ制御後のトラッカ一覧画面を更新しない

トラッカ一覧画面でトラッカを操作した際、操作後にトラッカ一覧画面の全件更新を行うか行わないかを変更することが可能になりました。

トラッカの件数が極めて多い場合、トラッカ一覧画面の更新に時間がかかります。従来の動作ではトラッカ１件の操作毎にトラッカ一覧画面を全件更新しているため、複数のトラッカ操作に対しては非効率な面がありました。本機能により、トラッカ操作後のトラッカ一覧画面の全件更新をしないように設定し、複数のトラッカを操作した後で明示的に全件更新を行うことにより、複数トラッカ操作の効率を上げることができます。

メニューバーの[表示]にある[制御後のトラッカ一覧画面の更新]にチェックを入れるまたは外すことにより、設定を変更できます。既定値は[ユーザ環境設定]の[トラッカ表示]タブの同項目の設定に依存します。詳しくは、<環境構築ガイド>の「6.3　トラッカ表示の設定を変更する」を参照してください。

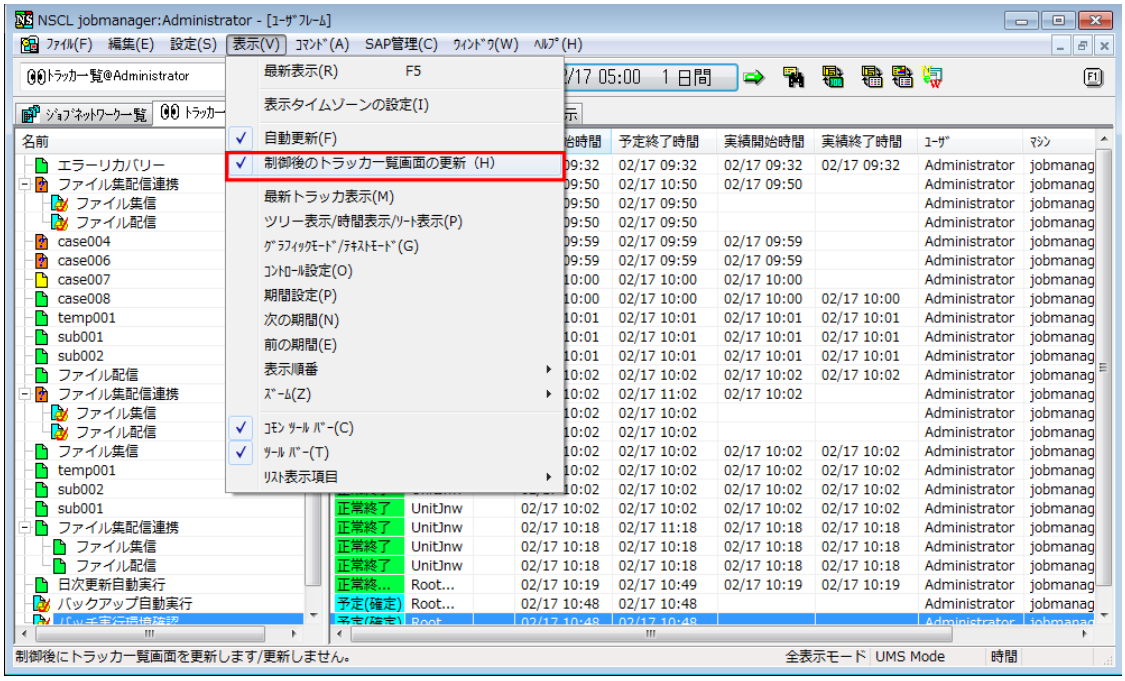


図6.35 [制御後のトラッカ一覧画面の更新]設定画面

■チェックが入っている場合、トラッカ操作後にトラッカ一覧画面の全件更新を行います。

■チェックが入っていない場合、トラッカ操作後にトラッカ一覧画面の全件更新を行いません。

メニューバーでの変更は、CL/Win端末ごとの変更であり、対象のマネージャマシンに同じユーザでログインしている他の端末には影響を与えません。

本設定項目は以下のウィンドウまたはフレームにフォーカスがある際に表示されます。

■ユーザフレームのトラッカ一覧画面

■マネージャフレームのトラッカ一覧画面

■マシンフレームのトラッカ一覧画面

■ジョブネットワークフロー画面のトラッカ一覧タブ

6.13.1. 動作説明

トラッカ一覧画面の全件更新を行わない場合の動作説明を以下に記載します。

■トラッカ一覧画面からトラッカを操作した場合

トラッカ一覧画面は更新されません。また、対象トラッカのトラッカフローを開いている場合、トラッカフローは更新されません

■トラッカフロー画面から部品を操作した場合

トラッカフロー画面は更新されますが、トラッカ一覧画面は更新されません。

更新されないトラッカ一覧画面を最新の状態にするには、自動更新による更新がかかるのを待つか、F5キー押下等により明示的に更新を行う必要があります。

6.13.2. 注意事項

トラッカ操作後にトラッカ一覧画面の更新を行わないと、表示されているトラッカのステータスと実際のステータスは異なる可能性があります。そのため、可能なトラッカの操作は実際に行える操作とは異なる可能性があります。

このような場合は実際のステータスから実行できない操作はエラーになりますので、必ずトラッカ一覧画面を最新の状態に更新してから操作を実行してください。

6.14. ジョブネットワークトラッカを操作する

ジョブネットワークトラッカを利用して、ジョブの実行の監視や制御を行うだけでなく、トラッカの強制実行や、スケジュール投入時間の変更、またオブジェクト部品の追加や削除も行えます。

6.14.1. ジョブネットワークトラッカを開く

1. ユーザフレームの［トラッカ一覧］タブを選択します。

2. 参照したいジョブネットワークを選択し、ダブルクリック、または右クリックしたときのポップアップメニューから［開く］を選択します。

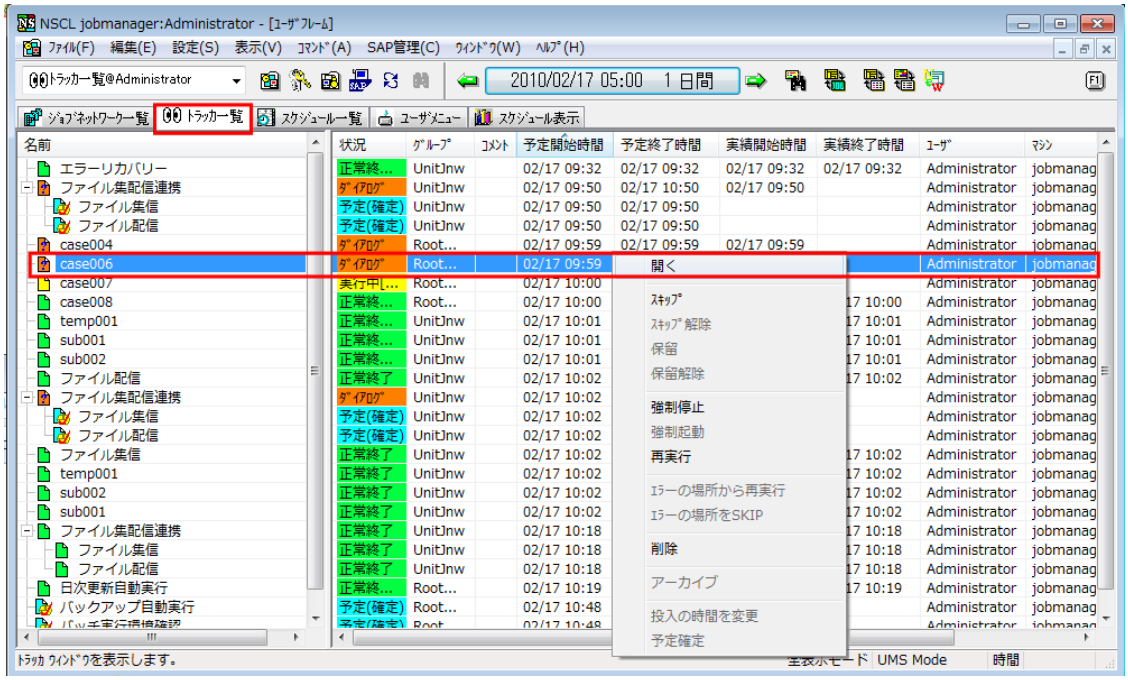


図6.36 ジョブネットワークトラッカの参照方法画面例

3. 選択したジョブネットワークのトラッカが表示されます。

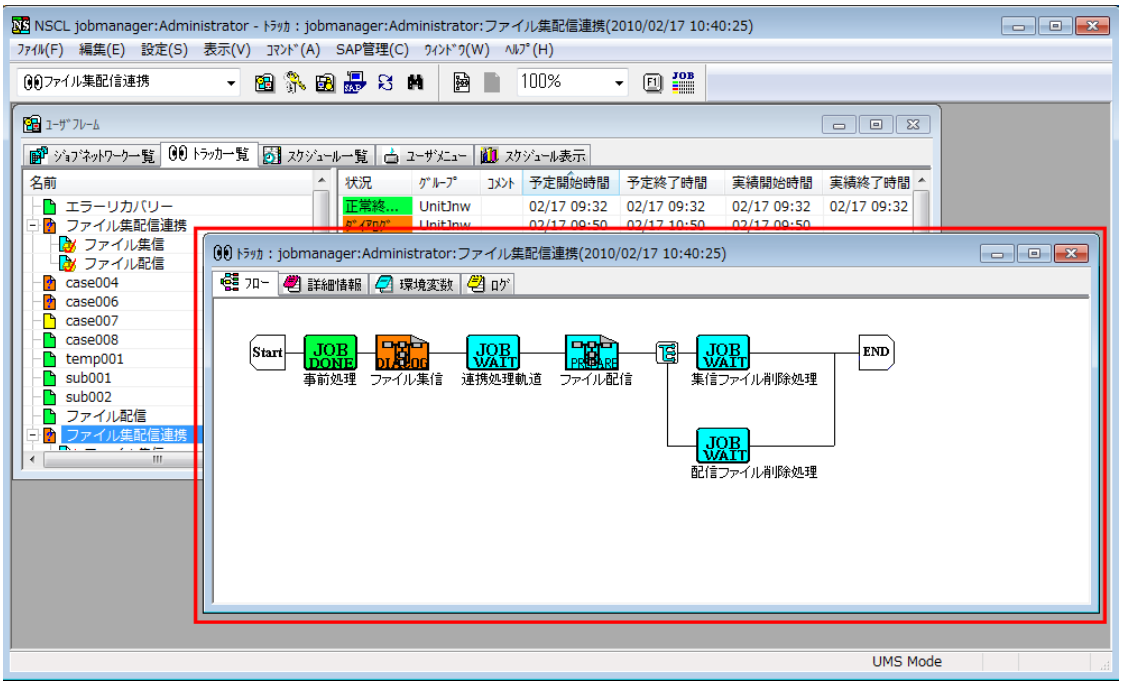


図6.37 ジョブネットワークトラッカの表示画面例

4. ジョブ一覧画面を表示することができます。表示するには「ジョブ一覧画面」アイコンをクリックします。

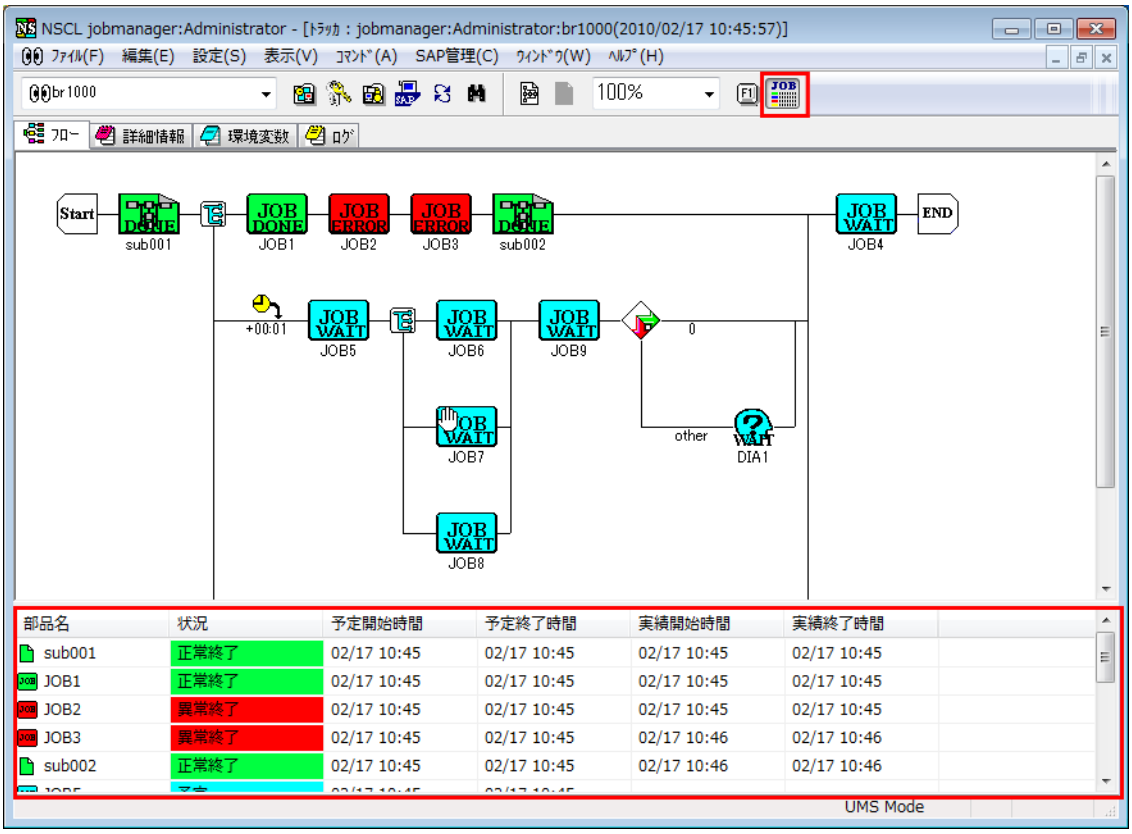


図6.38 ジョブ一覧画面の表示例

6.14.2. ジョブの実行の監視や制御を行う

ジョブネットワークの［フロー］画面で、ジョブの実行の監視や制御ができます。

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［フロー］画面には、各単位ジョブの実行トラッカを表すアイコンがあります。各単位ジョブの実行状態は、このアイコンのラベルまたは色によって判別できます。

1. ジョブネットワークトラッカの［フロー］タブを選択します。

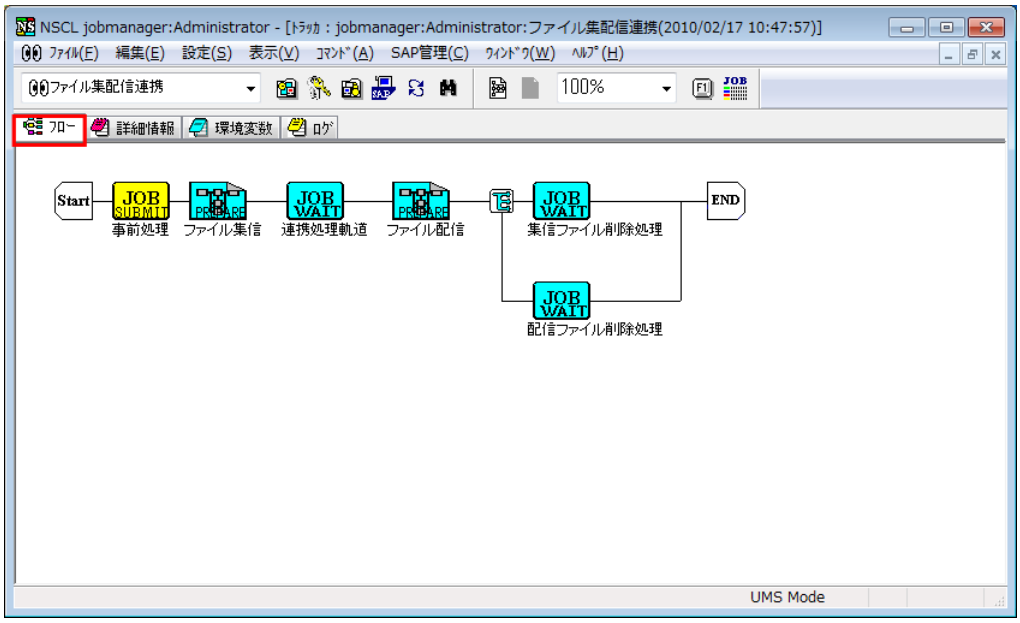


図6.39 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［フロー］画面例

これらのアイコンをダブルクリックすることで、詳細を表示するウィンドウを開くことができます。各単位ジョブの実行状態に関する詳細については「6.15 単位ジョブトラッカアイコンを操作する」を参照してください。

2. ジョブネットワークトラッカに対して各種制御を実行したい場合、フロー上で何も部品を選択していない状態でメニュー［コマンド］－［JNWトラッカ］から各種制御コマンドを実行します。

   フロー上で何も部品を選択していない場合、各種部品に対する制御コマンドであるメニュー［コマンド］－［部品］については、グレーアウトします。

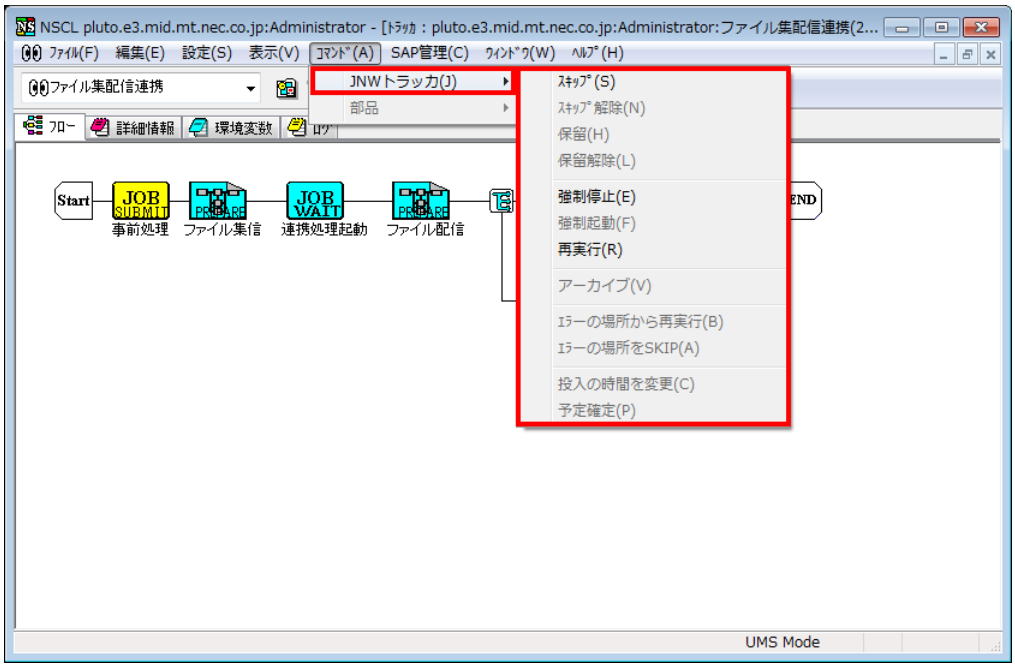


図6.40 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウのフロー上で部品を
選択していない場合のメニュー［コマンド］－［JNWトラッカ］の画面例

3. フロー上のある部品に対して各種制御を実行したい場合、フロー上でその部品を選択している状態でメニュー［コマンド］－［部品］から各種制御コマンドを実行します。

   フロー上で部品を選択している場合、ジョブネットワークトラッカに対する制御コマンドであるメニュー［コマンド］－［JNWトラッカ］については、グレーアウトします。

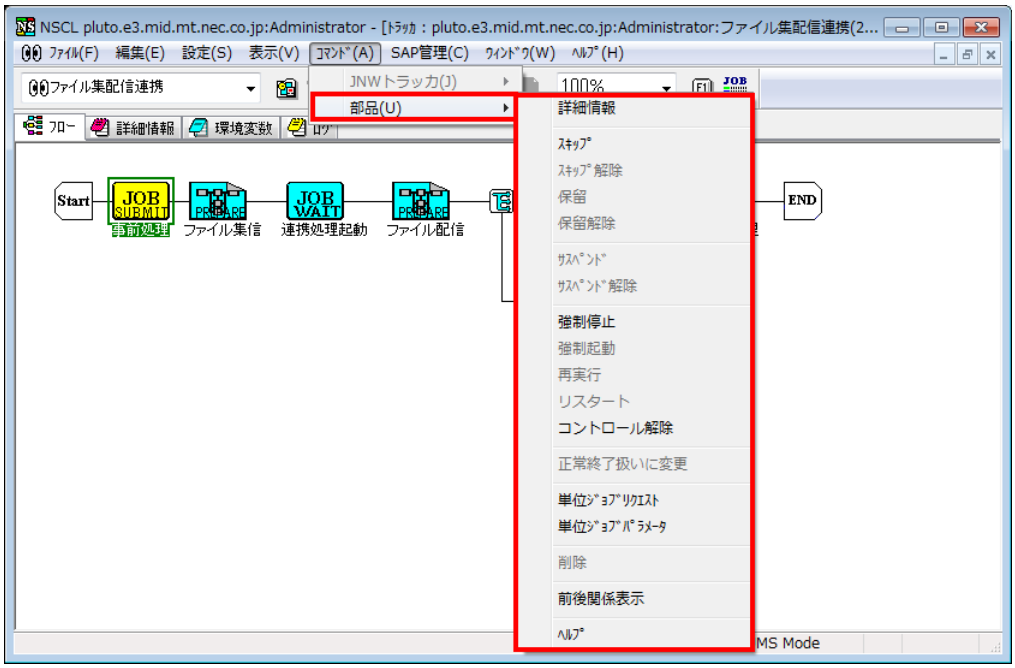


図6.41 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウのフロー上で
部品を選択している場合のメニュー［コマンド］－［部品］の画面例

表示しているトラッカがサブジョブネットワークである場合、メニューバーの［表示］－［親トラッカへ］を選択するか、または［親トラッカへ］アイコンをクリックすることにより、1つ上位のトラッカフローが表示されます。

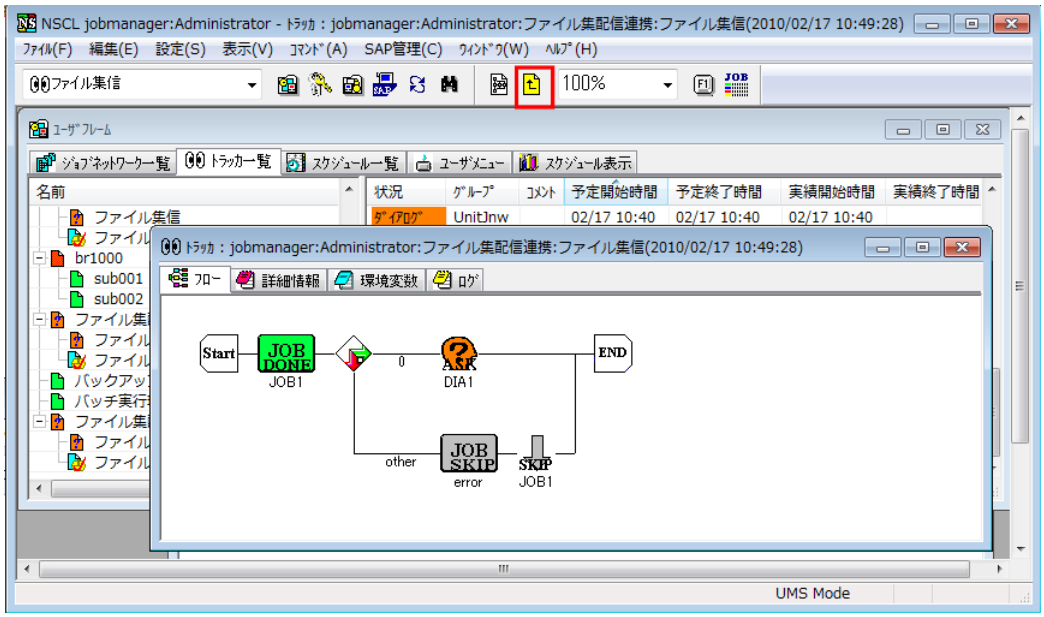


図6.42 表示しているトラッカがサブジョブネットワークである場合の画面例

6.14.3. ジョブの実行の詳細情報を参照する

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［詳細情報］画面で、ジョブの実行の詳細情報を参照できます。

1. ジョブネットワークトラッカの［詳細情報］タブを選択します。

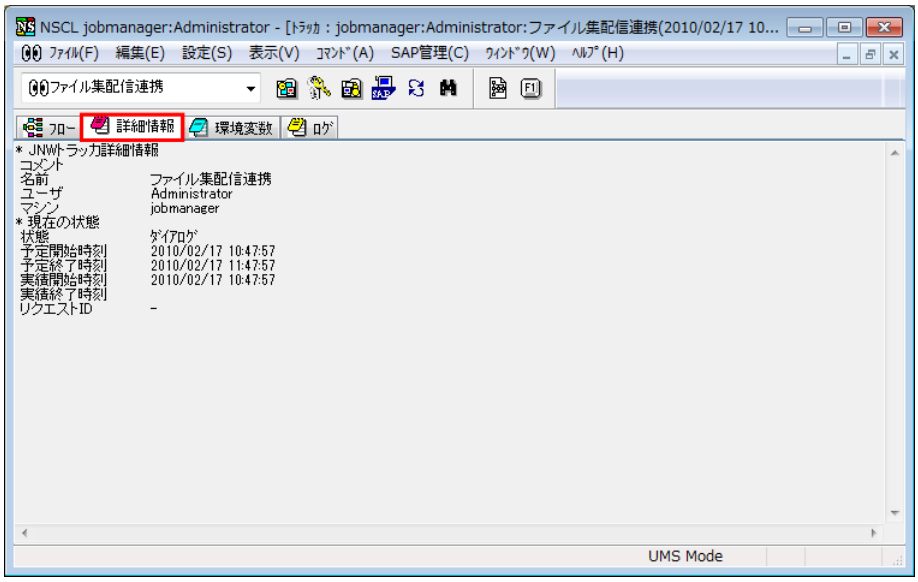


図6.43 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［詳細情報］画面例

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［詳細情報］タブ内の各項目の内容は次のとおりです。

■コメント

ジョブネットワークに対してつけられたコメントです。

■名前

ジョブネットワークの固有の名前です。

■ユーザ

ジョブネットワークを実行しているユーザ名です。

■マシン

ジョブネットワークのスケジューラが実行されているマシンです。

■状態

ジョブネットワークトラッカの状態です。

■予定開始時間／予定終了時間

スケジュールに登録された開始予定時刻です／予定開始時刻と各ジョブの実行予定時間から計算した予定終了時刻です。

■実績開始時間／実績終了時間

実際に実行を開始した時刻です／実際に実行が終了した時刻です。

■リクエストID

ジョブネットワークのスケジューラとなっているNQSリクエストのIDです。

6.14.4. ジョブネットワークの環境変数を参照する

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［環境変数］画面で、ジョブネットワークの環境変数が参照できます。

ジョブネットワークの環境変数は、ジョブネットワークフローでのみ用いるパラメータとなります。フロー上の単位ジョブを実行した際に、本環境変数が自動的に設定を引き継ぐ動作とはなりません。

内容は自動的に更新されないので、トラッカの最新表示の操作と同様、ファンクションキー［F5］を押すなどして、表示の更新を行います。

状態が「予定」のトラッカには、［環境変数］タブはありません。

1. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［環境変数］タブを選択します。

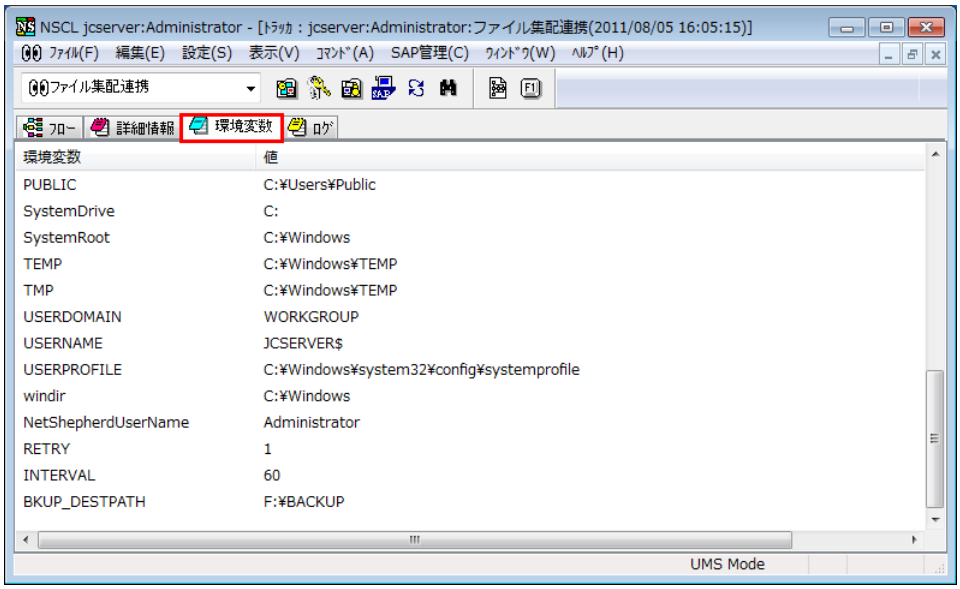


図6.44 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［環境変数］画面例

6.14.5. ジョブの実行や実行操作の履歴を参照する

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［ログ］画面で、ジョブネットワークの実行ログ（ジョブの実行や実行操作の履歴）が参照できます。

内容は自動的に更新されないので、トラッカの最新表示の操作と同様、ファンクションキー［F5］を押すなどして、表示の更新を行います。

サブジョブネットワークに関するログは親トラッカのログに入ります。

状態が「予定」のトラッカには、［ログ］タブはありません。

1. ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［ログ］タブを選択します。

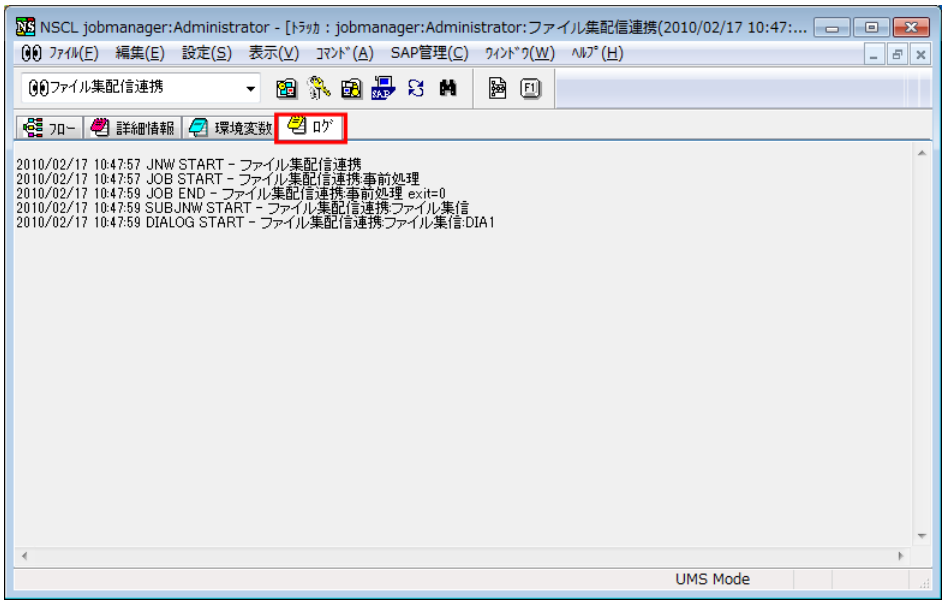


図6.45 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［ログ］画面例

6.14.6. 複数のトラッカを選択して各種操作を同時に実行する

複数のトラッカをスケジュールに関係なく、［開く］、［スキップ（スキップ解除）］、［保留（保留解除）］、［強制停止］、［強制起動］、［再実行］、［削除］、［アーカイブ］、［予定確定］などの操作が同時に実行できます。ここでは、［強制起動］の場合を説明します。

1. トラッカ一覧で、強制起動したいジョブネットワークのトラッカを複数選択します。

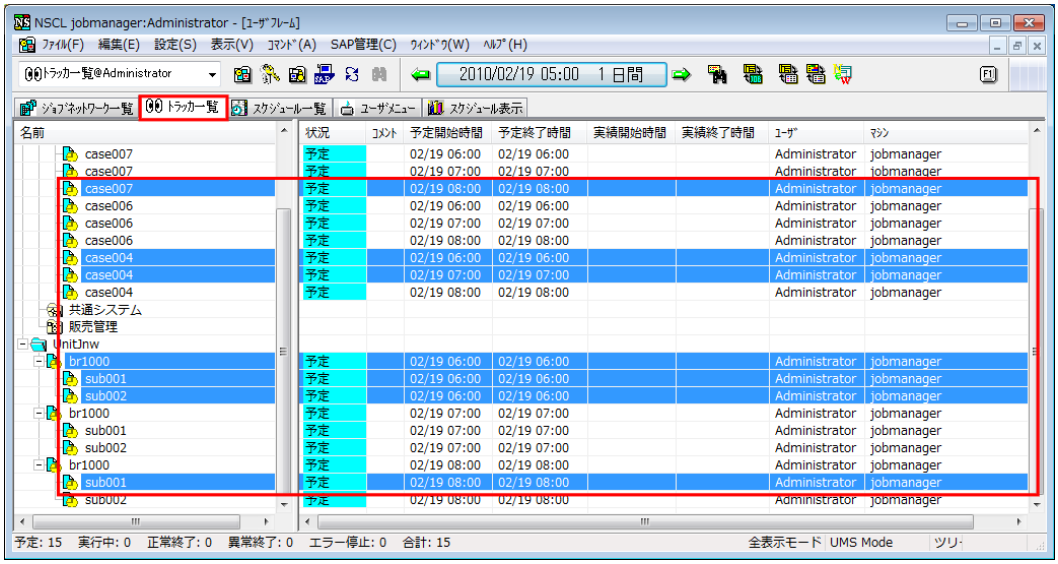


図6.46 トラッカの複数選択画面例

2. 右クリックしたときのポップアップメニューから［強制起動］を選択する、またはメニューバーの［コマンド］－［強制起動］を選択します。

3. ［Tracker操作の確認］ダイアログが開きますので、操作対象のトラッカの確認および操作の決定を行います。

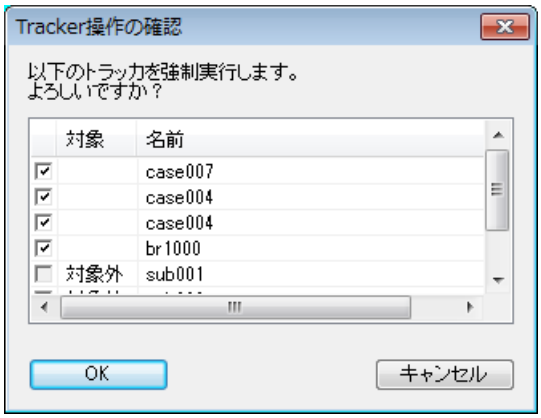


図6.47 ［Tracker操作の確認］ダイアログ画面例

4. 設定後、［開始］ボタンをクリックします。

5. ［Tracker操作の結果］ダイアログが表示されます。

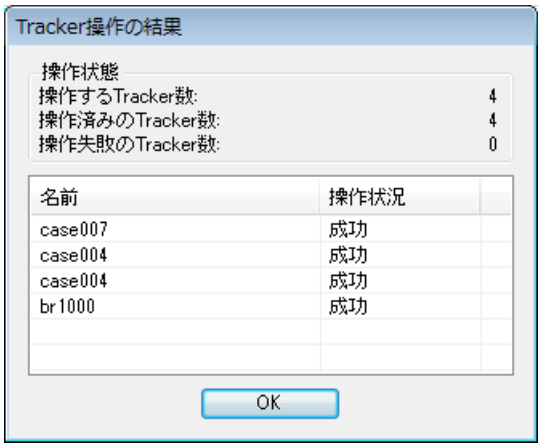


図6.48 ［Tracker操作の結果］ダイアログ画面例

［Tracker操作の確認］および［Tracker操作の結果］ダイアログの説明は次のとおりです。

［Tracker操作の確認］

■対象

操作を実行することができないトラッカについて、「対象外」と表示されチェックボックスがグレーアウトします。

操作可能なトラッカについては、チェックボックスがオンになっています。

チェックボックスをオフにすることで、操作の対象からはずすことができます。

■名前

選択したトラッカの名前が表示されます。

■開始

チェックボックスがオンになっているトラッカに対して、強制実行を開始します。

■中止

操作をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

［Tracker操作の結果］

■操作するTracker数

操作対象のトラッカ総数です。

■操作済みのTracker数

操作済みのトラッカの個数です。

■操作失敗のTracker数

操作に失敗したトラッカの個数です。

■名前

操作されているトラッカの名前が表示されます。

■操作状況

操作状況が表示されます。

表示されるものは「操作中」、「成功」、「失敗」の3種類です。

■OK

［Tracker操作の結果］ダイアログを閉じます。

6.14.7. トラッカの情報をアーカイブして保存する

実行終了したジョブネットワークのトラッカをアーカイブして保存するかどうかを、ユーザごとに指定することができます。それらは［ユーザ環境設定］の［アーカイブ］タブで設定します。

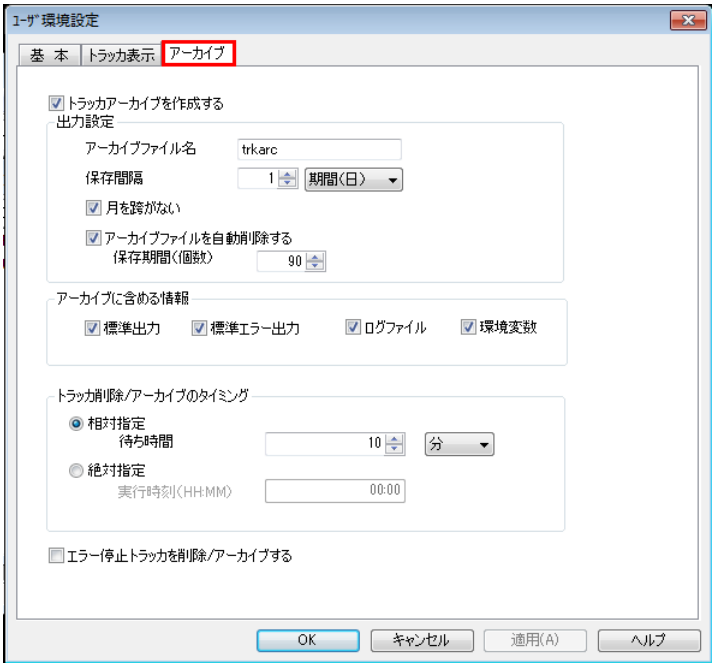


図6.49 ［ユーザ環境設定］ダイアログの［アーカイブ］タブの画面例

■トラッカが[エラー停止]状態の場合は、実行終了ではなく「一時停止」として扱われるため通常ではアーカイブの対象になりません。

［エラー停止］トラッカはジョブネットワークパラメータの同時起動可能数のカウント対象になりますので、不要なものは「スキップ」または「削除」しておいてください。

■[トラッカアーカイブを作成する]のチェックをはずすと、トラッカは「トラッカ削除/アーカイブのタイミング」で設定された待ち時間経過後に直ちに削除されます。

■[エラー停止]状態のトラッカをアーカイブさせたい場合は［エラー停止トラッカを削除/アーカイブする］をチェックしてください。

■アーカイブ化により、トラッカに対する操作は以下のように制限されます。

- ジョブネットワークのトラッカ

  トラッカが［アーカイブ済み］状態になると、そのトラッカに対する［スキップ（スキップ解除）］、［保留（保留解除）］、［再実行］、［アーカイブ］の操作はできません。［開く］、［削除］の操作はアーカイブ後も実行できます。

- 単位ジョブトラッカ

［アーカイブ済み］状態のジョブネットワークトラッカに所属する単位ジョブトラッカに対して［スキップ（スキップ解除）］、［保留（保留解除）］、［再実行］、［正常終了扱いに変更］の操作や［単位ジョブパラメータ］の変更はできません。［詳細情報］、［前後関係表示］、［ヘルプ］は操作できます。ただし［単位ジョブトラッカ］ウィンドウの［スクリプト］タブは参照できません。

6.14.8. スケジュールされた投入時刻を変更する

未来の時刻で即時投入されたジョブネットワークの投入時刻の変更、またはスケジュールされたジョブネットワークの投入時刻の一時的な変更ができます。

例えば、「明日のジョブは通常より時間がかかることが予想されるため、一時間早くジョブネットワークを実行したい」、または「明日だけ特別に単位ジョブを追加したい」といった場合などに利用します。

1. トラッカ一覧から変更したいトラッカを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから［投入の時間を変更］を選択します。

2. ［投入の時間を変更］ダイアログが開きますので、投入時間を変更します。

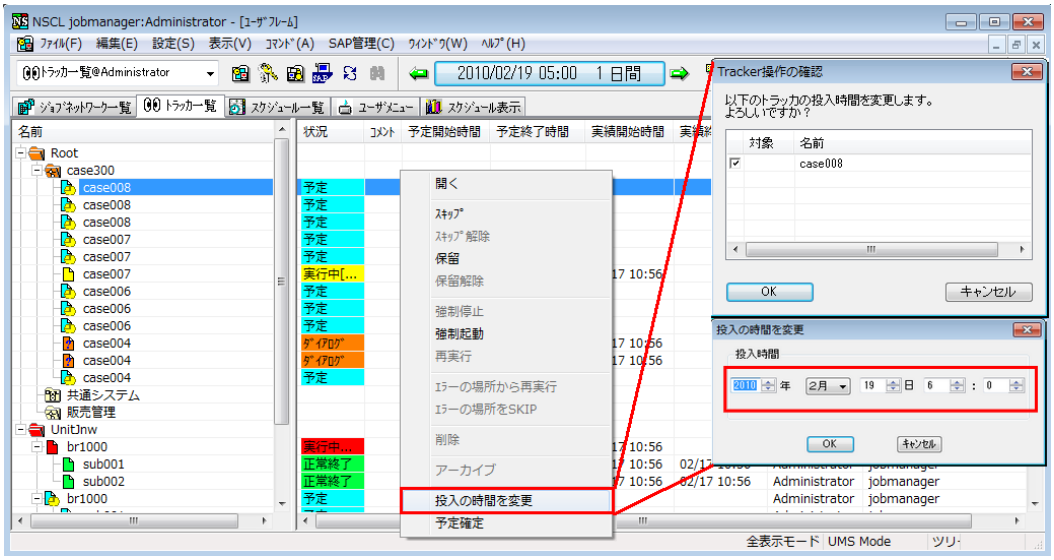


図6.50 ［投入の時間を変更］の選択画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

■［投入の時間を変更］ダイアログから投入時間を変更したあとに、元のスケジュール設定時刻を変更した場合、［投入の時間を変更］で変更したスケジュールは更新されません。したがって、［投入の時間を変更］ダイアログから変更した時刻と、元のスケジュール設定を変更した時刻とが重複して登録されます。

■トラッカの投入時刻を変更した後、投入時刻を変更前と同じ時刻に再度設定することはできません。

■スケジュールされたトラッカが予定(確定)状態になったときにそのトラッカを削除すると、スケジュールのルールに従った予定トラッカが再び生成されます。

6.14.9. ジョブネットワークにオブジェクト部品を追加または削除する

トラッカの状況が予定状態または予定（確定）状態である場合に、ジョブネットワーク定義自体には影響を与えず、選択したトラッカのフローに各部品の追加または削除が行えます。

1. トラッカ一覧から、オブジェクト部品を追加または削除を行うトラッカをダブルクリックしてフロー画面を表示させます。

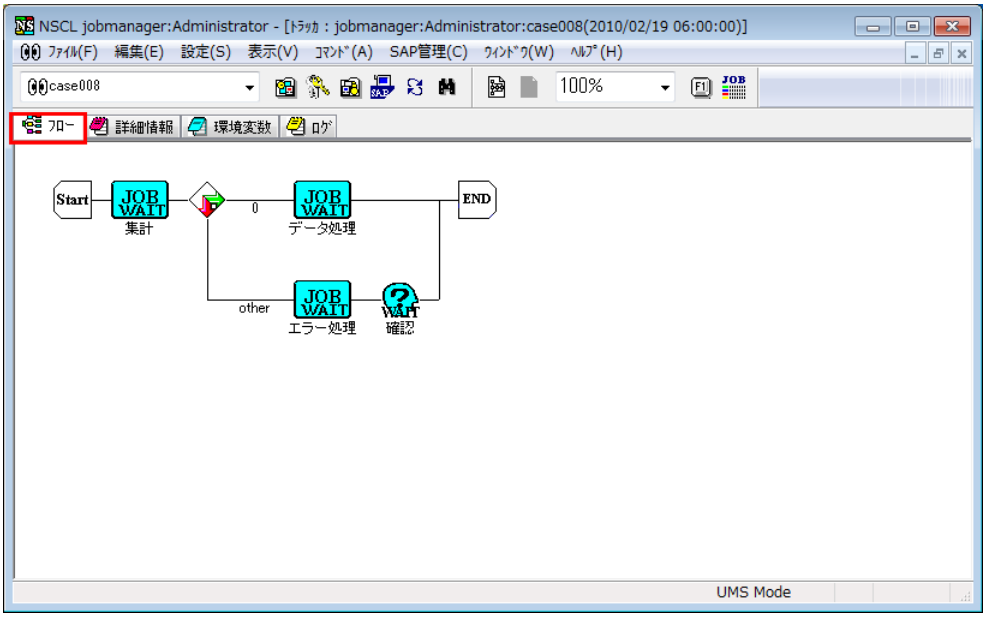


図6.51 部品追加を行うトラッカのフロー画面例

2. メニューバーの［ファイル］－［変更］を選択し、フローを変更可能な状態にします。

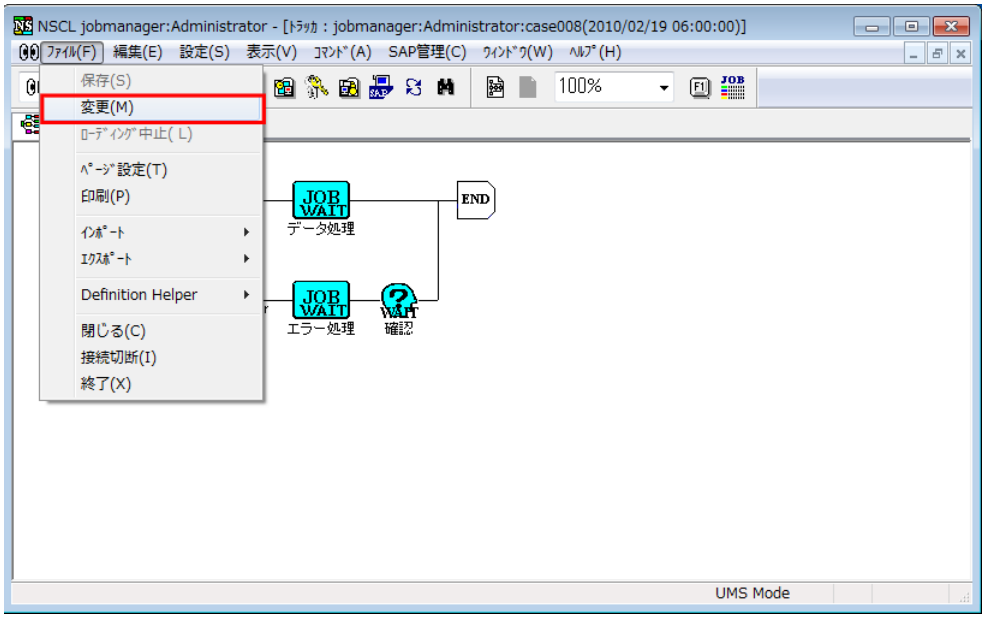


図6.52 メニューバーの［ファイル］－［変更］の選択画面例

3. オブジェクト部品を追加または削除します。ここでは、単位ジョブを追加します。

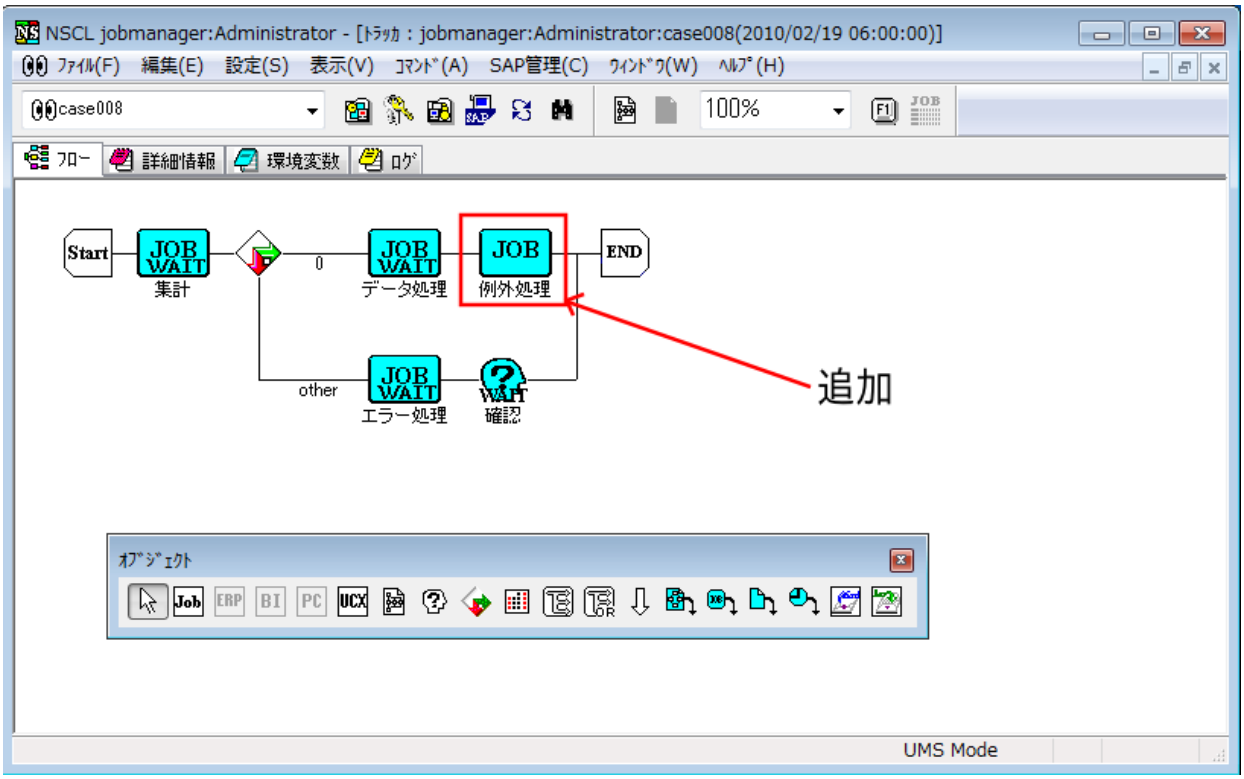


図6.53 部品オブジェクト追加画面例

4. 変更が終了したら、メニューバーから［ファイル］－［保存］を選択し変更後のフローを登録します。

5. 変更後のフローに従ってジョブネットワークが実行されます。

■各部品の場所の移動はできません。

■SAP ERPジョブ、SAP BIジョブ部品の追加や削除はできません。

■CSVで定義したジョブネットワークや単位ジョブの変更はできません。

6.14.10. トラッカからジョブネットワークの定義フローを表示する

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの[フロー]、[詳細情報]、[ログ]の画面から、該当するジョブネットワークの定義を呼び出すことができます。

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウを選択している状態で、メニューバーの［表示］－［JNW定義］を選択するか、または［JNW定義］アイコンをクリックすることにより、ジョブネットワークの定義フローが表示されます。

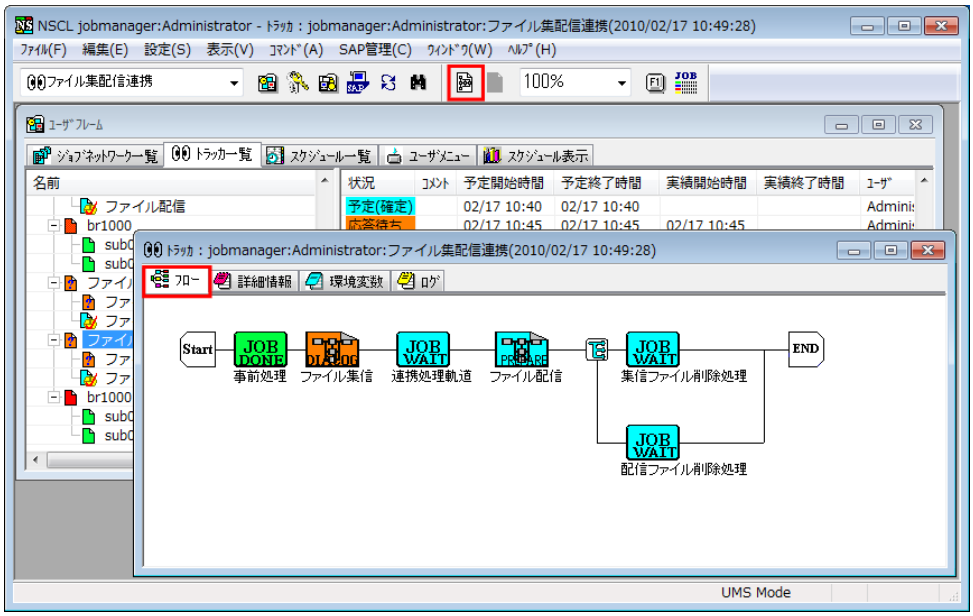


図6.54 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウからの[JNW定義]アイコン選択画面例

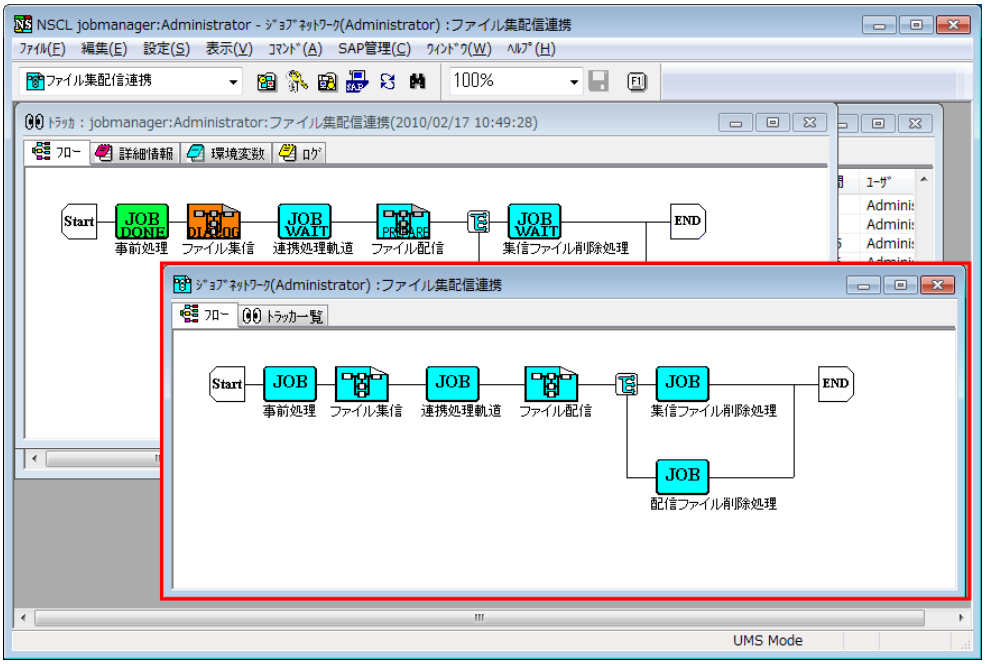


図6.55 ［ジョブネットワーク］ウィンドウの［フロー］画面例

6.14.11. トラッカフローを印刷する

トラッカフローを印刷することができます。

印刷したいトラッカを表示している状態で、「ファイル」―「印刷」を選択します。

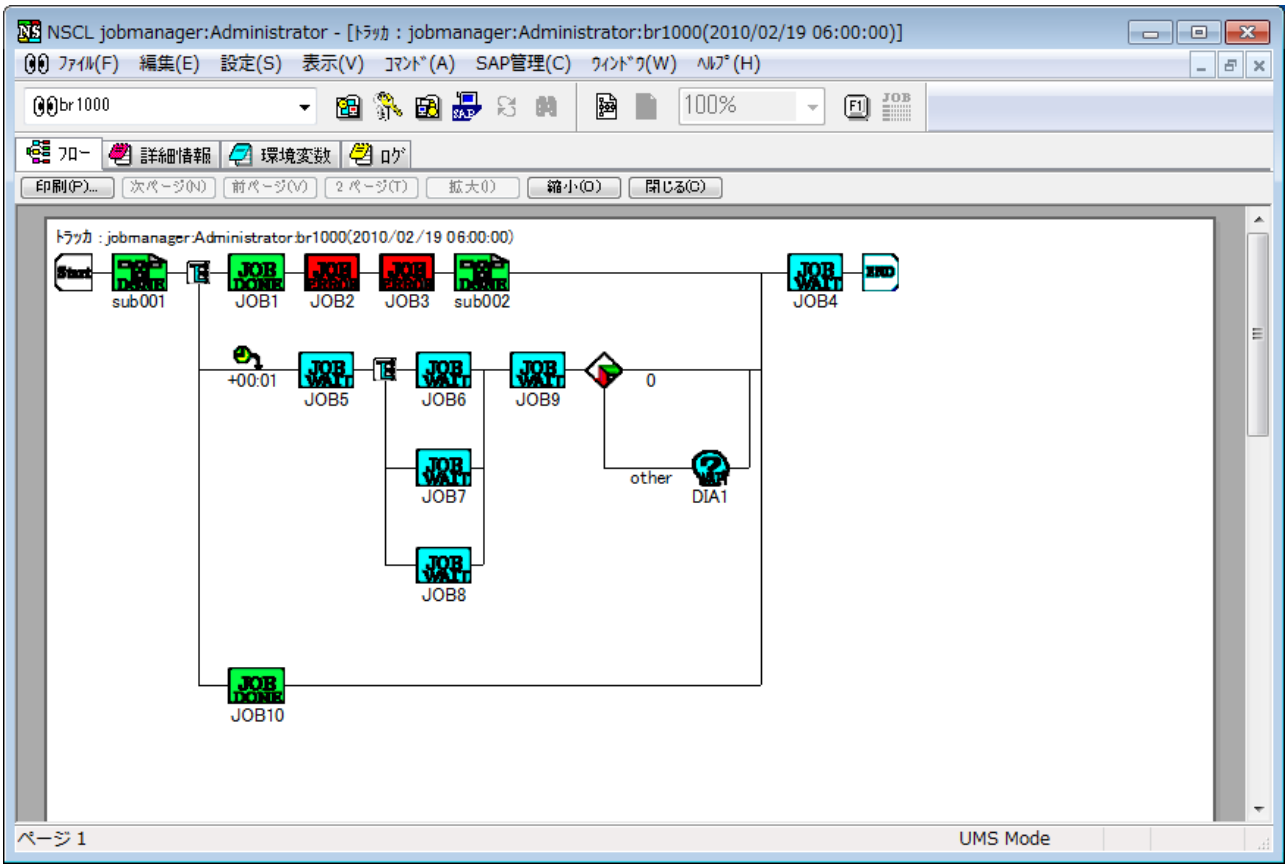


図6.56 トラッカフロー印刷のプレビュー画面

サーバ名、ユーザ名、ジョブネットワーク名、時刻と、トラッカフローを印刷します。

6.14.12. トラッカを手動でアーカイブする

正常終了、異常終了、警告終了しているトラッカをアーカイブ時刻に到達する前に、手動でアーカイブすることができます。

例えば、［ユーザ環境設定］の［アーカイブ］タブで[トラッカ削除/アーカイブのタイミング]で絶対指定で23時にアーカイブする様に設定していた場合に、23時になる前に特定のトラッカをアーカイブさせたい場合などに利用します。

1. トラッカ一覧からアーカイブさせたいトラッカを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから［アーカイブ］を選択します。

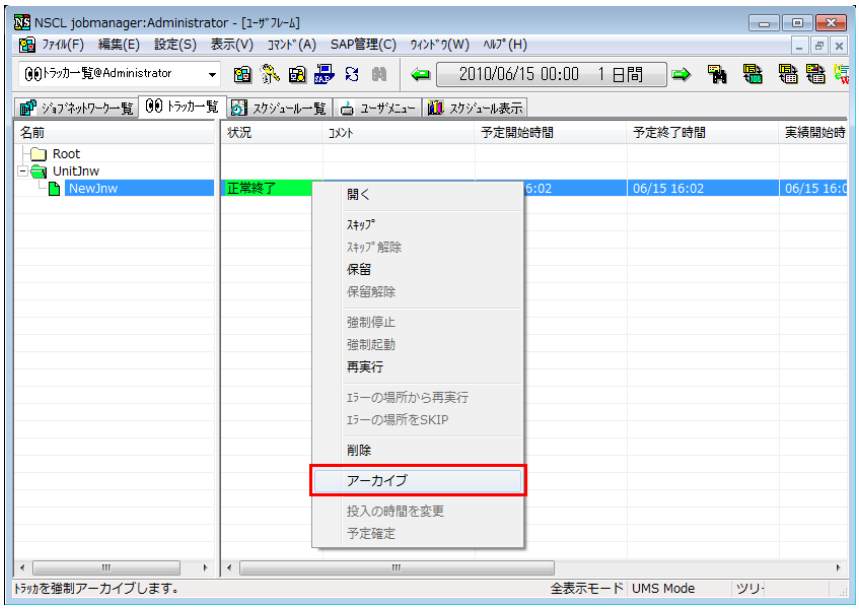


図6.57 手動によるアーカイブ操作の画面例

2. [Tracker操作の確認]ダイアログが開きますので、操作対象のトラッカの確認および操作の決定を行います。

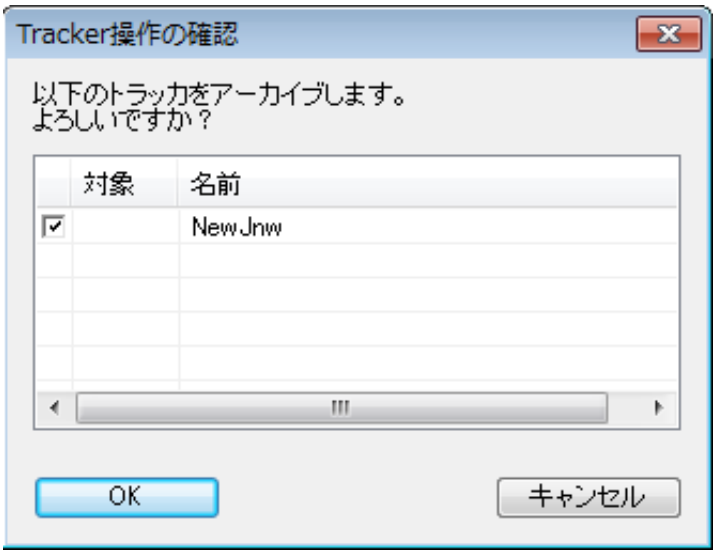


図6.58 アーカイブ操作時の [Tracker操作の確認]ダイアログ画面例

3. 設定後、[OK]ボタンをクリックします。

4. アーカイブ操作時の[Tracker操作の結果]ダイアログが表示されます。

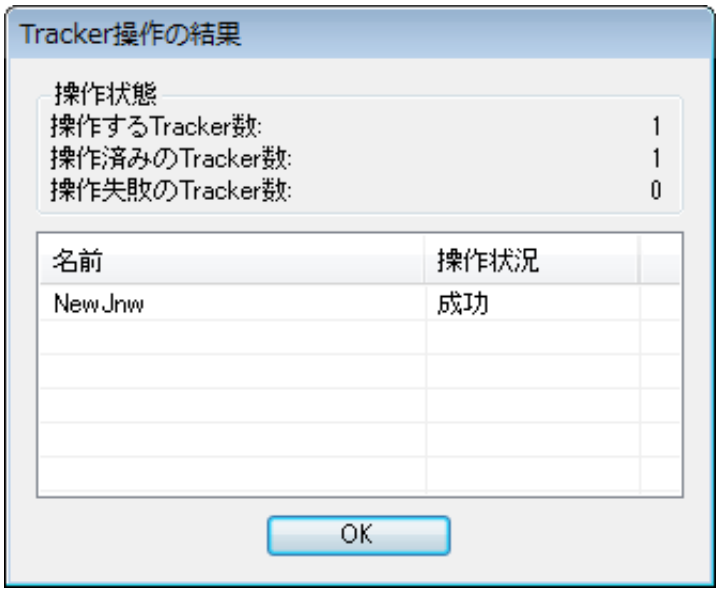


図6.59 アーカイブ操作時の［Tracker操作の結果]ダイアログ画面例

■手動によるアーカイブの操作ができるのは、正常終了、異常終了、警告終了しているトラッカのみです。但し、トラッカの投入時刻（トラッカの投入時間を変更していた場合には、変更前の投入時刻）より１分以上経過している必要があります。

■上記以外の状態（予定、予定(確定)、実行中、エラー停止等）のトラッカは、手動によるアーカイブの操作は行えません。

■［ユーザ環境設定］の［アーカイブ］タブの［エラー停止トラッカを削除/アーカイブする］をチェックしていても、エラー停止状態のトラッカは手動によるアーカイブの操作は行えません。

■［ユーザ環境設定］の［アーカイブ］タブの［トラッカアーカイブを作成する］がチェックされていない場合には、手動によるアーカイブの操作は行えません。

6.14.13. コマンドメニューからトラッカの制御を行う

ユーザフレームの［トラッカ一覧］タブ、またはマネージャフレームの［トラッカ一覧@全マシン］タブでトラッカを1つあるいは複数選択した状態で、メニューバーの［コマンド］から次の各項目と同様の操作を行うことができます。

■「6.14.6 複数のトラッカを選択して各種操作を同時に実行する」

■「6.14.8 スケジュールされた投入時刻を変更する」

ただしトラッカを［開く］、あるいはトラッカの［削除］と「前後関係の表示」は［コマンド］メニューからは実行できません。その場合はマウス右クリックでメニューを表示して実行してください。

6.15. 単位ジョブトラッカアイコンを操作する

［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウの［フロー］タブの中には、各単位ジョブの実行トラッカを表すアイコンがあります。単位ジョブトラッカでは、実行結果の詳細情報の表示や、ジョブ実行のスキップや保留、再実行などさまざまな操作を行えます。

開いている［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウを選択している状態でメニューバーの［コマンド］からもスキップや保留、再実行が選択できますが、そこから実行する全ての操作はそのトラッカ全体に対する操作になり、そのトラッカ全体に対する操作になります。

詳細は「6.14.13　コマンドメニューからトラッカの制御を行う」を参照してください。

6.15.1. 単位ジョブトラッカアイコンの操作

ジョブネットワークトラッカ内の単位ジョブアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューに表示される操作ができます。

図6.60 単位ジョブトラッカアイコン操作画面例

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次のとおりです。

■詳細情報

単位ジョブの実行情報を参照することができます。

■スキップ

実行中のジョブは中断して以降のジョブを実行します。またジョブの状態にかかわらずジョブにスキップマークをつけます。スキップマークのついたジョブは実行順が来ても実行しません。

実行前の状態では、そのジョブをスキップ予定とします。スキップ予定のジョブは実行順序が来ても実行されず、次のジョブの実行に移ります。

実行後の状態では、スキップ予定となり再実行時にスキップします。

スキップ予定のものにはアイコンにスキップの矢印がつきます。

■スキップ解除

［スキップ］によってつけられたスキップ予定を解除します。

■保留

単位ジョブを保留状態にします。保留状態のジョブは実行順序が来ても保留解除されるまで待ち合わせます。

保留操作は実行前または実行後の単位ジョブに対してのみ有効です。実行後のジョブを保留した場合は再実行時に待ち合わせとなります。

保留されているものには手の印がつきます。

■保留解除

［保留］によって保留状態にした単位ジョブを、保留解除します。

■サスペンド

実行中の単位ジョブを一時停止状態にします。ジョブのプロセスにはSIGSTOPシグナルが送られます。

本機能はUNIX版のみのサポートです。

■サスペンド解除

［サスペンド］によって停止している単位ジョブを再開します。ジョブのプロセスにはSIGCONTシグナルが送られます。

本機能はUNIX版のみのサポートです。

■強制停止

実行中の単位ジョブを中断します。ジョブのプロセスにはSIGKILLシグナルが送られます。トラッカの実行は停止し、トラッカ一覧での表示は［エラー停止］状態になります。

■強制起動

この単位ジョブ以降の待ち合わせ中のジョブを強制的に実行開始します。

■再実行

この単位ジョブ以降の実行済みジョブを再実行します。［再実行］の対象となる実行済み単位ジョブよりも後に位置するフロー上の部品がまだ実行中の場合、その実行中の部品は全てスキップされます。

■リスタート

この単位ジョブのスクリプト内のチェックポイントで最後に通過した箇所からジョブを再実行します。

本機能はUNIX版のみのサポートです。またジョブステップリスタートの拡張機能を有効にした場合のみ利用可能です。

■コントロール解除

この単位ジョブをJobCenterの監視下から切り離します。対象となる単位ジョブは表示上［エラー終了］となり、実行結果の取得は行いません。この場合、単位ジョブリクエストの処理そのものはNQS上で継続しますので注意してください。

トラッカフローの処理はコントロール解除された単位ジョブの次の部品から引き続き行われます。運用上後続の単位ジョブを実行させたくない場合はそれを事前に［保留］にしておいてから、目的の単位ジョブをコントロール解除してください。

［コントロール解除］を実行したタイミングで単位ジョブスクリプトの状況をチェックしますので、コントロール解除された単位ジョブが表示上［正常終了］となる場合もあります。

■正常終了扱いに変更

異常終了、警告終了している単位ジョブを正常終了扱いに変更します。

■単位ジョブリクエスト

この単位ジョブリクエストのパラメータを表示します。ただし単位ジョブリクエストがNQSのキューにキューイングされている間のみ表示できます。キューへのジョブリクエスト投入前、または実行終了している場合は表示できません。

■単位ジョブパラメータ

この単位ジョブに現在設定されているパラメータが表示されます。また、一部のパラメータについては［予定］［予定（確定）］または実行前の待ち合わせ状態であれば設定値を変更することができます。ただし実行中や終了済みの単位ジョブについては、パラメータを変更しても反映されません。

詳細については「4.2.2　単位ジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」を参照してください。

■削除

この単位ジョブをトラッカのフローから削除します。本機能は［予定］もしくは［予定（確定）］トラッカの単位ジョブを選択して、メニューの［ファイル］－［変更］を有効にした場合のみ利用可能です。「6.14.9　ジョブネットワークにオブジェクト部品を追加または削除する」を参照してください。

実行中または実行終了したトラッカの単位ジョブは削除できません。

■前後関係表示

この単位ジョブの前後関係を表示します。詳細については「6.20　トラッカの前後関係を表示する」を参照してください。

■ヘルプ

単位ジョブトラッカに関するヘルプを表示します。

6.15.2. 単位ジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する

1. 単位ジョブの実行トラッカを表すアイコンをダブルクリックまたは右クリックしたときのポップアップメニューから［詳細情報］を選択します。

2. ［単位ジョブトラッカ］ウィンドウを開きます。ジョブの実行情報や実行結果を参照します。

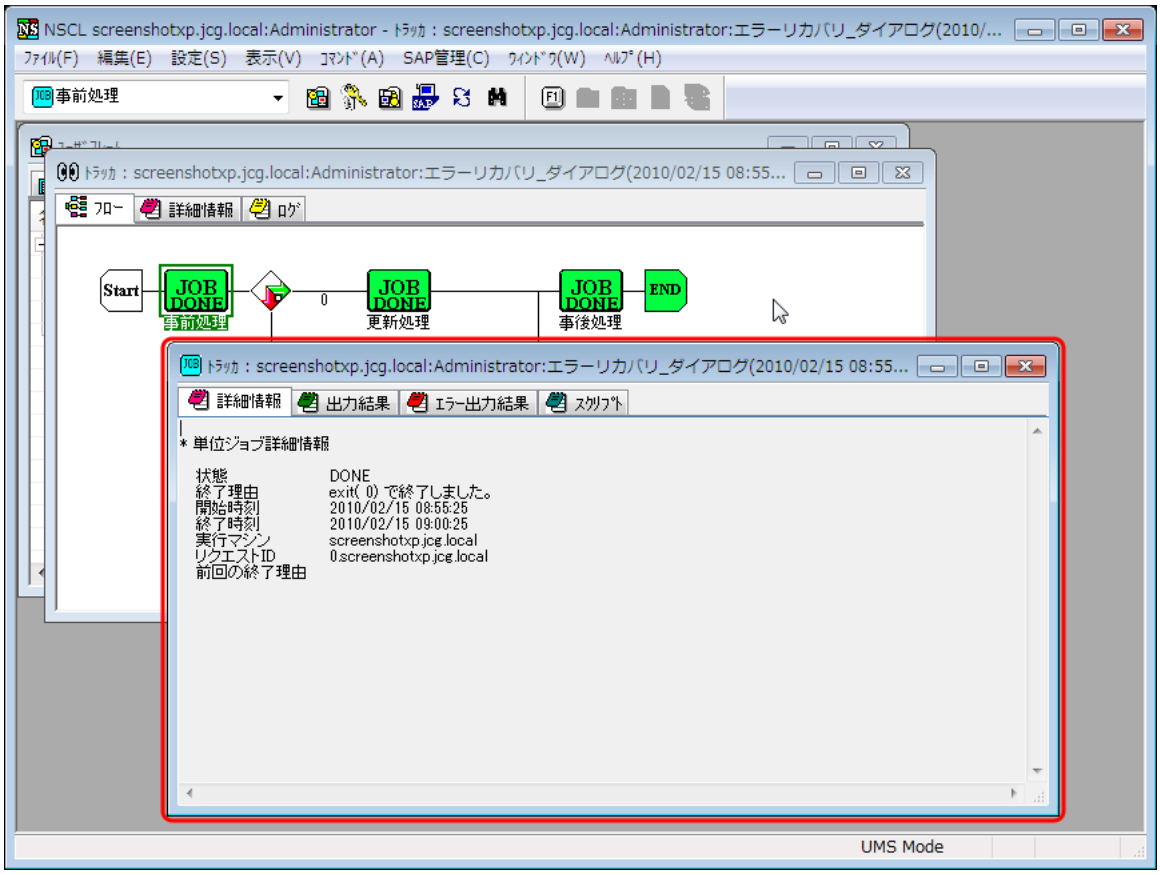


図6.61　［単位ジョブトラッカ］ウィンドウ画面例

［単位ジョブトラッカ］ウィンドウには次に説明する［詳細情報］、［出力結果］、［エラー出力結果］、［スクリプト］タブがあります。

表6.6　［単位ジョブトラッカ］ウィンドウのタブ一覧

タ　ブ	内　容	章番号
詳細情報	単位ジョブの実行情報を参照することができます。	「3.2.2　即時投入の実行結果を確認する」
出力結果	ジョブプロセスから標準出力に出力された内容です。単位ジョブのパラメータ設定において、標準出力ファイルを指定していた場合は表示されません。	「3.2.2　即時投入の実行結果を確認する」
エラー出力結果	ジョブプロセスから標準エラー出力に出力された内容です。単位ジョブのパラメータ設定において、標	－

	準エラー出力ファイルを指定していた場合は表示されません。	
スクリプト	単位ジョブのスクリプトファイルです。 これを変更すると、実行前のジョブでは実行時に反映されます。それ以外ではこのジョブが再実行されたときに反映されます。変更はこのトラッカに限られる一時的なものになります。 なおトラッカが「アーカイブ済み」になると参照できなくなります。	「3.1.5　単位ジョブアイコンのスクリプトを編集する」 「4.2.1　単位ジョブの実行スクリプトを設定する」

単位ジョブスクリプト内で巨大な標準出力・標準エラー出力データを掃き出してしまうと、CL/Winでのトラッカ表示時に時間がかかるだけでなく、サーバ側の検索処理でもメモリを消費して処理が遅くなる原因になります。

また、仮に単位ジョブパラメータの[結果]タブで[標準出力先]と[標準エラー出力先]を他の任意のファイルに設定したとしても、それらのファイルに書き出す前にJobCenterのNQSで大量の出力データを扱うことになり、やはりオーバヘッド悪化の原因になります。

そのような出力ファイルは、単位ジョブスクリプト内で他のファイルに(アプリケーションやコマンドのログとして)直接リダイレクトして保存して、JobCenterには取り込まないようにする等の工夫をお願いします。

6.16. サブジョブネットワークトラッカを操作する

ジョブネットワークのトラッカアイコンと同様、さまざまな操作を行えます。

ジョブネットワークトラッカ内のサブジョブネットワークアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューに表示される操作ができます。

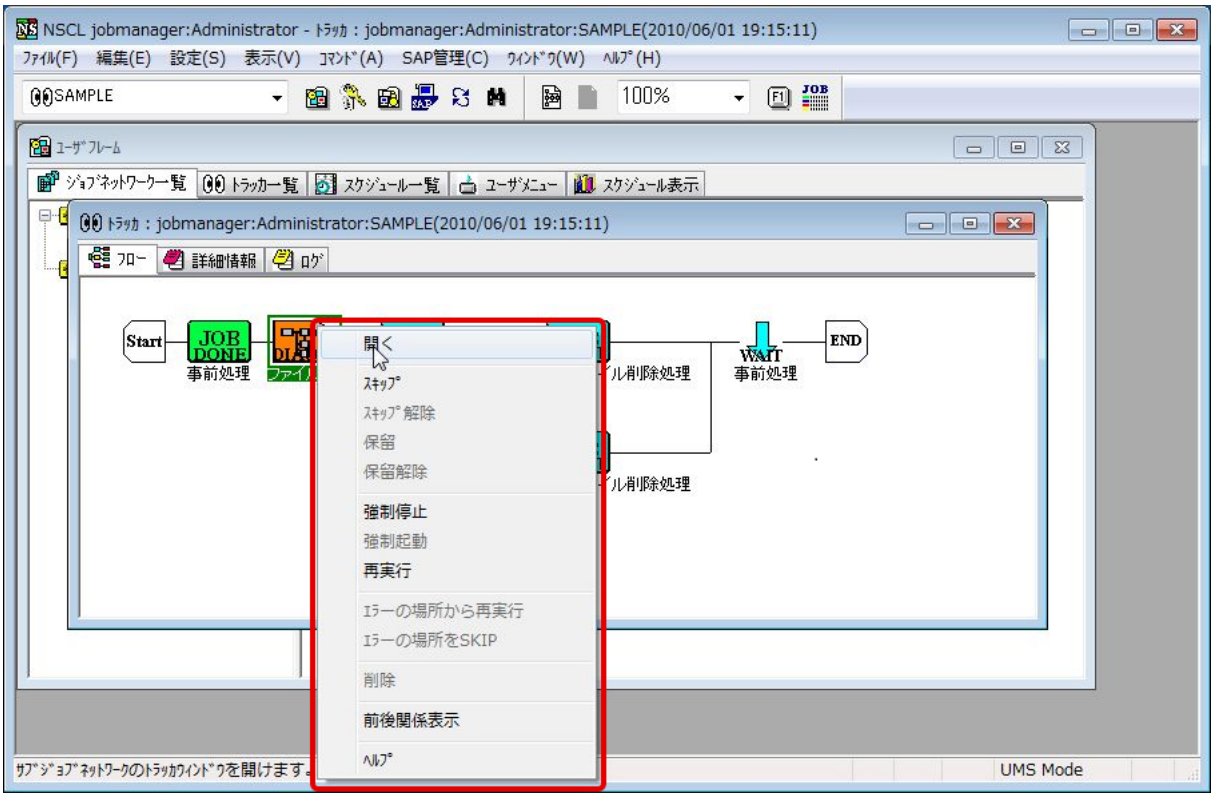


図6.62 サブジョブネットワークトラッカの操作画面例

メニューバーの［コマンド］からもサブジョブネットワークのスキップや保留、再実行が実行できます。詳細は「6.14.13 コマンドメニューからトラッカの制御を行う」を参照してください。

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次のとおりです。

■開く

そのサブジョブネットワークトラッカを参照します。

■スキップ

実行前の状態では、そのサブジョブネットワークをスキップ予定とします。スキップ予定のサブジョブネットワークは実行順序が来ても実行されず、次のジョブの実行に移ります。

実行中の状態では、実行を中止して次のジョブの実行に移ります。

実行後の状態では、スキップ予定となり再実行時にスキップします。

■スキップ解除

「スキップ」メニューによってつけられたスキップ予定を解除します。

■保留

サブジョブネットワークを保留状態にします。保留状態のサブジョブネットワークは実行順序が来ても保留解除されるまで待ち合わせます。保留操作は実行前または実行後のサブジョブネットワークに対してのみ有効です。

実行後に保留した場合は再実行時に待ち合わせとなります。

■保留解除

「保留」メニューによって保留状態にしたサブジョブネットワークを、保留解除します。

■強制停止

実行中のサブジョブネットワークを中断します。サブジョブネットワーク内のジョブリクエストのプロセスは強制的に終了します。

■強制起動

実行前のジョブネットワークを強制的に起動します。

■再実行

このサブジョブネットワーク以降の実行済みジョブを再実行します。［再実行］の対象となる実行済みサブジョブネットワークよりも後に位置するフロー上の部品がまだ実行中の場合、その実行中の部品は全てスキップされます。

■削除

このサブジョブネットワークを削除します。本機能は［予定］もしくは［予定（確定）］トラッカのサブジョブネットワークを選択して、メニューの［ファイル］－［変更］を有効にした場合のみ利用可能です。「6.14.9　ジョブネットワークにオブジェクト部品を追加または削除する」を参照してください。

実行中または実行終了したトラッカのサブジョブネットワークは削除できません。

■前後関係表示

このサブジョブネットワークの前後関係を表示します。詳細については「6.20　トラッカの前後関係を表示する」を参照してください。

■ヘルプ

ジョブネットワークトラッカの操作に関するヘルプを表示します。

6.17. ダイアログのユーザからの応答を行う（終了ステータスを決定する）

ダイアログのユーザからの応答を行う終了ステータスを決定する

ジョブネットワークトラッカ内のダイアログトラッカアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューに表示される［Ok］または［Error］を選択して、ユーザからの応答である、ダイアログジョブの終了ステータスを決めます。

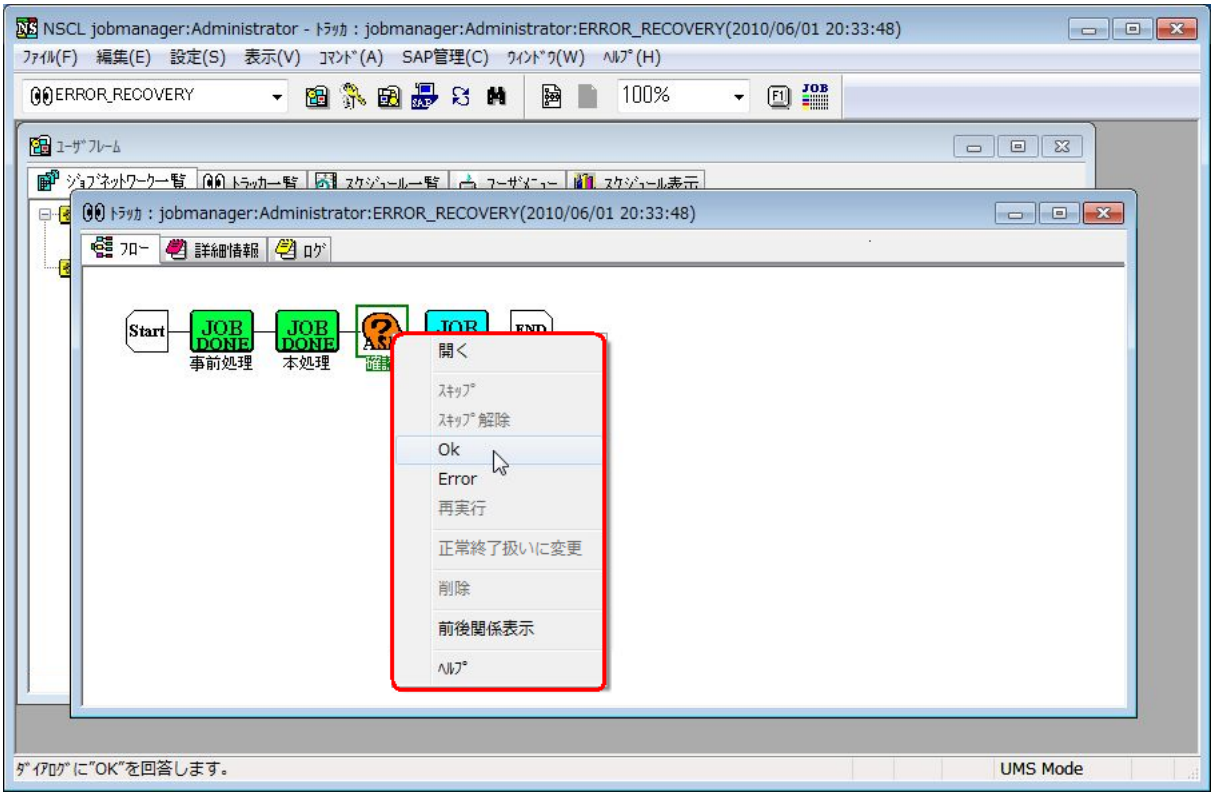


図6.63 ダイアログトラッカの操作画面例

6.18. 待ち合わせ部品とイベントの送受信のジョブをスキップする

ジョブネットワークトラッカ内の待ち合わせ部品およびイベント送受信トラッカを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューからジョブをスキップできます。

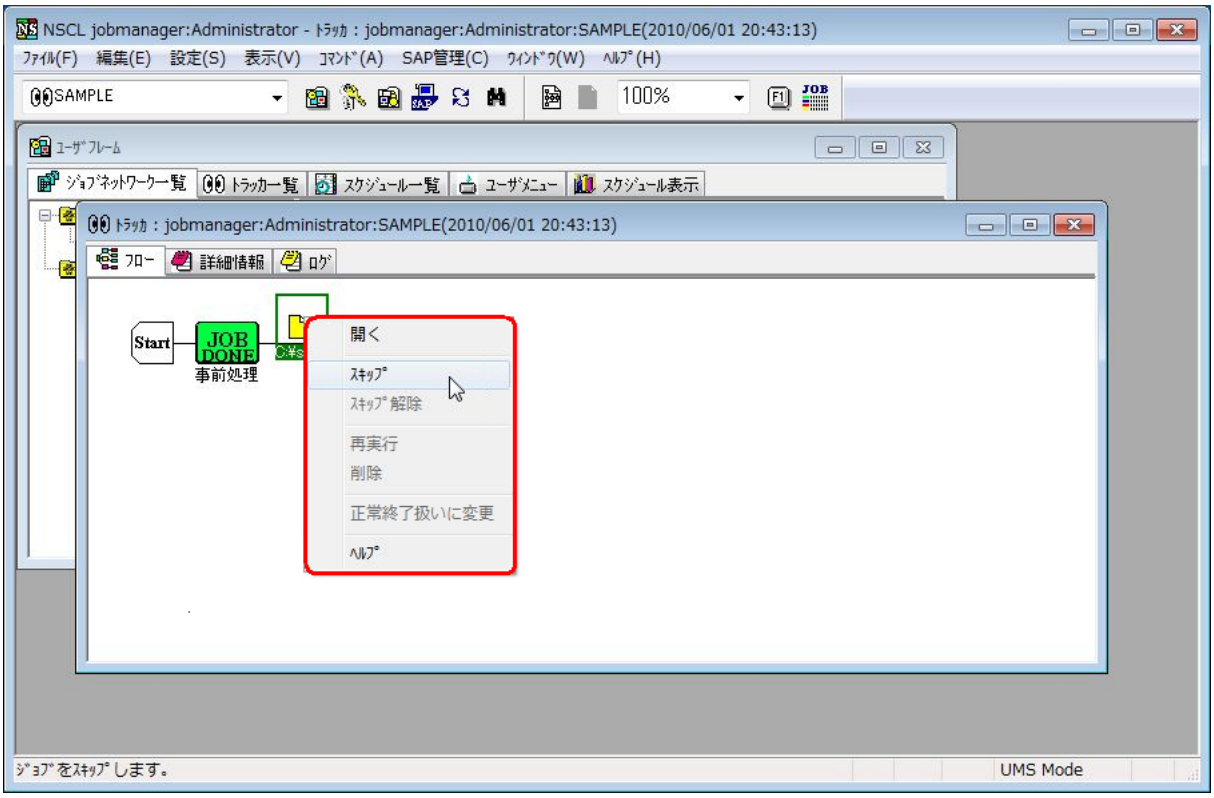


図6.64 待ち合わせ部品とイベント送受信トラッカの操作画面例

待ち合わせ部品とイベント送受信トラッカの種類は次のとおりです。

表6.7 待ち合わせ部品とイベント送受信トラッカ一覧

待ち合わせ部品トラッカとイベント送受信トラッカ	説　明
	ジョブ待ち合わせ
	サブジョブネットワーク待ち合わせ
	時刻待ち合わせ
	ファイル待ち合わせ
	イベント受信待ち合わせ
	イベント送信確認待ち合わせ

6.19. 部品検索を行う

トラッカのフロー画面に表示されている部品の検索を行うには、ツールバーの［部品検索］ボタンをクリックして［部品検索画面］ウィンドウを表示させます。

［部品検索画面］ウィンドウは、ユーザフレーム、マネージャフレームおよび部品検索フレームから起動できます。

検索対象となる部品は単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブ、サブジョブネットワーク、ダイアログ部品、イベント送信部品、イベント受信部品の7つです。

部品検索の結果は、表示項目別にソートして表示することができます。また、印刷やCSV出力もできます。

6.19.1. 部品検索の項目を設定する

［部品検索画面］ウィンドウは、トラッカ一覧の［コントロールダイアログ］（「6.9 トラッカ一覧をフィルタリングして表示する」参照）と同様の使い方で、部品の検索や検索結果のソートが行えます。

1. ユーザフレーム、マネージャフレームおよび部品検索フレームを表示します。
2. ツールバーの［部品検索］ボタンをクリックします。
3. ［部品検索画面］ウィンドウが表示されます。

図6.65 ［部品検索画面］ウィンドウ画面例

4. 設定後、［検索］ボタンをクリックして検索を開始します。

［部品検索画面］ウィンドウの設定項目は次のとおりです。

■マシン名

検索したい部品が所属しているマシン名を指定します。

現ユーザが他のマシンのトラッカを参照できる場合にのみ指定できます。

マシン名を直接入力するか、［参照］ボタンからマシン名を選択します。マシン名を空白にした場合には全マシンの部品を検索します。

■ユーザ名

検索したい部品を保持しているユーザ名を指定します。これは現ユーザが他のユーザのトラッカを参照できる場合にのみ指定できます。

ユーザ名を直接入力するか、［参照］ボタンからユーザ名を選択します。ユーザ名を空白にした場合にはアクセスが許可された全ユーザの部品を検索します。

マシン名が空白になっている場合にはユーザ名を指定できません。ユーザ名を指定したい場合には、そのユーザが所属するマシン名を先に指定する必要があります。

■グループ名

検索したい部品が所属しているグループ名を指定します。

グループ名を直接入力するか、［参照］ボタンからグループ名を選択します。

空白にした場合には全グループの部品を検索します。

ワイルドカード「*」を指定した前方一致検索が可能です。

（例：グループ名欄にて「処理*」と入力→グループ名「処理１」、「処理更新」等の前方一致条件に該当するグループが検索対象となり、「１処理」、「更新処理」等は前方一致条件に該当しないため検索対象外となります。）

ワイルドカード「*」のみ入力されされた場合は空欄と同じ扱いとなり、入力した項目の全てを対象とします。

尚、グループ名欄でパスを指定しての前方一致検索は行えません。（例：「Root￥NewJnw*」）

■ジョブネットワーク名

検索したい部品が所属しているジョブネットワーク名を指定します。

ジョブネットワーク名を直接入力するか、［参照］ボタンからジョブネットワーク名を選択します。空白にした場合には全ジョブネットワークの部品を検索します。

ワイルドカード「*」を指定した前方一致検索が可能です。

ワイルドカード「*」のみ入力されされた場合は空欄と同じ扱いとなり、入力した項目の全てを対象とします。

マシン名またはユーザ名が空白になっている場合には、グループ名、ジョブネットワーク名を指定できません。これらを指定したい場合には、先に対象となるマシン名とユーザ名を指定する必要があります。

■部品名

検索したい部品名を指定します。

部品名を直接入力するか、［参照］ボタンから部品を選択します。

空白にした場合には全部品を検索します。

ワイルドカード「*」を指定した前方一致検索が可能です。

ワイルドカード「*」のみ入力されされた場合は空欄と同じ扱いとなり、入力した項目の全てを対象とします。

部品名は、マシン名が指定されていれば直接入力して検索することは可能です。［参照］ボタンを使用するにはジョブネットワーク名を先に指定する必要があります。

■検索条件の指定

各部品の検索条件指定の有無を選択できます。

ON	「ステータス検索」および「タイプ別検索」の条件が指定できるようになります。
OFF	「ステータス検索」および「タイプ別検索」は指定できず、すべてのステータスおよびタイプについて検索します。

■アーカイブ済みの検索

アーカイブ済みのトラッカの部品を検索するかどうかを選択することができます。

「する」の場合には検索対象とし、「しない」の場合には対象にしません。

■ステータス検索

検索したい部品のステータスを選択します。

各ステータスの詳細については「6.9 トラッカ一覧をフィルタリングして表示する」の表示条件の項を参照してください。

■タイプ別検索

検索したい部品のタイプを選択します。

部品の詳細については4章 「部品オブジェクトの使用方法」 を参照してください。

■［検索期間設定］ボタン

検索したい部品の期間を設定します。

［検索期間設定］ボタンをクリックすると［検索期間設定］ダイアログが表示されます。

図6.66 ［検索期間設定］ダイアログ画面例

［検索期間設定］ダイアログに次の内容を設定します。

検索開始日	部品検索を行う期間の開始日時（年月日時分）を指定します。
検索期間	部品検索を行う期間を指定します。期間の数値と単位を指定します。 1～59分、1～23時間、1～7日間、1～5週間、1～3ヶ月間を設定できます。

■表示時間形式

表示する時間形式を設定することができます。

hh:mm	時分を表示します。
MM/DD hh:mm	月日時分を表示します。
YYYY/MM/DD hh:mm:ss	年月日時分秒を表示します。

6.19.2. 部品検索結果を参照する

1. ［部品検索画面］ウィンドウで設定した内容で検索を実行します。

2. 検索結果として［部品検索フレーム］が表示されます。

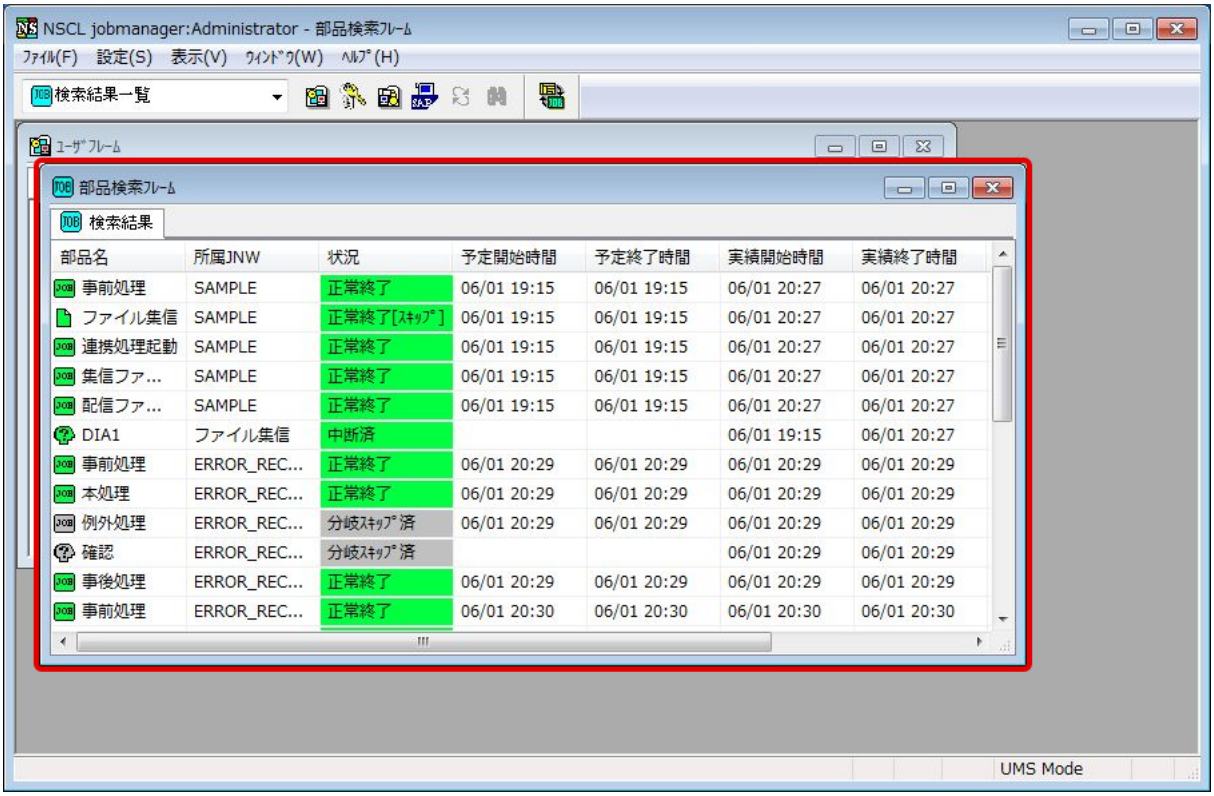


図6.67 部品検索フレーム画面例

3. このとき［部品検索画面］ウィンドウは開いたままです。［部品検索画面］ウィンドウを閉じたい場合には、［部品検索画面］ウィンドウの［キャンセル］ボタンをクリックします。

部品検索フレームには、次の項目があります。

項　目	内　容
部品名	検索条件に一致した部品の名前が表示されます。
所属JNW	その部品が所属するジョブネットワーク名が表示されます。
状況	その部品の現在のステータスが表示されます。
予定開始時間	スケジューラに登録された予定開始時間です。
予定終了時間	予定開始時間とジョブの予定実行時間から計算した予定終了時間です。
実績開始時間	実際に実行を開始した時間です。
実績終了時間	実際に実行が終了した時間です。
ユーザ	所属するジョブネットワークを実行したユーザ名です。

マシン	所属するジョブネットワークを実行したマシン名です。

6.19.3. 部品検索フレームを更新する

部品検索フレームの表示を最新の情報に更新します。

［部品検索画面］ウィンドウの［検索］ボタンをクリックしてリロードします。

自動更新や手動（ファンクションキー［F5］を押す）による更新はできません。

6.19.4. 部品検索結果をソートする

部品検索フレームの検索結果を各列についてソートすることができます。

ソートしたい列名のボタンをクリックします。ここでは、［所属JNW］をソートしています。

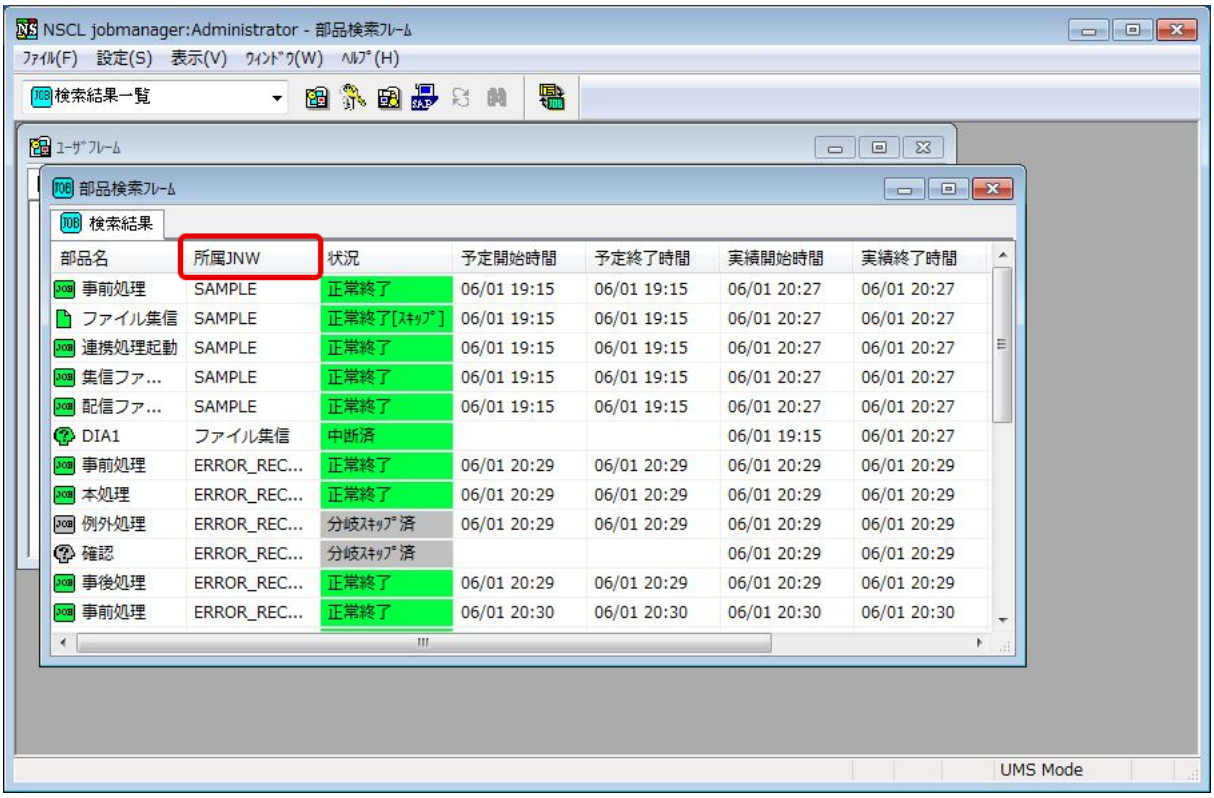


図6.68 検索結果のソート画面例

6.19.5. 部品検索フレームからトラッカを参照する

1. 部品検索フレームより参照したい部品を選択してダブルクリックします。

2. その部品が所属する［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウが開きます。該当部品にフォーカスが移動します。

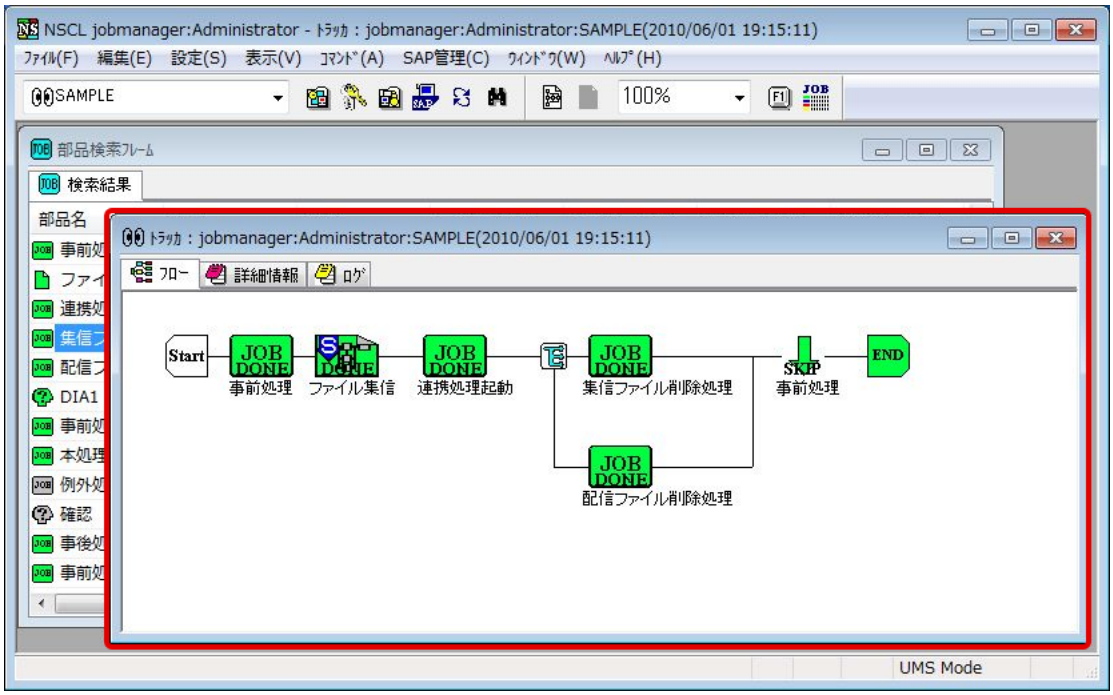


図6.69 ［ジョブネットワークトラッカ］ウィンドウ画面例

6.19.6. 部品検索結果を出力する

部品検索の結果を印刷、またはCSV形式でファイルに出力できます。

1. メニューバーの［ファイル］－［印刷］を選択します。

2. ［検索結果の印刷］ダイアログが表示されます。なお、［検索結果の印刷］ダイアログを閉じるには［キャンセル］ボタンをクリックします。

図6.70 ［検索結果の印刷］ダイアログ画面例

3. ［プレビュー］ボタンをクリックすると、検索結果画面の印刷プレビュー画面を表示します。

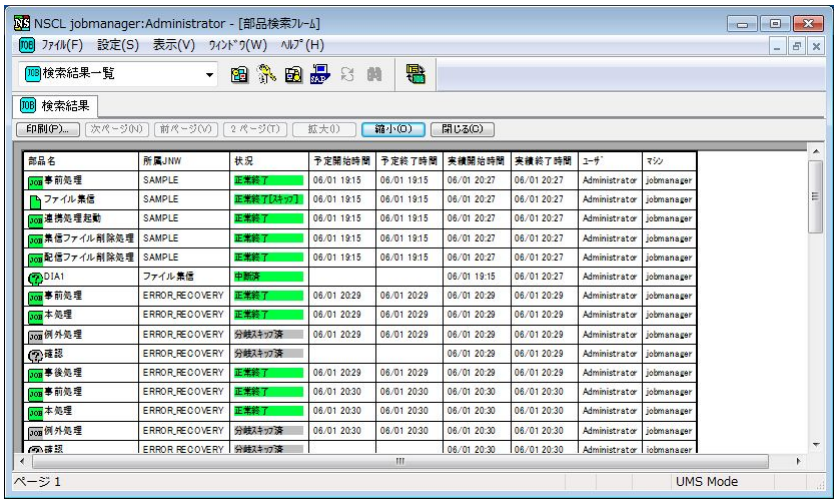


図6.71 検索結果の印刷プレビュー画面例

6.19.6.1. 部品検索結果を印刷する

［印刷］ボタンをクリックすると、検索結果画面の印刷を行います。

6.19.6.2. 部品検索結果をCSV出力する

［ファイルへ出力］ボタンをクリックすると［名前を付けて保存］ダイアログが表示されます。

保存したい場所とファイル名を指定して保存します。

CSVへは、次のヘッダ情報を付加して［検索結果画面］に表示されている情報を出力します。

“部品名”、“部品タイプ”、“所属ジョブネットワーク”、“状況”、“予定開始時間”、“予定終了時間”、“実績開始時間”、“実績終了時間”、“ユーザ”、“マシン”

6.20. トラッカの前後関係を表示する

トラッカフローにおいて、部品の前後関係およびそのステータスをチェックすることができます。

対象となる部品は単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブ、サブジョブネットワーク、ダイアログ部品、イベント送信部品、イベント受信部品です。

6.20.1. トラッカの前後関係を表示する

1. 各部品上で右クリックしたときのポップアップメニューから［前後関係表示］を選択します。

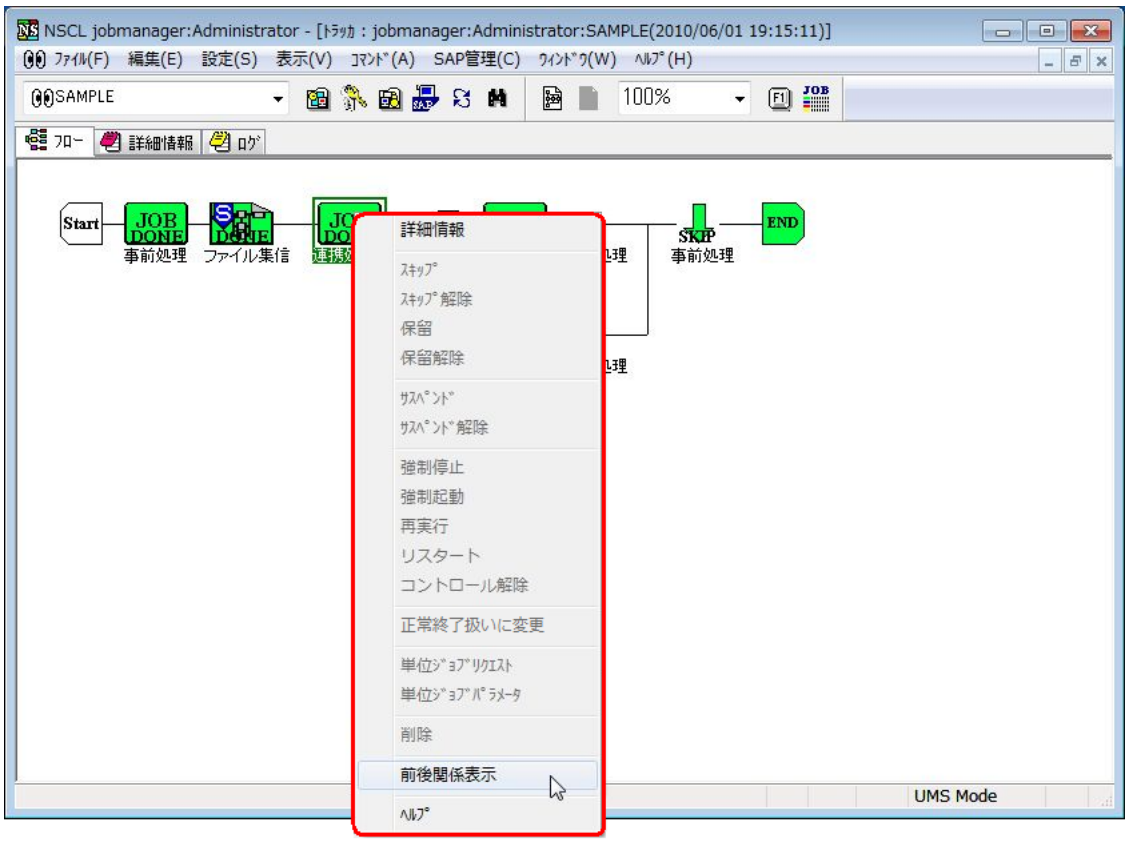


図6.72 単位ジョブトラッカアイコン操作画面例（前後関係表示）

2. ［前後関係表示］ダイアログが表示されます。

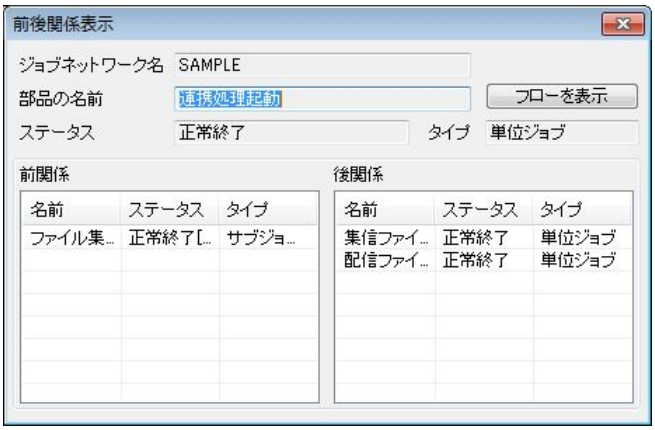


図6.73 ［前後関係表示］ダイアログ画面例

［前後関係表示］ダイアログの構成は次のとおりです。

■ジョブネットワーク名

選択された部品が所属するジョブネットワーク名を、親ジョブネットワーク名からコロン「：」でつないで表示します。

■ジョブの名前

選択された部品の名前を表示します。

■ステータス

「ジョブの名前」に表示されている部品のステータスを表示します。

■タイプ

「ジョブの名前」に表示されている部品のタイプを表示します。

「ステータス」と「タイプ」に関する注意事項

他ジョブネットワークや他ユーザのジョブネットワークを待ち合わせ対象とするサブジョブネットワーク待ち合わせ部品のトラッカが「前関係」または「後関係」一覧に表示される場合、「ステータス」列には“不明”が、「タイプ」列には“別トラッカ部品”が表示されます。

他ジョブネットワークや他ユーザのジョブネットワーク中のジョブを待ち合せ対象とするジョブ待ち合わせ部品に関しても同様に表示されます。

また、そのようなジョブ待ち合わせ部品やサブジョブネットワーク待ち合わせ部品の行をダブルクリックした場合は、待ち合わせ部品と待ち合わせ対象部品が別のトラッカに所属しているため、移動することができません。

■前関係

「ジョブの名前」に表示されている部品の前関係となるすべての部品について、「名前」、「ステータス」、「タイプ」を表示します。

また、表示されている前関係の部品をダブルクリックすると、その部品の名前が「ジョブの名前」欄に表示され、他の項目がその部品を対象としたものに更新されます。

「前関係」の定義については「6.20.2 トラッカの前関係を定義する」を参照してください。

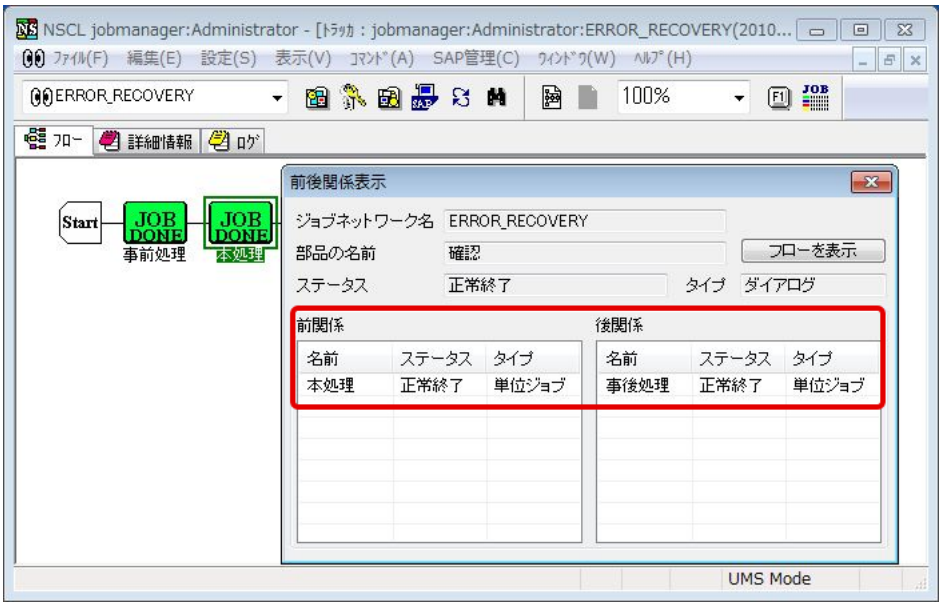


図6.74 前関係の「集信」をダブルクリックしたときの結果表示例

■後関係

「ジョブの名前」に表示されている部品の後関係となるすべての部品について、「名前」、「ステータス」、「タイプ」を表示します。

また、表示されている後関係の部品をダブルクリックすると、その部品の名前が「ジョブの名前」欄に表示され、すべての項目がその部品を対象としたものに更新されます。

「後関係」の定義については「6.20.3 トラッカの後関係を定義する」を参照してください。

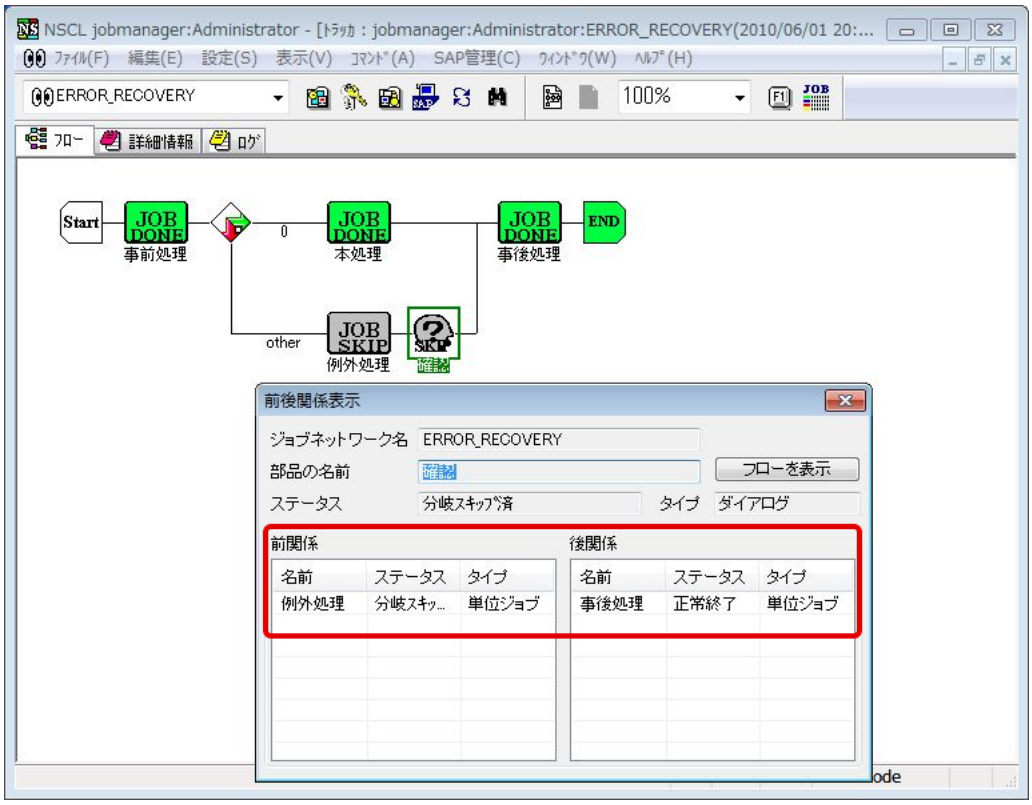


図6.75 後関係の「確認」をダブルクリックしたときの表示例

■［フローを表示］ボタン

［フローを表示］ボタンをクリックすると、「ジョブの名前」欄にある部品がフォーカスされたトラッカフローが表示されます。

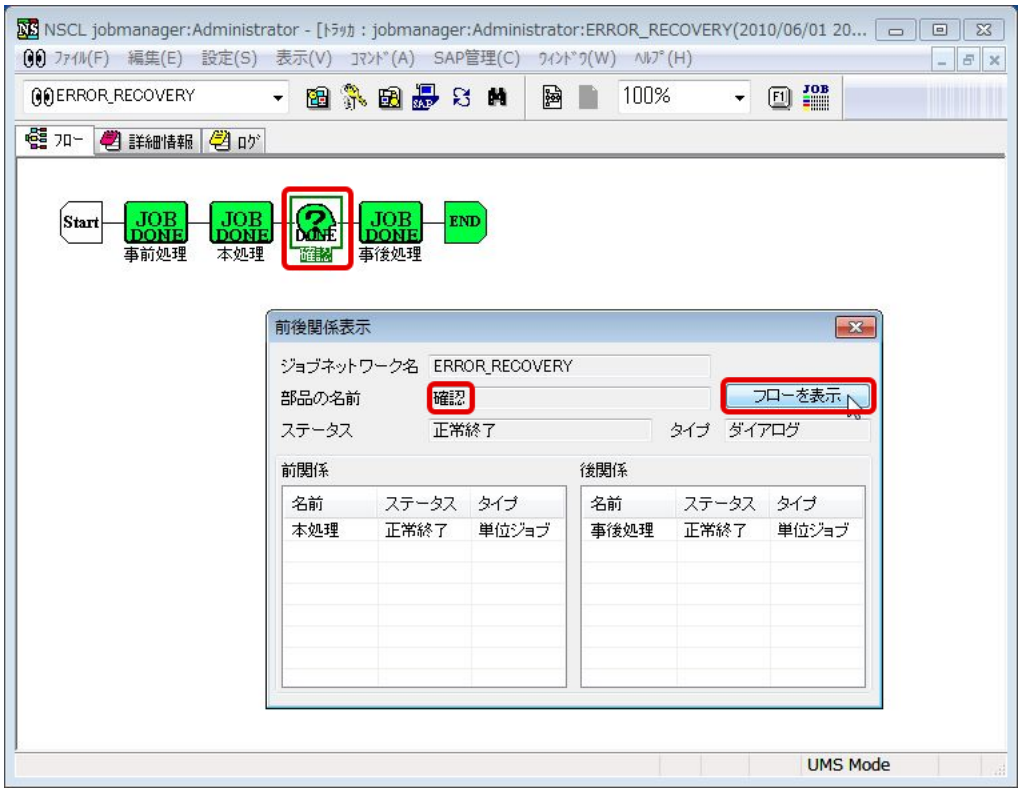


図6.76 ［フローを表示］ボタンをクリックしたときのフォーカスの移動結果例

6.20.2. トラッカの前関係を定義する

次の定義に従って前関係となる表示対象部品の検索を行い、該当する部品を前関係のリストに表示します。表示対象部品とは、単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブ、サブジョブネットワーク、ダイアログ部品、イベント送信部品、イベント受信部品のことです。

1. トラッカフロー上で該当部品の左側の線に直接結ばれている表示対象部品が「前関係」となる。「前関係」となる部品はなくてもよい。また、複数存在してもよい。
2. 1.で見つかった部品が表示対象外の場合、表示対象となる部品が現れるまでさらに左側を探し、見つかった表示対象部品を「前関係」とする。
3. 1.で見つかった部品が「並列分岐」または「条件分岐」または「カレンダ分岐」の合流部分の場合、各分岐の一番右側の表示対象部品が「前関係」となる。空の分岐または表示対象となる部品がない場合には、2の方法で「前関係」を検索する。検索が分岐の開始点まで到達した場合はさらに左側を検索する。
4. 1.で見つかった部品が「ジョブ待ち合わせまたはジョブネットワーク待ち合わせ部品」の場合、待ち合わせ対象としている部品を「前関係」とする。
5. 1.で見つかった部品がサブジョブネットワークの場合、そのサブジョブネットワーク内部の部品は検索せず、そのままサブジョブネットワークを「前関係」とする。
6. 2.の方法で「前関係」が見つからずStart地点まで到達した場合には、その検索を終了する。ただし、検索したトラッカフローがサブジョブネットワークの場合は、そのサブジョブネットワークの親ジョブネットワークを「前関係」に含める。

6.20.3. トラッカの後関係を定義する

次の定義に従って後関係となる表示対象部品の検索を行い、該当する部品を後関係のリストに表示します。表示対象部品とは、単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブ、サブジョブネットワーク、ダイアログ部品、イベント送信部品、イベント受信部品のことです。

1. トラッカフロー上で該当部品の左側の線に直接結ばれている表示対象部品が「後関係」となる。「後関係」となる部品はなくてもよい。また、複数存在してもよい。

2. 1.で見つかった部品が表示対象外の場合、表示対象となる部品が現れるまでさらに右側を探し、見つかった表示対象部品を「後関係」とする。

3. 1.で見つかった部品が「並列分岐」または「条件分岐」または「カレンダ分岐」の場合、各分岐の最初の表示対象部品が「後関係」となる。空の分岐または表示対象となる部品がない場合には、2の方法で「後関係」を検索する。検索が分岐の終了点まで到達した場合にはさらに右側を検索する。

4. 自分自身を待ち合わせ対象としている待ち部品があった場合、その右側にある表示対象部品を「後関係」とする。表示対象部品がない場合には2と同様の方法で検索を行う。

5. 1.で見つかった部品がサブジョブネットワークの場合、そのサブジョブネットワーク内部の部品は検索せず、そのままサブジョブネットワークを「後関係」とする。

6. 2.の方法で「後関係」が見つからずEND地点まで到達した場合には、その検索を終了する。ただし、検索したトラッカフローがサブジョブネットワークの場合は、そのサブジョブネットワークの親ジョブネットワークを「後関係」に含める。

6.20.4. トラッカの前後関係の例

サブジョブネットワークを含むジョブネットワークの前後関係の例を示します。

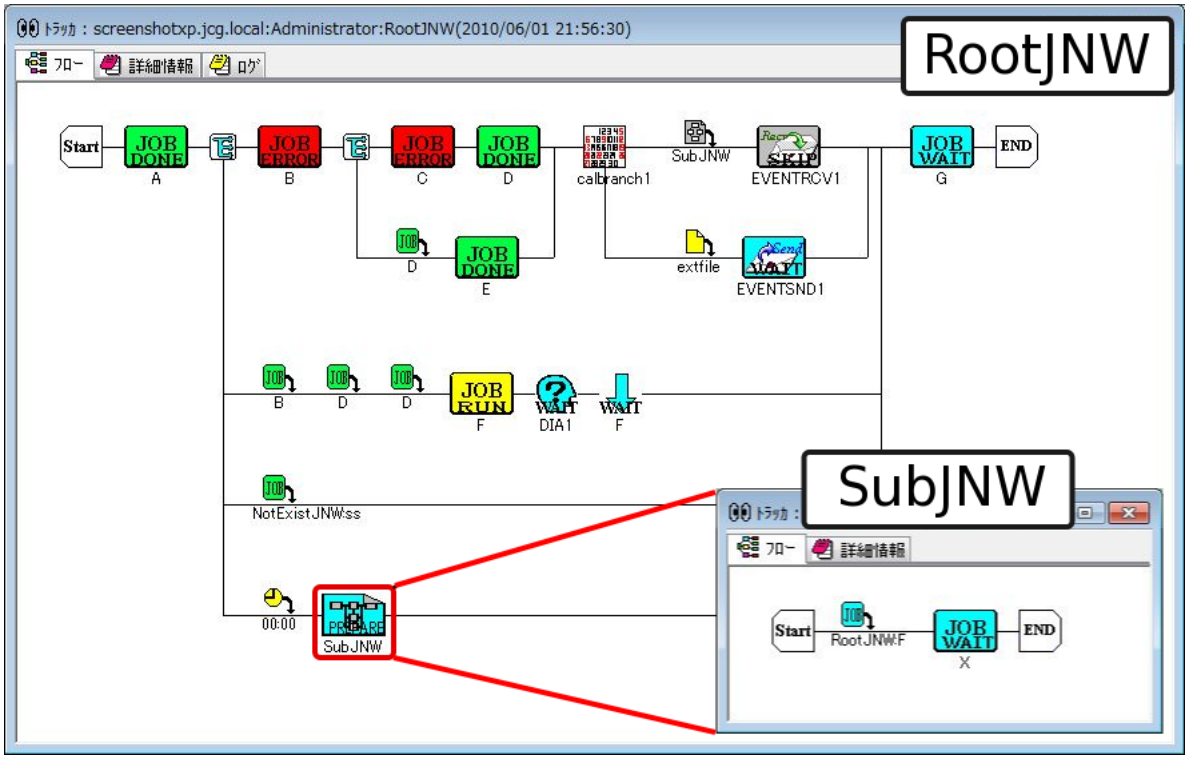


図6.77 サブジョブネットワークを含むジョブネットワークの前後関係のフロー例

図6.77「サブジョブネットワークを含むジョブネットワークの前後関係のフロー例」の RootJNW（親ジョブネットワーク）の各部品の前後関係は次のようになります。

表6.8 RootJNW（親ジョブネットワーク）の各部品の前後関係

表示対象部品(タイプ)	前関係	後関係

A（単位ジョブ）	なし	B,F,subJNW,G
B（ERPジョブ）	A	C,E,F
C（BIジョブ）	B	D
D（単位ジョブ）	C	EVENTRCV1,EVENTSND1,E,F
E（単位ジョブ）	B,D	EVENTRCV1,EVENTSND1
F（単位ジョブ）	A,B,D	DIA1,X（RootJNW:subJNW）
G（単位ジョブ）	EVENTRCV1,EVENTSND1,A,DIA1, ss（NotExistJNW）,subJNW	なし
subJNW（サブジョブネットワーク）	A	G,EVENTRCV1
EVENTRCV1（イベント受信部品）	D,E,subJNW	G
EVENTSND1（イベント送信部品）	D,E	G
DIA1（ダイアログ部品）	F	G

図6.77「サブジョブネットワークを含むジョブネットワークの前後関係のフロー例」のsubJNWの各部品の前後関係は次のようになります。

表6.9 subJNWの各部品の前後関係

表示対象部品（タイプ）	前関係	後関係
X（単位ジョブ）	F（RootJNW）,RootJNW（親ジョブネットワーク）	RootJNW（親ジョブネットワーク）

サブジョブネットワーク内の部品の「前関係」または「後関係」に親JNW（親ジョブネットワーク）が含まれる場合、表示されている親JNWをダブルクリックすると、「ジョブの名前」にはその部品が所属していたサブジョブネットワーク名が表示され、他の項目についてもそのサブジョブネットワークを対象としたものに更新されます。

次の図6.78「subJNW内部品の「前関係」と「後関係」の表示例」は、subJNW内の部品の前後関係を表しています。「前関係」に表示されている親JNWをダブルクリックすると、図6.79「親JNWをダブルクリックしたときの［前後関係表示］ダイアログの表示例」のように、subJNWを対象とした前後関係の表示に更新されます

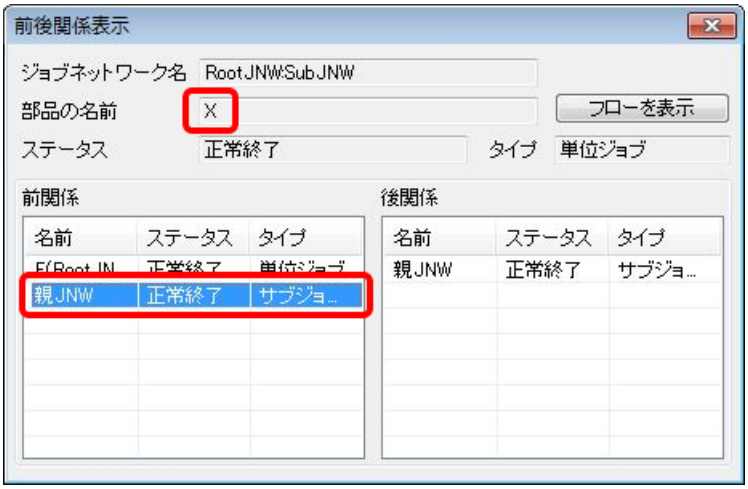


図6.78 subJNW内部品の「前関係」と「後関係」の表示例

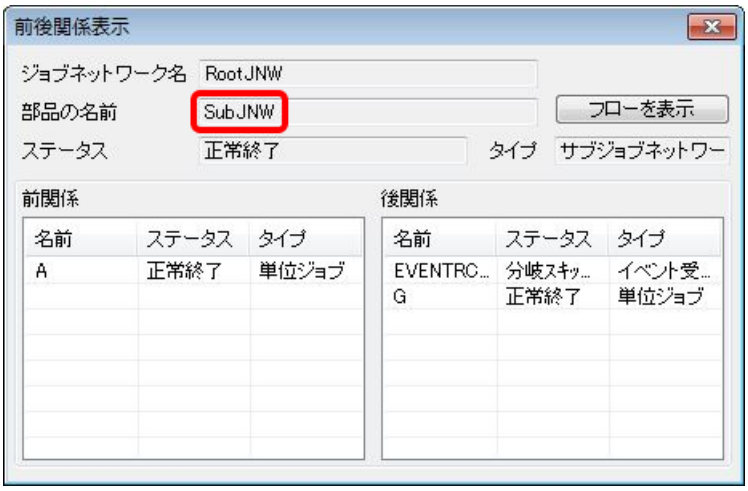


図6.79 親JNWをダブルクリックしたときの［前後関係表示］ダイアログの表示例

6.21. トラッカのスケジュール、トラッカ実績を表示する

トラッカのスケジュールや実績を日単位、時間単位で表示できます。

ユーザフレームの［スケジュール表示］タブをクリックするか、コンボボックスから［スケジュール表示@ユーザ名］を選択します。また、他のユーザのトラッカを参照できる場合にはマネージャフレームからも起動することができます。

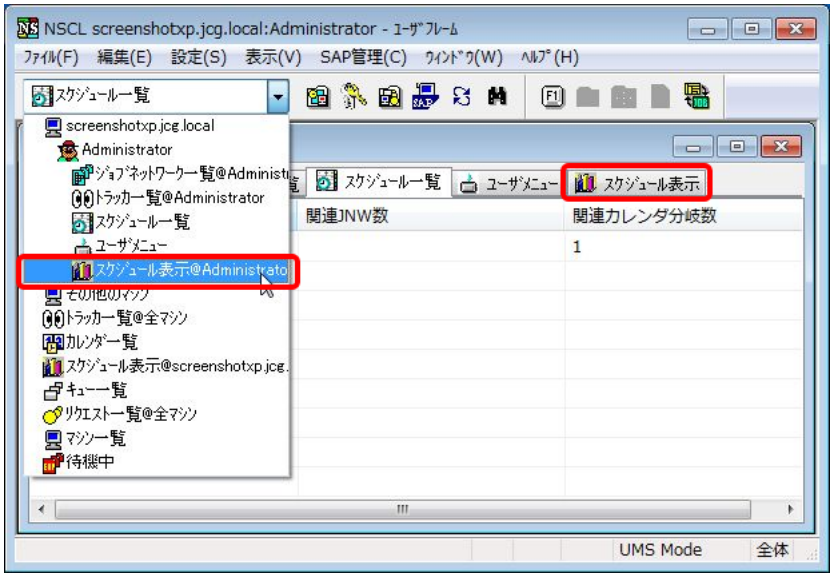


図6.80 ［スケジュール表示@ユーザ名］選択画面例

トラッカのスケジュール／実績表示には［月間スケジュール表示］、［月間トラッカ実績表示］、［日別スケジュール表示］、［日別トラッカ実績表示］、［予定実績比較表示］があります。

ツールバーにある［画面の切替］から選択するか、メニューバーの［表示］－［画面の切替］から選択することで、表示方式を切り替えることができます。

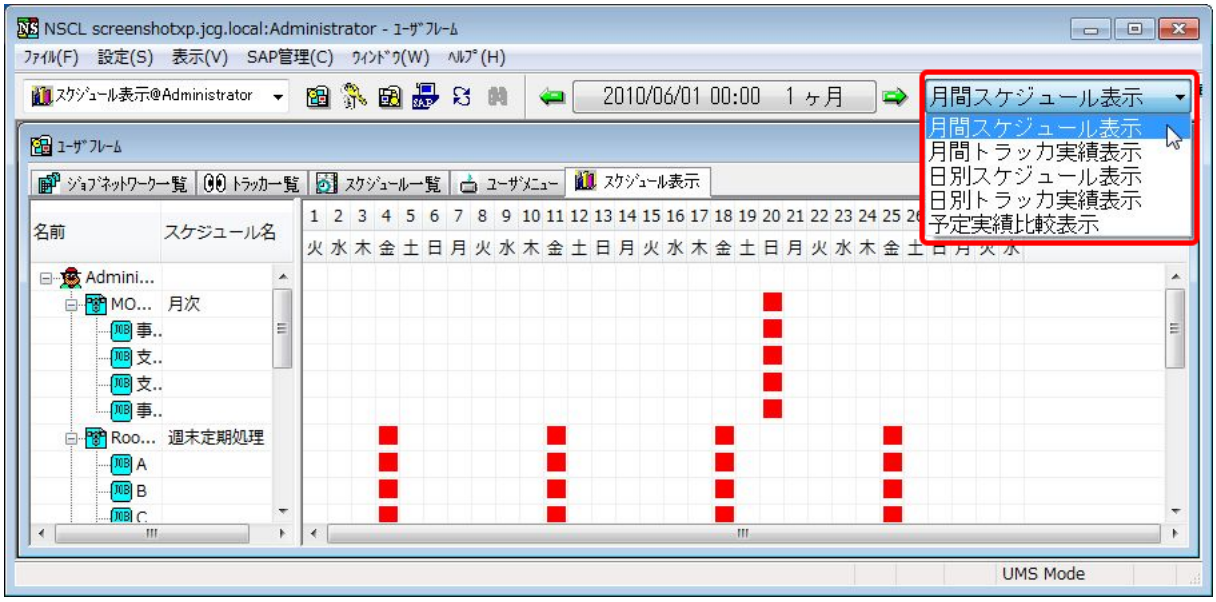


図6.81 スケジュール表示を切り替える－［画面の切替］画面例

6.21.1. 月間スケジュール表示

「予定」状態と「予定確定」状態のトラッカの単位ジョブとサブジョブネットワークについて、1ヶ月間の予定実行状況を日単位で表示します。

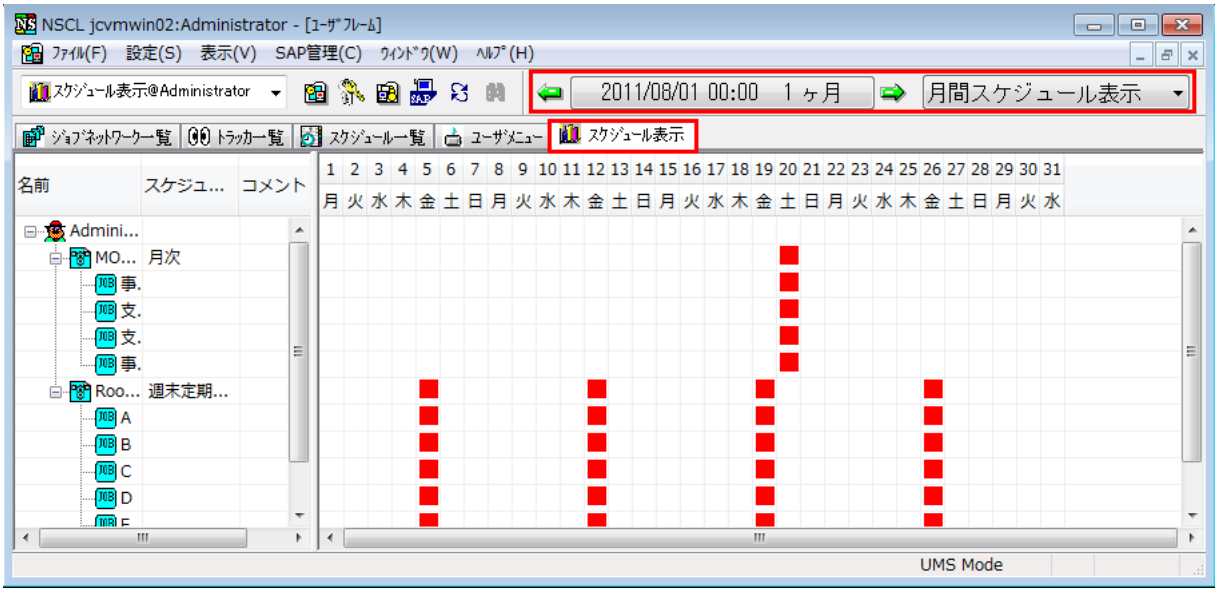


図6.82 月間スケジュール表示画面例

■左ビュー

「名前」欄に、ユーザの持つジョブネットワークをツリー構造で階層的に表示します。ジョブネットワーク内の部品は、単位ジョブとサブジョブネットワークのみ表示します。このツリー構造は展開および折りたたみを行うことが可能で、その際に右ビューのセルも連動して動きます。

ジョブネットワーク名や単位ジョブ名、サブジョブネットワーク名をダブルクリックすると［トラッカ選択］ダイアログが開きます。［トラッカ選択］ダイアログについては、「6.21.1.2 トラッカ選択ダイアログ」を参照してください。

「スケジュール名」欄に、関連しているスケジュール名を表示します。関連しているスケジュールが存在しない場合は表示しません。ジョブネットワーク名の横には、当該ジョブネットワークを関連ジョブネットワークとして設定しているスケジュール名を表示します。サブジョブネットワーク名、および単位ジョブ名の横には、ジョブネットワークフローの当該部品の直前でカレンダ分岐部品として使用されているスケジュール名を表示します。なお、予定確定状態のトラッカの場合は、スケジュール名を（　）内に表示します。

「コメント」欄に、ジョブネットワークに設定されているコメントを表示します。

■右ビュー

左ビューに展開されているジョブネットワークおよびその単位ジョブ、サブジョブネットワークの1ヶ月間の予定実行状況を表示します。表示の単位は日で、スケジュールが設定されている日には［■］が表示されます。表示する期間は［表示期間設定］ダイアログで行えます。設定方法については「6.7 トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する」を参照してください。

6.21.1.1. 月間スケジュール表示画面のフィルタリング

［スケジュール表示フィルタ設定］ダイアログでは、ユーザ名、ジョブネットワーク名、単位ジョブ名を指定して表示内容をフィルタリングすることができます。

1. ［月間スケジュール表示］画面を開いているとき、ウィンドウのツールバーにある［フィルタ設定］ボタン またはメニューバーの［表示］－［フィルタ設定］を選択します。

2. ［スケジュール表示フィルタ設定］ダイアログが表示されます。

図6.83 ［スケジュール表示フィルタ設定］ダイアログ画面例

3. ［OK］ボタンをクリックすると、表示内容がフィルタリングされます。

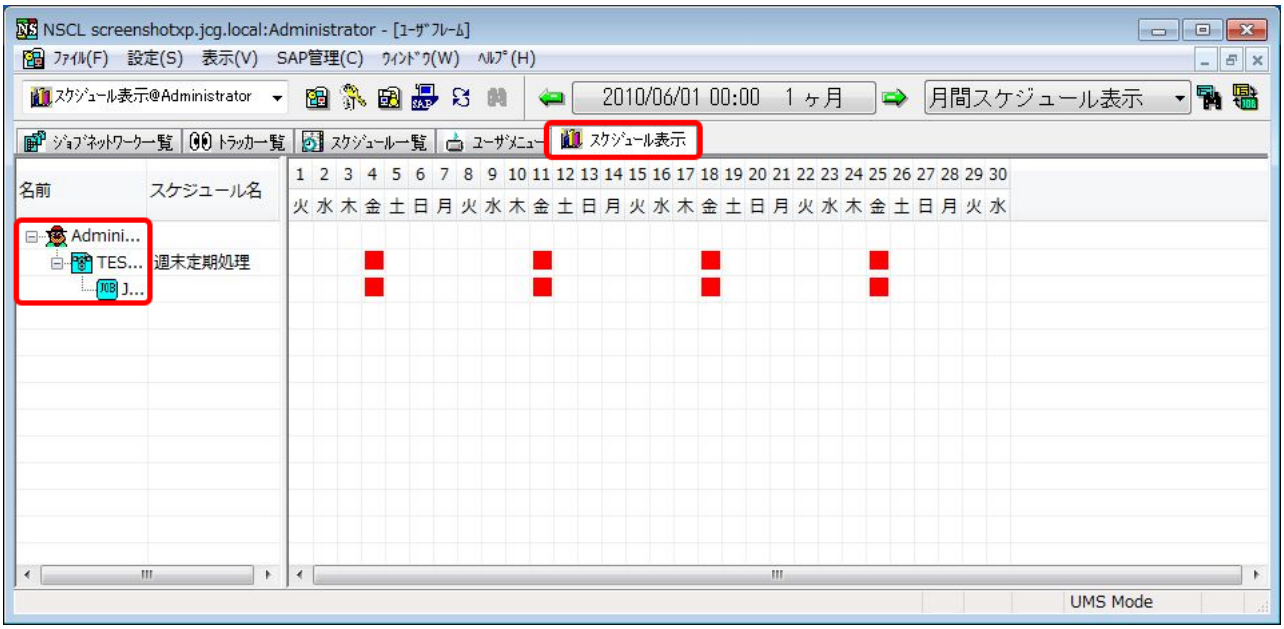


図6.84 月間スケジュール表示のフィルタリング結果画面例

［スケジュール表示フィルタ設定］ダイアログの設定項目は次のとおりです。

■ユーザ名

表示するトラッカのユーザを指定します。

■ジョブネットワーク名

表示するトラッカのジョブネットワークを指定します。

■単位ジョブ名

表示する単位ジョブを指定します。

サフィックスとして「*」が指定可能です。

6.21.1.2. トラッカ選択ダイアログ

1. ［月間スケジュール表示］画面を開いているとき、名前欄のジョブネットワーク名や単位ジョブ名、サブジョブネットワーク名をダブルクリックすると［トラッカ選択ダイアログ］が開きます。

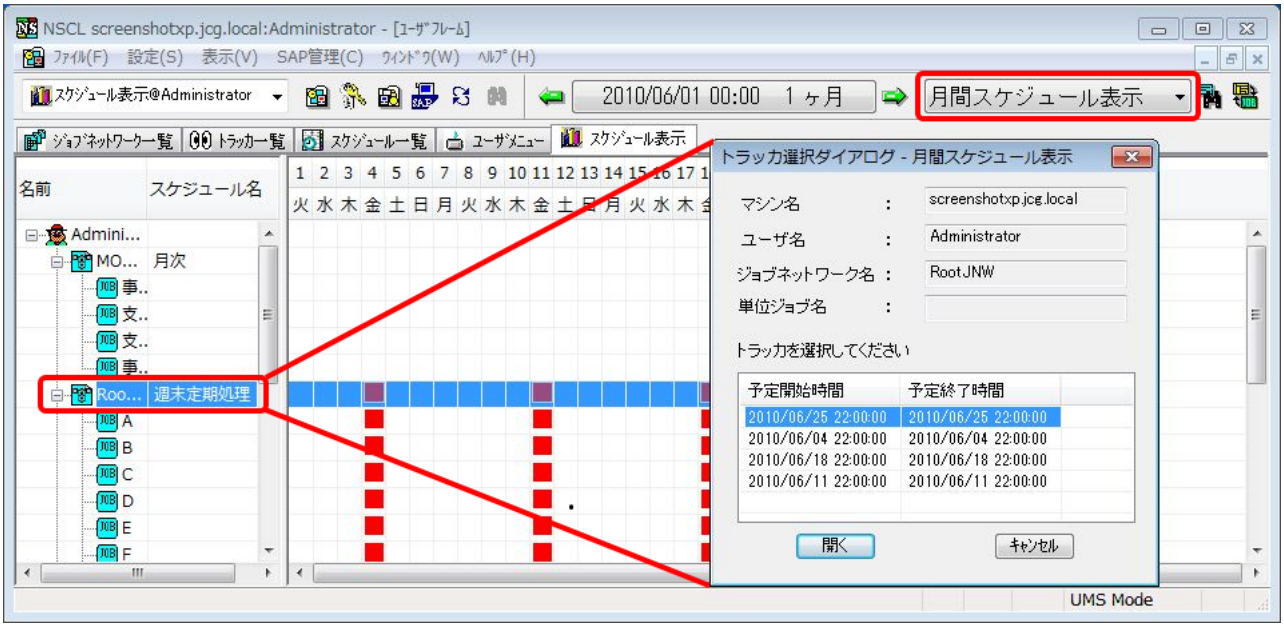


図6.85 ［トラッカ選択ダイアログ］画面例

2. 設定後、［開く］ボタンをクリックします。

   選択されたジョブネットワークまたは単位ジョブの所属するジョブネットワークのトラッカフローが表示されます。単位ジョブを選択した場合には、選択したジョブにフォーカスが移ります。

［トラッカ選択ダイアログ］の構成は次のとおりです。

■マシン名

選択された単位ジョブまたはジョブネットワークのマシン名を表示します。

■ユーザ名

選択された単位ジョブまたはジョブネットワークのユーザ名を表示します。

■ジョブネットワーク名

選択された単位ジョブまたはジョブネットワークの所属するジョブネットワーク名を表示します。

■単位ジョブ名

選択された単位ジョブまたはジョブネットワークの名前を表示します。ただし、ジョブネットワーク名をダブルクリックして開いた際には表示されません。

■トラッカ一覧

選択された単位ジョブまたはジョブネットワークのトラッカ一覧を表示します。参照したいトラッカを選択します。

6.21.2. 月間トラッカ実績表示

「終了」状態のトラッカの単位ジョブとサブジョブネットワークについて、1ヶ月間の実行状況を日単位で表示します。アーカイブ済みのトラッカについても表示されます。

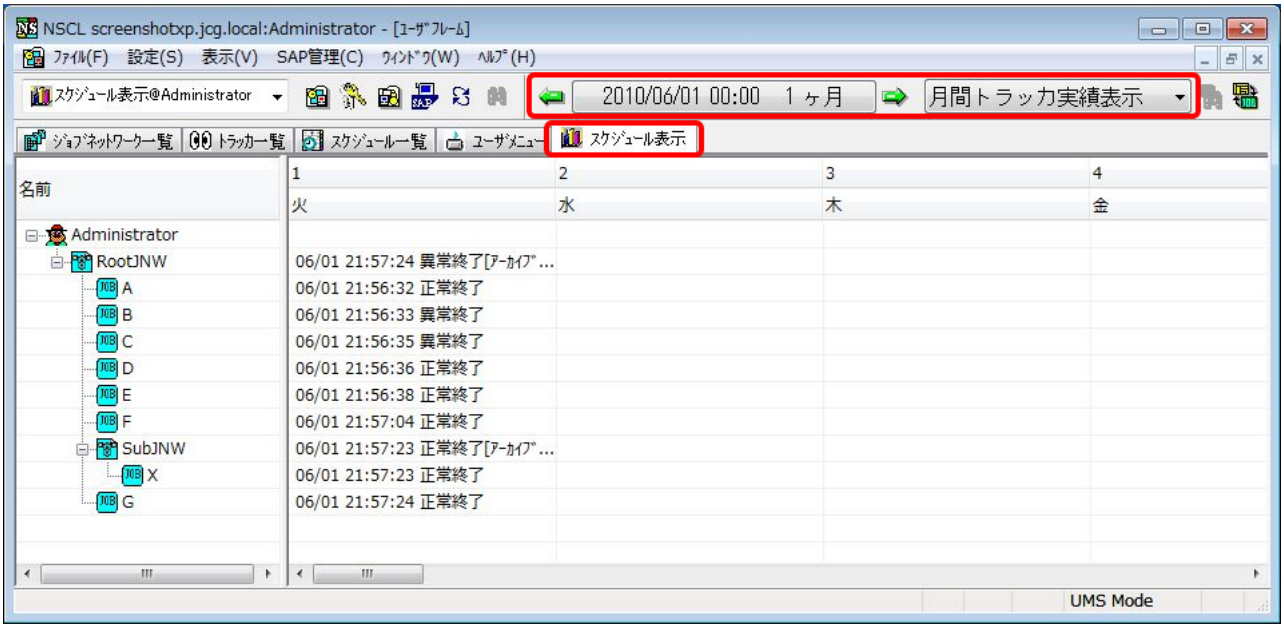


図6.86 月間トラッカ実績表示画面例

■左ビュー

ユーザの持つジョブネットワークをツリー構造で階層的に表示します。ジョブネットワーク内の部品は、単位ジョブとサブジョブネットワークのみ表示します。このツリー構造は展開と折りたたみを行うことができ、その際に右ビューのセルも連動して動きます。

ジョブネットワーク名や単位ジョブ名、サブジョブネットワーク名をダブルクリックすると［トラッカ選択ダイアログ］が開きます。

■右ビュー

左ビューに展開されているジョブネットワークおよびその単位ジョブ、サブジョブネットワークの1ヶ月間の実行状況を表示します。表示の単位は日で、セルにはトラッカの実績終了時間とステータスが表示されます。

表示する期間の変更は［表示期間設定］ダイアログで行えます。設定の方法については「6.7 トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する」を参照してください。

6.21.3. 日別スケジュール表示

「予定」状態と「予定確定」状態のトラッカの単位ジョブとサブジョブネットワークについて、1日の予定実行状況を時間単位で表示します。

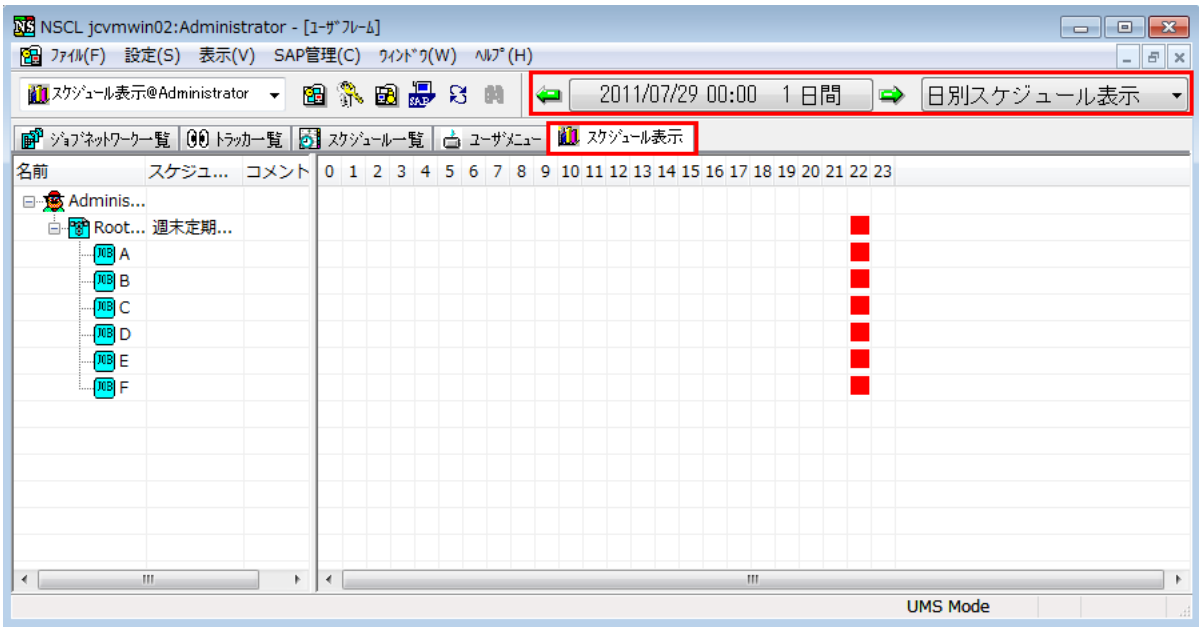


図6.87 日別スケジュール表示画面例

■左ビュー

「名前」欄に、ユーザの持つジョブネットワークをツリー構造で階層的に表示します。ジョブネットワーク内の部品は、単位ジョブとサブジョブネットワークのみ表示します。このツリー構造は展開と折りたたみを行うことが可能で、その際に右ビューのセルも連動して動きます。

ジョブネットワーク名や単位ジョブ名、サブジョブネットワーク名をダブルクリックすると［トラッカ選択ダイアログ］が開きます。

「スケジュール名」欄に、関連しているスケジュール名を表示します。関連しているスケジュールが存在しない場合は何も表示しません。ジョブネットワーク名の横には、当該ジョブネットワークを関連ジョブネットワークとして設定しているスケジュール名を表示します。サブジョブネットワーク名、および単位ジョブ名の横には、ジョブネットワークフローの当該部品の直前でカレンダ分岐部品として使用されているスケジュール名を表示します。なお、予定確定状態のトラッカの場合は、スケジュール名を（　）内に表示します。

「コメント」欄に、ジョブネットワークに設定されているコメントを表示します。

■右ビュー

左ビューに展開されているジョブネットワークおよびその単位ジョブ、サブジョブネットワークの1日の予定実行状況を表示します。表示の単位は時間で、スケジュールが設定されている時間には［■］が表示されます。

表示する期間の変更は［表示期間設定］ダイアログで行えます。設定の方法については「6.7 トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する」を参照してください。

6.21.4. 日別トラッカ実績表示

「終了」状態のトラッカの単位ジョブとサブジョブネットワークについて、1日の実行状況を時間単位で表示します。アーカイブ済みのトラッカについても表示されます。

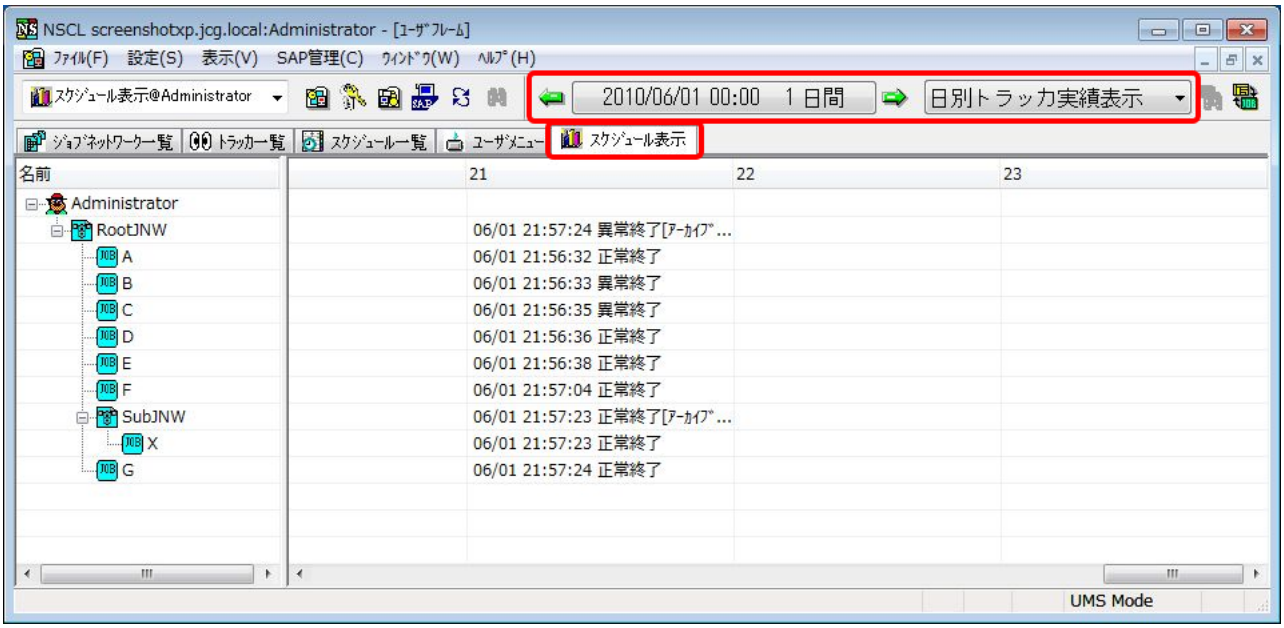


図6.88 日別トラッカ実績表示画面例

■左ビュー

ユーザの持つジョブネットワークをツリー構造で階層的に表示します。ジョブネットワーク内の部品は、単位ジョブとサブジョブネットワークのみ表示します。このツリー構造は展開と折りたたみを行うことが可能で、その際に右ビューのセルも連動して動きます。

ジョブネットワーク名や単位ジョブ名、サブジョブネットワーク名をダブルクリックすると［トラッカ選択ダイアログ］が開きます。

■右ビュー

左ビューに展開されているジョブネットワークおよびその単位ジョブ、サブジョブネットワークの1日の実行状況を表示します。表示の単位は時間で、セルにはトラッカの実績終了時間とステータスが表示されます。

表示する期間の変更は［表示期間設定］ダイアログで行えます。設定の方法については「6.7 トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する」を参照してください。

6.21.5. 予定実績比較表示

予定終了時間が指定された時間範囲内にあるトラッカの単位ジョブとサブジョブネットワークについて、予定終了時間、実績終了時間、ステータスを表示します。

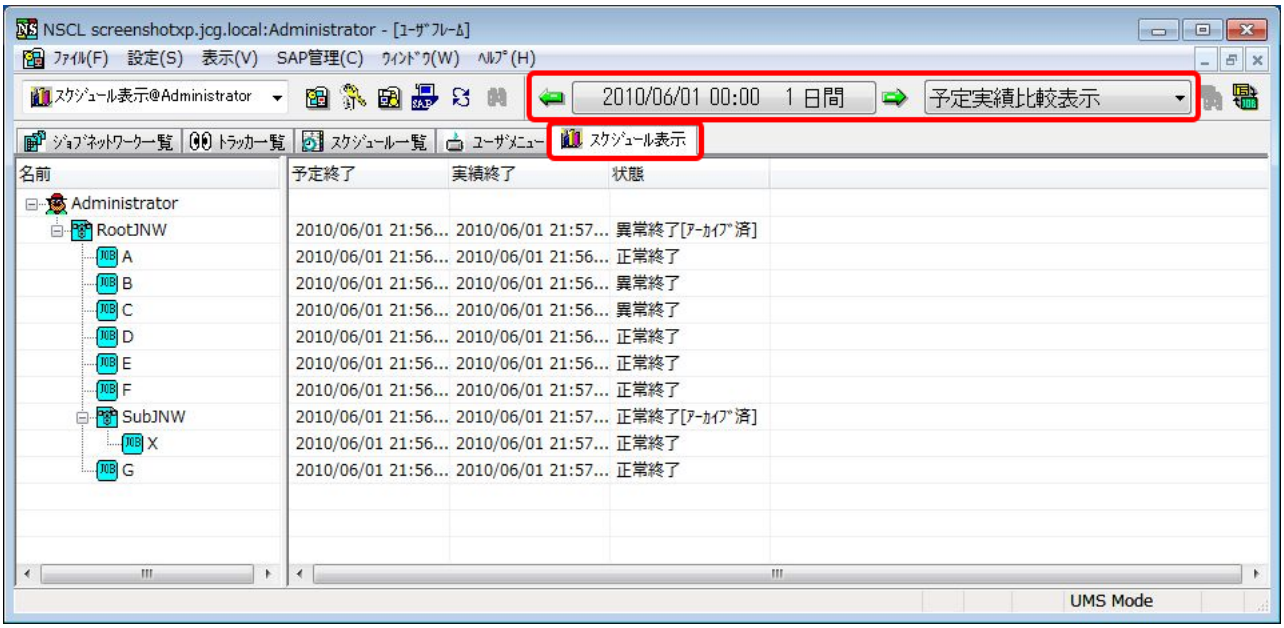


図6.89 予定実績比較表示画面例

■左ビュー

ユーザの持つジョブネットワークをツリー構造で階層的に表示します。ジョブネットワーク内の部品は、単位ジョブとサブジョブネットワークのみ表示します。このツリー構造は展開・折りたたみを行うことが可能で、その際に右ビューのセルも連動して動きます。

ジョブネットワーク名や単位ジョブ名、サブジョブネットワーク名をダブルクリックすると［トラッカ選択］ダイアログが開きます。

■右ビュー

左ビューに展開されているジョブネットワークおよびその単位ジョブ、サブジョブネットワークの予定終了時間、実績終了時間、ステータスを表示します。

表示する期間は［表示期間設定］ダイアログで行えます。設定の方法については「6.6 トラッカ一覧をマシンごとにソートして表示する」を参照してください。

6.21.6. スケジュール／実績表示を出力する

各スケジュールまたは実績表示の画面を印刷、またはCSV形式でファイル出力ができます。

1. メニューバーの［ファイル］から［印刷］を選択します。

2. ［スケジュール印刷設定］ダイアログが表示されます。

図6.90 ［スケジュール印刷設定］ダイアログ画面例

3. 設定後、［印刷］ボタンまたは［ファイルへ出力］ボタンをクリックします。

［スケジュール印刷設定］ダイアログの構成は次のとおりです。

■［表示画面］

現在表示しているトラッカのスケジュール／実績表示画面の種類です。

■［出力範囲］

スケジュール／実績表示画面の右ビューの表示期間です。

出力範囲を変更したい場合は、［期間設定］ボタンで変更します。変更の方法については「6.7 トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する」を参照してください。

■［ファイルへ出力］ボタン

クリックすると［名前を付けて保存］ダイアログが表示されますので、保存したい場所とファイル名を指定して保存します。

現在表示されているスケジュール／実績画面をCSV形式でファイルに出力します。

■［印刷］ボタン

クリックすると、現在表示されているスケジュール／実績画面を印刷します。

■［プレビュー］ボタン

現在表示されているスケジュール／実績の印刷画面をプレビューします。

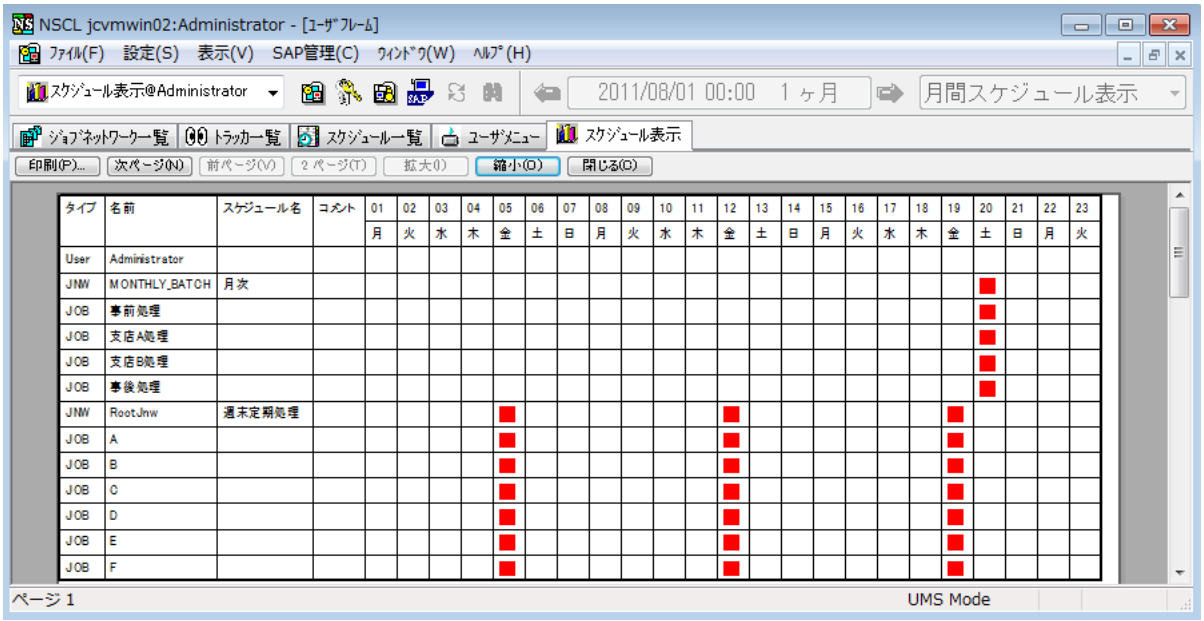


図6.91 スケジュール／実績の印刷画面をプレビュー画面例

■［キャンセル］ボタン

［スケジュール印刷設定］ダイアログを閉じます。

6.21.6.1. 月間スケジュールをCSVファイルに出力する

CSV形式でファイルへ出力した際のフォーマットは次のとおりです。

ヘッダ情報は2行出力されます。

1行目：	タイプ,名前,スケジュール名,コメント,1,2,3,…,29,30

2行目：	,,,,日,月,火,水,木,金,土,…

ヘッダ情報の内容は次のとおりです。

■タイプ

ジョブネットワーク（JNW）、単位ジョブ（JOB）、サブジョブネットワーク（SubJNW）のタイプを表します。

■名前

ジョブの名前を表します。

「マシン名：ユーザ名：ジョブネットワーク名：…」のように最上位の階層からコロン「：」でつないで表示されます。

■コメント

ジョブネットワークに設定されているコメントを表します。

■1～30、日～土

1行目の数字は日付を、2行目は曜日を表していて、それぞれが1対1で対応しています。

表示開始日を1日以外に設定している場合には、その日から当月末まで出力されたあとに翌月1日からの出力が続きます。

例えば9/20を表示開始日にした場合には、次のように出力されます。

```
20,21,…,29,30,1,2,3,…,18,19
```

データ部分の出力は、スケジュールされている日にはアスタリスク「*」が表示されます。

スケジュールがない場合には、データ部分の出力はありません。

データの出力例としては次のようになります。

```
JNW,jchp1:administrator:JNW1,SCH1,comment,,*,*,…
JOB,jchp1:administrator:JNW1:JOB1,,,,*,*,…
```

6.21.6.2. 月間トラッカ実績をCSVファイルに出力する

CSV形式でファイルへ出力した際のフォーマットは次のとおりです。

ヘッダ情報は2行出力されます。

1行目：	タイプ,名前,1,2,3,…,29,30
2行目：	,,日,月,火,水,木,金,土,…

ヘッダ情報の内容は次のとおりです。

■タイプ

ジョブネットワーク（JNW）、単位ジョブ（JOB）、サブジョブネットワーク（SubJNW）のタイプを表します。

■名前

ジョブの名前を表します。

「マシン名：ユーザ名：ジョブネットワーク名：…」のように最上位の階層からコロン「：」でつないで表示されます。

■1～30、日～土

1行目の数字は日付を、2行目は曜日を表していて、それぞれが1対1で対応しています。

表示開始日を1日以外に設定している場合には、その日から当月末まで出力されたあとに翌月1日からの出力が続きます。

例えば9/20を表示開始日にした場合には、次のように出力されます。

```
20,21,…,29,30,1,2,3,…,18,19
```

データ部分の出力は、実行した実績のある日には「実績終了時間（MM/DD　hh:mm:ss）ステータス」の形式で表示されます。

実績がない場合、データ部分の出力はありません。

データの出力例としては次のようになります。

```
JNW,jchp1:administrator:JNW1,,09/02 13:00:10 正常終了,09/03 13:01:25 正常終了,
…,,,09/02 14:00:10 正常終了,09/03 14:01:15 正常終了,…
JOB,jchp1:administrator:JNW:JOB1,,09/02 13:00:02 正常終了,09/03 13:01:15 正常終了,
…,,,09/02 14:00:01 正常終了,09/03 14:01:05 正常終了,…
```

6.21.6.3. 日別スケジュールをCSVファイルに出力する

ヘッダ情報は1行出力されます。

1行目：	タイプ,名前,スケジュール名,コメント,0,1,2,3,…,22,23

ヘッダ情報の内容は次のとおりです。

■タイプ

ジョブネットワーク（JNW）、単位ジョブ（JOB）、サブジョブネットワーク（SubJNW）のタイプを表します。

■名前

ジョブの名前を表します。

「マシン名:ユーザ名:ジョブネットワーク名:…」のように最上位の階層からコロン「:」でつないで表示されます。

■コメント

ジョブネットワークに設定されているコメントを表します。

■0～23

時間を表します。

表示開始時間を0時以外に設定している場合には、その時間から23時まで出力されたあとに翌日0時からの出力が続きます。

例えば18時を表示開始時間にした場合には次のように出力されます。

```
18,19,…,22,23,0,1,2,…,16,17
```

データ部分の出力は、スケジュールされている時間にはアスタリスク「*」が表示されます。

スケジュールがない場合、データ部分の出力はありません。

データの出力例としては次のようになります。

```
JNW,jchp1:administrator:JNW1,SCH1,comment,,*,*,…
```

6.21.6.4. 日別トラッカ実績をCSVファイルに出力する

ヘッダ情報は1行出力されます。

1行目：	タイプ,名前,0,1,2,3,…,22,23

ヘッダ情報の内容は次のとおりです。

■タイプ

ジョブネットワーク（JNW）、単位ジョブ（JOB）、サブジョブネットワーク（SubJNW）のタイプを表します。

■名前

ジョブの名前を表します。

「マシン名:ユーザ名:ジョブネットワーク名:…」のように最上位の階層からコロン「:」でつないで表示されます。

■0～23

時間を表します。

表示開始時間を0時以外に設定している場合には、その時間から23時まで出力されたあとに翌日0時からの出力が続きます。

例えば18時を表示開始時間にした場合には次のように出力されます。

```
18,19,…,22,23,0,1,2,…,16,17
```

データ部分の出力は、実行した実績のある時間には「実績終了時間（MM/DD　hh:mm:ss）ステータス」の形式で表示されます。

実績がない場合、データ部分の出力はありません。

データの出力例としては次のようになります。

```
JNW,jchp1:administrator:JNW1,,09/21 01:00:40 正常終了,…,09/21 14:20:15 異常終了,,
```

6.21.6.5. 予定実績比較をCSVファイルに出力する

ヘッダ情報は1行出力されます。

タイプ、名前、予定終了、実績終了、状態

■タイプ

ジョブネットワーク（JNW）、単位ジョブ（JOB）、サブジョブネットワーク（SubJNW）のタイプを表します。

■名前

ジョブの名前を表します。

「マシン名:ユーザ名:JNW名:…」のように最上位の階層からコロン「:」でつないで表示されます。スケジュールや実績がない場合はどちらの形式でも空白になります。

■予定終了時間、実績終了時間

予定終了時間および実績終了時間を表します。

時刻表示のフォーマットはYYYY/MM/DD hh:mm:ssです。

■状態

終了ステータスを表します。

データの出力例としては次のようになります。

```
JNW,jchp1:administrator:JNW1,2005/07/10 12:10:42,2005/07/10 12:10:50,正常終了
JOB,jchp1:administrator:JNW1:JOB1,2005/07/10 12:10:20,2005/07/10 12:10:24,正常終了
SubJNW,jchp1:administrator:JNW1:JNW2,2005/07/10 12:10:38,2005/07/10 12:10:45,正常終了
```

同じジョブネットワークが複数回実行された場合、2回目以降の「タイプ」と「名前」の出力は省略されます。出力が省略された場合、これは直前のデータと同じ「タイプ」と「名前」を持つことを意味します。

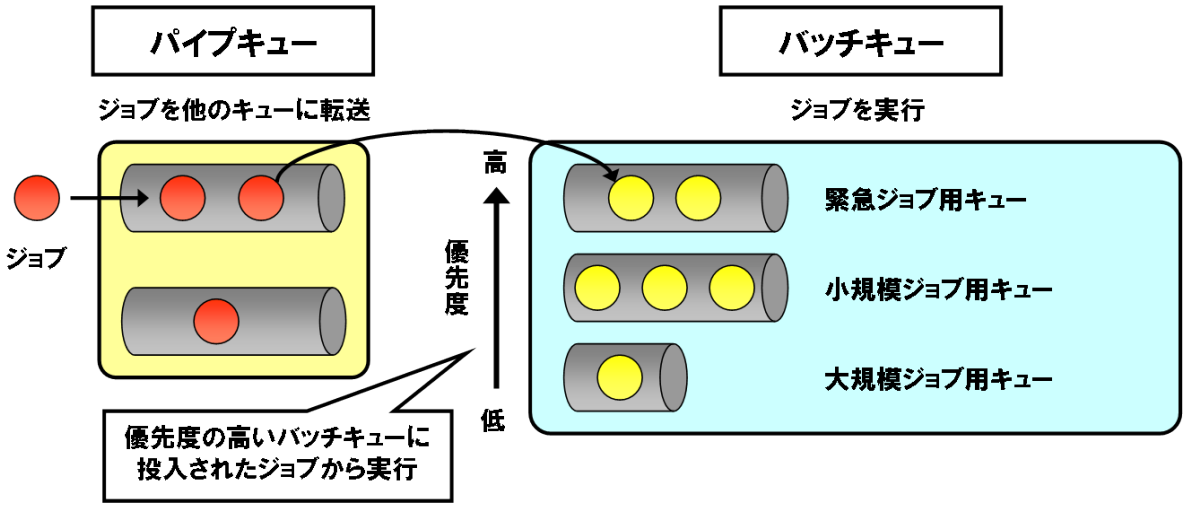
第7章 ネットワークキューイングシステム（NQS）の利用方法

ネットワークキューイングシステム（NQS）は、JobCenterが受け付けたリクエストをキュー単位でためておき、各キューの優先度に従って順番に実行します。JobCenterでは、NQSのバッチ処理を拡張して使用しています。

NQSでは2種類のキューを用いて、バッチ処理を行います。

キューには、同時実行可能数、投入可能ユーザ、資源制限、キュー間実行優先順位などの属性を定義できますので、ネットワーク上の負荷分散を自動的に行えます。

通常使用するキューは、デフォルトで作成されます。



Windows　OSでアカウントのパスワードを変更した場合、「サーバの環境設定」の「ユーザ」画面でパスワードの状態をチェックしてください。表示されているユーザについて［OK］になっていない場合は、CL/Winでそのユーザで新しいパスワードを指定してMG/SVに接続し直すか、「ユーザ」画面でパスワードを登録し直して［OK］にしてください。　［OK］になっていないままジョブリクエストを実行しようと、認証失敗によりバッチキューが停止してジョブが実行できなくなります。(UNIXの場合はパスワード再設定は不要ですが、OSのアカウントが有効な状態を常に維持してください)

図7.1 バッチ処理のイメージ

7.1. マシン一覧へマシンを追加する

JobCenterネットワークの環境構築をすることでネットワーク上の複数のマシンを集中して管理することができ、キューやリクエストなどの状態監視、運用操作が行えます。

パイプキューを使ってジョブを転送しますので、ネットワーク上にあるジョブの転送先となるの他マシンのマシンIDの定義を行ったあと、ジョブ投入側のユーザとジョブ実行側のユーザの関連付けを行う必要があります。これをユーザマッピングと呼びますが、そのためにはまずマシン一覧へマシンを追加する必要があります。

ここでは、標準リモートマシン構成によるマシン一覧へのマシン追加および削除の方法を説明します。詳細な設定方法、およびマシングループ構成については、<環境構築ガイド>の3章「JobCenterネットワーク環境構築」 を参照してください。

■マシン一覧に表示されるマシンアイコンについて、同一マシンが「ホスト名のみ」と「FQDN」の2通りでアイコンが2個表示される場合があります。これはセットアップやマシングループへのマシン追加の際に、FQDNで認識されるマシンについては自動的にホスト名のみの「エイリアス名」を別名として設定するためです。

エイリアス名が不要な場合は、CL/Winからではなくnmapmgrコマンドで削除することができます。「JobCenter コマンドリファレンス 3.12 nmapmgr (3)サブコマンド」の「Delete Name $alias」を参照してください。

■マシン一覧に追加したマシンアイコン(他マシン)のホスト名やクラスタサイト名変更を行う場合は、事前にマシン一覧から削除してから変更してください。そして変更が終わったマシンを改めてマシン一覧に追加するようにしてください。その後、ユーザマッピングの再設定、ジョブネットワークの投入先キューの再設定やパイプキューの転送先設定の見直しをして下さい。

なおIPアドレスの変更だけであれば、マシン一覧の設定変更は不要です。(変更したマシン上のLicenseManagerコードワード再登録は別途必要です)

7.1.1. マシン一覧へマシンを追加する

1. 管理者権限のアカウント（UMS　Mode）でログインし、マネージャフレームの［マシン一覧］を表示します。

2. ［マシン一覧］ウィンドウ上で右クリックをしたときのポップアップメニューから［新規作成］を選択するか、メニューバーの［ファイル］－［新規作成］を選択します。

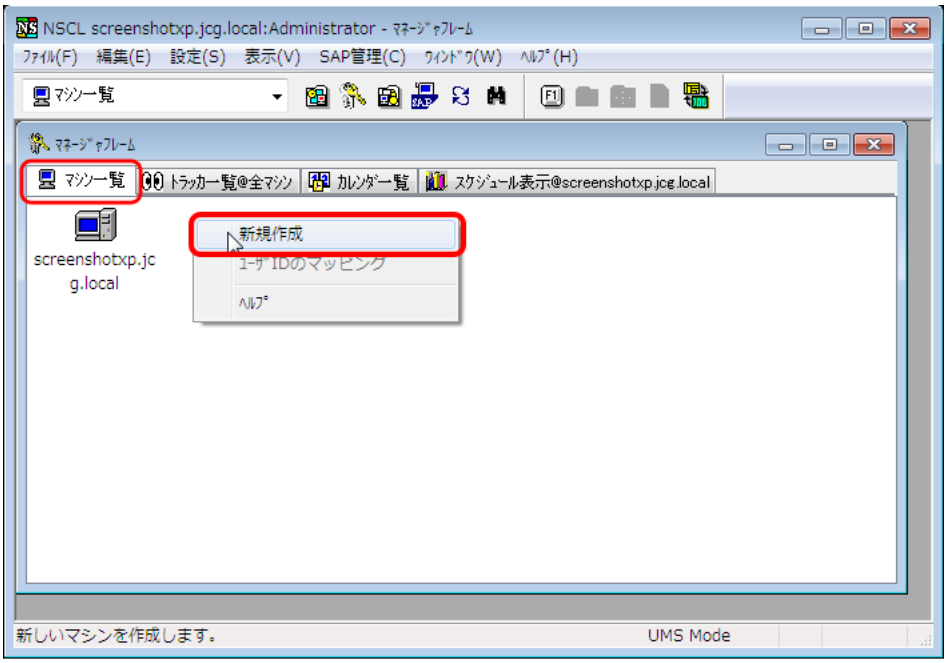


図7.2 マシン一覧へのマシン追加画面例（標準リモートマシン構成）

3. ［マシンの追加］ダイアログが表示されますので、追加するマシンのホスト名を入力します。

図7.3 ［マシンの追加］ダイアログ画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

5. マネージャフレームの［マシン一覧］ウィンドウに追加されたマシンが表示されます。

6. ユーザマッピングの設定を行うマシンを選択し、右クリックメニューから[ユーザIDのマッピング]を選択します。

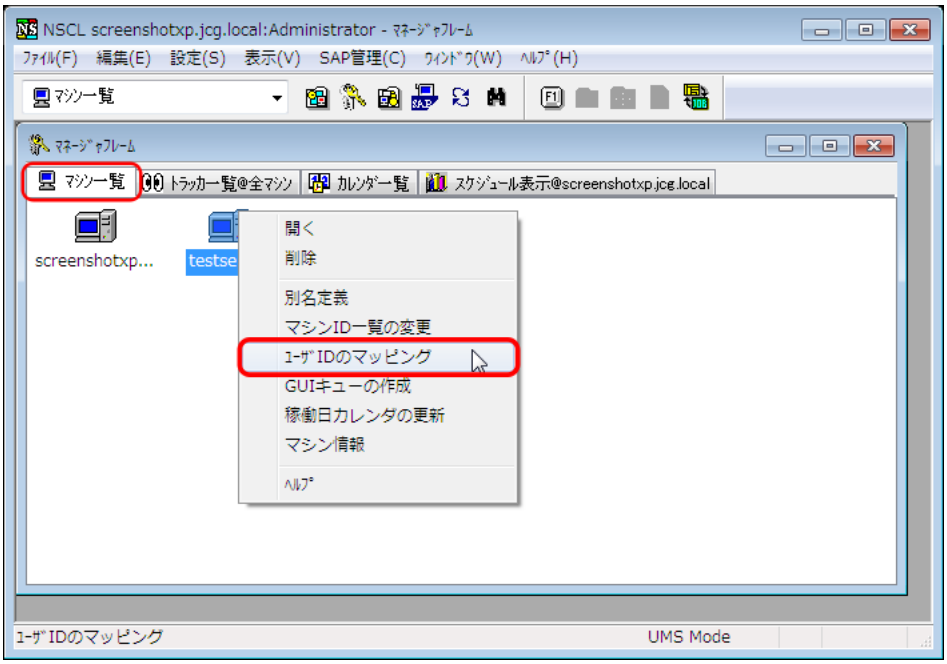


図7.4 ユーザIDのマッピングの設定画面例（標準リモートマシン構成）

7. ［ユーザマッピングの設定］ダイアログが表示されます。転送元マシンのマシンとユーザおよび転送先マシンのマシンとユーザを一覧から選択します。

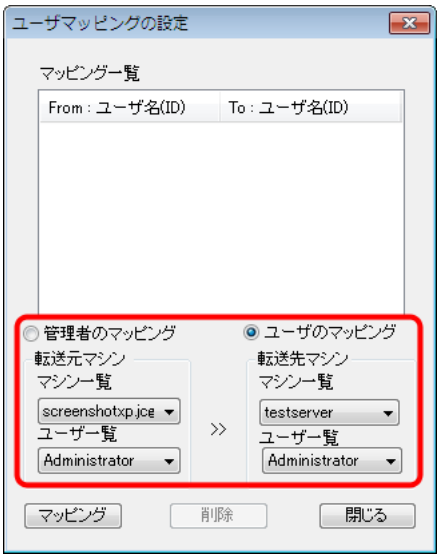


図7.5 ［ユーザマッピング］ダイアログ画面例

転送先マシンがWindowsの場合、ユーザ一覧にはそのWindows版JobCenter MGまたはSVに登録済みのユーザか、CL/Winで接続したことがあるユーザのみが表示されます。ユーザ登録の詳細については<環境構築ガイド>の「12.4 ユーザの設定」を参照してください。

転送先マシンがUNIXの場合はOSに登録されている全てのユーザが表示されます。

8. 設定後、［マッピング］ボタンをクリックして、マシン一覧へのマシンの追加を終了します。

7.1.2. マシン一覧からマシンの削除をする

1. マシンを追加するときの操作と同様に、［マシン一覧］ウィンドウを表示します。

2. 削除したいマシンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから［削除］を選択するか、あるいはメニューバーの［ファイル］－［削除］を選択します。

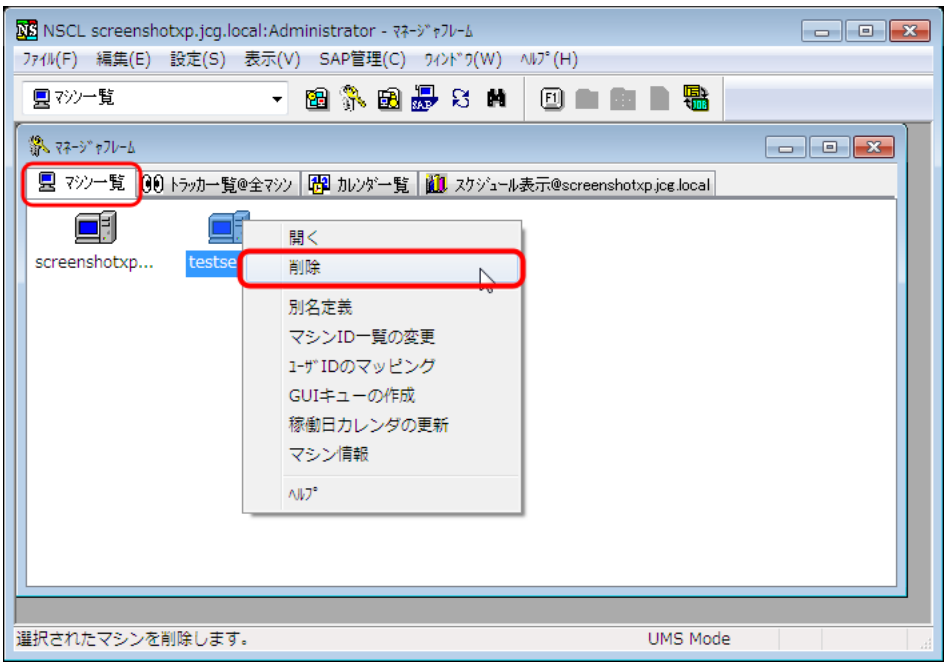


図7.6 マシンの削除画面例（標準リモートマシン構成）

3. ［マシン一覧］ウィンドウからマシンが削除されます。マシンが削除されると同時に、そのマシンのすべての別名が削除されます。

7.1.3. マシン一覧画面の表示形式の切替

マシン一覧画面では、画面の表示形式をアイコン表示と詳細表示の２つの形式で表示できます。詳細表示の場合には、各項目によるマシンの並び替えも行なえます。

マシン一覧画面の表示形式の切替は、ツールバーのアイコンまたはメニューバーの[表示]の[詳細]、[アイコン]のメニューの選択により行なえます。

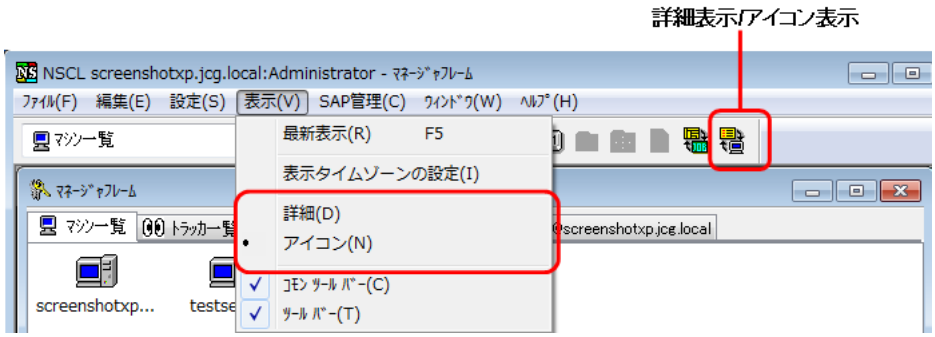


図7.7 ツールバーのアイコン及びメニューバーの[表示]のメニュー

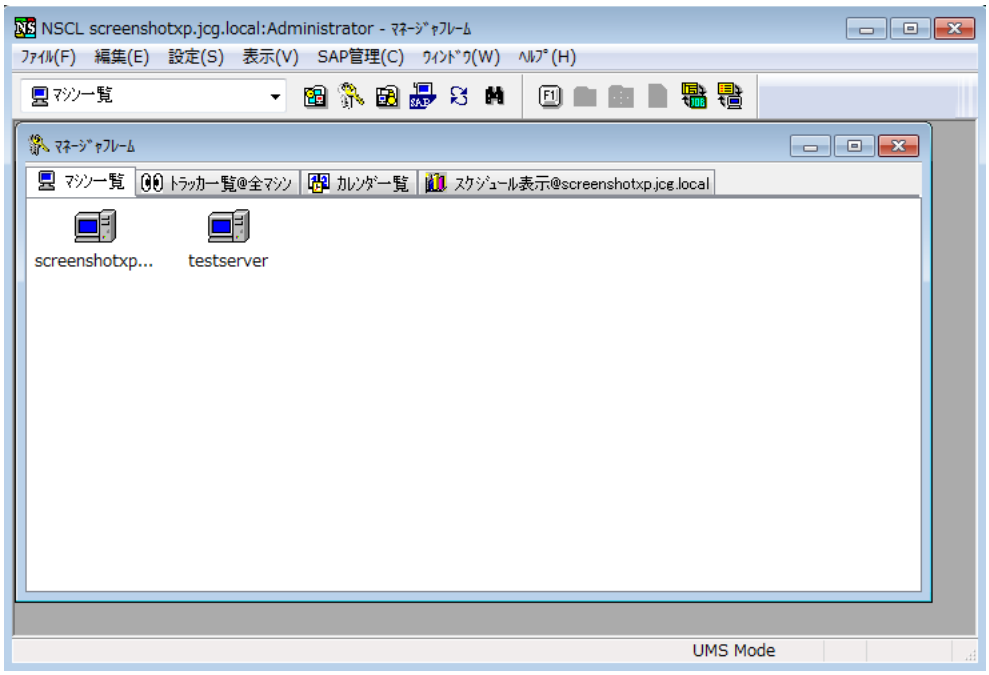


図7.8 マシン一覧のアイコン形式の画面例

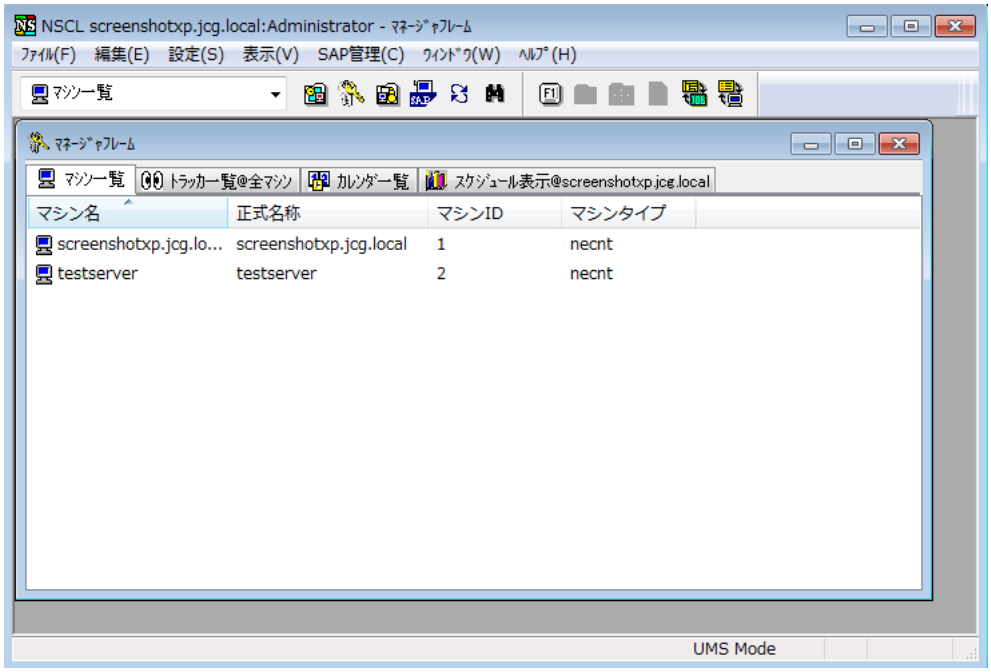


図7.9 マシン一覧の詳細形式の画面例

7.2. デフォルトで作成されるキュー

通常、JobCenterをインストール・セットアップした際にはデフォルトで以下のキューが自動作成されます。デフォルトで作成されるキューは図7.10「デフォルトで作成されるキュー」および表7.1「デフォルトで作成されるキューの初期設定一覧」のとおりです。

R12.8以降、クラスタ構成でcjcmksiteによりクラスタサイトを構築した場合でも、クラスタサイトにデフォルトでキューが自動作成されるようになりました。

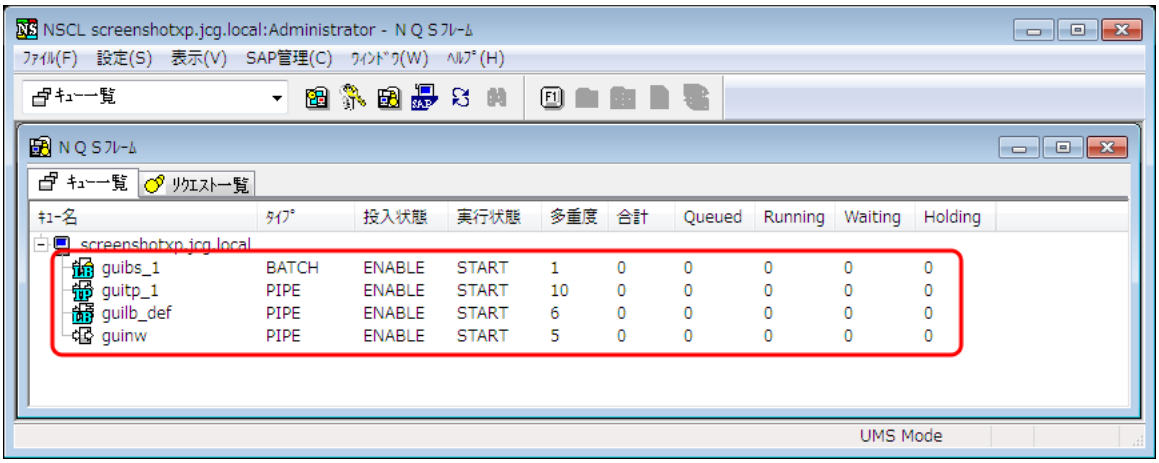


図7.10 デフォルトで作成されるキュー

表7.1 デフォルトで作成されるキューの初期設定一覧

キュー名	属　性	役　割	初期設定値
guibs_1	負荷分散バッチキュー	デマンドデリバリ方式で負荷分散パイプキューからジョブリクエストを受け取って実行します。	優先度 10 多重度　1
guinw	パイプキュー	他のマシンにジョブリクエストを転送する自由転送キューです。(投入先としてリモートマシン上のキューを直接指定すると、暗黙のうちにこのキューを経由して転送されます)	優先度 10 多重度　5
guitp_1	透過型パイプキュー	高速かつ低負荷で、ジョブリクエストをローカルのバッチキューに転送します。	優先度 10 多重度 10 転送先 guibs_1
guilb_def	負荷分散パイプキュー	負荷分散を行うときに有効です。初期設定ではデフォルトの投入先キューとして設定されています。	優先度 10 多重度　6 転送先 guitp_1
DefaultNetQue (UNIX版のみ)	ネットワークキュー	ジョブリクエスト実行結果の返却転送用キューでqmgrでのみ参照・制御可能です。(CL/Winでは表示不可。このキューが停止すると単位ジョブが実行中のままになりますので注意してください)	多重度 50

初期設定では、ジョブリクエストはguilb_def → guitp_1 → guibs_1 の順番でキューに投入・転送・実行されます。

初期設定ではバッチキューguibs_1の多重度の値が1に設定されていますので、同時に複数のジョブリクエストの実行はできず1つずつ順番に処理されるため、あとで投入されたジョブリクエストは実行待ちになる場合があります。

必要に応じてguibs_1の多重度の値を2以上に変更してください。

7.3. バッチキューを作成する

1. NQSフレームにおいて、マシンを選択します。

2. メニューバーの［ファイル］－［新規作成］－［バッチキュー］を選択するか、あるいはマシンまたはキューを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから［追加］－［バッチキュー］を選択します。

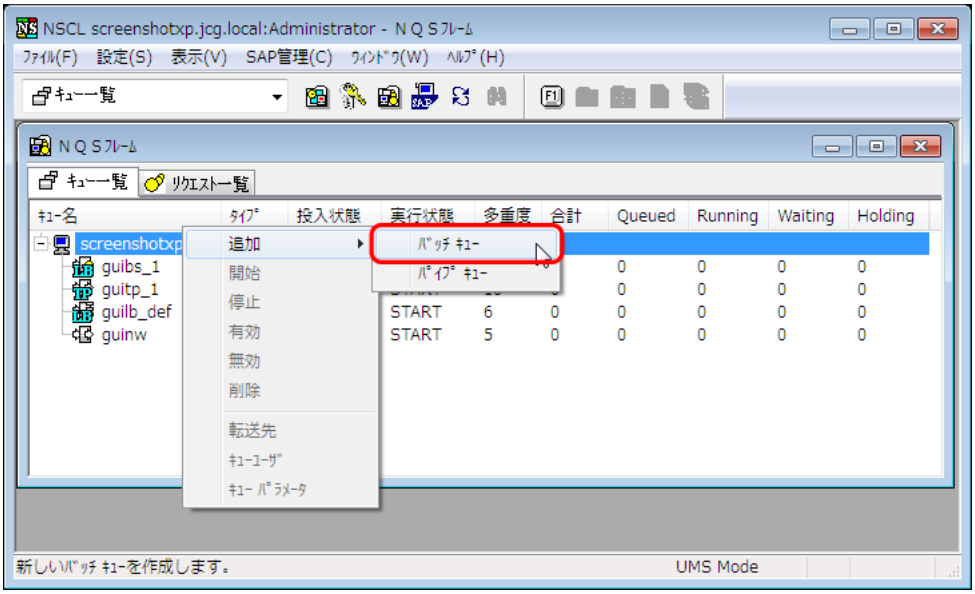


図7.11 バッチキューの新規作成画面例

3. ［バッチキューの追加］ダイアログが表示されます。キュー名を入力します。

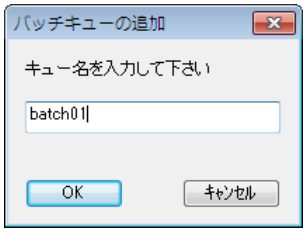


図7.12 バッチキュー名設定画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックすると、作成したバッチキューが追加されます。

7.4. バッチキューのパラメータを設定する

1. パラメータを設定するバッチキューを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから［キューパラメータ］を選択します。

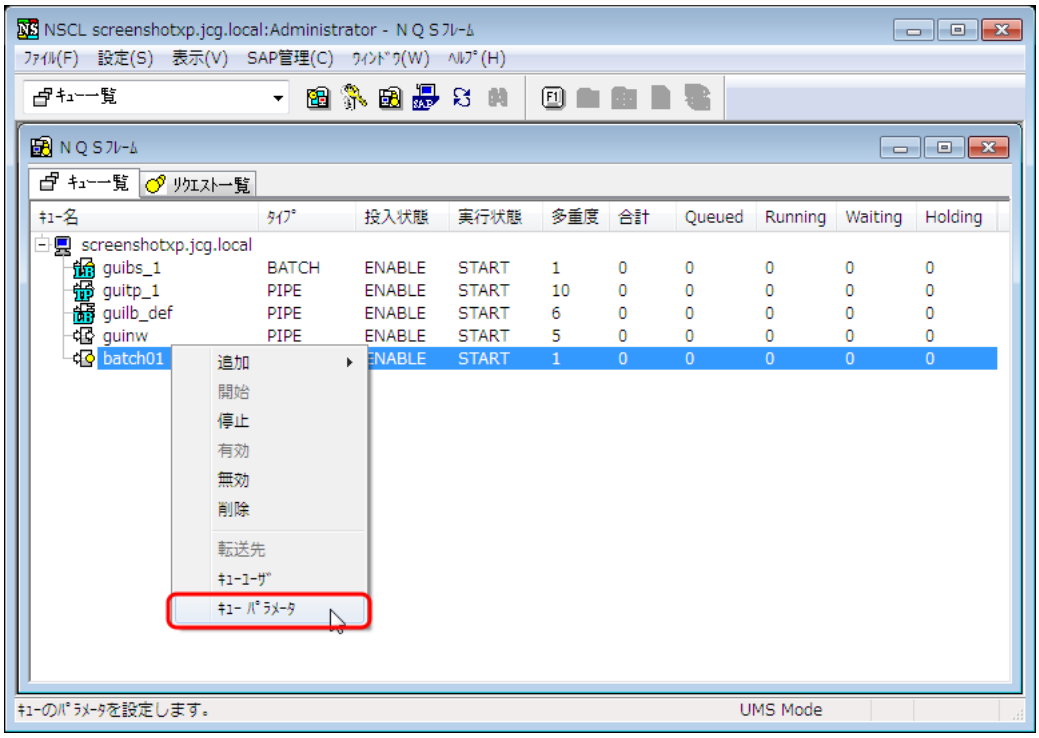


図7.13 バッチキューの［キューパラメータ］選択画面例

2. ［バッチキューパラメータ］ダイアログが表示されますので、バッチキューの設定を行います。

図7.14 バッチキューパラメータの設定画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

CL/Winで設定できるキューパラメータは一部のものに限られます。上記以外のキューパラメータ、およびNQSグローバルパラメータについては、qmgrコマンドで設定します。

7.5. パイプキューを作成する

1. NQSフレームにおいて、マシンを選択します。

2. メニューバーの［ファイル］－［新規作成］－［パイプキュー］を選択するか、あるいはマシンまたはキューを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから［追加］－［パイプキュー］を選択します。

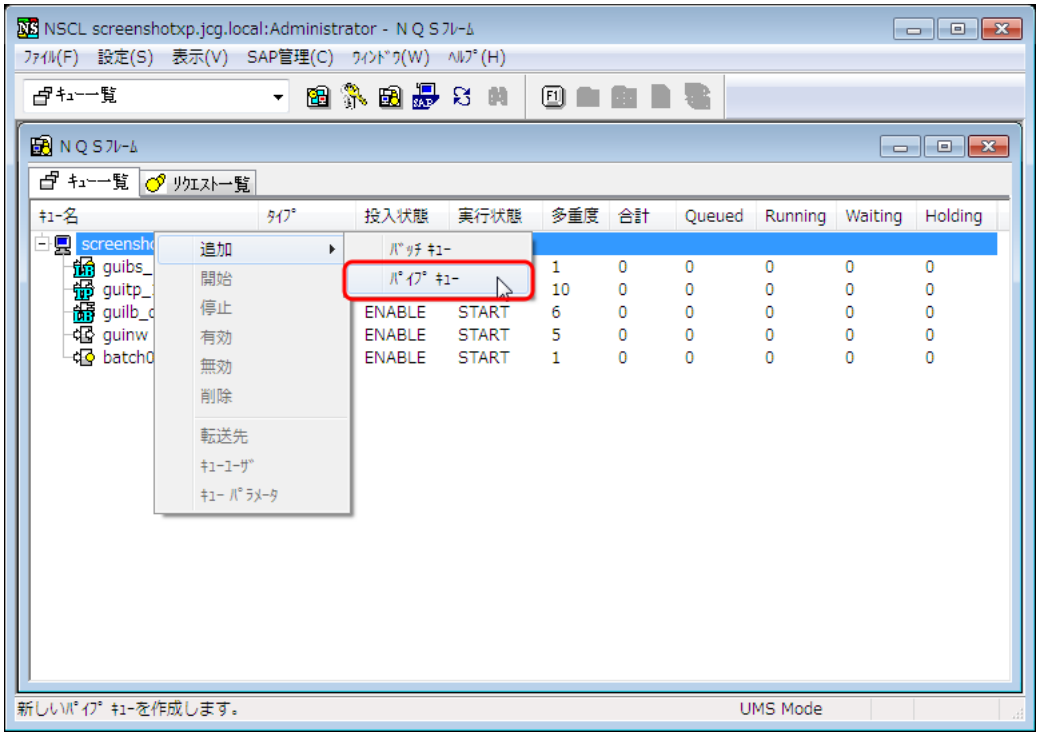


図7.15 パイプキュー新規作成画面例

3. ［パイプキューの追加］ダイアログが表示されますので、キュー名を入力します。

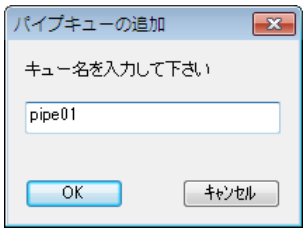


図7.16 パイプキュー名設定画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックすると、作成したパイプキューが追加されます。

7.6. パイプキューのパラメータを設定する

1. パラメータを設定するパイプキューを選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［キューパラメータ］を選択します。

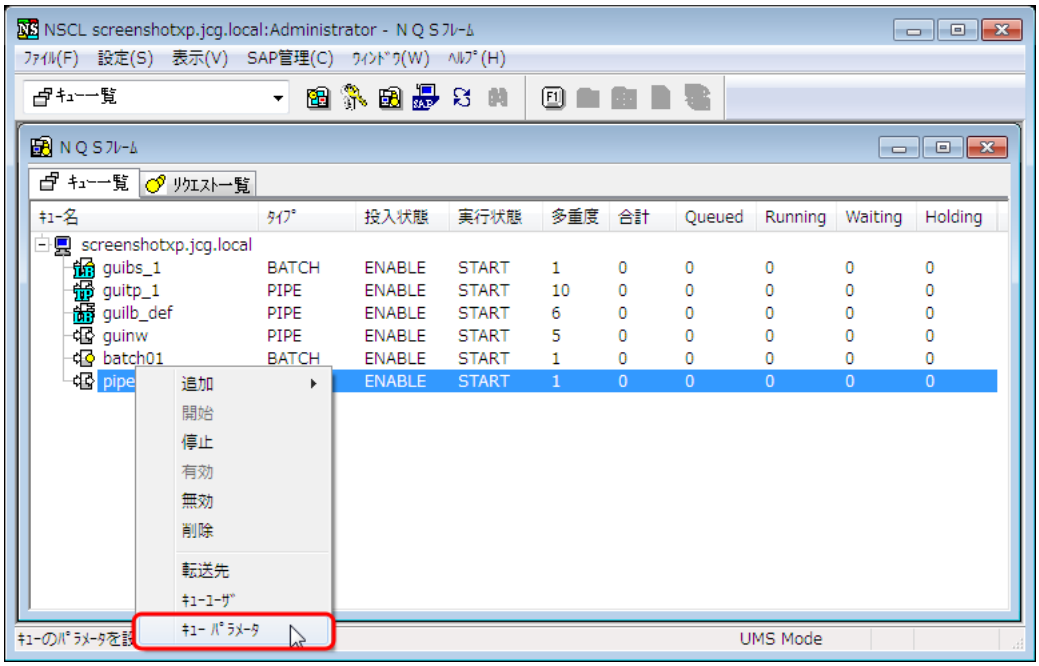


図7.17 パイプキューの［キューパラメータ］選択画面例

2. ［パイプキューパラメータ］ダイアログが表示されますので、パイプキューの設定を行います。

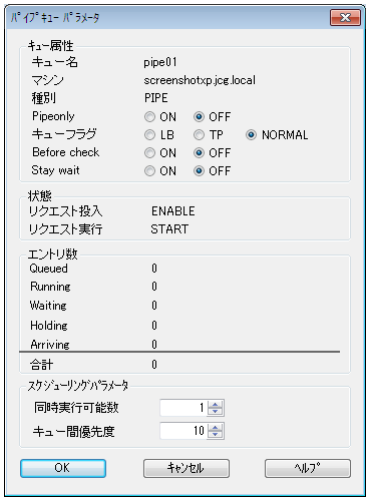


図7.18 パイプキューパラメータの設定画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

CL/Winで設定できるキューパラメータは一部のものに限られます。上記以外のキューパラメータ、およびNQSグローバルパラメータについては、qmgrコマンドで設定します。

7.7. パイプキューの転送先を設定する

1. パイプキューを選択して、右クリックしたときのポップアップメニューから［転送先］を選択します。

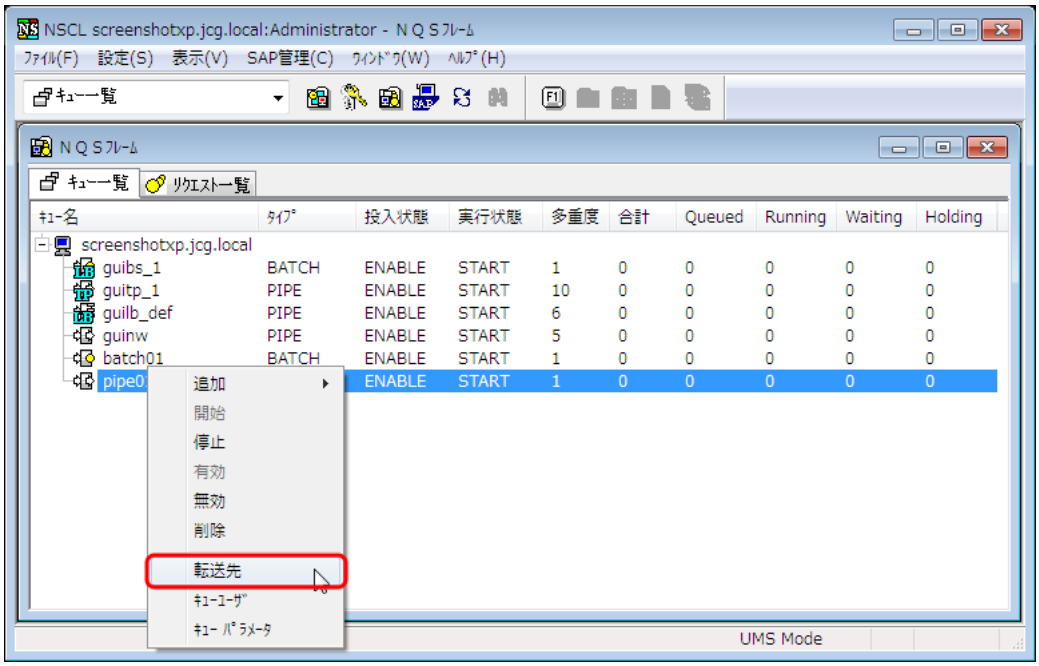


図7.19 転送先キューの指定画面例

2. ［転送先キュー］ダイアログが表示されますので、転送先のマシン名とキューを選択して［<<追加］ボタンをクリックします。

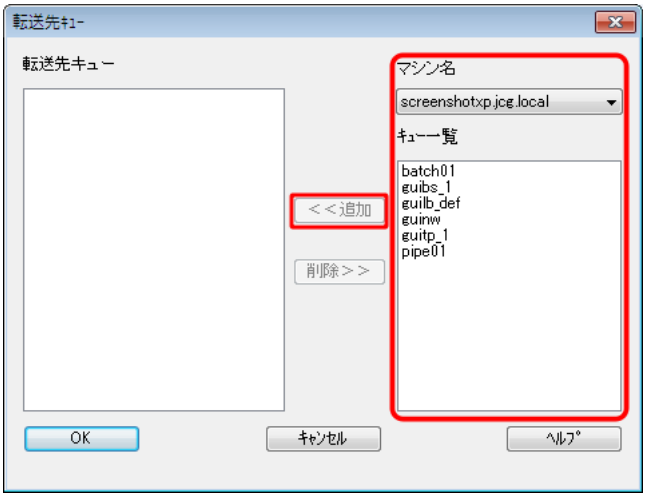


図7.20 転送先キューの指定画面例

3. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

マシン一覧にあらかじめ追加されていないマシンについては、転送先キューの候補が表示されず、転送先に指定できません。「7.1　マシン一覧へマシンを追加する」を参照してください。

7.8. リモートマシンのキューを作成する

リモートマシンをマシン一覧に追加し、ユーザIDのマッピングを行っている場合、CL/Winのマネージャフレームのマシン一覧よりリモートマシンのキューを作成することができます。

1. 管理者権限のアカウント（UMS　Mode）でログインし、マネージャフレームの［マシン一覧］を表示します。

2. ［マシン一覧］ウィンドウ上でキューを作成したいリモートマシンのアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから［開く］を選択します。

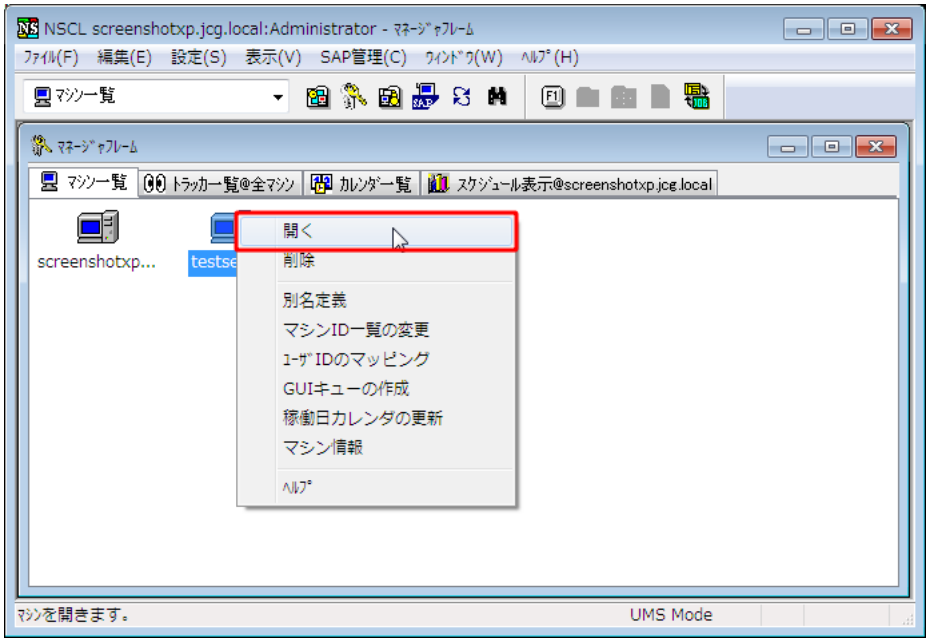


図7.21 マシン一覧のマシンアイコン選択画面例

3. ［machine］ウィンドウの［キュー一覧］画面が開きますので、NQSフレームと同様にキューを作成します。

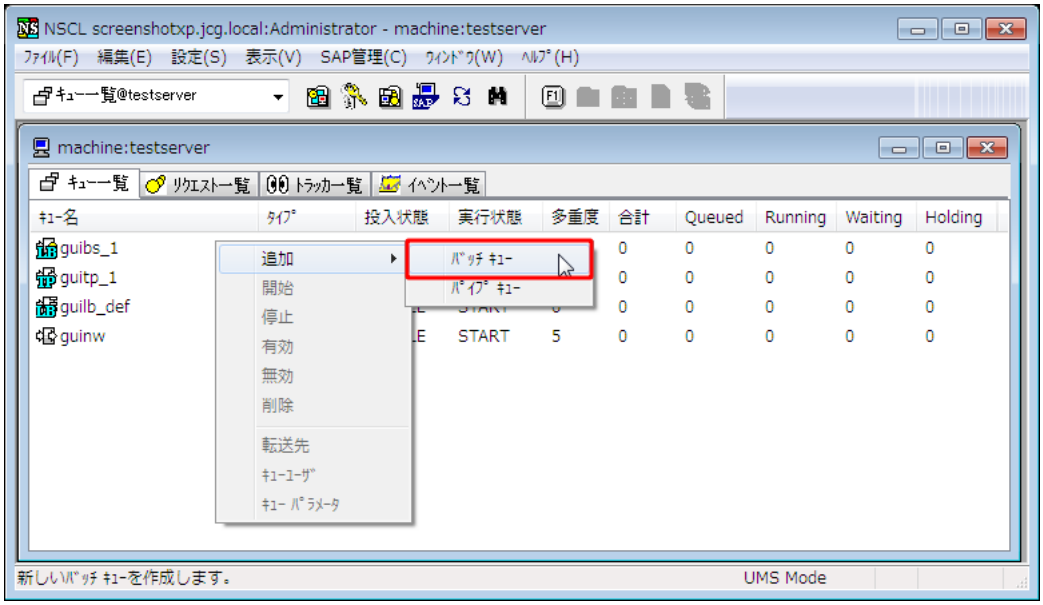


図7.22 ［machine］ウィンドウの［キュー一覧］画面例

第8章 JobCenterの利用状況の監視と管理

JobCenterは、7章 「ネットワークキューイングシステム（NQS）の利用方法」 で説明したとおり、NQSを使用してバッチ処理を行っています。

そのため、ジョブ実行サーバの稼動状況を表すキュー一覧と、ジョブネットワークまたはジョブの発生状況を表すリクエスト一覧でJobCenterの利用状況の監視と管理が行えます。

8.1. キュー一覧から監視と管理を行う

キュー一覧はジョブ実行サーバの稼動状況を表します。マネージャフレームおよびNQSフレームで表示できます。

8.1.1. マネージャフレームでキュー一覧を表示する

1. マネージャフレームの［マシン一覧］タブを選択します。

2. 参照したいマシンアイコンを選択し、ダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューの［開く］を選択します。

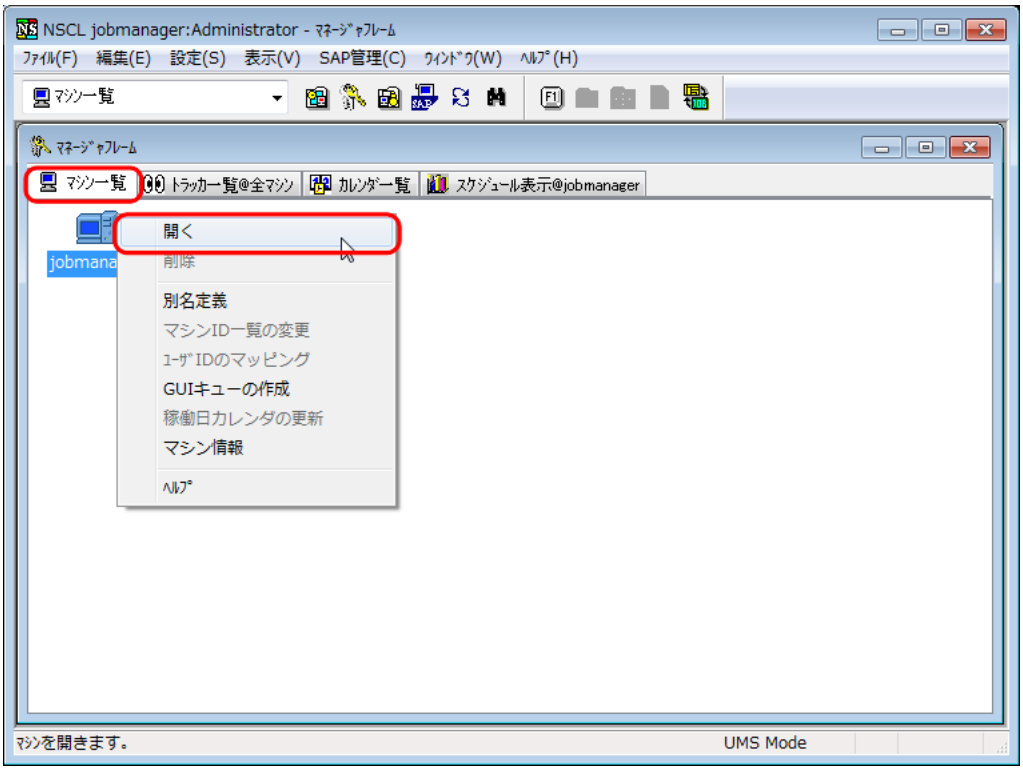


図8.1 ［キュー一覧］を開く操作画面例

3. ［machine］ウィンドウが開きますので、［キュー一覧］タブを選択します。

4. ［マシン一覧］で選択したマシンに設定されているキューの一覧が表示されます。

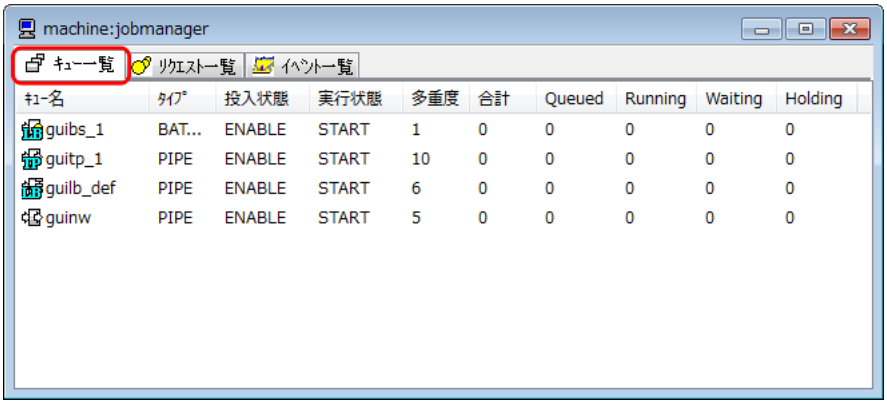


図8.2 ［キュー一覧］画面例

8.1.2. NQSフレームでキュー一覧を表示する

1. NQSフレームの［キュー一覧］タブを選択します。
2. マシンを選択すると、選択したマシンに設定されているキューの一覧が表示されます。

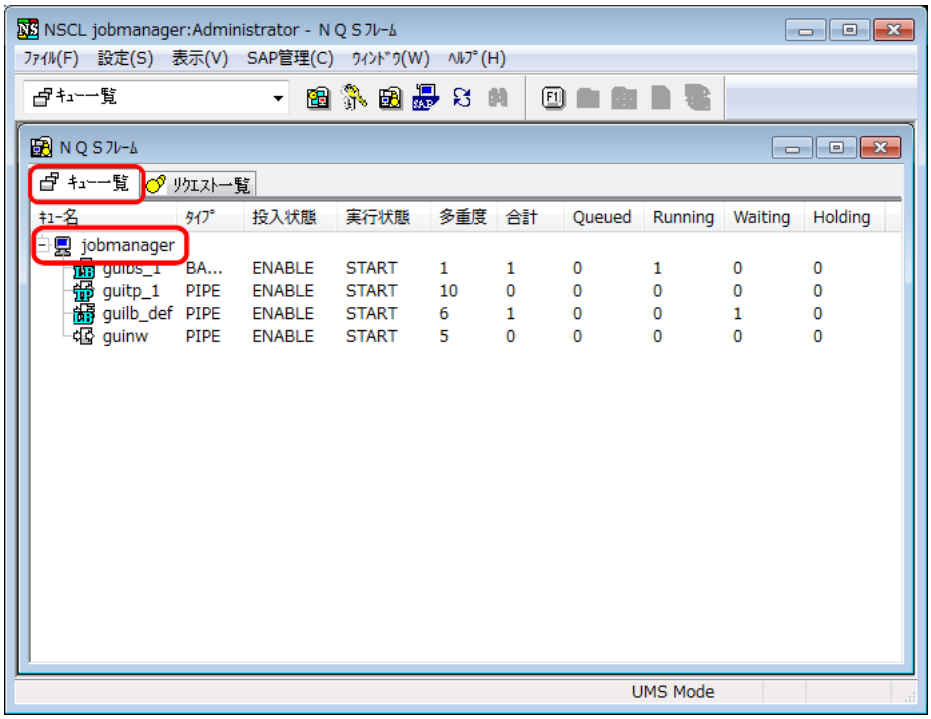


図8.3 ［NQSフレーム］－［キュー一覧］画面例

キュー一覧の項目について、次に説明します。

■キュー名

［マネージャフレーム］－［キュー一覧］の場合は、キューの名前です。

［NQSフレーム］－［キュー一覧］の場合は、キューがあるマシンの名前とキューの名前です。

■タイプ

キューの種類です。

BATCH	バッチキュー
PIPE	パイプキュー

■投入状態

リクエストの登録の可否を示します。

ENABLE	リクエストの登録を受け付ける状態です。
DISABLE	リクエストの登録を受け付けない状態です。

■実行状態

リクエスト実行するキューの状態です。

START	リクエストの処理・実行を行います。

STOP	リクエストの処理・実行を行いません。

■多重度

キューに設定されている同時実行可能リクエスト数です。

■合計、Queued, Running, Waiting, Holding

リクエストの状態にはQueued, Running, Waiting, Holdingの4種類があります。

合計は、これらのリクエスト数の合計です。また、リクエストの状態別のリクエスト数も表示されます。

表8.1 リクエストの状態一覧

リクエストの状態	説　明
Queued	実行待ちの状態で、スケジュールの対象となります。JobCenterで定められた順番に従って逐次Running状態になります。
Running	リクエストは実行中です。
Waiting	実行開始、または他のキューへの転送を待ち合わせています。
Holding	保留されています。

8.2. リクエスト一覧から監視と管理を行う

リクエスト一覧もキュー一覧と同様、マネージャフレームおよびNQSフレームで表示できます。

リクエスト一覧は、ジョブネットワークまたはジョブの発生状況を表しています。

リクエスト一覧からリクエストに対する操作は行えません。

8.2.1. マネージャフレームでリクエスト一覧を表示する

8.2.1.1. マシンに設定されているリクエストを一覧する

1. マネージャフレームの［マシン一覧］タブを選択します。
2. 参照したいマシンアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューの［開く］を選択します。

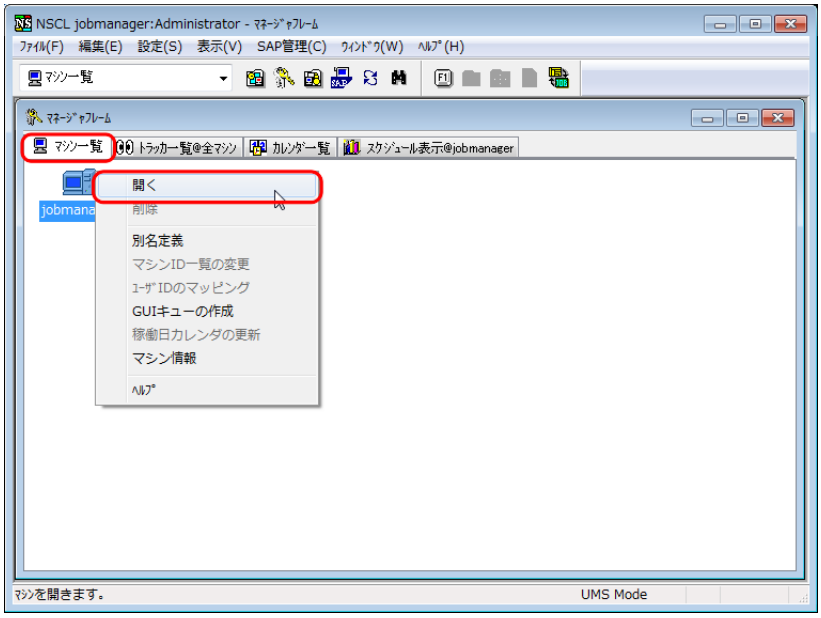


図8.4 ［machine］ウィンドウを開く操作画面例

3. ［machine］ウィンドウが開きますので、［リクエスト一覧］タブを選択します。
4. マシン一覧で選択したマシンに設定されているリクエストの一覧が表示されます。

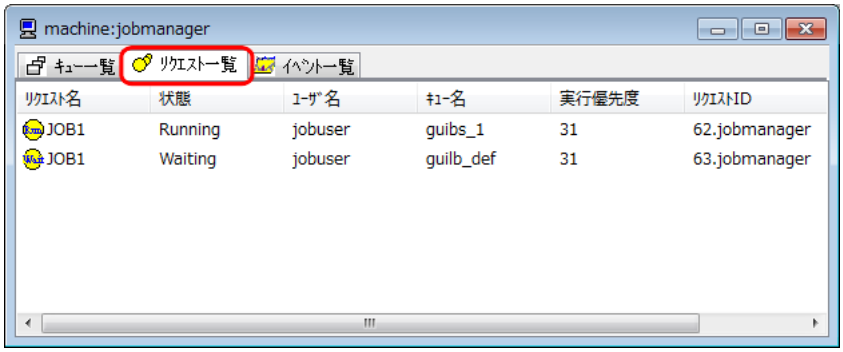


図8.5 ［マネージャフレーム］－［リクエスト一覧］画面例

8.2.1.2. キューに設定されているリクエストを一覧する

1. マネージャフレームの［マシン一覧］タブを選択します。

2. 参照したいマシンアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューの［開く］を選択します。

3. ［machine］ウィンドウが開きますので、［キュー一覧］タブを選択します。

4. 参照したいキューをダブルクリックします。

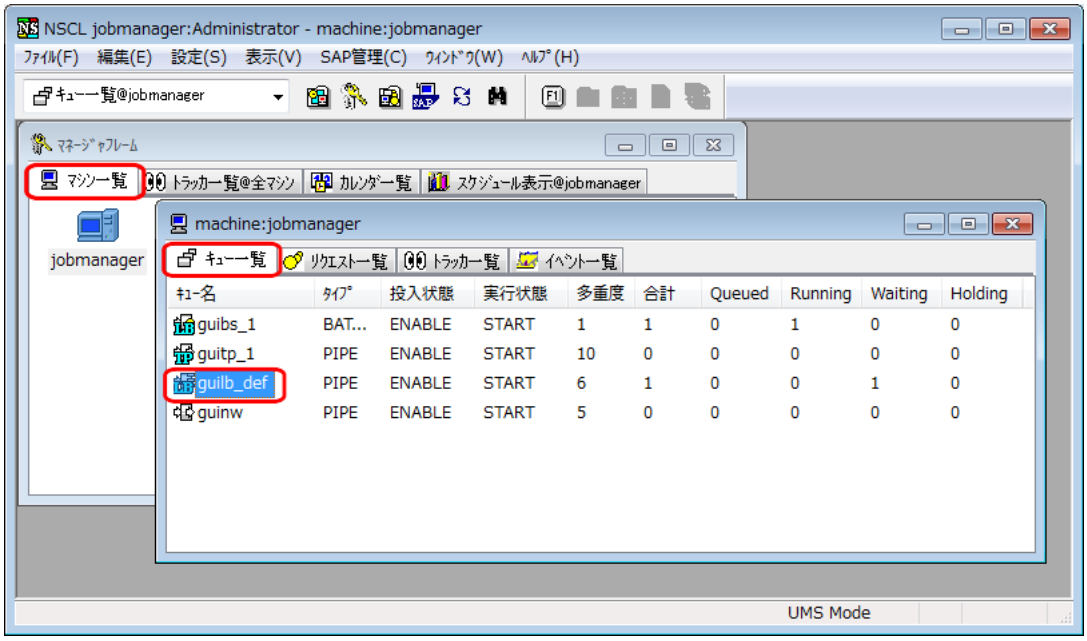


図8.6 参照したいキューの選択（マネージャフレーム）画面例

5. そのキューに設定されているリクエストの一覧が表示されます。

図8.7 キューに設定されているリクエストの表示例（マネージャフレーム）

8.2.2. NQSフレームでリクエスト一覧を表示する

8.2.2.1. マシンに設定されているリクエストを一覧する

1. NQSフレームの［リクエスト一覧］タブを選択します。

2. マシンを選択すると、選択したマシンに設定されているリクエストの一覧が表示されます。

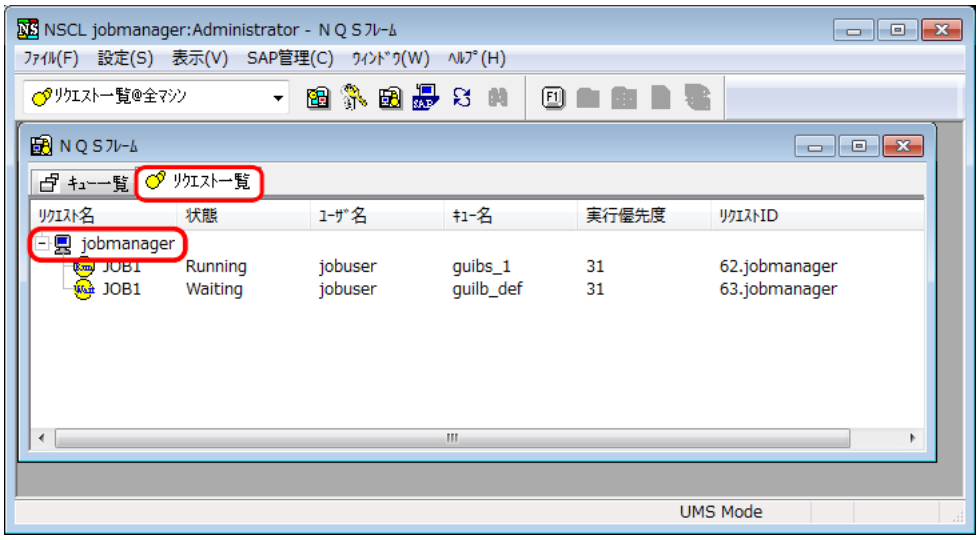


図8.8 ［NQSフレーム］－［リクエスト一覧］画面例

8.2.2.2. キューに設定されているリクエストを一覧する

1. NQSフレームの［キュー一覧］タブを選択します。

2. 参照したいキューをダブルクリックすると、そのキューに設定されているリクエストの一覧が表示されます。

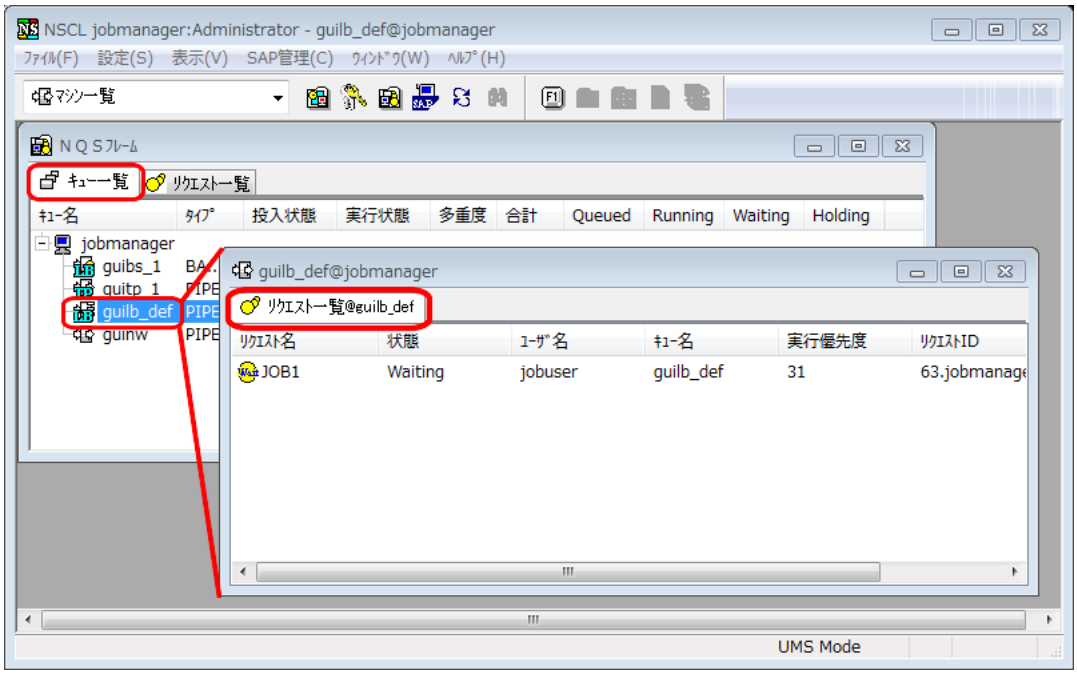


図8.9 キューに設定されているリクエストの表示例（NQSフレーム）

リクエスト一覧の項目について、次に説明します。

■リクエスト名

［マネージャフレーム］－［リクエスト一覧］の場合は、キュー名から開いたときのリクエストの名前です。

［NQSフレーム］－［リクエスト一覧］の場合は、リクエストが存在しているマシンの名前とリクエストの名前です。

■状態

リクエストの状態です。Queued, Running, Waiting, Holdingの4種類があります。

表8.2 リクエストの状態一覧

リクエストの状態	説　明
Queued	実行待ちの状態で、スケジュールの対象となります。JobCenterで定められた順番に従って逐次Running状態になります。
Running	リクエストは実行中です。
Waiting	実行開始時刻を待ち合わせています。
Holding	保留されています。

■ユーザ名

リクエストを投入したユーザ名です。

■キュー名

リクエストが登録されているキューの名前です。

■実行優先度

登録されているキュー上での実行優先度です。設定値の範囲は、0～63です。

■リクエストID

リクエストにつけられた一意のIDです。

8.3. イベント一覧からイベントの監視と管理を行う

イベント一覧表示機能の概要の説明

8.3.1. イベント一覧を表示する

1. マネージャフレームを開き、[マシン一覧]タブから到着イベントの一覧を参照したいマシンを開きます。

2. [イベント一覧]タブを選択すると、そのマシンに到着して受信待ちになっているイベントの一覧が表示されます。

[イベント一覧]タブの表示には、[ユーザ自身のトラッカー覧と参照]権限、または[他ユーザのトラッカー覧と参照]権限が必要です。

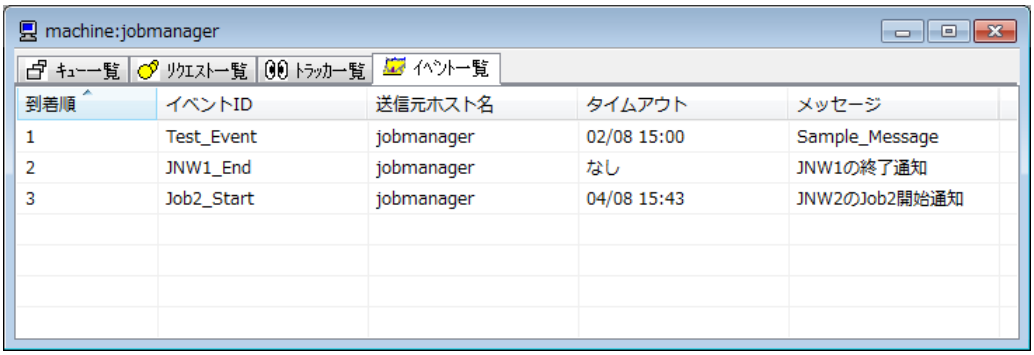


図8.10 イベント一覧タブの画面例

イベント一覧の項目について、次に説明します。

■到着順

マシンに到着したイベントの順番を示しています。

■イベントID

イベント送信時に指定したイベントIDです。

■送信元ホスト名

イベントの送信元となるホスト名です。

■タイムアウト

イベントのタイムアウト時刻です。無期限の場合は「なし」と表示されます。

■メッセージ

イベント送信時に指定したメッセージです。

8.3.2. イベントを送信する

8.3.2.1. イベント送信方法

1. メニューバーの[コマンド]を選択するか、イベント一覧画面の空行で右クリックしたときのポップアップメニューの[イベント送信]を選択します。

2. [イベント送信の設定]ダイアログが表示されますので、イベント送信の設定を行います。

3. 設定後、[OK]ボタンをクリックします。

ログインしているマシンのイベントの送信を行うためには、[他ユーザのトラッカの操作]権限が必要です。JobCenter管理者であれば、全てのマシンのイベント一覧を参照することができます。

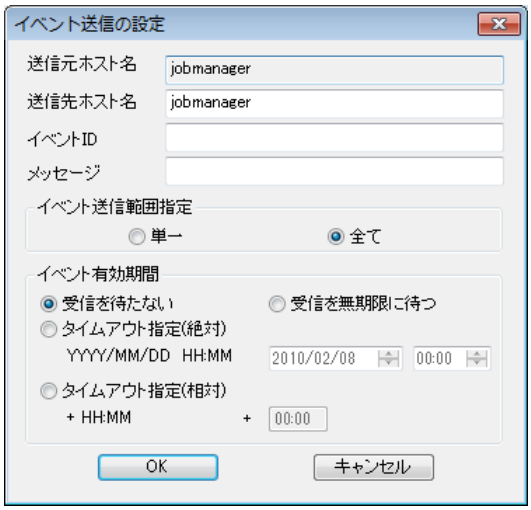


図8.11 イベント送信の設定画面例

[イベント送信の設定] ダイアログの設定項目は次の通りです。

■送信元ホスト名(入力不可)

イベントの送信元ホスト名です。開いているマシンフレームのホスト名が入力されています。

■送信先ホスト名(必須項目)

イベントの送信先ホスト名を入力します。ホスト名はネットワーク上で認識されている正式ホスト名を使用するようにしてください。デフォルトでは開いているマシンフレームのホスト名が入力されています。

送信先ホスト名はエイリアス名では正しく動作しません。

■イベントID(必須項目)

任意の送信するイベントの識別子(ID)を入力します。英数字、日本語、全角カナ文字(混在可能)、100バイト以内で指定してください。

■メッセージ

送信先に送るメッセージを入力します。英数字、日本語、全角カナ文字(混在可能)、40バイト以内で指定してください。

■イベント送信範囲設定

イベント送信を行う範囲を指定します。

[単一]

同じイベントIDのイベントを待っている受信部品が複数ある場合に、最初に待ち状態となった部品だけにイベントを通知します。

[全て]

同じイベントIDで、イベント待ち状態となっている部品すべてにイベントを通知します。

■イベント有効期間

イベント送信先でイベントの受信の待ち合わせに関する設定を行います。

[受信を待たない]

イベント送信先で待ち合わせをせず、送信先でイベントの保持を行いません。

この設定でイベントの送信を行う場合、送信時に以下のような確認メッセージが表示されます。

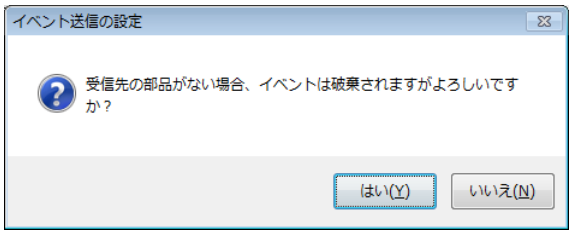


図8.12 イベント送信時の確認画面

[受信を無期限に待つ]

イベント送信先で受信が行われるまで、無期限に待ち続けます。

イベント送信部品の[イベント送信の設定]ダイアログで、イベントの有効期間のタイムアウト項目を空欄にした場合と同じです。

[タイムアウト指定(絶対)]

受信のタイムアウト時間を絶対時刻で指定します。現在時刻から2037年12月31日23:59まで指定できます。

[タイムアウト指定(相対)]

受信のタイムアウト時間を相対時刻で指定します。00:00～99:59まで指定できます。

8.3.2.2. イベント送信時に表示されるメッセージダイアログ

イベント送信時、イベント送信の結果を示すメッセージダイアログが表示されます。その内容は以下の通りです。

表8.3 イベント送信時のメッセージダイアログ一覧

メッセージ内容	意　味
イベント送信成功。 相手先で受信されました。	イベントの送信に成功し、送信先ホストのイベント受信部品がイベントを受信した場合に表示されます。
イベント送信成功。 相手先で受信されませんでした。	イベントの送信に成功したが、指定したイベントID で受信を待つイベント受信部品が送信先ホストになかった場合に表示されます。

メッセージ内容	意　味
イベント送信成功。 相手先で受信されませんでした。 イベント保持期間が設定されないため、イベントは破棄されました。	イベントの送信に成功したが、指定したイベントID で受信を待つイベント受信部品が送信先になく、イベント有効期間で[受信を待たない]を設定したためすぐにイベントが破棄されてしまう場合に表示されます
イベントの送信失敗。 対象サーバが保持可能イベント数の上限に達していたため、イベントを送信できませんでした。	送信先ホストで、イベント保持可能数の上限を超えた場合にイベントの上書きを禁止する設定を行っている状態で、イベント保持可能数の上限を超えた場合に表示されます。 イベント保持可能数の上限を超えた場合の設定については、<環境構築ガイド>の「5.2　デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」を参照してください。
イベントの送信失敗。 ホスト名が不正です。名前解決の設定を確認してください。	イベント送信時に指定したホスト名が見つからなかった場合に表示されます。 ホスト名を確認してください。
イベントの送信失敗。 相手先に接続する途中でタイムアウトしました。	イベント送信先ホストへの接続中にタイムアウトが発生した場合に表示されます。 しばらく時間をおいてから再度イベント送信を行ってください。
イベントの送信失敗。 接続先ホストが起動していない、もしくはJobCenter が起動していません。	イベント送信先ホストが起動していないか、送信先ホストのJobCenter　が起動していない場合に表示されます。 送信先ホストの状態をチェックしてください
イベントの送信失敗。 相手先でエラーが発生しました。	イベント送信先ホストで上記以外のエラーが発生した場合に表示されます。 送信先ホストの状態をチェックしてください。

8.3.3. イベントを削除する

1. イベント一覧画面で、マシンに到着しているイベントから削除したいものを選択して(複数選択可)、メニューバーの[ファイル]を選択するか、右クリックしたときのポップアップメニューで[削除]を選択します。

2. [イベント操作の確認]ダイアログが開きますので、削除対象のイベントの確認および削除の決定を行います。

3. 設定後、[OK]ボタンをクリックします。

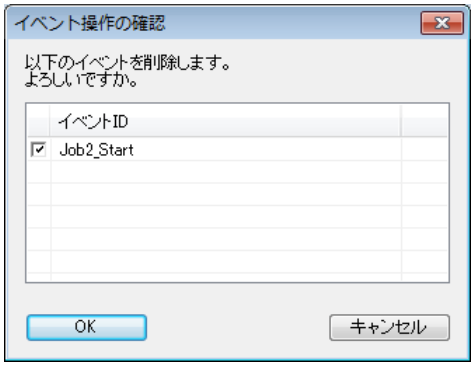


図8.13 イベント操作の確認画面例

イベントの削除を行うためには、[他ユーザのトラッカの操作]権限が必要です。

削除したイベントの送信元のイベント送信部品が受信確認中であった場合、イベント送信部品は[正常終了]で終了しますので注意してください。

第9章 エクスポートとインポートの操作方法

エクスポートとインポート機能は、ジョブネットワークの定義、スケジュール定義およびカレンダ定義のユーザ環境のバックアップや、環境の移行の際に利用します。

また、JobCenterに標準添付されているジョブネットワークやスケジュールのテンプレートを導入する際にも利用します。

ログインするユーザの権限によって、実行できる機能が異なります。注意事項および設定項目の詳細については、「JobCenterインポート・エクスポート機能利用の手引き」を参照してください。

9.1. JNW（ジョブネットワーク）をエクスポートする

1. メニューバーの［ファイル］－［エクスポート］－［JNWのエクスポート］を選択します。

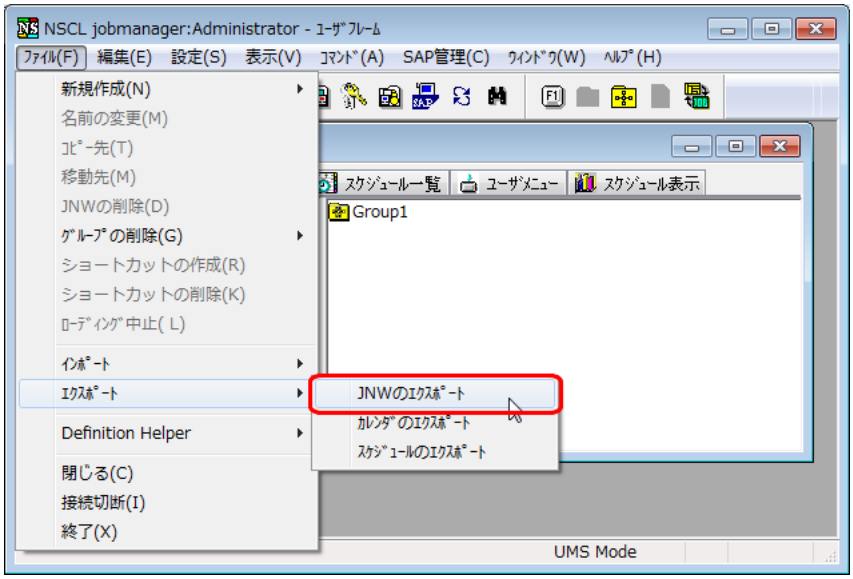


図9.1 JNWのエクスポート開始画面例

2. ［JNWのエクスポート］ダイアログが表示されます。

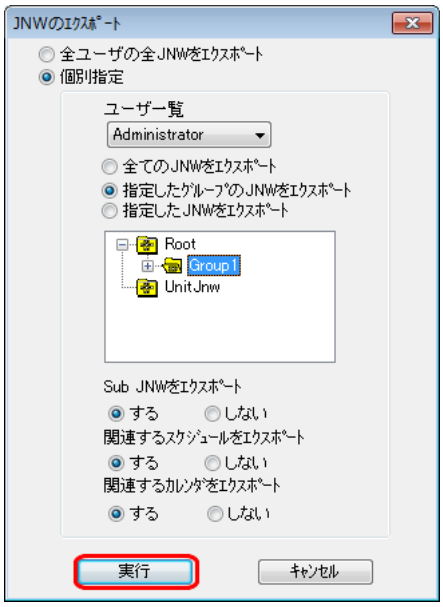


図9.2 ［JNWのエクスポート］ダイアログ画面例

3. エクスポートするデータを指定し、［実行］ボタンをクリックします。

4. ［JNWエクスポート実行中］の画面が表示されます。

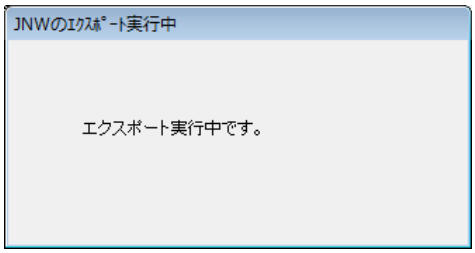


図9.3 ［JNWのエクスポート実行中］の画面

5. ［エクスポート先の指定］ダイアログが表示されます。

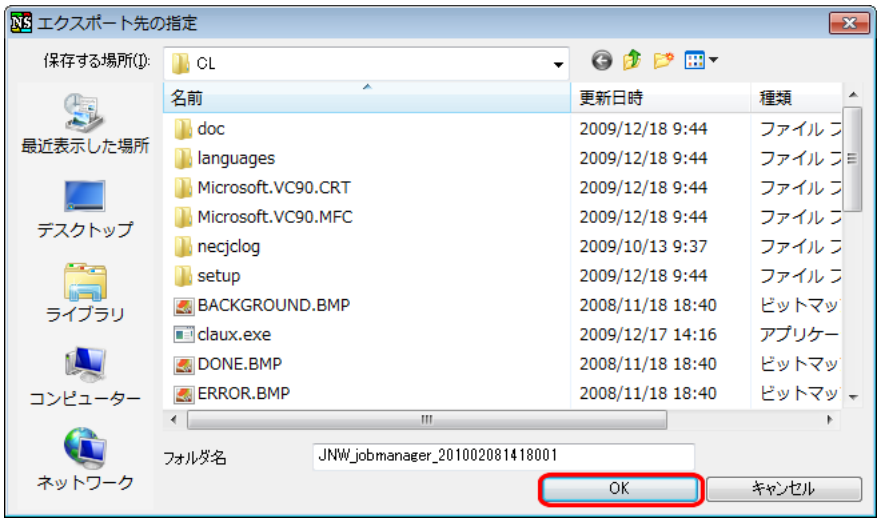


図9.4 ［エクスポート先の指定］ダイアログ画面例

6. 保存するフォルダ名を指定し、［OK］ボタンをクリックします。

7. ［JNWのエクスポートファイル転送中］の画面が表示されたあと、エクスポートが終了します。

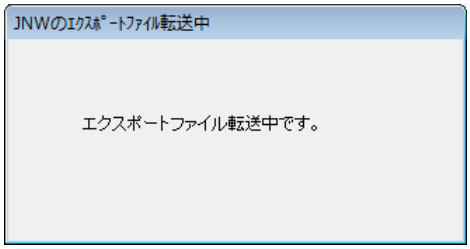


図9.5 ［JNWのエクスポートファイル転送中］の画面

9.2. カレンダをエクスポートする

1. メニューバーの［ファイル］－［エクスポート］－［カレンダのエクスポート］を選択します。

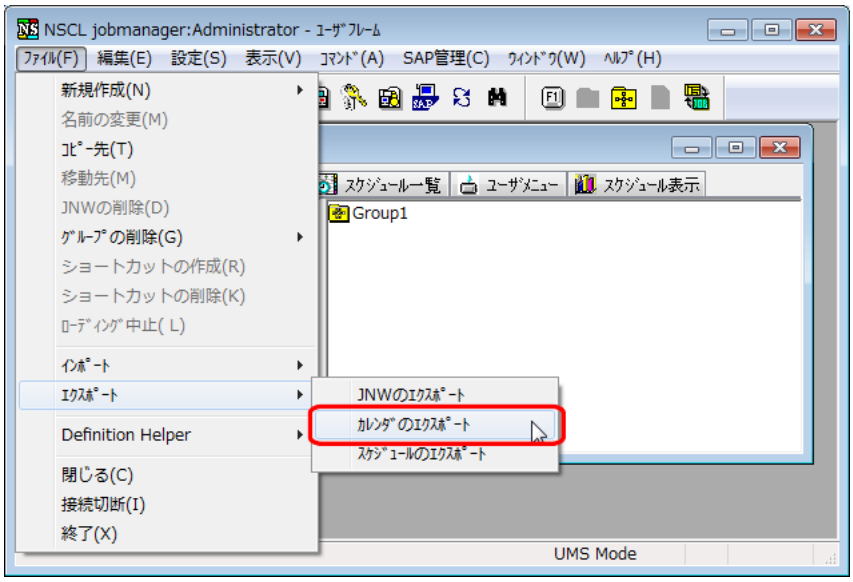


図9.6 カレンダのエクスポート開始画面例

2. ［カレンダのエクスポート］ダイアログが表示されます。

図9.7 ［カレンダのエクスポート］ダイアログ画面例

3. エクスポートするデータを指定し、［実行］をクリックします。

4. ［カレンダのエクスポート実行中］の画面が表示されます。

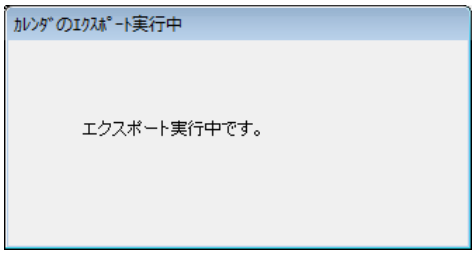


図9.8 ［カレンダのエクスポート実行中］の画面

5. ［エクスポート先の指定］ダイアログが表示されます。

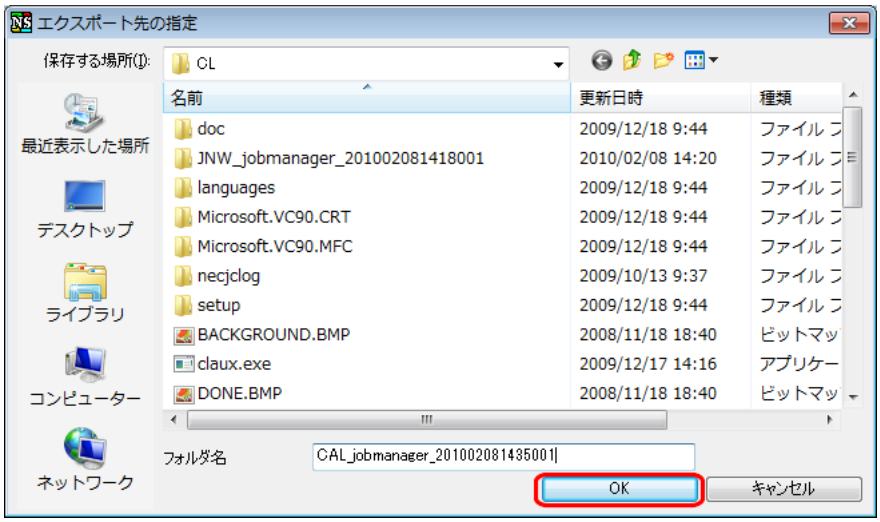


図9.9 ［エクスポート先の指定］ダイアログ画面例

6. 保存するフォルダ名を指定し、［OK］ボタンをクリックします。

7. ［カレンダのエクスポートファイル転送中］の画面が表示されたあと、エクスポートが終了します。

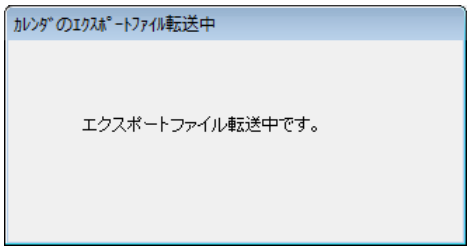


図9.10 ［カレンダのエクスポートファイル転送中］の画面

9.3. スケジュールをエクスポートする

1. メニューバーの［ファイル］－［エクスポート］－［スケジュールのエクスポート］を選択します。

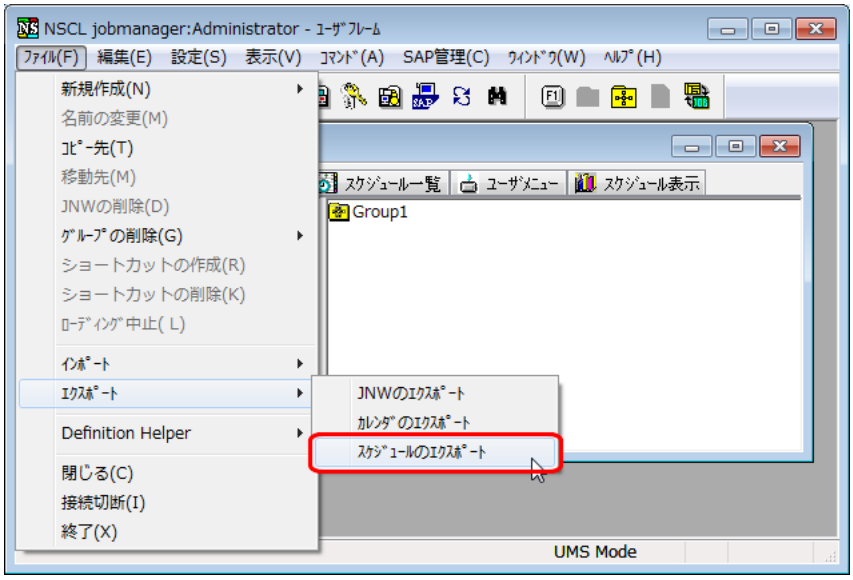


図9.11 スケジュールのエクスポート開始画面例

2. ［スケジュールのエクスポート］ダイアログが表示されます。

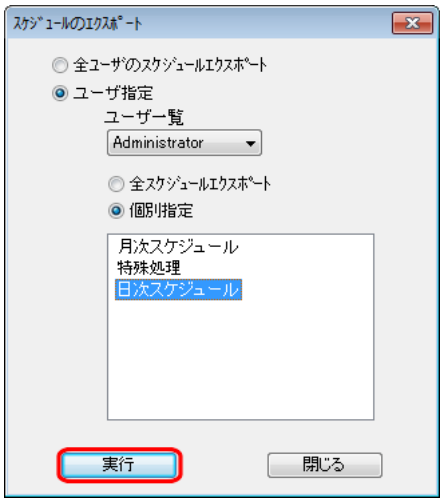


図9.12 ［スケジュールのエクスポート］ダイアログ画面例

3. エクスポートするデータを指定し、［実行］をクリックします。

4. ［スケジュールのエクスポート実行中］の画面が表示されます。

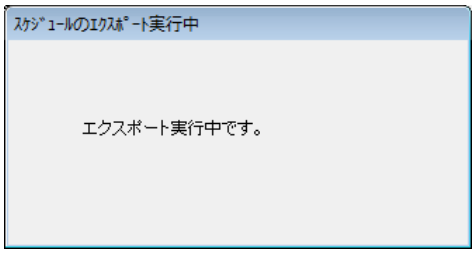


図9.13 ［スケジュールのエクスポート実行中］の画面

5. ［エクスポート先の指定］ダイアログが表示されます。

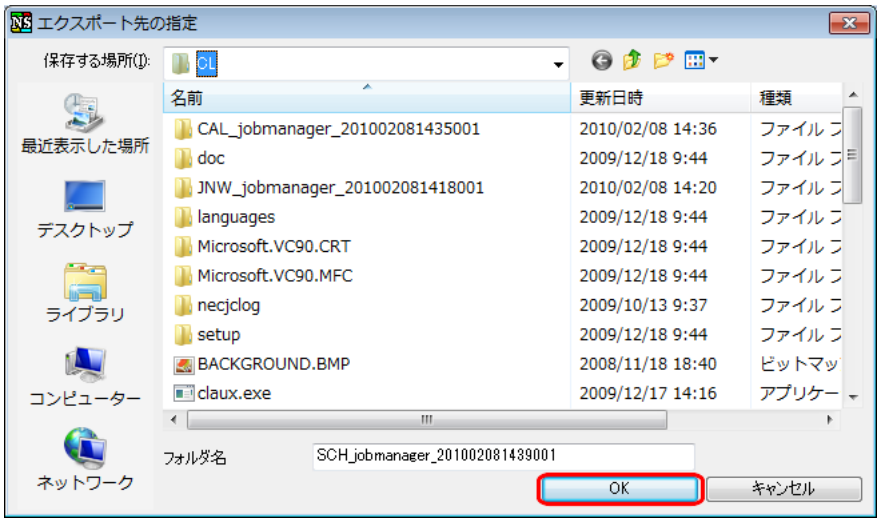


図9.14 ［エクスポート先の指定］ダイアログ画面例

6. 保存するフォルダ名を指定し、［OK］ボタンをクリックします。

7. ［スケジュールのエクスポートファイル転送中］の画面が表示されたあと、エクスポートが終了します。

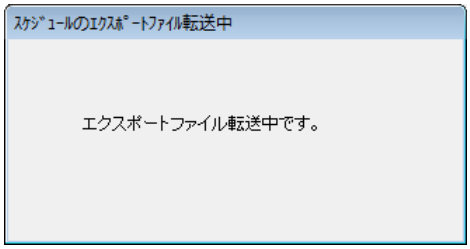


図9.15 ［スケジュールのエクスポートファイル転送中］の画面

9.4. JNWをインポートする

1. メニューバーの［ファイル］－［インポート］－［JNWのインポート］を選択します。

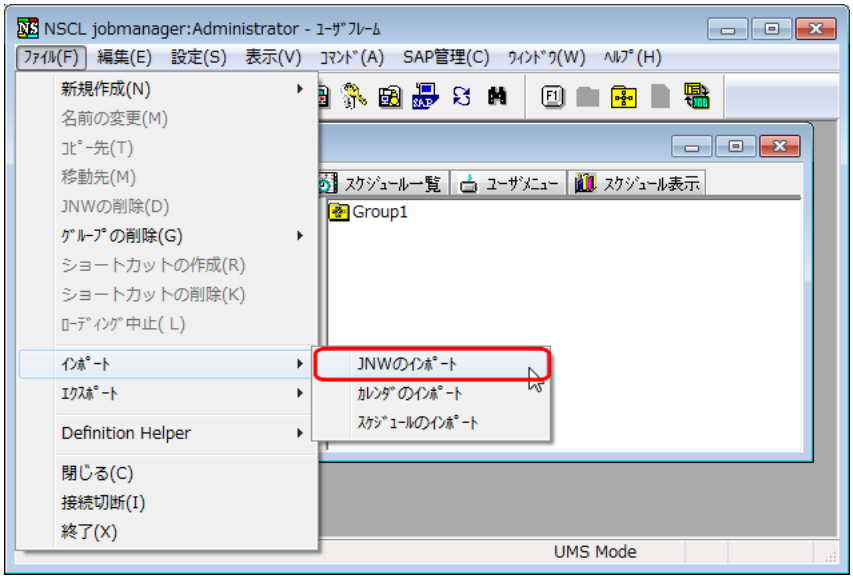


図9.16 JNWのインポート開始画面例

2. ［JNWのインポート］ダイアログが表示されます。

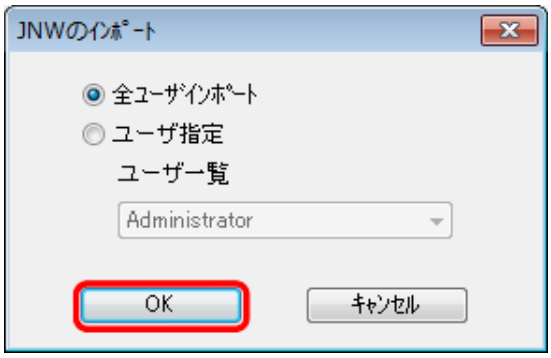


図9.17 ［JNWのインポート］画面例

3. インポートするデータのユーザを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

4. ［フォルダの参照］ダイアログが表示されます。

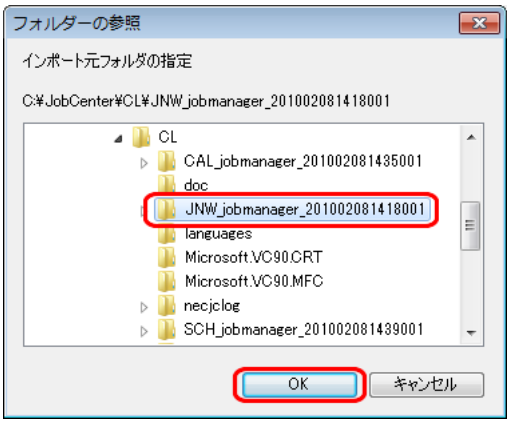


図9.18 ［フォルダの参照］ダイアログ画面例

5. インポートするデータのフォルダを指定し、［OK］ボタンをクリックします。

6. ［マシン名変更］ダイアログ表示されますので、移行元と移行先のマシン名を選択して、［追加］ボタンをクリックします。

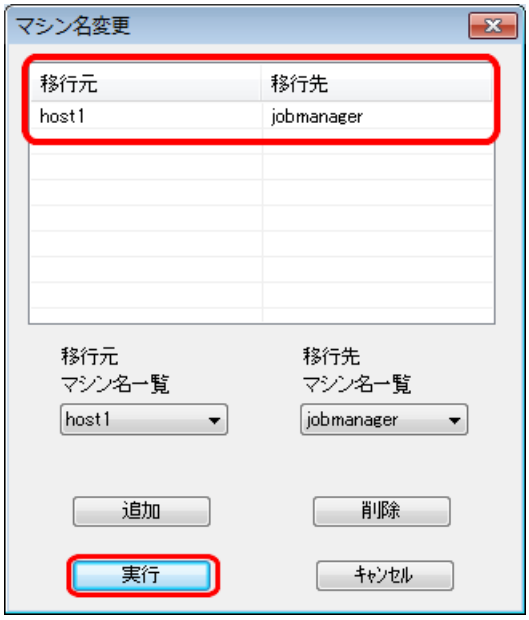


図9.19 ［マシン名変更］ダイアログ画面例

7. マシン名変更一覧にマシン名が追加されたら、［実行］ボタンをクリックします。

8. ［JNWのインポート実行中］画面が表示されたあと、インポートが終了します。

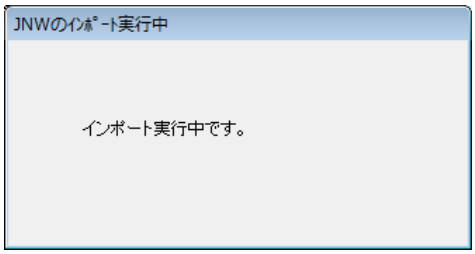


図9.20 ［JNWのインポート実行中］画面

9. ユーザフレームのジョブネットワーク一覧を開き、ファンクションキーの［F5］を押すなど［最新表示］を行って、インポートしたジョブネットワークが追加されていることを確認します。

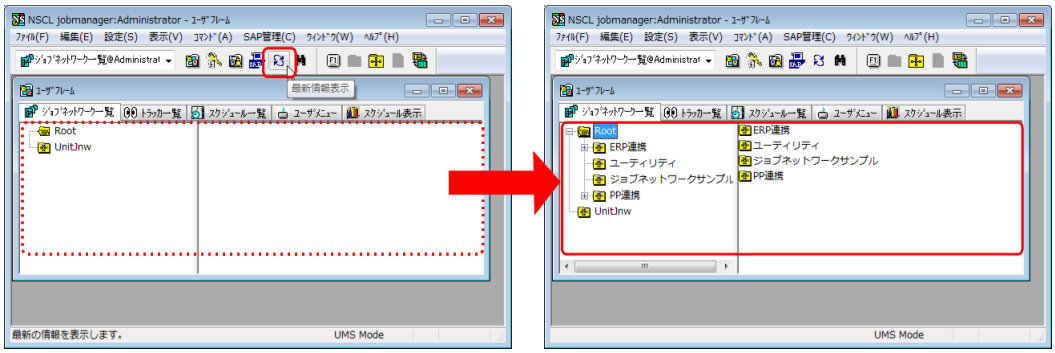


図9.21 インポートしたジョブネットワークの追加確認画面例

9.5. カレンダをインポートする

1. メニューバーの［ファイル］－［インポート］－［カレンダのインポート］を選択します。

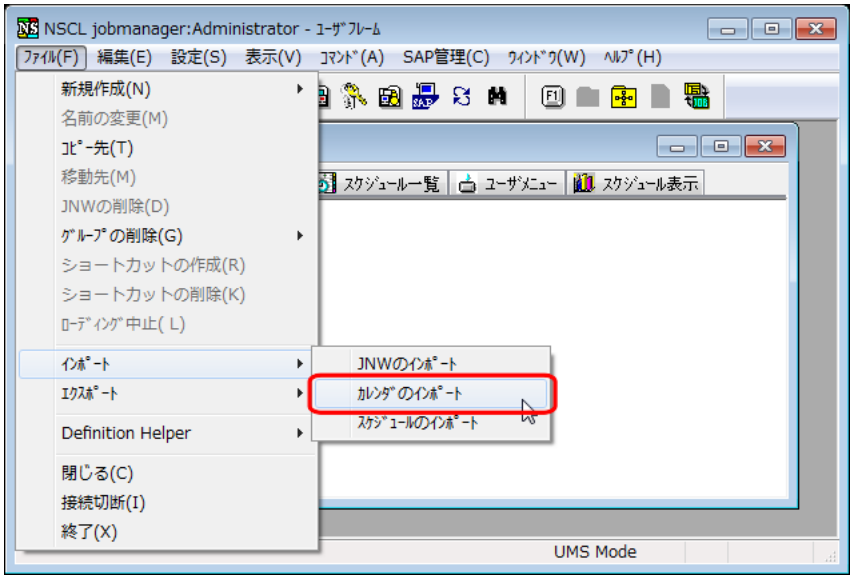


図9.22 カレンダのインポート開始画面例

2. ［フォルダの参照］ダイアログが表示されます。

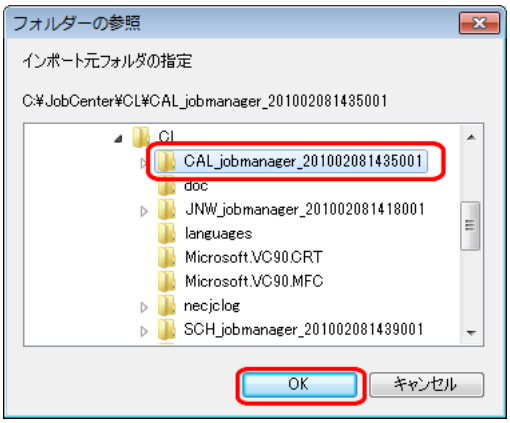


図9.23 ［フォルダの参照］ダイアログ画面例

3. インポートするデータのフォルダを指定し、［OK］ボタンをクリックします。

4. ［カレンダのインポート実行中］ダイアログが表示されたあと、インポートが終了します。

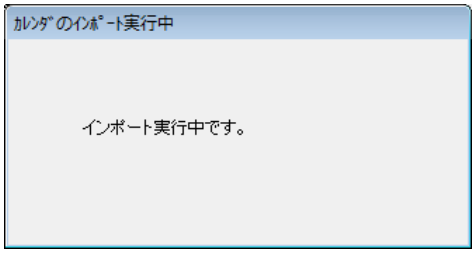


図9.24 ［カレンダのインポート実行中］画面

5. マネージャフレームのカレンダー覧を開き、JNWのインポートと同様、ファンクションキーの［F5］を押すなど［最新表示］を行って、インポートしたカレンダが追加されていることを確認します。

Japanカレンダはインポート方法が異なります。「9.6 Japanカレンダをインポートする」を参照してください。

9.6. Japanカレンダをインポートする

Japanカレンダのインポートは、JobCenter　MGに対して行いますので、JobCenter MGがインストールされているサーバにログインして作業を行ってください。

Japanカレンダのインポートでは、「9.5　カレンダをインポートする」で説明したカレンダのインポート操作は行いません。テンプレートを指定のフォルダへコピーすることによってインポートを行います。

1. JobCenterメディア内のJapanカレンダEXEファイル（JP0604.EXE）を任意のフォルダにコピーし、ダブルクリックして解凍します。

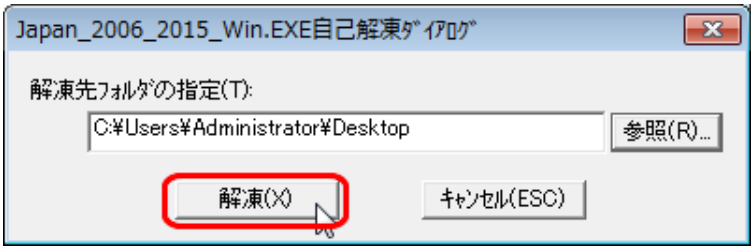


図9.25 JapanカレンダEXEファイルの自己解凍

2. 次の3ファイルが作成されます。

■Japan.wkcal

■Japan.wkcal.r

■Japan.wkcal.l

3. 作成された3つのファイルを<インストールディレクトリ>\spool\wkcal.dフォルダにコピーします。<インストールディレクトリ>は、JobCenterのインストールパスです。

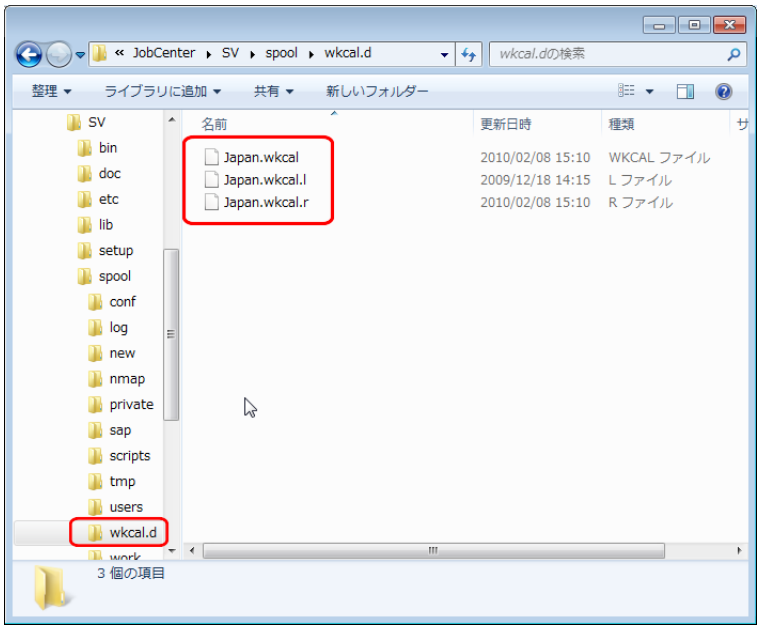


図9.26 Windows版でのコピー例

4. 次に、Japanカレンダが表示されていることを確認します。

GUI画面からサーバに接続し、マネージャフレームのカレンダー覧を開きます。

5. Japanカレンダアイコンが表示されているのを確認します。

6. Japanカレンダアイコンをダブルクリックすると、カレンダ設定ダイアログが表示されます。

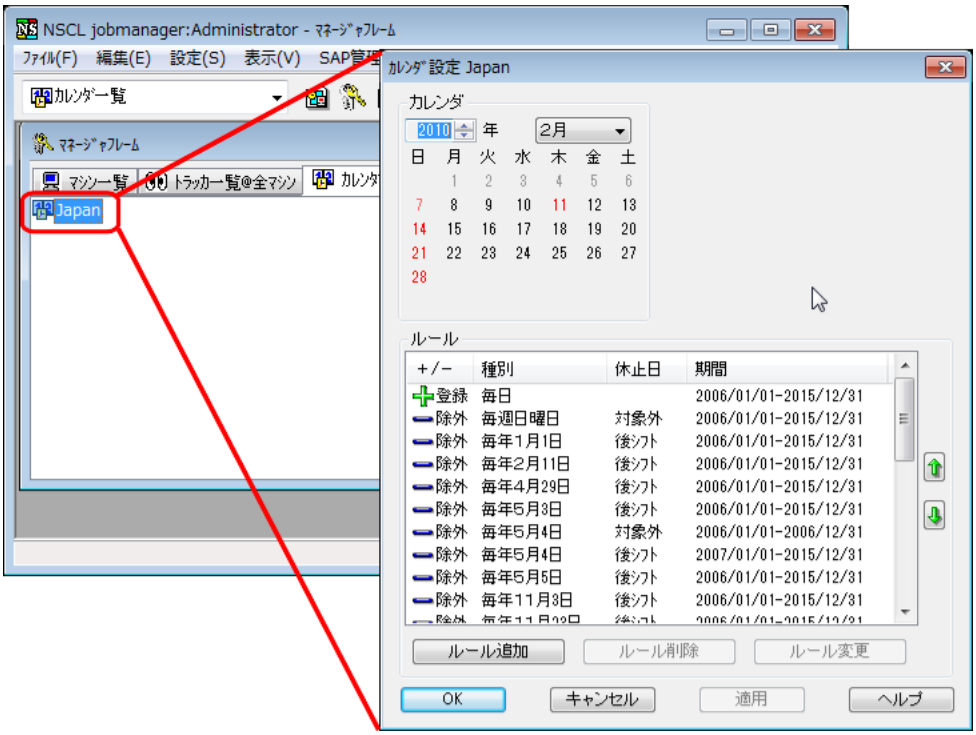


図9.27 インポートしたJapanカレンダの確認画面例

JobCenterメディア内に格納されているものより新しいJapanカレンダが必要な場合は、NECサポートポータルからダウンロード、またはNECカスタマーサポートセンターにお問い合わせのうえ、入手してください。

9.7. スケジュールをインポートする

1. メニューバーの［ファイル］－［インポート］－［スケジュールのインポート］を選択します。

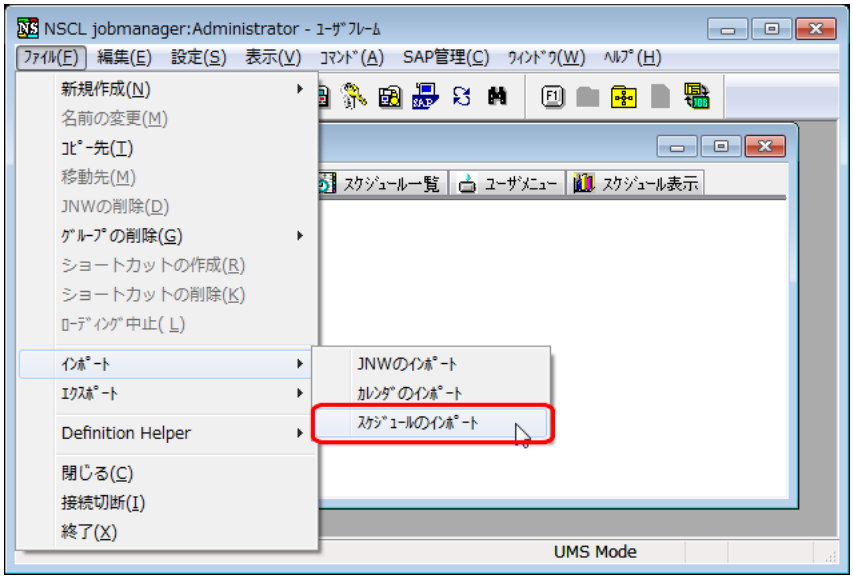


図9.28 スケジュールのインポート開始画面例

2. ［スケジュールのインポート］ダイアログが表示されます。

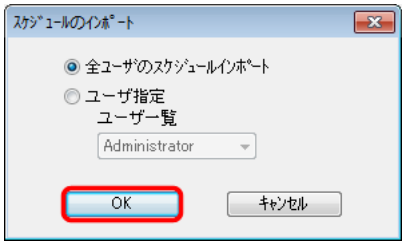


図9.29 ［スケジュールのインポート］ダイアログ画面例

3. インポートするデータのユーザを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

4. ［フォルダの参照］ダイアログが表示されます。

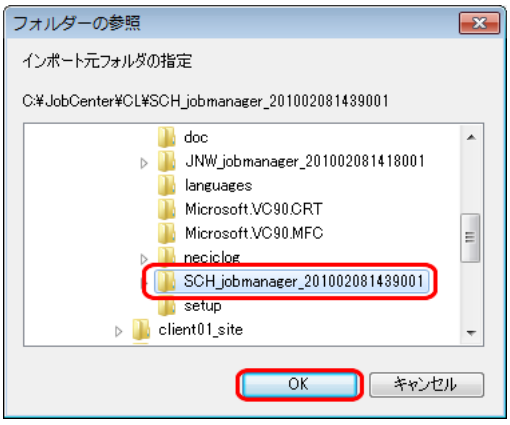


図9.30 ［フォルダの参照］ダイアログ画面例

5. インポートするデータのフォルダを指定し、［OK］ボタンをクリックします。

6. ［スケジュールのインポート実行中］画面が表示されたあと、インポートが終了します。

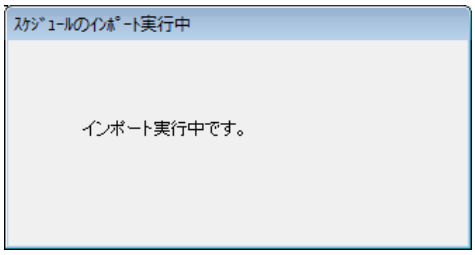


図9.31 ［スケジュールのインポート実行中］画面

7. ユーザフレームのスケジュール一覧を開き、JNWのインポート同様、とファンクションキーの［F5］を押すなど［最新表示］を行って、インポートしたスケジュールが追加されていることを確認します。

第10章 一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定）

JobCenterを使用する一般アカウントユーザの権限設定は、権限グループを基本として行います。

権限グループとは、目的に応じた特定の権限を持つグループです。

ユーザ自身、および他ユーザについて、ジョブネットワークの参照や作成や実行、トラッカの参照や操作についての権限を、権限グループにごとに設定します。

他ユーザへのアクセスに関する権限については、それが設定された権限グループ単位に、アクセス先のユーザを制限できます。

設定の詳細については、<環境構築ガイド>の10章 「ユーザ権限（パーミッション設定）」 を参照してください。

10.1. 権限グループを設定する

JobCenter管理者は、デフォルトで用意された権限グループや、任意に追加したユーザ定義の権限グループに各ユーザを所属させることにより、各ユーザに対して適切なアクセス権限を与えます。

これにより、次のような運用が可能になります。

■他ユーザのジョブネットワークの参照や作成や実行が可能になります。

■特定のユーザのみに、他ユーザのジョブネットワークなどへのアクセスを許可できます。

■ユーザが所属する権限グループごとに、アクセス先のユーザの制限が可能です。

■特定のユーザに対して、ジョブネットワークの実行やトラッカの操作のみを許可し、ジョブネットワークの作成や変更を禁止できます。

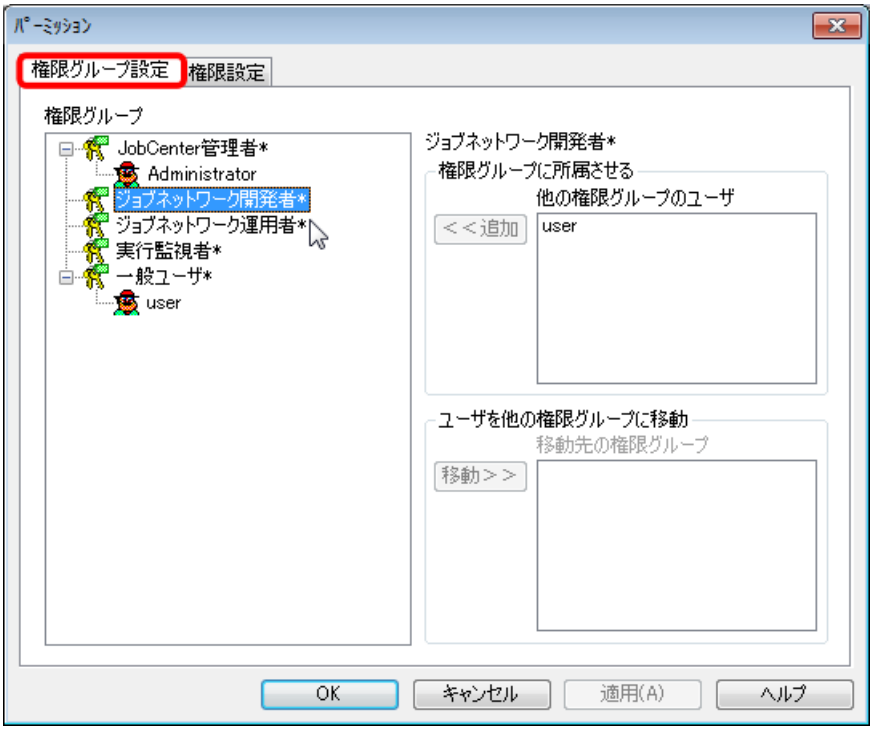


図10.1 ［パーミッション］ダイアログ画面例

［権限グループ設定］タブでは、権限グループに所属するユーザの確認や設定や変更が行えます。

［権限設定］タブでは、新しい権限グループを作成し、追加した権限グループの設定を行います。

次に「userAをジョブネットワーク開発者グループに所属させる」という例を用いて説明します。

10.1.1. 権限グループに所属させる

左側の［権限グループ］リストには、現在設定されている権限グループおよび所属しているユーザがツリー表示されます。

は権限グループ、 は所属するユーザを表しています。グループ名の末尾の「*」は、デフォルトの権限グループを示します。

1. 権限グループを設定するには、管理者アカウントでログインします。

2. メニューバーの［設定］－［パーミッション設定］を選択します。

3. ［パーミッション］ダイアログの［権限グループ設定］が開き、現在マシンに設定されているユーザ権限が表示されます。

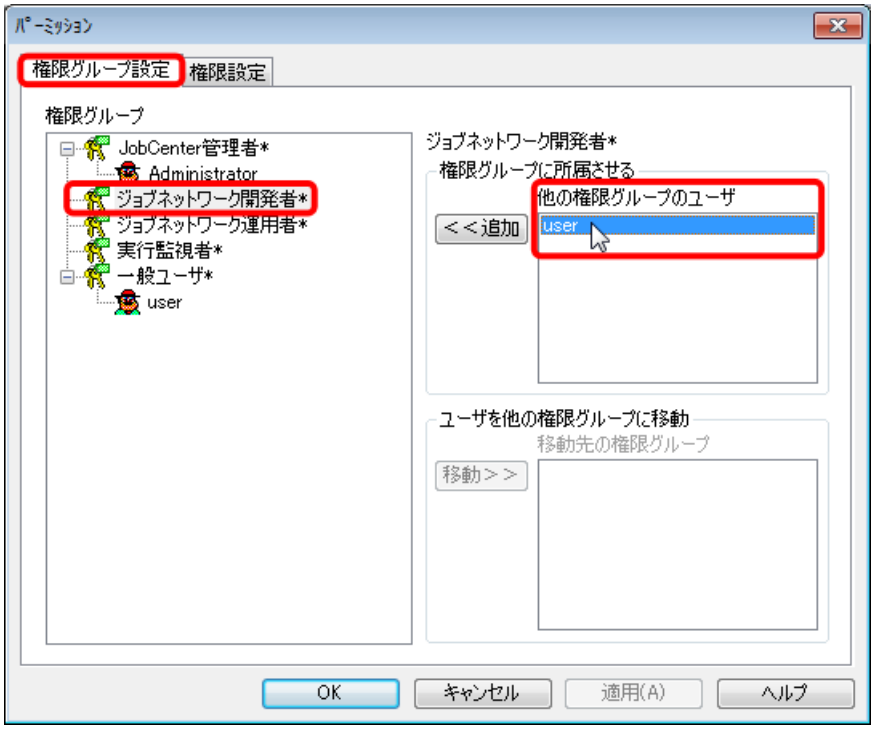


図10.2 「権限グループに所属させる」を利用したユーザのグループ移動画面例

4. ［権限グループ］リストから、移動先であるジョブネットワーク開発者グループを選択します。［他の権限グループのユーザ］ボックスには、ジョブネットワーク開発者グループに移動可能なユーザ名が表示されます。

5. ［他の権限グループのユーザ］ボックスからuserAを選択して、［<<追加］ボタンをクリックします。

6. userAが一般ユーザグループからジョブネットワーク開発者グループに移動します。

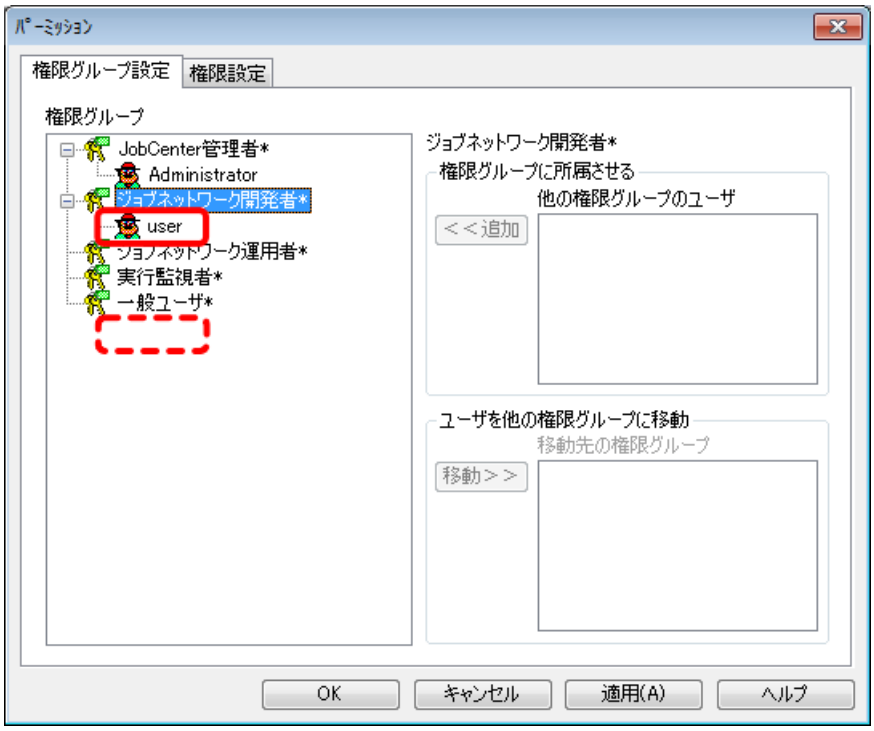


図10.3 userAのグループ移動後の画面例

7. これをユーザごとに繰り返し、所属するユーザの変更を行います。

8. 変更が終了したら最後に［適用］ボタンまたは［OK］ボタンをクリックして設定を反映させます。

この方法では［他の権限グループのユーザ］ボックスから複数のユーザを選択して同時に移動させることも可能です。

10.1.2. ユーザを他の権限グループに移動する

特定のユーザ（userA）を一般ユーザグループから他の権限グループに移動させます。

1. ［権限グループ］リストからuserAを選択します。

2. ［移動先の権限グループ］ボックスにuserAが移動可能な権限グループ名が表示されます。

3. ［移動先の権限グループ］ボックスから「ジョブネットワーク開発者」を選択して、［移動>>］ボタンをクリックします。

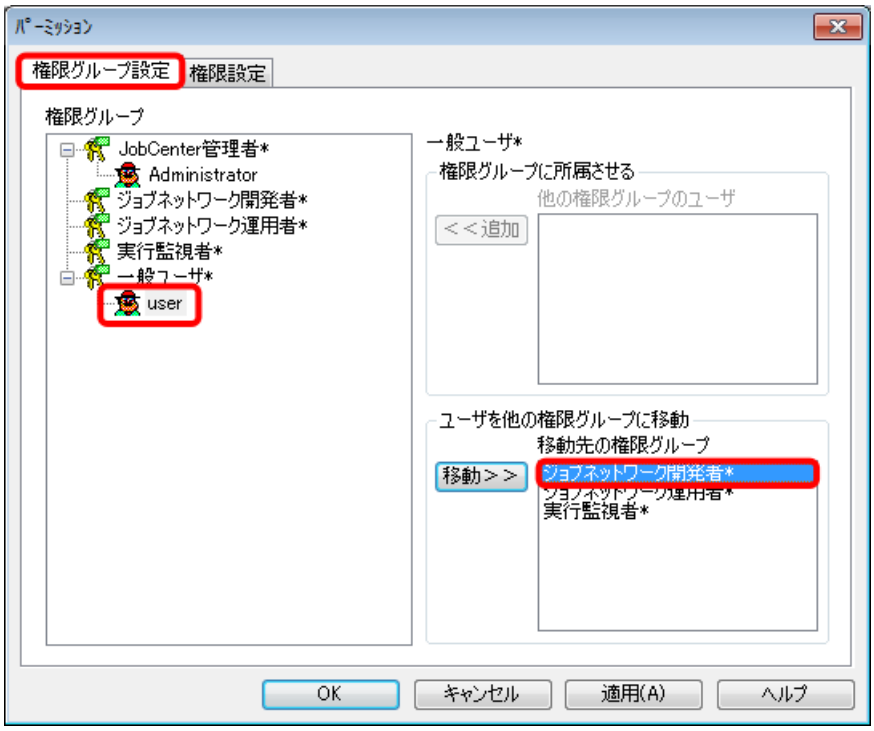


図10.4 「ユーザを他の権限グループに移動」を利用したユーザのグループ移動画面例

4. userが一般ユーザグループからジョブネットワーク開発者グループに移動します。

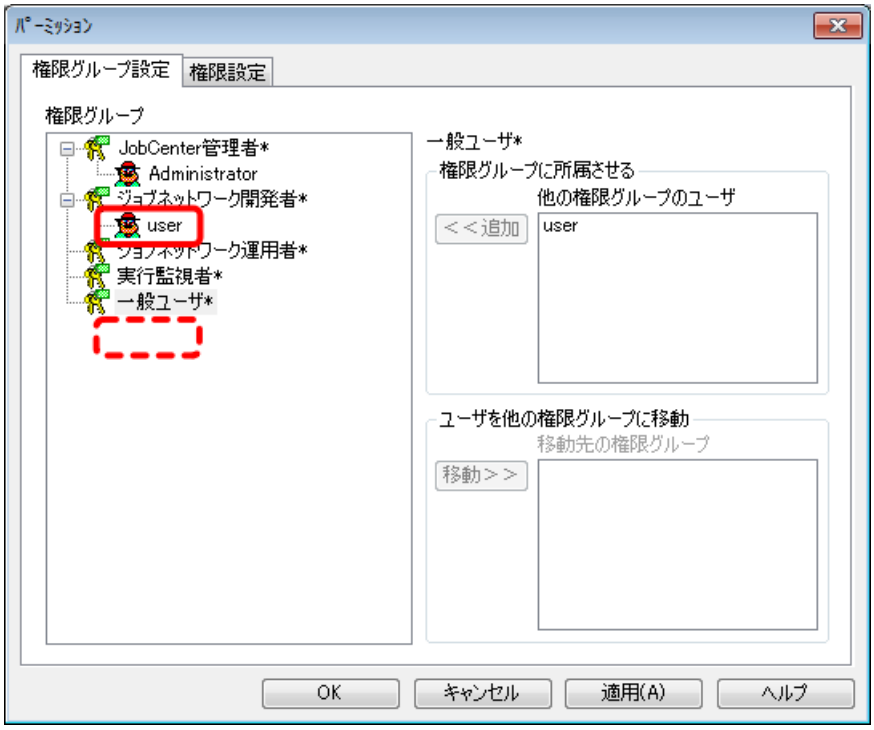


図10.5 userのグループ移動後の画面例

5. これをユーザごとに繰り返し、所属するユーザの変更を行います。

6. 変更が終了したら最後に［適用］ボタンか［OK］ボタンをクリックして設定を反映させます。

権限グループへの所属対象となるユーザは、JobCenter　CL/Winからログインしたことのあるユーザだけです。一度もJobCenter　CL/Winからログインしたことのないユーザは［権限グループ］リストに表示されません。

10.2. 権限グループを作成する

デフォルトで用意されている権限グループ以外にも新規に権限グループを作成することができます。

また新規に作成した権限グループでは、権限の設定を自由に変更することができます。

10.2.1. 権限グループ名を新規追加する

権限設定画面で、新規に権限グループを追加します。

1. ［パーミッション］ダイアログの［権限設定］タブを開き、［新規追加］ボタンをクリックします。

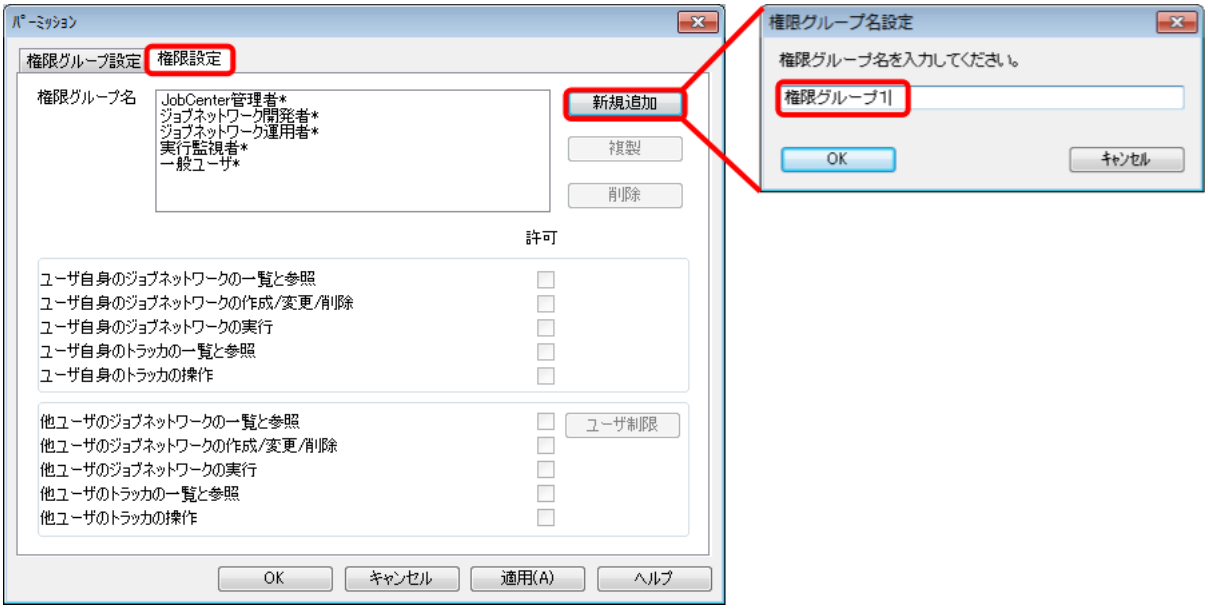


図10.6 権限グループ新規作成画面例

2. ［権限グループ名設定］ダイアログに権限グループ名を入力します。

権限グループ名を設定する際の注意事項

■半角40文字、全角20文字以内で入力可能です。

■名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。また、空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」の文字は使用できません。

3. 権限グループ名を設定後、［OK］ボタンをクリックします。

4. ［権限グループ名］部に新規追加した権限グループ名が表示されます。

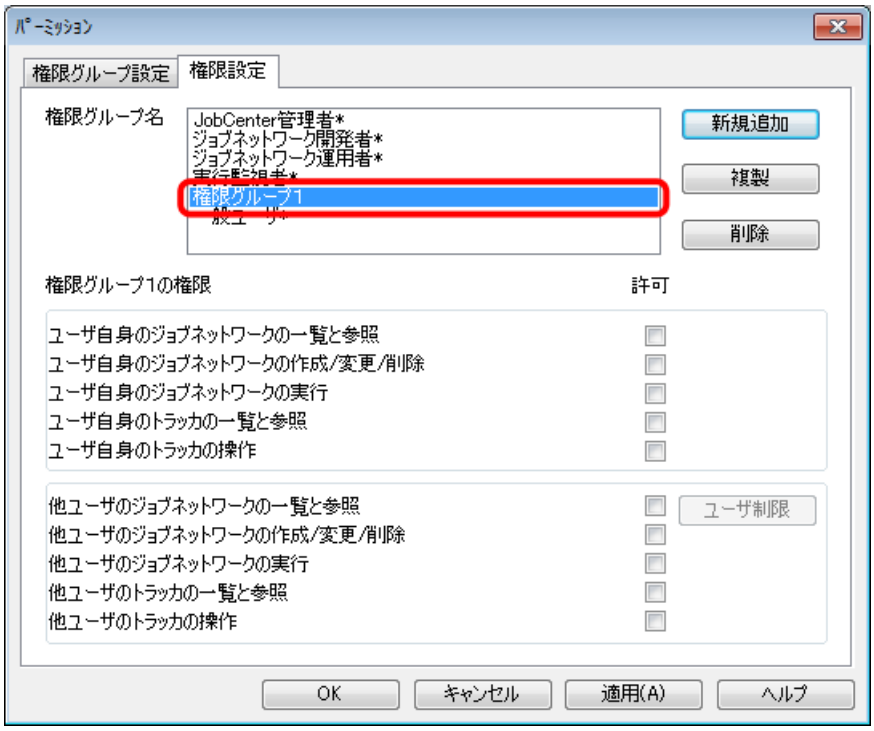


図10.7 ［権限グループ名］新規追加後の画面例

5. 変更が終了したら最後に［適用］ボタンか［OK］ボタンをクリックして設定を反映させます。

10.2.2. 追加した権限グループの権限を設定する

［権限グループ名］部の下側にある「<選択した権限グループの権限>」で許可する項目にチェックを入れて権限を設定します。

新規作成や複製をした段階で［権限グループ設定］タブ側にも反映され、所属するユーザの設定も可能になります。

［権限設定］タブの項目は次のとおりです。

■［複製］ボタン

既存の権限グループの保有する権限、およびユーザ制限の情報をコピーして新しい権限グループを作成することができます。ただし、JobCenter管理者グループは複製できません。

■［削除］ボタン

権限グループを削除します。削除した権限グループに所属していたユーザは、自動的に「一般ユーザ」グループに移動します。ただし、デフォルトの権限グループは削除できません。

■<選択した権限グループ>の権限

選択されている権限グループの権限が表示されます。チェックボックスをクリックすることで権限の設定が可能です。なお、デフォルトの権限グループの場合は確認のみ可能です。

■［ユーザ制限］ボタン

他ユーザのジョブネットワークやトラッカを参照、操作できる権限グループに対して、アクセス可能なユーザを制限することができます。他ユーザに対する、いずれの権限もない権限グループや「JobCenter管理者グループ」には設定できません。

10.3. 他ユーザへのジョブネットワーク、トラッカのアクセス許可を制限する

他ユーザのジョブネットワークやトラッカを参照または操作できる権限グループに対しては、アクセス可能なユーザを制限することができます。

1. ［パーミッション］ダイアログの［権限設定］画面を表示します。

2. 選択した権限グループに許可する権限を選択します。

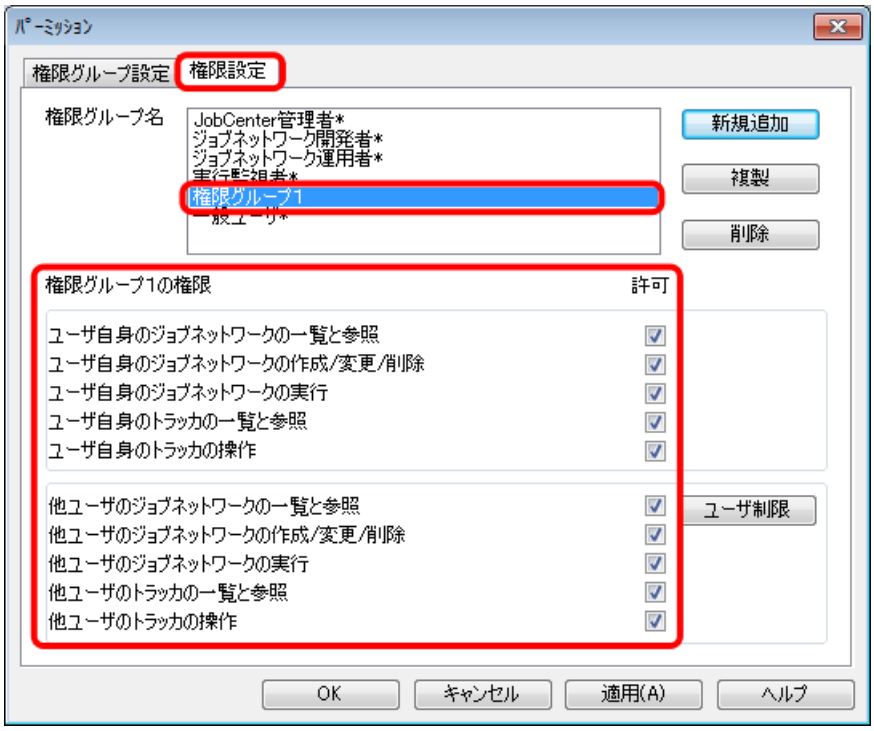


図10.8 選択した権限グループに許可する権限を選択画面例

3. ［ユーザ制限］ボタンをクリックすると、［アクセス許可］ダイアログが開きます。

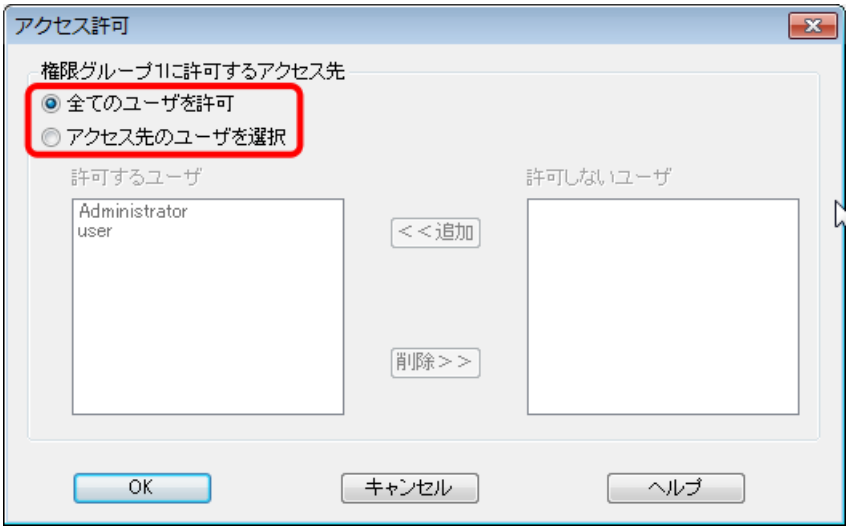


図10.9 ［アクセス許可］ダイアログ初期画面例

4. 「アクセス先のユーザを選択」を選択すると、「許可するユーザ」、「許可しないユーザ」リストが有効になり設定変更できるようになります。どの権限グループも初期状態では「全てのユーザを許可」に設定されています。

5. ここでは、userAを選択し、［削除＞＞］ボタンをクリックします。

6. userAが、許可しないユーザに設定されます。

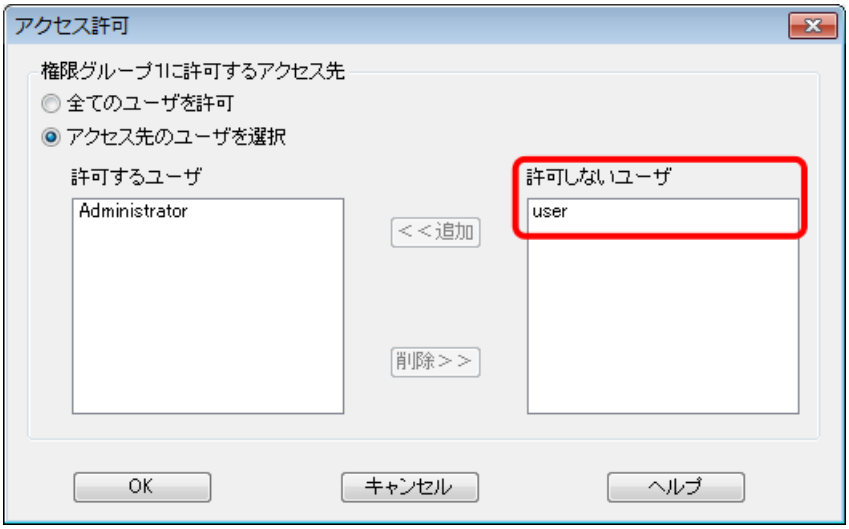


図10.10 ［アクセス許可］設定画面例

7. 設定後、［OK］ボタンをクリックしてください。

アクセス許可の設定の注意事項

■アクセスの許可は、JobCenterにログインしているユーザ自身の操作ではなく、「他ユーザのフレーム」を用いる操作に対して制限を設定する機能です。ユーザ自身の許可の設定については、［パーミッション］ダイアログの権限設定タブの「オリジナル権限グループの権限」欄に表示されている「ユーザ自身の～」のチェックボックスで選択された設定に従います。任意の権限グループの「他ユーザ」のアクセス許可の設定において「許可しないユーザ」にユーザ名が設定されていても影響はありません。

■一度もJobCenter　CL/Winからログインしたことのないユーザを［アクセス許可］ダイアログから設定することはできません。

10.4. 変更した権限設定を反映する

ユーザが所属する権限グループの設定が変更された場合、次の2つのタイミングで新しい権限グループの設定が反映されます。それまでは、ログイン時に取得した権限で動作します。

■サーバへ再接続します（一度ログアウトし、そのあと再ログインする）。JobCenter CL/Winからサーバへの再接続を行うことで新しい権限グループの設定が反映されます。

■パーミッション設定画面を開きます（JobCenter CL/Winからログイン中の場合）。メニューバーの［設定］－［パーミッション設定］を開くことで新しい権限グループの設定が反映されます。

権限グループの設定が反映されたあとは、新しい権限設定に従ってJobCenter CL/Winで操作できる機能が制限または許可されるようになります。

サーバへの接続（ログイン）後、設定されていた権限が削除された場合、権限設定が反映されるまでは、次のような動作をしますので注意してください。

■ジョブネットワークの作成、変更および削除の権限が削除された場合は、それらの操作に関連するメニューやボタンは有効です。ただし、その操作や保存などを行ったときにエラーになります。

■一覧と参照の権限が削除されても、ジョブネットワークやトラッカの一覧表示と参照や、トラッカの自動更新は可能です。

■ジョブネットワークの実行やトラッカの操作の権限が削除されても、ジョブネットワークの実行やトラッカ操作は可能です。

第11章 エラー発生時のメール送信機能の設定方法

ジョブネットワークのパラメータを設定して実行されたジョブ／部品でエラーが発生したときに、指定された宛先にメールを送信してエラーを通知することが可能です。

JobCenterではSMTPプロトコルによりメール送信を行います。

11.1. 使用するSMTPサーバの設定

この設定を変更するには、管理者権限のアカウント（UMS　Mode）でログインする必要があります。

1. メニューバーの［設定］－［システム環境設定］を選択します。

2. ［システム環境設定］ダイアログが表示されます。

3. ［SMTPサーバ］タブを選択します。

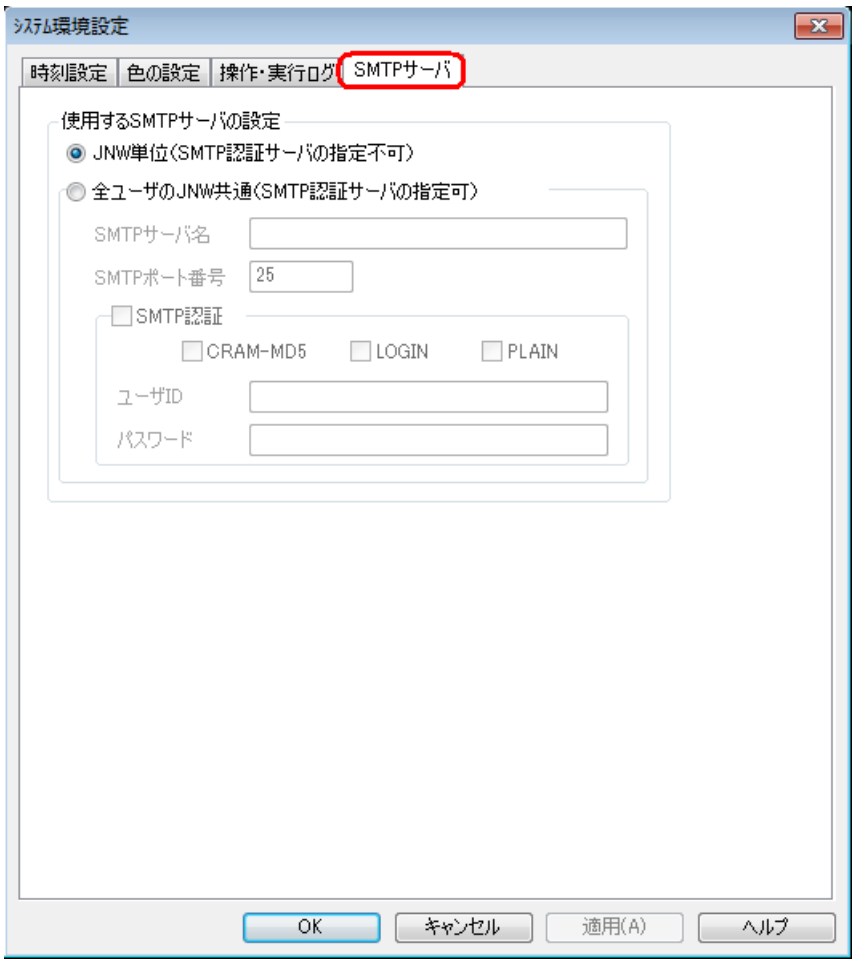


図11.1 「システム環境設定」ダイアログ－「SMTPサーバ」タブ画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

SMTPサーバの設定項目は、次のとおりです。

■使用するSMTPサーバの設定

SMTPサーバの指定方法を選択します。下記の２つの選択肢があります。

- ジョブネットワークごとに SMTP サーバを指定する
- 全ユーザの全ジョブネットワークで共用する、統一の SMTP サーバを指定する

SMTPユーザ認証機能を利用する場合は、後者の方法を選択してください。前者の方法の場合、SMTPユーザ認証機能を利用できません。

JNW単位（SMTP認証サーバの指定不可）	ジョブネットワークごとにSMTPサーバを指定します。 SMTPサーバの指定はジョブネットワークの「パラメータ」ダイアログで行います。
全ユーザのJNW共通(SMTP認証サーバの指定可)	全ユーザの全ジョブネットワークで共通に使うSMTPサーバを指定します。 こちらの方法を選択した場合、下記の[SMTPサーバ名]および[SMTPポート番号]の指定が必須になります。 なおメールを送信する/しない、送信先メールアドレス等のパラメータは、ジョブネットワークごとの「パラメータ」ダイアログで指定します。

■SMTPサーバ名

SMTPサーバを指定します。SMTPサーバのホスト名、またはIP(v4)アドレスを入力します。

256バイトまで入力することができます。

SMTPサーバ名には、「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」は使用できません。

■SMTPポート番号

SMTPサーバ側のポート番号を指定します。

1～65535の値が指定可能です。既定値は25です。

■SMTP認証

SMTPユーザ認証機能を利用する場合に選択します。選択した場合、下記のユーザ認証方式のいずれか一つ以上の選択と、［ユーザID]および[パスワード]の指定が必須になります

CRAM-MD5, LOGIN, PLAIN

ユーザ認証方式を複数選択した場合は、CRAM-MD5→LOGIN→PLAINの優先順位で、順次SMTPサーバへの認証を試みます。

■ユーザID

SMTPユーザ認証機能で使用するユーザIDを指定します。

255バイトまで入力可能です。

ユーザIDには、「"」「#」「'」 は使用できません。

■パスワード

SMTPユーザ認証機能で使用するユーザIDに対応するパスワードを指定します。

64バイトまで入力可能です。

11.2. 指定されたあて先にメールでエラーを通知させる

1. メール送信の設定を行うには、ジョブネットワークの「パラメータ」ダイアログを開きます。
2. ［ユーザフレーム］－［ジョブネットワーク一覧］タブを開いている状態で、［ジョブネットワーク］アイコンを右クリックして［パラメータ］を選択します。あるいは、ジョブネットワークフローを開いた状態で部品以外の領域を右クリックして［パラメータ］を選択します。
3. 「パラメータ」ダイアログの「メール設定」タブを選択し、設定を行います。

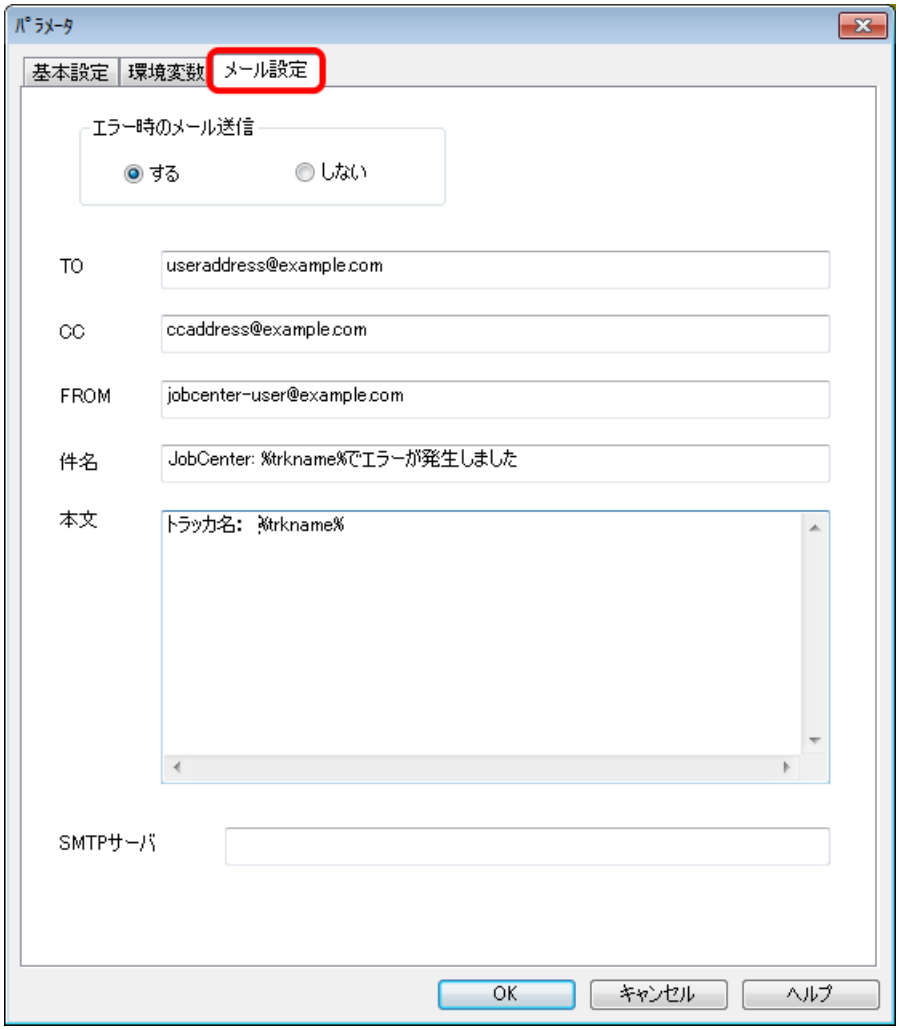


図11.2 「パラメータ」ダイアログ－「メール設定」タブ画面例

4. 設定後、［OK］ボタンをクリックします。

メール設定の設定項目は、次のとおりです。

■エラー時のメール送信

ジョブネットワークでエラー発生時にメールを送信するか設定します。

する	ジョブネットワークを実行中にエラー状態になった場合に、設定された内容でメール送信します。
しない	ジョブネットワークを実行中にエラー状態になってもメール送信を行いません。 デフォルトで選択されています。

■TO

メールの宛先アドレスを設定します。カンマ「,」で区切って、複数のアドレスを指定することができます。

1024バイトまで入力することができます。

「エラー時のメール送信」で「する」を選択している場合、必ず入力してください。

■CC

メールの宛先アドレスを設定します。カンマ「,」で区切って、複数のアドレスを指定することができます。

1024バイトまで入力することができます。

■FROM

メールの送信元アドレスを設定します。

250バイトまで入力することができます。

「エラー時のメール送信」で「する」を選択している場合、必ず入力してください。

SMTPユーザ認証機能を利用する場合、ユーザ認証に使うユーザID（[システム環境設定]ダイアログの[SMTPサーバ]タブで設定）に対応したメールアドレスとは異なるメールアドレスを設定すると、メールが送信されない場合があります(SMTPサーバのスパムメール対策のため)。

■件名

送信するメールの件名を入力します。

件名には、マクロを使用することができます。使用できるマクロは、ジョブネットワーク名、トラッカ名、ジョブ部品名、ユーザ名、日付および時刻、終了コードです。詳細については「11.5 件名、本文に使用可能なマクロ一覧」を参照してください。

1024バイトまで入力することができます。

■本文

送信するメールの本文を入力します。

マクロを使用することができます。使用できるマクロは、ジョブネットワーク名、トラッカ名、ジョブ部品名、ユーザ名、日付および時刻、終了コード、標準出力、標準エラー出力です。詳細については、「11.5 件名、本文に使用可能なマクロ一覧」を参照してください。

1024バイトまで入力することができます。

■SMTPサーバ

SMTPサーバを指定します。SMTPサーバのホスト名、またはIP(v4)アドレスを入力します。

[システム環境設定]ダイアログの[SMTPサーバ]タブにおいて、「JNW単位(SMTP認証サーバの指定不可)」が選択されている場合のみ、編集できます。ここで指定するSMTPサーバは、SMTPユーザ認証機能を使用しないサーバでなければなりません。

256バイトまで入力することができます。

「エラー時のメール送信」で「する」を選択している場合、必ず入力してください。

■入力可能な文字について

「TO」、「CC」には2バイト文字、空白、および以下の文字を入力することはできません。

「(」「)」「+」「:」「"」「<」「>」

「FROM」には2バイト文字、空白、および以下の文字を入力することはできません。

「(」「)」「+」「:」「"」「<」「>」「,」

「SMTPサーバ」には2バイト文字、空白、および以下の文字は入力できません。

「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「/」「:」「;」「<」

「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」

上記の文字を入力し［OK］ボタンをクリックした場合には、エラーダイアログが表示されます。

■メールアドレスについて

送付先のメールアドレスを入力します。

カンマ「,」で区切って複数のアドレスを指定する場合は、アドレスを64個まで設定することができます。個々のメールアドレスの最大入力文字数は250バイトです。最大入力文字数を超過し［OK］ボタンをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。

11.3. メール送信機能に関する注意事項

■1つのトラッカについてメール送信が行われるのは、初めにエラー状態になったジョブ部品の実行終了時の一度だけです。ジョブネットワークのパラメータ設定によって、トラッカがエラー状態になってもジョブの実行が継続される場合も、最初にエラー状態になった部品より後ろの部品で再びエラー状態になっても、再度メールが送信されることはありません。ただし、トラッカの実行中などにマシンがシャットダウンしたり、JobCenterのサービスが停止したりした場合などは、メールが複数回送信される可能性があります。

■ジョブネットワークごとに異なるSMTPサーバを指定したい場合、SMTPユーザ認証機能を利用することはできません。[システム環境設定]ダイアログの[SMTPサーバ]タブで、使用するSMTPサーバの設定を「JNW単位(SMTP認証サーバの指定不可)　」にした場合には、SMTP認証サーバは使用できません。

■［メール設定］タブの［FROM］欄に不正なメールアドレスを指定している場合、受信されたメールのFROMアドレスがジョブネットワークのパラメータで設定した内容と異なる可能性があります。メールサーバの種類によっては送信されたメールのFROMアドレスにドメイン名を付加するなどの操作が行われるためです。

■%stdout%、%stderr%マクロを使用するときは、次に挙げる操作は行わないでください。マクロが正しく置換されない可能性があります。

- 単位ジョブパラメータの標準出力先、および標準エラー出力先に同じファイル名を指定する
- デフォルトで作成されるファイル名を異なる出力先に指定する

11.3.1. サブジョブネットワーク内でエラーが発生したときの動作

サブジョブネットワーク（サブJNW）を持つジョブネットワークにおいて、サブジョブネットワークからメールが送信されるように設定されている場合、サブジョブネットワーク内のジョブでエラーが発生したときは、親ジョブネットワークのメール設定とは無関係にメールが送信されます。

このとき、親ジョブネットワークからもメールが送信されるように設定されていた場合、サブジョブネットワーク内のジョブでエラーが発生した時点でサブジョブネットワークからと親ジョブネットワークからとの計2通のメールが送信されます。

11.4. メール送信機能に関する制限事項

■半角カタカナは、送信するメールの件名、および本文には使用できません。また、日本語以外のマルチバイト文字は、本文には使用できません。これにより、ジョブ名、ジョブネットワーク名に半角カタカナを含む場合、%jobname%、%jnwname%、%trkname%の各マクロが正しく展開されない場合があります。

■メール送信に失敗しても、メール送信のリトライは行いません。メール送信機能は、SMTPサーバにメールを送信できたことをもってメール送信に成功とします。SMTPサーバがダウンしていた場合や、SMTPサーバの設定が不適切であった場合などは、メール送信に失敗となり、エラーログが記録されます。

■メール設定のTO、CCに不正な（存在しない）メールアドレスを指定している場合には、メールサーバに対するメール送信動作は成功するため、エラーログは記録されません。

■メールにBCC、優先度を設定できません。

■メール送信を設定したジョブネットワークの実行中に、マシンがシャットダウンしたり、JobCenterサービスが停止したりした場合などは、当該ジョブネットワークに設定された内容のメールが2回以上送信される可能性があります。

■1つのトラッカについて再実行操作などにより複数回メール送信を行う場合の上限は、10000回です。これを超えた場合、メール送信は失敗となります。

■言語設定にUNICODEを利用しているときは、外字は'?'に変換されます。

11.5. 件名、本文に使用可能なマクロ一覧

メールの「件名」、「本文」には、次に示すマクロを使用することが可能です。

使用可能なマクロは次のとおりです。なお、マクロは、大文字、小文字を区別しません。

表11.1 件名、本文に使用可能なマクロ

マクロ形式	概　要	説　明
%jnwname%	ジョブネットワーク名	ジョブネットワーク名を表示します。
%trkname%	トラッカ名	トラッカ名を表示します。
%jobname%	ジョブ名	エラーの発生したジョブ部品名を表示します。
%username%	ユーザ名	ジョブネットワークを投入したユーザ名を表示します。
%errortime%	日付・時刻	エラーが発生しメールを送信した時刻を表示します。 形式：YYYYMMDD HH:MM:SS
%jnwstarttime%	日付・時刻	ジョブネットワークの実績開始時刻を表示します。 形式：YYYYMMDD HH:MM:SS
%jobstarttime%	日付・時刻	エラーの発生したジョブ部品の開始時刻を表示します。 形式：YYYYMMDD HH:MM:SS
%jobendtime%	日付・時刻	エラーの発生したジョブ部品の終了時刻を表示します。 形式：YYYYMMDD HH:MM:SS
%exitcode%	終了コード	エラーの発生したジョブの終了コードを表示します。
%stdout%	標準出力	単位ジョブの標準出力に出力された内容を表示します。（本文のみ。件名には使用できません）
%stderr%	標準エラー出力	単位ジョブの標準エラー出力に出力された内容を表示します。（本文のみ。件名には使用できません）

表11.1「件名、本文に使用可能なマクロ」の%errortime%, %jnwstarttime%, %jobstarttime%, %jobendtime%マクロは、ジョブネットワーク投入先マシンのローカル時刻を返します。

%stdout%と%stderr%のマクロ展開後の最大サイズは、512キロバイトです。512キロバイトを越えた部分については無視されます。

標準出力／標準エラー出力からマクロに含む箇所をそれぞれ1箇所だけ指定することができます。指定するためには、次の例のように指定したい箇所を「MAILVAR」という文字列（大文字必須）で囲んでください。

```
…
MAILVAR
…
…
MAILVAR
…
```

このように標準出力／標準エラー出力中に「MAILVAR」で囲まれた箇所がある場合、マクロ（%stdout%、%stderr%）は囲まれた部分のみを抜き出してメール本文に展開します。

MAILVARが1つだけ出力されている場合、指定範囲がないものと見なし、標準出力／標準エラー出力の先頭から512キロバイトまでを読み込みます。MAILVARが3回以上出力されている場合は、出力結果の先頭から見て最初と2番目のMAILVARで囲まれた部分のみをメール本文に展開し、それ以外の部分を無視します。必ずMAILVARで一箇所だけ囲むようにしてください。

■単位ジョブスクリプトの記述例

```
…
echo MAILVAR
…
…
echo MAILVAR
…
```

標準出力には、次のように出力されます。

```
…
MAILVAR
…
…
MAILVAR
…
```

標準エラー出力に指定するには、

- UNIXの場合

```
…
echo MAILVAR 1>&2
samplecommand
set RET=$?        (bシェル系の場合は RET=$? と記述)
echo MAILVAR 1>&2
exit $RET
```

- Windowsの場合

```
…
echo MAILVAR 1>&2
samplecommand
set RET=%ERRORLEVEL%
echo MAILVAR 1>&2
exit %RET%
```

上記のようにスクリプトを記述して標準エラー出力にMAILVARの文字列を出力させます。

なお単位ジョブの終了コード(exitで返す値)が、実行したコマンド／バッチファイル(samplecommand)の戻り値と一致するようにしてください。

Windowsでは、不要なコマンド行が出力されないようecho offを設定してください。

11.6. エラー発生時の動作一覧

実行中のジョブネットワークに何らかの異常が発生し、ジョブネットワークがエラー状態になった場合のメール送信動作について説明します。

最初にエラー状態になったジョブ部品の実行が終了した時点で、設定された内容でメールを送信します。

メール送信を行うときのトラッカの状態を次に示します。

表11.2 メール送信を行うトラッカ状態

トラッカ状態	内　容
エラー停止	エラー発生のため実行を停止しています。
実行中異常	エラーが生じていますが、実行は継続しています。
実行中異常［待合］	エラー状態で実行中ですが、待ち合わせ部品で待ち合わせを行っています。
異常終了	エラーが発生して終了しました。
中断	異常が発生し、実行は中断されました。

エラー状態になるジョブ部品とマクロ（%jobname%）の置き換え結果について次に示します。

表11.3 エラー状態になるジョブ部品とマクロの置き換え結果

ジョブ部品タイプ	マクロ置換後の表示
単位ジョブ	実際にエラーが発生した単位ジョブ部品名を表示します。
ERPジョブ	実際にエラーが発生したSAP ERPジョブ部品名を表示します。
BIジョブ	実際にエラーが発生したSAP BIジョブ部品名を表示します。
PCジョブ	実際にエラーが発生したSAP PCジョブ部品名を表示します。
WOBSジョブ	実際にエラーが発生したWOBSジョブ部品名を表示します。
ダイアログ	実際にエラーが発生したダイアログ部品名を表示します。
イベント送信	実際にエラーが発生したイベント送信部品名を表示します。
イベント受信	実際にエラーが発生したイベント受信部品名を表示します。
サブジョブネットワーク	サブジョブネットワーク名と実際にエラーが発生したジョブ部品名をコロンでつないだ文字列を表示します。 （例）サブジョブネットワーク「SubJNW」の単位ジョブ「Job1」でエラーが発生した場合、「SubJNW:Job1」となります。
コンティニュー	部品タイプ名（contjob）、同じジョブに飛ぶコンティニュー部品の中でのジョブネットワークフロー内の作成順、飛び先ジョブ名をアンダーラインでつないだ文字列を表示します。 （例）飛び先ジョブが「Job1」で、「Job1」を飛び先ジョブとするコンティニュー部品の中で2番目に作成されたのであれば、「contjob_2_Job1」となります。
ジョブ待ち合わせ	部品タイプ名（waitjob）、ジョブ待ち合わせ部品のフロー内での作成順、ジョブ待ち合わせ部品名をアンダーラインでつないだ文字列を表示します。 （例1）ジョブ待ち合わせ部品が、待ち合わせ対象ジョブと同じジョブネットワーク中に存在する場合は、ジョブネットワーク名は表示されず、「waitjob_1_job」となります。

	（例2）エラーが発生したジョブ待ち合わせ部品（待ち合わせジョブは「JNW1:JNW2:job」）が、待ち合わせ部品の中で1番目に作成されたのであれば、「waitjob_1_JNW1:JNW2:job」となります。 ジョブの待ち合わせ部品で、他ユーザおよび他ジョブネットワークのジョブの待ち合わせが可能です。このとき、マクロ展開結果待ち合わせ対象ジョブ部分は次の形式で表示されます。　:<ユーザ名>:<JNW名>:<ジョブ名>
ジョブネットワーク待ち合わせ	部品タイプ名（waitsubjnw）、ジョブネットワーク待ち合わせ部品のフロー内の作成順、待ち合わせサブジョブ名をアンダーラインでつないだ文字列が表示されます。 （例）エラーが発生したジョブネットワーク待ち合わせ部品（待ち合わせサブジョブネットワークはsubJNW1）が、待ち合わせ部品の中で4番目に作成されたのであれば、「waitsubjnw_4_subJNW1」となります。 ジョブの待ち合わせ部品で、他ユーザのジョブネットワークおよび自ユーザの他のジョブネットワークのジョブの待ち合わせが可能です。このとき、マクロ展開結果待ち合わせ対象ジョブ部分は次の形式で表示されます。　:<ユーザ名>:<JNW名>
外部ファイル待ち合わせ	部品タイプ名（waitexfile）、外部ファイル待ち合わせ部品のジョブネットワークフロー内の作成順、待ち合わせファイル名をアンダーラインでつないだ文字列を表示します。 （例）エラーが発生した外部ファイル待ち合わせ部品（待ち合わせファイル名はaaa.txt）が、待ち合わせ部品の中で1番目に作成されたのであれば、置換後は「waitexfile_1_aaa.txt」となります。
タイム待ち合わせ	部品タイプ名（waittime）、タイム待ち合わせ部品の作成順、待ち合わ時刻（HH:MM）をアンダーラインでつないだ文字列を表示します。 （例）エラーが発生したタイム待ち合わせ部品（待ち合わせ時刻は00:01）が、待ち合わせ部品の中で5番目に作成されたのであれば、置換後は「waittime_5_00:01」となります。

11.7. トラッカの操作とメール送信動作の対応一覧

［トラッカ一覧］ウィンドウにおいてトラッカを直接操作した場合の操作メニューとメール送信動作の対応について一覧を示します。(直接操作とは、トラッカを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから操作を行うことです)

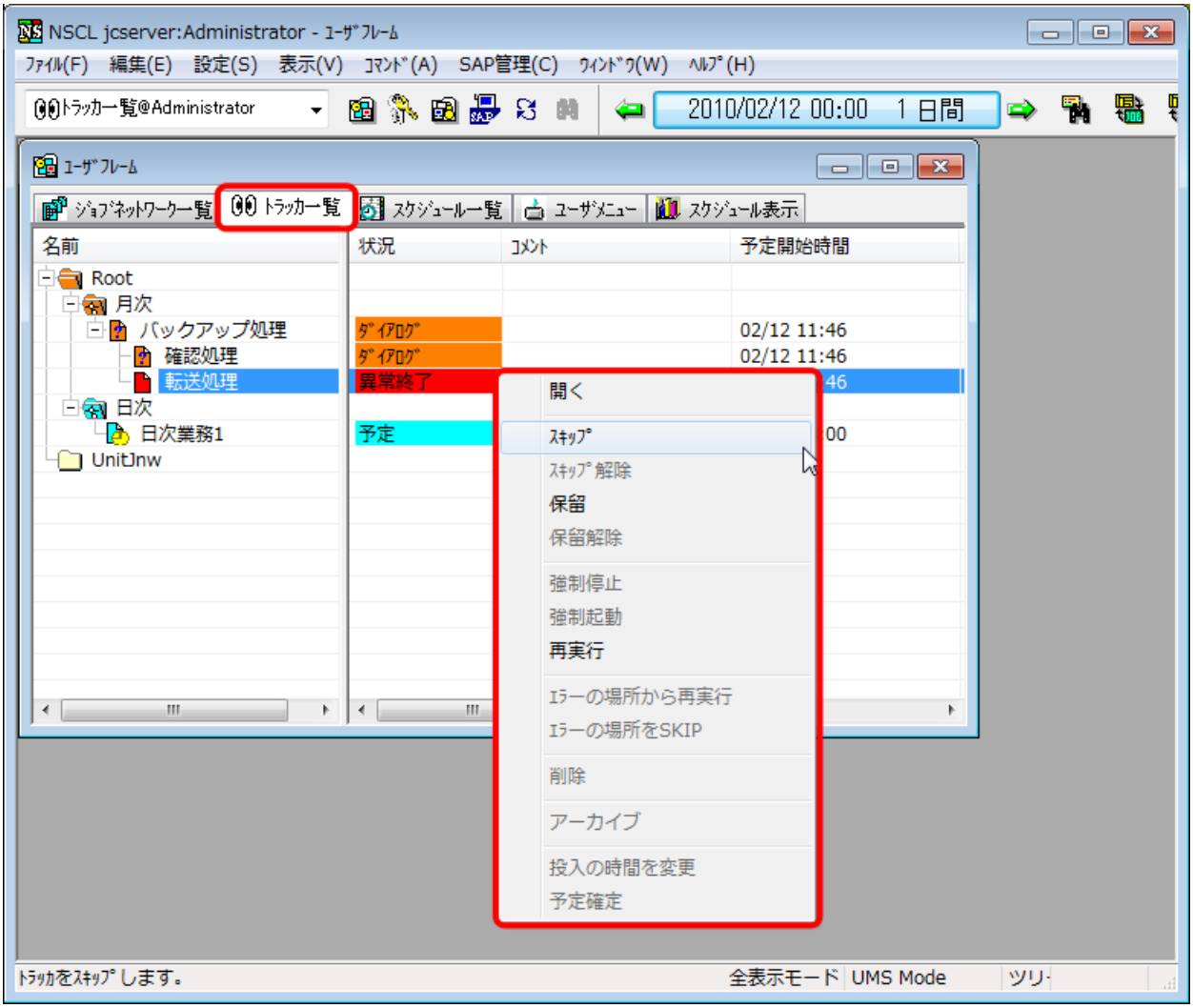


図11.3 トラッカを直接操作した画面例

表11.4 トラッカ操作メニューとメール送信動作

操作メニュー	送信動作
スキップ	メールを送信します。注1
スキップ解除	メールを送信しません。
保留	メールを送信しません。
保留解除	メールを送信しません。
強制停止	メールを送信します。
強制起動	起動されたトラッカがエラー状態になった時点で、メールを送信します。
再実行	メールを送信します。注2
エラーの場所から再実行	エラーの場所以降のジョブ部品が再度エラーになっても、メールを送信しません。

エラーの場所をSKIP	エラーの場所以降のジョブ部品が再度エラーになっても、メールを送信しません。
削除	メールを送信します。注1
アーカイブ	メールを送信しません。

注1　実行中のトラッカに対するスキップ操作または削除操作おいては、JobCenterがトラッカを一旦エラー停止させてからスキップ、または削除するため、本操作が行われたトラッカからメールが送信されます。

注2　実行中のトラッカに対する再実行操作では、JobCenterがトラッカを一旦エラー停止させてから再行を行うため、本操作が行われたトラッカからメールが送信されます。再実行されたトラッカにエラーが発生した場合、エラーが発生したジョブ部品の実行終了時点でメールが送信されます。

トラッカのフロー画面からジョブ部品を直接操作した場合の操作メニューとメール送信動作の対応について一覧を示します。

表11.5 トラッカフロー画面の操作とメール送信動作

ジョブ部品	操作メニュー	動作説明
単位ジョブ	スキップ	正常実行中の単位ジョブの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	強制停止	メールを送信します。
	強制起動	起動された単位ジョブ以降でエラーが発生した場合、メールを送信します。
	再実行	正常実行中の単位ジョブの場合、メールを送信します。
	リスタート	メールを送信しません。
	コントロール解除	メールを送信します。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	正常実行中の単位ジョブの場合、メールを送信します。
ERPジョブ	スキップ	正常実行中のERPジョブの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	キャンセル	正常実行中のERPジョブの場合、メールを送信します。
	強制実行	メールを送信しません。
	実行（IMMEDIATELY）	メールを送信しません。
	実行（ASAP）	メールを送信しません。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。

	ERPジョブパラメータ	メールを送信しません。
BIジョブ、PCジョブ	スキップ	メールを送信しません。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	強制実行	メールを送信しません。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
WOBSジョブ	スキップ	正常実行中のWOBSジョブの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	強制停止	メールを送信します。
	強制起動	起動されたWOBSジョブ以降でエラーが発生した場合、メールを送信します。
	再実行	正常実行中のWOBSジョブの場合、メールを送信します。
	コントロール解除	メールを送信します。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	正常実行中のWOBSジョブの場合、メールを送信します。
サブジョブネットワーク	スキップ	正常実行中のサブジョブネットワークの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	強制停止	メールを送信します。
	強制起動	起動されたサブジョブネットワーク以降でエラーが発生した場合、メールを送信します。
	再実行	正常実行中のサブジョブネットワークの場合、メールを送信します。
ダイアログ	スキップ	メールを送信しません。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	Ok	メールを送信しません。
	Error	メールを送信します。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。
コンティニュー	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。

ジョブネットワーク待ち合わせ	スキップ	正常実行中のジョブネットワーク待ち合わせの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。
ジョブ待ち合わせ	スキップ	正常実行中のジョブ待ち合わせの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。
外部ファイル待ち合わせ	スキップ	正常実行中の外部ファイル待ち合わせの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。
タイム待ち合わせ	スキップ	正常実行中のタイム待ち合わせの場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。
イベント送信	スキップ	正常実行中のイベント送信の場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	強制停止	メールを送信します。
	強制起動	メールを送信しません。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。
イベント受信	スキップ	正常実行中のイベント受信の場合、メールを送信します。
	スキップ解除	メールを送信しません。
	保留	メールを送信しません。
	保留解除	メールを送信しません。
	強制停止	メールを送信します。
	強制起動	メールを送信しません。
	再実行	メールを送信しません。
	正常終了扱いに変更	メールを送信しません。
	削除	メールを送信しません。

第12章 ダイアログ一覧

JobCenter CL/Winを操作したときに表示されるダイアログおよびダイアログ内のタブについて次に説明します。（ダイアログについては[ダイアログ名]、タブについては<タブ名>で表記しています）

表12.1 JobCenter CL/Win接続のダイアログ

項レベル	ダイアログ名	機能説明	章番号
－	[サーバへの接続]	サーバへ接続します。	2.3

表12.2 メニューバー（共通）のダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
[ファイル] -[インポート]	[JNWのインポート]	ジョブネットワークをインポートします。	9.4
	[カレンダのインポート]	カレンダをインポートします。	9.5
	[スケジュールのインポート]	スケジュールをインポートします。	9.7
[ファイル] -[エクスポート]	[JNWのエクスポート]	ジョブネットワークをエクスポートします。	9.1
	[カレンダのエクスポート]	カレンダをエクスポートします。	9.2
	[スケジュールのエクスポート]	スケジュールをエクスポートします。	9.3
[設定]	[通信タイムアウト時間設定]	GUI画面からサーバへ接続する際のタイムアウト時間を設定します。	2.3.4
	[マシングループ]	管理者が管理対象のマシンの追加と削除を行います。	－
[設定] -[パラメータの設定]	[ジョブネットワークのデフォルトパラメータ] -<基本設定>	現在ジョブネットワークにデフォルトで設定されているパラメータの参照および変更ができます。	－
	[ジョブネットワークのデフォルトパラメータ] -<メール設定>	現在ジョブネットワークにデフォルトで設定されているエラー発生時のメール送信に関するパラメータの参照および変更ができます。	－
	[単位ジョブのデフォルトパラメータ] -[実行設定]	現在ジョブにデフォルトで設定されている実行条件の参照および変更ができます。	－
	[単位ジョブのデフォルトパラメータ] -[UNIXパラメータ]	現在ジョブにデフォルトで設定されているUNIXパラメータ[プロセス単位]の参照および変更ができます。 UNIX上でのみ有効です。	－
[設定] -[パラメータの設定]	[単位ジョブのデフォルトパラメータ]	現在ジョブにデフォルトで設定されている標準出力の出力先ファイル名などの出力先、変数を引き継ぐ場合のパラメータの参照および変更ができます。	－

	-[結果]		
	[単位ジョブのデフォルトパラメータ] -[クリティカルポイント警告]	現在ジョブにデフォルトで設定されている警告メッセージ出力に関するパラメータの参照および変更ができます。	−
	[単位ジョブのデフォルトパラメータ] -[その他]	現在ジョブにデフォルトで設定されているその他のパラメータの参照および変更ができます。	−
	[ERPジョブのデフォルトパラメータ]	現在ERPジョブにデフォルトで設定されているパラメータの参照および変更ができます。	−
	[BIジョブのデフォルトパラメータ]	現在BIジョブにデフォルトで設定されているパラメータの参照および変更ができます。	−
	[ダイアログのデフォルトパラメータ]	現在ダイアログ部品にデフォルトで設定されているパラメータの参照および変更ができます。	−
	[イベント送信のデフォルトパラメータ]	現在イベント送信部品にデフォルトで設定されているパラメータの参照および変更ができます。	−
	[イベント受信ののデフォルトパラメータ]	現在イベント受信部品にデフォルトで設定されているパラメータの参照および変更ができます。	−
[設定] -[パーミッション]	<権限グループ設定>	用意された権限グループや、任意に追加したユーザ定義の権限グループに各ユーザを所属させることにより、各ユーザに対して適切なアクセス権限を与えます。	10.1
	<権限設定>	デフォルトで用意されている権限グループ以外にも新規に権限グループを作成できます。 また、他ユーザのジョブネットワークやトラッカを参照または操作できる権限グループに対して、アクセス可能なユーザを制限できます。	10.2, 10.3
[SAP]管理	[レポート検索]	接続先名、ABAPプログラム名を指定して、ABAPレポートを検索します。	−
	[ERPジョブ検索]	接続先名、ユーザ名、ジョブ名のほかステータスや開始時間などを指定してERPジョブを検索します。	−
	[デバイス検索]	接続先名を指定して、デバイスを検索します。	−
	[バリアント一覧]	接続先名、ABAPプログラム名を指定して、バリアントを検索します。	−
	[CRITERIAテーブル設定]	CRITERIAテーブルの定義をします。新規ルールを追加できます。	−
	[イベント発行]	イベントをSAPシステムに対して送信します。	−

[ウィンドウ]	[ユーザの選択]	ユーザ名を指定し、他のユーザフレームを開きます。	2.5.5
[ヘルプ] -[トピックの検索：JobCenter(CL/Win)ヘルプマニュアル]	<目次>	目次から調べたい項目のトピックを探すことができます。	−
	<キーワード>	調べたい項目のキーワードを指定して探すことができます。	−
	<テキスト検索>	入力した語句が使われているトピックを探すことができます。	−
[ヘルプ]	[バージョン情報]	JobCenter　CL/Winのバージョン情報が表示されます。	−

表12.3 ユーザフレームのダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
[ジョブネットワークウィンドウ]	[ジョブネットワークの検索]	入力した文字列に該当する、ツリーの最上部にあるジョブネットワークを検索します。	−
[ジョブネットワークウィンドウ]	[グループの検索]	指定したキーワードに該当する、ツリーの最上部にあるグループを検索します。	−
[ジョブネットワークウィンドウ] -[単位ジョブ]	[ジョブ名の設定]	新規単位ジョブ名の設定、または既存ジョブ名の変更を行います。	3.1.4, 4.1
[ジョブネットワークウィンドウ] -[単位ジョブ] -[単位ジョブパラメータの設定]	<実行設定>	ジョブを実行に関する設定をします。	4.2.2.1
	<実行設定> -[投入キュー]	単位ジョブを投入するキュー名を指定します。	4.2.2.1
	<実行設定> -[実行ジョブユーザ]	ジョブを実行するユーザ名を指定します。	4.2.2.1
	<UNIXパラメータ>	UNIXパラメータ[プロセス単位]を指定します。 UNIX上でのみ有効です。	4.2.2.2
	<結果>	標準出力の出力先ファイル名などの出力先、変数を引き継ぐ場合の設定を指定します。	4.2.2.3
	<クリティカルポイント警告>	警告メッセージを出力します。またそのときの操作を指定します。	4.2.2.4
	<その他>	その他の設定を指定します。	4.2.2.5
[ジョブネットワークウィンドウ] -[ERPジョブ] -[ERPジョブパラメータ]	−	SAP ERPとして実行される単位です。 ERPジョブには、実行するジョブステップや実行ホスト、またERPジョブを実行するユーザ名などの実行条件を設定します。	「4.2.6 ERPジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」
[ジョブネットワークウィンドウ] -[BIジョブ]	−	SAP BIとして実行される単位です。 BIジョブには、BI接続先名、論理インフォパッケージバリアントIDを設定します。	「4.2.7 BIジョブの実行条件（パラメータ）

-[BIジョブパラメータ]			を設定する」
[ジョブネットワークウィンドウ] -[分岐条件]	[分岐条件設定]	終了コードの範囲を設定します。	4.3.3
[ジョブネットワークウィンドウ] -[サブジョブネットワーク]	[サブジョブネットワークの新規]	あらかじめ作成しておいたジョブネットワークから実行するものの名前を選択します。	4.2.8
[ジョブネットワークウィンドウ] -[ダイアログ]	[ダイアログのメッセージ設定]	ユーザに問い合わせるメッセージ、ジョブの実行時間の予測値など、ダイアログのメッセージを設定します。	4.4.1
[ジョブネットワークウィンドウ] -[カレンダ分岐]	[スケジュール設定]	あらかじめ作成しておいたカレンダ分岐用のスケジュールを選択します。	4.3.4
[ジョブネットワークウィンドウ] -[コンティニュー]	[コンティニューの設定]	ジョブネットワークのフロー上の行き先のジョブや最大繰り返し回数などを指定します。	4.3.5
[ジョブネットワークウィンドウ] -[ダイアログ]	[ダイアログのメッセージ設定]	ユーザに問い合わせるメッセージやジョブの実行にかかる時間の予測値を設定します。	4.4.1
[ジョブネットワークウィンドウ] -[ジョブ待ち合わせ]	[ジョブ待ち合わせの設定]	指定した単位ジョブの終了を待ち合わせます。	4.4.2
[ジョブネットワークウィンドウ] -[サブジョブネットワーク待ち合わせ]	[サブジョブネットワーク待ち合わせの設定]	指定したサブジョブネットワークの終了を待ち合わせます。	4.4.3
[ジョブネットワークウィンドウ] -[ファイル待ち合わせ]	[ファイル待ち合わせの設定]	指定したファイルの存在を待ち合わせます。	4.4.4
[ジョブネットワークウィンドウ] -[時間待ち合わせ]	[時間待ち合わせの設定]	指定した時刻まで待ち合わせます。	4.4.5
[ジョブネットワークウィンドウ] -[イベント送信]	[イベント送信名の設定]	イベント送信名を入力します。	4.5.1
	[イベント送信の設定]	イベント送信先のホスト名やイベントIDなどを入力します。	4.5.1
[ジョブネットワークウィンドウ] -[イベント受信]	[イベント受信名の設定]	イベント受信名を入力します。	4.5.2
	[イベント受信の設定]	イベント送信元のホスト名や受信するイベントIDなどを入力します。	4.5.2

[ジョブネットワーク一覧]	[JNWの投入]	ジョブネットワークを即時投入する際のパラメータを設定します。	3.2.1
	[ユーザの選択]	ジョブネットワークをコピーする先のユーザを選択します。 ログインユーザが所属する権限グループが、他ユーザのジョブネットワークに対する権限を持つ場合に表示されます。	「3.3.1.2 異なるユーザ間でコピーする」
	[グループの検索]	ジョブネットワークまたはグループのコピー、移動先やショートカット作成先を同じユーザ内グループで選択します。新規グループも作成できます。	「3.3.2 ジョブネットワークおよびグループを移動する」, 「4.2.9 サブジョブネットワークを配置する」, 「6.9 トラッカー一覧をフィルタリングして表示する」
	[表示順序の変更]	リスト上のグループおよびジョブネットワークの表示順序を変更します。 UnitJnwグループにおいてこの操作を行うことはできません。	−
[ジョブネットワーク一覧] -[パラメータ] -<基本設定>	[投入先キューの設定]	このジョブネットワークに属する単位ジョブのデフォルトの投入先キューを指定します。	3.3.4.1
[ジョブネットワーク一覧] -[パラメータ] -<メール設定>	−	ジョブネットワーク中でエラーが発生した場合にメール送信を行うための、設定の参照および変更ができます。	「3.3.4.3 メール設定」, 「11.2 指定されたあて先にメールでエラーを通知させる」
[スケジュール一覧]	[関連オブジェクト]	関連するジョブネットワークオブジェクトを表示します。	5.1.4.3
[スケジュール一覧] -[スケジュール設定]	[関連JNW]	スケジュールにジョブネットワークを関連付けます。	5.1.3.2

[スケジュール一覧] -[スケジュール設定] -[スケジュール]	[ルール設定]	スケジュール設定のためのルールを入力します	5.1..3.1
[スケジュール表示]	[ページ設定]	印刷の設定を行います。	−
[トラッカ一覧]	[ページ設定]	印刷の設定を行います。	−
	[表示期間設定]	表示する期間の開始日時や期間を指定します。	6.7
[トラッカ一覧] -[コントロールダイアログ]	[マシン名]ボタン-[選択]	表示するトラッカのマシンを選択します。	6.9
	[ユーザ名]ボタン-[選択]	表示するトラッカのユーザを指定します。	6.9
	[グループの検索]	表示するトラッカのグループを選択できます。	6.9
	[ジョブネットワーク名] -[選択]	表示するトラッカのジョブネットワーク名を選択します。	6.9
[トラッカ一覧] -[トラッカ印刷設定]	−	印刷モードや印刷範囲などを設定します。	6.10
[トラッカ一覧] -[投入時間を変更]	−	即時投入されたジョブネットワーク、またはスケジュールされたジョブネットワークの投入時刻を一時的に変更することができます。	6.14.7
[トラッカ一覧] -[Tracker操作の確認]	−	トラッカ一覧から、参照したいジョブネットワークのトラッカを複数選択して同時に操作する際、操作対象のトラッカの確認および操作の決定を行います。	6.14.5
[トラッカ一覧] -[Tracker操作の結果]	−	操作対象のトラッカ総数、操作済みのトラッカの個数、操作に失敗したトラッカの個数などTracker複数操作の結果を確認します。	6.14.5
[トラッカ一覧] -[部品検索画面]	[検索期間設定]	部品検索を行う期間の開始日時、期間などを指定します。	6.19.1
[トラッカ一覧] -[検索結果の印刷]	−	検索結果画面の印刷またはCSV形式ファイルでの出力を指定します。	6.19.6
[トラッカ一覧] -[トラッカ]	<フロー>	ジョブの実行の監視や制御ができます。	6.14.2
	<詳細情報>	単位ジョブの実行情報を参照することができます。	6.14.3
	<ログ>	ジョブネットワークの実行ログ（ジョブの実行や実行操作の履歴）が参照できます。	6.14.4
[トラッカ一覧] − [トラッカ] -<フロー>	<詳細情報>	単位ジョブの実行情報を参照できます。	3.2.2
	<出力結果>	ジョブプロセスから標準出力に出力された内容です。	3.2.2

		単位ジョブのパラメータ設定において、標準出力ファイルを指定していた場合は表示されません。	
	<エラー出力結果>	ジョブプロセスから標準エラー出力に出力された内容です。 単位ジョブのパラメータ設定において、標準エラー出力ファイルを指定していた場合は表示されません。	−
	<スクリプト>	単位ジョブのスクリプトファイルです。 これを変更すると実行前のジョブでは実行時に反映されます。それ以外ではこのジョブが再実行されたときに反映されます。	3.1.5, 4.2.1
	[トラッカー操作の確認]	各制御操作を実行します。 ■スキップ／スキップ解除 ■保留／保留解除 ■サスペンド／サスペンド解除 ■強制停止／強制起動 ■再実行 ■リスタート ■コントロール解除 ■エラーの場所から再実行 ■エラーの場所をSKIP ■削除	6.15, 6.16
	[前後関係表示]	選択された部品の名前、選択された部品の前後関係などを表示します。	6.20
	[スケジュール印刷設定]	各スケジュールまたは実績表示の画面をCSV形式でファイル出力するための設定を行います。	6.21.6
	[スケジュール表示フィルタ設定]	ユーザ名、ジョブネットワーク名、単位ジョブ名を指定して表示内容をフィルタリングすることができます。	6.21.1
	[トラッカ選択ダイアログ]	選択されたジョブネットワークまたは単位ジョブの所属するジョブネットワークのトラッカフローを表示させます。	6.21.1
[ユーザメニュー]	[プロパティ設定]	メニューボタンの名前、メニューボタンと関連するジョブネットワーク名などを設定します。	3.4

表12.4 マネージャフレームのダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
<マシン一覧>	[マシンの追加]	標準リモートマシン構成で追加するマシンを指定します。	7.1.1
	[別名定義]	マシンの別名を定義します。	−

	[マシンID一覧の変更]	[更新]ボタンをクリックすると、マシンIDの情報を最新の状態に更新します。	−
	[ユーザIDのマッピング]	ネットワーク上にある他マシンのマシンIDの定義を行ったあと、ジョブ投入側のマシンのユーザとジョブ実行側のマシンのユーザの関連付けを行います。	7.1.1
	[マシン情報]	正式情報、マシンID、マシンタイプを表示します。	−
<トラッカ一覧@全マシン>	−	マシングループ内のすべてのトラッカを一覧表示します。 アクセスを許可されている他のユーザのトラッカも参照できます。	6.2.3
<カレンダー一覧>	[名前の設定]	新規に作成する名前を設定します。	−
<スケジュール表示@サーバ名>	−	トラッカのスケジュールや実績を日単位、時間単位で表示できます。 アクセスを許可されている他のユーザのトラッカも参照できます。	6.21

表12.5 NQSフレームのダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
−	[バッチキューの追加]	追加するバッチキューを作成します。	7.3
−	[パイプキューの追加]	追加するパイプキューを作成します。	7.5
−	[転送先キュー]	転送先キューの追加と削除を行います。	7.7
<キュー一覧>	−	マシングループに登録されている各マシンのキューの一覧を表示します。	8.1.2
	[キューユーザ]	キューにアクセスできるユーザの追加と削除を行います。	−
	[バッチキューパラメータ] -<キュー>	現在バッチキューに設定されているキューの属性および状態の参照および変更ができます。	−
	[バッチキューパラメータ] -<リクエスト>	現在バッチキューに設定されているエントリ数とスケジュールパラメータの参照および変更ができます。	−
	[バッチキューパラメータ] -<UNIXパラメータ>	現在バッチキューに設定されているUNIXパラメータ(プロセス単位)の参照および変更ができます。 UNIX上でのみ有効です。	−
<リクエスト一覧>	−	現在実行されているリクエストの一覧を表示します。	8.2.2

表12.6 ERPフレームのダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
−	−	待機中のERPジョブの表示を行います。	−

		接続先名の部分をクリックするとその配下のERPジョブを表示します。	

表12.7 他のユーザのフレームのダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
−	[ユーザの選択]	リストから操作したいユーザ名を選択する。	2.5.5

表12.8 ユーザ環境設定のダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
<ユーザ環境設定>	−	ユーザ用トラッカアーカイブやトラッカー覧]表示開始時刻などの設定ができます。	6.8

表12.9 システム環境設定のダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
<システム環境設定>	−	システム環境のパラメータの参照および変更ができます。 デフォルトではJobCenter管理者のみ設定できます。	−
<色の設定>	−	色の設定のパラメータの参照および変更ができます。 デフォルトではJobCenter管理者のみ設定できます。	−

表12.10 サーバの環境設定のダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
[JobCenterサーバの環境設定]	−	JobCenterサーバの環境設定を変更します。	−
	[JobCenterサーバ環境の確認]	JobCenterサーバの環境設定の変更を確認します。	−
	[キューの制御]	JNWキューが作成されます。	−

表12.11 定義編集時のダイアログ

項レベル	ダイアログ/タブ	機能説明	章番号
−	[使用中のオブジェクト]	各定義情報の使用中で、「強制ロック」あるいは「読み取り専用」を選択できます。	−
−	[～Lock実行処理]	「強制ロック」あるいは「読み取り専用」が選択できない場合を示す。	−

第13章 トラッカ操作時に設定可能なパラメータ一覧

トラッカ操作について設定可能なパラメータについて説明します。

表13.1「トラッカ操作時に設定可能なパラメータ一覧」はトラッカ画面で設定変更が可能な項目の一覧です。トラッカ画面で設定変更可能な項目は実行状態でも変更でき、変更した部品が予定状態であれば、その後実行する際に有効になります。

トラッカが予定状態の場合、「トラッカの一時変更機能」によって設定内容を変更することができます。「トラッカの一時変更機能」は、予定状態もしくは予定（確定）状態のトラッカを開き、メニューバーの［ファイル］－［変更］を選択した状態で有効になる機能です（メニューバーの［ファイル］－［変更］にチェックがつきます）。

表13.1 トラッカ操作時に設定可能なパラメータ一覧

部品	項目	設定内容	変更可否
単位ジョブ	スクリプト	スクリプト編集	○
	実行設定	投入キュー	○
		キュー内優先度	○
		ジョブ実行ユーザ	○
	UNIXパラメータ	ナイス値	○
		CPU時間	○
		メモリサイズ	○
		永久ファイルサイズ	○
		データセグメントサイズ	○
		スタックサイズ	○
		コアサイズ	○
	結果	標準出力先	○
		標準エラー出力先	○
		変数継承	×
	クリティカルポイント	警告動作の有無	○
		検査箇所	○
		実行開始点－警告時刻	○
		実行開始点－自動操作	○
		実行終了点－警告時刻	○
		実行終了点－自動操作	○
	その他	スクリプト実行用シェルコマンド	○
		リスタート	○
		終了コード	×
		予想実行時間－指定方法	×
		予想実行時間	×
		ジョブステップリスタート	×
		超過警告	×

		終了予定超過時	×
		事前設定	×
ERPジョブ	スクリプト	スクリプト編集	○
	ERPジョブパラメータ	予想実行時間	×
		超過警告	×
		終了予定超過時	×
		事前保留	×
	ERPパラメータ	ERPジョブ名	×
		ERP接続先名	○
		実行ホスト	○
		ERPジョブの自動スタート	○
		スプール出力	○
		スプール出力－ライン数	○
	クリティカルポイント警告	警告動作の有無	○
		検査箇所	○
		実行開始点－警告時刻	○
		実行開始点－自動操作	○
		実行終了点－警告時刻	○
		実行終了点－自動操作	○
BIジョブ	BIジョブパラメータ	BI接続先名	○
		論理インフォパッケージバリアントID	○
PCジョブ	PCジョブパラメータ	接続先名	○
		プロセス・チェーン名	○
ダイアログ	ダイアログ設定	メッセージ	×
		予想実行時間－指定方法	×
		予想実行時間	×
カレンダ分岐	スケジュール設定	スケジュール選択	×
コンティニュー	コンティニュー設定	コンティニュー先	×
		コンティニュー回数	×
		終了ステータス	×
サブジョブネット待ち	サブジョブネット待ち合わせ設定	待ち合わせ先部品名	×
単位ジョブ待ち	単位ジョブ待ち合わせ設定	待ち合わせ先部品名	×
ファイル待ち	ファイル待ち合わせ設定	ホスト名	×
		検索ファイル名	×
		待ち合わせ対象	×
		一致条件	×
		通過条件	×
		更新基準時刻	×
		タイムアウト	×
		予想実行時間－指定方法	×

		予想実行時間	×
時刻待ち	時刻待ち合わせ設定	日付	○
		時刻	○
		未到達警報	○
イベント送信	イベント送信設定	送信先ホスト名	×
		イベントID	×
		受信確認－確認の有無	×
		受信確認－タイムアウト	×
		イベント有効期間－期間の設定	×
		イベント有効期間－タイムアウト	×
イベント受信	条件設定	条件名	×
		終了コード	×
		送信元ホスト名	×
		イベントID	×
	タイムアウト	受信タイムアウト－タイムアウトの有無	×
		受信タイムアウト－タイムアウト	×

第14章 定義編集時の排他機能

複数のJobCenter CL/Win端末から同じ定義情報を編集できないように排他制御を行っています。この排他制御は、定義情報の矛盾を防ぐことを目的としています。この排他制御は自動的に行われ、定義情報が他のJobCenter CL/Win端末から使用されていない場合には、自動的に編集可能な状態で開かれます。

14.1. 排他機能が適用される定義情報

次の操作時に、定義情報が他のJobCenter CL/Win端末から使用されているか確認されます。

他のJobCenter CL/Win端末が編集中でない場合には、自動的に編集可能な状態で開かれます。

表14.1 排他機能が適用される操作一覧

対　象	操　作	
ジョブネットワーク	■新規作成 ■名前の変更 ■コピー ■移動 ■削除 ■順序の変更	■ショートカットの作成 ■即時投入 ■チェック ■フローを開く ■パラメータを開く ■設定一覧を開く
グループ	■新規作成 ■名前の変更 ■コピー	■移動 ■削除 ■順序の変更
トラッカ	■一時変更 ■単位ジョブのスクリプトを開く ■単位ジョブのパラメータを開く ■ERPジョブのスクリプトを開く	■ERPジョブのパラメータを開く ■BIジョブのパラメータを開く ■スキップ、保留等の操作
スケジュール	■スケジュールを開く ■削除	
カレンダ	■カレンダを開く ■削除	
NQSパラメータ	■NQSパラメータを開く	
キュー	■キューユーザを開く ■キューパラメータを開く ■転送先を開く	
マシングループ	■マシングループの設定を開く	
パラメータのデフォルト値	■パラメータの設定で各部品のパラメータ設定を開く	
ユーザ環境設定	■ユーザ環境設定を開く	
パーミッション設定	■パーミッション設定を開く	

14.2. すでに定義情報が使用されている場合の動作

各定義情報が他のJobCenter　CL/Winや自端末ですでに使用されている場合、次の2種類のうちどちらかのダイアログが表示されます。

14.2.1. 他の端末が使用中で「強制ロック」または「読み取り専用」が選択可能な場合

図14.1 「強制ロック」または「読み取り専用」が選択可能な場合のダイアログ表示例

表14.2 「強制ロック」または「読み取り専用」が選択可能な場合のダイアログのボタン一覧

ボタン	内　容
強制ロック	すでに使用している端末からのデータが破棄され、「強制ロック」を行った端末が編集可能となります。
読み取り専用	参照だけ可能な状態で開きます。なお、使用中の端末名が表示されますので、端末利用者を確認することもできます。
キャンセル	強制ロックまたは読み取り専用の操作を行わずに、ダイアログを閉じます。

14.2.2. 他の端末が使用中で「強制ロック」または「読み取り専用」が選択できない場合

他の端末が前項の表の操作を実行中に、同じ定義情報を使用すると次のダイアログ画面が表示されます。

（追加情報）に使用中の端末名が表示されますので、端末利用者を確認することもできます。

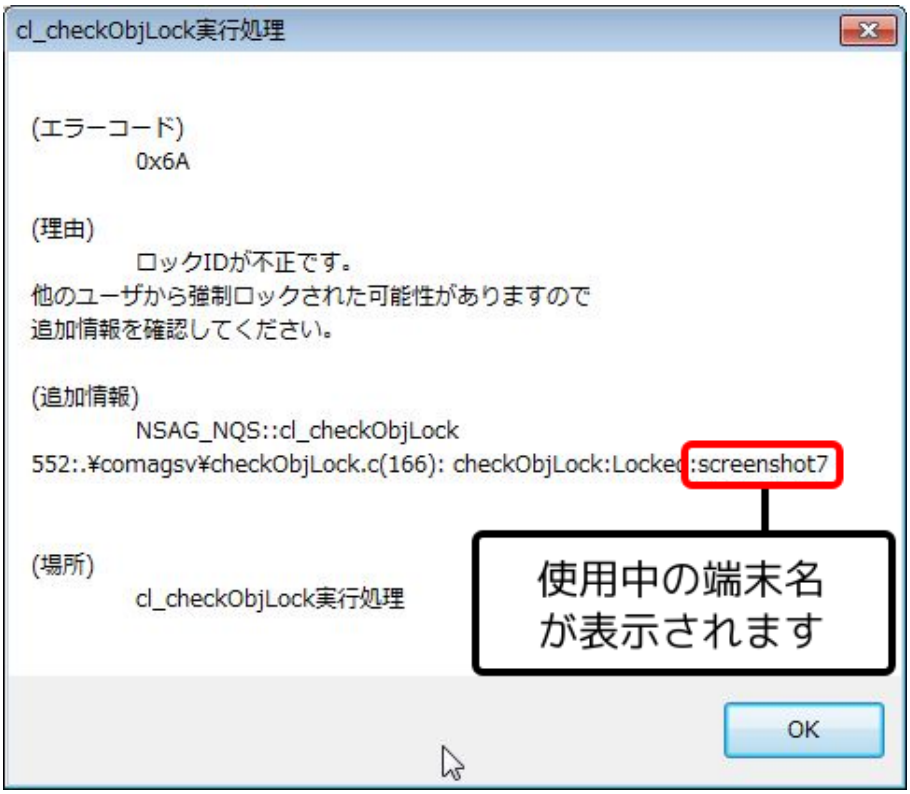


図14.2 「強制ロック」または「読み取り専用」が選択できない場合のダイアログ表示例

第15章 エラーメッセージ一覧

JobCenter CL/Winを操作したときにダイアログで表示されるエラーメッセージについて説明します。

ただし、エラーメッセージは多岐に渡るため、抜粋したエラーメッセージとその考えられる原因および対処方法について次に記述します。

なお、エラーメッセージ内容は実際のメッセージと若干異なることがあります。

表15.1 エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ内容	考えられるエラーの原因と対処方法
[-]HH:MMの形式で正しく設定してください。	[システム環境設定]の[時刻設定]タブにおいて、「時間」の設定を行うときに入力した時間のフォーマットが不正です。 正しいフォーマットで入力してください。
-modeオプションに接続モードが指定されていません。	コマンドラインでJobCenter　CL/Winを起動するときに接続モードを指定していない可能性があります。 正確なモードを入力してください。
-passwordオプションにパスワードが指定されていません。	コマンドラインでJobCenter　CL/Winを起動するときにパスワードを指定していません。 正確なパスワードを入力してください。
-serverオプションにサーバ名が指定されていません。	コマンドラインでJobCenter　CL/Winを起動するときにサーバ名を指定していません。 正確なサーバ名を入力してください。
-userオプションにユーザ名が指定されていません。	コマンドラインでJobCenter　CL/Winを起動するときにユーザ名を指定していません。 正確なユーザ名を入力してください。
0～31536000秒の範囲で指定してください	範囲外の数字を入力しています。 0～31536000の範囲内で入力してください。
0～365日の範囲で指定してください。	範囲外の数字を入力しています。 0～365の範囲内で入力してください。
0～525600分の範囲で指定してください。	範囲外の数字を入力しています。 0～525600の範囲内で入力してください。
0～8760時間の範囲で指定してください。	範囲外の数字を入力しています。 0～8760の範囲内で入力してください。
0から23までの時間を入力してください。	トラッカ一覧の[トラッカ印刷設定]ダイアログで不正な「時間」を設定しています。 0～23の範囲内で設定してください。
0から59までの整数を入力してください。	範囲外の数字を入力しています。 0～59の範囲内で入力してください。

0から59までの分を入力してください。	トラッカ一覧の[トラッカ印刷設定]ダイアログで不正な「分」を設定しています。 0～59の範囲内で設定してください。
1から31までの整数を入力してください。	範囲外の数字が入力されています。 1～31の範囲内で入力してください。
1から99999までの整数を入力してください。	範囲外の数字を入力しています。 1～99999の範囲内で入力してください。
1997から2037までの整数を入力してください。	範囲外の数字が入力されています。 1997～2037の範囲内で入力してください。
100個のボタンしか表示できません。他のボタンを新しいユーザファイルに保存してください。	ユーザメニューに100個以上の新規ボタンを定義しています。 新しいユーザメニューファイルを生成して新規ボタンを保存してください。
25%から200%までの倍率を入力してください。	Ganttモードでトラッカの表示倍率に無効な値を入力しています。 25%～200%の範囲内で入力してください。
alias名追加時にソケット例外が発生しました。	マシンのエイリアス名(別名)に無効文字が含まれている可能性があります。 有効なマシン名を入力してください。
BIジョブ生成エラー。既に存在しています。新規作成を行うことができませんでした。	改名したBIジョブの名前はすでに存在しています。 他の名前に改名してください。
MID追加時にソケット例外が発生しました。	マシンIDの追加時にソケット例外が発生しています。 マシンIDが割り当てられているリモートマシンが存在し、JobCenter SVが正常に動いていることを確認してください。
NQSqstat API実行失敗	内部エラー（NQSqstat API 実行失敗）の可能性があります。 当該コマンドを再実行するか、JobCenter CL/Winを再起動して当該コマンドを再実行してください。
Please input English char.	英語文字以外を入力しています。 英語版JobCenter CL/Winには英語文字しか入力できません。英語文字を入力してください。
principal名の取得に失敗しました。	ログインしているマシンの情報を設定するときに例外が発生している可能性があります。 JobCenter CL/Winを再起動してJobCenter SVに再接続してください。
Rootグループにショートカットは作成できません。	Rootグループにジョブネットワークショートカットを生成しています。

	Rootグループの配下にジョブネットワークショートカットを生成することはできないので、他のグループに生成してください。
Rootグループの配下にJnwのショートカットがコピーできません。	ジョブネットワークやジョブネットワークショートカットをRootグループの配下にコピーしています。 ジョブネットワークやジョブネットワークショートカットをRootグループの配下にはコピーできないので、他のグループにコピーしてください。
Rootグループの配下にはジョブネットワークを移動できません	グループを自分のRootグループに移動しようとしています。 グループを自分のRootグループに移動することはできないので、他のグループに移動してください。
	ジョブネットワークやジョブネットワークショートカットをRootグループの配下に移動しています。 ジョブネットワークやジョブネットワークショートカットをRootグループの配下には移動できないので、他のグループに移動してください。
Shell：無効な文字が含まれています。	Shellパラメータに無効文字が含まれています。 当該パラメータには空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[]「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」を使用できませんので、他の有効文字を使用してください。
“SScalendar”はカレンダの名前として使えません。	「SScalendar」という名前でカレンダを生成しています。 他の名前でカレンダを生成してください。
StdErrファイル：無効な文字が含まれています。	StdErrファイル名に無効な文字が含まれています。 当該パラメータには空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」を使用できませんので、他の有効文字を使用してください。
StdOutファイル：無効な文字が含まれています。	StdOutファイル名に無効な文字が含まれています。 当該パラメータには空白、タブ、特殊文字および「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「,」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「`」「{」「|」「}」「~」を使用できませんので、他の有効文字を使用してください。

UnitJnwグループにグループをコピーできませんでした。	グループをUnitJnwグループにコピーしています。 グループをUnitJnwグループにコピーすることはできないので、他のグループにコピーしてください。
UnitJnwグループにショートカットは作成できません。	UnitJnwグループにジョブネットワークショートカットを生成しています。 ジョブネットワークやジョブネットワークショートカットをUnitJnwグループの配下に生成することはできないので、他のグループに生成してください。
UnitJnwグループの配下にはJnwのショートカットを移動できません。	ジョブネットワークショートカットをUnitJnwグループの配下に移動しています。 ジョブネットワークやジョブネットワークショートカットをUnitJnwグループの配下に移動することはできないので、他のグループに移動してください。
UnitJnwグループの配下にはグループを移動できません。	グループをUnitJnwグループに移動しています。 グループをUnitJnwグループに移動することはできないので、他のグループに移動してください。
アプリケーション内部エラー配列のインデックス番号がマッチしていません。	ユーザメニューの構成ファイルに誤りがある状態で、ユーザメニューウィンドウを開いた可能性があります。 JobCenter CL/Winのディレクトリから UserMenu.mnuを削除して改めてボタンを定義してください。 以前のボタンの情報はすべて削除されます。
イベントIDの最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。	イベントのIDに不正な文字を指定した可能性があります。 IDの最初の文字にはアルファベット、アンダーライン、2バイト文字を使用してください。
イベントIDは必ず設定してください。	イベントを生成するときにIDを入力していません。 IDを入力してください。
イベントメッセージの最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。	イベントのメッセージに不正な文字を指定した可能性があります。 メッセージの最初の文字にはアルファベット、アンダーライン、2バイト文字を使用してください。
同じサブジョブネットワークが既にジョブネットワーク内に存在しています。	生成したサブジョブネットワーク部品の名前がすでに存在しています。

	別のジョブネットワークにリンクするようにサブジョブネットワーク部品を生成してください。
該当するスケジュールは見付かりませんでした：	カレンダ分岐ジョブの関連スケジュールが削除されています。 カレンダ分岐ジョブを削除するか、スケジュールリストに同じ名前のスケジュールを再生成してください。
関連サブグループにグループをコピーできませんでした。	グループを自分のサブグループにコピーしようとしています。 グループを自分のサブグループにコピーすることはできないので、他のグループにコピーしてください。
期待されないパラメータ値：エラー時の自動停止	ユーザ構成ファイルに不正なパラメータがある状態で、[ユーザ環境設定]ダイアログを開こうとしています。 ユーザ構成ファイルに許されないパラメータがあるので、[ユーザ環境設定]ダイアログで任意のパラメータを変更して「適用」することでユーザ構成ファイルを更新してください。
キュー及びリクエストの取得に失敗しました。	ユーザマッピングの削除時にソケット例外が発生している、またはネットワークでソケット例外が発生している可能性があります。 リモートマシンのJobCenter SVが正常に動いているかをチェックし、ネットワークが正常に動いているかをチェックしてください。
キュー名の先頭は文字以外には使えません。	不正なキュー名を入力しています。 キュー名の先頭にはアルファベットを入力してください。
キュー名は、半角アルファベットか半角数字（ただし先頭以外）を使ってください。	入力したキュー名に無効文字が含まれています。 キュー名にはアルファベット、数字およびアンダーラインのみを使用し、キュー名の先頭にはアルファベットを入力してください。
キューユーザの追加失敗	追加したユーザ名が英文字ではない可能性があります。 英語文字以外のユーザ名を追加できないので、英語文字のユーザ名を追加してください。
空白、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。!"#$%&'()*,./:;<=>?@[\]^`{|}~入力し直してください。	生成したジョブの名前に不正な文字が含まれています。 エラーメッセージに従って、有効な文字を入力してください。
	入力したユーザ名に不正な文字が含まれています。 エラーメッセージに従って、有効な文字を入力してください。

空白、タブ、半角カタカナ、全角文字、特殊文字および以下の文字は使用できません。!"#$%&'()*,./:;<=>?@[\]^`{|}~	イベント送受信部品を設定するときに入力したホスト名に不正な文字が含まれています。 エラーメッセージに従って、有効な文字を入力してください。
	無効なマシン名を入力しています。 有効なマシン名を入力してください。
グループをUnitJnwに生成禁止	ジョブネットワークを移動またはコピーするときに指定したグループがUnitJnwグループにあります。 グループをUnitJnwグループに生成することはできないので、RootまたはRootのサブグループに生成してください。
現在実行中のデータのローディングを終了しますか？	データのロード中に他の画面に切り替えようとしました。 ［OK］ボタンをクリックして、現在実行中のデータのローディングを終了して他の画面に切り替えるか、［キャンセル］ボタンをクリックして、データのローディングを継続してください。
現在の投入キューが設定されていません。 未設定のままジョブネットワークを投入すると、この単位ジョブの実行が失敗する可能性があります。 このまま設定しますか？	ジョブネットワークの投入キューが空です。 ［OK］ボタンをクリックして、ダイアログをクローズしてデフォルトに戻るか、「キャンセル」ボタンをクリックして、ジョブネットワークの投入キューを改めて選択してください。
コンティニューの飛び先単位ジョブが存在しません。	コンティニュー部品の飛び先単位ジョブが存在しないか、フローにジョブがない場合にコンティニュー部品を生成しています。 コンティニュー部品を削除するか、コンティニュー部品の飛び先である単位ジョブ、ERPジョブ、PCジョブ、UCXSingleジョブまたはダイアログジョブを先に生成してからコンティニュー部品を生成してください。
コンティニュー部品に飛び先が設定されていません。	コンティニュー部品の設定情報にエラーが発生している可能性があります。 コンティニュー部品を正確に設定してください。
サーバ名を設定してください。	JobCenter SVに接続するときにサーバ名を入力していません。 正確なサーバ名を入力してください。
時間エラー	無効な時間を入力してジョブネットワークの投入時間を変更しています。 次の入力範囲で入力してください。年：1997～2037、月：1～12、日：1～31、時間：0～23、分：0～59。

実行開始点/警告時刻：無効な値が指定されました。	ジョブネットワーク、単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブの実行開始点/警告時刻の値が不正です。 00:00～23:59のフォーマットがHH:MMである時刻を入力してください。
指定BIジョブ名は既に存在しています。BIジョブの生成に失敗しました	生成したBIジョブがすでに存在しています。 他の名前でBIジョブを生成してください。
指定ERPジョブ名は既に存在しています。ERPジョブの生成に失敗しました。	ERPジョブ改名のときに指定した名前がすでに存在しています。 他の名前に改名してください。
	生成したERPジョブがすでに存在しています。 他の名前でERPジョブを生成してください。
指定されたジョブネットワークはありません。	フローでサブジョブネットワーク部品を開こうとすると、当該サブジョブネットワーク部品に関係するジョブネットワークが存在していません。 同じ名前のジョブネットワークを新規作成するか、当該サブジョブネットワーク部品を削除してください。
指定されたトラッカは存在しません。	コマンドラインでnscl_referを使用するときに入力したトラッカIDが指定されたJobCenter SVにない可能性があります。 指定されたJobCenter SVにトラッカIDが存在するかどうかをチェックしてください。
指定されたメニューボタン名は既に存在しています。	ユーザメニューで定義したボタンの名前が既に存在しています。 他の名前でボタンを定義してください。
指定したマシンは既に存在しています。	入力したマシン名はすでに存在しています。 他の名前でマシン名を入力してください。
指定ジョブ名は既に存在しています。ジョブ生成失敗しました。	生成した単位ジョブの名前がすでに存在しています。 他の名前で単位ジョブを生成してください。
	生成した単位ジョブの名前に不正な文字が含まれています。 有効な文字で単位ジョブを生成してください。
指定ダイアログ名は既に存在しています。ダイアログの生成に失敗しました。	ダイアログ部品を生成するときに指定した名前がすでに存在しています。 他の名前でダイアログ部品を生成してください。
	改名するときに指定したダイアログ部品名がすでに存在しています。 他の名前に改名してください。

指定項目は既に存在しています。	ジョブネットワークを生成するときに指定したジョブネットワーク名がすでに存在しています。 ジョブネットワークを他の名前で作成してください。
	グループを生成するときに指定したグループ名がすでに当該グループに存在しています。 グループを他の名前で生成するまたはグループを違うディレクトリに生成してください。
	名前を変更するときに指定したジョブネットワークまたはグループがすでに存在しています。 他の名前に変更してください。
	生成されたジョブネットワークショートカットとジョブネットワークが同じディレクトリにあります。 ジョブネットワークと当該ジョブネットワークショートカットを違うディレクトリにしてください。
ショートカットの名前が変更できません。	ジョブネットワークショートカットの名前を変更しようとしています。 ジョブネットワークショートカットの名前を変更することはできません。
ジョブネットワークの即時投入失敗	ジョブネットワークの投入時にエラーが発生している可能性があります。 具体的なエラーメッセージに従って処理してください。
ジョブネットワークを選択してください。	サブジョブネットワーク部品を生成するときにジョブネットワークを選択していません。 ジョブネットワークを選択してください。
ジョブネットワーク名が定義されていません。	内部エラーの可能性があります。 当該コマンドを再実行するか、JobCenter CL/Winを再起動してから当該コマンドを再実行してください。
ズームの倍率は50から500までに限ります。	フローの[印刷]ダイアログで不正な「プリント比率」を設定しています。 50%～500%の範囲内で設定してください。
設定されたタイムアウト値が無効です。	設定したタイムアウト値のフォーマットが無効であるか、タイムアウト値が00:00～23:59の範囲外に設定されています。 正しいフォーマットに従って有効な範囲内で入力してください。
設定された更新基準時刻が無効です。	「基準時刻」を設定するときに値を空に設定している、または00:00～99:59の範囲外に設定しています。

	正しいフォーマットおよび範囲に従って値を入力してください。
設定された時刻が無効です。	無効な時刻を入力しています。 00:00～23:59の範囲でフォーマットがHH:MMである時刻を入力してください。
選択したマシンは同一です。選択しなおしてください。	ユーザマッピングのときに選択したマッピング先マシンとマッピング元が同一です。 ユーザマッピングは違うマシンで行わなければならないので、異なるマッピング先マシンとマッピング元マシンを選択してください。
全ユーザリストの取得失敗	リモートマシンの情報の取得に失敗しています。 すべてのマッピング先マシンのJobCenter SVが正常に動作しているかチェックしてください。
トラッカリスト取得のためのロック獲得に失敗しました。 リアルタイム更新を行っている場合は、更新間隔を大きくしてください。	トラッカ一覧を開いたときのデータ量が多く、設定した「通信タイムアウト時間」が小さい可能性があります。 「通信タイムアウト時間」の値を大きく設定してください。
名前が入力されていません。	スケジュール名を入力せずにスケジュールを生成しています。 スケジュール名を入力してください。
	カレンダ名を入力せずにカレンダを生成しています。 カレンダ名を入力してください。
名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。	入力した名前が不正です。 名前の先頭には、アルファベット、アンダーライン、2バイト文字を使用してください。
名前は40バイト以内に限ります。	コマンドラインでnscl_Submitを使用してジョブネットワークを投入するときに、 コメントが40バイト以上になっています。40バイト以内のコメントを入力してください。
名前を入力してください。	ジョブを生成するときに名前を入力していません。 有効な名前を入力してください。
入力エラー	「分岐条件設定」に範囲外の値を指定しています。 0～255までの範囲で入力してください。
入力し直してください。	不正な値を入力しています。 正確なフォーマットで有効範囲内の値を入力してください。
パスワードファイル名を入力してください。	コマンドラインでnscl_referとnscl_submitを使用するときにパスワードファイルを指定していません。

	正確なパスワードファイルおよびパスを入力してください。
パラメータに異常がありました。	ジョブの関連パラメータファイルに誤りがあり、ジョブを開いた可能性があります。 当該ジョブを削除して新しいジョブを別に生成してください。
標準エラー出力ファイル名を入力してください。	「標準エラー出力先」ファイル名が空です。 ファイル名を入力してください。
標準出力ファイル名を入力してください。	「標準出力先」ファイル名が空です。 ファイル名を入力してください。
ファイル名はありません。	ファイル待ち合わせ部品を生成するときにファイル名を指定していません。 ファイル名を入力してください。
不正なオプション指定です。	コマンドラインでJobCenter　CL/Winを起動するときに指定されたコマンドパラメータが不正です。 各コマンドパラメータが正確であるかどうかをチェックしてください。
ホスト名は必ず設定してください	ホスト名が空の場合にイベント送受信部品を設定しています。 ホスト名を入力してください。
ボタンの新規操作に失敗しました。1つのユーザメニューファイルには100個のボタンしか定義できません。 新規のボタンを定義する場合、新しいユーザメニューファイルを作成してください。	ユーザメニューに100個以上の新規ボタンを定義しています。 新しいユーザメニューファイルを生成して新規ボタンを保存してください。
マシンタイプ取得時にソケット例外が発生しました。	無効なタイプのマシンを追加しています。 追加するマシンがマニュアルに決められたタイプのマシンであることを確認してください。
マシンタイプ設定時にソケット例外が発生しました。	無効なタイプのマシンを設定しています。 追加するマシンがマニュアルに決められたタイプのマシンであることを確認してください。
マシンはありません。	指定したマシンが存在していません。 ユーザ名を再入力するか、またはマシンリストにあるマシン名を選択してください。
マシンリスト取得失敗 CODE:　%d MESSAGE: %s	リモートマシンのJobCenter SVでソケット例外が発生しているか、ネットワークでソケット例外が発生している可能性があります。 リモートマシンのJobCenter SVが正常に動いているか、ネットワークが正常に動いているかチェックしてください。
マシン情報を取得できませんでした。	リモートマシンのJobCenter SVでソケット例外が発生しているか、ネットワークでソケット例外が発生している可能性があります。

	リモートマシンのJobCenter SVが正常に動いているか、ネットワークが正常に動いているか、リモートマシンが存在しているかをチェックしてください。
マネージャマシンを削除できません。	NQSフレームでマネージャマシンを削除しようとしています。 マネージャマシンは削除できません。
無効な値が指定されました。	トラッカの[表示期間設定]ダイアログにおいて、範囲外の「表示期間」の値を入力しています。 次の範囲で入力してください。分：0～59、時間：0～23、日：1～7、週間：1～5、月：1～3
無効パス!入力し直してください。	ジョブネットワークを移動またはコピーするときに空のパスを設定しています。 正確なパスを入力してください。
有効な年月日を入力してください。	トラッカ一覧の[トラッカ印刷設定]ダイアログで不正な印刷時刻範囲を設定しています。 印刷の開始時刻が終了時刻より小さくなるように設定してください。
有効範囲内の周期を入力してください（1－1440）。	無効な周期を入力してスケジュールのルールを生成しています。 1～1440の範囲内で周期を入力してください。
ユーザはありません。	指定したユーザが存在していません。 ユーザ名を再入力するか、選択されたマシンで有効なユーザを選択してください。
ユーザマッピングの削除時にソケット例外が発生しました。	ユーザマッピングの削除時にソケット例外が発生しているか、ネットワークでソケット例外が発生している可能性があります。 マッピング先マシンのJobCenter MG/SVが正常に動いているか、ネットワークが正常に動いているかチェックしてください。
ユーザマッピング取得時にソケット例外が発生しました。	[ユーザマッピングの設定]ダイアログを開くときに、マッピングしたマシンの情報を取得できていない可能性があります。 マッピング先マシンのJobCenter MG/SVが正常に動いているか、ネットワークが正常に動いているかチェックしてください。
ユーザマッピングの追加時にソケット例外が発生しました。	ユーザマッピングの追加時にソケット例外が発生している可能性があります。 マッピング先マシンのJobCenter MG/SVが正常に動いているか、ネットワークが正常に動いているかチェックしてください。
ユーザ名を設定してください。	JobCenter SVに接続するときにユーザ名を入力していません。

	正確なユーザ名を入力してください。
ルールの作成に失敗しました。	Scheduleのルールを生成するときに、「適用期間」の開始時刻を終了時刻より大きく設定しています。 終了時刻が開始時刻よりも大きくなるように設定してください。
	スケジュールのルールを生成するときに、無効な年月日を入力しています。 有効な範囲内の年月日を入力してください。
論理インフォパッケージバリアントIDが無効です。 論理インフォパッケージバリアントIDには文字と数字だけ使ってください。	BIジョブパラメータを変更するときに不正な文字を入力しています。 英語文字、数字、またはアンダーラインを入力してください。

発行年月 September 2011
NEC Corporation2011